

1998 (平成10) 年度

履 修 要 項

第 2 部

經 法 經 濟 學 部
法 法 法 法 法 法
經 營 學 部

駒 澤 大 學

第 2 部

経 済 学 部

法 学 部

経 営 学 部

■ 履 修 要 項

第 1 部 履修の心得	I 履修をはじめるにあたって	
第 2 部 教 育 課 程	I 教育課程の編成 授業科目の区分	
	単位制度と単位の認定	
	卒業に必要な単位数	
	II 開設科目と履修方法 経済学部	
	法学部	
	経営学部	
	平成7年度以前入学生 のための経過措置	
	他学部履修科目	
	随意科目	
	不合格科目の再履修	
	III 教職課程	
	IV 履修科目の登録（履修届 の提出）とその作成順序	
	V 試験および成績評価	
	VI 学業不振者への勧告について	
VII 卒業見込証明書の発行 について		
第 3 部 学 修 生 活	I 事務取扱いについて	
	II 学籍について	
	III 留学	
	IV 卒業後の進路について	
講 義 内 容		
付 録		

目 次

第1部 履修の心得

I 履修をはじめるとにあって

経済学部学生諸君へ	3
法学部学生諸君へ	6
経営学部生諸君へ	8

第2部 教育課程

I 教育課程の編成

1. 授業科目の区分	13
2. 単位制度と単位の認定	17
(1) 単位制度	17
(2) 授業科目の単位数	17
(3) 単位の認定	17
(4) 履修登録制度	17
(5) 進級について	17
3. 卒業に必要な単位数	21
(1) 卒業に必要な単位数	21
(2) 卒業および学位記の授与	27

II 開設科目と履修方法

1. 経済学部【全学共通科目】	31
(1) 宗教教育科目	31
(2) 教養教育科目	32
(3) 外国語科目	34
(4) 保健体育科目	37
【専門教育科目】	40
2. 法学部【全学共通科目】	45
(1) 宗教教育科目	45
(2) 教養教育科目	46

(3) 外国語科目	47
(4) 保健体育科目	49
【専門教育科目】	52
3. 経営学部【全学共通科目】	57
(1) 宗教教育科目	57
(2) 教養教育科目	58
(3) 外国語科目	59
(4) 保健体育科目	61
【専門教育科目】	64
4. 平成7年度以前入学生のための経過措置	69
5. 他学部履修科目	73
6. 随意科目	77
7. 不合格科目の再履修	77
Ⅲ 教 職 課 程	81
Ⅳ 履修科目の登録（履修届の提出）とその作成順序	
1. 履修科目の登録	85
2. 履修登録上の注意	85
3. 履修確認表の送付および履修届の訂正期間	86
4. 履修確認表の見方	86
5. 履修科目の決定順序	87
6. 授 業 時 間	89
7. 受講制限科目について	89
Ⅴ 試験および成績評価	
1. 試験の種類（定期試験、中間試験、追・再試験）	93
2. 受験資格および受験心得	94
3. 定期・追再試験時間	94
4. 成績評価・単位認定	95
5. 成績発表および質疑	95
6. 試験実施規程	96
7. 不正受験行為者処分規程	98
Ⅵ 学業不振者への勧告について	101
Ⅶ 卒業見込証明書の発行について	101

第3部 学 修 生 活

I 事務取扱いについて

1. 事務受付時間	105
2. 届書・願書	105
3. 証 明 書	106
4. 休 講	107
5. 補 講	107
6. 掲 示・連絡	107
7. 問 い 合 わ せ	107

II 学籍について

1. 修業年限と在学年数	111
2. 休 学	111
3. 復 学	112
4. 退 学	112
5. 除 籍	112
6. 懲 戒	112
7. 編 入 学	112
8. 再 入 学	112
9. 転 部・転 科	113
10. 学生氏名・保証人	113
11. 学 生 番 号	113

III 留 学 117

IV 卒業後の進路について 121

講義内容 全1

付 録

研究所案内
国家試験について
学位授与機構

第 1 部 履 修 の 心 得

I 履修をはじめるにあたって

経済学部学生諸君へ

この「履修要項」は、諸君が駒澤大学経済学部の学生として4年間の大学生活を過ごすために必要と思われる学習上の基本的事項をまとめたものです。

経済学部の主たる教育目標はすぐれた専門的職業人であると同時にすぐれた社会人を育成し、社会の発展に貢献することにあります。とくに第2部経済学科は向学心に燃え、学問と勤労の両立をめざし、さらには、いったん社会に出てからもなお意欲的に経済の専門的知識を求めようとする様々な人々に、広く大学教育の機会を提供しようとするものです。このため本学科は社会人や勤労学生を積極的に受け入れてきました。

第2部のカリキュラムは第1部のそれと比べて、科目区分別の必要単位数に違いはあっても質量共にまったく同じ教育内容を提供しています。第2部は講座を設置できる時限数が制約され、やや窮屈ではあっても、専門教育科目については原則的に第1部と同じ講座がどこかの時間帯に開設されていますから、各自が自主的に科目を組み合わせ体系的履修を工夫することによって、第1部を上回る教育効果を引き出すことが可能です。大学では自分の時間割は自分で組みますから、学業の成果はすべて諸君の勉学の自主性にかかっています。経済学部では、できるだけ多くの講座を提供して諸君の多様な勉学の熱意に応えるとともに、道標を提示することによって学業の成就を応援したいと考えております。

本学部は多様な人材を育成するためにカリキュラムの自由度を高め、全学共通科目（宗教教育、教養教育、外国語、保健体育の各科目）の科目区分別卒業必要単位数を極力おさえています。専門教育科目に必要な単位数も卒業必要総単位数の半分程度におさえました。これは、全学共通科目、専門教育科目の別にかかわらず自由な選択によって、一定単位数以上修得することを卒業の要件とするものです。経済学部は、自由に科目選択ができる余地をさらに大きくするため広域選択という制度も設けています。諸君が本学部の教育課程を十分に活用し、初心を貫徹することによって大きな成果をあげられることを願っています。

明日の日本、明日の世界の経済社会を動かすような事業家や研究者への道も、今日覚える一つの単語、今日理解する一つの学術用語から始まります。一步一步の積み重ねを続けていくことが学力をつける道であることをいつも思い起こして、地道に進んでください。

履修にあたって

大学生の学習は、科目履修と自由学習からなりたっていますが、なんといっても科目履修が基礎になります。大学では、高校までとちがって諸君は一人前の大人としてあつかわれます。つまりすべてが自己責任ということになりますから、教育課程（カリキュラム）の履修制度を十分に理解して、誤りのないよう科目履修に取り組んでください。

1. 科目履修とはなにか

本学を卒業するには、4年間以上在学し、学則に定められたカリキュラムの指定にしたがって授業科目を履修して（これを「科目履修」といいます）、所定の単位（これを「卒業必要単位」といいます）を修得しなければなりません。自分勝手に単位を修得してもカリキュラムの条件をみたくない場合には、卒業必要単位として認められません。科目履修上の諸条件や手続き等についてこの手引きを熟読するとともに、疑問があれば、積極的に教務部に問い合わせるなどして十分に理解するようにしましょう。

2. 履修計画の考え方

(1) 4年間で効果的に履修しよう

授業科目は、宗教教育科目、教養教育科目、外国語科目、保健体育科目からなる全学共通科目と学部独自の専門教育科目の2部門構成です。「I 教育課程の編成」でくわしく説明しますが、学生諸君は、経済学部カリキュラムの指定にしたがって卒業必要単位数をみたくように、それぞれの科目区分のなかから科目履修しなければなりません。

経済学部のカリキュラムは、基本的に学年制ではなく単位制をとっていますから、この面での履修の自由度はきわめて高いといえます。留年ということがありませんから、ある年次で少し楽をしても、次年度以降に遅れをとりもどすことによって、4年間で卒業必要単位数をそろえるということも、理屈のうえでは可能です。けれども注意しなければなりません。第2部は、1日に2時限しかないのです。1年間に履修できる単位数の上限はきびしいと言わざるをえません。留年制度がないということで気をゆるし、無計画に履修するならば、4年次になる以前で事実上すでに4年卒業が不可能になっているということもあります。

学年別の履修単位数や卒業に必要な必修科目の単位取得について、4年間の計画的履修が必要です。

(2) 本学部の特色を生かそう

カリキュラムにしたがって科目履修をして卒業必要単位数をみれば、4年間で卒業できます。けれども科目履修にはいろいろな組み合わせ方があります。はっきりした学習目的をもたないで、ただ卒業必要単位数をそろえるだけの履修では、成果はあがりません。そうなると、経済学部の卒業生にふさわしい能力と識見を身につけるということも不可能になります。後に掲げる開講科目一覧表をじっくりながめて、自分自身の学習目的と体系的履修を考えてみましょう。1年次には、なかなかイメージがわからないかもしれません。けれども体系的履修の問題関心をもち続けるだけで、ある筋道がやがて見えてくるはずで、諸君の関心によっては、たとえ困難でも是非とも履修すべき科目があるでしょう。また科目の性格にしたがって、履修順序を考慮すべき科目もあるでしょう。

体系的履修にかんする経済学部カリキュラムの基本的な考え方は、諸君の自由な関心を尊重することです。そのためにとくに「広域選択」の単位を幅広く卒業必要単位に認めております。諸君は、自分自身の関心にもとづいて、広域選択として全学共通科目や他学部開講科目を計画的に多数履修することもできますし、もちろん専門教育科目をさらに充実させることもできます。

ところで体系的学習の問題関心は、つねに新鮮な現代的関心から出てくるものです。経済学部は、この期待にこたえるために「現代経済事情 I～IV」（各半期、2単位）を設けています。現在もっとも世の中の関心を集めている問題を毎年取り上げ、これに深く関わっている現場の専門家が講師となっ

て、学生諸君にたいして現代的諸問題を提起します。さらにまた、現場の経済の生の事情を学ぶために、現場の勤労者と本学専任教員の対話による「現代産業事情」（各半期、2単位）も設けました。

そして体系的学習の中心となるのが「演習」（ゼミナール）です。演習では、学生諸君は、少人数クラスで先生の指導を親しく受けながら、みずから選んだテーマに主体的に取り組み、専門的な研究をすることができるでしょう。諸君は、演習のなかで生涯の師と生涯の友を得ることになるでしょう。経済学部は、演習をとくに重視して、3年次から4年次までの2年間にわたって設置しています。

(3) 自主的・積極的な学習で科目履修に生命をふきこもう

科目履修から十分な成果をあげることができるかどうかは、結局は、諸君自身の積極的な学習態度にかかっています。教室で講義をただ受動的にきくのではなく、自分の問題関心と関連させて自主的に学習するようにしたいものです。教室での講義は、十分な時間の自主学習をともなってはじめて満足な理解ができるのです。講義で指示された参考書や関連図書を積極的に読破して理解を深めましょう。専門書を読む力、レポートを作成する力を目的意識的に身につけましょう。

講義によっても参考書によっても理解できない点については、遠慮なく先生に質問しましょう。さまざまな論点について先生や友人たちとディスカッションする習慣を身につけ理解を深めましょう。

法学部学生諸君へ

現代は、どんな時代でしょう。国際化、情報化、分権化、高齢化など、さまざまなキーワードであらわされています。これらの言葉はすべて、時代のしくみと時代のながれを表現しています。法学部では、これらの言葉の意味を、法学的見地から解明していきます。もちろん、それだけではありません。日常生活のなかで起こるさまざまな現象を、法に即しながら考究していくことを大きな目的としています。その意味で、もっとも時代のニーズに合う学問分野といえるでしょう。

法学部第2部では、1996年度からカリキュラムを改訂し、ますます多様化しつつある時代のながれに応じた科目配当をこころがけました。その最大のねらいは、科目の選択幅を拡大し、学生諸君の自由意志を尊重する点にあります。しかし、そのことは、他方で、自己責任、自主管理がつよくもとめられることとなります。そこで、履修をはじめるときにあたり、つぎの諸点について、注意を喚起しておきたいと思います。

(1) 目的意識をはっきりもつこと

諸君が法学部に入ったのには、なんらかの動機があったはずですが、その動機をさらに発展させ、何を学ぶのか、目的をはっきりさせることが肝要です。目的がはっきりすれば、おのずから履修する科目も決まってくるでしょう。法学部では、16単位まで他学部履修をみとめていますから、目的に応じて、選択幅もひろがるはずです。

(2) 将来計画を設定すること

(1)と関連しますが、自分の将来計画をきちっと設定することが必要です。大学院へ進学するのか、一般企業に入社するのか、あるいは公務員になるのか、さまざまな将来計画を描くことができますが、なるべく早い時機に、自分の進路を決めておくことが肝要です。

(3) 体系的な履修をこころがけること

(1)と(2)がはっきりすれば、科目の履修も体系的になるでしょうが、まだしぼりきれていない諸君も、法学部学生として、体系的な履修をこころがけてください。たとえば、三年次～四年次に設定されている刑事訴訟法を選択するには、すくなくとも憲法や刑法総論、刑法各論の単位を取得しておくことが望まれます。また行政法総論をとらないで行政法各論を履修しても、理解が非常に困難でしょう。諸君は、卒業時に「学士(法律学)」になるのですから、それにふ

さわしい科目の履修をこころがけてください。

(4) チャレンジ精神をもつこと

卒業に必要な単位数というのは、あくまで必要最小限という意味です。外国語については、一か国語8単位が必要単位数となっていますが、それ以上とってはならないというわけではありません。広域選択枠を利用して、英会話や英語LLなどをとることができます。また他の外国語にもチャレンジすることができます。この関連で、本学にある施設や提供する機会をおおいに利用することをすすめたいと思います。LL教室で生きた語学を学修し、総合情報センターでコンピューターに慣れ親しみ、わからないことがあれば、図書館で調べる。このような実践を日々こころがけている人とそうでない人とでは、四年間で相当の開きがでできます。司法試験に挑んでみようという人は、法学研究所を、またマスコミ界をめざす人は、マスコミ研究所の門をたたいてみてください。

(5) 自分らしさの創造を

最後に、近年は偏差値ではなく、個差値が問われるようになっていきます。どの大学を出たかというのではなく、大学で自分自身をいかに高めたかが、人をみる物差しになってきています。四年間の努力しだいで、すばらしい自分を創りあげることができます。「自分らしさ」の創造に向けて力をそそぐことを期待しています。

経営学部生諸君へ

経営学部の教育目標は、学生諸君が経営・管理のプロフェッショナルとして問題発見の能力を養い、その育成をはかることにあります。具体的には次の2点に示すことができます。

1. 経営・管理のプロフェッショナルとして社会に積極的に参加・貢献しうるように、専門分野の理論的・実践的基礎知識を身につける。
2. 社会の諸問題を広汎にわたって健全かつセンシブルに発見し、解決しうるような人間性と論理的思考慣習および研究姿勢を身につける。

上の教育目標を効果的に実現するために、経営学部では平成8年度から教育課程を根本的に見直しました。新しい教育課程は、学部の壁を越えて共通に履修できる科目群（全学共通科目）と学部固有の科目群（専門教育科目）からなっています。全学共通科目は、かつて一般教育科目・外国語科目・保健体育科目と呼ばれていた科目を中心に構成されていますが、その履修方法と内容が大幅に変更されました。新しい教育課程では教養科目とか専門科目とかの区別をなくして、専門教育科目を学修する上でその準備段階に位置づけられる科目や、豊かな人間性を育て幅広い教養を身につける科目等、広範囲におよぶ数多くの科目が開講されています。

専門教育科目では経営学部の教育目標を達成するために、体系的に学修できるように配慮がなされています。しかも、専門基本科目を除いてすべて選択科目とされ、諸君が自主的判断に基づいて学修できるように工夫が施されています。

この専門教育科目では講義科目と演習（ゼミ）とを結び付けることによってより効果的に教育目標を実現できるように考えられています。少人数制の演習を数多く開講し、諸君が自ら選んだテーマを主体的かつ専門的な視点にたって取り組めるよう配慮しています。（「演習要項」は2年次の秋に配布されます。）

しかし、教育制度がどんなに素晴らしいものであっても諸君の学修態度が消極的・受動的なものであっては学修効果は上がりません。授業科目の決定は諸君の選択に委ねられています。

学年始めにあたって、諸君は、この履修要項を精読し、経営学部の教育課程の特質を十分に理解し、自主的・体系的に学修計画をたてることが肝要です。諸君が自ら明確な学修目標を持ち、堅実な学修計画をたて、設置されている多くの科目の中から自由に科目を選択することによって、はじめて各自の学修意欲が満たされることとなります。そうした学修の結果として、各自の能力が引き出され、その育成の効果が期待できることとなります。

《平成7年度以前入学生へ》

経営学部では平成8年度から、新しい教育課程（新カリキュラム）を、平成7年度以前に入学された諸君にも適用しています。諸君への適用にあたっては、諸君が不利益を被ったり、新たな負担を強いられることがないように最大限の配慮がなされています。

諸君が入学時に説明を受けた卒業に必要な単位数の140単位は変わりませんが、新カリキュラムへの移行に伴い卒業要件（科目区分毎の卒業に必要な単位数）が変更されます。これまで諸君が修得した単位はすべて卒業に必要な単位として算入されますが、卒業要件の変更に伴い履修方法や履修内容が変わります。この「履修要項」をよく読み、間違いのないように対応してください。

新カリキュラムへの移行にあたっては、当然のことながら、若干の移行処置を講じなければなりません。具体的な処置については、本要項の中で随所に「《平成7年度以前入学生の適用》」という項目を設け、詳細な説明が加えてあります。熟読して学修計画に齟齬をきたさないようにしてください。

履修をはじめるにあたって

この「履修要項」は、経営学部生諸君がこれから学修をはじめるにあたって必要とする基本的情報をまとめたものです。諸君が、今後4年間あるいは卒業までに残された期間の学修計画をたてるときの指針として利用することを期待しています。もとよりこの履修要項が学生生活のすべてを網羅しているわけではありません。この点に留意し、自己責任のもとに学修計画をたて、充実した学生生活をおくることを願っています。

(1) 学修目的に沿った履修計画をたてること

経営学部の教育課程は「全学共通科目」と「専門教育科目」で構成されており、それぞれの科目区分には必ず履修しなければならない科目（必修科目）と選択して履修する科目（選択科目）とがあり、いずれも定められた年次に配当されています。諸君は各科目区分毎に定められている単位を修得し、卒業に必要な単位数を満たすように履修しなければなりません。

履修にあたっては計画的に学修することが必要です。そのためにはしっかりとした学修目的をもち、単に今年度の履修だけでなく次年度以降の履修をも合わせて検討し、長期的視点にたって履修計画を立ててください。

(2) 「演習」を中心に系統的履修を心掛けること

経営学部の科目系統は多彩な領域に及んでいます。はっきりとした学修計画をもたずに、各科目区分毎に設けられた卒業に必要な単位数を揃えるだけでは、教育目標を実現することはおぼつきません。安易な履修は、大学での学修に意義を見いだせず、将来に悔いを残すことにもなりかねません。学修効果をあげるためには、自らの学修目的にあわせて履修要項に記載された各科目の性格や関連科目を十分に調査し、系統立てて履修することが重要です。

経営学部では講義科目と「演習」とを結び付けることによってより効果的に教育目標を実現するよう意図しています。少人数制の「演習」を講義科目と同様に、経営学系、会計学系、経済学系、経営科学系と多岐にわたって数多く開講しており、学生諸君が自ら選んだテーマを主体的かつ専門的な視点にたって取り組めるよう配慮しています。学生諸君にとって学問研究に触れる中心的な場となるのは「演習」であることから、「演習」を学修計画の中心に据えることを願っています。

(3) 自主的に学修をすること

大学では、すべての結果が自分の責任に帰せられます。それゆえ学生生活全般にわたって十分な日配りが必要となります。この履修要項を熟読し、経営学部の教育課程を理解し、自主的な学修計画を立て充実した学生生活を送ってください。在学中に十分な学修成果を修めるためには、積極的な学修姿勢が必要です。諸君の日常における学業への取り組み方が学修効果を左右します。消極的・義務的・受動的な授業への取り組みは何の成果も生み出しません。意欲をもって積極的に大学の授業に参加することが諸君の学生生活をより豊かなものにし、将来的にも意義のあるものになると期待されます。

経営学部

第2部 教育課程

I 教育課程の編成

1. 授業科目の区分

I 教育課程の編成

1. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分されます。

(1) 全学共通科目

宗教教育科目

教養教育科目

外国語科目

保健体育科目

(2) 専門教育科目

(3) 他学部履修科目

(4) 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない）

(5) 教職科目（教員免許状を取得するために必要な科目で卒業に必要な単位に含まれない）

〔必修・選択の区分〕

必修科目 卒業するために必ずその単位を修得しなければならない科目

選択必修科目 各学部・学科の指定した範囲の授業科目の中から選択し、卒業のために必要な単位として修得しなければならない科目

選択科目 自由に選択し履修でき、卒業に必要な単位として算定される科目

〔広域選択〕

平成8年度から実施した教育課程（カリキュラム）では、授業科目の区分とは別に「広域選択」と称し、授業科目区分ごとにおける必要な単位数の外に、授業科目の区分ごとの制約なしにどの科目からでも履修し、修得した一定の単位数を卒業に必要な単位として認定することができます。これを広域選択と言います。

特に平成7年度以前入学生は、制度の変更によって不都合が生じないよう履修要項を精読し、履修科目を登録することが必要です。なお、旧カリキュラムの授業科目区分で修得した単位の認定および対応については、各学部ごとの卒業に必要な単位数で説明します。

2. 単位制度と単位の認定

2. 単位制度と単位の認定

(1) 単位制度

大学での学修はすべて単位制となっています。単位制とは、授業科目を履修し試験に合格することにより、各授業科目ごとに定められている単位を修得していく制度です。そして、定められた期間に所定の単位数を修得することによって卒業できることになります。

(2) 授業科目の単位数

単位とは、学修の量を数字で表すものです。授業科目の単位数は1単位につき、教室内・外での45時間の学修を必要とするという算定基準に基づき、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外に必要な学修量等を考慮して計算しています。したがって、単位数は、それぞれの科目によって異なります。

(3) 単位の認定

授業科目ごとに定められた所定の単位を修得するためには、次の要件を満たさなければなりません。

- ① 単位の認定を受けようとする科目について、履修科目の登録（履修届の提出）をすること。
- ② その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- ③ その科目の授業を受け試験（レポート等を含む）に合格（60点以上）すること。

(4) 履修登録制度

履修科目は、その年次において履修しようとする科目を自分の所属する学科・年次に開講されている授業科目の中から選び、履修届を提出することにより履修登録されます。履修登録しない授業科目は、聴講、受験しても単位は与えられません。

(5) 進級について

単位修得状況とは関係なく、入学年度を基準にして在学年数によって4年次まで進級できます。（休学による原級を除きます。）在学年数が4年以上であっても、卒業に必要な単位数を修得していなければ4年次生を継続することになります。また、4年次に進級していても、卒業見込者として取り扱わない場合もあります。（卒業見込証明書の発行についてP.101参照）

《平成7年度以前入学生への適用について》

平成8年度から適用される新カリキュラムでは、進級基準が廃止されることにより、休学および留学中の者以外は全員進級することになります。在学年数が4年以上であっても、卒業に必要な単位数を修得していなければ4年次生を継続することになります。

3. 卒業に必要な単位数

3. 卒業に必要な単位数

(1) 卒業に必要な単位数

卒業に必要な単位数とは、学部を卒業し学位を得るために必要な最低限の単位数です。経済学部
平成7年度以前入学生を除いて、履修制限単位数は設けていません。各年次で時間割上可能な限りの
科目を履修してください。

なお、修得した科目名および単位数はすべて成績表に記載されます。

経済学部

専修

経済学部第2部は、経済学部の専門教育科目を系統的に学習するため、経済学専修と商学専修の2
コースを設置しています。諸君は1年次の履修登録時にいずれかの専修を選択し、届け出なければな
りません。既に届け出た専修コースは、途中で変更することはできません。

経済学専修 経済に関する理論・歴史・政策・現状分析を主に学修します。

商学専修 経済に関する理論を基礎に、商学・経営・会計の実践的な知識を主に学修します。

経済学専修

A. 平成8年度以降入学生用

(必要最低単位数)

		必修	選択必修	選択	広域選択	
全 学 共 通 科 目	宗教教育科目	4			26	
	教養教育科目	人文分野		4		16
		社会分野		4		
		自然分野		4		
	外国語科目		8			
保健体育科目		2				
専門教育科目		12		56		
合計		16	26	56	26	
		124				

B. 平成7年度以前入学生用

(必要最低単位数)

		必修	選択必修	選択	広域選択	
全 学 共 通 科 目	宗教教育科目	4			34	
	教養教育科目	人文分野		4		16
		社会分野		4		
		自然分野		4		
	外国語科目		8			
保健体育科目		2				
専門教育科目		12		56		
合計		16	26	56	34	
		132				

商 学 専 修

A. 平成8年度以降入学生用

(必要最低単位数)

		必 修	選 択 必 修	選 択	広 域 選 択	
全 学 共 通 科 目	宗 教 教 育 科 目	4			26	
	教 養 教 育 科 目	人 文 分 野		4		16
		社 会 分 野		4		
		自 然 分 野		4		
	外 国 語 科 目		8			
保 健 体 育 科 目		2				
専 門 教 育 科 目		8		60		
合 計		12	26	60	26	
		124				

B. 平成7年度以前入学生用

(必要最低単位数)

		必 修	選 択 必 修	選 択	広 域 選 択	
全 学 共 通 科 目	宗 教 教 育 科 目	4			34	
	教 養 教 育 科 目	人 文 分 野		4		16
		社 会 分 野		4		
		自 然 分 野		4		
	外 国 語 科 目		8			
保 健 体 育 科 目		2				
専 門 教 育 科 目		8		60		
合 計		12	26	60	34	
		132				

《平成7年度以前入学生における修得単位の認定について》

旧カリキュラムの授業区分によって平成7年度までに修得した単位が、新カリキュラムの授業科目区分の各分野ごとの必要単位数を超える場合、必修科目の超過単位数は選択科目の単位数に計算され、さらに超過する単位数は広域選択の単位数に算入されます。(平成8年度以降は新カリキュラムに従って履修してください。)

履修制限単位数

平成7年度以前入学生の年間履修制限は、平成10年度までの3年間経過措置を設け64単位とします。

卒業必要単位における修得単位の流れ

(全学共通科目)

必修科目
選択必修科目

(卒業必要単位数を超えた修得単位数)

(専門教育科目)

必修科目

選択科目

(卒業必要単位数を超えた修得単位数)

広域選択

具体的な授業科目区分ごとの単位認定については、「第2部Ⅱ開設科目と履修方法」で説明します。

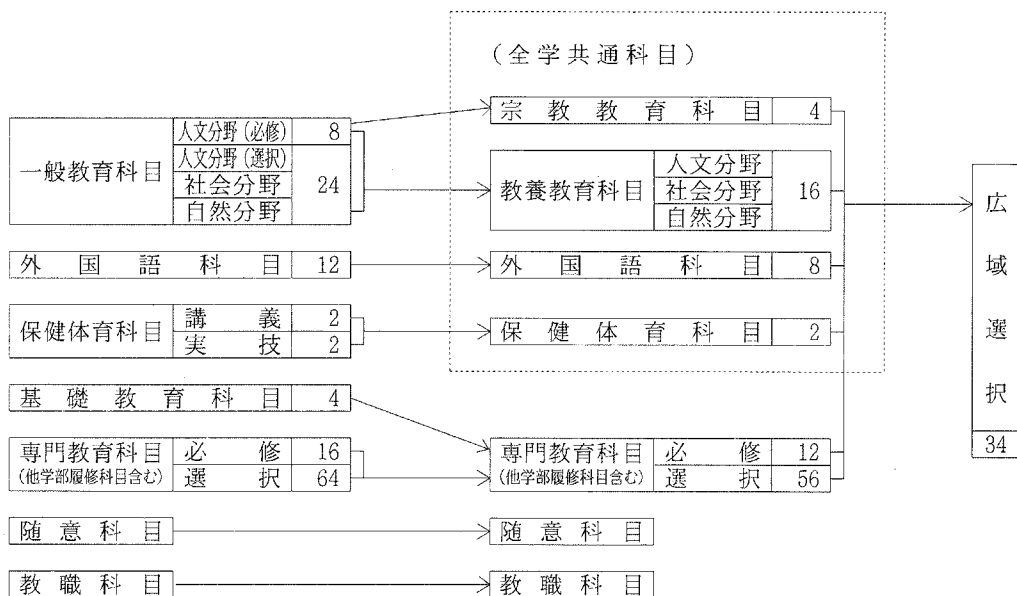
《カリキュラム改正による新旧科目区分の対応表》

カリキュラム改正による授業科目の区分の対応を表で示すと次のとおりです。

経済学専修

《改正前》

《改正後》



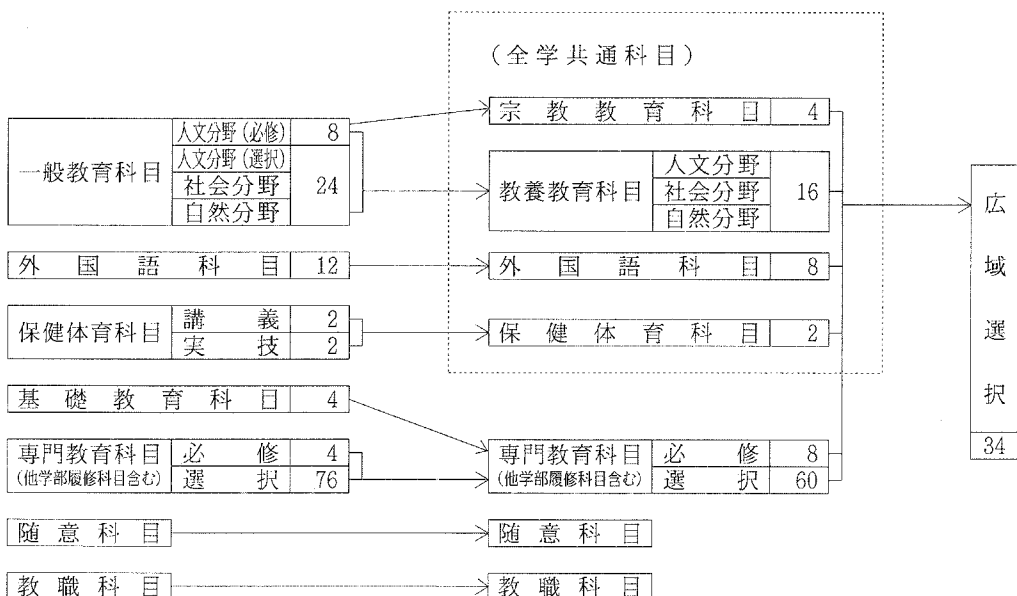
各科目区分の卒業必要単位を超えた単位数

※各科目区分の数字は卒業必要単位数を示す。

商学専修

《改正前》

《改正後》



各科目区分の卒業必要単位を超えた単位数

※各科目区分の数字は卒業必要単位数を示す。

法 学 部

A. 平成8年度以降入学生用

(必要最低単位数)

		必 修	選 択 必 修	選 択	広 域 選 択
全 学 共 通 科 目	宗 教 教 育 科 目	4			16
	教 養 教 育 科 目	人 文 分 野	16		
		社 会 分 野			
		自 然 分 野			
	外 国 語 科 目		8		
保 健 体 育 科 目					
専 門 教 育 科 目	4		76		
合 計		8	24	76	16
		124			

※保健体育科目の広域選択での単位の認定は、6単位を限度とします。

B. 平成7年度以前入学生用

(必要最低単位数)

		必 修	選 択 必 修	選 択	広 域 選 択
全 学 共 通 科 目	宗 教 教 育 科 目	4			24
	教 養 教 育 科 目	人 文 分 野	16		
		社 会 分 野			
		自 然 分 野			
	外 国 語 科 目		8		
保 健 体 育 科 目					
専 門 教 育 科 目	4		76		
合 計		8	24	76	24
		132			

※保健体育科目の広域選択での単位の認定は、6単位を限度とします。

《平成7年度以前入学生における修得単位の認定について》

旧カリキュラムの授業区分によって平成7年度までに修得した単位数が、新カリキュラムの授業科目区分の各分野ごとの必要単位数を超える場合、必修科目の超過単位数は選択科目の単位数に計算され、さらに超過する単位数は広域選択の単位数に算入されます。(平成8年度以降は新カリキュラムに従って履修してください。)

卒業必要単位における修得単位の流れ

(全学共通科目)

必修科目
選択必修科目

(卒業必要単位数を超えた修得単位数)

(専門教育科目)

必修科目

選択科目

(卒業必要単位数を超えた修得単位数)

広 域 選 択

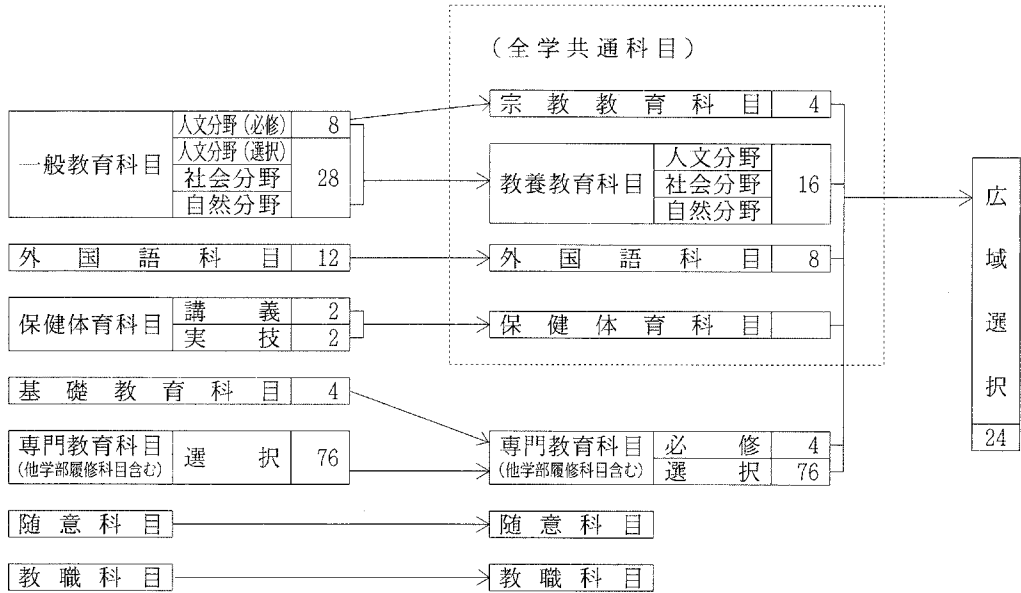
具体的な授業科目区分ごとの単位認定については、「第2部Ⅱ開設科目と履修方法」で説明します。

《カリキュラム改正による新旧科目区分の対応表》

カリキュラム改正による授業科目の区分の対応を表で示すと次のとおりです。

《改正前》

《改正後》



各科目区分の卒業必要単位を超えた単位数

※各科目区分の数字は卒業必要単位数を示す。

経営学部

A. 平成8年度以降入学生用

(必要最低単位数)

		必修	選択必修	選択	広域選択
全学 共通 科目	宗教教育科目	4			22
	教養教育科目	人文分野			
		社会分野			
		自然分野			
	外国語科目		8		
保健体育科目	2				
専門教育科目		8		80	
合計		14	8	80	22
		124			

B. 平成7年度以前入学生用

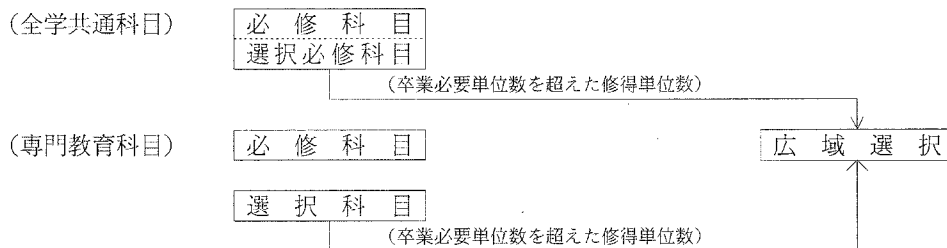
(必要最低単位数)

		必修	選択必修	選択	広域選択
全学 共通 科目	宗教教育科目	4			34
	教養教育科目	人文分野			
		社会分野			
		自然分野			
	外国語科目		8		
保健体育科目	2				
専門教育科目		8		84	
合計		14	8	84	34
		140			

《平成7年度以前入学生における修得単位の認定について》

旧カリキュラムの授業区分によって平成7年度までに修得した単位が、新カリキュラムの授業科目区分の各分野ごとの必要単位数を超える場合、必修科目の超過単位数は選択科目の単位数に計算され、さらに超過する単位数は広域選択の単位数に算入されます。(平成8年度以降は新カリキュラムに従って履修してください。)

卒業必要単位における修得単位の流れ



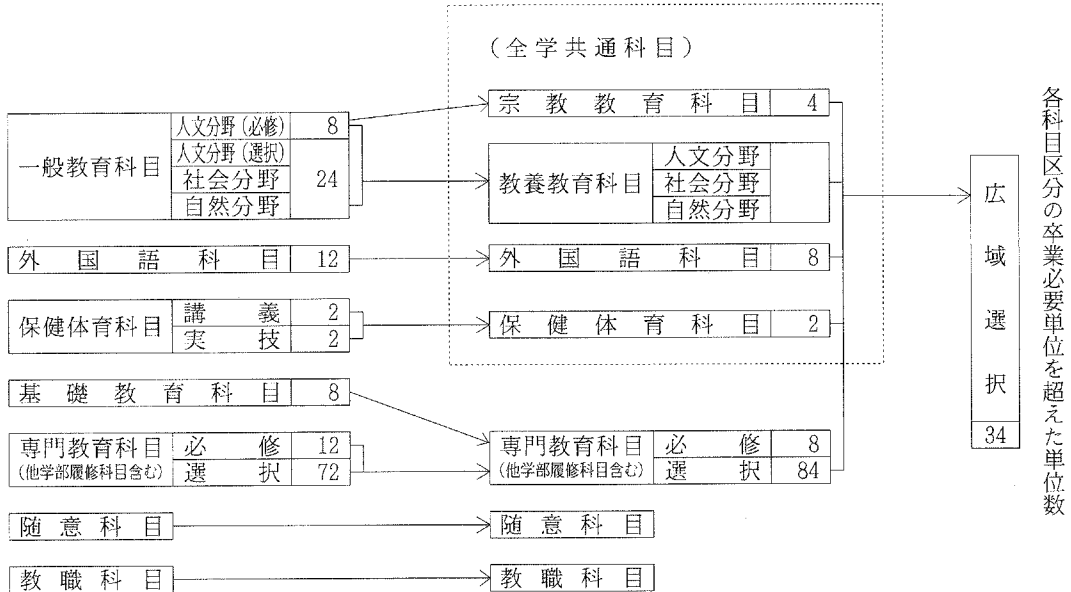
具体的な授業科目区分ごとの単位認定については、「第2部Ⅱ開設科目と履修方法」で説明します。

《カリキュラム改正による新旧科目区分の対応表》

カリキュラム改正による授業科目の区分の対応を表で示すと次のとおりです。

《改正前》

《改正後》



※各科目区分の数字は卒業必要単位数を示す。

(2) 卒業および学位記の授与

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書・学位記を授与し、次の学位が与えられます。

- 経済学部……………学士（経済学）
- 法学部……………学七（法律学）
- 経営学部……………学士（経営学）

Ⅱ 開設科目と履修方法

1. 経 済 学 部

II 開設科目と履修方法

1. 経済学部

履修に関する一般的注意

- ① 授業科目は、教授会の定めにより各年次に配当されています。
- ② 授業時間表の備考欄に番号が示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修しなければなりません。ただし、再履修または指定された年次で履修できなかった場合はこの限りではありません。
- ③ 各年次に配当された授業科目は、当該年次に限り履修することができます。ただし、下級年次に配当された授業科目を上級年次において履修することは差し支えありません。
- ④ 各年次で履修できる単位の最低および最高限度は、教授会の定めによります。
- ⑤ 一度単位の認定を受けた授業科目を再度履修することはできません。

【全学共通科目】

(1) 宗教教育科目

宗教教育科目の教育目標

駒澤大学の教育理念である仏教精神についての正しい理解を図り、宗教に対する寛容な態度を養うことを目標として設置されている科目です。

《平成8年度からの適用》

宗教教育科目は、「仏教と人間」4単位を必修科目として1年次に配置しています。必ず履修して下さい。

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 新制度の宗教教育科目の「仏教と人間」は1年次の必修科目です。ただし、平成7年度以前に「宗教学Ⅰ」、「宗教学Ⅱ」の単位を修得している場合は、宗教教育科目の必修科目として認定し、卒業に必要な必修の単位を満たしたものとします。新たに「仏教と人間」を履修する必要はありません。
- ② 上記①により、宗教教育科目の必修として必要な単位（4単位）を超えて修得した単位がある場合、その単位は、教養教育科目の人文分野の選択必修として必要な単位として算入されます。
- ③ 平成7年度以前に「宗教学Ⅰ」、「宗教学Ⅱ」のいずれの単位も修得していない場合は、「仏教と人間」の再履修クラスを履修し、不足する単位を補わなければなりません。

旧カリキュラムによる既修得科目の単位の認定と対応科目

授業科目	旧カリキュラム科目	認定科目名称	認定単位
仏教と人間	宗教学Ⅰ	宗教学Ⅰ	4
	宗教学Ⅱ	宗教学Ⅱ	4

※ 旧カリキュラムで修得した科目と対応する新カリキュラム科目は、履修することができません。

(2) 教養教育科目

教養教育科目の教育目標

多角的な知識と深い教養を身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養することを教育の目標としています。

《平成8年度からの適用》

教養教育科目の履修方法

- ① 教養教育科目は全学共通科目として設置され、人文分野、社会分野および自然分野からなり1年次から履修できます。
- ② 教養教育科目は、講座名が異なっても科目名が同じであれば、重複して履修することや再度履修することはできません。
- ③ 教養教育科目は人文分野、社会分野および自然分野の各分野から4単位以上、計4科目16単位以上を履修して下さい。16単位を超えて修得した科目は、教養教育科目として認定され、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

開設科目一覧

	科目名	単位	講座名	備考
人文分野	宗 教 学	4	聖と俗 比較宗教文化	
	哲 学	4	西洋思想の源流 近代の人間観と世界観 現代文明と人間	
	倫 理 学	4	西洋倫理学	
	論 理 学	4	科学方法論と現代論理学	
	歴 史 学	4	日本近代史 中国古代史 中国古代思想史	
社会分野	文 学	4	日本文学「古典」 日本文学「近代」	
	法 学・憲 法	4	法と社会生活 法と権利	※イ
	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	
	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	
	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	
	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	
自然分野	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	
	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	
	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	
	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	
	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	
自然分野	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	
	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	
	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	
	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	
	社 会 学	4	法と社会生活 法と権利	

※イ、教員免許状を取得しようとする者は「法学・憲法」を必修とします。

〔名称変更科目〕（平成8年度以降）

名称変更科目は、新・旧とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできません。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
法 学・憲 法	← 法 学 憲 法	コ ン プ ュ ー タ 基 礎	← コ ン プ ュ ー タ 概 論
社 会 学 科 学 論	← 社 会 学 科 学 概 論	地 球 科 学	← 地 学

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 教養教育科目の履修方法については、《平成8年度からの適用》に準じます。
- ② 平成7年度以前に一般教育科目の各分野で修得した単位は、教養教育科目として、次表の「旧カリキュラムによる既修得科目の単位認定と対応科目」により認定されます。
- ③ 16単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

旧カリキュラムによる既修得科目の単位認定と対応科目

	新カリキュラム科目	旧カリキュラム科目	認定科目名称	認定単位		新カリキュラム科目	旧カリキュラム科目	認定科目名称	認定単位
人文分野	宗 教 学	—————	—————	—	自然分野	生 物 学	生 物 学	生 物 学	4
	哲 学	哲 学	哲 学	4		地 球 学	地 学	地 学	4
	倫 理 学	—————	—————	—		コンピュータ基礎	コンピュータ概論	コンピュータ概論	4
	論 理 学	論 理 学	論 理 学	4		心 理 学	—————	—————	—
	歴 史 学	歴 史 学	歴 史 学	4		自然環境論	—————	—————	—
	文 学	文 学	文 学	4		情報数学	—————	—————	—
	社会分野	法学・憲法	法学憲法	法学憲法		4			
社会科学論		社会科学概論	社会科学概論	4					
経 済 学		経 済 学	経 済 学	4					
社 会 学		社 会 学	社 会 学	4					
統 計 学		統 計 学	統 計 学	4					
文化人類学		—————	—————	—					
政 治 学		政 治 学	政 治 学	4					

※旧カリキュラムで修得した科目と対応する新カリキュラム科目は、履修することができません。
 一般教育科目の人文分野で修得した「宗教学Ⅰ」および「宗教学Ⅱ」の取扱いについては、宗教教育科目の《平成7年度以前入学生への適用について》(P.31)を参照してください。

(3) 外国語科目

外国語科目の教育目標

情報通信や交通手段の発達によって、世界がますます狭くなり、日本も国際社会の中にますます深く組み込まれつつある今日、外国の文化や社会について正確な知識を得、国際感覚を養い、諸外国の人々との交流を深めることは、大きな意義をもつはずで、そのためには、外国語の確かな運用能力を身につけることが不可欠です。学修者の希望・関心や進路に応じて、積極的に系統だった知識を集めるよう心がけてください。

《平成8年度からの適用》

外国語科目の履修方法

外国語科目は全学共通科目として設置され、選択必修科目と選択科目に分かれています。

選択必修科目の履修方法

- ① 選択必修としての外国語科目は英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語の6か国語が開講されています。
- ② 卒業に必要な単位として、これらのうち入学手続きの際に指定した1か国語ないし2か国語で、4科目8単位を修得してください。履修届提出前に、履修のパターンを登録することになります。

☆1か国語指定の場合

指定クラス1年次でⅠA、ⅠB、2年次でⅡA、ⅡBを履修してください。2年次以降に下級年次の科目を履修する場合は、再クラスで履修してください。

☆2か国語指定の場合

i) 英語と英語以外の外国語を4単位ずつ履修

1年次に、英語ⅠA、ⅠB、英語以外の外国語ⅠA、ⅠBの8単位を履修できます。

ii) 英語2単位、英語以外の外国語6単位を履修

- ・1年次に、英語ⅠA、英語以外の外国語ⅠA、ⅠBの6単位を履修
- ・2年次に英語以外の外国語ⅡAを履修

iii) 英語以外の2か国語を4単位ずつ履修

- ・1年次に1か国語のⅠA、ⅠBの4単位を履修
- ・2年次に他の英語以外の外国語のⅠA、ⅠBの再クラスで4単位を履修

※英語6単位と英語以外の外国語2単位、英語以外の2か国語を2単位と6単位の組み合わせは認められません。

- ③ 指定した外国語以外の外国語を履修した場合、または登録パターンと違う履修の仕方をした場合は、選択必修科目ではなく、広域選択の単位数に算入されます。
- ④ 8単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。
- ⑤ 他学部の外国語選択必修科目は原則として履修できません。

選択科目の履修方法

選択科目として開講されている外国語科目は、下表のとおりです。なお、修得した単位は卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

外国語科目開講科目一覧

	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	選 択 科 目	授 業 科 目	単 位
	1 年 次		2 年 次			1 ~ 4 年 次	
	選 択 必 修 科 目	英 語 I A	2	英 語 II A		2	英 会 話 I
英 語 I B		2	英 語 II B	2	英 会 話 II	2	
ド イ ツ 語 I A		2	ド イ ツ 語 II A	2	英 語 L L I	2	
ド イ ツ 語 I B		2	ド イ ツ 語 II B	2	英 語 L L II	2	
フ ラ ン ス 語 I A		2	フ ラ ン ス 語 II A	2			
フ ラ ン ス 語 I B		2	フ ラ ン ス 語 II B	2			
中 国 語 I A		2	中 国 語 II A	2			
中 国 語 I B		2	中 国 語 II B	2			
ス ペ イ ン 語 I A		2	ス ペ イ ン 語 II A	2			
ス ペ イ ン 語 I B		2	ス ペ イ ン 語 II B	2			
ロ シ ア 語 I A		2	ロ シ ア 語 II A	2			
ロ シ ア 語 I B		2	ロ シ ア 語 II B	2			

〔名称変更科目〕（平成8年度以降）

名称変更科目は、新・旧とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできません。

新 名 称	←	旧 名 称	新 名 称	←	旧 名 称
ド イ ツ 語 I A	←	ド イ ツ 語 I	ド イ ツ 語 II A	←	ド イ ツ 語 II
フ ラ ン ス 語 I A	←	フ ラ ン ス 語 I	フ ラ ン ス 語 II A	←	フ ラ ン ス 語 II
中 国 語 I A	←	中 国 語 I	中 国 語 II A	←	中 国 語 II
ス ペ イ ン 語 I A	←	ス ペ イ ン 語 I	ス ペ イ ン 語 II A	←	ス ペ イ ン 語 II

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 外国語科目の卒業に必要な単位数を《平成8年度からの適用》に準じて8単位を履修することになります。
- ② 平成7年度以前に外国語科目で修得した単位は、すべて外国語科目の選択必修科目として認定します。また、卒業に必要な単位数を修得していない場合は、③により新カリキュラム科目を履修し、不足する単位数を補ってください。
- ③ 卒業に必要な単位が不足している場合は、次のように履修してください。

☆第2外国語1科目以上修得済みの場合

- i) 不足する単位数分の科目を、表と照らし合わせて履修してください。(修得済みの科目を除く)

英 語		第2外国語		計4科目
I A	I B	I A	I B	8単位

- ii) 英語と第2外国語の内、どちらか1か国語のみで外国語不足単位が補える場合は、英語科目を履修してください。
- iii) 「I A・I B」の科目の内、どちらか1科目のみで外国語不足単位が補える場合、「I A」の科目を履修してください。

☆上記以外(英語科目のみ修得、または外国語未修得)の場合

- 不足する単位数分の科目を、表と照らし合わせて履修してください。(修得済みの科目を除く)

英 語				計4科目
I A	I B	II A	II B	8単位

- ④ 8単位を超えて修得した科目および平成8年度以降に選択科目で修得した科目の単位数は、卒業に必要な単位数として広域選択の単位数に算入されます。

(4) 保健体育科目

保健体育科目の教育目標

心身の健康の維持推進に関する科学、医学的知識を十分に深め、体力の向上を図り、心身ともに健全な社会人の育成を目標とします。

《平成8年度からの適用》

保健体育科目の履修方法

- ① 保健体育科目は、「健康・スポーツ実習」（通年2単位）と「健康・スポーツ論」（半期2単位）の2科目から1科目を選択し、必修科目として1年次に履修してください。
- ② 保健体育科目を2科目以上履修し、卒業に必要な単位数（2単位）を超えて修得した単位は、広域選択の単位数に算入されます。
- ③ 第1部への転部を希望している者は「健康・スポーツ実習」（通年2単位）を必修科目として1年次に履修することが望まれます。

保健体育科目一覧表

	授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考
選 択 必 修	健 康 ・ ス ポ ー ツ 実 習	2	1年次	実技、通年
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 論	2	1年次	講義、半期科目
選 択 科 目	生涯スポーツ実習（集中前期・基礎）	1	1年次～	実技 集中授業コース 平成10年度休講
	生涯スポーツ実習（集中前期・応用）	1		
	生涯スポーツ実習（集中後期・基礎）	1		
	生涯スポーツ実習（集中後期・応用）	1		
	生涯スポーツ演習（シーズン前期・基礎）	2	1年次～	講義実技 シーズンコース
	生涯スポーツ演習（シーズン前期・応用）	2		
	生涯スポーツ演習（シーズン後期・基礎）	2		
	生涯スポーツ演習（シーズン後期・応用）	2		

A. 「健康・スポーツ実習」履修上の注意

- ① 授業について
「健康・スポーツ実習」は、週1回通年授業で本校体育館および第2体育館で行われます。
- ② 種目の選択届について
実技科目（再履修を含む）の種目の説明および選択は、前期・後期とも最初の授業時間に実施します。当日の服装は、普段着で結構ですが、必ず出席してください。
種目別一覧
室内球技Ⅰ（バドミントン）、室内球技Ⅱ（卓球）、トレーニング&ニュースポーツ、空手道
指定されたクラスにより組み合わせが異なります。種目は半期で交替します。
- ③ 評価について
評価の尺度は各教員によって異なりますので、講義内容を参照してください。
- ④ 見学について
体調の悪いときは、指導教員の許可を得て授業を見学することができます。
長期見学者：身体の障害や病気のため長期にわたり運動が出来ない者については、長期見学者として取り扱うことを基本とします。授業参加の形態については指導教員とよく相談してください。
- ⑤ 服装・更衣について
種目毎にそれぞれの種目教員の指示に従い、指定された場所で着替えてください。

⑥ 盗難・事故・負傷について

- a. 盗 難：実技の受講日には貴重品を持参しないでください。やむを得ず持参した場合は、種目担当教員の指示に従ってください。
- b. 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には、直ちに種目担当教員に申し出て適切な指示を受けてください。

B. 生涯スポーツ実習（集中授業コース用）

（平成10年度は休講です。）

C. 生涯スポーツ演習（シーズンコース）

シーズンコースは、ゴルフとスキーの2科目を事前授業と合宿授業で開講しています。

事前授業日程

前期 基礎／応用〈ゴルフ〉

5月8日（金）12：10～12：50 2研-101教場

7月4日（土）14：30～16：00〈4時限目〉 1-405教場

7月11日（土）14：30～16：00〈4時限目〉 1-405教場

後期 基礎／応用〈スキー〉

5月8日（金）12：10～12：50 2研-102教場

12月5日（土）14：30～16：00〈4時限目〉 1-405教場

12月12日（土）14：30～16：00〈4時限目〉 1-405教場

※上記の事前授業は、オリエンテーションを兼ねるので必ず出席してください。なお、やむを得ない理由により、事前授業に参加できない場合は、事前に担当教員に申し出てください。対応を考慮します。

合宿授業日程

種目	定員	日 程	場 所	参加費
ゴルフ	15名	平成10年9月7日～11日	軽井沢ゴルフ練習場 他	49,000円
スキー	20名	平成11年2月15日～19日	軽井沢プリンスホテルスキー場	49,000円

履修上の注意

- ① 受講者は、参加費49,000円を指定された期間に経理部窓口で納入してください。期間内に納入しない場合は、受講することができないので注意してください。
 納 入 期 間：平成10年5月11日（月）～5月22日（金）
 窓口受付時間：9：00～16：00（ただし、12：00～13：00を除く）
 ※16時以降は、第二学事課窓口にご相談してください。
- ② 参加費には、宿泊代、昼食代、保険料、リフト券代（スキーのみ）等を含みますが、現地往復の交通費は含まれていません。
- ③ やむを得ない事情で参加できなくなった場合は、早急に保健体育部（第1体育館準備室）に連絡してください。なお、参加費は、返還されないことがあります。
- ④ その他
 ゴルフクラブは貸与しますが、靴、ゴルフ用グローブは、各自用意してください。
 スキー用具は、現地でレンタルが可能です。
 ※詳細については、「講義内容」を参照してください。

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 保健体育科目の履修方法については、平成8年度以降入学生に準じます。
- ② 平成7年度以前に「体育実技」、または「保健体育理論」の単位を修得している場合は、保健体育科目の選択必修科目として認定し、卒業に必要な単位を満たしたものとします。
- ③ 上記②により、卒業に必要な単位（2単位）を超えて修得した単位がある場合、その単位は、広域選択の必要単位数に算入されます。
- ④ 生涯スポーツ演習（前期 基礎／応用、ゴルフ）と、夏期休暇中の集中講義（前半）を同時に履修することはできません。

旧カリキュラムによる既修得科目の単位の認定と対応科目

新カリキュラム科目	旧カリキュラム科目	認定科目名称	認定単位
健康・スポーツ実習	体 育 実 技	体 育 実 技	2
健康・スポーツ論	保 健 体 育 理 論	保 健 体 育 理 論	2

※旧カリキュラムで修得した科目と対応する新カリキュラム科目は、履修することができません。

【専門教育科目】

《平成8年度からの適用》

専門教育科目の履修方法

- ① 専門教育科目は必修科目と選択科目のそれぞれ定められた単位を履修してください。
なお、一度単位を修得した授業科目については、再度履修することができません。
- ② 選択科目で修得した単位が選択科目に必要な単位数を超えた場合は、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

(1) 必修科目

経済学専修 (12単位)			商学専修 (8単位)		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
1年次必修			1年次必修		
経済学概説	4	旧基礎教育科目	経済学概説	4	旧基礎教育科目
1～4年次必修			1～4年次必修		
経済原論Ⅰ	4		会計学総論	4	
経済原論Ⅱ	4				

(2) 専門選択科目 (経済学専修：56単位、商学専修：60単位)

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
1～4年次選択			1～4年次選択		
経済原論Ⅰ	4	※イ	国民所得論	4	
経済原論Ⅱ	4	※イ	景気循環論	4	
商学総論	4		日本経済史	4	
経営学総論	4		経済地理	4	
会計学総論	4	※ロ	農業政策	4	
経済学史	4		工業政策	4	
経済史	4	休講	財政政策	4	休講
経済政策	4	休講	国際金融論	4	
財政学	4		銀行論	4	
金融論	4		中小企業論	4	
日本経済論	4		人口論	4	休講
国際経済論	4		教育経済論	4	
社会政策	4	休講	アジア経済論	4	
商業政策	4		中国経済論	4	
マーケティング	4	※ニ	アメリカ経済論	4	休講
経営管理論	4	休講	ヨーロッパ経済論	4	
労務管理論	4		ロシア・東欧経済論	4	※ニ
簿記論	4		貿易論	4	
財務会計論	4		証券市場論	4	
統計原論	4		保険論	4	
価格理論	4		交通論	4	

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
1 ～ 4 年次選択			1 ～ 4 年次選択		
財務管理	4	休講	経営戦略論	4	
会計監査論	4		消費経済論	4	休講
管理会計論	4		民法	4	
税務会計論	4		商法	4	
労働経済論	4	休講	経済法	4	
商業史	4		労働法	4	
原価計算論	4		原書講読	4	※ハ
貿易実務	4	休講	現代経済事情Ⅰ	2	半期科目
情報・経済ネットワーク論	4	※ホ	現代経済事情Ⅱ	2	半期科目
プログラミング論	4	※ホ	現代経済事情Ⅲ	2	半期科目
経済数学	4		現代経済事情Ⅳ	2	半期科目
計量経済学	4	※ホ	現代産業事情Ⅰ	2	半期科目
情報処理論	4	※ホ	現代産業事情Ⅱ	2	半期科目
現代資本主義論	4		3 年次選択		
社会思想史	4		演習Ⅰ	4	
地方財政論	4		4 年次選択		
環境経済論	4		演習Ⅱ	4	
経営分析	4				

※イ. 経済学専修除く

※ロ. 商学専修除く

※ハ. 英語、ドイツ語、フランス語から1科目選択

※ニ. 夏期集中講義（平成7年度以前入学生対象）で開講（P.69参照）

※ホ. 受講生数に制限があります。（P.89受講制限科目について参照）

◇「現代経済事情」について

皆さんは、新聞、雑誌、テレビを通じて、今、目の前で起こっている様々な経済・社会問題に強い関心をもっておられるものと思います。

経済学部ではこうした現代的な問題をわかりやすく、そしておもしろく解説してもらうために「現代経済事情」という特殊講義を開講しています。前期と後期に各2講座となっています。講師はそれぞれの分野で第一線に立って活動をされている方々です。他の講義とは趣を異にした現実感あふれる話を聞くことができるでしょう。経済の専門科目を学ぶ意義、その楽しさを知ってもらうためにも「現代経済事情」を皆さんにお勧めします。

現代経済事情Ⅰ（前期）「消費税問題」	熊沢 通夫（東京税財政センター副理事長）			
現代経済事情Ⅱ（後期）「インターネットと経済」	丸尾 聡（日本総合研究所副主任研究員）			
現代経済事情Ⅲ（後期）「金融ビッグバン」	皆藤 実（東京金融先物取引所常任理事）			
現代経済事情Ⅳ（前期）「規制緩和」	<table border="0"> <tr> <td rowspan="2" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">{</td> <td>田口 博之（連合総研主任研究員）</td> </tr> <tr> <td>川崎 研一（日本輸入銀行主任研究員）</td> </tr> </table>	{	田口 博之（連合総研主任研究員）	川崎 研一（日本輸入銀行主任研究員）
{	田口 博之（連合総研主任研究員）			
	川崎 研一（日本輸入銀行主任研究員）			

◇「現代産業事情」について

「現代経済事情」を補完するために、特殊講義「現代産業事情」を前期と後期に各1講座開設しました。

「現代経済事情」が現代の経済問題の最先端を意識するのに対して、「現代産業事情」は現代の経済の現場そのものに接することを意図しています。いろいろな業界の現場で働く人が、生の声で事情を伝えてくれます。授業は、産業の現場からお招きした方と本学の専任教員の2人で行います。現場からは、半期3人ほどの人をお招きする予定です。さて、どのようなやりとりが生まれるでしょうか。詳しくは、該当する「講義内容」を参照してください。

(3) 「現代経済事情」「現代産業事情」の履修について

- ① 「現代経済事情」「現代産業事情」は、半期2単位の授業科目です。
- ② 「現代経済事情」はⅠ～Ⅳの4科目8単位、「現代産業事情」はⅠ～Ⅱの2科目4単位を限度に履修することができます。講義内容は毎年変わりますが、同じ科目名を再度履修することはできません。

◇演習（ゼミナール）について

大学の授業は大きく分けて講義とゼミナールの2つの形があります。経済学部ではゼミを重視して、ゼミⅠ、Ⅱを設けて、学生諸君の参加を待っています。そう、ゼミとは学生参加型の授業なのです。講義のように、先生の話をお話をいわば一方的に聞くのではなく、自分で確かめながら、知識や考えを深めて行くのです。

そのため、ゼミでは学術書の輪読や課題学習の発表、質疑や討議が行われます。他の学生の考えにふれたり、先生と身近に話したり、思わぬ発想を教えられたりと得るところは大きいでしょう。

また、ゼミによってはゼミ旅行やボランティア活動、合宿研修やコンパといった行事を盛りだくさんに用意しているところもあります。また、ゼミは人と人との出会いの場であり、試験やアルバイトや就職等の情報に接する場でもあります。

こんな利点の多いゼミを見のがす手はないでしょう。それなりに負担にもなりますが、ゼミ生活はおそらく学生諸君に卒業後までつづく財産となるでしょう。

(4) 演習履修について

- ① 演習の履修希望者は10月上旬（日時を掲示）に開催する演習説明会に出席し、配布された演習要項を熟読のうえ、第二学事課に受講申込書を提出してください。
- ② 「演習Ⅰ」（4単位）は3年次以降、「演習Ⅱ」（4単位）は4年次に担当教員の受講許可を得て履修してください。
- ③ 演習は2年間継続開講と1年間開講とがあります。

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 平成7年度以前に基礎教育科目として修得した「経済学概説」は、専門教育科目の必修科目として認定します。
- ② 専門教育科目として卒業に必要な単位数を修得していない場合は、《平成8年度からの適用》に準じて履修し、不足する単位を補って下さい。
- ③ 一度単位を修得した科目については再度履修することができないので、平成8年度以降履修する科目については十分注意をすることが必要です。

2. 法 学 部

2. 法 学 部

履修に関する一般的注意

- ① 授業科目は、教授会の定めにより各年次に配当されています。
- ② 授業時間表の備考欄に番号が表示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修しなければなりません。ただし、再履修または指定された年次で履修できなかった場合はこの限りではありません。
- ③ 各年次に配当された授業科目は、当該年次に限り履修することができます。ただし、下級年次に配当された授業科目を上級年次において履修することは差し支えありません。
- ④ 各年次で履修できる単位の最低および最高限度は、教授会の定めによります。
- ⑤ 一度単位の認定を受けた授業科目を再度履修することはできません。

【全学共通科目】

(1) 宗教教育科目

宗教教育科目の教育目標

本学は、仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神に則り、学校教育を行うことを目的として設置されており、この点が私学としての本学の特色です。宗教教育科目は、この設置の目的に基づき、全学生諸君が仏教や禅の教えについての理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを教育の目標とします。

《平成8年度からの適用》

宗教教育科目は、「仏教と人間」4単位を必修科目として1年次に配置しています。必ず履修してください。

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 新制度の宗教教育科目の「仏教と人間」は1年次の必修科目です。ただし、平成7年度以前に「宗教学Ⅰ」、「宗教学Ⅱ」の単位を修得している場合は、宗教教育科目の必修科目として認定し、卒業に必要な必修の単位を満たしたものとします。新たに「仏教と人間」を履修する必要はありません。
- ② 上記①により、宗教教育科目の必修として必要な単位（4単位）を超えて修得した単位がある場合、その単位は、教養教育科目の人文分野の選択必修として必要な単位として算入されます。
- ③ 平成7年度以前に「宗教学Ⅰ」、「宗教学Ⅱ」のいずれの単位も修得していない場合は、「仏教と人間」の再履修クラスを履修し、不足する単位を補わなければなりません。

旧カリキュラムによる既修得科目の単位と対応科目

新カリキュラム科目	旧カリキュラム科目	認定科目名称	認 定 単 位
仏 教 と 人 間	宗教学Ⅰ	宗教学Ⅰ	4
	宗教学Ⅱ	宗教学Ⅱ	4

※ 旧カリキュラムで修得した科目と対応する新カリキュラム科目は、履修することができません。

(2) 教養教育科目

教養教育科目の教育目標

多角的な知識と深い教養を身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養することを教育の目標としています。

《平成8年度からの適用》

教養教育科目の履修方法

- ① 教養教育科目は全学共通科目として設置され、人文分野、社会分野および自然分野からなり1年次から履修できます。
- ② 教養教育科目は、講座名が異なっても科目名が同じであれば、重複して履修することや再度履修することはできません。
- ③ 教養教育科目の卒業に必要な単位数は16単位です。16単位を超えて修得した科目は、教養教育科目として認定され、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

開設科目一覧

	科目名	単位	講座名	備考
人文分野	宗 教 学	4	聖と俗 比較宗教文化	
	哲 学	4	西洋思想の源流 近代の人間観と世界観 現代文明と人間	
	倫 理 学	4	西洋倫理学	
	論 理 学	4	科学方法論と現代論理学	
	歴 史 学	4	日本近代史 中国古代史 中国古代思想史	
	文 学	4	日本文学「古典」 日本文学「近代」	
社会分野	法学・憲法	4	法と社会生活 法と権利	※イ
	社会科学論	4	社会認識の思想	
	経 済 学	4	現代経済と人間	
	社 会 学	4	現代社会を考える 現代文化を考える	
	統 計 学	4	社会現象の統計的決定	
	文化人類学	4	文化と人間 諸民族とコスモロジー	
	政 治 学	4	政治システムと政治参加 国際社会と日本	
自然分野	生 物 学	4	生態と進化 生物と環境	
	地 球 科 学	4	自然景観の成り立ち	
	コンピュータ基礎	4	コンピュータと情報	
	心 理 学	4	ヒューマン・ウォッチング 人間関係を考える	
	自然環境論	4	宇宙から見た地球環境 環境と自然保護	
	情 報 数 学	4	情報と論理	

※イ、教員免許状を取得しようとする者は「法学・憲法」を必修とします。

[名称変更科目] (平成8年度以降)

名称変更科目は、新・旧とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできません。

新 名 称		旧 名 称		新 名 称		旧 名 称
法学・憲法	←	法学 憲法		コンピュータ基礎	←	コンピュータ概論
社会科学論	←	社会科学概論		地球科学	←	地 球 学

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 教養教育科目の履修方法については、《平成8年度からの適用》に準じます。
- ② 平成7年度以前に一般教育科目の各分野で修得した単位は、教養教育科目として、次表の「旧カリキュラムによる既修得科目の単位認定と対応科目」により認定されます。
- ③ 16単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

旧カリキュラムによる既修得科目の単位認定と対応科目

	新カリキュラム科目	旧カリキュラム科目	認定科目名称	認定単位		新カリキュラム科目	旧カリキュラム科目	認定科目名称	認定単位
人文分野	宗 教 学	————	————	—	自然分野	生 物 学	生 物 学	生 物 学	4
	哲 学	哲 学	哲 学	4		地 球 学	地 学	地 学	4
	倫 理 学	————	————	—		コンピュータ基礎	コンピュータ概論	コンピュータ概論	4
	論 理 学	論 理 学	論 理 学	4		心 理 学	————	————	—
	歴 史 学	歴 史 学	歴 史 学	4		自然環境論	————	————	—
	文 学	文 学	文 学	4		情報数学	————	————	—
	社会分野	法学・憲法	法学憲法	法学憲法		4			
社会科学論		社会科学概論	社会科学概論	4					
経 済 学		経 済 学	経 済 学	4					
社 会 学		社 会 学	社 会 学	4					
統 計 学		統 計 学	統 計 学	4					
文化人類学		————	————	—					
政 治 学		政 治 学	政 治 学	4					

※旧カリキュラムで修得した科目と対応する新カリキュラム科目は履修することができません。

一般教育科目の人文分野で修得した「宗教学Ⅰ」および「宗教学Ⅱ」の取扱いについては、宗教教育科目の《平成7年度以前入学生への適用について》(P.45)を参照してください。

(3) 外国語科目

外国語科目の教育目標

情報通信や交通手段の発達によって、世界がますます狭くなり、日本も国際社会の中にますます深く組み込まれつつある今日、外国の文化や社会について正確な知識を得、国際感覚を養い、諸外国の人々との交流を深めることは、大きな意義をもつはずで、そのためには、外国語の確かな運用能力を身につけることが不可欠です。学修者の希望・関心や進路に応じて、積極的に系統だった知識を集めるよう心がけてください。

《平成8年度からの適用》

外国語科目の履修方法

外国語科目は全学共通科目として設置され、選択必修科目と選択科目に分かれています。

選択必修科目の履修方法

- ① 選択必修としての外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語の6か国語が開講されています。
- ② 卒業に必要な単位として、これらのうち入学手続きの際に指定した外国語(1か国語を選択必修)を1年次および2年次において4科目8単位を修得してください。指定した外国語以外の外国語を履修した場合は、選択必修科目ではなく、広域選択の単位数に算入されます。

- ③ 8単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。
- ④ 外国語選択必修科目は、それぞれ指定クラス1年次でⅠA、ⅠB、2年次でⅡA、ⅡBを履修してください。2年次以降に下級年次の科目を履修する場合は、再クラスで履修してください。
- ⑤ 他学部の外国語選択必修科目は原則として履修できません。

選択科目の履修方法

選択科目として開講されている外国語科目は、下表のとおりです。なお、修得した単位は卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

外国語科目開講科目一覧

	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
	1 年 次		2 年 次			1 ~ 4 年 次	
選 択 必 修 科 目	英 語 Ⅰ A	2	英 語 Ⅱ A	2	選 択 科 目	英 会 話 Ⅰ	2
	英 語 Ⅰ B	2	英 語 Ⅱ B	2		英 会 話 Ⅱ	2
	ド イ ツ 語 Ⅰ A	2	ド イ ツ 語 Ⅱ A	2		英 語 L L Ⅰ	2
	ド イ ツ 語 Ⅰ B	2	ド イ ツ 語 Ⅱ B	2		英 語 L L Ⅱ	2
	フ ラ ン ス 語 Ⅰ A	2	フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2			
	フ ラ ン ス 語 Ⅰ B	2	フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2			
	中 国 語 Ⅰ A	2	中 国 語 Ⅱ A	2			
	中 国 語 Ⅰ B	2	中 国 語 Ⅱ B	2			
	ス ペ イ ン 語 Ⅰ A	2	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2			
	ス ペ イ ン 語 Ⅰ B	2	ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2			
	ロ シ ア 語 Ⅰ A	2	ロ シ ア 語 Ⅱ A	2			
	ロ シ ア 語 Ⅰ B	2	ロ シ ア 語 Ⅱ B	2			

〔名称変更科目〕（平成8年度以降）

名称変更科目は、新・旧とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできません。

新 名 称		旧 名 称		新 名 称		旧 名 称
ド イ ツ 語 Ⅰ A	←	ド イ ツ 語 Ⅰ		ド イ ツ 語 Ⅱ A	←	ド イ ツ 語 Ⅱ
フ ラ ン ス 語 Ⅰ A	←	フ ラ ン ス 語 Ⅰ		フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	←	フ ラ ン ス 語 Ⅱ
中 国 語 Ⅰ A	←	中 国 語 Ⅰ		中 国 語 Ⅱ A	←	中 国 語 Ⅱ
ス ペ イ ン 語 Ⅰ A	←	ス ペ イ ン 語 Ⅰ		ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	←	ス ペ イ ン 語 Ⅱ

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 外国語科目の卒業に必要な単位数を《平成8年度からの適用》に準じて8単位を履修することになります。
- ② 平成7年度以前に外国語科目で修得した単位は、すべて外国語科目の選択必修科目として認定します。また、卒業に必要な単位数を修得していない場合は、③により新カリキュラム科目を履修し、不足する単位を補ってください。

③ 卒業に必要な単位が不足している場合は、次のように履修してください。

☆第2外国語1科目以上修得済みの場合

i) 不足する単位数分の科目を、表と照らし合わせて履修してください。(修得済みの科目を除く)

英 語		第2外国語		計4科目
I A	I B	I A	I B	8単位

ii) 英語と第2外国語の内、どちらか1か国語のみで外国語不足単位が補える場合は、英語科目を履修してください。

iii) 「I A・I B」の科目の内、どちらか1科目のみで外国語不足単位が補える場合、「I A」の科目を履修してください。

☆上記以外(英語科目のみ修得、または外国語未修得)の場合

不足する単位数分の科目を、表と照らし合わせて履修してください。(修得済みの科目を除く)

英 語				計4科目
I A	I B	II A	II B	8単位

④ 8単位を超えて修得した科目および平成8年度以降に選択科目で修得した科目の単位数は、卒業に必要な単位数として広域選択の単位数に算入されます。

法

(4) 保健体育科目

保健体育科目の教育目標

心身の健康の維持推進に関する科学、医学的知識を十分に深め、体力の向上を図り、心身ともに健全な社会人の育成を目標とします。

《平成8年度からの適用》

保健体育科目の履修方法

- ① 保健体育科目は、次表の科目が開講されています。必修科目として特に卒業に必要な単位数を定めていませんが、この科目で修得した単位は、6単位を限度に広域選択の単位数に算入されず。
- ② 平成9年度以前に入学し第1部への転部を希望している者は、「健康・スポーツ実習」(通年2単位)を選択科目として履修することが望まれます。

保健体育科目一覧表

授 業 科 目	単位	履修年次	備 考
健 康 ・ ス ポ ー ツ 実 習	2	1年次	実技、通年
健 康 ・ ス ポ ー ツ 論	2	1年次	講義、半期科目
生涯スポーツ実習(集中前期・基礎)	1	1年次～	実技 集中授業コース 平成10年度休講
生涯スポーツ実習(集中前期・応用)	1		
生涯スポーツ実習(集中後期・基礎)	1		
生涯スポーツ実習(集中後期・応用)	1		
生涯スポーツ演習(シーズン前期・基礎)	2	1年次～	講義実技 シーズンコース
生涯スポーツ演習(シーズン前期・応用)	2		
生涯スポーツ演習(シーズン後期・基礎)	2		
生涯スポーツ演習(シーズン後期・応用)	2		

A. 「健康・スポーツ実習」履修上の注意

① 授業について

「健康・スポーツ実習」は、週1回通年授業で本校体育館および第2体育館で行われます。

② 種目の選択届について

実技科目（再履修者を含む）の種目の説明および選択は、前期・後期とも最初の授業時間に実施します。当日の服装は、普段着で結構ですが、必ず出席してください。

種目別一覧

室内球技Ⅰ（バドミントン）、室内球技Ⅱ（卓球）、トレーニング&ニュースポーツ、空手道
指定されたクラスにより組み合わせが異なります。種目は半期で交替します。

③ 評価について

評価の尺度は各教員によって異なりますので、講義内容を参照してください。

④ 見学について

体調の悪いときは、指導教員の許可を得て授業を見学することができます。

長期見学者：身体の障害や病気のため長期にわたり運動が出来ない者については、長期見学者として取り扱うことを基本とします。授業参加の形態については指導教員とよく相談してください。

⑤ 服装・更衣について

種目毎にそれぞれの種目教員の指示に従い、指定された場所で着替えてください。

⑥ 盗難・事故・負傷について

a. 盗 難：実技の受講日には貴重品を持参しないでください。やむを得ず持参した場合は、種目担当教員の指示に従ってください。

b. 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には、直ちに種目担当教員に申し出て適切な指示を受けてください。

B. 生涯スポーツ実習（集中授業コース）

（平成10年度は休講です。）

C. 生涯スポーツ演習（シーズンコース）

シーズンコースは、ゴルフとスキーの2科目を事前授業と4泊5日の合宿授業で開講しています。

事前授業日程

前期 基礎／応用〈ゴルフ〉

5月8日（金）12：10～12：50 2研-101教場

7月4日（土）14：30～16：00〈4時限目〉 1-405教場

7月11日（土）14：30～16：00〈4時限目〉 1-405教場

後期 基礎／応用〈スキー〉

5月8日（金）12：10～12：50 2研-102教場

12月5日（土）14：30～16：00〈4時限目〉 1-405教場

12月12日（土）14：30～16：00〈4時限目〉 1-405教場

※上記の事前授業は、オリエンテーションを兼ねるので必ず出席してください。なお、やむを得ない理由により、事前授業に参加できない場合は、事前に担当教員に申し出てください。対応を考慮します。

合宿授業日程

種目	定員	日 程	場 所	参加費
ゴルフ	15名	平成10年9月7日～11日	軽井沢ゴルフ練習場 他	49,000円
スキー	20名	平成11年2月15日～19日	軽井沢プリンスホテルスキー場	49,000円

履修上の注意

- ① 受講者は、参加費49,000円を指定された期間に経理部窓口で納入してください。期間内に納入しない場合は、受講することができないので注意してください。
 納 入 期 間：平成10年5月11日（月）～5月22日（金）
 窓口受付時間：9：00～16：00（ただし、12：00～13：00を除く）
 ※16時以降は、第二学事課窓口にご相談してください。
- ② 参加費には、宿泊代、昼食代、保険料、リフト券代（スキーのみ）等を含みますが、現地往復の交通費は含まれていません。
- ③ やむを得ない事情で参加できなくなった場合は、早急に保健体育部（第1体育館準備室）に連絡してください。なお、参加費は、返還されないことがあります。
- ④ その他
 ゴルフクラブは貸与しますが、靴、ゴルフ用グローブは、各自用意してください。
 スキー用具は、現地でレンタルが可能です。
 ※詳細については、「講義内容」を参照してください。

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 保健体育科目の履修方法については、《平成8年度からの適用》に準じます。
- ② 平成7年度以前に「体育実技」、「保健体育理論」で修得した単位は、すべて広域選択の必要単位数に算入されます。

旧カリキュラムによる既修得科目の単位の認定と対応科目

新カリキュラム科目	旧カリキュラム科目	認定科目名称	認定単位
健康・スポーツ論	保健体育理論	保健体育理論	2
健康・スポーツ実習	体育実技	体育実技	2

※旧カリキュラムで修得した科目と対応する新カリキュラム科目は、履修することができません。

【専門教育科目】

《平成8年度からの適用》

専門教育科目の履修方法

- ① 専門教育科目は必修科目と選択科目のそれぞれ定められた単位を履修してください。
なお、一度単位を修得した授業科目については、再度履修することができません。
- ② 選択科目で修得した単位が選択科目に必要な単位数を超えた場合は、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

(1) 必修科目（4単位）

	授 業 科 目	単 位	備 考
1年次	法 学 概 論	4	旧 基礎教育科目

(2) 選択科目（76単位）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
1 年 次 選 択			2 年 次 選 択		
憲 法	4		国 際 法	4	
比 較 憲 法	4		物 権 法	4	旧「民法Ⅱ」
民 法 総 則	4	旧「民法Ⅰ」	債 権 総 論	4	旧「民法Ⅲ」
親 族 法	4	旧「民法Ⅳ(1)」	会 社 法	4	旧「商法Ⅰ」
刑 事 政 策	4	旧「刑事学」	商法総則・商行為法	4	
刑 法 総 論	4	旧「刑法Ⅰ」	刑 法 各 論	4	旧「刑法Ⅱ」
1 ~ 4 年 次 選 択			行 政 法 総 論	4	旧「行政法Ⅰ」
法 思 想 史	4		2 ~ 4 年 次 選 択		
日 本 法 制 史	4	旧「法制史」	裁 判 法	4	
西 洋 法 制 史	4	休講	環 境 法	4	
英 米 法	4	旧「外国法（英米法）」	知 的 財 産 権 法	4	
法 社 会 学	4		税 法	4	
労 働 法	4		法 哲 学	4	
経 済 法	4		国 際 私 法	4	
社 会 保 障 法	4		地 方 自 治 法	4	休講
政 治 学 原 論	4		金 融 法	4	
政 治 史	4		3 ~ 4 年 次 選 択		
経 済 原 論	4		国 際 紛 争 解 決 法	4	
マ ス ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	4		担 保 物 権 法	4	
行 政 学	4		債 権 各 論	4	
国 際 関 係 論	4		相 続 法	4	旧「民法Ⅳ(2)」
法 律 時 事 英 語	4		有 価 証 券 法	4	旧「商法Ⅱ」
英 書 講 読	4		保 険 ・ 海 商 法	4	旧「商法Ⅲ」
財 政 学	4		民 事 訴 訟 法	4	旧「民事訴訟法Ⅰ」
経 済 政 策	4		民 事 執 行 ・ 保 全 法	4	旧「民事訴訟法Ⅱ」

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
3 ～ 4 年 次 選 択			3 年 次 選 択		
倒 産 処 理 法	4	旧「倒産法」	演 習 I	4	
行 政 法 各 論	4	旧「行政法Ⅱ」	4 年 次 選 択		
刑 事 訴 訟 法	4		演 習 II	4	

〔廃講科目〕（平成8年度以降）

外国法（社会主義法）

〔名称変更科目〕（平成8年度以降）

名称変更科目は、新・旧とも同一科目です。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできません。

新 名 称		旧 名 称	新 名 称		旧 名 称
民 法 総 則	←	民 法 I	刑 法 各 論	←	刑 法 II
親 族 法	←	民 法 IV (1)	相 続 法	←	民 法 IV (2)
行 政 法 総 論	←	行 政 法 I	民 事 訴 訟 法	←	民 事 訴 訟 法 I
刑 法 総 論	←	刑 法 I	有 価 証 券 法	←	商 法 II
刑 事 政 策	←	刑 事 学	保 険 ・ 海 商 法	←	商 法 III
物 権 法	←	民 法 II	民 事 執 行 ・ 保 全 法	←	民 事 訴 訟 法 II
債 権 総 論	←	民 法 III	倒 産 処 理 法	←	倒 産 法
会 社 法	←	商 法 I	英 米 法	←	外 国 法 (英 米 法)
行 政 法 各 論	←	行 政 法 II	日 本 法 制 史	←	法 制 史

(3) 演習履修について

- ① 演習の履修希望者は4月上旬(日時を掲示)に開催する演習説明会に出席し、各担当教員の選考方法を確認のうえ、担当教員に受講申込書を提出してください。
- ② 3年次では「演習Ⅰ」(4単位)、4年次で「演習Ⅱ」(4単位)を受講許可を得て履修してください。
- ③ 演習は2年間継続開講と1年間開講とがあります。また、担当教員によって選考方法が異なっていますので注意してください。

演習一覧

担当教員名	開講年度	募集学年・人数	選考方法
青野博之	前年度より継続	3年次生 10名 4年次生 継続者のみ	書類審査・面接を行う
小木曾綾	前年度より継続	3年次生 10名 4年次生 継続者のみ	書類審査・面接を行う
金子昇平	前年度より継続	3年次生 10名 4年次生 継続者のみ	書類審査・面接を行う
杉浦智紹	前年度より継続	3年次生 12名 4年次生 継続者のみ	書類審査・面接を行う
西修	前年度より継続	3年次生 10名程度 4年次生 継続者のみ	書類審査・面接を行う
林幸司	前年度より継続	3年次生 10名以内 4年次生 継続者のみ	書類審査・面接を行う
松村格	前年度より継続	3年次生 10名 4年次生 継続者のみ	書類審査・面接を行う (応募理由と関心のあるテーマについて)
山田泰彦	前年度より継続	3年次生 10名 4年次生 10名	書類審査・面接を行う

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 平成7年度以前に基礎教育科目として修得した「法学概論」は、専門教育科目の必修科目として認定します。
- ② 専門教育科目として卒業に必要な単位数を修得していない場合は、《平成8年度からの適用》に準じて履修し、不足する単位を補ってください。
- ③ 一度単位を修得した科目については再度履修することができないので、平成8年度以降履修する科目については十分注意をすることが必要です。
※名称変更科目は、新・旧とも同一科目です。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできません。

3. 經 營 学 部

3. 経営学部

履修に関する一般的注意

- ① 授業科目は、教授会の定めにより各年次に配当されています。
- ② 授業時間表の備考欄に番号が表示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修しなければなりません。ただし、再履修または指定された年次で履修できなかった場合はこの限りではありません。
- ③ 各年次に配当された授業科目は、当該年次に限り履修することができます。ただし、下級年次に配当された授業科目を上級年次において履修することは差し支えありません。
- ④ 各年次で履修できる単位の最低および最高限度は、教授会の定めによります。
- ⑤ 一度単位の認定を受けた授業科目を再度履修することはできません。

【全学共通科目】

(1) 宗教教育科目

宗教教育科目の教育目標

本学は、仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神に則り、学校教育を行うことを目的として設置されており、この点が私学としての本学の特色です。宗教教育科目は、この設置の目的に基づき、全学生諸君が仏教や禅の教えについての理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを教育の目標とします。

《平成8年度からの適用》

宗教教育科目は、「仏教と人間」4単位を必修科目として1年次に配置しています。必ず履修して下さい。

《平成7年度以前入学生の適用》

- ① 新制度の宗教教育科目の「仏教と人間」は1年次の必修科目です。ただし、平成7年度以前に「宗教学Ⅰ」、「宗教学Ⅱ」の単位を修得している場合は、宗教教育科目の必修科目として認定し、卒業に必要な必修の単位を満たしたものとします。新たに「仏教と人間」を履修する必要はありません。
- ② 上記①により、宗教教育科目の必修として必要な単位（4単位）を超えて修得した単位がある場合、その単位は、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。
- ③ 平成7年度以前に「宗教学Ⅰ」、「宗教学Ⅱ」のいずれの単位も修得していない場合は、「仏教と人間」の再履修クラスを履修し、不足する単位を補わなければなりません。

旧カリキュラムによる既修得科目の単位と対応科目

新カリキュラム科目	旧カリキュラム科目	認定科目名称	認 定 単 位
仏 教 と 人 間	宗教学Ⅰ	宗教学Ⅰ	4
	宗教学Ⅱ	宗教学Ⅱ	4

※ 旧カリキュラムで修得した科目と対応する新カリキュラム科目は、履修することができません。

(2) 教養教育科目

教養教育科目の教育目標

多角的な知識と深い教養を身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養することを教育の目標としています。

《平成8年度からの適用》

教養教育科目の履修方法

- ① 教養教育科目は全学共通科目として設置され、人文分野、社会分野および自然分野からなり1年次から履修できます。
- ② 教養教育科目は、講座名が異なっても科目名が同じであれば、重複して履修することや再度履修することはできません。
- ③ 教養教育科目はすべて選択科目です。修得した単位は、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

開設科目一覧

	科目名	単位	講座名	備考
人文分野	宗 教 学	4	聖と俗 比較宗教文化	
	哲 学	4	西洋思想の源流 近代の人間観と世界観 現代文明と人間	
	倫 理 学	4	西洋倫理学	
	論 理 学	4	科学方法論と現代論理学	
	歴 史 学	4	日本近代史 中国古代史 中国古代思想史	
	文 学	4	日本文学「古典」 日本文学「近代」	
社会分野	法学・憲法	4	法と社会生活 法と権利	※イ
	社会科学論	4	社会認識の思想	
	社会学	4	現代社会を考える 現代文化を考える	
	統計学	4	社会現象の統計的決定	
	文化人類学	4	文化と人間 諸民族とコスモロジー	
	政治学	4	政治システムと政治参加 国際社会と日本	
自然分野	生物学	4	生態と進化 生物と環境	
	地球科学	4	自然景観の成り立ち	
	心理学	4	ヒューマン・ウォッチング 人間関係を考える	
	自然環境論	4	宇宙から見た地球環境 環境と自然保護	
	情報数学	4	情報と論理	

※イ、教員免許状を取得しようとする者は「法学・憲法」を必修とします。

〔名称変更科目〕（平成8年度以降）

名称変更科目は、新・旧とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできません。

新 名 称		旧 名 称		新 名 称		旧 名 称
法学・憲法	←	法学 憲法		社会科学論	←	社会科学概論
地球科学	←	地 学			←	

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 教養教育科目の履修方法については、《平成8年度からの適用》に準じます。
- ② 平成7年度以前に一般教育科目の各分野で修得した単位は、教養教育科目として、次表の「旧カリキュラムによる既修得科目の単位認定と対応科目」により認定されます。
- ③ 修得した単位は、すべて卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

旧カリキュラムによる既修得科目の単位認定と対応科目

	新カリキュラム科目	旧カリキュラム科目	認定科目名称	認定単位		新カリキュラム科目	旧カリキュラム科目	認定科目名称	認定単位
人文分野	宗 教 学	———	———	—	自然分野	生 物 学	生 物 学	生 物 学	4
	哲 学	哲 学	哲 学	4		地 球 科学	地 学	地 学	4
	倫 理 学	———	———	—		心 理 学	———	———	—
	論 理 学	論 理 学	論 理 学	4		自然環境論	———	———	—
	歴 史 学	歴 史 学	歴 史 学	4		情報数学	———	———	—
	文 学	文 学	文 学	4					
社会分野	法学・憲法	法学憲法	法学憲法	4					
	社会科学論	社会科学概論	社会科学概論	4					
	社 会 学	社 会 学	社 会 学	4					
	統 計 学	統 計 学	統 計 学	4					
	文化人類学	———	———	—					
政 治 学	政 治 学	政 治 学	4						

※旧カリキュラムで修得した科目と対応する新カリキュラム科目は履修することができません。

一般教育科目の人文分野で修得した「宗教学Ⅰ」および「宗教学Ⅱ」の取扱いについては、宗教教育科目の《平成7年度以前入学生への適用について》(P.57)を参照してください。

(3) 外国語科目

外国語科目の教育目標

情報通信や交通手段の発達によって、世界がますます狭くなり、日本も国際社会の中にますます深く組み込まれつつある今日、外国の文化や社会について正確な知識を得、国際感覚を養い、諸外国の人々との交流を深めることは、大きな意義をもつはずで、そのためには、外国語の確かな運用能力を身につけることが不可欠です。学修者の希望・関心や進路に応じて、積極的に系統だった知識を集めるよう心がけてください。

《平成8年度からの適用》

外国語科目の履修方法

外国語科目は全学共通科目として設置され、選択必修科目と選択科目に分かれています。

選択必修科目の履修方法

- ① 選択必修としての外国語科目は英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語の6か国語が開講されています。
- ② 卒業に必要な単位として、これらのうち入学手続きの際に指定した外国語（1か国語を選択必修）を1年次および2年次において4科目8単位を修得してください。指定した外国語以外の外国語を履修した場合は、選択必修科目ではなく、広域選択の単位数に算入されます。

- ③ 8単位を超えて修得した単位は、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。
- ④ 外国語選択必修科目は、それぞれ指定クラス1年次でⅠA、ⅠB、2年次でⅡA、ⅡBを履修してください。2年次以降に下級年次の科目を履修する場合は、再クラスで履修してください。
- ⑤ 他学部の外国語選択必修科目は原則として履修できません。

選択科目の履修方法

選択科目として開講されている外国語科目は、下表のとおりです。なお、修得した単位は卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

外国語科目開講科目一覧

	授 業 科 目		授 業 科 目		選 択 科 目	授 業 科 目		
	単 位	単 位	単 位	単 位		単 位	単 位	
選 択 必 修 科 目	1 年 次		2 年 次		1 ~ 4 年 次			
	英 語 Ⅰ A	2	英 語 Ⅱ A	2	英 会 話 Ⅰ	2		
	英 語 Ⅰ B	2	英 語 Ⅱ B	2		英 会 話 Ⅱ	2	
	ド イ ツ 語 Ⅰ A	2	ド イ ツ 語 Ⅱ A	2			英 語 L L Ⅰ	2
	ド イ ツ 語 Ⅰ B	2	ド イ ツ 語 Ⅱ B	2		英 語 L L Ⅱ		2
	フ ラ ン ス 語 Ⅰ A	2	フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2				
	フ ラ ン ス 語 Ⅰ B	2	フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2				
	中 国 語 Ⅰ A	2	中 国 語 Ⅱ A	2				
	中 国 語 Ⅰ B	2	中 国 語 Ⅱ B	2				
	ス ペ イ ン 語 Ⅰ A	2	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2				
	ス ペ イ ン 語 Ⅰ B	2	ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2				
	ロ シ ア 語 Ⅰ A	2	ロ シ ア 語 Ⅱ A	2				
	ロ シ ア 語 Ⅰ B	2	ロ シ ア 語 Ⅱ B	2				

〔名称変更科目〕（平成8年度以降）

名称変更科目は、新・旧とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできません。

新 名 称	旧 名 称	新 名 称	旧 名 称
ド イ ツ 語 Ⅰ A ←	ド イ ツ 語 Ⅰ	ド イ ツ 語 Ⅱ A ←	ド イ ツ 語 Ⅱ
フ ラ ン ス 語 Ⅰ A ←	フ ラ ン ス 語 Ⅰ	フ ラ ン ス 語 Ⅱ A ←	フ ラ ン ス 語 Ⅱ
中 国 語 Ⅰ A ←	中 国 語 Ⅰ	中 国 語 Ⅱ A ←	中 国 語 Ⅱ
ス ペ イ ン 語 Ⅰ A ←	ス ペ イ ン 語 Ⅰ	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A ←	ス ペ イ ン 語 Ⅱ

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 外国語科目の卒業に必要な単位数を《平成8年度からの適用》に準じて8単位を履修することになります。
- ② 平成7年度以前に外国語科目で修得した単位は、すべて外国語科目の選択必修科目として認定します。また、卒業に必要な単位数を修得していない場合は、③により新カリキュラム科目を履修し、不足する単位数を補ってください。

③ 卒業に必要な単位が不足している場合は、次のように履修してください。

☆第2外国語1科目以上修得済みの場合

i) 不足する単位数分の科目を、表と照らし合わせて履修してください。(修得済みの科目を除く)

英 語		第2外国語		計4科目
I A	I B	I A	I B	8単位

ii) 英語と第2外国語の内、どちらか1か国語のみで外国語不足単位が補える場合は、英語科目を履修してください。

iii) 「I A・I B」の科目の内、どちらか1科目のみで外国語不足単位が補える場合、「I A」の科目を履修してください。

☆上記以外(英語科目のみ修得、または外国語未修得)の場合

不足する単位数分の科目を、表と照らし合わせて履修してください。(修得済みの科目を除く)

英 語				計4科目
I A	I B	II A	II B	8単位

④ 8単位を超えて修得した科目および平成8年度以降に選択科目で修得した科目の単位数は、卒業に必要な単位数として広域選択の単位数に算入されます。

(4) 保健体育科目

保健体育科目の教育目標

心身の健康の維持推進に関する科学、医学的知識を十分に深め、体力の向上を図り、心身ともに健全な社会人の育成を目標とします。

《平成8年度からの適用》

保健体育科目の履修方法

- ① 保健体育科目は、「健康・スポーツ実習」(通年2単位)を必修科目として1年次に履修してください。
- ② 保健体育科目の選択科目を履修し、修得した単位は、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

保健体育科目一覧表

	授 業 科 目	単位	履修年次	備 考
必修	健 康 ・ ス ポ ー ツ 実 習	2	1年次	実技、通年
選 択 科 目	健 康 ・ ス ポ ー ツ 論	2	1年次	講義、半期科目
	生涯スポーツ実習(集中前期・基礎)	1	1年次～	実技 集中授業コース 平成10年度休講
	生涯スポーツ実習(集中前期・応用)	1		
	生涯スポーツ実習(集中後期・基礎)	1		
	生涯スポーツ実習(集中後期・応用)	1		
	生涯スポーツ演習(シーズン前期・基礎)	2		
	生涯スポーツ演習(シーズン前期・応用)	2		
	生涯スポーツ演習(シーズン後期・基礎)	2		
生涯スポーツ演習(シーズン後期・応用)	2			
				講義実技 シーズンコース

A. 「健康・スポーツ実習」履修上の注意

① 授業について

「健康・スポーツ実習」は、週1回通年授業で本校体育館および第2体育館で行われます。

② 種目の選択届について

実技科目（再履修者を含む）の種目の説明および選択は、前期・後期とも最初の授業時間に実施します。当日の服装は、普段着で結構ですが、必ず出席してください。

種目別一覧

室内球技Ⅰ（バドミントン）、室内球技Ⅱ（卓球）、トレーニング&ニュースポーツ、空手道
指定されたクラスにより組み合わせが異なります。種目は半期で交替します。

③ 評価について

評価の尺度は各教員によって異なりますので、講義内容を参照してください。

④ 見学について

体調の悪いときは、指導教員の許可を得て授業を見学することが出来ます。

長期見学者：身体の障害や病気のため長期にわたり運動が出来ない者については、長期見学者として取り扱うことを基本とします。授業参加の形態については、指導教員とよく相談してください。

⑤ 服装・更衣について

種目毎にそれぞれの種目教員の指示に従い、指定された場所で着替えてください。

⑥ 盗難・事故・負傷について

a. 盗難：実技の受講日には貴重品を持参しないでください。やむを得ず持参した場合は、種目担当教員の指示に従ってください。

b. 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合は、直ちに指導教員に申し出て、指示を受けてください。

B. 生涯スポーツ実習（集中授業コース）

（平成10年度は休講です。）

C. 生涯スポーツ演習（シーズンコース）

シーズンコースは、ゴルフとスキーの2科目を事前授業と4泊5日の合宿授業で開講しています。

事前授業日程

前期 基礎／応用〈ゴルフ〉

5月8日（金）12：10～12：50 2研-101教場

7月4日（土）14：30～16：00〈4時限目〉 1-405教場

7月11日（土）14：30～16：00〈4時限目〉 1-405教場

後期 基礎／応用〈スキー〉

5月8日（金）12：10～12：50 2研-102教場

12月5日（土）14：30～16：00〈4時限目〉 1-405教場

12月12日（土）14：30～16：00〈4時限目〉 1-405教場

※上記の事前授業は、オリエンテーションを兼ねるので必ず出席してください。なお、やむを得ない理由により、事前授業に参加できない場合は、事前に担当教員に申し出てください。対応を考慮します。

合宿授業日程

種目	定員	日 程	場 所	参加費
ゴルフ	15名	平成10年9月7日～11日	軽井沢ゴルフ練習場 他	49,000円
スキー	20名	平成11年2月15日～19日	軽井沢プリンスホテルスキー場	49,000円

履修上の注意

- ① 受講者は、参加費49,000円を指定された期間に経理部窓口で納入してください。期間内に納入しない場合は、受講することができないので注意してください。
 納 入 期 間：平成10年5月11日（月）～5月22日（金）
 窓口受付時間：9：00～16：00（ただし、12：00～13：00を除く）
 ※16時以降は、第二学事課窓口にご相談してください。
- ② 参加費には、宿泊代、昼食代、保険料、リフト券代（スキーのみ）等を含みますが、現地往復の交通費は含まれていません。
- ③ やむを得ない事情で参加できなくなった場合は、早急に保健体育部（第1体育館体育準備室）に連絡してください。なお、参加費は、返還されないことがあります。
- ④ その他
 ゴルフクラブは貸与しますが、靴、ゴルフ用グローブは、各自用意してください。
 スキー用具は、現地でレンタルが可能です。
 ※詳細については、「講義内容」を参照してください。

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 保健体育科目の履修方法については、平成8年度以降入学生用に準じます。
- ② 平成7年度以前に「体育実技」、または「保健体育理論」のいずれかの単位を修得している場合は、保健体育科目の卒業に必要な単位を満たしたものとします。新たに「健康・スポーツ実習」を履修する必要はありません。
- ③ 上記②より、卒業に必要な単位（2単位）を超えて修得した単位がある場合、その単位は、広域選択の必要単位数に算入されます。

旧カリキュラムによる既修得科目の単位の認定（必修）と対応科目

新カリキュラム科目	旧カリキュラム科目	認定科目名称	認定単位
健康・スポーツ実習	体 育 実 技	体 育 実 技	2
—	保 健 体 育 理 論	保 健 体 育 理 論	2

※ 旧カリキュラムで修得した科目と対応する新カリキュラム科目は、履修することができません。

【専門教育科目】

専門教育科目の履修方法

- ① 専門教育科目は必修科目と選択科目のそれぞれ定められた単位を履修してください。
なお、一度単位を修得した授業科目については、再度履修することができません。
- ② 選択科目で修得した単位が選択科目に必要な単位数を超えた場合は、卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。

(1) 必修科目 (8 単位)

授 業 科 目	単 位	備 考
1 年 次 必 修		
経 営 学	4	※
簿 記 学	4	

平成9年度まで開講されていた「経営学概説」(1年次必修)は廃講となりました。

《平成9年度以前入学生の適用》

※ 「経営学」(1年次必修)は、「経営学」(2～4年次選択)または「経営学概説」(1年次必修)の単位を修得している者は履修できません。

平成9年度まで必修科目として配置されていた「経営学概説」の単位を未修得の者で、選択科目として「経営学」の単位を修得している場合は、「経営学」を必修科目として認定します。「経営学概説」(1年次必修)と「経営学」(2～4年次選択)のいずれかと、「簿記学」の単位を修得している者は、卒業に必要な必修の単位を満たしたものとします。「経営学概説」(1年次必修)、「経営学」(2～4年次選択)のいずれも未修得の者は、新たに「経営学」(1年次必修)を履修し、必修科目の単位を満たしてください。

(2) 選択科目 (平成8年度以降入学生：80単位、平成7年度以前入学生：84単位)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
1 年 次 選 択			2 ～ 4 年 次 選 択		
経 済 学 概 説	4	旧 基礎教育科目	経 営 管 理 論	4	
1 ～ 4 年 次 選 択			企 業 形 態 論	4	
情 報 処 理 基 礎	4	旧「プログラミング論」※	経 営 学 史	4	
2 ～ 4 年 次 選 択			ア メ リ カ 経 営 学	4	
会 計 学	4		経 営 財 務 論	4	
経 済 原 論	4		経 営 労 務 論	4	
近 代 経 済 学	4		経 営 組 織 論	4	
経 営 科 学 概 論	4		経 営 技 術 論	4	休講
経 営 史	4		国 際 経 営 論	4	

※P. 89「受講制限科目について」参照。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
2 ～ 4 年 次 選 択			2 ～ 4 年 次 選 択		
日 本 経 営 史	4		情 報 理 論	4	
マ ー ケ テ ィ ン グ 論	4		経 営 統 計	4	
商 業 史	4		経 営 科 学	4	休 講
商 業 経 営 論	4		生 産 管 理 論	4	
保 険 経 営 論	4		人 事 管 理 論	4	休 講
銀 行 経 営 論	4		ド イ ツ 経 営 学	4	休 講
公 益 企 業 論	4	休 講	行 動 科 学	4	休 講
原 価 計 算 論	4		国 際 会 計 論	4	休 講
上 級 簿 記	4		情 報 会 計 論	4	休 講
財 務 会 計 論	4	休 講	貿 易 政 策	4	休 講
管 理 会 計 論	4		シ ス テ ム 論	4	
経 営 分 析 論	4		民 法	4	*
税 務 会 計 論	4		商 法	4	*
会 計 監 査 論	4	休 講	労 働 法	4	*
日 本 経 済 史	4		税 法	4	休 講
経 済 政 策	4		経 済 法	4	休 講
財 政 学	4	*	3 年 次 選 択		
金 融 論	4		演 習 I	4	
国 際 経 済 論	4	休 講	3 ～ 4 年 次 選 択		
日 本 経 済 論	4		ビ ジ ネ ス 英 語	4	*
証 券 市 場 論	4		外 書 講 読	4	*
国 際 金 融 論	4	*	4 年 次 選 択		
統 計 原 論	4		演 習 II	4	
経 営 情 報 論	4				

※ 平成 11 年度より、経営学部の教員が担当する専門科目については、再試験を廃止します。
備考欄に*印のついている科目は、経営学部以外の教員が担当する専門科目です。
*印のついている科目の再試験の実施については、講義内容・掲示等で確認してください。

〔名称変更科目〕（平成 8 年度以降）

名称変更科目は、新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできません。

新 名 称	旧 名 称
情報処理基礎	← プログラミング論

(3) 演習履修について

- ① 演習の履修希望者は10月上旬（日時を掲示）に開催する演習説明会に出席し、配布された演習要項を熟読のうえ、第二学事課に受講申込書を提出してください。
- ② 3年次で「演習Ⅰ」、4年次で「演習Ⅱ」、（計8単位）を担当教員の受講許可を得て履修することができます。
- ③ 演習は2年間継続開講を基本としています。

《平成7年度以前入学生への適用について》

- ① 専門教育科目として卒業に必要な単位数は、P.64「専門科目の履修方法」に従い履修してください。
- ② 平成7年度以前に基礎教育科目として修得した「経営学概説」、「経済学概説」は専門教育科目として認定します。
- ③ 平成7年度末までに専門必修科目として修得した単位が8単位以上あれば、科目を問わず専門必修科目の卒業に必要な単位を満たしたものとします。あらためて必修科目を履修する必要はありません。
- ④ 8単位を超えて修得した必修科目の単位数は、選択科目の単位数に算入されます。さらに84単位を超えて修得した専門選択科目の単位数は卒業に必要な単位として広域選択の単位数に算入されます。
- ⑤ 一度単位を修得した科目については再度履修することができないので、平成8年度以降履修する科目については十分注意する必要があります。

4. 平成7年度以前入学生のための経過措置

4. 平成7年度以前入学生のための経過措置

平成7年度以前1日3時制限の授業が、平成8年度から1日2時制限の授業に移行されました。これに伴う学生の履修上の困難を緩和するため、以下の措置を平成8年度から平成10年度までの3年間に限って実施します。

A. 第1部公開専門選択科目の履修

各学部で定める履修内規に基づき公開される科目の履修を希望する者は、次の要領で履修することができます。

① 履修科目

履修する科目は、各学部の定める第1部公開専門選択科目とします。

② 履修年次

履修できる年次は、平成7年度以前入学の3年次、4年次です。

③ 履修単位数

履修できる単位数は、卒業までに12単位（3科目）以内とします。

なお、経済学部のみ、その単位は履修制限単位数に含まれます。

④ 履修方法

ア. 科目の履修手続きは、第1部公開専門選択科目時間表のなかから履修科目を選択し、第二学事課窓口を受講を申し出て、受講票を受領してください。

イ. 履修届に履修科目を記入し、受講票を添えて、所定の期日に提出してください。

⑤ 第1部公開専門選択科目一覧表

	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
経済	統計原論	4		農業政策	4	
	価値理論	4		銀行論	4	
	経済地理	4		人口論	4	
法	有価証券法	4		国際紛争解決法	4	
	債権各論	4		刑事訴訟法	4	
	担保物権法	4		税法	4	
	保険・海商法	4		民事執行・保全法	4	
	民事訴訟法	4		知的財産権法	4	
経営	経営史	4		原価計算論	4	
	経営管理論	4		国際経済論	4	休講
	経営学史	4		経営科学	4	

※試験に関する掲示は、第1部掲示板を参照してください。

B. 夏季休暇中の集中講義の履修（経済学部のみ）

授業は、夏季休暇期間中に以下の科目が開講されます。履修できる年次は、平成7年度以前入学の2、3、4年次です。詳細については掲示しますので掲示板で確認してください。

前半：「ロシア・東欧経済論」 山 縣 弘 志

後半：「マーケティング」 曾 我 信 孝 （各4単位）

前半、後半1科目ずつ開講し、それぞれ1科目ずつ履修できます。

※前半の「ロシア・東欧経済論」と生涯スポーツ演習（前期 基礎／応用、ゴルフ）を同時に履修することはできません。

C. 特別授業時限の科目履修（経済学部のみ）

第7時限終了後、特別授業時限（21:15～22:00）の45分授業が開講されます。特別授業は通年で、週2回受講して4単位の科目です。履修できる年次は、4年次です。

詳細については掲示しますので、掲示板で確認してください。

「演習Ⅱ」有井 行夫（4単位）……週2回実施

受講希望者は学年初めに担当教員の許可を得て履修することができます。

5. 他 学 部 履 修 科 目

5. 他学部履修科目

他学部履修科目の履修方法

他学部または短期大学仏教科の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができます。なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とします。

① 履修科目

他学部または短期大学仏教科に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とします。(他学部履修科目一覧表参照)

② 履修年次

履修できる年次は3、4年次とします。

③ 履修単位数

履修できる単位数は、次のとおりです。なお、経済学部の平成7年度以前入学生のみ、その履修科目の単位は履修制限単位数に含まれます。

学部	経済学部	法学部	経営学部
履修単位数	30単位	16単位	30単位

④ 履修方法

- 受講希望者は、「履修要項」の講義内容を参考に、「授業時間表」のなかから科目を選択し、「他学部履修願」用紙に必要事項を記入のうえ、最初の授業に出席し担当教員の受講許可を受けてください。最初の授業で履修許可を受けなければ履修することはできません。
- 「履修届」に記入し、「他学部履修許可書」を添えて、指定された期日(履修届提出日)に提出してください。
- 「他学部履修願」用紙は、第二学事課窓口で配布します。

⑤ 履修登録上の注意

- 所属学科の開設科目は、他学部履修科目として履修登録できません。
- 同一名称(開設学科が異なる)の授業科目は、1科目のみ履修することができます。

⑥ 再履修

他学部履修科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きが必要です。

⑦ 単位認定

修得した単位の認定については、次のとおりです。

(経済学部)

法学部、経営学部の開設科目は、専門教育科目として認定し、専門選択の卒業に必要な単位数に算入されます。短大仏教科の開設科目は、専門教育科目として認定し、広域選択の卒業に必要な単位数に算入されます。

(法学部)

専門教育科目として認定し、専門選択の卒業に必要な単位数に算入されます。

(経営学部)

専門教育科目として認定し、専門選択の卒業に必要な単位数に算入されます。

《平成9年度までに修得した他学部履修科目の取扱いについて》

平成9年度までに修得した他学部履修科目は、従前の「他学部履修に関する規程」が適用されます。平成10年度以降、他学部履修科目を履修する場合は、上記にしたがって履修してください。この場合、履修できる単位数は、平成9年度までに修得した単位数と合わせて上記の単位数を超えることはできません。

他学部履修科目一覧表

職科	授業科目	単位	配当学科	備考
経	商学総論	4	法律、経営	
	国際経済論	4	法律	
	社会政策	4	法律、経営	休講
	価格理論	4	法律、経営	
	国民所得論	4	法律、経営	
	銀行論	4	法律、経営	
	中小企業論	4	法律、経営	
	人口論	4	法律、経営	休講
	中国経済論	4	法律、経営	
	アメリカ経済論	4	法律、経営	休講
	ヨーロッパ経済論	4	法律、経営	
	貿易論	4	法律、経営	
	会計監査論	4	法律	
	管理会計論	4	法律	
法	憲法	4	経済、経営	
	比較憲法	4	経済、経営	
	法思想史	4	経済、経営	
	日本法制史	4	経済、経営	旧「法制史」
	西洋法制史	4	経済、経営	休講
	英米法	4	経済、経営	旧「外国法（英米法）」
	経済法	4	経営	
	国際関係論	4	経済、経営	
	行政法総論	4	経済、経営	
	裁判法	4	経済、経営	
	法哲学	4	経済、経営	
	地方自治法	4	経済、経営	休講
	倒産処理法	4	経済、経営	旧「倒産法」
	営	アメリカ経営学	4	経済、法律
経営財務論		4	法律	
経営組織論		4	経済、法律	
経営技術論		4	経済、法律	休講
公益企業論		4	法律	休講
管理会計論		4	法律	
会計監査論		4	法律	休講
日本経済論		4	法律	
短大仏教科	インド仏教史	4	経済、経営	
	日本仏教史	4	経済、経営	
	中国禅宗史	4	経済、経営	
	日本禅宗史	4	経済、経営	
	仏教と文化	4	経済、経営	
	書道	4	経済、経営	

6. 随 意 科 目

7. 不 合 格 科 目 の 再 履 修

6. 随意科目

随意科目は学生諸君が自主的かつ幅広い学修を促すために開設されている科目です。

- ① 随意科目で修得した単位は、卒業に必要な単位数には算入されませんが単位は認定されます。
- ② 随意科目は「英語（海外演習）」（2単位）で海外の大学姉妹校において4週間（短期留学セミナー）の日程で開講されます。

海外姉妹校一覧

クインズランド大学（オーストラリア）、ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）、
エクセター大学（イギリス）、カリフォルニア大学アーバイン校（アメリカ）

- ③ 受講希望者は、国際センターの短期留学セミナーに参加申し込みをしてください。受講対象者は、全在生です。
- ④ 単位認定は、短期留学セミナー終了後学期末の学業成績表に「英語（海外演習）」（2単位）として単位認定されます。

7. 不合格科目の再履修

- ① 再履修とは、前年度履修登録をし単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を再度履修することを言います。
- ② 担当教員が違っていても、授業科目名称が同じであれば、同一科目の再履修となります。
- ③ 外国語の必修科目を再履修する場合は、学部および年次指定したクラス（再履修クラス）で受講することになりますので、指定クラスを間違えないよう履修してください。指定クラスがわからないときは第二学事課窓口にお問い合わせをしてください。また、受講生数の制限がありますので、第二学事課窓口で受講票を受け取ってください。

(P. 89受講制限科目参照)

- ④ 1年次生は、再履修クラスを履修することはできません。

Ⅲ 教 職 課 程

Ⅲ 教 職 課 程

1. 教職課程の概要

教職課程とは、教員免許状を取得するために教育職員免許法および同法施行規則に基づいて開講されているカリキュラムです。

教職課程を履修する者は、学部・学科の卒業に必要な単位数の他に教職に関する科目の単位を余分に修得しなければなりませんので、2年次から計画的に履修しないと教員免許状が取得できません。

教職課程の履修については、教育が生きた人間の育成にかかわるものだけに将来教員の職を志す者でなければなりません。他の諸科目の履修においても同様に自己に対して厳しく対応していくことが望まれません。

現在、本学において教職に関する所定の単位数をとって申請すればそれぞれの教科の中学校1種、高等学校1種の免許状が交付されますが、免許状を取得しても実際に教職につくことは決して容易ではありません。

公立学校への就職については、都道府県教育委員会の行う教員採用候補者選考試験に合格しなければなりません。

最近の新規採用は、その数において少なく、質においては高度なものを要求しており、この傾向は今後さらに強まるでしょう。

「教育実習」は、卒業年次に履修することになっていますが、このことはいうまでもなく大学で学んで理解したことを基礎に、実習校で生徒に触れていくなかで、教科の内容、指導方法、また現在の学校教育の全般などについて具体的理解を深めるとともに、教育実践についての意識と技量を高めることです。

2. 取得教員免許状の種類

本学において教職に関する所定の単位を修得した者には、下表の免許状が交付されます。

免許状の種類 学部学科	中学校教諭1種免許状	高等学校教諭1種免許状
経済学部 経済学科	社会・職業	公民・商業
法学部 法律学科	社 会	公 民
経営学部 経営学科	社 会	公民・商業

※平成2年度入学者より従来の高等学校「社会」の免許状は、「地理歴史」「公民」の各々の教科に分割されています。

3. 履修上の注意

教職課程を希望する者は、1年次の秋（11月中旬）に開催されるガイダンスに必ず出席し、「教職課程・資格講座」履修要項の配布を受け、説明をきいてください。ガイダンスの欠席者は、原則として教職課程の登録と科目の履修は認められません。教職課程のガイダンスの日時等については、10月中旬に第二学事課掲示板に掲示します。

4. 教職課程の履修方法

- ① 教職課程の受講登録と科目履修は、2年次で行いますので、履修届の提出前に、第二学事課窓口「課程・講座受講登録カード」を提出してください。
- ② 3年次・4年次からの教職課程の受講登録は、教育実習の関係から原則として認められません。
- ③ 教職課程科目の修得した単位は、卒業に必要な単位数に算入されません。
- ④ 教育実習は4年次に本学指定校または出身校で実施することになります。
- ⑤ 教育実習期間は、2週間ですが打ち合わせなどで3～4週間かかることがあります。長期の休暇を取れない社会人学生は教育実習が困難となりますので、教職課程の履修（登録）には慎重に考慮してください。
- ⑥ 教職課程の年間スケジュールは次のとおりです。

年次		2年次生	3年次生	4年次生
4月		課程・講座受講登録カード提出	教育実習前年ガイダンス 実習の交渉	実習費納入
5月	上旬			教育実習事前ガイダンス
	中旬		免許状一括申請申込書 配布・受付および申請料 納入	
6月			教育実習 (5月～10月の間に実施)	
9月	中旬		教育実習生登録台帳提出	
12月	初旬		免許状一括申請授与 願書署名・捺印	
3月	卒業式		免許状交付 (一括申請者のみ)	

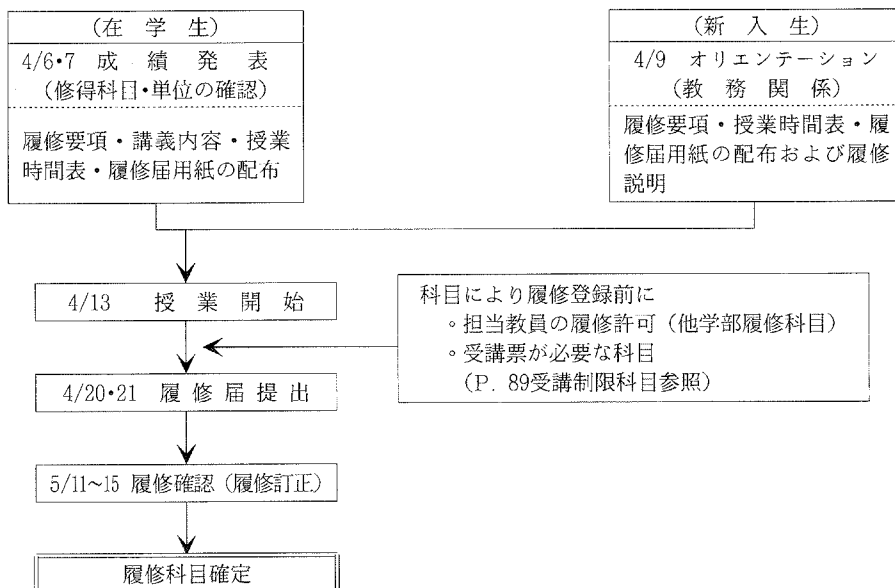
IV 履修科目の登録(履修届の提出)とその作成順序

Ⅳ 履修科目の登録（履修届の提出）とその作成順序

1. 履修科目の登録

所属する学科、年次に開講されている授業科目の中から、履修を希望する科目を登録することにより、授業を受けることができます。「履修科目の登録（履修届の提出）」をしないで授業を受けてもその科目の単位は修得できません。

履修科目登録のための手続き



2. 履修登録上の注意

- ① 各年次に最低1単位以上は履修しなければなりません。
- ② 履修届は本人が記入し、指定された日時に学生証を提示のうえ、提出してください。(提出しない場合は学業の意志がないものとして処理します。)

提出日 4月20日(月)・21日(火)
時 間 17:00~20:00
受付場所 教務部臨時窓口 ⑰~⑳

※指定された日時に提出できない場合は、事前に第二学事課窓口申し出て指示を受けてください。

- ③ 履修登録は、所属する学科の授業時間表の中から行わなければなりません。
他学部履修科目の履修はP.73を参照のうえ、履修希望者は他学部履修願用紙を第二学事課窓口で受け取り、担当教員の受講許可を得てから提出してください。
- ④ 記入はHBの黒鉛筆を使用してください。誤った場合は、プラスチック消しゴムで完全に消してから記入してください。
- ⑤ 履修届は機械処理するので、折ったり汚したりしないでください。機械が正しく読み取れない場合

は無効となります。

- ⑥ 受講許可を必要とする科目を履修する場合は、第二学事課窓口または担当教員の配布する「受講票」を、履修届を提出する際に一緒に提出してください。
- ⑦ 前期・後期の区別のある科目は、科目名の後ろに（前期）または（後期）と記入してください。
- ⑧ 一旦提出（登録）した履修科目の変更は認めません。
- ⑨ 履修登録をしない科目は、たとえ聴講・受験しても単位は与えられません。

3. 履修確認表の送付および履修届の訂正期間

- ① 履修科目が正しく登録されているか、後日郵送される「履修確認表」で確認してください。
- ② 履修確認表は、5月11日（月）までに学生現住所に郵送します。
届かない場合は、履修訂正期間内に第二学事課窓口で確認してください。
- ③ 履修の訂正や削除がある場合は、次の履修訂正期間に第二学事課で手続きをしてください。
5月11日（月）～5月15日（金）
15:30～20:00（休憩時間を除く）
- ④ 指定された期間を過ぎた訂正の申し出は受け付けません。

4. 履修確認表の見方

履 修 確 認 表（見本）

（第2部）平成10年度
経済学部 2部経済学科

2年 学生番号3870** 氏名 駒沢 太郎

平成10（1998）年 5月 2日現在
昭和52年 7月 1日生

曜 日	時 限	前 後	必 選	教 随 他	事 前 登 録 再 録	科 目 名	担 当 者 名	履 修 コ ー ド	単 位	エ ラ ー メ ッ セ ー ジ
月	6					哲学	伊古田 理	53241	4	
	7					心理学	鈴木 順一	53421	4	
火	6					文学	山下 哲郎	53192	4	
	7		必			中国語 I A	宮本 厚子	60691	2	
水	6					商業政策	番場 博之	50441	4	
	7		必			交通論 中国語 I A	雨宮 良直 江崎 隆哉	50481 60721	4 2	
金 土	6					歴史学	茂沢 方尚	53222	4	
	4					地球科学	村田 昌彦	53492	4	
	6 7					経済法 中国経済論	岡田 外司博 小杉 修二	51462 50501	4 4	
以上 11科目 40単位（単位に随意・課程講座科目は含みません。）										
※履修届の結果、上記の科目が登録されています。科目名、担当者名、履修コード等に誤りがないか、確認してください。										
※下記の科目については、訂正が必要です。第二学事課窓口で必ず手続きをしてください。										
訂正期間 5月11日（月）～5月15日（金） 15:30～20:00（休憩時間を除く、土曜日は18:00まで）										
水 金	7			他		アメリカ経営学	宮城 徹	53611		時間割エラー
	6					国際金融論	吉田 真広	50611	4	履修可能年次エラー
	6					プログラミング論	柏川 正充	51261	4	同一曜日・時間に2科目以上履修

注1
注2
注3

課程講座登録状況		宗必	人文	社会	自然	総合	小計	分野数	外1	外2	体必	専必	専選	卒論	広域	合計	随意	資格
1. 教職	注4	4	←	16	→		16		4	4	2	12	56		26	124		
2. 司書教諭		4		4			4		4		2	12	4			30		
3. 博物館学			←	12	→		12						52		26	94		
4. 社会福祉			12		8		20		4				16			40		
5. 社会教育													36		18	54		

※ 課程講座の登録追加・削除は第二学事課の窓口で行ってください。

注7

- ① エラーメッセージがある場合は、訂正または削除の手続きが必要です。
- a. 「履修コードの記入間違い」が原因と考えられるエラーです。 (注1)
 - b. 「他学部履修」は、3・4年次生(短大1・2年次生)が対象です。 (注2)
 - c. 曜日と時限が同じ科目を登録しようとしたためのエラーです。 (注3)
 または、履修コードの記入間違いで他の科目が登録されてしまい、意図せず曜日・時限が同じになったケースも考えられます。
 - d. 履修しようとする科目が全て登録されているか、確認してください。
- ② エラーメッセージが無くても次の点をよく確認し誤りがあった場合は、訂正の手続きが必要です。
- a. 科目名と担当者名が間違っていないか。
 授業時間表で同じ科目名が連続している時は、履修コードの書き間違いが生じやすいので、よく確認してください。
 - b. 半期科目の場合は、“前”・“後”期の別も確認が必要です。
 - c. 必修科目を登録した場合は、“必”が表示されていることを確認してください。
 表示されていないときは、選択科目として登録されています。
- ③ エラーメッセージのあった科目や誤りがある場合、訂正期間中に必ず手続きをしてください。
- ④ 「課程講座登録状況」欄および「単位修得状況」欄については、次のとおりです。
- a. 登録済みの課程講座には、“登録”と表示しています。 (注4)
 - b. 登録科目(エラー表示科目を除く)の単位を、すべて修得した場合の科目区分ごとの単位数です。 (注5)
 - c. 登録科目の単位をすべて修得した場合の、平成11年3月末における不足単位数です。 (注6)
 前年度までの修得単位数によっては、単位が移動している場合があります。(「卒業必要単位における修得単位の流れ」P.22・24・26参照)
 - d. 不足見込単位数が残っていない場合には、卒業年次生に限り“卒業可能”の表示が出来ます。 (注7)

5. 履修科目の決定順序

- ① 見本を参考に履修科目を決定してください。
- ② 経済学部の平成7年度以前入学生を除いて、履修制限単位数は設けていません。各年次で時間割上可能な限りの科目を履修してください。
- ③ 時間割は毎年変わりますので、計画的な履修が必要です。優先順位の高い科目(必修科目等)を次年度以降に持ち越すと、4年間で卒業できなくなる恐れがあります。
- ④ 第1部への転部を希望している者は、修得が望まれる科目がありますので、「開科目設と履修方法」の各学部のページを熟読してください。

1 年次履修見本

経済学部（経済学専修）

順序	科目区分	授業科目（備考）	科目数	単位数
1	宗教教育科目	仏教と人間	1	4
2	外国語科目	I A・I B	2*	4*
3	保健体育科目	健康・スポーツ実習または健康・スポーツ論	1	2
4	専門教育科目（必修）	経済学概説、経済原論Ⅰ、経済原論Ⅱ	3	12
5	全学共通科目 （教養・外国・保健）	教養教育科目は人文・社会・自然の 各分野から4単位ずつ、計16単位	3	時間割上可 能な限りの 科目を履修
	専門教育科目	選択科目		

*2か国語を選択した場合は、1年次に4科目8単位履修できます。

経済学部（商学専修）

順序	科目区分	授業科目（備考）	科目数	単位数
1	宗教教育科目	仏教と人間	1	4
2	外国語科目	I A・I B	2*	4*
3	保健体育科目	健康・スポーツ実習または健康・スポーツ論	1	2
4	専門教育科目（必修）	経済学概説、会計学総論	2	8
5	全学共通科目 （教養・外国・保健）	教養教育科目は人文・社会・自然の 各分野から4単位ずつ、計16単位	2	時間割上可 能な限りの 科目を履修
	専門教育科目	選択科目		

*2か国語を選択した場合は、1年次に4科目8単位履修できます。

法学部

順序	科目区分	授業科目（備考）	科目数	単位数
1	宗教教育科目	仏教と人間	1	4
2	外国語科目	I A・I B	2	4
3	専門教育科目（必修）	法学概論	1	4
4	全学共通科目 （教養・外国・保健）	教養教育科目は16単位以上 保健体育科目の履修は6単位まで	1	時間割上可 能な限りの 科目を履修
	専門教育科目	選択科目		

経営学部

順序	科目区分	授業科目（備考）	科目数	単位数
1	宗教教育科目	仏教と人間	1	4
2	外国語科目	I A・I B	2	4
3	保健体育科目	健康・スポーツ実習	1	2
4	専門教育科目（必修）	経営学、簿記学	2	8
5	全学共通科目 （教養・外国・保健）	（選択）	2	時間割上可 能な限りの 科目を履修
	専門教育科目	選択科目		

6. 授業時間

授業時間は、次のとおりです。

時 限	第 6 時限	第 7 時限
授業時間	18 : 00～19 : 30	19 : 40～21 : 10

土曜日は 2 時限のほか、に昼間部時間帯に授業時間 3 時限があります。

時 限	第 3 時限	第 4 時限	第 5 時限
授業時間	12 : 50～14 : 20	14 : 30～16 : 00	16 : 10～17 : 40

7. 受講制限科目について

受講制限科目とは学生番号を指定した科目と受講生数を制限した科目です。

① 学生番号を指定した科目は次のとおりです。

宗教教育科目「仏教と人間」、外国語科目、保健体育科目「健康・スポーツ実習」(経営)、
専門教育科目「簿記学」(経営)

これらの科目を履修(登録)する場合、授業時間表に学生番号下 3 桁を指定していますので、指定された科目名、教員名を確認し、履修コードを履修届に記入してください。

② 受講生数を制限する科目は次のとおりです。

- a. 教養教育科目「統計学」(1クラス60名)、「コンピュータ基礎」(1クラス60名:経営学部を除く)
「情報数学」(1クラス100名)
- b. 外国語科目「英会話 LL I」「英会話 LL II」(1クラス30名)、「英会話 I」「英会話 II」(1クラス40名)
- c. 経営学部専門教育科目「情報処理基礎」(1クラス60名)

これらの科目は受講票を授業開始日(4月13日)から履修届提出日(4月21日)まで第二学事課窓口で配布します。受講定員に達した時点で受講票の配布は終了します。履修届提出の際、受講票を添えて提出してください。

- d. 経済学部専門教育科目「情報・経済ネットワーク論」「プログラミング論」「計量経済学」「情報処理論」

これらの科目は最初の授業のときに担当者が受講票を配布します。教室座席数のみ受講票を配布します。履修届提出の際、受講票を添えて提出してください。

③ 他学部履修科目および第 1 部公開専門選択科目(平成 7 年度以前入学生のみ)は、受講生数に制限がありますので、所定の手続きをして履修してください。

V 試験および成績評価

V 試験および成績評価

1. 試験の種類

(1) 定期試験

- ① 前期で終了する授業科目の定期試験は7月13日(月)～7月18日(土)に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月16日(土)～1月29日(金)に実施します。
- ② 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できます。
- ③ 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認のうえ、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとじたうえで提出しなければなりません。
なお、指定された曜日・時限以外は一切受理できません。
- ④ 試験時間割は、原則として平常の講義の曜日・時限とし、時間および教場等については掲示で発表します。
(注意) 試験場は平常の授業教場と異なります。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日・時限とも変わるので掲示に十分注意してください。

(2) 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいいます。従って試験は平常の授業に準じて行われます。

(3) 追・再試験

① 追試験

- a. 追試験は、やむを得ない理由で定期試験(レポート提出を含む)を受けられなかった場合、受験することができます。受験者は所定の欠試験届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出てください。〔締切日は前期7月23日(木)、後期2月3日(水)〕
- b. 追試験料は徴収しません。
- c. 追試験期間：前期終了科目 9月28日(月)～10月3日(土)
：後期および通年科目 2月20日(土)～2月26日(金)

② 再試験

- a. 1・2・3年次生については、再試験は行われません。
- b. 卒業年次生は、卒業年次に登録した科目の定期試験(レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目について再試験を受けられる場合があります。再試験を実施する科目は、講義内容・掲示等で確認してください。
※平成11年度より経営学部の教員が担当する専門教育科目については、再試験を行いません。
- c. 受験料は1科目1,000円とします。
- d. 再試験期間：前期終了科目 9月28日(月)～10月3日(土)
：後期および通年科目 2月20日(土)～2月26日(金)

③ 体育・外国語科目・その他

- a. 外国語科目、体育実技、演習など平常点で成績評価が行われる科目については、追・再試験は行われません。
- b. 外国語科目については、定期試験を受験できなかった場合、当該試験終了後直ちに担当教員の指導を受けてください。

2. 受験資格および受験心得

- ① 当該受験科目を履修登録していなければなりません。
- ② 指定された日・時・試験場（教場）で受験してください。
- ③ 学生証を携帯していない学生は受験できません。
- ④ 学生証は試験中、机の上に提示しておかなければなりません。
- ⑤ 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できません。
- ⑥ 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できません。
- ⑦ 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとします。
- ⑧ 無記名の答案は無効となるので注意してください。
- ⑨ 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出すことはできません。
- ⑩ 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従ってください。
- ⑪ 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じます。
- ⑫ 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意してください。
 - a. 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - b. 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - c. 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - d. 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - e. 私語および動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - f. 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - g. 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - h. その他上記に類似する行為をすること。
- ⑬ 学生証を忘れた場合は仮受験カードにより受験することができます。仮受験カードの発行については、第二学事課窓口にて手続きをしてください。

3. 定期・追再試時間

試験実施時間および試験場は、別に設定する試験時間割で実施します。試験時間割は掲示により発表します。

試験場は、平常の授業教場とは異なる場合がありますので掲示で確認してください。

(1) 試験時間

時 間	第 6 時 限	第 7 時 限
前・後期試験時間	18 : 30 ~ 19 : 30	20 : 00 ~ 21 : 00

(2) 土曜日の特別授業試験時間

時 間	第 3 時 限	第 4 時 限	第 5 時 限
前期試験時間	13 : 00 ~ 14 : 00	14 : 30 ~ 15 : 30	16 : 10 ~ 17 : 10
後期試験時間	13 : 00 ~ 14 : 00	14 : 30 ~ 15 : 30	15 : 50 ~ 16 : 50

※レポート試験は、開始後30分で受付を終了するので、遅れないよう注意してください。

※第1部の授業科目の受講許可を得た3、4年次生は、第1部の試験時間および試験場を第2部の試験時間割とは別に掲示しますので、間違いないように確認してください。

4. 成績評価・単位認定

- ① 定期試験の成績は、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表します。
なお、素点に関する問い合わせは一切受けません。
- ② 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定します。
- ③ 追試験の成績評価は定期試験に準じます。
- ④ 再試験の成績評価は良（70点）以下となります。

5. 成績発表および質疑

- ① 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表します。
- ② 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に第二学事課にて相談に応じます。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出てください。
- ③ 成績発表を受けるときは必ず学生証を提示しなければなりません。

	日 程	時 間	
平成9年度成績発表	4月6日（月）、7日（火）	17:00～20:00	(18:05～ 18:55を 除く)
平成10年度前期成績発表	9月17日（木）、18日（金）	15:30～20:00	
平成10年度成績発表（卒業年次生）	2月16日（火）、17日（水）	15:30～20:00	
平成10年度成績発表（在学生）	翌年度4月初旬		

6. 試験実施規程

試験実施規程

(昭和59年7月13日 制定)

(目的)

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

(試験の実施)

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

(試験の種類及び実施の時期)

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

(試験の方法)

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

(試験時間)

第5条 試験時間は、原則として60分とする。

(受験資格)

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
 - (2) 授業料その他の学費を納入していること。
2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(試験監督)

第11条 試験の監督は、原則として当該授業科目担任者の責任においてこれを行う。ただし、必要あるときは、補助試験監督員を置くことができる。

2 試験監督員は、試験場内の秩序を維持し、試験を厳正かつ円滑に実施する任にあたる。

3 試験監督要領は、別にこれを定める。

(不正受験行為の扱い)

第12条 試験監督員は、試験実施中に不正受験行為を発見した時は、その行為を指摘し、当該学生の受験を停止させ、学生証、答案用紙並びに不正受験行為に使用した物品等を証拠品とし、当該学生を伴って教務部長(又は教務課長、第二学事課長)に報告するものとする。

2 教務部長(又は教務課長、第二学事課長)は、試験監督員及び当該学生より事情を聴取し、不正受験行為の事実確認を行う。

3 当該学生の不正受験行為の事実を確認したとき教務部長は、当該授業科目担任者の意見を付し、証拠品を添えて速やかに学生部長に報告するものとする。

4 試験実施後、不正受験行為が発覚されたときも、前各号に準じてこれを取扱うものとする。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

1 この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

2 第3条第3項第1号の規程にかかわらず、経済学部第2部専門必修科目については、昭和59年度に限り1・2・3年次生の再試験を実施する。

附 則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

再試験の実施については、当該学部等の決定に従う。

7. 不正受験行為者処分規程

不正受験行為者処分規程

(昭和59年7月13日 制定)
(昭和61年4月1日 改正)

(目的)

第1条 この規程は、試験実施規程第13条に基づき、不正受験行為者の処分に関する必要事項について定めるものとする。

(決定及び通達)

第2条 不正受験行為者の処分決定は、学部教授会の議を経て学長が行い、本人への通達は、学部長が行う。

(処分の種類)

第3条 不正受験行為者の処分は、不正受験行為の内容と程度により、次のとおりとする。

- (1) 許可のないノート、参考書からの転記及びこれに準ずる不正受験行為のときは、当該受験科目を無効とし、譴責処分とする。
- (2) 代人受験、答案の交換、再度の不正受験行為及びこれに準ずる不正受験行為のときは、当期受験全科目を無効とし、停学処分とする。
- (3) 不正受験行為が三度に及んだときは、当期受験全科目を無効とし、退学処分とする。

(事後発覚者の処置)

第4条 試験終了後に不正受験行為が発覚したときも、第3条により処分する。

(処分の起算日)

第5条 処分の起算日は、学長の決裁日とする。

(通知及び原簿記載)

第6条 処分の内容については、本人及び保証人に通知するとともに、学籍原簿に記載するものとする。

(公示)

第7条 処分の内容は、掲示により公表するものとする。

(再試験除外)

第8条 処分により無効となった科目は、再試験の対象としない。

(停学者の指導)

第9条 停学処分中の者は、当該学部長の指導に従わなければならない。

(事務所管)

第10条 不正受験行為の処分に関する事務は、学生課又は第二学事課が行う。

附 則

- 1 この規程は、昭和59年7月13日から施行する。
- 2 受験不正行為に対する処置（昭和31年2月6日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、昭和61年4月1日から施行する。

VI 学業不振者への勧告について

VII 卒業見込証明書の発行について

Ⅵ 学業不振者への勧告について

4年間で卒業するには、各年次ごとに計画的に科目を履修し単位を修得していくことが理想とされます。そこで、各年次ごとに修得単位が少ない者には、勧告文が送られることとなりますので、努力を怠らず勉学に精励するよう心掛けてください。

◎勧告対象基準

【経済学部】

	3年次	4年次
平成7年度以前入学者	67単位以下	132単位未満
平成8年度以降入学者	63単位以下	124単位未満

【法学部】

	1・2年次	3年次	4年次
平成7年度以前入学者	12単位以下	59単位以下	132単位未満
平成8年度以降入学者	12単位以下	63単位以下	124単位未満

【経営学部】

	1年次	2年次	3年次	4年次
平成7年度以前入学者		58単位以下	67単位以下	140単位未満
平成8年度以降入学者	28単位以下	56単位以下	63単位以下	124単位未満

Ⅶ 卒業見込証明書の発行について

卒業見込証明書は、4年生に在学し、当該年度の履修科目の単位を修得することによって、卒業に必要な単位を満たすことが可能な者に発行します。

したがって4年生に在学していても、その年の履修単位によって卒業できない場合は、卒業見込証明書は発行されません。

なお、本学での卒業見込証明書は、成績と卒業見込を含んだ証明書様式となっていますので、で「成績証明書」と「卒業見込証明書」を別々に請求する必要はありません。

第 3 部 学 修 生 活

I 事務取扱いについて

I 事務取扱いについて

1. 事務受付時間

第二学事課窓口の受付時間は、次のとおりです。

平日	15時30分～20時30分	受付休止時間
土曜日	15時30分～18時	18時05分～18時55分

(注) 事務受付時間を変更する場合は、掲示しますので注意してください。

2. 届書・願書

所定用紙に記入し、学生証と必要書類を添えて第二学事課⑥番窓口へ提出してください。

種 類	要 領 (必要書類)	本人印	保証人印	取扱窓口	
届 書	履 修 届	・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること	不要	不要	⑥ 掲 示 参 照
	欠 試 届	・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること(締切日は掲示参照)	不要	不要	
	改 氏 名 届	・戸籍抄本添付 ・変更後すみやかに届け出ること	要	不要	
	本 籍 地 変 更 届	都道府県名が変更された場合のみ提出 ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後すみやかに届け出ること	要	不要	
	保 証 人 変 更 届	・在学誓書(保証書)添付 ・変更後すみやかに届け出ること	要	要	
	住 所 変 更 届 (学生・保証人)	・変更後すみやかに届け出ること	不要	不要	
	死 亡 届	・死亡を証明できる書類(写し可)添付		要	
願 書	休 学 願	・傷病による場合は、医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地 ・その他の場合は、保証人連署の理由書	要	要	
	復 学 願	・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付 ・4月10日までに提出すること	要	要	
	退 学 願	・学生証添付	要	要	
	学生証再発行願	・手数料1,000円	要	不要	

※大学の定める諸届(願)の提出期限が、日曜・祭日の場合はその翌日までとします。

3. 証 明 書

- ① 大学で発行する主な証明書は、下の表のとおりです。
- ② 証明書の発行は、第二学事課前に設置の証明書自動発行機により、各自が学生証を使用して機械を操作し、直接その場で受取ることになります。
- ③ 下の表の(2)に該当している証明書は、発行機から「各種証明書申込用紙」を打出し、第二学事課⑥番窓口へ申込みます。
この場合の証明書受取は2日後となります。
- ④ 英文による証明書は、発行機から「各種証明書申込用紙」を打ち出し、第二学事課⑥番窓口へ申込みます。(発行は1週間後)
- ⑤ 発行機を利用できる時間は、日曜・祝日と大学が定める休日を除き、午前9時～午後9時30分までです。(窓口対応と指定されている証明書は窓口取扱い時間に注意してください)

証 明 書 の 種 類		取 扱 窓 口	料 金
(1)	在 学 証 明 書	証明書自動発行機で発行 ※発行に伴う質問等は 第二学事課⑥番窓口	① 在学生にかかわる証明書は 1通200円 (英文500円)
	成績・卒業見込証明書(卒業年次生のみ)◆		
	成績証明書(在 学 生)		
	履 修 証 明 書		
	健康診断証明書		
(2)	教員免許状取得見込証明書	証明書自動発行機での 「各種証明書申込用紙」 による窓口対応 第二学事課⑥番窓口	② 卒業生にかかわる証明書は 1通300円 (英文600円)
	学 割 証 明 書		
	卒 業 証 明 書		
	成績証明書(卒業生)		
	単位取得証明書(各種資格試験用)◆	就 職 部	
	その他の諸証明書		
	通 学 証 明 書		
	人 物 考 査 書 (就職用に限る)		
	推 薦 書 (就職用に限る)◆	直接就職部に申込む	

◆ 「成績・卒業見込証明書」は、4年次に在学し、その年次の履修単位数内で卒業に必要な単位数を満たすことができる場合に発行されます。

◆ 単位修得証明書(各種資格試験用)は、司法試験・会計士・社会保険労務士等の各種試験用です。

◆ 推薦書(就職用に限る)は、求職登録者に限ります。進学に関するもの(大学院等)は、その他の諸証明書で第二学事課⑥番窓口で発行します。

※ 学割証・推薦書・通学証明書は無料です。

4. 休 講

- ① 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示します。従って、教場の黒板に書いての休講の連絡はしません。始業時間よりも30分以上経過しても連絡のない場合は、第二学事課②番窓口申し出てその指示を受けてください。
- ② 運輸機関の運休による休講措置については、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）または東急が、正午現在運休している場合、当日の第2部の授業を全面的に休講とします。

5. 補 講

やむを得ない事情により休講した授業または休講を予定している場合、授業を補うために補講を行う場合があります。補講を行う授業については、第2部掲示板にて連絡します。

補講期間 8月31日（月）～9月4日（金）
12月21日（月）・12月22日（火）

※担当教員の都合により、上記補講期間外に行う場合があります。その都度、掲示にて連絡します。

6. 掲示・連絡

学生に対する公示・告示および学修上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見るよう心がけてください。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従ってください。

7. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じません。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせてください。

Ⅱ 学 籍 に つ い て

Ⅱ 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- ① 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことです（本大学の修業年限は4年）。
- ② 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことです。本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定められています。

2. 休学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願ひ出て休学の許可を得なければなりません。

(1) 休学の手続き

- ① 休学願に添えて次の書類を提出してください。
 - a. 傷病の場合は、医師の診断書
 - b. 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
 - c. その他の理由の場合は、事前に窓口で相談のうえ、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ② 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとします。
- ③ 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがあります。

(2) 休学の期間

- ① 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとします。
- ② 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができます。
- ③ 休学期間は通算4年を超えることはできません。
- ④ 休学が許可された年度は在学年数に算入しません。

(3) 休学する場合の学費

休学を願ひ出る者は当該期の学費を納入していなければなりません。

休学願提出日	学費
4月1日～9月20日	第1期（前期）分を納入していること。（第2期分は免除）
9月21日～11月30日	第1期（前期）分・第2期（後期）分とも納入していること。

(4) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は休学した年次にとどまることになります。

3. 復 学

- ① 休学した者が復学する場合は、第1期（前期）学費を納入のうえ、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得なければなりません。
- ② 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書が必要です。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得なければなりません。

- ① 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出なければなりません。
- ② 退学願提出時に学生証を返却しなければなりません。
- ③ 退学年月日は次のとおりとします。
 - (1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日
 - (2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者は除籍となります。

- ① 在学年数を超えた者
- ② 休学期間を超え復学願を提出しない者
- ③ 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

- ① 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、学則第57条に基づき懲戒します。懲戒は、情状により譴責、停学、退学とします。
- ② 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行います。
 - a. 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
 - b. 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - c. 正当の理由がなくて出席常でない者
 - d. 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学

- ① 本大学卒業生（卒業見込者を含む）が編入学を希望するときは、選考のうえ、3年への入学を許可することがあります。
- ② 編入学希望者は、第二学事課または教務部入試係に相談してください。

8. 再 入 学

本学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考のうえ、許可することがあります。

- ① 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象外とします。
- ② 退学または除籍後3年以内の者とします。（出願時を基準とする）
- ③ 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とします。
- ④ 再入学希望者は、第二学事課または教務部入試係に相談してください。

9. 転部・転科

2年次または3年次の第1部への学部・学科、転部・転科試験および第2部学部間の転部試験は、12月初旬に実施する予定です。選考方法等詳細は、6月中旬に行われる転部・転科試験ガイダンス（第2部内は除く）に出席し、配布される転部・転科試験要領を参照してください。

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算します。

（平成10年度参考）

第1部転部・転科試験出願資格

- (1) 第1部2年次への出願は、第2部学部1年次に在学している者。
- (2) 第1部3年次への出願は、第2部学部2年次に在学している者。

第2部学部間転部試験出願資格

- (1) 第2部他学部への出願は、第2部学部1年次に在学している者。

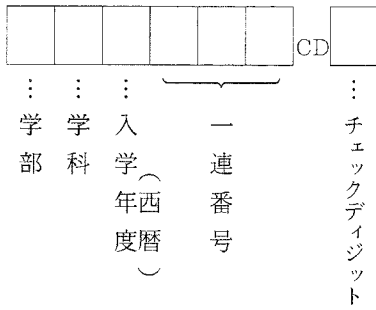
10. 学生氏名・保証人

- ① 学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に基づきJ I S第1水準・第2水準文字で表示します。
- ② 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得てください。
- ③ 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示します。
- ④ 保証人は原則として、父、母とし、やむを得ない場合は独立の生計を営む親族または縁故者とします。
- ⑤ 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとします。
- ⑥ 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出してください。

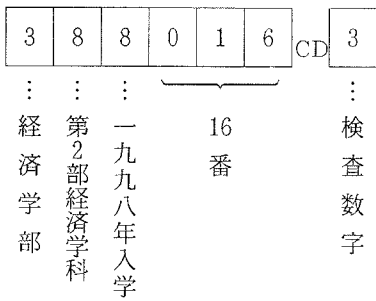
11. 学生番号

- ① 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確におぼえておいてください。
- ② 学生番号は6桁の数字とCD1桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてあります。
※ CDとは学生番号をカード読み取りや機械入力する際に、番号の入力が正しいかを自動的に計算し、正しい場合の答えの数字です。
（CDの記入は、履修届等一部の提出書類に限定されます。）

学生番号区分



(例) 1998年度入学・経済学部
第2部経済学科16番の場合



学部・学科の番号

学 部	学部番号	学 科	学科番号
経 済	3	第2部経済	8
法	4	第2部法律	8
経 営	5	第2部経営	8

Ⅲ 留

学



Ⅲ 留 学

本学では、外国の大学で取得した単位であっても一定の要件を備えていれば、本学で取得した正規の単位としてその一部を認定する制度があります。この制度を利用できる海外留学の方法としては次のようなパターンがあります。

1. 交換留学

本学と学生交換協定を結んでいる外国の大学に学内選考を経て1年間留学する制度です。留学先で修得した単位は、学部等の判定によりその全部または一部が本学の卒業に必要な単位として認定されます。

2. 認定校留学

当該国に於いて「大学」に相当する高等教育機関と認められている大学に自分が留学を希望する場合、その大学からの留学許可を得て本学あてに認定校留学の申請をし、許可されたうえで留学するときは、上記1の留学と同等の扱いを受けることができます。

3. 短期留学英語セミナー

本学の主催により、夏季休暇および春季休暇中に約1か月にわたり海外協定校で英語講習を受ける短期留学です。

このセミナー修了者は、随意科目として「英語（海外演習）」の単位が認定されます。

※詳細は国際センター（☎ 03-3418-9562）に照会してください。

IV 卒業後の進路について

IV 卒業後の進路について

1. 就職

本学第2部学生の多くは、卒業とともに公務員、教員、民間企業など多方面に就職しています。言うまでもなく、4年間の学生生活を通じて、卒業後の人生の目標を確かなものとし、自らの希望を実現し、能力を發揮できるような職業を選択することです。現実の就職活動は早く、3年次の就職ガイダンス後には、企業からアンケートハガキが自宅に送られてきます。2年次の後半には自分の就職先が公務員なのか民間企業なのかを選択しておくこと3年次以降の学修効果があがります。

卒業時点でのどのような就職をするかは本人の一生にとって非常に大きな影響をもつことには変わりはありません。本学の定めるカリキュラムに従い着実に学修を進めることを学生生活の基本としつつ、就職に備えて準備を進める必要があります。

2. 大学院進学

大学院は、修士課程2年と博士後期課程3年に区分されており、大学卒業者や大学卒業見込者が受験できるのは、修士課程です。大学院の目的は、広い視野にたちながら、専門研究をすすめていく能力を養うか、または高度の専門的研究を必要とする職業などに必要な能力を養うことにあります。学部を卒業してさらに専門知識をすすめ、将来研究者になろうとする人や、高度の専門知識を有する職業人になろうとする人が大学院にすすみます。

大学院に進学するには、自分の将来の志望や研究テーマなどについて、よく考えておく必要があります。この点について演習担当の教員に相談してみるとよいでしょう。進学希望者は、学部時代から外国語に力を入れ学んでおくことよいでしょう。

大学院進学についての詳細は、教務部⑥番窓口にお問い合わせください。

講 義 内 容

目 次

1	全 学 共 通 科 目		
	(1) 宗 教 教 育 科 目	全 1	
	(2) 教 養 教 育 科 目	全 9	
	(3) 外 国 語 科 目	全 37	
	(4) 保 健 体 育 科 目	全 99	
2	専 門 教 育 科 目		
	(1) 経 済 学 部	専 1	
	(2) 法 学 部	専 83	
	(3) 経 営 学 部	専 145	
3	他 学 部 履 修 科 目	他 1	
4	教 職 課 程 科 目	教 1	

全 学 共 通 科 目	宗教教育 科目
	人文分野
	社会分野
	自然分野
	英語
	ドイツ語
	フランス語
	中国語
	スペイン語
	ロシア語
専 門 教 育 科 目	選択科目
	保健体育科目
	経済学部
	法学部
履 修 科 目	経営学部
	他学部
科 目	教職課程

1 全学共通科目

(1) 宗教教育科目

1 全学共通科目

(1) 宗教教育科目

仏教と人間 仏教と人間〔再クラス〕	(皆川広義)	全1
仏教と人間 仏教と人間〔再クラス〕	(小坂機融)	全2
仏教と人間 仏教と人間〔再クラス〕	(松本史朗)	全2
仏教と人間 仏教と人間〔再クラス〕	(河村孝道)	全3
仏教と人間 仏教と人間〔再クラス〕	(青龍宗二)	全3
仏教と人間 仏教と人間〔再クラス〕	(大谷哲夫)	全4

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 と 人 間	みな がわ ひろ よし 皆 川 広 義	二 経 1 必	4
仏教と人間〔再クラス〕		全 学 科	4

講義のねらい

仏教の開祖・釈尊（おしゃかさま）の生涯と教えを学ぶことによって、現代に生きる私たちの人間としての道を学んでゆきたい。

釈尊は、約2500年まえ、インドのヒマラヤ南麓にあった釈迦国の皇太子として生まれた。彼は、青年時代までは幸せな人生を歩んでいたが、ある日身近にいる人々の老病死の苦悩をみて、自分もいつかはあのような一大事に直面することを自覚させられた。

釈尊は、この生死の苦悩から解脱して、安心と生きがいを求めて、沙門という宗教者になられた。沙門は、樹下石上に生活し、三衣一鉢しか所有しないで、道を求める宗教者であった。彼は幸いにも六年の修行の後に、菩提樹下で座禅瞑想中に悟りを得て、生死の苦悩からの解脱道を発見せられた。人間が、なんのために生まれ、成長し、そして老い、病にたおれ、死してゆくのかという人生の目的をも悟られたのである。

釈尊は、悟りを得てから45年間、八十歳で亡くなられるまで、自分が悟り発見した生死の苦悩からの解脱道と人生の目的とを、多くの苦悩に打ちひしがれている人々に伝道されたのである。

本学は、曹洞宗がこの釈尊の教えにもとずいて設立した大学であり、この『仏教と人間』の講義を通して、各自がおのれの人間としての道を学びとっていただきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

はじめに、人間と宗教について、社会学、心理学、宗教学、仏教などをふまえて、わかりやすく語りたい。

次に、釈尊の生涯と教えを考察し、彼の宗教の成立とその教えへの世界へのひろがりについて述べる。

結びに、仏教の教えを通して、私たちがなんのために生まれ、成長し、老病死してゆくのか、つまり、人生の目的について、各自が自分の問題として明らかにできるようにしてゆきたい。

I 人間と宗教

- 1 現代人の意識と行動
- 2 世界の宗教状況
- 3 我国の宗教と問題点
- 4 有所得の宗教と無所得の宗教
- 5 人間存在の有限性 生老病死

II 仏教 仏教の開祖 釈尊の生涯と教え

- 1 釈尊の国インドと時代
- 2 誕生と成長
- 3 出家求道 沙門の道
- 4 菩提樹下の悟り 自己の真実 生命
- 5 初めての説法 釈尊の教え ①縁起説 ②血諦説
- 6 45年の伝道
- 7 沙羅双樹下の入滅
- 8 弟子たちによる仏教の誕生
- 9 釈尊仏教の世界へのひろがり

III 人生の目的

私たちは、なんのために生まれ、成長し、老い、病にたおれ、そして死してゆくのか。

履修上の留意点

積極的に聴講し、学習することを希望する。

宗教教育科目の『仏教と人間』は、本学がほこりうる講座であり、この授業を通して他大学ではなかなかない得ない人間の陶冶と人格の完成をなしとげて、豊かな人生をつくりだしていただきたい。

成績評価の方法

聴講態度（出来率など）、レポート、年度末の定期試験などによって、総合的に評価する。

参 考 書 等

奈良康明『仏教と人間』（東京書籍） 定価1,400円

科目名	担当者名	配当学科	単位
仏教と人間	こ 小 さか 坂 き 機 ゆう 融	二 経 1 必	4
仏教と人間〔再クラス〕		全 学 科	4

講義のねらい

当授業は、広い知識と専門的学術を修得せしめるという大学教育の基本と共に、本学の建学の理念に基づいて、仏教による偏りのない知性と慈悲とを兼ね備えた人材の育成を目指す、本学の独自性を発揚する講座である。

仏教は、人間およびこの世界に対する深い洞察によって到達された思想信仰である。従って、人間の陥る困難な問題を明らかにし、正しい知恵獲得のあり方と、それによる正しい認識判断によって、我々個々の実人生を、虚偽のものとしてではなく、それぞれにおいて確かなものとして生きる道を示して来たと言える。この点を現代の事として明らかにし、個々の学業と人生に生かして貰うことを目指すものである。

講義の内容・授業スケジュール

- ①現代文明社会の光と影について。
- ②現代文明の理念と人間の情況。
- ③人間の自然認識とその問題点。
- ④疑似種としての人間の成り立ち（学習する人間）。
- ⑤本能と自我とエゴイズム。
- ⑥仏教における認識と行動のあり方。
- ⑦仏教的人間形成（時々行尽）。

履修上の留意点

人間だれしもの課題として、自身で真摯に考えることを切望する。

成績評価の方法

個々の受け止めの様相を確認するため、毎時間の終わりに課題を出して個々の考え或いは意見を書いて貰うこと、坐禅実習（1～2回）を含む出席状況、および学期末試験等によって、総合的に評価する。

参考書等

松本史朗著『仏教への道』（東京書籍選書 134）
奈良康明著『仏教と人間——主体的アプローチ——』（同 136） 各¥1,400

その他

講義形式。

科目名	担当者名	配当学科	単位
仏教と人間	まつ もと し ろう 松 本 史 朗	二 法 1 必	4
仏教と人間〔再クラス〕		全 学 科	4

講義のねらい

本学の建学の理念である「仏教の教義と曹洞宗立宗の精神」を学生諸君に理解してもらうことが、この講義のねらいである。従って、仏教とは何か、それは人生において如何なる意味をもつのかを、分かりやすく説明したい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、仏教成立以前のインド思想から始めて、仏教の開祖である釈尊の思想、さらに大乘仏教の経典の思想、及び、日本仏教の思想の説明へと進みたい。

成績評価の方法

年度末の試験によって、成績を評価する。

教科書

松本史朗『仏教への道』（東京書籍） 1,400円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 と 人 間	かわ むら こう どう 河 村 孝 道	二 法 1 必	4
仏教と人間〔再クラス〕		全 学 科	4

講義のねらい

宗教 — 仏教・禅の教えを学び、その教説を通して自己の生死の問題を考えてゆく。

参 考 書 等

宗教学 I・II

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 と 人 間	せい りゅう むね つぐ 青 龍 宗 二	二 営 1 必	4
仏教と人間〔再クラス〕		全 学 科	4

講義のねらい

本学は禅を建学の理念としているので、この講義を通して、知慧と慈悲に満ちた禅の人間観を学びとっていただくことをねらいとしている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は以下のように進めてゆく。序論的に仏教とは何かについて、仏教の基礎的構造を存在論（教）実践論（行）仏陀論（証）の三部門より入門的解説を行ってから、本論として、(1)仏教の人間観を人間のもつ煩惱面と仏性面との両面より明らかにし、(2)更に禅とくに道元禅を中心として、今日の問題に視点を当て、日常的人間と本来的人間との矛盾的自己同一性を追求しつつ人間の在るべき姿を考えてゆきたい。(3)同時に現代の重要課題である人間の生命倫理について、その背景となっている西洋世界の功利的実利主義的な倫理観を批判しながら、禅の立場からこの問題を考えて見たい。

履修上の留意点

講義方法は次の点に留意して欲しい。特に教科書は使用しないが、参考書は随時に紹介する。受講生に対しては十二分に理解し得るよう配慮しつつ講述を進め、重要事項は黒板書きするので、各人が必要に応じて筆記し、定期試験に備える努力を期待すると共に、講義初日は一年間にわたって考えていただく課題を提示するので、予めこの課題が成績評価の一部に加えられることを承知していただきたい。なお必要に応じてはプリントを配布することもある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 と 人 間	おお くに てつ を 大 谷 哲 夫	二 営 1 必	4
仏教と人間〔再クラス〕		全 学 科	4

講義のねらい

駒澤大学は、仏教と曹洞宗立宗の精神を基本的理念として創立された大学であるので、仏教や禅についての正しい知識を学ぶことを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

1. 仏教とは 2. 仏教における禅の地位 3. 禅の歴史 4. 公案の禅と只管打坐の禅 5. 禅と現代思想
などについて概説し、講義の中心を、特に現代人の新しい精神生活のよすがとしての禅仏教の思想を、禅匠の生き方またその言葉などを通して学ぶことにその主眼をおく。
また、“只管打坐”坐禅の精神を知ってもらうために、前後期それぞれ一回づつの坐禅をしてもらう。

履修上の留意点

出席は毎回とる。

成績評価の方法

期末試験による。授業への出席状況も考慮する。

教 科 書

講義ノートによる。仏教の基礎的な事項については適宜プリントを配布する。

参 考 書 等

本講座にのぞみ、予め読むべき文献などは特に指定しないが、講義にともない適宜に参考図書を紹介する。

(2) 教 養 教 育 科 目

(2) 教養教育科目

人文分野

宗教学(1)	〔 聖 と 俗 〕	(菅原 壽清)	全 9
宗教学(2)	〔 比較宗教文化 〕	(田中 かの子)	全 10
文学(1)(3)	〔 日本文学—古典— 〕	(山下 哲郎)	全 12
文学(2)	〔 日本文学—近代— 〕	(大泉 政弘)	全 12
歴史学(1)	〔 日本近代史 〕	(林 彰)	全 13
歴史学(2)	〔 中国古代史 〕	(茂沢 方尚)	全 13
歴史学(3)	〔 中国古代思想史 〕	(茂沢 方尚)	全 14
哲学(1)	〔 西洋思想の源流 〕	(河谷 淳)	全 14
哲学(2)	〔 近代の人間観と世界観 〕	(伊古田 理)	全 15
哲学(3)	〔 現代文明と人間 〕	(寺田 誠一)	全 15
論理学(1)(2)	〔 科学方法論と現代論理学 〕	(丸山 豊樹・山本 敦之)	全 16
倫理学(1)(2)	〔 西洋倫理学 〕	(末木 恭彦・河谷 淳)	全 16

社会分野

法学・憲法(1)	〔 法 と 権 利 〕	(光田 督良)	全 17
法学・憲法(2)	〔 法と社会生活 〕	(長谷川 日出世)	全 18
社会科学論(1)	〔 社会認識の思想 〕	(阿部 弘)	全 19
経済学(1)	〔 現代経済と人間 〕	(明瀬 政治)	全 20
社会学(1)	〔 現代社会を考える 〕	(橋爪 敏)	全 20
社会学(2)	〔 現代文化を考える 〕	(橋爪 敏)	全 21
統計学(1)	〔 社会現象の統計的決定 〕	(日下 泰夫)	全 21
文化人類学(1)	〔 文化と人間 〕	(川上 新二)	全 22
文化人類学(2)	〔 諸民族とコスモロジー 〕	(杉井 純一)	全 23
政治学(1)	〔 政治システムと政治参加 〕	(宝利 尚一)	全 24
政治学(2)	〔 国際社会と日本 〕	(山田 敦)	全 24

自然分野

心理学(1)	〔 ヒューマン・ウォッチング 〕	(鈴木 順一)	全 25
心理学(2)	〔 人間関係を考える 〕	(鈴木 順一)	全 25
生物学(1)	〔 生態と進化 〕	(清水 善和)	全 26
生物学(2)	〔 生物と環境 〕	(中村 敏枝)	全 26
コンピュータ基礎(1)	〔 コンピュータと情報 〕	(竹田 洋一)	全 27
コンピュータ基礎(2)	〔 コンピュータと情報 〕	(上原 隆平)	全 28
地球科学(1)(2)	〔 自然景観の成立ち 〕	(漆原 和子)	全 28
自然環境論(1)	〔 宇宙から見た地球環境 〕	(篠原 正雄)	全 29
自然環境論(2)	〔 環境と自然保護 〕	(清水 善和)	全 29
情報数学(1)	〔 情報と論理 〕	(三好 重明)	全 30

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 (1) 〔 聖 と 俗 〕	すが わら とし きよ 菅 原 壽 清	二経・二法・二堂	4

講義のねらい

人間の精神世界の根源にあって人びとの生活を支える宗教文化の理解は、現代社会においても不可欠であると思われます。そこで、本講義では「聖と俗」というテーマで、人びとの暮らしと宗教について、その宗教的営みを宗教人類学の視点から明らかにして行きたいと考えております。授業は講義形式とし、前半は宗教学・宗教人類学についての基礎的な問題を、後半は具体的な事例を基にしなが、聖と俗、アニミズム、シャーマニズムを手がかりに、現代社会との関わりや人びとの暮らしと宗教について考えてみたいと思います。

 講義の内容・
授業スケジュール

- 〈宗教人類学入門〉
1. 宗教と宗教人類学（宗教をとらえる視点）
 2. 宗教人類学の研究領域（多様なアプローチ）
- 〈宗教の多様性〉
3. さまざまな宗教形態（その多様な形態）
 4. 宗教の分類方法（現代の分類方法）
- 〈聖なるコスモロジー〉
5. 聖と俗
 6. アニミズムの世界
 7. シャーマニズム
 8. 東南アジア・稲作の人びとの暮らしと宗教

成績評価の方法

試験・その他

教 科 書

指定なし

参 考 書 等

『宗教学ハンドブック』（世界書院）

そ の 他

ビデオ・スライドなども使用

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 (2) 〔比較宗教文化〕	た な か 田 中 かの子	二経・二法・二営	4

講義のねらい

宗教は、人間が自他の生命（いのち）をより善くまっとうするための究極的な拠りどころと生き方を提示する。

諸宗教の興起し発展してきたこの世界において、わたくしたちはいま、宗教を比較し宗教をそれぞれの現代的意義と役割を見出すべき時機を迎えている。

以上の視点から観ると宗教学とは、諸宗教における生命（いのち）や人間性の普遍的価値を追究し、人間相互の理解と協調への道を拓くいとなみであるといえよう。

本講は、1) 宗教学の基本構造を理解し、2) 諸宗教の思想・文化を正しく把握することで、3) 国際的視野における「他者」理解の眼を養うことをねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

I. 宗教学とは何か

- 1) 宗教学の基本的立場。
- 2) 「宗教学」成立のいきさつ。
- 3) 宗教学のさまざまな方法。

II. 宗教生活の原初形態

- 1) 生への畏敬、死への畏怖。
- 2) 洞窟壁画の思想。
- 3) アニミズム説、プレアニミズム説、原始一神教説、「起因者」説。

III. 科学・呪術・宗教

- 1) 呪術の原理と諸類型。
- 2) 科学と呪術。
- 3) 呪術と宗教。
- 4) 宗教と科学。

IV. 宗教の類型論

- 1) 人格的「神」の啓示にもとづく予言者の宗教と非人格的「法」の自覚にもとづく神秘主義の宗教。
- 2) 自然宗教と創唱宗教。
- 3) 民族宗教と世界宗教。
- 4) 「救い型」・「悟り型」・「つながり型」の三類型。
- 5) 「宗教進化の五類型」説。

V. 宗教を構成するもの

- 1) 聖なるものは目に見えない。
- 2) 人格的「神」にもとづく思想、非人格的「法」にもとづく思想（教義）。
- 3) 神の祀り方、法の祀り方（儀礼）。
- 4) 神や法に向かって祈り・集う者たち（教団）。
- 5) 教義・儀礼・教団の中核としての宗教体験。

VI. 宗教的人間観

- 1) 人類の起源神話。
- 2) 人間というものの二元的構造。
- 3) 自己とは何か。
- 4) 宗教的人格の理想像とその形成過程。

VII. 宗教的世界観

- 1) コスモロジー。
- 2) 「この世」と「来たるべき世」。
- 3) 時間と空間。

VIII. I. ～VIIをふまえながら、現代も生きつづける諸宗教の思想と文化について解説する。また、異なる宗教の間に生じる誤解や偏見を指摘し、正しい平和友好的な「他者」理解とはどうあるべきかを考える。

- 1) ゴロアスター教。
- 2) ユダヤ教。
- 3) キリスト教。
- 4) イスラーム教。
- 5) シーク教。
- 6) ヒンドゥー教。
- 7) ジャイナ教。
- 8) 仏教。
- 9) 儒教。

- 10) 道教。
- 11) 神道。

履修上の留意点

- 1) 教科書や参考書から知識を得るだけでなく、旅行・音楽の鑑賞、テレビ・ラジオの番組、美術館・博物館の展示物などをおして見聞できる諸宗教の思想・文化にも関心をもってほしい。
- 2) 講義内容はもちろんのこと、自分自身の見方・考え方をしっかりとおさえながら、工夫あるノートづくりを心がけてほしい。教室での私語は、自他の妨げになるので慎むこと。

成績評価の方法

期末試験、及び出席状況と受講態度。

教科書

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）

参考書等

水野弘元・柴田道賢（監修）『宗教学ハンドブック』（世界書院） 岸本英夫編『世界の宗教』（大明堂） その他は、必要に応じて紹介する。

その他

毎回、いくつかのキー・ワードを設けて、講義の骨子を明示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
文学 (1) (3) 〔日本文学－古典－〕	やま した てつ ろう 山 下 哲 郎	二経・二法・二営	4

講義のねらい

本年度は、中世随筆文学の代表的な作品、兼好法師の『徒然草』を読む。わが国の古典文学に親しみ、その作品世界を愉しみながら読み進めていくことを目標とする。古典作品を原文で読解していくため、内容の理解にはやや努力を要するが、年間を通してできる限り多くの章段の読解を期したい。作品の時代背景や、各章段の関連事項など、特に問題となる事柄に関しては、時間をかけて、じっくりと考えていきたいと思う。

講義の内容・授業スケジュール

前・後期を通じて作品の講読を行うが、前期のはじめの数講において、作品の兼好法師や『徒然草』という作品についての概説を行う予定である。

履修上の留意点

履修にあたっては、各自必ずテキストを用意すること。関連資料等は随時配布する。

成績評価の方法

成績評価はレポートと出席状況で行う。レポートは原稿用紙(400字詰)5枚以上で、年度末に提出すること。なお、レポートの課題等の詳細については開講時に指示する。

教科書

テキストは以下のものを使用する。
木藤才蔵校注 新潮日本古典集成『徒然草』(新潮社 昭和52年) 2,500円

参考書等

参考書については授業時に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
文学 (2) 〔日本文学－近代－〕	おお いづみ まさ ひろ 大 泉 政 弘	二経・二法・二営	4

講義のねらい

本年度は、時代と文学の関わりについて考えて行く予定である。明治から現代へ、時代の流れの中で、現在も我々もこの社会に影を落としている問題が存在する一方で、時代の波の中に埋没していった問題もある。それは、時代という奔流の中であって、今に生きる文学作品と埋没し姿を消して行った作品があることと無関係ではない。「戦後」が遠のきつつある中で、時代と文学の関わりを考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期 「文学」という概念の説明から入り、日本の文学思潮とその特殊な流れの背景や明治日本固有の近代概念について 大まかに講義する。明治初期の作品はなかなか読むことが出来ないとと思われるが、読める物については必ず読んでから講義に出てほしい。
後期 北村透谷・島崎藤村・夏目漱石と現代作家を比較しつつ読むことに主眼をおいて進めたい。

成績評価の方法

前期のレポート・期末試験・講義への参加等で総合的に評価する。

教科書

教科書は特に定めないが、講義の中で指示した作品は必ず講義の前に読んでほしい。参考書についても講義の中その都度で指示する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
歴 史 学 (1) 〔日本近代史〕	はやし 林 あきら 彰	二経・二法・二営	4

講義のねらい

今日、我々は激しくゆれうごく時代に生きている。こうした時代に確信をもって生きていくためには、過去の激動の時代に、人々がどのような生き方をし、どういう思惟・思索を経てきたかを学ぶ必要がある。我々が、歴史を学ぶ理由の全てとはいわぬまでも、重要な動機の一つはそこにある。こういった問題意識をもちつつ、講義では近代日本史を思想史的にとらえていきたい。とくに、明治時代の思想を中心にみていくこととし、人物・事件・ジャーナリズムなどを通して検討していきたいと思っている。

 講義の内容・
授業スケジュール

講義では、明治期の思想である自由民権・平民主義・初期社会主義の思想をみていく。時間があれば、修養思想や天皇制思想にも言及してみたい。方法としては、その時代の歴史的背景をふまえながら、人物の思想など追っていくつもりである。

成績評価の方法

期末試験、レポートで評価する。

教 科 書

講義中に指示する。

参 考 書 等

講義中に紹介していきたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
歴 史 学 (2) 〔中国古代理史〕	も さわ みち なお 茂 沢 方 尚	二経・二法・二営	4

講義のねらい

中国の古代史とは、秦の始皇帝、李斯等が活躍する以前の歴史を通観するとともに、その中国の西北方にいたとされる少数民族との関係を中心に、中国の文献学に基づく情報の稀少性に充分配慮しつつ、最近の青銅器の銘文の分析を再検討しながら、その西北方の異民族の実態に迫ろうとするものである。

それは解読困難を極める王国維、郭沫若等の研究が不可欠である。それには、古代中国の文字学（小学）的知識がどうしても必要である。

それは中国古代理史をひもとくためにも、又日常我々が使う漢字について注がれた説文学の膨大な諸成果がある。多岐茫羊の感が深い、それらの研究を無視しては、研究が進展しない。そういう小学の知識、清朝考証学に敬意を表しつつ、この幻とも思われる西北方の民族の研究にけんめいの努力を捧げた王国維やブルセックの研究を紹介しつつ、この謎に迫ってみたいと思っている。又中国古代理の諸子百家の思想の根源にさかのぼってみたい。

教 科 書

『韓非子』の思想史的研究（近代文藝社）

科目名	担当者名	配当学科	単位
歴史学 (3) 〔中国古代思想史〕	も さわ みち なお 茂 沢 方 尚	二経・二法・二営	4

講義のねらい

中国古代とは、私の場合、漢代以前を指す。その時代を含むが、私の関心は、中国の諸子百家の思想の源流を尋ねることにある。それは老子、孔子、孟子、荀子、荘子、列子、楊朱、慎到、申不害、商鞅、管子、韓非子、李悝等の活躍した春秋戦国時代に遡及して、それぞれの思想を歴史的に解明しようという願いに支えられている。果たして「道」とは何か、「常道」とは何か。「自然」とはと問題は複雑多岐にわたり、把えんとし把えきれない程深遠である。しかし私は私の関心に依って支えられている長年にわたる研究成果の一端を示して、諸君とともに、この四千年とも五千年とも言われる歴史をもつ中国の心臓部に立ち入ってみたいと思っている。

教科書

『韓非子』の思想史的研究 (近代文芸社)

科目名	担当者名	配当学科	単位
哲学 (1) 〔西洋思想の源流〕	かわ たに あつし 河 谷 淳	二経・二法・二営	4

講義のねらい

この授業では、古代地中海世界において展開されたギリシア哲学と、西ヨーロッパ全域を舞台とした中世のキリスト教哲学とを主に扱うこととする。これらふたつの哲学思想は西洋思想の二大源流であるヘレニズムとヘブライズムとに対応するものであり、それぞれは知の優位と信の優位という相克のもとにさしあたっては理解することができよう。しかしながら、両者の間にはそのような不連続性と同時に連続性という側面もあるのであって、これらふたつの源流は複雑に分岐・合流を繰り返しながら近現代の思想へと流れ込んでいる。そうだとすれば、両者がいかなる意味での「源流」であるのかは改めて問われなければならない問題となろう。

講義の内容・授業スケジュール

講義では主に次のような内容を取り扱う。

- ①ギリシア哲学 (ソクラテス以前の哲学、ソクラテスの哲学、プラトンの哲学、アリストテレスの哲学)
- ②キリスト教哲学 (教父哲学、スコラ哲学)
- ③ギリシア哲学・キリスト教哲学の近代における影響史

成績評価の方法

成績は、中間試験と期末試験、レポート等で評価する。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

授業においてその都度紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
哲学 (2) 〔近代の人間観と世界観〕	いこた まさる 伊古田 理	二経・二法・二営	4

講義のねらい

この講義は近代ヨーロッパ哲学を歴史を追いつつ紹介してゆくが、同時に哲学というものの我々にとっての意味を考えるため、毎年一つのテーマを設定している。今年度は「言葉」をテーマにとりあげてみたい。我々は日常生活で、考え、語り、理解し、伝達しあうのに言葉を使っている。このあたりまえのことを哲学ではどのように考えているのだろうか？この疑問に常時たしかえることで、哲学というものがどのようなものであるのか、逆に照らし出してみたい。

教科書

教科書等は開講時に指定する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
哲学 (3) 〔現代文明と人間〕	てら だ せい いち 寺 田 誠 一	二経・二法・二営	4

講義のねらい

現代（19－20世紀）とは何か。現代は近代や古代・中世とは異なり、我々がその中で生きているという重要な性質を持つ特殊な時代である。我々は現代に生きているが、現代という時代が何かということを理解することは難しい。形式的に言えば、現代はそれ以前の時期とは異なる最終的な時代区分であり、それ以前の時期とは異なるという否定的性質によって規定される。それでは現代は何を否定するのか。

講義では以下の三つの観点から現代哲学の主題のいくつかを解説するが、その際、必要に応じて古代から近代までの伝統的理論の説明を併せて行う。

1. 宗教的信仰の退潮。
2. 科学技術の飛躍的発展、および科学技術とそれがもたらす進歩への懐疑。
3. 現代美術における芸術理念の変革。

成績評価の方法

中間試験と期末試験、レポート等で評価する。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

講義の際に、その都度紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
論理学 (1) (2) 〔科学方法論と現代論理学〕	まるやま 丸山 豊樹 やまもと 山本 敦之	二経・二法・二営	4

講義のねらい 言葉をしゃべる時、文法を意識することが殆どないように、論理もまた、その存在が意識されることはあまりない。
そのような論理を取り出して、その法則性を探求するのが論理学であり、それは形式論理学と科学方法論とを含む。ここで形式論理学というのは、アリストテレス以来の伝統的論理学と現代の記号論理学を含んでいる。科学方法論は、形式論理学で扱われる演算繙法の他に、帰納法等の考察を含む。

講義の内容・授業スケジュール 講義内容は、①伝統的論理学 ― 概念論・命題論・推理論、②記号論理学 ― 命題論理学・述語論理学の順で扱うが、帰納推理の項等で科学方法論にも言及する。

履修上の留意点 講義に対する積極的取組みが受講の要件であり、それ以外には予備知識等、一切必要としない。

成績評価の方法 成績は中間試験と期末試験、レポート等で評価する。

教科書 開講時に指示する。

参考書等 講義の際にその都度紹介する。

その他 講義が中心になるが、問題演習の時間をできるだけ多くとることにしたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
倫理学 (1) (2) 〔西洋倫理学〕	すえき 末木 恭彦 かわ谷 穂	二経・二法・二営	4

講義のねらい 人間がただ生きるのではなく、「よく」生きることが目的とする生物だということは、考えてみれば不思議なことだ。両者が具体的にどう違うかと問われれば答えに困るが、我々はこの二つのことが違うということは知っているし、「よく」生きるとは、「うまく」あるいは「快適に」生きるとか、「強く」あるいは「美しく」生きることとは何となく違うのではないかと思っている。倫理学は「よいこと」あるいは「悪いこと」の意味を分析し解明する学問である。そこでは大ざっぱに言って次の二つのことが問題になる。すなわち、何が「よい」（あるいは「悪い」）のか。そして「よい」（あるいは「悪い」）とは何なのか。例えば、人を殺すことや盗むことは「悪い」ことだろうが、それらにも様々な様態があり、それらを一概に「悪い」と一言で言ってしまうことにはためらいが残るし、もしかしたら「よい」殺人というものもあるのかもしれない。また様々な事柄がともに「よい」（あるいは「悪い」）と呼ばれるのだから、そこにはそれらに共通の統一的な「何か」が生起していると考えことは自然である。とすればそれは何なのか。一休いつから我々はこんなふうになるようになったのだろう。西洋ではこの種の考えが登場した古代ギリシア以来、倫理学は、哲学や神学あるいは法学など諸学問の思想的基盤として大きな役割を果たしてきた。

講義の内容・授業スケジュール 東洋思想と対比しつつ西洋倫理思想史上の考え方のうちいくつかをとりあげて解説する。

成績評価の方法 成績は中間試験と期末試験、レポート等で評価する。

教科書 教科書は、開校時に指示する。

参考書等 参考書は講義中に適宜に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法学・憲法(1) 〔法と権利〕	みつだまさよし 光田督良	二経・二法・二営	4

講義のねらい

本講座は、「法学・憲法」と二つの標題を持ちますが、全体としては、「法と人権」というテーマのもとに講義をすすめます。人権を保障している憲法も「法」の一つです。そこで、まず、「法とは何か」ということを検討します。そのためには、できるだけ多くの「法現象」を見聞することが必要です。それは、これらについての個別分野の専門科目が多く存在する事からも理解できます。しかし、「法学」の講義が、それぞれの個別分野を概観するような内容であれば、中途半端は内容となってしまいます。したがって、講義では、これら個別分野の科目に共通する、法の一般的な、基礎的な考え方について検討します。

次に、憲法の内容に入ります。「憲法」の講義の目的は、日本国憲法の内容を、主として憲法解釈学の立場から理解することにあります。憲法の講座では、本来、日本国憲法全体を対象として検討しなければなりません。講義では、本講のテーマおよび時間的制約から、特に人権を中心に検討します。具体的には、人権の内容、限界、制限といった点が主たる内容となります。もっとも、その際、国会、内閣、裁判所などの統治（政治）機構についても、人権との関連において、人権をよりよく確保するための制度という観点から、必要に応じて、採り上げます。

「法の一般的な、基礎的な考え方」、「人権の内容、限界、制限」の検討というと、どうしても抽象的で、難解であると考えられがちです。しかし、抽象的な検討に終始すれば、十分な理解もできませんし、また学修する意欲、興味を損なうこととなります。そこで、講義では、できるだけ、判例など実際に起きた具体的事柄に例を求め、分かりやすく説明するつもりです。

また、人権をめぐる法現象は社会現象の一つですので、現実の社会において現在生じている事柄についても、「今」の法を考えるという意味において、関連性、必要性に応じて採り上げるつもりです。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、具体的には以下のようなスケジュールで行います。

序 法学・憲法を学ぶに当たって

I 法とは何か

- 1 法とは何か ― 法の定義
- 2 法と道徳（関係の歴史・区別の基準）
- 3 法の構造
- 4 法における強制（主体・方法・意味）
- 5 法の目的（正義・秩序）
- 6 法の効力
- 7 法の適用
- 8 法の解釈

II 憲法における人権

- 1 日本国憲法の基本原理
- 2 基本的人権の視角
- 3 包括的人権
- 4 法の下での平等
- 5 内心の自由
- 6 信教の自由と政教分離
- 7 表現の自由
- 8 経済的自由
- 9 身体的自由
- 10 社会権
- 11 立法と国会
- 12 行政と内閣
- 13 裁判と司法

履修上の留意点

講義では、「検討する」という姿勢を重視します。したがって、受講者も、講義を聞き、板書を写し、それを覚えるということではなく、常に「考える」という態度で望んでほしいと思います。そのためには、少なくとも、教科書の講義該当部分を読んでおくことが必要です。

成績評価の方法

成績は、学年末に行う試験を中心に評価します。受講者数にもよりますが、出席をとった場合、それを平常点として評価することもあります。

教科書

I の分野については、有沢知子・光田督良・山本悦夫著 『法と社会生活』 尚学社 2,060円

II の分野については、古野豊秋編 『スタンダード憲法〔テキスト版〕』 尚学社 1,000円

参考書等

六法（用途に応じた種類等については開講時に紹介します）。参考書等は講義の進行に応じその都度紹介します。

その他

主として講義の形式ですすめます。

科目名	担当者名	配当学科	単位
法学・憲法(2) 〔法と社会生活〕	はせがわ ひでよ 長谷川 日出世	二経・二法・二営	4

講義のねらい

我々は、好むと好まざるとにかかわらず、法と密接なかわりのある生活を強いられている。しかしながら多くの場合、我々はこの事実を知らず、何等かの法的問題が発生した時に初めて、これに気付く。

本講義では、まず、社会生活を営む上で不可欠な、社会規範としての法の生成およびその性質についての分析をおこなう。そして、次に、そこで得られた法概念を基礎に、国家の基本法である憲法と我々のかかわりあいを検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では、法を学ぶために必要な基礎的知識の修得を目指す。具体的には法と道德の関係、法と強制、法の体系性、国家と法、実定法上の原則等。

後期は、日本国憲法を具体的に検討する。特に日本国憲法の基本原理の成り立ち、基本的人権の保障規定等についての検討。

成績評価の方法

定期試験によるものとする。

教科書

長谷川日出世・中山政義・土屋茂著『法に学ぶ世界』高文堂出版社 2,380円

参考書等

『ポケット六法』有斐閣

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会科学論 (1) 〔社会認識の思想〕	あ べ 部 弘 ひろし	二経・二法・二営	4

講義のねらい

「社会科学」という概念はフランス革命の最中に生まれ、その後19世紀のヨーロッパ社会の発展過程の中で体系化されてきた。「社会科学」の誕生は実は「人間科学」の宣言を告げ、人間とは何か、ということと社会との関係のなかで明らかにすることになった。そして「人間社会」を造り、発展させて行くのは他ならない自分たち「人間」なのだということを宣言したのであった。したがって「社会科学」と呼ばれる「科学・思想」は「社会認識の思想」と言われる。

この講義では「社会科学」がどのような生成・発展過程を経てきたのかを明らかにすると同時に、実際にこれまでに種々の思想家等が書いてきた古典的な「社会科学」の文献を読んでその体系を把握するとともに、講義をする講師・受講生共々それらの文献を通してそれぞれの文献が経験した社会を認識し、現在の社会を把握するとともに将来を展望することを課題とする。

講義の内容・
授業スケジュール

I 講義

- 1 : フランス革命と社会科学論の登場
- 2 : 資本主義体制と社会科学論
- 3 : 「社会科学」の意味するもの

II 実習

- 1 : ジャン・ジャック・ルソー：『社会契約論』（1762年）
- 2 : 福沢諭吉：『学問のすゝめ』（1872-76年）
- 3 : フリードリヒ・エンゲルス：『空想から科学へ』（1880-92年）
- 4 : 渡辺洋三：『法というものの考え方』（1959年）

成績評価の方法

「実習」で評価する。

具体的には、4冊の文献を読み文献ごとにレポートを作成し、提出するものとし、この4回のレポートで評価する。

レポート時期は7月・10月・12月・1月とする。

教 科 書

「実習」で用いる文献（受講生は講義履修に当たって購入しておいてください）

『社会契約論』、岩波文庫／『学問のすゝめ』、岩波文庫
『空想から科学へ』、(大月センチュリーズ) 大月書店
『法というものの考え方』、岩波新書

参 考 書 等

[参考] 阿部弘：「社会科学」について、駒澤大学経済学会『経済学論集』vol.120-No.3
阿部弘：市民と経済学、『祝禱 文化講演集』第八輯、駒澤大学、1996.12

そ の 他

講師との連絡が便利のように、連絡先を掲げておく。

研究室：第2研究館5F / No.2538 / TEL : 03-3418-9360

講師の住所：☎179-0072 練馬区光が丘6-1-4-204 / TEL03-3976-7984

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 学 (1) 〔現代経済と人間〕	みょう せ まさ はる 明 瀬 政 治	二経・二法	4

講義のねらい

本講義は、理論体系を近代経済学に依拠し、私たちがその中で日々生活している現代の市場経済の仕組み・機能をできるかぎり平易に解説し、結果として受講生諸氏の「経済を見る目」を培うことをねらいとしています。

講義の内容・授業スケジュール

受講生にあっては、本講義を単に教養科目の一つとしての経済学と考えている人もいれば、これをさらに本格的な経済学へ向かう導入部と理解している人もいると思います。

講義を進めるにあたり、前者に対しては「教養は身につけてこそ教養」と考えて、単なる「知識」の習得ではなく現実の生活の中で生かせる「知恵」となるよう工夫しています。つまり、テクニカルタームの解説に墮することなく、具象から学問のコアを浮かび上がらせる手法を採っています。

また、この講義は、それ自体、完結した現代経済学への入門を企図していますので、平易な表現の中に押さえるべき主要事項はきっちりと盛り込んでいます。したがって、「経済原論Ⅱ」、「価格理論」、「国民所得論」、「財政政策」のような、経済学部で開講されているもっと上級レベルの科目への橋渡し役を意図しています。

上記の趣旨から、ここではテクニカルタームによるテーマの羅列は致しません。

講義に臨んで、私の信条らしきものを掲げておきます。

①難しいことを、あーそうか、と言わせたい

②きょうは「経済学」か、と言わせたい

そして、

③結構おもしろい(じゃん)、と言わせるぞ

成績評価の方法

成績は、学期末に行う試験を中心に評価しますが、予告有りて業間チェック(クイズ)を行い、平常点として考慮します。

教科書

教科書は、酒井泰弘 著『はじめの経済学』(有斐閣) 1,957 円を使用しますが、基本事項を整理しておきたい受講生、もっと本格的に学びたい受講生には、下記の図書を推薦します。

参考書等

幸村千佳良 著『経済学事始』(多賀出版)

伊藤 元重 著『入門経済学』(日本評論社)

林 俊彦 著『需要と供給の世界』(日本評論社)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 学 (1) 〔現代社会を考える〕	はし つめ さとし 橋 爪 敏	二経・二法・二営	4

講義のねらい

この講義は、「社会学」についての基本的な知識を提供し、あわせて、「現代社会」についての若干の問題を論ずることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

「講義のねらい」で述べたように、この講義は「社会学」の知識と、「社会学」的見方を通してみた「現代社会」の問題を扱うことになる。しかし、ほとんどの学生諸君は「社会学」についての予備知識は無いものと思われる。「社会学」は高等学校までの社会科とはかなり異なっている。そこで、まず、前期においてこのような社会学独自の社会現象の見方、考え方、基礎的な知識を理解し、後期に、こうした理解を踏まえて、「現代社会」の諸問題—大衆社会、高度情報化社会、高度消費社会等—を扱うことにしたい。

成績評価の方法

成績の評価は、講義内容に関わる基本的な問題について、学年末におこなうペーパー・テストによって評価する。

教科書

安藤喜久雄ほか編『社会学概論』学文社

参考書等

高尾・橋爪編『社会学の基礎』犀書房

R. ニスベット『現代社会学入門1～4』講談社 学術文庫

その他授業中に適宜指示したい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会学 (2) 〔現代文化を考える〕	はし づめ 橋 爪 さとし 敏	二経・二法・二営	4

講義のねらい

この講義は、「社会学」についての基本的な知識を提供し、あわせて、「現代社会」についての若干の問題を論ずることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

「講義のねらい」で述べたように、この講義は「社会学」の知識と、「社会学」的見方を通して「現代社会」の問題を扱うことになる。しかし、ほとんどの学生諸君は「社会学」についての予備知識は無いものと思われる。「社会学」は高等学校までの社会科とはかなり異なっている。そこで、まず、前期においてこのような社会学独自の社会現象の見方、考え方、基礎的な知識を理解し、後期に、こうした理解を踏まえて、「現代社会」の諸問題－文化とは何か、現代文化とは何か、大衆文化等－を扱うことにしたい。

成績評価の方法

成績の評価は、講義内容に関わる基本的な問題について、学年末におこなうペーパー・テストによって評価する。

教科書

安藤喜久雄ほか編『社会学概論』学文社

参考書等

高尾・橋爪編『社会学の基礎』犀書房
R. ニスベット『現代社会学入門1～4』講談社 学術文庫
その他授業中に適宜指示したい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
統計学 (1) 〔社会現象の統計的決定〕	くさ か やす お 日 下 泰 夫	二経・二法・二営	4

講義のねらい

統計学は、観測値（バラツキをもったデータ）から観測値の源泉に関する結論を引き出す方法であり、経営、経済をはじめとする社会現象の解析、意思決定などに広範に使用されています。本講義は、統計学の入門として、その基本的な考え方と方法を現実の問題を引用しながら平易に解説することをねらいとしています。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 統計的方法の本質、2. 記述統計、3. 標本空間と確率、4. 確率変数と確率分布、6. 母集団と標本、7. 推定、8. 検定、9. 相関、10. 回帰

履修上の留意点

統計学は数学の一分野であり、積み重ねが要求される分野です。継続して講義に出席し、確実に理解していくことが大切です。

成績評価の方法

後期末に行う試験を主に、出席状況、演習を加味して評価します。

教科書

P. G. ホーエル（浅井 晃、村上正康 共訳）『初等統計学』（培風館） ¥1,700。

参考書等

開講時に紹介します。

その他

授業の方法：重要な部分はその講義の終了の都度個別に演習を実施しますが、全講義の終了直前（12月頃）に3～4時間をかけて演習を行います。ここでは、これまでに学習した全内容に関する典型的な問題とその解答について解説し、自習のための便宜を図ります。また、モンテカルロ・シミュレーションなど、パソコンを使用したいいくつかの演習（デモンストレーション）を講義内容に沿って実施します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文化人類学(1) 〔文化と人間〕	かわ 川 かみ 上 しん 新 じ 二	二経・二法・二営	4

講義のねらい

海外旅行の大衆化など、世界の各国や地域間での人の移動が以前にもまして活発となった今日、活字や映像を通してだけでなく、実際に異文化を体験する機会が多くなりました。皆さんの中にも既にそのような経験をし、または近々経験する計画を持っている人も多いかもしれません。そのような昨今「国際化」「異文化理解」などという言葉がさかんに使われておりますが、ややもすると「異文化誤解」になりかねない危険性もあります。例えば、隣国である韓国への旅行ガイドブックなどには「韓国ではよく結婚しているかどうか、年齢はいくつかなどと聞かれた」という経験談が掲載されたりしていますが、韓国ではなぜそのような質問が行われるのかという理由についてまで説明されていない場合には、そのようなことを単刀直入に相手に尋ねるという習慣の少ない日本人からみたら、時にはお節介、礼儀知らずな国民だなどとさえ思ってしまうかもしれません。しかし韓国にはそのような質問がなされるだけの社会的理由・背景が存在していますから、そのような理由・背景まで理解してこそ「異文化理解」といえるでしょう。」反対に、外国の人が日本人の習慣を見て不思議に思うことも多いといえます。単なる珍談・奇談をおもしろがるだけでは「異文化誤解」となってしまいます。また韓国では、女性は結婚しても姓が変わることはありませんが、これは今日本で盛んに論議されている夫婦別姓の問題と同一レベルで考えられる問題でしょうか。これは、韓国の女性が結婚しても姓が変わらない理由を韓国の社会的背景の中でよく考えてみなければ何ともいえない問題でしょう。

この講義では、いろいろな国や地域の人々のさまざまな「文化」について、その存在する背景・理由などに接近するための見方について紹介することを目的とし、あわせて皆さんが異文化に接する際の手助けになればと思います。

講義の内容・授業スケジュール

文化人類学の一般的な概説や、婚姻、家族、親族組織、経済活動、法、政治、呪術、宗教などさまざまな分野における文化人類学的な見方を紹介していきます。私の体験した具体的な事例もお話しながら講義を進めていきたいと思えます。先に紹介した「韓国ではよく結婚しているかどうか、年齢はいくつかなどと聞かれる」ということや、韓国の女性は結婚しても姓が変わらないことについての社会的背景・理由なども、講義の中で紹介できると思えます。

履修上の留意点

講義で紹介した内容を、皆さんが暮らしている地域社会での様子、これまでに体験したこと、お祖父さんやお祖母さんから聞いたことなどさまざまな身近な経験と関連させながら、常に問題意識をもって考えてみてください。

成績評価の方法

学年末の定期試験で成績評価を行います。

教科書

特に教科書は指定しませんが、講義の中で紹介する本など一冊でも多く参考書を読んでください。

参考書等

祖父江孝男『文化人類学』中央公論社（中公新書）、村武精一・佐々木宏幹編『文化人類学』有斐閣（有斐閣Sシリーズ）、足立明・春日直樹・山本春樹・鈴木岩弓・伊藤義之『文化と現代世界』嵯峨野書院、など。

科目名	担当者名	配当学科	単位
文化人類学(2) 〔諸民族とコスモロジー〕	すぎ杉 井 純 一	二経・二法・二営	4

講義のねらい

現代世界では様々な民族が絶えず各地を行きかい、自分とは異質な人々との交流や対立を深めています。人々は救いがたい憎悪の念で争うこともあれば、民族の垣根を越えた深い友情で結ばれることもあります。多民族社会、多文化社会へと進む中で、私達は本当に理解しあえるのでしょうか。

文化人類学は民族や文化の多様性を相互に比較することで、お互いの差異や共通性についての認識を深め、「人間とは何か」といった根源的な問いに答えようとするものです。具体的には、人々の生活空間や慣習・儀礼の分析などを通して、「人間を取りまく世界、宇宙の成りたちやくみ」についての観念体系を理解していきます。

本講義では、Ⅰ文化人類学の基礎、Ⅱ諸民族とコスモロジー（宇宙観、世界観）を大きな柱とします。この過程で多様な民族文化の存在を知り、互いを尊重する世界の可能性について考えていきたいと思ひます。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 文化人類学の基礎
 1. 文化人類学とは何か
 2. 文化とコミュニケーション
 3. 環境と経済
 4. ジェンダーとセクシュアリティ
 5. 婚姻、家族、親族
 6. 政治と権力
- II. 諸民族とコスモロジー —アジアを中心
 1. 民族とエスニシティ
 2. 民族・宗教・国家
 3. 儀礼の構造
 4. 呪術と宗教
 5. 共同体と象徴的秩序
 6. 神話と世界観

成績評価の方法

夏期レポート、期末試験で評価します。

教科書

特に指定しません。

参考書等

祖父江孝男『文化人類学入門』中公新書、佐々木宏幹・村武精一編『宗教学人類学』新曜社

その他

できるだけ、ビデオを利用します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政治学 (1) 〔政治システムと政治参加〕	ほうりしょういち 宝 利 尚 一	二経・二法・二営	4

講義のねらい

冷戦後の国際政治、国際関係の変化を具体的な事例をもとに分析し、解説する。その過程で外国の政治システム、市民団体などの政治参加などについて検証する。

講義の内容・授業スケジュール

国際政治、経済、社会、文化の事例を取りあげ、国際政治の仕組み、国家、民族、宗教のあり方、非政府組織（NGO）の活動などについて考察する。

年間を通じて、冷戦後の国際政治の動向、とくにアジア・太平洋地域の変化を適格に理解できるように指導する。

特に若い世代が日本だけでなく、国際政治への関心を高め、政治参加の意識をもつよう解説したい。

履修上の留意点

授業をより実りあるものにするため、学生の積極的な発言を期待したい。とくに新聞をよく読み、世界の動き、日本の動きに関心をもつようにしてもらいたい。

成績評価の方法

不定期に国際政治用語などについての小テストを行う。定期試験は2-3のテーマから1テーマを選び、論文作成とする。

教科書

教科書は特定しない。国際政治システム、国際政治に関する論文、解説、図解などを参考資料としてプリントし、その都度配布する。

その他

プリント教材をもとにグループ・ディスカッションなども考えてみたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政治学 (2) 〔国際社会と日本〕	やまだ あつし 山 田 敦	二経・二法・二営	4

講義のねらい

政治学入門講座の1つとして、「政治を見る眼」を養うことを目的とする。副題にあるとおり、国際社会のなかで現代日本が直面するさまざまな問題点や課題を取り上げるが、いわゆる時事問題解説ではなく、出席者ひとりひとりが政治問題を考えていくための「分析の道具」を提供することがねらいである。政治学・国際政治学の理論や概念を手がかりに、今日の国際社会と日本について、各自が意見を形成していくことを望む。

講義の内容・授業スケジュール

主として以下の項目を取り上げる。詳しい授業のスケジュール表は、第1回目の講義で配布する。

- 1 イントロダクション
- 2 「ジャパン・プロブレム」とは何か
- 3 日本異質論
- 4 日本ただ乗り論
- 5 貿易摩擦と日本
- 6 国際組織と日本
- 7 日本の国際貢献

履修上の留意点

出席者の希望も取り入れて講義内容を充実させたいので、講義初日にアンケートを実施する。日本政治あるいは国際政治で特に関心がある問題を2-3つ考えておくこと。授業中の質問、発論、激論を歓迎する。

成績評価の方法

中間レポートと学期末試験による。どちらも、①論旨明快であるか（発想だけで裏付けがなければ不可）、②みずからの意見を述べているか（参考書の丸写しは不可）を評価基準とする。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書等

さらに詳しく勉強したい出席者のために、最初の講義で項目別の参考文献リストを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
心 理 学 (1) 〔ヒューマン・ウォッチング〕	すず ぎ じゅん いち 鈴 木 順 一	二経・二法・二営	4

講義のねらい

心理学全般の幅広い知識の概念学習は、個人的にできるので自宅でしていただけます。
授業では、主として性格心理学や臨床心理学を背景に、学生相互のコミュニケーションを深め、お互いを鏡として自己を見つめ、自分や他人の性格を理解し、自己成長するための体験学習をしていきます。

講義の内容・
授業スケジュール

- 次のような内容を、講義と共にグループにより体験学習していきます。
- ① 学生相互のコミュニケーションを深め、心のふれあいを体験する。
 - ② 自分や他人の性格を理解する。
 - ③ 自分の性格形成史をふり返る。
 - ④ 性格変容の理論と技法を学ぶ。
 - ⑤ 心の悩みから立ち直る方法を学ぶ。
 - ⑥ 心病む人の心理的成長を援助するかわり方を学ぶ。

履修上の留意点

講義形式ではなく、グループによる話しあい中心の体験学習のため強い主体的参加意欲が要求されます。最初の授業で述べる授業方針とルールをよく理解して、自己の責任において主体的に選択して下さい。

毎回出席をとり、出席が重視されますので欠席しがちな人は履修しないで下さい。

成績評価の方法

平常の小試験、小レポート、そして出席点等の平常点にて評価します。

教 科 書

中村昭之編『心理学概説』（八千代出版） 1,500円
川瀬正裕・松本真理子編『自分さがしの心理学』——自己理解ワークブック——（ナカニシヤ出版） 1,600円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
心 理 学 (2) 〔人間関係を考える〕	すず ぎ じゅん いち 鈴 木 順 一	二経・二法・二営	4

講義のねらい

より良い人間関係を築くには、自分や他人の性格を深く理解し受容する必要があるでしょう。特に、自己を知り自分をコントロールすることは重要です。

自分のことは自分が一番良く知っているようでいて、実は案外知らないことが多いことを深層心理学は教えてくれます。他人という鏡を通して自己を見つめなおさないと、本当の自分の姿はなかなか見えてこないものです。

本講座では、主として性格心理学や臨床心理学を背景にして、学生相互のコミュニケーションを深め、お互いの性格を理解し、より良い人間関係を築いていくような体験学習をしていきます。

講義の内容・
授業スケジュール

- 次のような内容を、講義と共にグループにより体験学習していきます。
- ① 学生相互のコミュニケーションを深め、心のふれあいを体験する。
 - ② 自分や他人の性格を理解する。
 - ③ 自分の性格形成史をふり返る。
 - ④ 性格変容の理論と技法を学ぶ。
 - ⑤ 心の悩みから立ち直る方法を学ぶ。
 - ⑥ 心病む人の心理的成長を援助するかわり方を学ぶ。

履修上の留意点

講義形式ではなく、グループによる話しあい中心の体験学習のため強い主体的参加意欲が要求されます。最初の授業で述べる授業方針とルールをよく理解して、自己の責任において主体的に選択して下さい。

毎回出席をとり、出席が重視されますので欠席しがちな人は履修しないで下さい。

成績評価の方法

平常の小試験、小レポート、そして出席点等の平常点にて評価します。

教 科 書

中村昭之編『心理学概説』（八千代出版） 1,500円
川瀬正裕・松本真理子編『自分さがしの心理学』——自己理解ワークブック——（ナカニシヤ出版） 1,600円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生 物 学 (1) 〔生態と進化〕	し 清 みず よし かず 水 善 和	二経・二法・二営	4

講義のねらい

地球上の生物はすべて、約40億年前に誕生した始原生物に端を発し、その後連綿と続いた進化の産物である。どの生物も進化の遺産を負って存在しているわけであり、進化を抜きにして生物を理解することはできない。一方でこの地球上には現在1000万種以上の生物が存在していると推定されている。肉眼では見えないバクテリアから体長20m超すシロナガスクジラまでさまざまな形、大きさの生物が熱帯から極地、高山から深海まで地球上のあらゆる場所にいて独自の生活を築いている。この生物の多様性が生物を理解するもう一つのカギである。さらに、これらの生物は孤立して存在するのではなく、互いに密接な関係を保ちながら地球上にさまざまな生態系を形成している。本講義では生物の進化や生態の実際を体系的に捉えるとともに、生物の進化や多様性の維持に関するメカニズムについて解説する。

講義の内容・授業スケジュール

講義で取り上げる主な項目：進化と遺伝子、進化論と総合進化説、進化のタイムテーブル、系統と分類体系、種の定義と属性、種分化と絶滅、生物多様性、分子進化、動物行動学、人類の進化、生態系、食物連鎖と生態ピラミッド、物質循環、生態学的地位、生物地理区、植生帯、植生遷移、個体群の動態、共生、都市と生物、など。

成績評価の方法

テスト、レポート、出席を勘案して評価する。

教 科 書

特に用いない。

参 考 書 等

適宜紹介する。

そ の 他

必要な図表は適宜プリントにして配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生 物 学 (2) 〔生物と環境〕	なか むら とし え 中 村 敏 枝	二経・二法・二営	4

講義のねらい

一つの卵と一つの精子があれば、顕微受精によって新しい生命を誕生させることができる。永久凍土に眠るマンモスの精子を冷凍保存された精子と考えれば、これとアフリカゾウの卵細胞を用いて混血個体をつくり、何世代も体外受精をくり返すことによって、絶滅したマンモスを復元することは可能であるといえよう。ところで、この20年以上、人間の精子が減少傾向にあり、このまま減少が続けば次世代の誕生が期待できない事態が数十年後に訪れるともいわれている。マンモスの再生よりも先に、人類が絶滅するという可能性もあるのである。

間違いない、地球は将来人類絶滅の瞬間を用意している。人類にそれを避ける手段はない。できることは、その瞬間をどれだけ先に送るかだけなのだ。人類が救わなければならないのは「病んだ地球」、「傷ついた地球」ではなく人類自身である。私達が守らなくてはならないのは、人類の生存が可能な現在の地球環境である。現在の私たちの生活のありかたが、人類史の長さを決定する。将来の世代のために私達はどうすべきなのか一緒に考えましょう。

講義の内容・授業スケジュール

1. 生物の生活：生命の維持・植物の物質生産・動物の個体群・社会・行動
2. 生態系：物質の循環・エネルギーの流れ
3. 人間による環境破壊：オゾン層の破壊・地球温暖化酸性雨・熱帯雨林の破壊・化学物質汚染・ゴミ問題など（これらのうちの幾つか）

そ の 他

意見発表の場を設けるので、積極的に取り組む学生の参加を期待します。期末試験と平常点とで総合評価をします。教科書は未定。参考書はその都度紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
コンピュータ基礎(1) [コンピュータと情報]	たけだ よういち 竹 田 洋 一	二経・二法	4

講義のねらい

今日の情報化時代、コンピュータが我々の社会において果たす役割はきわめて重要なものとなっており、この技能を少しなりとも有することは特にこれからの若い世代にとってはほとんど不可欠であるとみなして良いであろう。本授業の目的とするところは、未経験の初心者を対象にして、①コンピュータに関する最低限の基礎的知識、並びに②将来必ず必要になる代表的なビジネスソフトの操作経験、を身につけてもらうことにある。とはいえ堅苦しく考えるには及ばない。基本的な姿勢として、無味乾燥な学問的知識を強いて覚え込ませるという形はなるべく取りたくはない。むしろ「習うより慣れる」に重点を置いて、パーソナルコンピュータを実地に操作する演習を中心に据え、「コンピュータとはこんなことまで出来るんだ」といった感動を一人一人が自分自身の感覚で味わってもらいたいものと願う次第である。

講義の内容・授業スケジュール

この基本的指針ののっとり、次のような実際上の目標を設定して授業を進めたいと思っている。まず最初は、現在もっともポピュラーになったパソコンのオペレーティングシステムの代表格であるウィンドウズ（Windows 95）に親しみ、習熟することを目指す。タイピングや日本語入力などのキーボードの操作、マウスを用いたウィンドウズの基本的テクニックから初めて、ファイル並びにディレクトリの取り扱い、フロッピーディスクへのデータの読み書き、オンラインヘルプの利用法、などをまず学習する。そしてワープロや描画ソフトなどを用いてデータの交換と貼り付けの手法を学び、絵入りの文書が作成できるまでの基礎を身につける。

しかる後にビジネスソフトパッケージの代表格であるマイクロソフト社の「OFFICE」に含まれる各ソフトを用いての実習に取り組む。前期は主に表計算ソフトの「EXCEL」を扱うことにする。基本的な帳簿計算やグラフの作成の手法を学習することで、如何にこの種のツールが実際のビジネスにおいて便利なものであるかを自分自身で体験してもらいたい。後期は「データベースの取り扱い」をメインテーマに据えたい。前期で慣れた EXCEL に加えて、高機能のデータベースソフト「ACCESS」を用いて大量のデータの取り扱いと整理の仕方を学ぶ。できれば最終的には、初歩的なレベルのプログラミングで独自のシステムやインターフェイスを作ることのできる段階にまで到達してもらいたい。

履修上の留意点

先にも述べたように初心者を対象とするので特に予備知識の必要性はないが、折に触れて課題や宿題を出すつもりであるので授業以外でもパソコンの使用が必ず必要となるであろう。そのためには情報教育センターの自習室のパソコン群があるので、センターにこの利用のための登録（登録料1,000円）をする事はほとんど必須であるものと理解されたい。

成績評価の方法

各人の成績は、一年を通しての出席の様子、課したレポートや課題の提出状況と出来具合のおの前期後期の終わりに行う計2回の試験の点数、などに基づき総合的に判断して決定する。

教科書

本年の授業では決まった教科書は特に用いない。しかし毎回授業の際にプリントを配布する予定である。

その他

授業は、ひと月のうち1回は講義室での講義、残りの3回（ないしは4回）はパソコン室での実習と解説、という割合で進めたい。なお、実習室のパソコンの台数が限られているため、受講希望者が多い場合は選考せざるを得ないので、その旨理解されたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
コンピュータ基礎(2) 〔コンピュータと情報〕	うえ はら りゅう へい 上 原 隆 平	二経・二法	4

講義のねらい

コンピュータの動作原理を学ぶ。実習を交えながら現在のコンピュータネットワークの上で実現されているさまざまな機能を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

コンピュータとはなにか、どのようなもので構成されているか、という金物的な話から、そのうえで実現され、実行されるソフトウェアとはどのようなものか、という話、さらにはコンピュータがネットワークを通じて相互に接続されたインターネット上ではどのようなサービスが利用できるのか、という話まで、実習を交えて行う。ソフトウェアの背景となるプログラミング言語とプログラミングにも途中で簡単にふれる。インターネット上のサービスとして、電子メール、オンラインニュース、wwwなどのサービスを（可能ならば）実際に利用する。その際にインターネット上のセキュリティに関する話にも簡単にふれる。最終的にはHTMLを用いたホームページの作成を通じて、構造を持った文とは何かを知る。

履修上の留意点

予備知識は仮定しないが、講義は必ず毎回出席し、出題された演習を必ず解いているものとする。また状況によっては、コンピュータの利用申請が必須になる場合もある。

成績評価の方法

評価は前期末（中間試験）と後期末（期末試験）の2回の筆記試験および演習（授業時間中に適宜行う）によって行う予定である。

参考書等

参考書は必要に応じて紹介する予定である。

その他

実習のために、計算機室で講義を行う。コンピュータの数に限りがあるので、受講者数を制限することもある。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地球科学(1)(2) 〔自然景観の成立〕	うるし はら かず こ 漆 原 和 子	二経・二法・二営	4

講義のねらい

地球の陸地形成の歴史を説明し、日本の位置の特色を明確にする。また、地球をとりまく大気の変化の歴史をたどる。そして今日の地球の人間活動について考察をする。講義の骨子は次のとおりである。

- 1) 世界の陸域と日本列島の成り立ちについて論じ、日本列島の世界的位置づけをおこなう。
- 2) プレートテクトニクスの観点から日本の地殻変動について説明する。
- 3) 第四紀における気候変化と人類の進化、海水準変動について述べる。
- 4) 歴史時代の気候変化とそのメカニズムについて述べる。
- 5) 人間活動によって引き起こされた地盤沈下、土砂崩れ、海岸侵食などについて述べる。

成績評価の方法

期末テスト、レポートによって行う。

教科書

貝塚爽平『日本の地形』（岩波新書）G38、480円

その他

講義を原則とする。適宜スライド、プリントの配布をする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
自然環境論 (1) 〔宇宙から見た地球環境〕	しの 篠原 まさお 雄	二経・二法・二営	4

講義のねらい 工場が周囲を汚染する公害問題から始まって、今日では全地球的な環境問題が議論されている。人類の活動が、物質循環においてもエネルギー循環においても惑星規模に達したことの当然の結果である。本講では個別の環境問題ではなく、[地球環境]とはそもそもどんなものであり、どのように形成され、変化してきたかを論じる。

太陽系の惑星の一つである地球の自然環境は46億年の太陽系の歩みの結果形成されてきた。現在も、太陽はもろろんのこと、太陽系内外の宇宙からのさまざまな影響の下にある。また、過去30年間の太陽系探査により多くの天体が調べられ、地球をこれらの天体と比較しながら研究できるようになってきた。本講では、現代の天文学と惑星科学の成果の上に立ち宇宙の視点から地球の自然環境を考える。

講義の内容・授業スケジュール 前期は、地球環境の支配的な要因である太陽放射とその役割について学ぶ。太陽放射の変動、地球軌道の変化、太陽放射を受ける側の大気、海、生物の役割を学び、金星などと比較しながら、オゾン層、地球温暖化の問題を考える。

後期は、太陽・地球磁場と自然放射線、月の影響、地球の過去と未来等のテーマを取り上げる。

成績評価の方法 学期末に行う筆記試験により、平常点を加味する。

教科書 『環境の科学』学会出版センター

参考書等 講義の中で紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
自然環境論 (2) 〔環境と自然保護〕	し 清 みず よし かず 水 善 和	二経・二法・二営	4

講義のねらい 南極大陸上空のオゾン・ホールは年々拡大の傾向にある。最近の異常気象の頻発は地球の温暖化とつながりがあるのではないかと疑われている。ヨーロッパや北米の針葉樹の森を禿げ山にした酸性雨は日本でも各地の森林を枯らし始めているらしい。増え続ける自動車の排気ガスによる大気汚染は相変わらずで、スギ花粉症の急増との関係も指摘されている。河川や湖沼の水質改善も頭打ちで浄水器やペットボトル入り飲料水の人気は当分続きそうである。都会をあふれたゴミの山は地方の山林を荒し回っている。何百年も管理が必要な原発や核兵器から出る放射性廃棄物もたまる一方である。熱帯林を中心に世界の原生林が伐採され、絶滅に瀕する動植物が急増している。道路、住宅、ゴルフ場などの開発により日本人に親しまれてきた里山や田園の風景が急速に失われている。私たちははたして次の世代に健全な自然環境を引き継ぐことができるのだろうか。本講義では自然環境に係るさまざまな問題を取り上げ、関連する自然科学分野の基礎知識を復習した上で、その歴史的背景、発生のメカニズム、人間や他の動植物に与える影響、問題解決の取り組みなどを概説する。

講義の内容・授業スケジュール 講義で取り上げる主な項目：地球環境の成立、生態系と物質循環、地球の温暖化、オゾン層の破壊、大気汚染と酸性雨、ゴミ問題、上下水道と水質汚染、公害の歴史、原発と放射性廃棄物、電磁波問題、生物の多様性、熱帯林の破壊、森林の効用、捕鯨をめぐる論争、保全生物学、自然保護の制度と施設、環境倫理など。

成績評価の方法 テスト、レポートと出席により評価する。

教科書 特に用いない。

参考書等 適宜紹介する。

その他 板書中心の講義形式。必要な図表は適宜プリントにして配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情 報 数 学 (1) 〔 情 報 と 論 理 〕	み よ し し げ あ き 三 好 重 明	二 経 ・ 二 法 ・ 二 営	4

講義のねらい

この講義では、コンピュータ科学やコンピュータによる情報処理などについて学ぶ際の数学的部分の基礎についての解説を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

したがって、基本的な数学の言葉の説明から始めて、論理代数と論理回路、アルゴリズムとその存在、計算量の問題、等を解説する予定である。

履修上の留意点

予備知識は仮定しないが、講義は毎回必ず受け、出題された演習を必ず解いているものと仮定する。

成績評価の方法

評価は前期末と後期末の2回の試験によって行う。

教 科 書

教科書は講義の初めに指定する予定である。

(3) 外国語科目

(3) 外国語科目

《選択必修科目》

〔英語〕

英語 I A	(杉本 誠)	全 38
英語 I A	(岡崎 寿一郎)	全 38
英語 I A	(本間 俊一)	全 39
英語 I A	(久保 ひさ子)	全 39
英語 I A	(丹治 弘昌)	全 40
英語 I A	(行廣 泰三)	全 40
英語 I A	(吉江 正雄)	全 41
英語 I A	(北村 弘文)	全 41
英語 I A	(横森 正彦)	全 42
英語 I A	(本間 俊一)	全 42
英語 I A	(森田 隆光)	全 43
英語 I B	(上杉 明)	全 44
英語 I B	(町田 成男)	全 45
英語 I B	(島村 豊博)	全 45
英語 I B	(岸本 茂和)	全 46
英語 I B	(岡崎 寿一郎)	全 46
英語 I B	(川股 陽太郎)	全 47
英語 I B	(山縣 裕)	全 47
英語 I B	(丹治 弘昌)	全 48
英語 I B	(神戸 春樹)	全 48
英語 I B	(杉本 誠)	全 49
英語 I B	(行廣 泰三)	全 49
英語 I A・I B [再クラス]	(吉江 正雄)	全 50
英語 I A・I B [再クラス]	(町田 成男)	全 50
英語 I A・I B [再クラス]	(島村 豊博)	全 51
英語 I A・I B [再クラス]	(相馬 美明)	全 51
英語 II A	(川股 陽太郎)	全 52
英語 II A	(中尾 俊光)	全 52
英語 II A	(林 明人)	全 53
英語 II A	(北村 弘文)	全 53
英語 II A	(横森 正彦)	全 54
英語 II A	(神戸 春樹)	全 54
英語 II A	(佐々木 隆)	全 55
英語 II A	(河内 賢隆)	全 55
英語 II B	(石原 孝哉)	全 56
英語 II B	(中尾 俊光)	全 56
英語 II B	(大庭 直樹)	全 57
英語 II B	(森田 隆光)	全 57
英語 II B	(相馬 美明)	全 58
英語 II B	(河内 賢隆)	全 58
英語 II B	(上杉 明)	全 59
英語 II B	(長谷川 公一)	全 59
英語 II A・II B [再クラス]	(大庭 直樹)	全 60

英	語	ⅡA・ⅡB〔再クラス〕	(岸本茂和)	全60
英	語	ⅡA・ⅡB〔再クラス〕	(桧山晋)	全61

〔ドイツ語〕

ド	イ	ツ	語	ⅠA	(松本洋子)	全63
ド	イ	ツ	語	ⅠA	(佐藤恵子)	全63
ド	イ	ツ	語	ⅠA	(杉本正俊)	全64
ド	イ	ツ	語	ⅠB	(松本洋子)	全64
ド	イ	ツ	語	ⅠB	(柴野博子)	全65
ド	イ	ツ	語	ⅠA・ⅠB〔再クラス〕	(橋本博)	全65
ド	イ	ツ	語	ⅡA	(飯塚公夫)	全66
ド	イ	ツ	語	ⅡA	(杉本正俊)	全66
ド	イ	ツ	語	ⅡA	(飯塚公夫)	全67
ド	イ	ツ	語	ⅡB	(佐藤恵子)	全67
ド	イ	ツ	語	ⅡB	(篠原敏昭)	全68
ド	イ	ツ	語	ⅡA・ⅡB〔再クラス〕	(本橋右京)	全68

〔フランス語〕

フ	ラ	ン	ス	語	ⅠA	(野沢協)	全70
フ	ラ	ン	ス	語	ⅠA	(今関アソ)	全70
フ	ラ	ン	ス	語	ⅠA	(木下雄介)	全71
フ	ラ	ン	ス	語	ⅠB	(前田祝一)	全71
フ	ラ	ン	ス	語	ⅠB	(野沢協)	全72
フ	ラ	ン	ス	語	ⅠB	(前田祝一)	全72
フ	ラ	ン	ス	語	ⅠA・ⅠB〔再クラス〕	(桑田禮彰)	全73
フ	ラ	ン	ス	語	ⅡA	(竹田正純)	全73
フ	ラ	ン	ス	語	ⅡA	(木下雄介)	全74
フ	ラ	ン	ス	語	ⅡA	(竹田正純)	全74
フ	ラ	ン	ス	語	ⅡB	(今関アソ)	全75
フ	ラ	ン	ス	語	ⅡB	(八木明美)	全75
フ	ラ	ン	ス	語	ⅡA・ⅡB〔再クラス〕	(桑田禮彰)	全76

〔中国語〕

中	国	語	ⅠA	(東映全)	全78
中	国	語	ⅠB	(杉山静)	全78
中	国	語	ⅠA	(宮本厚子)	全79
中	国	語	ⅠB	(宮本厚子)	全79
中	国	語	ⅠA	(杉山静)	全79
中	国	語	ⅠB	(天野節)	全79
中	国	語	ⅠA・ⅠB〔再クラス〕	(大久保明男)	全80
中	国	語	ⅠA・ⅠB〔再クラス〕	(塩旗伸一郎)	全80
中	国	語	ⅡA	(周璣)	全81
中	国	語	ⅡA	(杉山静)	全82
中	国	語	ⅡA	(東映全)	全82
中	国	語	ⅡB	(宮本厚子)	全83
中	国	語	ⅡB	(周璣)	全83
中	国	語	ⅡB	(杉山静)	全84
中	国	語	ⅡA・ⅡB〔再クラス〕	(大久保明男)	全84

〔スペイン語〕

スペイン語 I A	(丹羽昌一)	全86
スペイン語 I B	(中山直次)	全86
スペイン語 I A・I B [再クラス]	(荻野雅司)	全87
スペイン語 II A	(中山直次)	全87
スペイン語 II B	(丹羽昌一)	全88
スペイン語 II A・II B [再クラス]	(荻野雅司)	全88

〔ロシア語〕

ロシア語 I A	(廣田英靖)	全90
ロシア語 I B	(廣田英靖)	全90
ロシア語 I A・I B [再クラス]	(廣田英靖)	全91
ロシア語 II A	(廣田英靖)	全91
ロシア語 II B	(廣田英靖)	全92
ロシア語 II A・II B [再クラス]	(廣田英靖)	全92

《選択科目》

英会話 I	(西村祐子)	全93
英会話 II	(西村祐子)	全93
英語 L L I	(小笠原隆元)	全94
英語 L L II	(岩山義春)	全94

英 語

(1) 英語の教育目標

大学での英語教育は、高校までの英語教育の単なる延長ではなく、専門分野の研究に備えること、そして英語の運用能力（コミュニケーション能力）を高めることにあります。英語を通して海外の情報を収集し、分析し、さらにその分析結果を統合できる総合的な判断力を習得しましょう。

近年クローズアップされているコンピューターのインターネットによる世界のネットワーク化などにみられるように、各研究分野間の融合において使用されるコミュニケーション言語は、9割以上が英語です。EUやAPEC諸国、東南アジアやアフリカ諸国での国際政治・経済・文化活動において通文化的に用いられる言語も英語が一般的です。地球の反対側で起こっている事件を衛星中継によるテレビやラジオで同時に視聴できる時代です。マスメディアが発達し、交通機関も整備された世界にあって、世界中の情報が日本に集まってきます。情報化のお蔭で英語圏の国々も身近になってきましたが、英語は今や英語を母語とする人達だけのためのものではありません。先進国と発展途上国の立場のずれを理解し調整したり、環境保全など地球規模での問題を解決するためのコミュニケーションの言語として活躍する英語は、今や地球的相互依存の関係をはかる上での重要な手段なのです。

皆さんは、大学の授業では、外国の情報やニュースを「受信」し、テキストの精読、速読、多読などの訓練により、文化、社会、歴史、風土などを学びながら、他の文化に生きる人々の考え方やものの見方を捉えていきましょう。同時に、日本の技術や文化、考え方を理解して貰うための手段として、こちらからも「発信」できるような英語運用能力をつけ、向上させていきましょう。そのためには、聞き取りの力を充実させながら、自分の考えを分かりやすい、説得力のある英語で表現する訓練が欠かせません。さらにスピーチやグループ討論などによって英語表現・コミュニケーションの論理的展開方法や英語的発想を習得していく必要があります。

英語学習の最終目標は、外国語の習得を通じて、現実の内外の諸問題から、その背後にある文化的、社会的、歴史的な意味と構造を捉え、それを再び現実の文脈の中で捉え直すことです。「使える英語」にならなくては、これまでの6年間の英語学習が水泡に帰してしまいます。大学での英語が必ず皆さんの力となり、将来に役立っていくためには、効果的に学習することが必要です。授業だけでなく、積極的な自宅学習や個人的な努力を心がけましょう。少しでもよいから、定期的に英字新聞や雑誌を読み、また英語放送をテレビやラジオ講座で視聴してみましょう。本学図書館ではニューヨークタイムズ、ロンドンタイムズ、ヘラルドトリビューン、ジャパントゥタイムズなどが読めます。さらに講師の許可を得て、必修や選択などの科目以外にも、一般の英語講読、作文の授業、LL、会話の授業などに随意参加してみることが可能です。大学の施設や授業を充分に利用して語学力を高める努力をしてみましょう。その気になれば、LL自習室やコンピュータ自習室、図書館視聴覚室にはビデオ映画や英語教材など、いろいろ利用できるものがそろっているのです。

(2) 英語の授業

英語の授業は全て演習科目なので、全授業日数の3分の2以上の出席が必要です。レポート、小テスト、プレゼンテーションなどの課題を重視します。

英 語 I A

英語による意志伝達 (Writing and/or Speaking) : 入学時の英語を基礎として、英語の運用能力をのばします。文章表現の場合、文から段落へ、会話表現の場合、日常基本表現から、多様な会話表現の理解と運用能力を目指します。

担当 者 名	配 当 学 科	単 位
すぎもと まこと 杉 本 誠	二 経 1 年	2

講義の内容・授業スケジュール

この授業の目的は英語が聞いてわかり、伝えたいことを口に出して言える、いわゆる英語コミュニケーション能力を身につけることを目標とする。最近のように国際交流の進展がめざましい時代にあたっては、特に聴解力と発話力の必要性が強く求められているからである。テキストには全部で20篇のじっくり味読するに足るアメリカのビジネスと日本に関する比較が成されている。アメリカ文化のもとで生まれた会社の創立の歴史や、エピソードなどが盛り込まれており、行間に漂うユーモアの醍醐味を感じ取ったり、平易な語いをういて密度の濃い表現ができることなどを学んでゆきたい。英問英答、口語表現、対話練習などを通じて英語力をしっかりと身につけることを目指す。

成績評価の方法

前期・後期試験、レポート、小テスト、出席率などを総合して評価する。

教 科 書

『アメリカのビジネスと日本』(成美堂) ¥1,600

担当 者 名	配 当 学 科	単 位
おかざき とし いち ろう 岡 崎 寿 一 郎	二 経 1 年	2

講義のねらい

今日の言語発達史は、母国語を学ぶ子供は、6才で基本的な文法力を、10才で基本的な抽象能力を、大学の二・三年生で高度な抽象能力を獲得することを明らかにしています。抽象能力というのは、「平和」とか「国家」といった抽象(観念)語を連合して、論理的な思考を発表、あるいは、文章化することのできる能力をいいます。従って、大学の語学教育は、人間の能力の十全な開発と完成を目指す教育の発達段階にある学生たちにとって必須の教育過程であるといえます。それ故、授業では、基本的な文法の学習から出発します。「文の五型」についての徹底的な習得。日本語の文法概念にはない、英語の「冠詞」、「前置詞」についての十分な理解。そして、練習問題の活用を通して、ラディカルな英語の文章表現能力の養成を目指します。

履修上の留意点

授業では、テキストの文法事項・内容について解説をしますが、理解を深めるために必ず予習をしてください。練習問題についても可能なかぎり自分で解答を試みる必要があります。これらの学習によって、言語と思考の密接な関係が理解されるとおもいます。

成績評価の方法

平常評価としての出席点(50%)、前期試験に代わる夏季レポート(25%)、後期試験(25%)による総合評価とします。

教 科 書

三浦敏明他『精説高等英文法』文化書房博文社 ¥1,500

担当者名	配当学科	単 位
ほん 本 間 俊 とし かず 一	二 経 1 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

教科書の英文の訳読とその構文理解を中心として学びながら、話題は英米文化圏の日常生活、そして彼らの思考、さらに日本との比較に及ぶ。通常の授業は、前もって学習する予定を発表し、予習を前提に授業を進める。さらに、年間を通じていくつか課題の提出を要求するつもりである。学習においては、もちろん細部にこだわるつもりであるが、あまり細部にこだわり過ぎて全体観を失うことは愚かなことであるから、時には相手に大きな誤解を与えない程度に大胆に要約する能力を養えるようにする。

成績評価の方法

前期と後期の2回の試験はもちろんのこととして、普通の授業での発表、さらに年間を通じての課題の提出で評価を決定する。授業の出席は3分の2以上、遅刻3回で1回の欠席と計算する。なお、課題の提出の仕方については、授業で細かく説明するつもりであるが、休職中にパソコン・ネットワークでも可能であるから興味のある学生はそれに習熟されたい。

教 科 書

- (1) 『英語へのパスポート』朝日出版社 1,009円
- (2) Stories For Better Understanding 金星堂 800円

担当者名	配当学科	単 位
く 久 保 ひさ子 こ	二 経 1 年	2

講義のねらい

外国人と話す時、重要な役割を果たすのは、ユーモア、ジョーク、ウィットです。英語の短いジョークを憶えて、実際にボンと英語でジョークを言えるようになればと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

四月第一回目授業でお話し致します。

履修上の留意点

日本語訳にするだけでなく、その笑話のおちが分り、又、その笑話を実際に使えるように応用力をつける。

成績評価の方法

前・後期試験 各50%。
発表者は、得点可能。

教 科 書

“Party Jokes” 南雲堂

担当者名	配当学科	単 位
たん じ ひろ まさ 丹 治 弘 昌	二 法 1 年	2

講義のねらい

日々のニュースから英語を学んでいく。多少の難しい単語に出会っても、全体のニュアンスを重視し、おおまかに意味をとらえる練習をする。新聞や雑誌の記事の内容は経済に関するものばかりでなく、政治や国際的な事件を含む広範囲な話題を選んで読んでいきます。それと共に、情報に対する接し方について初歩的な訓練を通し、内外の情報についての適切な判断力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

テキストは合計24章から成り立ち、香港返還から少子化現象まで24の記事がありますが読む順序はかならずしも一定せずに、時流に応じて変えて授業を行います。時には実際の記事のスクラップを使って読むこともあり、また10年間のデータの集積のなかからニュースの分析といった方法を取ることもあります。

履修上の留意点

英語という語学と情報という分野に強くなるというのが、この講義の目的ですが、みなさんは日頃より社会の出来事やさまざまな現象に関心をもち、自国語ばかりでなく外国語によって情報を得ることに慣れていただきたいと思います。

成績評価の方法

成績評価は、前後期それぞれ二回ぐらゐの小テストと期末テストによって行います。いずれも教場にて授業時間内に行いますので留意してください。

教 科 書

『世界ニュース展望'98』（金星堂）

参 考 書 等

長谷川慶太郎『情報力』（徳間書店）

担当者名	配当学科	単 位
ゆき ひろ たい そう 行 廣 泰 三	二 法 1 年	2

講義のねらい

中学校・高等学校で学んだことを土台に、英文法の知識をより正確なものとし、英作文の能力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

テキストは、文法のための文法でなく英語運用のための基礎知識の能力が身につくように構成されている。各単元毎に文法項目の理解度が計れる練習問題がついている。

成績評価の方法

評価は平常の小テスト、学期末のテストそれに出席点によって行う。

教 科 書

福井・加藤『大学英文法エッセンス』（株）朝日出版社

担当者名	配当学科	単 位
よし え まさ お 吉 江 正 雄	二 法 1 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

興味ある英文を読み、読解力をつけながら、そのセンテンスの中の文法事項に付いて学ぶ。前期では主に文型（五つから成る）や文の種類、時制（特に完了時制）等について学ぶ。後期には、倒置（主に強調構文）やセンテンスストラクチャーについて詳しく学ぶことになる。文法事項のみを行うのではなく、英文の解釈、読解力を付けながら、同時に文法についても学ぼうとするものである。

成績評価の方法

まず、学生の予習を前提にした、徹底的な演習方式をとる。従って授業内での発表の度合いと、前期・後期の試験の結果を踏まえて成績を出す。勿論、全授業数の三分の一を越えて欠席をした学生は試験を受ける権利を失うので注意して頂きたい。

教 科 書

“ A Short History of the World ” 『ウェールズの簡約世界史』 ちびあん書房

担当者名	配当学科	単 位
きた むら ひろ ふみ 北 村 弘 文	二 営 1 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

英語による表現力を養うためには、まずできるだけたくさん聞いて馴れること、次に、易しい言い回しをできるだけたくさん覚えて、それを実際に使ってみることです。授業では、従って、トピックの話の意味を理解したあと、何回もテープを聞いて、馴れたところで、実際に英語で簡単な考えを発表したり、英作文を書いて貰ったりします。

テキストは読み、書き、聞き、そして話すという四技能が調和的に学習できるように構成されていますので、一年後には英語がべらべら話せるとまでは行かなくとも、片言ながら、少なくとも英語で抵抗なく意思表示できる程度にはなっている筈です。

成績評価の方法

定期試験（前・後期）の成績以外に、授業中の発表、レポート、小テスト、出席状況などを勘案して評価します。

教 科 書

American Sentiment (三修社) ¥1,300

担当者名	配当学科	単 位
よこ もり まさ ひこ 横 森 正 彦	二 営 1 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

日常生活にみられることをテーマにした内容を読解する。全体は日米比較文化で、その差異を考える。

1. Dialogue
1. Grammar Check
1. Exercises
 - A. 英語力を高めながら、文化のちがいを理解する。
 - B. センテンス・レベルの英作文力を養い、日米の文化を考え、学習する。
 - C. センテンスからパラグラフへの過程をふまえ、自分の考えを英語で表現できるように努める。

履修上の留意点

語学は演習なので、自ら予習と復習し、授業のなかでは繰り返し発表してもらいます。

成績評価の方法

平常評価として出席、小テスト、平常試験、レポート提出による総合評価とします。

教 科 書

村松美映子著『異文化の理解に向けて』（旺史社）¥1,400

担当者名	配当学科	単 位
ほん ま とし かず 本 間 俊 一	二 営 1 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

教科書の英文の理解とその応用表現を中心として学びながら、話題は英米文化圏の日常生活、そして彼らの思考、さらに日本との比較に及ぶ。通常の授業は、前もって学習する予定を発表し、予習を前提に授業を進める。さらに、年間を通じていくつか課題の提出を要求するつもりである。学習においては、もちろん細部にこだわるつもりであるが、あまり細部にこだわり過ぎて全体観を失うことは愚かなことであるから、時には相手に大きな誤解を与えない程度に大胆に要約する能力を養えるようにする。

成績評価の方法

前期と後期の2回の試験はもちろんのこととして、普段の授業での発表、さらに年間を通じての課題の提出で評価を決定する。授業の出席は3分の2以上、遅刻3回で1回の欠席と計算する。なお、課題の提出の仕方については、授業で細かく説明するつもりであるが、休暇中にパソコン・ネットワークでも可能であるから興味のある学生はそれに習熟されたい。

教 科 書

- (1) 『会話表現のためのパスポート』 桐原書店 1,430円
- (2) The Black Cat and other story 南雲堂 880円

担当者名	配当学科	単 位
もり たか みつ 森 田 隆 光	二 営 1 年	2

講義のねらい

国際間の交流が非常に早いペースで進んでいる現在、学生諸君も（各学部に共通して言えることであるが）時事英語、経済英語に熟達し、社説程度の文章を自由に英訳できる程度の実力をつけておくべきである。

英文（特に時事文）を書くことは、英語力向上の最短コースである。

成績評価の方法

成績評価 試験60%、レポート20%、出席20%

教 科 書

『NEW WRITING IN CURRENT ENGLISH』 森田隆光著 駿河台出版社 2,500円
(本体) (送390円)

英 語 I B

Reading and Listening Comprehension (Reading and Listening) : 入学時の英語を基礎として、より高度な構文の理解と speed reading の基礎を身に付けます。読解力の場合、精読に加えて段落、章などの大意が把握できること、聴解力の場合、聴きながら大意が把握できることを目指します。

担当者名	配当学科	単 位
うえ すぎ 上 杉	あきら 明	二 経 1 年 2

英語
I B

講義のねらい

英文を読んで理解するためには単語の知識もさることながら構文を読みとることが大切である。構文は文章の論理であるから、これを見誤ると文章は曲解されてしまう。文の造りや形をしっかりと見定めるためには、意識的な訓練が必要である。いわば一つの方法論を見出すつもりで文章に対していかなければならない。それが英語の文章を読む楽しさにつながっていくことにもなる。英文をじっくりながめて構造を確かめること、これを第一の目標にしたい。

講義の内容・授業スケジュール

本講座は聴解力を養うことも目指しているから、テキストの録音テープを聴くことから始める。それからテープを真似て朗読し、日本語に直す作業をする。その際講義のねらいで述べた構文の理解も併せて行うことになる。われわれの英語の学習は英文を和訳しさえすればよいという考えに傾きがちである。しかしそれでは英語を学んだことにはならない。原文の英語が何であったか、それを思い出せるようにすることが絶対に必要である。そのためにはテキストの構文と意味を理解した上で何度も読み直すことである。

履修上の留意点

辞書を引くことを習慣づけてもらいたい。単語が分からないので英文が訳せないという学生が実に多い。辞書を丹念に引きさえすればすむことである。なるべく大きな新しい辞書を選んで有効に用いることをすすめる。

成績評価の方法

平常点を重視する。試験の点数も重要であるが、通常の授業時にどのような発表応答をしたかが成績評価の基礎データになる。当てられた時しっかり応ずることである。

教 科 書

長谷川潔『アメリカの日常生活と文化』成美堂 ¥1,200

そ の 他

英語の4能力のうち特に聴解力は学校での練習だけでは身に付くものではない。毎日最低1時間はネイティブスピーカーの英語を聴くことである。ラジオ放送、特にNHK第2放送の『やさしいビジネス英語』などを録音して何度も聴くとよいと思う。

担当者名	配当学科	単 位
まち だ しげ お 町 田 成 男	二 経 1 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

入学時の英語を基礎として、より高度な構文の理解とspeed reading の基礎を身につける。Reading Comprehension の場合、精読に加えて段落、章等の大意を把握する。Listening Comprehension の場合、聞きながら文章の大意を把握する。

成績評価の方法

全評価のうち、前期・後期の定期試験が60パーセント、練習問題テストおよび発表が40パーセントである。なお、出席が全授業（定期試験や練習問題テスト等は除く）のうち3分の2に満たない場合は「不合格」とする。

教 科 書

現在、検討中なので、第1回めの授業までに発表する。

担当者名	配当学科	単 位
しま むら とよ ひろ 島 村 豊 博	二 経 1 年	2

講義のねらい

西洋文化の根底にはギリシャ的な精神（ヘレニズム）とユダヤ・キリスト教的な精神（ヘブライズム）が流れていると言われるが、授業では、欧米人が心の糧としている聖書のうちから旧約のいくつかの有名な場面を読みながら、聖書についての基礎知識をもち、あわせて英語圏のひとびとと聖書の関わりを考えて見ようとするものである。

講義の内容・
授業スケジュール

使用するテキストは、天地創造、アダムとイヴ、カインの弟殺し、ノアの箱船、バベルの塔、モーゼの十戒などお馴染みの物語をふくむ十二章からなっている。著者はそれぞれの章が関連し一貫性をもつように、必要とあれば事実関係を補足したり、背景を説明したりしながら、聖書全体の歴史がたどれるように話を進めている。著者の意図にしたがって、テキストの前から後へと順序を追って読んでゆく。

成績評価の方法

前・後期二度の定期試験に提出物など平常点を加えて、総合評価をください。

教 科 書

G. Bantock: DRAMATIC TALES FROM THE BIBLE 武谷紀久雄編注
金星堂 ¥1,200

担当者名	配当学科	単 位
かしもと しげかず 岸 本 茂 和	二 経 1 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

経済学の歴史に登場する「巨人たち」－Adam Smith、Thoms R. Malthus、Karl Marx J. M. Keynes などの「学説」を、平易な英語で書かれた経済学入門書で読む。テキストの「精読」とおとして、読解力の養成はもとより文法・表現力の涵養につとめたい。予習の必要はいうまでもない。

成績評価の方法

試験は中間試験と定期試験の年2回。総合評価60点以上をパスサブルとする。年間授業時間の3分の1を欠席した場合は不合格とする。

教 科 書

Leonard Silk: *ECONOMICS IN PLAIN ENGLISH* (Simon & Schuster, USA)
授業第一週時に教科書のコピーを配付する。

そ の 他

授業にはかならず英和辞典を携行すること。

担当者名	配当学科	単 位
おかざき としいちろう 岡 崎 寿 一 郎	二 法 1 年	2

講義のねらい

文化相対論の「異なる文化の風俗・習慣についての批判・評価と同時に、その風土・歴史的背景を十分に考慮する」という観点からは、異文化についての学習の意義が理解されます。また、「外国語を学習することによって、母国語の限界が越えられる」という言語相対論によって英語学習の必要性が確認できるとおもいます。さらに、今日の言語発達史は、母国語を学ぶ子供は、6才で基本的な文法力を、10才で基本的な抽象能力を、大学の二・三年生で高度な抽象能力を獲得することを明らかにしています。従って、大学の語学教育は、人間の能力の十分な開発と完成を目指す教育の発達段階にある学生たちにとって必須の教育過程であるといえます。それ故、授業では、文法・文の構造についての理解を深めつつ、綿密かつトータルな読解によって国際化の時代に即応したグローバルな視野の養成を目指します。

履修上の留意点

授業では、読解の過程で文法・文の構造について適宜解説することによって、テキストの内容の正確な理解を目指します。理解を深めるために必ず予習をしてください。

成績評価の方法

平常評価としての出席 (50%)、前期試験に代わる夏季レポート (25%)、後期試験 (25%) による総合評価とします。

教 科 書

早野勝巳他編注『「エコノミスト」で読む日本の産業－』 金星堂 ￥1,700

担当者名	配当学科	単 位
かわ また よう たろう 川 股 陽 太 郎	二 法 1 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

これまでに諸君が取得した英語力をもとに、リスニング、コンプリヘンション、スピーキング、ライティングの能力を高める訓練をおこなう。と同時に、文化的背景を説明し、教養を身につけるようにする。

言い換えると、英語を耳でとらえ、その内容を理解し、耳でとらえたものを口から出す訓練をする。また、テキストに出てくる慣用句を参考にして、英語を書く練習をする。聞き取る能力がなければ、相手の言っていることを理解することは出来ない。従って最初からコミュニケーションは成立しないことになる。聞きとる力と話す力（リスニング、コンプリヘンション、スピーキング）は不可分の関係にある。三つの能力、すなわち、英文の内容を読み取る力、英語を聞き取り話す力、英語で文書を書く力、三つの別々のものであり、個々に訓練し、能力を身につけるようにしたい。

授業ではテープを極力用いる。発音、イントネーション、アクセントはもちろんのこと、大きな声で、内容にそくして、なめらかに読む練習も大切にしたい。

成績評価の方法

授業中における演習、発音、小テストによる。5段階評価で言えば、発表時の声が小さい場合、最終評価で5は有り得ない。授業中の演習・発表の合計（100点）、授業中の小テスト・レポートの合計（100点）とし、両者を等価に評価する。従って、出席と評価は自動的に連動することになる。欠席率が三分の一を越えた場合は不合格となる。

教 科 書

『Take 20 ショーター・リスニング』 ¥700（桐原書店）

『Take 20 総合演習』 ¥1,100（桐原書店）

担当者名	配当学科	単 位
やま がた ゆたか 山 縣 裕	二 法 1 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

英語を使うということは難しくはありません。皆が毎日、日本語を使っているように気楽な気持ちで授業をうけてほしい。大切な事は一度も読んだことも聞いたこともないものは使い方がないということです。この授業はコミックブック、ピクチャー・ディクショナリー、イディオム集、ビデオ、英字新聞、ペーパーバック等を使い、とにかく英語に慣れるようにします。仮定法など意外なほど簡単に使われていることに驚くかもしれません。英語を使うにはアメリカの文化を知ることが必要なので、日本人の話し方とアメリカ人の話し方を比較したビデオ等も使います。

成績評価の方法

平常点を重視するので、積極的に授業に参加して下さい。

教 科 書

コピーを配布予定。詳しくは開講時に指示します。

担当者名	配当学科	単 位
たん し ひろ まさ 丹 治 弘 昌	二 営 1 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

シナリオを通して英語を学ぶというのがこの講義の目的です。数あるシナリオの中から男女の
であいというテーマにそって選びだし、場面での会話・行動を学習します。

シナリオ紹介の順序

1. 「ロッキー」における冒頭のシーンの主人公と恋人とのであい
 2. 「エデンの東」における兄弟の葛藤と板ばさみになったその恋人の同情
 3. 「タクシードライバー」における選挙運動に際しての主人公の奇妙なアプローチのしかたと求愛
 4. 「恋人たちの予感」における限りなくつづく男女の饒舌と友情関係
 5. 「ブレードランナー」における未来社会の精巧なロボットと予期せぬ愛情
- その他については現在検討中です。

履修上の留意点

実際の会話から表現のパターンを選びだし、その応用表現を学習します。そして時に応じて
文法事項について説明します。学生のみなさんは家ではシナリオを声を出して何回も読む練習を
してください。特にどの単語を強く発音したらよいかを考えて読んでください。

成績評価の方法

成績評価は、前後期それぞれ二回ずつの小テストと期末テストによって行います。いずれも教
場にて、授業時間内に行いますので留意してください。

教 科 書

プリント使用

参 考 書 等

映画スラング辞典（語学春秋社）

担当者名	配当学科	単 位
こう へ はる き 神 戸 春 樹	二 営 1 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

これまでに習得してきた英語力を基礎として、更に多くの量が読める様に、内容的確な把握、
英語に対する一層の習熟を目標とする。また、優れた英文に触れることにより、読解力を豊かな
ものにしていく。従って、特に英語の表現や構文についての語学的問題についても検討していく。
英語の学力をつけるためには、綿密な予習や授業への真剣な取り組みが、なによりも必要とされ
るということを銘記しておいてもらいたい。

履修上の留意点

履修者は実力に応じた英語の原書や新聞・雑誌（『ジャパン・タイムズ』や『タイム』）を自主
的に購読し、英文に実践的に慣れていくよう常に心掛けてもらいたい。必ず予習をしてくること。

成績評価の方法

授業中の予習に基づく発表や出席率、そして前・後期の定期試験によって評価する。評価のう
ち、授業中の平常点が50%、前・後期の定期試験が50%で、総合的に決める。

教 科 書

『ショート・ショート傑作選』（南雲堂）¥1,165

担当者名	配当学科	単 位
すきもと 杉 本 誠	二 営 1 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

新聞という人間生活のあらゆる面を取り扱う媒体をわたしたちの日常生活の情報源として活用することに視点を置いて、時事英語、特に新聞英語やメディア英語への理解を深めることを目的とする。前期は容易にしかも楽しく英字新聞が読めるということを重視し、しかも日常生活に密接な関わりのある記事を取り上げる。後期は、政治、経済、文化生活などの記事をできるだけ多く読み、大意を把握することを目的とする。

成績評価の方法

前期・後期試験、小テスト、出席率などを総合して評価する。

教 科 書

『新聞の英語』（1998年度版）朝日出版 ￥1,400

英語
I B

担当者名	配当学科	単 位
ゆきひろ 行 廣 泰 三	二 営 1 年	2

講義のねらい

中学校・高等学校で学んだことを土台に、英語の読解力を養いながら、英語を読む楽しさを味わっていききたい。

講義の内容・
授業スケジュール

アメリカの建国の成立過程について、時代毎の出来事を通して書かれた文、各章毎に文章の理解度をチェックできる練習問題から構成されている。

履修上の留意点

授業には英和辞典を持参すること。

成績評価の方法

評価は各学期のテスト、出席点によって行う。

教 科 書

S. Kathleen Kitao と Kenji Kitao 著『アメリカ史の人とできごと』（Events and Trends in American history）（株）三修社

英語 I A・I B [再クラス]

英語
IA・IB
(再)

担当者名	配当学科	単位
よし え まさ お 吉 江 正 雄	二経・二法・二営2年	2

講義の内容・授業スケジュール

H. G. ウェールズの作品、『ウェールズの簡約世界史』は「簡約」とは言え、かなりの長編であるが、その中から興味深い話題の部分を教科書にしたものを使用し、前期は、「農耕の始まり」「最初のアメリカ人」「シュメール、古代エジプトそれに文字」「原始遊牧民族」といった話題に付いて丹念な精読を行う。後期は、「最初の海洋民族」「エジプト、バビロンそれにアッシリア」「原始アリア民族」「最後のバビロニア王朝とグリウス一世の王朝」と言った話題に添って読み進める。世界言語の発達状況、文明の興り、古代民族の活動状況等を学びながら、それと同時に英文の読解力をも付けようというのが、この時間の目的である。予習が必要。

成績評価の方法

先に、「学生の予習が必要」と述べたが、予め勉強してきたことの授業内での発表の度合いと、前期・後期の試験の結果を踏まえて成績を出す。勿論、全授業数の三分の一を越えて欠席をした学生は試験を受ける権利を失うので注意して頂きたい。

教科書

“A Short History of the World” 『ウェールズの簡約世界史』こびあん書房

担当者名	配当学科	単位
まち だ しげ お 町 田 茂 男	二経・二法・二営2年	2

講義の内容・授業スケジュール

入学時の英語を基礎として、より高度な構文の理解とspeed reading の基礎を身につける。Reading Comprehension の場合、精読に加えて段落、章等の大意を把握する。Listening Comprehension の場合、聞きながら文章の大意を把握する。

成績評価の方法

全評価のうち、前期・後期の定期試験が60パーセント、練習問題テストおよび発表が40パーセントである。なお、出席が全授業（定期試験や練習問題テスト等は除く）のうち3分の2に満たない場合は「不合格」とする。

教科書

現在、検討中なので、第1回めの授業までに発表する。

担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
しまむらとよひろ 島村豊博	二経・二法・二営2年	2

講義のねらい

英文パラグラフの構成とその特徴を理解し、パラグラフ単位での直読直解を可能にし、長い英文を迅速に読めるようにするとともに、パラグラフ単位での英文が書けることを目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

英文パラグラフの構成についての詳しい説明と数多くの実例とに触れてパラグラフの概念を確実なものにし、またさまざまなタイプのパラグラフを提示されることで表現の型を覚えることもでき、自分の考えを表現する際にこれを十分活用することができる。例文として挙げられたパラグラフにはすべて、内容を問う英問と構成の把握を確認する問題がついているし、扱われているトピックスも興味深いものが多い。

成績評価の方法

前期後期二度の定期試験に提出物など平常点を加えて、総合評価をくだす。

教 科 書

S. キャスリーン北尾・北尾賢治編著 *Basic English Paragraphs* 英潮社

英
語
1A・1B
(再)

担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
そうまよしあき 相馬美明	二経・二法・二営2年	2

講義の内容・
授業スケジュール

入学時の英語を基礎として、様々な英語の運用能力（発話、読解、聴解）を身につける。プリントを用いた文法問題、及び教科書による読解問題を通じ、精読・多読の両面から英語の基本的な運用能力を身につける。また、種々の検定対策にも対応すべく、TOEIC のリスニング・セクションの問題等にも触れ、聴解力を高めてゆく。

成績評価の方法

全授業日数の3分の2以上の出席を基本とし、前期・後期に行う試験、及び授業で行う小テスト、また授業態度等を総合的に評価する。

教 科 書

Hiroko Nishida William Gudykunst『American Communication Patterns』金星堂、
¥1,200
Mitsho Sugawara『10-Minute Listening (introductory)』桐原書店、¥780

英 語 II A

英語による意志伝達 (Writing and/or Speaking) : I Aを基礎として、より高度な英語の運用能力を身に付けます。文章表現の場合、段落から自由作文へ、会話表現の場合、ダイアログからディスカッションを目指します。

担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
かわ 川 股 陽 太 郎	二 経 2 年	2

英
語
II A

講義の内容・
授業スケジュール

一年時に取得した英語力をもとに、もう一段上のリスニング、コンプリヘンション、スピーキング、ライティングの能力を高める訓練をおこなう。と同時に、文化的背景を説明し、教養を身につけるようにする。言いかえると、

英語を耳でとらえ、その内容を理解し、耳でとらえたものを口から出す訓練をする。また、テキストに出てくる慣用句を参考にして、英語を書く練習をする。聞き取る能力がなければ、相手の言っていることを理解することは出来ない。従って最初からコミュニケーションは成立しないことになる。聞きとる力と話す力 (リスニング・コンプリヘンション・スピーキング) は不可分の関係にある。三つの能力、すなわち、英文の内容を読み取る力、英語を聞き取り話す力、英語で文書を書く力、この三つは別々のものであり、個々に訓練し、能力を身につけるようにしたい。

授業ではテープを極力用いる。発音、イントネーション、アクセントはもろろんのこと、大きな声で、内容にそくして、なめらかに読む練習も大切にしたい。

成績評価の方法

授業中における演習、発表、小テストによる。5段階評価で言えば、発表時の声が小さい場合、発表がない場合、最終評価で5は有り得ない。授業中の演習・発表の合計 (100点)、授業中の小テスト・レポートの合計 (100点) とし、両者を等価に評価する。従って、出席と評価は自動的に連動することになる。欠席率が三分の一を越えた場合は不合格となる。

教 科 書

『リスニングの小箱10分間シリーズ2』 (マクミラン・ランゲージハウス) ¥980
『ミステリーひと口話』 (マクミラン・ランゲージハウス) ¥1,200
補助教材としてプリント使用、これは適宜配布する。

担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
なか 中 尾 俊 光	二 経 2 年	2

講義のねらい

英語によるコミュニケーションのできる力を養成することを目指します。易しい内容のテキストをリスニングによって理解できることを念頭においた教材を使用します。

履修上の留意点

出席を重視し、実授業回数数の3分の2以上の出席を原則とします。

成績評価の方法

1. 前期試験 2. 後期試験 3. 平常試験評価 4. 小試験・レポート 以上の4点を均等評価します。

教 科 書

『大学総合リスニング』 郁文堂

担当者名	配当学科	単 位
はやし 林 あき 明 と 人	二 法 2 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

英語を聞き取るときのポイントを、テープを聴きながらテキストの解説で理解し、そのあと練習問題をします。次にいろいろな曲を聴きながら歌詞をリスニングします。歌で表現を覚えておけば実際の会話の時に役立つと思います。さらに副教材を用い、口語表現に慣れるようにします。

成績評価の方法

前・後期の定期試験、小テスト、出席の総合評価

教 科 書

Stephen Timson／熊井信弘『Hit Parade Listening』（マクミラン） ¥2,000
Gelenn T. Gainer／神田弘慶『Dictation with Idioms in Action』（鶴見書店） ¥824

担当者名	配当学科	単 位
きた むら ひろ ふみ 北 村 弘 文	二 法 2 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

授業はテキストに準拠して行いますが、小テストや口頭で考えを英語で発表して貰ったりもします。テキストの内容は、まず、比較的平易な英文で書かれた話題が提供され、英問英答形式の練習問題によって、内容を確実に理解し自分のものにしたあと、英語で自由に発信できる力を養うために、本文中の語彙や気の利いた表現や言い回しを応用した和文英訳の問題をするようになっています。易しい言い回しをできるだけたくさん覚えて、実際に英語で自分の考えを表現できるようになるまで、根気よく努力することが必要です。なお、年に数回自由英作文の課題を出題する予定です。

成績評価の方法

定期試験（前・後期）の成績以外に、授業中の発表、レポート（自由英作文）、小テスト、出席状況などを勘案して評価します。

教 科 書

『YOUNG POP CULTURES』（郁文堂） ¥1,751

担当者名	配当学科	単 位
よこ 横 もり 森 まさ 正 ひこ 彦	二 法 2 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

より実用的なものを採り上げ、具体的には社会・政治経済・外交問題を考える。語学として、Reading Practice と Writing Practice をする。

Part 1. 1. Tourism をはじめとして40項目。

Part 2. 1. Better Teaching of Foreign Languages をはじめとして20項目。

Part 3. 1. Do Americans Distrust Japan? をはじめとして10項目。

履修上の留意点

語学は演習なので、自ら予習と復習をし、授業のなかでは定期的に発表してもらいます。

成績評価の方法

平常評価として出席、小テスト、平常試験、レポート提出による総合評価とします。

教 科 書

坂本武、ティモシー・ライト著『時事英語・英作文』（南雲堂） ¥1,200

担当者名	配当学科	単 位
こう 神 べ 戸 はる 春 き 樹	二 堂 2 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

日常会話で慣用的に用いられる表現や構文を集中的に学び、必要な場面に応じて自然に自己表現出来る様に練習を重ねていく。予習を必須として、演習形式で積極的に授業に参加してもらう。先ず、基本的な口語表現を学習するが、テープなどを使用し、スピーキングやヒアリングの能力が同時に身につく様に進めていく。次に、重要な表現や構文を基盤とする対話形式に取り組み、実際の場で自由に運用出来るように修練を積んでいく。更には、これまでの学習を前提として、英作文の応用能力を実践的に広げていく。

履修上の留意点

履修者はテープ、ビデオ、映画等を利用して、口語の英語に慣れることを特に要望する。必ず予習をしてくること。

成績評価の方法

授業中の予習に基づく発表や出席率、そして前・後期の定期試験によって評価する。評価のうち、授業中の平常点が50%、前・後期の定期試験が50%で、総合的に決める。

教 科 書

『会話で学ぶ最新アメリカ情報』成美堂 ¥1,600

担当者名	配当学科	単 位
さ さ き たかし 佐 々 木 隆	二 営 2 年	2

講義のねらい

I Aを基礎として、より高度な英語の運用能力を身につけることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

国際化をはだで感じるためには、まず自国の文化をみつめ直す必要がある。これにともない外国人から見た日本のイメージを理解してもらいたい。様々な内容が所収されており、興味・関心のもてるテーマから取り扱うものとする。

成績評価の方法

原則として、3分の2以上の出席が必要である。特に出席は重視する。

教科書

Discover Japan (Vol. 1) Kodansha International

そ の 他

英和辞典は毎回必携のこと。

担当者名	配当学科	単 位
かわ うち けん りゅう 河 内 賢 隆	二 営 2 年	2

講義の内容・授業スケジュール

本テキストは英字新聞の新しく、比較的読み易い記事を分野別に配列したもので、学生に英字新聞を読む基本を身につけさせることが目的である。なお、テープも併用するが、C. V. ハリントン氏の明瞭でわかり易い発音は、学生のヒアリングはもちろん音読の手本として役立つものと思う。

履修上の留意点

昼間職を持っている学生が多いので、特に予習に気をつけて欲しい。受け身の安易な態度では実力はつかない。

教科書

『時事英語』成美堂 ￥1,600

英 語 II B

Speed Reading and Intensive : I Bを基礎として、出来るだけ多くの量を読めるように、大意の把握に心掛け、読む速度を上げます。より高度な英文を正確に理解するための構文も学びます。

担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
いし はら こう さい 石 原 孝 哉	二 経 2 年	2

講義の内容・ 授業スケジュール

このクラスでは英語圏の様々な作家による個性溢れる作品の購読を通じて、各国のユニークな文化の吸収に努めます。取り上げる国は、アメリカ、オーストラリア、ドミニカ、インド、イギリス、ナイジェリア、ジャマイカ、ニュージーランド等で、それぞれの国のアクセントで朗読したテープを教材に使います。

履修上の留意点

英語を英語で考える訓練をするので英英辞典の使い方に慣れておくことが望ましい。授業は演習方式でおこなうので必ず十分予習して出席すること。

成績評価の方法

試験は中間、期末の2回。ほかにレポート、平常点を重視します。

教 科 書

『英語で読む人生12話』(南雲堂フェニックス) ¥1,600

担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
なか お しゅん こう 中 尾 俊 光	二 経 2 年	2

講義の内容・ 授業スケジュール

英文の流れに添いながら速読による大意把握力の養成を目指します。

履修上の留意点

出席を重視し、実授業回数の3分の2以上の出席を原則とします。

成績評価の方法

1. 前期試験 2. 後期試験 3. 平常評価 4. 小試験・レポート 以上の4点を均等評価します。

教 科 書

『ケンブリッジ プログレッシブ・リーディング』(朝日出版社)

担当者名	配当学科	単 位
おお ば なお き 大 庭 直 樹	二 法 2 年	2

講義のねらい

このクラスは、コンピューターを使って、英文の読解と速読の演習、更に英文聞き取り演習を行う。英文の読解では、動画を視聴したり、音声を聞きながらの英文の速読演習をする。

講義の内容・授業スケジュール

インターネット（マルチメディア）の世界を体験する。インターネットという広大な情報空間を探検し、各分野ごとに有用なサイトを紹介していく。

履修上の留意点

受講生が自らの弱点を補強していく。したがって、到達目標は、各受講生が自らの英語力をレベル・アップする語学演習形式にある。

成績評価の方法

試験、定期試験なるものは行わない。成績は、各受講生の「一年間の努力による成果」を評価する。

教科書

使用ソフトーインターネット、語学教材 CD、Micro English for Windows。
受講者はフロビードスクのみ用意するー詳細は、教場で指示する。

そ の 他

上記のソフトは総合情報センター事務室（4号館2F）に置いてあるので、受講者は、教室以外、各自の必要度にあわせて自習室（朝9時より夜9時まで開館）で補習すること。

担当者名	配当学科	単 位
もり た たか みつ 森 田 隆 光	二 法 2 年	2

講義の内容・授業スケジュール

国際間の交流が非常に早いペースで進んでいる現在、学生諸君も（各学部に通じて言えることであるが）時事英語、経済英語に熟達し、社説程度の文章を自由に英訳できる程度の実力をつけておくべきである。

英文（特に時事文）を書くことは、英語力向上の最短コースである。

成績評価の方法

成績評価 試験60%、レポート20%、出席20%

教科書

森田隆光著『NEW WRITING IN CURRENT ENGLISH』駿河台出版社 ￥2,500（本体）
（送390円）

担当者名	配当学科	単 位
そう ま よし あき 相 馬 美 明	二 法 2 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

IBを基礎とし、更なる読解力・聴解力を養成する。プリントを用いた文法問題、及び教科書による読解問題を通じ、精読・多読の両面から英語の基本的な読解力を高めてゆく。また、種々の検定対策にも対応すべく、TOEIC のリスニング・セクションの問題等も取り上げ、聴解力をつけてゆく。

成績評価の方法

全授業日数の3分の2以上の出席を基本とし、前期・後期に行う試験及び、授業で行う小テスト、また授業態度等を総合的に評価する。

教 科 書

Hiroko Nishida William Gudykunst『American Communication Patterns』金星堂 ¥1,200
Mitsho Sugawara『10-Minute Listening (introductory)』桐原書店 ¥780

担当者名	配当学科	単 位
かわ うち けん りゅう 河 内 賢 隆	二 営 2 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

本書はタイトルの示すように、合衆国大統領が今日の日本との関連でどのような影響を与えたり、つながりを持ったかということについて、コンパクトにまとめられたものである。内容と共に語法的にもしっかりと学んで欲しい。

履修上の留意点

授業を受ける前に必ず下調べをすること——受け身の授業では、英語は身につかない。

成績評価の方法

出席と平常の評価に、前期・後期のテストの評価を加え総合的に判断する。

教 科 書

『日本に影響を与えたアメリカ大統領たち』南雲堂 ¥1,800

担当者名	配当学科	単 位
うえ すぎ 上 杉	二 営 2 年	2

講義のねらい

英語に限ったことではないが大量の文章をできるだけ速く読んで大意を把握することは、現代のような情報の多い社会では特に大切な技術である。それには単語の知識が不可欠であり構文の読み取りが十分にできなくてはならない。いくら速く読めても正確でなければ無意味なのである。従って正確に速く読むことが第一の目標になる。Time 誌などを読めば明らかのように一般社会で用いられている英文は、単語も構文も実に幅が広く複雑である。できるだけ多くの単語を知り高度な構文に親しんでいくようにする。

講義の内容・
授業スケジュール

学生のみなさんの個々の読解力を知るためには、やはり一人一人に文章を配分して訳してもらう他にはない。本講座は精読のコースでもあるので、和訳の細かな点にも留意していく。しっかりした普通の日本語に直すことが肝要である。しかし和訳しただけでは作業は完了しない。もとの英語がどんなものであったか、その復元ができてはじめて英語を学習したと言えるのである。和訳と同時に英語をまるごと覚える訓練をしていく。

履修上の留意点

必ず辞書を持って教室に来てもらいたい。英語を理解しようとするときまず第一に頼りになるのは辞書である。辞書を引くことに習熟すれば英語はずっと身近になるはずである。英語が不得手な人の大部分は辞書を引かない人あるいは辞書の引き方を知らない人であると思う。

成績評価の方法

平常点を重視する。試験の得点も重要であるが、通常の授業時にどのような発言応答をしたかが成績評価の基礎資料になる。指名されたとき適確に応じられるよう準備をしておくことである。

教 科 書

シドニー・ハリス『シドニー・ハリス最傑作コラム』南雲堂 ￥1,456

担当者名	配当学科	単 位
は せ がわ こう いち 長谷川 公 一	二 営 2 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

テキスト講読によって、まずガンジーの非暴力の抵抗という思想とこれに対応する宗主国、英国の政治・統治の方法について理解を深めたいと思います。また、文章がきわめて平易でありながら、かつ、非常にこなれた英文なので、随時、英語の実用的な表現などにも触れていきたいと思っています。

成績評価の方法

平常の授業への出席回数と前後期の二回にわたるテストの結果から総合的に評価します。

教 科 書

『ガンジー・その不滅の生涯』（英潮社新社）￥620

英語ⅡA・ⅡB〔再クラス〕

担当者名	配当学科	単位
おおば なおき 大庭直樹	二経・二法・二営3年	2

講義のねらい

このクラスは、コンピューターを使って、英語による意志伝達 (Writing and/or Speaking) 能力の向上を目指す。受講者は、適切なガイダンスと自らの努力によって、パソコン相手に英作文、英会話表現、映画の英字字幕、そして TOEFL テストなどの語学演習に挑む。

講義の内容・授業スケジュール

インターネット (マルチメディア) の世界を体験する。インターネットという広大な情報空間を探検し、各分野ごとに有用なサイトを紹介していく。到達目標は、各受講生が自らの英語の運用能力をレベル・アップする語学演習形式にある。

成績評価の方法

試験、定期試験なるものは行わない。成績は、各受講生の「一年間の努力による成果」を評価する。

教科書

使用ソフトー語学教材 CD、Micro English for Windows。受講者はフロピーデスクのみ用意するー詳細は、教場で指示する。

その他

上記のソフトは総合情報センター事務室 (4号館 2F) に置いてあるので、受講者は、教室以外、各自の必要度にあわせて自習室 (4号館 1F、朝9時より夜9時まで開館) で補修すること。

担当者名	配当学科	単位
ましもと しげかず 岸本茂和	二経・二法・二営3年	2

講義の内容・授業スケジュール

再履修というクラスの性格からテキストはやさしい英語で書かれたものを選んだ。やさしい英語ではあるが、しかし、内容はかならずしも易しいというわけではない。基礎文法のいっそうの理解、基本的語彙および慣用語句の理解と習得など、英語学習のすべての分野における〈基本〉と〈基礎〉を念頭から離さずに授業をすすめてゆきたい。

成績評価の方法

試験は中間試験と定期試験の年2回。総合評価60点以上をバツサブルとする。年間授業時間の3分の1を欠席した場合は不合格とする。

教科書

ローレンス・ダットン、重乃 皎共著『日米文化の諸相』(南雲堂) 定価¥1,300

その他

授業にはかならず英和辞典を携行すること。

担当者名	配当学科	単 位
ひ やま 檢 山 すすむ 晋	二経・二法・二営3年	2

講義のねらい

主に時事問題を扱い、英語を介しての情報収集能力を高める。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は演習形式で行い、次の項目を扱う。
 (a) 英語を介しての内容把握・情報収集（音声面）：当日朝の CNN、BBC、AFN（旧 FEN）等のニュースを利用して能力増強を図る。
 (b) 英語を介しての内容把握・情報収集（読解面）：教科書を利用し、英字新聞の記事の基本構造等に触れながら、能力増強を図る。

履修上の留意点

日本語でも構わないので、できるだけ新聞を読み、まともなニュース番組を見て欲しい。こうして蓄積した知識が必ず役に立つ。

成績評価の方法

前期末、学年末にそれぞれ筆記試験を行う。（「持ち込み」不可。）2回の試験の点数の平均、小テスト、夏休み・冬休みのレポート、出席状況、授業参加等を考慮に入れ総合的に判断する。次の点を特に注意すること。
 (a) 出席は重要だが、教室に来て「喫茶店」や「仮眠室」代わりにすることのないよう、しっかり予習した上で出席して欲しい。
 (b) 遅刻は2回で欠席1回に換算する。

教 科 書

森田彰ほか『The World We Live In（現代を読む総合英語）』（三修社）¥1,680

ド イ ツ 語

ドイツ語の歴史は、南および中部ドイツに定住したゲルマン民族の言葉が独自の発展をとげて、7～8世紀頃にいわゆる高地ドイツ語が成立したことに始まります。当時のドイツ語はいくつかの方言に分かれており、未だ統一的な形態は整えていませんでした。近代に入り、ルターが聖書の独訳を試み、これが印刷術の発達と共にドイツの各地に流布したことは、統一的なドイツ語の形式に大きく貢献しました。そしてゲーテ、シラーを頂点とする国民文学の開花は、文章語としての標準ドイツ語の成立を決定的なものにしました。こうして18世紀の後半までにはドイツ語圏全域で使用される標準ドイツ語が形成されました。現代の標準ドイツ語は基本的にこの標準語と同一のものです。

現在ドイツ語が母語ないし公用語として使われている地域は、ドイツ（約8,100万人）以外にも、オーストリア（約750万人）、スイス（約400万人）、リヒテンシュタイン、ルーマニアがあります。さらにドイツ周辺のベルギーの南端、デンマークの一部、フランスのエルザス、ロートリンゲン地方、イタリアの南チロル地方等があげられます。ドイツ語の使用人口は約1億2,000万人と推定され、ヨーロッパでは第2位にあります。これは、第二次大戦の敗北によって東欧のドイツ語圏が著しく縮小したにもかかわらず、ドイツ語がヨーロッパにおいてなお重要な言語であることを示しています。

ドイツ語は、言語学においては、英語やオランダ語等と共に、インド・ヨーロッパ語族の中のゲルマン語派として分類されます。つまり英語とドイツ語はいわば兄弟関係にあります。従ってドイツ語の基本的な語彙のかなりの部分は英語と類似しています。しかし両言語の相違も見のがすことは出来ません。ドイツ語は（語形の変化）を未だ強く残していますが、英語では語形の変化は簡単なものになっています。こうした点に注意しながら、英語とドイツ語をゲルマン語という同じ系統の言語として勉強してゆけば、いわゆる相乗作用が期待できるはずです。

さて日本におけるドイツ語学習の歴史は、幕末にシーボルトが来日した時から始まります。明治政府が国家の諸制度や医学などの学術を主としてドイツから学んだことによって、ドイツ語教育は順調に発展しました。戦後も旧制高校の流れを受けて、大学では二つの外国語が履習されてきました。しかし近年大学改革の一環としてカリキュラムが改訂されて以来、ドイツ語の受講者は減少する傾向にあります。

しかし外国語を学ぶ意義は、外国語を単にコミュニケーションの手段として修得することに尽きるものではありません。同時に、外国語を通してその国の文化や心情を理解することにも大きな意義があります。新しい外国語を学ぶことは、一つの新しい世界を開くことでもあります。ドイツは、今日、ヨーロッパ連合の中心的存在として政治的ならびに経済的に重要な役割を果たしているばかりではなく、文化の面でもなお学ぶべき多くのものを持っています。ドイツはゲーテ、シラー、カント、ヘーゲル、ハイデッガーなどの偉大な文学者や哲学者の国であり、ベートーヴェンやブラームスやヴァーグナーを生んだ音楽の国なのです。現代は多様な価値の並存する時代だと言われます。大学入学を機にこうした豊かな文化に触れ、バランスのとれた広い視野を養うことこそ、真の国際交流にとって必要不可欠なことだと思います。フレッシュな皆さんの参加を心から期待しております。

●ドイツ語の授業

駒澤大学でのドイツ語の授業は、次のように行われています。

☆「ドイツ語ⅠA」

ドイツ語の初級文法を中心に勉強します。

☆「ドイツ語ⅠB」

初級文法を応用しながら、易しいドイツ語の文章を読んだり、簡単な会話を試みたりします。

☆「ドイツ語ⅡA」

「ⅠA」の文法事項をさらに広げる一方、すでに習ったことを再確認しながら、文学作品などを通じて、まとまったドイツ語の文章に親しむ機会とします。

☆「ドイツ語ⅡB」

担当者によって内容の自由な科目で、会話力の向上を目指したり、作文練習をするクラスもあれば、新聞や雑誌の講読によって時事感覚を養うクラスもあります。

★NHKのTV・ラジオにも講座があります。

★辞書については1年次の最初の授業で担当教員が説明します。

★独語検定試験に関心のある学生は教員に相談して下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ド イ ツ 語 I A	まつもと ようこ 松 本 洋 子	二 経 1 年	2

講義のねらい

ドイツ語文法の基本的な事柄を簡単な文章を読むことや独作を通して徹底的に習得することをめざします。

履修上の留意点

ドイツ語の学習は少しずつ積み重ねて行くことが大切です。授業には出来る限り休まず出席すること。

成績評価の方法

平常点と中間テスト、定期試験の結果を総合的に判断して行う。

教 科 書

石塚秀樹（他）『ドイツ語の窓－初学者の視点から－』東洋出版 1,845円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ド イ ツ 語 I A	きとう けいこ 佐 藤 恵 子	二 法 1 年	2

講義のねらい

ドイツ語の正確な発音・基本文法を習得して、簡単な文を理解できるような力を養い、ドイツの文化や社会についても知識を得ます。

講義の内容・
授業スケジュール

教科書を中心に、一年間で基本文法を終了できるように授業を進めます。

履修上の留意点

語学はどうしても積み重ねが重要です。授業を休まないようにしてください。夏学期・冬学期ともに、各授業数の3分の1を越えて休んだ場合は、各試験を受験する資格がなくなります。ただし、病気などの致し方ない欠席は認めますから申し出て下さい。

成績評価の方法

夏学期、冬学期の各試験。および小テストや授業態度などの平常点。

教 科 書

大岩信太郎『1日2課のドイツ文法』朝日出版社 1,500円
その他プリント使用

参 考 書 等

独和辞書が必要。辞書の紹介は講義の初日にしますが、すでに持っている場合はそれを使って下さい。

そ の 他

教室の座席を固定します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ド イ ツ 語 I A	すきもとまさとし 杉 本 正 俊	二 営 1 年	2

講義のねらい

ドイツ語の基礎を文法という形で教えます。知るべき内容はたくさんありますが、簡単な文を読むのに必要な知識を要約し、反復して教えます。

講義の内容・授業スケジュール

教科書の前半を重視して、徹底してやります。後半については、可能なかぎりやります。

履修上の留意点

予習は一切要求しませんが、授業中は授業に集中し、ひとつの言語システムを習得する楽しさを味わってください。

成績評価の方法

学期末テストはしますが、成績は総合評価でいきます。

教 科 書

在間進著 四訂『現代ドイツ語文法』初級編 三修社 ¥2,200 (税別)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ド イ ツ 語 I B	まつもとようこ 松 本 洋 子	二 経 1 年	2

講義のねらい

平易な読物を読みながらドイツ語の基本的な文法事項を学んで行く。また学生が楽しくドイツ語を学べるように、教科書に出てくる単語や基本表現を用いて、簡単な会話の練習もしたいと思っている。

履修上の留意点

語学の学習は積み重ねが基本です。授業には出来るだけ休まず出席して下さい。

成績評価の方法

平常点、中間テストと定期試験の結果を総合的に判断して行う。

教 科 書

森田悟(他)(著)『いかがですか、学生生活』朝日出版 ¥2,200

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ド イ ツ 語 I B	しば の ひろ こ 柴 野 博 子	二法・二営1年	2

講義のねらい

この授業は、I Aで習った文法事項を応用しながら、ドイツの日常生活を題材にしたやさしい文章を読んで行きます。

履修上の留意点

ドイツ語の勉強には、特に初級では、一步一步の積み重ねが非常に大切です。従ってできるだけ休まずに出席することを希望します。

成績評価の方法

試験は、年に三回行います。この三回の試験と、平常の学習態度を総合して、成績評価を行います。

教 科 書

常木・高木『新初級ドイツ語読本』 郁文堂 ￥1,300

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ド イ ツ 語 I A ・ I B 〔 再 ク ラ ス 〕	はし もと ひろ し 橋 本 博	二経・二法・二営2年	2

講義のねらい

やさしいドイツ文をできるだけ覚えることによって、ドイツ語に親しめるようにします。

履修上の留意点

テキストはきわめて平易なものです。意欲のある学生は、授業だけに満足せず、学習をすすめてください（参考書などは紹介します）。

成績評価の方法

平常点と定期試験の結果で評価します。

教 科 書

須澤通・黒澤優子『あなたと私のドイツ語ディアローク』 同学社 ￥2,200

科目名	担当者名	配当学科	単 位
ドイツ語ⅡA	飯塚公夫	二経2年	2

講義のねらい

一年の文法を一通り終えたことを前提として、やさしいドイツ語の文章を読んでいます。文法と内容の両方の理解を旨とします。

履修上の留意点

辞書必携

成績評価の方法

平常点+発表点+試験の点

教科書

『悪魔・魔女・死の伝説』（第三書房）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
ドイツ語ⅡA	杉本正俊	二法2年	2

講義のねらい

一年生の時に触れたドイツ語の知識をあらゆる点から反復して教えます。一年間の勉強が終わった時、少しでもドイツ語が頭の中に残っているように。できれば長く頭の中にとどまるように。

講義の内容・授業スケジュール

いちおう教科書に則った授業をしますが、学生の勉強具合に応じて、同じ所を何度でもやりません。従って全体のスケジュールはかなり即興的であり、一回の授業に何ページぐらい進むかをあらかじめ決める事はできません。

履修上の留意点

予習は一切要求しません。しかし授業中は授業に集中し、大いに考え、また楽しんでください。わからない事は質問してください。

成績評価の方法

学期末テストはしますが、成績は総合評価でいきます。

教科書

須澤通 黒澤優子著「あなたと私のドイツ語ディアログ」同社社 円2,200 (税別)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ド イ ツ 語 II A	い い づ か き み お 夫 飯 塚 公 夫	二 営 2 年	2

- 講義のねらい 一年の文法を一通り終えたことを前提として、やさしいドイツ語の文章を読んでいます。文法と内容の両方の理解を旨とします。
- 履修上の留意点 辞書必携
- 成績評価の方法 平常点+発表点+試験の点
- 教科書 J・ウルツィディール『雪の夜のプラーク』(行人社) ¥777

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ド イ ツ 語 II B	さ とう けい こ 佐 藤 恵 子	二 経 2 年	2

- 講義のねらい 1年次で身につけたドイツ語の基礎知識を復習しつつ、さらに深めることを目標とします。簡単なテキストを読みながら、ドイツの文化にも目を向けていきます。
- 講義の内容・授業スケジュール 4月から10月程度までに、初級ドイツ語の復習をします。その後、参加者の意見も聞いて、ビデオ教材で授業を進めるか、簡単な読み物を読むかを決めたいと思います。
- 履修上の留意点 出席を重視します。夏学期・冬学期とも、各授業回数の3分の1を越えて休むと、各試験の受験資格がなくなります。ただし、病気などの致し方ない欠席は認めますので申し出て下さい。
- 成績評価の方法 夏学期・冬学期の各試験に、平常点を加味します。
- 教科書 小塩 節『希望のドイツ語』朝日出版社 ¥2,200
その他 プリント使用
- 参考書等 独和辞書が必要。
- その他 前もって指示された宿題は必ずやるようにして下さい。教室での座席は固定します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ド イ ツ 語 II B	しの はら とし あき 篠 原 敏 昭	二法・二営2年	2

講義のねらい

ドイツ語 I A・I B で習った基礎的なことから下記のテキストを使って復習しながら、半歩上の段階のドイツ語の理解に進んでみたいと思います。このテキストはできれば前期で終わって、後期からはもう少し進んだドイツ語と取り組むつもりです。後期のテキストは未定。

講義の内容・授業スケジュール

前期 下記のテキストによるドイツ語の理解。
後期 別のテキストないしプリントによるもう一段階上のドイツ語の理解。
ドイツの文化、歴史なども言葉をとおして学んでいきたい。

履修上の留意点

できるだけ欠かさず出席すること。授業にドイツ語の辞書を必ずもってくること。

成績評価の方法

毎回の授業の予習や宿題、中間試験、学年末試験および出席などの総合評価

教 科 書

宮内敬太郎他『ドイツ語21——中級への橋渡し』三修社 ￥2,200 (税別)

参 考 書 等

授業のなかで指示

そ の 他

テープをつかった授業をおこなう予定。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ドイツ語 II A・II B 〔再クラス〕	もと はし う きょう 本 橋 右 京	二経・二法・二営3年	2

講義のねらい

これまで学んだ文法知識を再確認しながら、読解力を養います。

講義の内容・授業スケジュール

初級文法では時間の制約から十分に練習できなかった項目を復習・補足します。
テキストは Langenscheidt 社刊ですが、日本の学生用に編集されています。全体は15課で、現在のドイツ事情を伝えて興味深いものになっています。
以下いくつかタイトルを挙げます。
変化した人生の理想。アルバイト。青少年とメディア。植物がバツハを聞き分ける。遺伝子工学—希望か脅威か。オゾン層の危機。マスメディアと青少年の読書。

履修上の留意点

各課には丁寧な文法上の註が付されています。テキスト理解を深めるためにも、下調べをして参加して下さい。みなさんの積極的な取り組みに期待します。

成績評価の方法

前期後期の試験や出席などで総合評価します。

教 科 書

松本嘉久編『日常生活のドイツ語』(郁文堂) ￥1,800

フランス語

- フランス語は、古代ローマ帝国の言語であったラテン語が北フランス地方で固有の変化を遂げて形成された言語です。中世期を経て北フランスが優位に立つと、その地方語が共通語として全土に広がり、ブルボン王朝の政治的・経済的・文化的統一政策の下で国語として完成されていきました。この17世紀の絶対君主制の権力を背景に、言語としての純化と規範化の努力が活発に行われて、国語辞典による語彙の整理、語法の強制、綴り字と発音の規定など、主として宮廷の言葉遣いを念頭に標準化されたのです。今日のフランス語の基本構造はこの17世紀以来変わっていないといってもよいでしょう。

第一外交用語としてヨーロッパに君臨していた18世紀、19世紀の威光はもはや望むべくもありませんが、今日フランス語を母語ないし公用語としている地域は、フランス本土以外にもベルギー（約500万人）、スイス（約150万人）、アフリカの旧植民地約20ヶ国などがあります。また400年の移民の歴史をもつカナダのケベック州を中心とした地域（約650万人）やフランスの海外県（グアドループ、マルチニクなどの西インド諸島の70万人、レユニオン諸島の50万人）も忘れることができません。これらを総称して「フランコフォニー」と呼びます。フランス語は今なお全世界で言語人口推定約8,000万人の有力言語なのです。

日本でのフランス語学習の歴史は幕末の長崎に始まります。明治政府の積極的な欧化政策の下で、主として法学・兵学の分野でフランス語教育が行われていましたが、やがて明治憲法の制定に伴ってドイツ系の学問が盛んになるにつれ、その勢いは相対的に減少して、在野の文化の領域などで重んじられる程度でした。

しかし、第二次大戦後の学制改革によって新制大学の第二外国語として取り入れられてから、フランス語の学習者は飛躍的に増大しました。その結果、辞書類も教授法も随分と充実してきました。これから皆さんが学ぼうとしているフランス語はこの延長上にあるものです。この間日仏関係も、文化的な領域のみならず政治・経済の面でも緊密の度を深めてきました。戦後50年になった大学は、時代の要請に応えた魅力ある教育を提供するために改革の努力を着実に積み重ねています。その一方で、学ぶ主体である皆さんの積極的な参加も必要不可欠なものとして期待されています。皆さんの学習意欲を授業の中にとどし反映させていって下さい。

- 駒澤大学でのフランス語の授業は、次のように行われています。

はじめてフランス語を勉強するにあたって、まず次の2科目を履修することが基本です。

☆フランス語ⅠA：人称代名詞・冠詞・名詞・形容詞の用法や動詞の活用など、文の基礎単位とその組み立ての仕組みにあたる、文法を中心に勉強します。名詞に性の区別（男性・女性）があったり、そのために冠詞や形容詞の一致の規則が厳密だったり、動詞が英語に比べてずっと細かく活用するので、はじめのうちは違和感があるかもしれませんが、慣れてくればかえって論理的で明晰だと思いつくはずですよ。あせらず、欲張らず、途中であきらめたり、投げ出したりせず、少しずつ確実に粘り強く前進していきましょう。

☆フランス語ⅠB：習いたての文法の知識を生かして、辞書を引く練習をしながら易しいフランス語の文章を読んだり、簡単な会話を試みたりします。また、フランス語独特の音の習得に力をいれます。発音ができるようになれば、外国語が身近に感じられ、勉強は格段に楽しくなるものです。フランス語の綴り字と発音の関係は規則的で、英語のようなアクセントもありません。発音練習と同時に聞き取り練習もします。

1年次相当の入門・初級の科目を終えると、次の段階に入ります。

☆フランス語ⅡA：ⅠAで扱う文法事項をさらに広げる一方、すでに習ったことは再確認しながら、文学作品などを通じて、辞書を片手にまとまったフランス語の文章に親しむ機会とします。

☆フランス語ⅡB：こちらは担当者によって内容の自由な科目で、聞き取り・会話力の向上を目指すもよし、作文練習もよし、講読によって新聞・雑誌で時事感覚を養うもよし、フランコフォニーの歴史や社会について基礎知識を集めるもよし、フランス人の見た日本のイメージを垣間見るもよし、色々なことが考えられます。

★図書館3階の視聴覚室に関係資料があります。

★NHKのTV・ラジオにも講座があります。

★辞書については、1年次の最初の授業で教員が説明・紹介します。

★仏語検定試験、仏語研修合宿・ツアーに関心のある人は、教員に相談して下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
フランス語 I A	野 沢 協 <small>の ざわ きょう</small>	二 経 1 年	2

講義のねらい

フランス語文法の初歩を学ぶことを目的とします。

成績評価の方法

前期、後期の試験のほか、動詞の活用を対象とした小テストをしばしば行ないます。

教 科 書

簡にして要を得た文法教科書として定評のある下記の本を使います。
川村克己『新川村ふらんす語』（駿河台出版社）¥2,200

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
フランス語 I A	今 関 ア ン <small>いま せき</small>	二 法 1 年	2

講義のねらい

フランス語の初級文法を確実に習得することを目的とします。

履修上の留意点

必ず辞書持参で出席すること。
予習はしなくても良いが、必ず復習して既習事項を覚えるように。

成績評価の方法

平常点50% 授業中に毎回小テストを行い、この点数を出席点とします。
定期試験50%

教 科 書

佐藤久美子『フロレゾン』白水社 ¥2,000

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
フランス語 I A	きの した ゆう すけ 木 下 雄 介	二 営 1 年	2

講義のねらい

フランス語の基本文法を習得する。

講義の内容・
授業スケジュール

おおむね教科書の章立てにそって授業を進める。

履修上の留意点

初めて学ぶ外国語である以上、予習復習が必要なことは言うまでもない。その反面、扱うのは初歩的な事項ばかりであり、地道な努力によってマスターできないものは含まれていない。学生諸君の努力に期待するゆえんである。予習を怠り、教室に坐りに来るだけの学生は受講者とは認めない。

成績評価の方法

期末・学年末試験の成績に平常点を加味して採点する。

教 科 書

山崎庸一郎他『フランス文法の扉』（芸林書房）¥1,700

参 考 書 等

3回目の授業から仏和辞典を使用する予定なので、それまでに購入して教室に持参すること。次の5冊から選択するのが望ましい。初心者用としては『ジュネス仏和辞典』（大修館書店）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、やや詳しいものに『新スタンダード仏和辞典』（大修館書店）、『ロワイヤル仏和中辞典』（旺文社）がある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
フランス語 I B	まえ だ のり かず 前 田 祝 一	二 経 1 年	2

講義のねらい

音としてのフランス語の勉強を主眼にして、この新しい外国語に慣れ親しんでもらいます。

講義の内容・
授業スケジュール

もちろん、すでに学んだ文法事項を基礎にして、応用能力も養います。

履修上の留意点

毎日が新しい学習の連続なので、又すでに学んだことが理解されていることを前提にして、次の授業を行います。

成績評価の方法

前・後期末のペーパー・テストで成績評価しますが、授業中の課題・出席状況も考慮します。

教 科 書

『語り合うフランス語』（朝日出版社）¥1,942

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
フランス語 I B	野 沢 <small>のざわ</small> 協 <small>きょう</small>	二 法 1 年	2

講義のねらい

簡単なものから始めて、フランス語の文章に慣れることを目的とします。

講義の内容・授業スケジュール

教科書の各課について、まずフランス人が吹き込んだテープを使った発音の練習をし、次に訳読を行います。

履修上の留意点

訳読をする際には、教場で学生諸君全員に当てますから、辞書を必ず携行してください。

成績評価の方法

前期、後期の試験によって成績をつけます。

教 科 書

子供だましの文章ではなく、多少とも内容のある文章を用いた教科書として、下記のものを使います。
森本英夫ほか編『エトワール——異星人とのフランス語』（朝日出版社）¥1,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
フランス語 I B	前 田 <small>まえだ</small> 祝 <small>のりかず</small> 一	二 営 1 年	2

講義のねらい

音としてのフランス語の勉強を主眼にして、この新しい外国語に慣れ親しんでもらいます。

講義の内容・授業スケジュール

もちろん、すでに学んだ文法事項を基礎にして、応用能力も養います。

履修上の留意点

毎日が新しい学習の連続なので、又すでに学んだことが理解されていることを前提にして、次の授業を行います。

成績評価の方法

前・後期末のペーパー・テストで成績評価しますが、授業中の課題・出席状況も考慮します。

教 科 書

『川村ふらんす語読本』駿河台出版社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
フランス語ⅠA・ⅠB 〔再クラス〕	くわ た のり あき 桑 田 禮 彰	二経・二法・二営2年	2

講義のねらい

フランス語の基礎の習得

講義の内容・
授業スケジュール

もう一度ゼロから、しっかり確認していきましょう。あまり無理をしないで、基礎力を確実に身につけることをめざします。

履修上の留意点

最も重要なのは、もちろん授業への出席です。一回一回の出席を大切にしてください。

成績評価の方法

ふだんの授業における評価をベースにして、年二回の試験の成績で決定します。

教 科 書

楠瀬絢子他著『赤い風船』朝日出版社

参 考 書 等

そのつど授業で指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
フランス語ⅡA	たけ だ まさ ずみ 竹 田 正 純	二経2年	2

講義のねらい

授業の前半は、昨年学んだ文法事項を再確認することに当てるつもりである。後半はその応用に当てたい。

講義の内容・
授業スケジュール

テキストはかなり易しいものを使いつつ、文法が楽籠中のものになるようにつとめる。後半の応用の授業では、簡単な文章をつくったり話したりできるようになるのを旨とする。別途にテキストを配布する予定である。

教 科 書

アブリアル、窪川編『わんぱくニコラ』（芸林書房）¥1,200

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
フランス語ⅡA	きのした ゆうすけ 木 下 雄 介	二法2年	2

講義のねらい

1年次の授業で修得した文法の知識をもとに、辞書と相談しながら平易なテキストを読み解く練習をする。

講義の内容・授業スケジュール

基本文法の復習と補足を行うために、最初は初級用読本を教科書に用いて速いテンポで読み進め、その後、平易な文章の短編小説（プリント）にとりかかる予定。

履修上の留意点

予習復習が必要なことは言うまでもない。テキスト中のすべての単語の品詞名・用法を確認して授業にのぞむこと。予習を怠り、教室に坐りに来るだけの学生は受講者とは認めない。また、かならずまともな仏和辞典を教室に持参すること（ポケット版の小辞典は不可）。

成績評価の方法

平常点を重視し（約6～7割）、期末・学年末の試験成績を加味して採点する。

教 科 書

木越豊彦他『フランス文法読本』（鍊金社）¥1,300

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
フランス語ⅡA	たけだ まさすみ 竹 田 正 純	二営2年	2

講義のねらい

授業の前半は、昨年学んだ文法事項を再確認することに当てるつもりである。後半はその応用に当てたい。

講義の内容・授業スケジュール

テキストはかなり易しいものを使い、文法が楽籠中のものになるようつとめる。後半の応用の授業では、簡単な文章をつくったり話したりできるようになることを目指す。別途にテキストを配布する予定である。

教 科 書

数江編『続々・愉快的なコント』（第三書房）¥2,000

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
フランス語ⅡB	いま ぜき 今 関 ア ン	二 経 2 年	2

講義のねらい

フランス語の基礎知識を完全なものにし、運用能力（話す・聴く・書く・読む）を高めることを目的とします。

講義の内容・
授業スケジュール

一年時に学んだ文法を復習しながら、実際に学生間で会話をしてもらいます。

履修上の留意点

ヒアリングと会話の比重が高いため、欠席しないこと。
授業には積極的に参加して下さい。

成績評価の方法

平常点50%
定期試験50%

教 科 書

藤田裕二『えすかるご』朝日出版社 2,233円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
フランス語ⅡB	や ぎ あけ み 八 木 明 美	二 法 ・ 二 営 2 年	2

講義のねらい

21世紀に活躍する人々は、英語のみならず、さらにもう一つの言語を習得していることが要求される。また、そうした意識をもち続けることは、大学生の当然の態度である。

講義の内容・
授業スケジュール

1年次に習得したフランス語の知識をさらに発展させ、簡単なフランス語での表現ができるようになることを目標とする。

履修上の留意点

積極的に出席し、予習・復習を欠かさないこと。やる気がないのにただ教室にいることは、真面目な学生への最大の失礼です。

成績評価の方法

平常点・定期試験の結果から総合的に評価する。

教 科 書

未定

科目名	担当者名	配当学科	単 位
フランス語ⅡA・ⅡB 〔再クラス〕	くわ た のり あき 桑 田 禮 彰	二経・二法・二営2年	2

講義のねらい

フランス語中級

講義の内容・
授業スケジュール

もう一度しっかり、基礎を確認していきましょう。あまり無理をしないで、生きたフランス語に触れることをめざします。

履修上の留意点

最も重要なのは、もちろん授業への出席です。一回一回の出席を大切にしてください。

成績評価の方法

ふだんの授業における評価をベースにして、年二回の試験の成績で決定します。

教科書

プリントを用意します。

参考書等

そのつど授業で指示します。

中国語

- (1) これから皆さんが学ぶ中国語は、中華人民共和国政府が制定した“普通話 (pǔ tōng huà)” とよばれる民族共通話です。中国は国土が日本の約27倍と広大で上海語、広東語など方言も多様です。“普通話”は北京語を基礎とした標準語、中国全土で通じる民族共通話です。台湾や東南アジアの華僑社会等で使われている“国語”“華語”との共通性もきわめて高いものです。

中国語はシナ・チベット語族に属し、ウラル・アルタイ語族の日本語とは大きく性格を異にしています。表記文字としては漢字を用いていますが、その発音・字体・意味など日本語と違っており、あくまで「外国語」として取り組むべきものです。発音は難しいとよく言われますが、子音+母音という音節の構造は日本語と基本的には同じで、法則性も高く、最初に日本人の発生習慣にない幾つかの音さえしっかりと学べば、以外に易しいものです。また、中国語は、一文字（一つの音節）に固有のトーン（声調という。基礎は4種類）があり、独特の音楽的響きをもっています。マスターするとその爽やかなリズムを君自身の唇で楽しめる美しい言語なのです。

「横文字が嫌い、では中国語」と思っている君、最初の半年は、この美しい発音を身につけるために中国語のローマ字綴りである Pin yin という横文字につきあっていただきます。外国人が中国語をマスターする近道なんですから。カタカナで中国語の発音を、というのは不正確で結局は遠回りです。英語と違い、クラスの仲間はみんな同じスタート地点から出発します。新しい気持ちでこの中国語の世界的独特の約束としてのローマ字にとり組んでください。

- (2) さて、中国語を選択しようか、という気分になりましたか。ではここで、中国語学習の段階を簡単に説明しましょう。

【選択必修科目】

● I A・I B

もっとも基本になる入門クラスです。このクラスで正確な発音、基本文型、初歩的会話能力等を習得し、また言語学習を通じて中国という民族、文化、民衆への理解や日本との長い交流の歴史に対する知的関心を高めてください。

● II A・II B

I A・I Bの基礎の上に、実際的な読解力や会話力の養成をめざして、学習をつづけてゆくことができます。

【再履修科目】

●開設されていますが、1年目でしっかり学習し、再履修クラスに入らないようがんばってください。

- (3) 試験の形態、評価の基準、テキスト、参考文献等は履修要項をよく見、教場での説明をよく聞いてください。
- (4) 語学の学習は、一回一回の積み重ねがきわめて大切です。初級の一年間は、一回もおろそかにできません。当然、毎回の出席が必要です。その点から出席をとりますが、この意義を積極的に考えてください。

予習、復習は当然必要ですが、授業以外での学習の機会も最近はいへん恵まれています。中国語の講座は、NHKのテレビ、ラジオで行われていますが、4月第一週の開講ですから、授業開始以前にテキストを求め準備してください。長時間にわたって中国語の学習が中断する夏休みなど、各種、各地の講習会、集中講義などに参加されるのもいいでしょう。すこし冒険をしてみようという諸君には、夏、春の休暇を利用しての中国各地の大学が開催する外国人のための短期留学をおすすめします。詳しいことは教師に相談してください。

中国語の独習誌としては、『中国語』（月刊、内山書店）が定期的に発行されています。

学習が進み、興味が湧いてきた諸君には中国語検定試験（準4級、4級、3級、準2級、2級、1級）が待っています。また、中国国家教育委員会（日本の文部省にあたる）が指揮、企画した「漢語水平考試（HSK）」も最近実施され、日本でも受験できるようになりました。これは将来英語におけるTOEFLの役割を担うものと予想されます。

最後に皆さんの健闘を祈り、教室でのいきいきとした出会いをこころから「歓迎」します。楽しく、学び甲斐のある授業をいっしょにつくりあげましょう。

中国語 I A ・ I B

中国語の入門クラス。発音と文字（簡体字）そして文法の基礎を学ぶ。授業では、まず「ピンイン」というローマ字表記を使って発音を学び、次いでその表記法によりつつ基本的な文法・句型等を学んでゆく。「ピンイン」表記を最初にしっかり覚えないと、その後の学習がほとんど不可能になる（漢字で書かれているのではかの外国語より易しいというのは、誤った俗説である）。

I A - I B という週 2 コマの授業を通じて 1 冊の教科書を使用する。I A - I B の組み合わせは学部ごとに固定されており、それを二人の教員が共同で担当する。必ずその 2 コマを 1 セットで履修しなければならないので、登録の際、組み合わせを間違えぬようくれぐれも注意すること。

中国語の学習には、自分の口と耳を使った教室での実地練習がきわめて重要である。休まず出席し、教員の指導のもと、積極的に練習を行ってほしい。出席は成績評価においても重要な判断材料となる。そのほか年間を通じての各種小テスト、中間・定期試験、課題提出、および授業中に見られる実際の習熟度等々に基づいて最終的な成績評価がなされる。日頃の努力の積み重ねが不可欠であり、定期試験のときだけ一夜漬けで乗り切るということは絶対に不可能である。

I A - I B の段階では、辞書をひいて未知の語彙を解決するよりも、教科書で与えられた文例をそのまま口と耳で覚えこむことの方が重要である。したがってこの段階では、いたずらに大型の辞書を買ってもてあますよりも、下記のような入門用の小型辞書を手もとに置いて、予習・復習の助けとするのがよいだろう。

『標準中国語辞典』[第2版] 白帝社 2,300円

『簡明中日辞典』 東方書店 2,400円

『簡約・現代中国語辞典』 光生館 3,500円

『プログレッシブ中国語辞典』 小学館 3,500円

いずれも語彙数をしぼり、その代わりに基本的な文法事項の説明を充実させており、各語の語釈の下に比較的わかりやすい例文も挙げられている。ほかにも同規模の小型辞典が数種出版されているが、そのような入門学習用の配慮はなされていないので、お勧めできない。なお、辞書をひいたら、日本語の訳語を写すのではなく、ぜひ例文を書き写したり音読したりしてみたい。

中国語
I A ・ I B

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国語 I A	あずま 東 えい 映 ぜん 全	二経 1 年	2
中国語 I B	すぎ 杉 やま 山 やすし 静	二経 1 年	2

講義のねらい

中国語と日本語の漢字は、意味の上では 3 分の 2 が共通しているので、初級段階では、内容把握は困難ではない。しかし、漢字の発音は全く異なるので、そのトレーニングをおろそかにすると、挨拶や買物にすら困ってしまうことになる。本講義では、1 年を通じて正確な発音をマスターすることを、最大唯一の目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

日本語のひらがなに相当する。ローマ字表記の発音記号=ピンインの音読を学生 1 人 1 人に指導し、その上達のための小テストを随時実施する。

履修上の留意点

辞書は教室で指示する。

教科書

相原茂『北京上海リスニングツアー』 朝日出版社 2,136円

その他

1 回目の授業から必ず出席すること。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国語 I A	みやもと あつこ 宮 本 厚 子	二法 1 年	2
中国語 I B	みやもと あつこ 宮 本 厚 子	二法 1 年	2

講義のねらい

週二回の授業を通して、中国語の基礎を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

発音・文法事項。

履修上の留意点

練習問題を宿題として課すことがあるのでやってくること。

成績評価の方法

テスト：前後期末に各一回。学期中に小テストを適宜行う。

教科書

牧田英二・楊立明『新訂例文中心初級中国語』同学社 1,600円

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国語 I A	すぎやま やすし 杉 山 静	二 営 1 年	2
中国語 I B	あまの せつ 天 野 節	二 営 1 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

中国語の基礎的な学習内容を発音練習を中心に、読む、書く、聞く、話す技術も養えるよう心がけて授業を進める。

授業開始から6回までを発音の基本を修得することに当て、その後、全20課を1週1課を目安に進める。IAで本文及び練習を行い、IBで新出単語及び文法の説明練習を行う。

履修上の留意点

中国語は、私たちも使用する漢字で表記されるとは言え、外国語であるから、総論に明記されている通り、安易に取り組まず、予習復習を怠ることなく、授業には必ず出席すること。

成績評価の方法

授業態度（出席、課題、小テスト）及び期末テストの総合で評価する。

教科書

牧田英二・楊立明『新訂・例文中心初級中国語』同学社 1,500円

参考書等

授業の中で紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中国語 I A・I B 〔再 クラス〕	おおくほあきお 大久保 明 男	二経・二法・二営 2年	2

講義のねらい

中国語の基礎（ピンイン、発音など）をしっかりと習得した上で、実用的な中国語を会話中心に学ぶことを目指す。

成績評価の方法

出席、学習態度、小テストなどによる総合評価。

教 科 書

丁秀山 坂井田ひとみ『やさしい入門中国語』金星堂 2,300円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中国語 I A・I B 〔再 クラス〕	しお はた しんいちろう 塩 旗 伸 一 郎	二経・二法・二営 2年	2

講義のねらい

「話せる」力を中心に、文法の系統的な理解と読み書きを加えた総合的な能力を育て、ずばり「中国語ができる」ようになることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

教科書は「基本対話」、「文法」、「スキット」、「練習問題」の4部構成。このうち「基本対話」は暗誦、「スキット」は正確な発音で読めること、「文法」は復習、「練習問題」は予習が義務づけられる。

履修上の留意点

出席と授業態度を特に重視する。この両面で根本的に考え方を改めて臨まない限り、今年も単位取得は不可能である。学習の蓄積がある英語と異なり、一から学び直す中国語では毎回出席が当たり前。また指名された際、適切な答えが正しい発音でできるかどうかが評価の分かれ目になる。出席してただぼんやり坐っているだけだったり授業にまじめに取り組まない者は来年もう一度履修してもらおう。

成績評価の方法

定期試験+授業態度-欠席点。欠席3回目から理由の如何を問わず10点ずつ減点する。年間3分の1までは欠席OKなどと考えると大間違いである。遅刻は2回で欠席1回とみなす。

教 科 書

榎本英雄『できる中国語』同学社 1,700円

中国語ⅡA

ⅠA－ⅠBの学習を基礎としつつ、ピンイン付の長文を学び、中級程度の読解力・文法的理解力を養う。正確な読解は、読み書きだけではなく、話したり聴いたりするための基礎にもなるものである。

授業は各担当者によって多彩な内容が用意される。いずれの場合も、発音と基礎文法の復習・定着、やや複雑な中級程度の語彙・文法・文型の学習、そして長文の論理展開や文章構成の把握、といったことが目標となるであろう。また、それと同時に、教材を通して、表面的な知識や情報としてではない、内面からの中国理解の眼を養ってもらいたいと思う。

授業には教科書のほかに、以下に挙げるような辞書が必要である。少々高価かもしれないが、これらより小さいもの、およびこれらより古いものは、特殊なものを除けばほとんど実用に堪えず、結局は無駄になってしまうだろう。

『中日辞典』小学館 7,000円 1992年

『現代中国語辞典』光生館 6,500円 1982年

『中日大辞典』大修館書店 8,858円 増訂第二版

なお、成績評価の原則は既述のⅠA－ⅠBに準ずるものとする。

担当者名		配当学科	単 位
しゅう 周	ふはん 璣	二 経 2 年	2

中国語
ⅡA

講義のねらい

発音と基礎文法の復習・定着、中級程度の語い、文法・文型の学習、そして長文の文章構成の把握等を目標として中級程度の読解力、文法的理解力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

中国の当代の有名な文学者の作品を選び、編集している教科書。多様な文体から材料を選んでいる。

授業中、一人ずつ、少しずつ読んで、訳してみてもらって、そして発音の訂正とこまかい説明を行う。

十分な理解、十分な記憶のため、文章の一部分一部分を暗記する必要がある。

履修上の留意点

予習と復習が必要。文章の基本語について、学生諸君はみずから苦しんで辞書を引く必要がある。それぞれの文章を正しい発音でなんべんもくりかえし音読してほしい。

成績評価の方法

定期試験と平常点、出席点を総合して判断する。年出席回数のおよそ三分の一欠席したら、学習権を放棄したと見なす。

教科書

大原信一『中国語中級読物選』東方書店 980円

担当者名	配当学科	単 位
すぎやま やすし 杉 山 静	二 法 2 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

- (1)漢語発音方案による発音をチェックし、正確な発音を定着させる。
- (2)基本構造を理解し、常用句型を習得させる。
- (3)授業はゼミの形をとって行なうので、授業前の予習や準備が必要である。

成績評価の方法

- (1)平常時の授業に臨む態度、予習や準備の有無を重視する。
- (2)発音テストやヒヤリングテスト及び、中間試験、期末試験等を実施する。

教 科 書

日下恒夫・石汝傑『ことばの旅』好文出版社 ￥1,600

参 考 書 等

辞書参考書は授業時に指定する。

担当者名	配当学科	単 位
あずま えい ぜん 東 映 全	二 営 2 年	2

講義のねらい

ピンイン音読を再確認し、発音を固めた上で、中級程度の長文を、辞書を片手に読めるようにする。

講義の内容・
授業スケジュール

カレントな話題を集めたテキストを用い、現代中国への関心をも高めることを目指すが、詳しいことは、授業で説明する。

履修上の留意点

必ず、辞書を用意すること。

成績評価の方法

試験、出席、授業態度等、総合的に判断する。

教 科 書

山下輝彦『中国生活便り』白水社 1,900円

そ の 他

1回目の授業から必ず出席のこと。

中国語ⅡB

ⅠA－ⅠBの学習を基礎としつつ、簡単な内容の文を言ったり書いたりすることができるような、初歩的な表現力の獲得を目指す。長文読解中心のⅡAに対し、ⅡBの教材は短文の会話体を主とするもので、内容理解だけならさほど難しくはないであろう。ここで目標とされているのは新たな知識の拡張よりも、むしろ既修の知識を血肉化させ、それを「使える」ようにすることなのである。つまり「発信型」の語学力の土台を築こうというわけである。そのため毎回の授業に休まず出席するのはもちろんのこと、教室で行われる練習に積極的に参加し、なるべく多くの反復練習をこなすように努めて欲しい。成績評価の原則は、上記のⅠA－ⅠBに準ずる。

担当者名	配当学科	単 位
みやもと あつこ 宮 本 厚 子	二 経 2 年	2

講義のねらい

中国語Ⅰで学習したことを基礎に、発音・聞き取りの力を付ける。

履修上の留意点

予習の必要はないが、教科書の暗唱を課す場合があるので、各自練習してくる必要がある。

成績評価の方法

出席とテストの成績の両方で評価するので、まじめに出席することが望まれる。テストは前後期末に各一回。学期中に小テスト（口頭試験を含む）を適宜行う。

教 科 書

沈国威・中川正之『ブラッシュアップ中国語』朝日出版社 1,700円

担当者名	配当学科	単 位
しゅう ぶん 周 璣	二 法 2 年	2

講義のねらい

1. 一年次に学んだ発音・文法知識を、より完成度の高いものを目指す。
2. 簡単な中国語の会話力の習得を目指す。
3. 中国語の学習を通じ、中国に関する知識を深める。

履修上の留意点

1. 予習・復習は必須である。
2. 授業には辞書を携帯すること。
3. 暗記をよくやりなさい。

成績評価の方法

定期試験と平常点、出席点を総合して判断する。欠席が授業の回数三分の一になったら、学習権の放棄と見なす。

教 科 書

高橋弥守彦ほか『中国語と現代中国』白帝社 1,600円

担当者名	配当学科	単 位
すぎ やま やすし 杉 山 静	二 営 2 年	2

講義の内容・
授業スケジュール

- (1) 先ず一年次に学んだ発音をチェックしながら、文法の知識をより充実する。
 (2) 中国語の学習を通じて、中国人の日常の「暮らし」を理解する。
 (3) 教科書の「中国人『暮らし』のスケッチ」は全部で20課あり、いずれも「暮らし」に密接な話題ばかりで、興味をさそうと思う。

履修上の留意点

授業は一応「ゼミ」の形をとりますので、授業前の準備や予習は必ずすること。

成績評価の方法

- (1) 出席率の状況によるもと、授業に臨む態度をとくに重視する。
 (2) 発音テストや、中間試験、期末試験等のテストによって判定する。

教 科 書

荒屋勤、徐迎新『中国人「暮らし」のスケッチ』朝日出版社 1,650円

参 考 書 等

辞書は授業時に指定する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中国語ⅡA・ⅡB 〔再クラス〕	おおくほ あき お 大久保 明 男	二経・二法・二営3年	2

講義のねらい

実用会話力の養成を目指す。

履修上の留意点

とにかく声を出そう。

成績評価の方法

出席、学習態度、小テスト（随時に行う）などによる総合評価。

教 科 書

張明遠『今日中国』金星堂 1,850円

参 考 書 等

中日辞典が必要。

ス ペ イ ン 語

(1) スペイン語は、イベリア半島のローマ帝国による支配の一環として普及したラテン語（正確にはケケロの作品などの文語ラテン語とは異なる一般民衆の話していた口語の俗ラテン語）の子孫に当たるロマンス諸語の一つです。ロマンス語には、他にフランス語、イタリア語、ポルトガル語、カタルーニャ語（スペインのバルセローナを中心とした地域で話されている）、ルーマニア語等があります。これらの言語は兄弟関係なので、互いに語彙や文法がよく似ています。スペイン語は、歴史的に見ればスペイン中央部の一地域で話されていたカスティージャ方言が国家語化したものです。同方言の話されていたカスティージャ地方がイスラム教徒に対するレコンキスタで主導的な役割を果たし、その政治的な勢力伸張と軌を一にして言語的な覇権を確立していった経緯によります。ですから、スペイン語は「カスティージャ語」とも呼ばれています。

現代のスペイン語はスペイン本土に加え、中南米諸国のおよそ20カ国で母語ないし公用語として話されています。その使用人口が3億人を越える国際性の高い言語です。米国にもカリフォルニア・フロリダ州を中心に、2,000万人を越えるヒスパニック系市民がおり、その政治文化的影響力が無視できない存在になっています。またアフリカの赤道ギニアという国でも話されています。スペイン語がこのように広く普及したのは、コロンブスのアメリカ大陸到達以後、スペイン人（ブラジルの場合はポルトガル人）による植民地化がそこで進められた歴史的事実から説明されます。我が国は主に通商レベルでスペイン語諸国との関係が深いので、英語につぐ貿易語として伝統的に学ばれてきています。

スペイン語の音声の特徴を一言で表せば、母音の明瞭さが際立ち、きびきびとした張りに満ちています。しかもレガートに流れるようで耳に快く響きます。スペイン語に造詣の深かった英国の作家、サマセット・モームは『ドン・フェルナンド』において「スペイン語は、イタリア語よりも、音が荒々しい。（中略）注意を強いるような、弾んだ急速調の活力がある。気品と慎重さがある。どの文字も重要で、どの音節も価値を持つ」と的確に評しています。従って、口頭練習の際、舌や口が疲れるくらい一生懸命動かさなければスペイン語らしい発音はできません。

文法の大きな関門は、法（スペイン語には、行為や状態を現実的なものとして述べる直説法と非現実的なし不確定的に提示する接続法の2つがあります）・時制・人称・数によって複雑な変化を示す動詞の活用です。また名詞には男性形・女性形がありこれに一致して形容詞も語尾変化します。これを習得するには、パターンを理解した上で、こつこつ覚えて慣れてしまうのが最良の方法です。

(2) スペイン語の授業

☆「スペイン語ⅠA・ⅠB」：一年間の学習を通して、スペイン語の基礎をしっかりと身につけます。

具体的な到達目標は、次の5点です。

- ① スペイン語特有の文字の読み方と正しい発音を習得する。
- ② 挨拶や自己紹介など簡単な会話表現をマスターする。
- ③ 基礎的な文法と語彙を習得する。
- ④ ごく平易な文章を読んだり、聞き取れるようにする。
- ⑤ スペイン語圏の豊かな言語文化への理解と関心を深めてゆく。

授業はいずれも文法・会話・読み物の三位一体で進められます。A・Bとも、その内容について明確な区分けはありません。

☆「スペイン語ⅡA・ⅡB」：「ⅠA・ⅠB」の既習事項の復習と応用をしながら、さらにスペイン語の理解力を総合的に高めてゆきます。基礎レベルの会話や作文をこなし、辞書を使ってある程度まとまったスペイン語の文章が読解できることを目標とします。

★NHKのテレビ・ラジオにもスペイン語の講座があります。特にラジオの講座は密度が高くかなり速いペースで進みますが、実力をつけたい人は大いに活用しましょう。

★辞書・参考書等については、一年次の最初の授業で教員が紹介します。

★スペイン語検定試験に関心のある人は、教員に相談して下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
スペイン語 I A	に わ しょう いち 丹 羽 昌 一	二経・二法・二営1年	2

講義のねらい

まず発音練習に重点をおき、ついで音読と初歩的な文法を習得する。

履修上の留意点

第二外国語の学習には日頃かなりの努力と根気を要する。その点をわきまえ、漫然とした気持で履修届をだすことのないよう、老婆心ながら一言。

成績評価の方法

期末試験の結果以上に、平常の学習態度を重視する。

教 科 書

宮本博司『ようこそスペイン語の世界へ』大学書林

参 考 書 等

辞書を購入のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
スペイン語 I B	なか やま なお し 中 山 直 次	二経・二法・二営1年	2

講義のねらい

スペイン語文法の概要を、体系的にかつ能率よく修得することをねらいとする。

講義の内容・
授業スケジュール

毎回、スペイン語文法の基本事項を説明した後、理解を深めるために練習問題を解く。

履修上の留意点

大学1年次で初めて学習する「初習」科目なので、なるべく欠席しないようにしてもらいたい。また、当然ながら、毎回予習をして授業に臨んで欲しい。

成績評価の方法

授業中の演習や応答の状況を記録しておき、その合計を数値化して成績の評価とする。(いわゆる学期末定期試験は行わない。)

教 科 書

中山著『やさしいスペイン語』白水社

参 考 書 等

辞書：宮城他編『現代スペイン語辞典』白水社
参考書：中山著『初級スペイン語』白水社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
スペイン語 I A・I B 〔再クラス〕	おぎのまさし 荻野雅司	二経・二法・二営 2年	2

開講時に指示します

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
スペイン語 II A	なかやまなおし 中山直次	二経・二法・二営 2年	2

講義のねらい

1年次で学習したスペイン語文法の力を補強しつつ、それを各種の表現に応用できるようになることをねらいとする。

講義の内容・
授業スケジュール

毎回、会話文を訳読し、そこから抽出した文法事項を説明し、関連した応用表現を演習する。

履修上の留意点

大学1年次で初めて学習したはずの「初習」科目なので、なるべく欠席しないようにしてもらいたい。また、当然ながら、毎回予習をして授業に臨んで欲しい。

成績評価の方法

授業中の演習や応答の状況を記録しておき、その合計を数値化して成績の評価とする。(いわゆる学期末定期試験は行わない。)

教 科 書

中山著『トールス一家の人たちと』 芸林書房

参 考 書 等

辞書・参考書等は、現在持っているもので十分まにあうと思う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
スペイン語ⅡB	に 丹 羽 昌 一	二経・二法・二営2年	2

履修上の留意点

動詞の活用その他、一年次にくらべて文法内容がいっそう煩雑になるので、履習者諸君のより積極的な努力を期待する。

成績評価の方法

期末試験の結果以上に、平常の学習態度を重視する。

教科書

宮本博司『ようこそスペイン語の世界へ』大学書林

科目名	担当者名	配当学科	単位
スペイン語ⅡA・ⅡB 〔再クラス〕	おぎ 荻 野 まさ し 司	二経・二法・二営3年	2

開講時に指示します

ロシア語

● ロシア語とその周辺

ロシア語はインド・ヨーロッパ語中のスラブ語派（この中には西スラブ語、東スラブ語、南スラブ語等があります。）のなかの東スラブ語に属しています。ポーランド語、チェコ語、スロヴァキア語、ブルガリア語、セルビア語、クロアチア語等は姉妹語にあたります。諸君がこれから学ぶロシア語とはモスクワ中心とした現代標準語を意味します。ロシア語というといふ最近までは恐ろしい鉄のカーテンの国の言葉として日本では敬遠されがちでしたが、ソヴェート政権崩壊後は私たちにはぐっと親近感もてる言語になってきました。ロシア語を話す人々の多様性と数の多さは意外に知られていませんが、ロシア語を使用している人口はざっとEU-欧州連合の人口3億4千万人に匹敵する数に上っています。ロシア語は現在著しく変貌しつつあるロシア（人口1億5千万、面積日本の54倍、ロシア連邦内20の共和国）と旧ソ連の多数の共和国を含む文字通りユーラシアの共通語として重要な役割を果たしています。

そもそもロシア語の起源はロシア人自身にもわかっていませんが、ロシア文字は9世紀後半ギリシア正教を布教するためにモラヴィアに赴いたギリシア人僧侶キリール、メフォージイ兄弟によって伝えられたものと言われ、この時はじめてスラブのアルファベット「グラゴル文字」ができたと言われていいます。その後ビョートル大帝の文字改革によりロシア語は近代化の道りを歩むようになります。そして19世紀初頭に現代の標準語と呼ばれる言語が成立しました。かつて19世紀の文豪ツルゲーネフが指摘しているようにロシア語には独特の力強さとメリハリがあり、またイタリア語のように心地よいリズムカルな響きがあります。文字と音声をおぼえれば発音記号は一切不要で、文字の通りに読めばよいのですから簡単です。文字は全部で33文字しかなく、ラテン文字やギリシア文字からきているものが多いのでおぼえ易い。日本語のて、に、を、は、に当たる部分をロシア語は語尾変化によってあらわし、全体の文法体系はきわめて理路整然としています。英語のように面倒な定冠詞や不定冠詞もなく、また時制の区別もはるかに簡単です。ロシア語の学習者は日本ではまだまだ少ないですから、稀少価値のある言語をやってみたい人はぜひロシア語を学んでみてください。なお、日本人とロシア人の交流は遠く1600年代の後半に始まっています。1783年には大黒屋光太夫と言う船頭が暴風にあって漂流し、カムチャツカにたどり着き、その後89年にはイルクーツクに渡り、ロシアに帰化して日本語を教えるように勧められたようですが、帰国の意志は堅く、92年にはついに帰国したと記されています。この間のロシアにおける彼の見聞がかの有名な桂川甫周編さん『北槎聞略』という本にまとめられたことは周知のことです。その後の1885年にはロシアからブチャーチンがフリゲート艦ディアナ号で来日し、日露和親条約が締結されます。しかし、当時下田湾に停泊中のディアナ号は津波により沈没してしまい、ロシア人は戸田村に滞在して新艦を建造しようとします。その時村の人々はロシア人を手厚く援助し、彼らの間に暖かい友情が生まれて、日露友好の礎が造られたと言われていいます。

● ロシア文化の香気にじかに触れ、国際感覚を磨こう！

ただ単位の為だけに語学を学ぶのも面白くありません。何か目的をもって学べば学習もはかどります。例えば言語の背景にあるその国の文化に興味をもてば、より一層の言語を深めることが出来ます。ロシアの国土の広さもさることながら、文化も大きなスケールを誇っています。ロシア文学では荘重なる歴史の縦糸と空間の横糸によって織りなされたかの有名なトルストイの『戦争と平和』、人間の魂の内奥を鋭くえぐったドストエフスキーの『カラマゾフの兄弟』、『罪と罰』、チェホフの『桜の園』等は誰でも一度は耳にしたことがあることでしょう。また音楽・バレエではチャイコフスキーの『白鳥の湖』、ラフマニノフや、ハチャトゥリアン等の作品等の他もありますし、絵画ではレーピンやレビタン、映像芸術のほうではエイゼンシュテインの〈モンタージュ〉理論を実践した『戦艦ポチョムキン』やタルコフスキー等の作品は余りにも有名です。これらの独特な文化遺産を理解することは、日本の文化にたいする認識を新たにし、自国の文化を相対化することによって、自らのものの考え方を豊にすることにもなります。

● 最新のロシア事情の通になるためには

揺れ動くロシア情勢を知るにはまずロシア語を知っていることが一番有利です。ラジオの中波を選び、NHKの第一の近くでロシア語の放送を聴くことが出来ます。また大学の図書館には常時逐次刊行物としてアガニョーク（写真誌）、新聞のブラウザ等がおかれていますので参考にしてください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ロ シ ア 語 I A	ひろ た ひで やす 廣 田 英 靖	二経・二法・二営1年	2

講義のねらい

一般的に、語尾変化があるロシア語は、難しい言語であるとおもわれがちですが、その動詞、形容詞、名詞の語尾変化を含む文法体系は、驚くほど首尾一貫しており、ある程度基本文法を学ぶと、ロシア語の文体が如何に単純、明快であるか、さらにその構成が極めておらかで、自由、柔軟なことに気がつきます。このような特徴を持つユニークなロシア語の学習を通して、ユーラシア大陸における旧ソ連の各共和国、諸民族の生活や文化の背景にも広い視野でスポットをあてます。

最初の段階では、ローマ字やギリシャ文字と共通のものもあるわずか33個のロシア語アルファベットの綴、発音をイラストで示し、次にごく簡単な言葉、挨拶、ことわざを利用しながら、アクセントとリズム、イントネーションを反復練習し、自然におぼえることに重点をおきます。

徐々にロシア語の基本文法を体系的に分かりやすく解説し、平易な文型、実用的で応用のきく会話表現を学び、辞書を用い簡単な文章が正確に読み取れるようにします。

授業の合間には、気分転換をかねてポピュラーなロシア民謡を口ずさんだり、楽しく内容豊かなアニメーション・ビデオを鑑賞し、頭脳を能率よく働かせるロシア語学習を目指します。

成績評価の方法

出席および平常点を重視し、授業内に行う小テストを加え評価します。

教 科 書

戸辺又方『1年生のロシア語』白水社 ¥1,400

参 考 書 等

露和辞書

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ロ シ ア 語 I B	ひろ た ひで やす 廣 田 英 靖	二経・二法・二営1年	2

講義のねらい

ロシア語 I A で学んだアルファベットや言葉を、具体的に用いられる日常会話の形式で繰り返し練習し、簡単な挨拶から始まるやさしい表現を直接耳から聞き覚えます。ディクタント（書取）を行い、耳で聞き取り、筆記体でもしっかりと書けるようにします。

成績評価の方法

出席および平常点を重視し、授業内に行う小テストを加え評価します。

教 科 書

米重文樹『話すロシア語入門』白水社 ¥1,300

参 考 書 等

露和辞書

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ロシア語 I A・I B 〔再クラス〕	ひろ た ひで やす 廣 田 英 靖	二経・二法・二営 2年	2

ロシア語 I Aの内容に準じる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ロシア語 II A	ひろ た ひで やす 廣 田 英 靖	二経・二法・二営 2年	2

講義のねらい

ロシア語 I Aで学んだ基本的な語尾変化、基礎文法を復習しながら、複文（関係代名詞、形動詞、副動詞など）をさらにわかりやすく具体的に解説し、辞書の引き方を学び、辞書をたよりに簡単な文章を読んだり、日常会話も試みます。

授業の合間には、ロシア文化圏を紹介するビデオを鑑賞し、またWindows 95で日本語ワープロソフトWordを用いてロシア語の文書を作り、「パソコンでロシア語の処理ができる」ことを実感します。

成績評価の方法

出席および平常点を重視し、授業内に行う小テストを加え評価します。

教科書

教場にてプリントを配布。

参考書等

露和辞書

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ロ シ ア 語 II B	ひろ た ひで やす 廣 田 英 靖	二経・二法・二営2年	2

講義のねらい

ロシア語Ⅰで学んだことを基礎に、新聞・雑誌などから選んだ生の興味ある見出しや短い文章を教材として利用し、ロシア語の理解力を向上させるために、辞書を実用的な文章の学習に取り組みます。

授業の合間には、旧ソ連、新しいロシアおよびその近隣諸国の文化、歴史の理解に役立つビデオを鑑賞し、またユーモアあふれるロシアのアネクドット（小話）や含蓄に富んだことわざにもふれ、生き生きとした実践的なロシア語学習を目指します。

成績評価の方法

出席および平常点を重視し、授業内に行う小テストを加え評価します。

教 科 書

教場にてプリントを配布。

参 考 書 等

露和辞書

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ロ シ ア 語 II A・II B 〔 再 ク ラ ス 〕	ひろ た ひで やす 廣 田 英 靖	二経・二法・二営3年	2

ロシア語ⅡAの内容に準じる。

英 会 話 I ・ II

初級の会話クラスです。基本的な日常表現ができることを目指します。達成目標の目安は英検2級合格、TOEFLのスコア450程度です。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 会 話 I	にしむら ゆうこ 西村祐子	二経 1・2・3・4 選 二管 1・2・3・4 選 二法 1・2・3・4 選	2

講義のねらい

基本的な身の回りのことを英語で表現できることをめざし、できるだけクラス内で英語で発表し会話する時間を多く設け、英語で考えることを実践させる。授業はすべて英語でおこない、質問もすべて英語でのみ受け付ける。聞き取り、発音矯正の為にLLの設備を用いることがある。

履修上の留意点

例年履修登録者の3分の2程度は落伍する厳しいクラスである。

成績評価の方法

すべて平常点と提出物による。

教 科 書

授業中に指定する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 会 話 II	にしむら ゆうこ 西村祐子	二経 1・2・3・4 選 二管 1・2・3・4 選 二法 1・2・3・4 選	2

講義のねらい

基本的な英語表現ができる学生のための、プレゼンテーションを多くとり入れたクラス・英語でいろいろなトピックについて発表できる第一歩として、いろいろなビデオをみながらその内容を英語でまとめ、発表する訓練をする。よりよい英語を話すため、書く力のブラッシュアップにも留意する。

履修上の留意点

宿題が多い。

成績評価の方法

すべて平常点と提出物によるが、3分の2以上が落伍する厳しいクラスである。

教 科 書

授業で指定する。

英語 L L I ・ II

ランゲージ・ラボ（1号館3・4階のLL教室）を使用し、英語の発音、アクセント、イントネーションなどの口頭練習、日常会話などのヒアリングとスピーキングを訓練します。I、IIともTOEFLで450、英検2級合格程度を達成目標として目指す初級レベルのクラスです。

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 L L I	おがさわら りゅう げん 小笠原 隆 元	二経 1・2・3・4 選 二営 1・2・3・4 選 二法 1・2・3・4 選	2

講義のねらい

これまで学習した英語の実力が示されることを目標にして、自己主張と自己表現が出来るようになることを心がけたい学生を希望する。ただ願望的に出来るようになりたいと夢想するのでは困る!

講義の内容・授業スケジュール

まず聞き取りと自分の音声による再生・発音の練習になれることに集中する。年間25回程度のクラスの数倍の時間をテープやビデオ・映画等の聞き取り、音読、再生発音をすること。毎日、音読と筆写をすることを覚悟した学生の参加を望む。

履修上の留意点

以上の講義のねらいと講義の内容・授業スケジュールをよく心得て毎日、自分の声を出して、語学は体学と心得て、眼耳鼻口体意の六根を完全に連動させることを忘れないでほしい。各自テープレコーダー、ビデオとそのテープ数本等は必須のものと思われる。

成績評価の方法

成績評価は平常点と各種提出物等、総合的判断で行う。

教科書

初回の授業日には必ず出席して諸資料と受講に関する指示を聞くこと
テキストについては次のものを指定したい
①「基礎からのリスニング」北星堂 ¥1,400
②「心に残る言葉」桐原書店 ¥580
③他にプリントコピー 配布

その他

カセットテープ数本、ビデオテープも2～3本用意しておくことを要望。

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 L L II	いわ やま よし はる 岩 山 義 春	二経 1・2・3・4 選 二営 1・2・3・4 選 二法 1・2・3・4 選	2

講義のねらい

この科目では授業の前半はCBS、NBC、ABC、CNN等の最近のニュースを聞き、英文でアウトラインを書き、それを英口頭で発表する。
後半の授業はテキストを使い、パターン・プラクティスや会話の練習をする。

履修上の留意点

ニュースのテープは前の週に渡すので、徹底した予習が望まれる。

成績評価の方法

全評価のうち、毎回のクイズは50%、前・後期末の試験（口頭発表）は50%とする。出席が全授業のうち3分の2に満たない場合は不合格となる。

教科書

『Situational English』南雲堂——日米英会話学院

(4) 保健体育科目

(4) 保健体育科目

健康・スポーツ論(前期)(長濱友雄)	全 99
健康・スポーツ論〔再クラス〕		
健康・スポーツ論(前期)(竹田幸夫)	全 100
健康・スポーツ論〔再クラス〕		
健康・スポーツ実習(卓球)(宮沢栄作)	全 101
健康・スポーツ実習〔再クラス〕(卓球)		
健康・スポーツ実習(トレーニング&ニュースポーツ)(大石武士)		全 102
健康・スポーツ実習〔再クラス〕(トレーニング&ニュースポーツ)		
健康・スポーツ実習(広谷五郎)	全 103
健康・スポーツ実習〔再クラス〕(バトミントン)		
健康・スポーツ実習(バトミントン)(三幣晴三)	全 104
健康・スポーツ実習〔再クラス〕(バトミントン)		
健康・スポーツ実習(卓球)(丸山精一)	全 105
健康・スポーツ実習〔再クラス〕(卓球)		
健康・スポーツ実習(空手道)(和田實正)	全 106
健康・スポーツ実習〔再クラス〕(空手道)		
生涯・スポーツ実習(集中前期・基礎)(休講)		
生涯・スポーツ実習(集中前期・応用)(休講)		
生涯・スポーツ実習(集中後期・基礎)(休講)		
生涯・スポーツ実習(集中後期・応用)(休講)		
生涯・スポーツ演習(シーズン前期・基礎)(三幣晴三他)	全 107
生涯・スポーツ演習(シーズン前期・応用)		
生涯・スポーツ演習(シーズン後期・基礎)(江口淳一他)	全 109
生涯・スポーツ演習(シーズン後期・応用)		

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ論（前期）	なが はま とも お 長 濱 友 雄	二 経 1 選 必 二 法・二 営1・2・3・4 選	2
健康・スポーツ論（前期） 〔 再 ク ラ ス 〕		二 経	

講義のねらい

我々日本人は世界一の長寿を誇っているが、ほんとうに健康で活力に満ちた生活を送っているのだろうか。最近のデータによれば体格は非常によくなったけれども、それに反して体力は低下している。そこでどのような生活をし、体力の増強を計らなければならないかを中心に講義を進めたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 時限目：現代生活の身体活動、余暇と運動
- 2 時限目：体力の定義、時代の変遷と体力
- 3 時限目：運動を起こす身体のしくみ
- 4 時限目：運動を持続する身体のしくみ
- 5 時限目：運動の継続体験に対応する身体の変化
- 6 時限目：体力の指標と運動の激しさの尺度
- 7 時限目：体力トレーニング理論
- 8 時限目：体力・運動能力の個人差と素質
- 9 時限目：運動と外気環境
- 10 時限目：運動と心理的要因
- 11 時限目：運動と食事・薬物
- 12 時限目：運動と疲労
- 13 時限目：ドーピング論
- 14 時限目：エイズ問題
- 15 時限目：オリンピック論

履修上の留意点

出席50%以下の者は採点の対象にしない。

成績評価の方法

出席30%、テスト70%で評価する。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

『保健体育理論』『体力論』『人間と健康』

そ の 他

主として講義で行なう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ論 (前期)	たけ だ ゆき お 夫 竹 田 幸 夫	二 経 1 選 必 二法・二営1・2・3・4選	2
健康・スポーツ論 (前期) 〔 再 ク ラ ス 〕		二 経	

講義のねらい

健康・スポーツに関する基礎的な知識についての講義を行なう。健康については、現代病やストレス、肥満などのテーマで、とくに心と体の関わりで考えていく。体力については、基礎的な体力要素の特徴とトレーニング方法、またスポーツ運動学の立場から人間の運動のさまざまな特徴を具体的な例によって解説する。

大学生の年代は、将来におけるライフスタイルの基礎を確立する大切な時期でもある。講義の内容から、自分の健康や体力、さらにはスポーツに関する基礎的な知識と考え方について理解を深めてもらいたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 時限：オリエンテーション、授業内容の説明
- 2 時限：人間と健康（心と体、現代病）
- 3 時限： “ （心と体、ストレス）
- 4 時限： “ （心と体、肥満とダイエット）
- 5 時限：体力とトレーニングの方法（基礎的な体力要素）
- 6 時限： “ （体力要素の特徴）
- 7 時限： “ （トレーニング方法）
- 8 時限：スポーツ運動の理論（スポーツ運動の特徴）
- 9 時限： “ （運動の上達、習熟とは）
- 10 時限： “ （運動の発達）
- 11 時限： “ （スポーツにおける右と左）
- 12 時限： “ （イメージトレーニング）
- 13 時限： “
- 14 時限：まとめ
- 15 時限：試験

履修上の留意点

授業において扱う内容を、知識として聞くだけではなく、自分の身近な、そして具体的な問題として考えながら講義を聞いてほしい。

成績評価の方法

授業最後の試験と出席を加味して成績評価を行なう。

教 科 書

駒沢大学保健体育部編『保健体育概論』カヅサ出版部 ￥1,700

参 考 書 等

授業内容と関わりのある以下の書籍を参考図書として上げておきたい。

- 1) 芦原睦著『心でおきる身体の病』講談社ブルーバックス ￥760
- 2) D. チョブラ著『パーフェクトヘルス』ダイヤモンド社
- 3) 白石豊著『スポーツ上達の基礎理論』自由現代社 ￥1,200

そ の 他

授業は、主に講義形式で進めるが、テーマによっては受講生の見解を発表してもらおう場合もある。また、バイオフィードバック装置（脳波測定装置）等の機器を利用して実験的な内容の授業も試みたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習 (卓球)	みやざわ えい さく 宮 沢 栄 作	二経 1 選 必 二法 1・2・3・4 選 二 営 1 必	2
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(卓球)		二経・二営	

講義のねらい

文明発達著しい今日、日常生活の中での動的プログラムは益々減少しつつある。このような生活環境、特に二部学生に対して例え少ない時間であっても、卓球を通じて身体を動かすことを主なねらいとしたい。特に卓球は瞬時の動きを必要とするから、意識的に敏捷な動きを課したい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション、目標の説明
- 2 時限目：ラケットの種類の特長、ラケットの握り方、ラケットとボールを使った遊び
- 3 時限目：サービス、レシーブ、フォアハンドドライブ
- 4 時限目：サービス、フォアハンドドライブ、スマッシュ
- 5 時限目：サービス、バックハンド
- 6 時限目：サーブレシーブ、バックハンド
- 7 時限目：総合練習
- 8 時限目：総合練習 シングルスゲーム
- 9 時限目：シングルスゲーム
- 10 時限目： "
- 11 時限目： "
- 12 時限目：ダブルスゲーム
- 13 時限目： "
- 14 時限目： "
- 15 時限目：まとめ、テスト

成績評価の方法

出席を重視する。

そ の 他

服装は運動着、体育館用シューズ。
用具は全て貸与する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習 (トレーニング&ニュースポーツ)	おお しい たけ し 大 石 武 士	二経 1 選 必 二法 1・2・3・4 選 二 営 1 必	2
健康・スポーツ実習 (再クラス)(トレーニング&ニュースポーツ)		二経・二営	

講義のねらい

体力づくりは、トレーニングマシンがなくてもできるメディシンボールやユニットダンベル等、簡単な器具で行う体力づくりを正しく行い、現在及び将来の健康・体力の維持増進を目的とする。また、ニュースポーツとして現在静かなブームをおこしている簡単で安全、手軽にできるスポーツチャンバラを余暇ゲーム感覚で行い、楽しみながら生涯スポーツとして取り組むことのできる基本的な姿勢を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション
- 2 時限目：トレーニング・スポーツチャンバラ：基本姿勢
- 3 時限目：トレーニング・スポーツチャンバラ：受け、体捌きの基本動作
- 4 時限目：トレーニング・スポーツチャンバラ：足捌き、打の基本動作
- 5 時限目：トレーニング・スポーツチャンバラ：応用打法
- 6 時限目：トレーニング・スポーツチャンバラ：受打の基本動作
- 7 時限目：トレーニング・スポーツチャンバラ：審判規則・ゲーム
- 8 時限目：トレーニング・スポーツチャンバラ：ゲーム
- 9 時限目：トレーニング・スポーツチャンバラ：ゲーム
- 10 時限目：トレーニング・スポーツチャンバラ：ゲーム
- 11 時限目：トレーニング・スポーツチャンバラ：ゲーム
- 12 時限目：トレーニング・スポーツチャンバラ：ゲーム
- 13 時限目：まとめ
- 14 時限目：まとめ
- 15 時限目：テスト

履修上の留意点

- 1) 定員は40名とする。
- 2) 服装：一般的運動服装で身軽に動きやすいものがよい。シューズ・その他のものは不要。
- 3) 教場：第二体育館2階

成績評価の方法

出席率70%、総合評価30%で行なう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習 (バドミントン)	ひろ や 谷 こ ろ う 広 谷 五 郎	二 経 1 選 必 二 法 1・2・3・4 選 二 営 1 必	2
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(バドミントン)		二 経・二 営	

講義のねらい

バドミントンは、大衆スポーツとして日本人には非常に親しい存在である。幼いころからバドミントンラケットとシャトルcockで遊びとしてラリーを楽しんでいる。にもかかわらず、バドミントンを正式のルールのもとで実施できる人は非常に少ない。これは、おそらく学校体育の中で実施している学校がすくないことによるものであろう。

本講義では、手軽に実施できて、しかも運動量も予想以上に多く、虚々実々の駆け引きを必要とするバドミントンを、生涯スポーツとして長く楽しめるように、そのための基礎知識と技術を提供しようとするものである。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション・バドミントンの基礎知識・ラリー練習（バドミントンのスイング技術・グリップ）
- 2 時限目：サーブの基本技術・フォアとバックスイングの基本技術
簡易ゲーム（ダブルスのラリーゲーム）
- 3 時限目：スマッシュの基本技術／ネット際のプレー技術
簡易ゲーム（ダブルスのラリーゲーム）
- 4 時限目：バドミントンコートの説明・ダブルスゲームの運び方、ルールの説明
正式ルールでのダブルス練習試合
- 5 時限目：ダブルスゲーム、1部リーグから4部リーグまでのリーグ戦第1日目
- 6 時限目：同 第2日目
- 7 時限目：同 第3日目
- 8 時限目：同 第4日目
- 9 時限目：同 第5日目
- 10 時限目：シングルスゲームの運び方、ルールの説明、正式シングルスゲームでの練習試合
- 11 時限目：シングルスゲーム、1部から7部までのリーグ戦
- 12 時限目：同 第2日目
- 13 時限目：同 第3日目
- 14 時限目：ダブルス、トーナメント優勝戦
- 15 時限目：シングルス、トーナメント優勝戦

履修上の留意点

服装：一般的な運動服装
シューズ：運動靴（体育館用として中履きのシューズを使用すること）

成績評価の方法

出席を主体とし、それに技術、ルール、マナーなどの理解度を加える。

そ の 他

バドミントンラケット・シャトルcockは大学で用意する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習 (バドミントン)	み ぬき はる み 三 幣 晴 三	二経 1 選 必 二法 1・2・3・4 選 二 営 1 必	2
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(バドミントン)		二経・二営	

講義のねらい

バドミントンは、大衆スポーツとして日本人には非常に親しい存在である。幼いころからバドミントンラケットとシャトルコックで遊びとしてラリーを楽しんでいる。にもかかわらず、バドミントンを正式のルールのもとで実施できる人は非常に少ない。これは、おそらく学校体育の中で実施している学校がすくないことによるものであろう。

本講義では、手軽に実施できて、しかも運動量も予想以上に多く、虚々実々の駆け引きを必要とするバドミントンを、生涯スポーツとして長く楽しめるように、そのための基礎知識と技術を提供しようとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション・バドミントンの基礎知識・ラリー練習（バドミントンのスイング技術・グリップ）
- 2 時限目：サーブの基本技術・フォアとバックスイングの基本技術
簡易ゲーム（ダブルスのラリーゲーム）
- 3 時限目：スマッシュの基本技術／ネット際のプレー技術
簡易ゲーム（ダブルスのラリーゲーム）
- 4 時限目：バドミントンコートの説明・ダブルスゲームの運び方、ルールの説明
正式ルールでのダブルス練習試合
- 5 時限目：ダブルスゲーム、1部リーグから4部リーグまでのリーグ戦第1日目
- 6 時限目：同 第2日目
- 7 時限目：同 第3日目
- 8 時限目：同 第4日目
- 9 時限目：同 第5日目
- 10 時限目：シングルスゲームの運び方、ルールの説明、正式シングルスゲームでの練習試合
- 11 時限目：シングルスゲーム、1部から7部までのリーグ戦
- 12 時限目：同 第2日目
- 13 時限目：同 第3日目
- 14 時限目：ダブルス、トーナメント優勝戦
- 15 時限目：シングルス、トーナメント優勝戦

履修上の留意点

服装：一般的な運動服装
シューズ：運動靴（体育館用として中履きのシューズを使用すること）

成績評価の方法

出席を主体とし、それに技術、ルール、マナーなどの理解度を加える。

そ の 他

バドミントンラケット・シャトルコックは大学で用意する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習 (卓 球)	まる やま せい いち 丸 山 精 一	二 経 1 選 必 二 法 1・2・3・4 選 二 営 1 必	2
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(卓球)		二 経・二 営	

講義のねらい

文明発達著しい今日、日常生活の中での動的プログラムは益々減少しつつある。このような生活環境、特に二部学生に対して例え少ない時間であっても、卓球を通じて身体を動かすことを主なねらいとしたい。特に卓球は瞬時の動きを必要とするから、意識的に敏捷な動きを課したい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション、目標の説明
- 2 時限目：ラケットの種類の特長、ラケットの握り方、ラケットとボールを使った遊び
- 3 時限目：サービス、レシーブ、フォアハンドドライブ
- 4 時限目：サービス、フォアハンドドライブ、スマッシュ
- 5 時限目：サービス、バックハンド
- 6 時限目：サーブレシーブ、バックハンド
- 7 時限目：総合練習
- 8 時限目：総合練習 シングルスゲーム
- 9 時限目：シングルスゲーム
- 10 時限目： "
- 11 時限目： "
- 12 時限目：ダブルスゲーム
- 13 時限目： "
- 14 時限目： "
- 15 時限目：まとめ、テスト

成績評価の方法

出席を重視する。

そ の 他

服装は運動着、体育館用シューズ。
用具は全て貸与する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習 (空手道)	わ だ じつ まさ 和 田 實 正	二経 1 選 必 二法 1・2・3・4 選 二 営 1 必	2
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕(空手道)		二経・二営	

講義のねらい

この科目は、「健康・スポーツ実習」の一つの種目であり、空手道の技を運動要素として体育授業を行う科目です。

空手道は、技術的には身体の手指先から足指先までの殆どの関節と筋肉を用いて、体の伸縮・力の強弱・技の緩急を心がけながら前後左右に進退する、所謂全身運動です。また精神的には、対人の格闘技に伴う緊張と集中、信頼と礼儀及び闘志と自制の心の修養が空手道実践に内在しています。

この空手道の特性を生かして、現在及び将来の健康の維持・増進、身体の均衡ある発達及び自律の精神の育成のための一つの方法を体験してもらうために体育実技の授業に叶うよう空手道の技を組み立てて行います。

講義の内容・授業スケジュール

- 空手道の授業は、1期の授業回数は15回の予定です。その展開は、
- 1時限目：空手の技の説明 突き・蹴り・受け・立ち方・動き方など。
 - 2時限目：拳の握り方・正拳の突き方の実習。
 - 3時限目：騎馬立ち・前屈立ちによる逆突き。
 - 4時限目：前屈立ちによる逆突きと足の運び。
 - 5時限目：前屈立ちによる全身と順突きの要領。
 - 6時限目：足の移動、腰の動き及び突きの三つの動きのまとめ方。
 - 7時限目：対面して順突き。間合いを測る。
 - 8時限目：鋭い出足、正確で速い突きの出し方。
 - 9時限目：体の伸縮・力の強弱・技の緩急実習
 - 10時限目：受け技 上段揚受け。
 - 11時限目：基本一本組手 上段突きと揚受け。
 - 12時限目：受け技 中段外受け
 - 13時限目：基本一本組手 中段突きと外受け。
 - 14時限目：反復練習
 - 15時限目：テスト 達成度を評価の一部とする。

履修上の留意点

実技科目であるので、出席して実践することが重要である。

成績評価の方法

成績評価は、出席状況を主として行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
生涯スポーツ演習 (シーズン前期・基礎)	み ぬさ はる み 他 三 幣 晴 三	二経・二法・二営 1・2・3・4選	2
生涯スポーツ演習 (シーズン前期・応用)			

ゴルフ

講義のねらい

ゴルフは、今や国民的スポーツになりつつある。本講義は、大学内で行われているゴルフ授業を一步進めて、自然の中での実際のゴルフを基本からラウンドまで体験することをねらいとする。したがって、初めてゴルフを体験しようとする初心者から、すでに大学内の授業やその他で体験している学生までを対象として実施する。

ゴルフの技術的な上達は、本講義の主たるねらいとなるが、それ以外のゴルフのもつ重要なねらいとしての、マナーやラウンドにおけるエチケット、さらに同伴競技者（パートナー）とのコミュニケーションも本講義の重要なねらいである。生涯スポーツ演習として、大学卒業後もゴルフの良さを十分に楽しみ、かつ社会人としてゴルフをとおして良き人間関係を作っていくための基本を学んでほしい。

講義の内容・ 授業スケジュール

①事前講義：5月8日（金）12:10～12:50 1-405教場「オリエンテーション、ゴルフの基本的知識1」

7月4日（土）14:30～16:00（4時限目）1-405教場「ゴルフの基本的知識2」

7月11日（土）14:30～16:00（4時限目）1-405教場「ゴルフの基本的知識3」

※上記の事前講義は、オリエンテーションを兼ねるので必ず出席すること。なお、やむを得ない理由により、事前講義に参加できない場合は、事前に担当教員に相談すること。対応を考慮する。

②実習内容

1日目≪9月7日（月）≫ 14:00～17:00オリエンテーション・打撃練習（7番アイアン／グリップ・アドレス・スイングの基本練習）

講義 19:00～21:00 ≪ゴルフスイングの基本≫

2日目≪9月8日（火）≫ 9:00～12:00/13:30～16:30打撃練習（7番アイアン・9番アイアン）、アプローチ練習、打撃練習（ウッド）、パッティング練習

講義 19:00～21:00 ≪ゴルフのエチケット・マナー≫

3日目≪9月9日（水）≫ 9:00～12:00/13:30～16:30打撃練習（5、7、9番アイアン、ウッド）、アプローチ練習（PW、SW、7番アイアン）、パッティング練習

講義 19:00～21:00 ≪ゴルフルール・ラウンドについて≫

4日目≪9月10日（木）≫ 9:00～12:00/13:30～16:30ラウンド（本コース・ショートコース）

講義 19:00～21:00 ≪ラウンドの反省と総括≫

5日目≪9月11日（金）≫ 9:00～11:00/12:30～14:30ラウンド（本コース・ショートコース）

履修上の留意点

(1) 服装：一般的なゴルフ服装（セーター・ウインドブレーカーも天候によって必要）
シューズ／グローブ：練習は運動靴でもよいが、ラウンドはゴルフシューズが必要。特に経験者は、正式の本コースをラウンドするので、ゴルフシューズ及びグローブは、必ず各自で用意すること。

※ゴルフクラブ・キャディーバッグ・ボール・ティーは大学で用意するが、自分のものを持参してもよい。

(2) 場所：宿泊：軽井沢スケートセンターホテル ☎0267-46-1111

練習場：軽井沢ゴルフ練習場（アプローチ練習場を含む） ☎0267-48-1211

コース：馬越ゴルフコース／和美パー3コースその他

(3) 期日：平成10年9月7日（月）～11日（金）4泊5日

(4) 募集人員：15名（定員になり次第締め切る）

(5) 集合／解散：現地（軽井沢スケートセンターホテル）／詳細（時間：道順など）は下記のオリエンテーションで説明するので必ず出席すること。

(6) 費用：49,000円（ラウンド費用を含む）※交通費は含まれない。（現地集合・解散）

(7) 納入方法：上記49,000円を、経理部または第二学事課窓口で、平成10年5月11日（月）～5月22日（金）までに納入すること。

- (8) オリエンテーション：上記の事前講義5月8日（金）、7月4日（土）、7月11日（土）で実習の説明を行うので必ず出席すること。
- (9) 生涯スポーツ演習（基礎）（応用）の区分
生涯スポーツ演習（基礎）：初心者を対象とする。ゴルフの基本的知識を理解し、ゴルフスイングの基本的運動を実習してショートコースをラウンドする。
生涯スポーツ演習（応用）：既にゴルフラウンドを2～3回経験した者を対象とする。ゴルフの全般的な知識を理解させ、さらにゴルフスイングの実際のラウンドでのさまざまな応用を実習し、ラウンドを主体にして体験させる。
- (10) 申し込み・期日：第二学事課窓口／履修届受付期間

成績評価の方法

単位数は、事前講義と実習の参加で2単位。出席を主体とし、それに技術、ルール、マナーなどの理解度を加える。

そ の 他

都合で参加できなくなった場合には、早急に保健体育部（☎03-3709-0717）に連絡すること。尚、実習に不参加の場合、受講料の一部は、返却されないことがある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生涯スポーツ演習 (シーズン後期・基礎)	え ぐち じゅん いち 江 口 淳 一 他	二経・二法・二営 1・2・3・4選	2
生涯スポーツ演習 (シーズン後期・応用)			

スキー

講義のねらい

現在、わが国においてスキーは国民のスポーツといわれるまでに普及し、「生涯スポーツ」として楽しむことのできる種目として定着している。将来においても、スキーを楽しむ為に、実習および講義によって基礎技術や練習方法、並びにゲレンデにおけるマナーについての理解を深めていきたい。

実習は、スキー技能レベルに応じて、1班10名程度にグループ分けをして実施する。各班とも本学教員、および全日本スキー連盟指導員の指導によって行う。

コース内容は、基礎コースではシュテムターンの習得、応用コースではウェーデルンと斜面に応じた総合滑降技術の習得、および完成を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

- 生涯スポーツ演習(基礎)(応用)の区分
 - 生涯スポーツ演習(基礎) : 初心者・初級者を対象とする。
歩行、直滑降、プルーク、プルーク・ボーゲン、斜滑降、横滑り、プルーク・ターン、シュテム・ターン
 - 生涯スポーツ演習(応用) : 中級者・上級者を対象とする。
斜滑降、横滑り、シュテム・ターン、パラレル・ターン、ウェーデルン、様々な斜面へ対応する総合滑降技術
- 事前講義 : 5月8日(金) 12:10~12:50 1-405 教場「オリエンテーション・スキーの基本的知識1」
12月5日(土) 14:30~16:00 (4時限目) 1-405 教場「スキーの基本的知識2」
12月12日(土) 14:30~16:00 (4時限目) 1-405 教場「スキーの基本的知識3」

※上記の事前講義は、オリエンテーションを兼ねるので必ず出席すること。なお、やむを得ない理由により、事前講義に参加できない場合は、事前に担当教員に相談すること。対応を考慮する。

3. 実習内容

- | | | |
|---------------|-------------|------------------|
| 1日目〈2月15日(月)〉 | 10:30 | 軽井沢スケートセンターホテル集合 |
| | 14:00~17:00 | 班別の実習 |
| | 19:00~21:00 | 講義(スキー場におけるマナー) |
| 2日目〈2月16日(火)〉 | 9:00~12:00 | 各班毎の実習 |
| | 13:30~17:00 | 〃 |
| | 19:00~21:00 | 講義(スキーの基本技術) |
| 3日目〈2月17日(水)〉 | 9:00~12:00 | 各班毎の実習 |
| | 13:30~17:00 | 〃 |
| | 19:00~21:00 | 講義(スキーの応用技術) |
| 4日目〈2月18日(木)〉 | 9:00~12:00 | 各班毎の実習 |
| | 13:30~16:30 | 〃 |
| | 19:00~21:00 | 講義(スキー実習の総括) |
| 5日目〈2月19日(金)〉 | 9:00~12:00 | 各班毎の実習・評価 |
| | | 軽井沢プリンスホテルスキー場解散 |

履修上の留意点

シーズンコース・スキーの授業は、下記の要領で実施する。

- 日程 : 平成11年2月15日(月)~2月19日(金)の4泊5日
- 場所 : 実習 軽井沢プリンスホテルスキー場
宿泊・講義 軽井沢スケートセンターホテル ☎(0267)46-1111
- 受講料 : 49,000円 ※尚、現地集合・解散の為、交通費は含まれない。
※受講者は、費用を納入期間の平成10年5月11日(月)から5月22日(金)までに経理部または第二学事課窓口で納入すること。

- 4)定員：20名
履修希望者は、第二学事課窓口にて履修届け受付期間に手続きを済ませること。
定員になり次第締め切る。
- 5)『履修届』に関する注意：第二学事課に提出する『履修届』には、シーズンコース用に設定された『土曜日8時限（後期）』で記入すること。
- 6)オリエンテーション：上記の事前講義（5月8日（金）・12月5日（土）・12月12日（土））で実習の説明を行うので、必ず出席すること。
- 7)スキー用具とウェア：スキー用具は、現地でレンタル可能（有料）。ウェアは、各自で事前に準備しておくこと。
- 8)卒業年次生：成績発表及び再試験申込み受付・成績質疑応答期間と重なるので、卒業年次生は卒業取得単位を十分に考慮して履修すること。

成績評価の方法

事前講義および実習（5日間）に参加終了し、2単位が認められる。成績評価方法は、各班において実施する実技テストと実習参加態度、並びにスキーの基本技術や理解度も含めて総合的に成績評価がなされる。

教科書

DSK（大学スキー研究会）編 『スキー教本』 ¥1,155

その他

都合で参加できなくなった場合は、早急に保健体育部（☎03-3709-0717）に連絡すること。尚、実習に不参加の場合、受講料の一部は、返却されないことがある。

2 專門教育科目

(1) 經濟学部

專 門 教 育 科 目	經濟学部
	法学部
	経営学部

2 専門教育科目

(1) 経済学部

経済学	概説	(瀬戸岡 紘)	専 1
経済学	概説	(百田 義治)	専 2
経済学	原論 I	(有井 行夫)	専 3
経済学	原論 II	(松井 柳平)	専 4
商学	総論	(大吹 勝男)	専 5
経営学	概論	(寺西 良二)	専 6
会計学	総論	(飯岡 透)	専 7
経済学	史	(福原 好喜)	専 8
経済学	史	(休講)	
経済学	政策	(休講)	
財政学		(里中 恆志)	専 9
金融論		(渋谷 隆一)	専 10
日本経済論		(森 武麿)	専 11
国際経済論		(徳永 俊明)	専 12
社会政策		(休講)	
商業政策		(岩下 弘)	専 13
マーケティング		(休講)	
経営管理論		(休講)	
労務管理論		(石井 脩二)	専 14
簿記論		(川口 修)	専 15
財務会計論		(中原 章吉)	専 16
統計原理論		(稲葉 敏夫)	専 17
価格理論		(荒木 勝啓)	専 18
国民所得論		(吉野 紀)	専 19
景気循環論		(西村 允克)	専 20
日本経済史		(木村 健二)	専 21
経済地理		(上坂 修夫)	専 22
農業政策		(米田 浩史)	専 23
工業政策		(福田 敦)	専 24
財政政策		(休講)	
国際金融論		(吉田 真広)	専 25
銀行論		(齊藤 正)	専 26
中小企業論		(和田 耕治)	専 27
人口論		(休講)	
教育経済論		(谷 敷 正光)	専 28
アジア経済論		(郭 洋春)	専 29
中国経済論		(小杉 修二)	専 30
アメリカ経済論		(休講)	
ヨーロッパ経済論		(清水 卓)	専 31
ロシア・東欧経済論		(休講)	
貿易論		(古沢 紘造)	専 32
証券市場論		(佐藤 昇)	専 33
保険論		(今泉 敬忠)	専 34
交通論		(小出 修三)	専 35

財務管理(休講)		
會計監査論(飯岡透)	専36
管理会計論(中原章吉)	専37
稅務會計論(高木克己)	専38
商業史(幸野保典)	専39
原価計算論(川口修)	専40
貿易実務(休講)		
情報・經濟ネットワーク論(中濟光昭)	専41
プログラミング論(濱本和彦)	専43
經濟数学(水野勝之)	専44
計量經濟学(藁谷友紀)	専45
情報処理論(黒部晃一)	専45
現代資本主義論(北原勇)	専46
社会思想史(阿部弘)	専47
地方財政論(篠原章)	専48
環境經濟論(山口由二)	専49
經營分析(近藤禎夫)	専50
經營戰略論(吉田健二)	専50
消費經濟論(小谷正守)	専51
民法(織田晃子)	専52
商法(島原宏明)	専53
經濟法(岡田外司博)	専54
労働法(藤本茂)	専55
原書講読(英)(中田秋男)	専56
原書講読(英)(広田秀樹)	専57
原書講読(独)(濱本知寿香)	専58
原書講読(仏)(中田秋男)	専59
現代經濟事情Ⅰ〔消費稅問題〕(熊沢通夫)	専60
現代經濟事情Ⅱ〔インターネットと經濟〕(丸尾聰)	専61
現代經濟事情Ⅲ〔金融ビッグバン〕(皆藤実)	専63
現代經濟事情Ⅳ〔規制緩和〕(田口博之・川崎研一)	専63
現代産業事情Ⅰ(福原好喜)	専64
現代産業事情Ⅱ(曾我信孝)	専65

第一部公開専門選択科目

統計原論(吉野紀)	専69
価格理論(荒木勝啓)	専70
經濟地理(上坂修夫)	専71
農業政策(小宮昌平)	専72
銀行論(齊藤正)	専73
人口論(森岡仁)	専74

夏季集中授業専門選択科目

マーケティング(曾我信孝)	専77
ロシア・東歐經濟論(山縣弘志)	専78

科目名	担当者名	配当学年	単位
経済学概説	瀬戸 岡 せ と おか ひろし 瀬 戸 岡 紘	二 経 1 必	4

講義のねらい

経済学概説は、経済学の楽しさと奥ふかさを紹介する科目です

あたらしく経済学部に入學された諸君が、これから経済学を学習し研究するためのイントロダクションとなる話をするのが、この講義です。ここで私がなにより大切にしたいと考えていることは、まだ入学してまもない諸君がおおいに抱えているはずの勉学への期待をうらぎらないで、むしろ、ふくらませるようにもっていくことです。そにために、この講義では、受講者となる諸君の期待や要望に応じて、きわめて柔軟にプログラムを組んでいくつもりです。以下にかかげた、この講義のテーマも、大まかな目標としてのプログラムにすぎません。

講義の内容・授業スケジュール

《導入の話題》

◇最近の経済をめぐる話題から（内容未定）

《世界各地の経済を題材として—経済史と経済政策論へのイントロダクション—》

◇ヨーロッパの経済・今昔

◇アメリカ経済の特質

◇旧ソ連・東欧の実験

◇日本の経済

◇アジア経済の発展

◇地球と経済

《思想家や経済学派を題材として—経済学史と理論経済学へのイントロダクション—》

◇古典学派の人びと

◇歴史学派とその後継者たち

◇マルクス学派

◇近代経済学の起源と諸潮流

◇ケインズと20世紀の経済

《むすびの話題》

◇あたらしい経済学派の諸見解と21世紀の世界

前期の課題は、経済史、経済事情、経済政策のイントロダクションです

世界各地の今日の経済事情を概観しつつ、そのような経済事情を生んできた歴史的背景を考え、あわせてそれぞれの地域での経済政策の実態をごく簡単ながら紹介します。「現代経済事情—各国めぐりの旅」という気分で、最新の情報をもとに、受講者のみなさんを経済の世界に案内します。しめくりは、環境問題のような、21世紀を展望するさいさけておれない諸問題にまで話をすすめます。

後期の課題は、経済学史と経済理論のイントロダクションです

過去の著名な経済学者や経済学派のおかれた環境やその人（たち）自身が格闘した難題などの紹介をとおして、今日われわれがまなぶ経済学の生いたちをたどってみます。あわせて、それぞれの学者や学派の理論のアウトラインや特色をも概観します。著名な経済学者たちがどのような人生をすごしながら、それぞれ歴史にのこる理論をつくっていったか、この講義での聴きどころとなるでしょう。最終回では、今日の最新鋭の経済学の潮流や苦難にも言及します。

授業の方法

1回の講義にひとつのテーマをとりあげます

講義では、1回ごとにひとつずつテーマをとりあげます（上記の◇について、おのおのふたつぐりのテーマ）。毎回の講義では、なるべく身近な話題や経済現象、あるいは日々のニュースからはじめて、基礎的な理論やキーワードの解説もくわえながら話をすすめますが、どんなテーマをとりあげるばあいにも、なにより経済学のおもしろさを諸君にわかってもらえるように展開していくつもりです。そのために講義では、諸君との対話を大切にしながら、ともに考えていくようにするつもりです。

教科書参考書等

最新のニュースや膨大な情報、そして歴史的事実こそ、この講義のテキストです

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。1回1回の講義をとおして、諸君の経済学にたいする関心や問題意識をひきだしていくことがこの講義の課題だと考えるからです。たくさん出版されている書物や雑誌、テレビ番組などのなかに勉学に役立つものが見つかれば、その都度紹介していくつもりです。

成績評価の方法

経済学のおもしろさがいっそう理解できた受講者が単位をとることもできます

この科目は必修科目なので、経済学部のすべての学生がいずれかのクラスで受講することになります。それだけにこの講義は、経済学部のさまざまな学生の期待にこたえるように努力します。しかし、安直に単位だけをねらおうとする学生には、容赦ない対応をとることになるかもしれません。1年後に経済学がいっそう好きになったと感じられるような受講者ももっともよい成績をとることのできるような評価をするつもりです。とくにこの講義の性格上、一発の年度末試験で成績をつけることは適当と考えにくいので、受講者諸君と協議のうえ、平常点を重視すべく、諸君には、随時、授業をとおして獲得した成果や感想を文章にして提出してもらい、それをもとに成績評価をするようにしたいと考えています。同時に、受講者の諸君からも、私の講義にたいする評価をくだしてもらうつもりです。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 学 概 説	ひゃく た よし はる 百 田 義 治	二 経 1 必	4

講義のねらい

駒澤大学経済学部に入学者諸君に、専門教育に先立って、経済現象を理解すること＝経済学を学ぶことがいかに楽しく興味深いものであるのか、また必要であり有益であるのかを知ってもらおうことがこの授業の目的です。

講義の内容・授業スケジュール

授業では、日本経済新聞社編『ゼミナール日本経済入門』をテキストとして、現代の日本経済が抱える諸問題を「解説」し、それらの問題に対する学生諸君の関心を鼓舞したいと思います。また、毎時間適当な時間を割いて、その時々の特時的な問題を取り上げます。

テキストの主な構成は次の通りです。

1. 景気を読む
2. 経済成長とは何か
3. 物価を考える
4. 高齢化時代の財政
5. 日本的金融改革の行方
6. 経済摩擦の政治経済学
7. 変わる産業構造
8. 日本型経営システム
9. 地球環境時代の政府と企業

経済学概説は経済学部の教員がローテーションで担当する科目であり、必ずしもこの科目の専門家ではありません。私も「経営管理論」という専門科目の担当者です。したがって、授業スケジュールに沿って講義しますが、事例やトピックは現代の企業や経営に関するものが多くなると思います。「現代の企業・経営」の視点から、できるだけ平易に経済問題にアプローチしたいと考えています。

成績評価の方法

前期・後期に各一度、授業に関連する文献（新書・文庫）を指定し、レポートの提出を求めます。学年末試験にレポートと出席を加味して、総合評価を行います。

教科書

日本経済新聞社編『ゼミナール日本経済入門』（日本経済新聞社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 原 論 I	あり い ゆき お 有 井 行 夫	経済学専修1・2必 商学専修1・2選	4

講義のねらい

スーパーマーケットに行ってください。実に多くの種類の商品が整然と積み上げられています。しかも、より多く使われるものは大量に、そうでないものは少量にという具合に、一定の量的構成で積み上げられています。

諸商品の堆積、こういう観点から見れば、私たちの暮らすこの社会全体が、すなわち日本という国全体が、ひとつの巨大なスーパーにほかなりません。また、諸商品の来し方をたずねれば、どこかの工場での生産であり、行く末を見れば、他のどこかの工場での生産的消費であり、あるいはどこかの家庭での個人的消費です。これらの観点から見れば、日本という国の全体が、ひとつの巨大な工場でもあり、ひとつの巨大な家庭でもあります。

それにもかかわらず、実際には、日本という国そのものは、ひとつのスーパーでも、ひとつの工場でも、ひとつの家庭でもありません。諸商品の、私的な、ばらばらの生産者たち、売り手たち、消費者たちが、競争を通じて複雑に入り組みもつれあって、さまざまなアンバランスの絶え間ない修正運動のなかで、結果的に、あるバランスをもった社会経済システムをつくりあげているのです。不思議ではありませんか。

かぎりない利潤追求を基本的な活動動機とする企業の商品生産にもとづいて、現代的商品経済は成りたっています。本講義の目的は、この基礎的な仕組みを明らかにすることです。その際、現代は純粋に私的な商品経済ではなく、さまざまな「公共的なものの総括」として経済的国家が、システムの安定に不可欠の要素として組み込まれています。この意義についても理解の射程にのりて論じます。

原論Ⅱでは、現代資本主義システムが成り立っていることを前提して、いかに、そのシステムの機能が作動しているかに主たる関心があるのにたいして、本講義、原論Ⅰでは、資本主義システムそのものがどうして成り立ち得ているかに主たる関心があります。そこで、原論Ⅰは、社会の成り立ちの根柢としての労働、および経済的費用の根源としての労働から話をはじめることになります。原論Ⅰは、カール・マルクスの確立した労働価値論を継承しながら現代をとらえる理論潮流に属します。

講義の内容・授業スケジュール

第1章 経済学の対象と方法

人間性と社会形成の根源的な原因としての労働、必然的な社会関係としての生産関係、社会関係を生産関係に媒介することの認識論的意義、生産関係の物象化(=非人格化)の仕組み。

第2章 市場経済

財の根源的費用としての労働、商品生産社会における労働の特殊性、価値と使用価値、生きた貨幣の成り立ちの必然性、貨幣の諸機能。

第3章 資本と増殖

貨幣を生む貨幣としての資本の概念、資本が社会的総生産をとらえることの可能性、剰余価値の一般的な可能性、労働力商品の意義、資本の価値増殖過程における諸範疇、賃金形態の意義。

第4章 価格と利潤

剰余価値と利潤、諸資本の部門内競争による価格形成、諸資本の部門間競争による価格形成、独占的市場構造における価格形成。

第5章 資本の再生産と蓄積

再生産運動として資本のシステムをとらえることの意義、私的所有原理と取得原理の対立、資本構成の高度化と産業予備軍効果、単純再生産と拡大再生産の表式、資本の過剰生産と景気循環運動。

第6章 国民所得と分配

分配論の意義、商業資本と商業利潤、利子生み資本と信用制度、地代、転倒した経済的諸範疇の意義。

第7章 国家と財政

「公共的なものの総括」としての国家、資本のシステムの媒介形態としての国家、ケインズ政策の含意と役割、公共性と私的営利性との矛盾する転換運動としての現代経済、資本は国家の壁を破るか。

成績評価の方法

90分の講義、約25回で、以上の内容をひととおり論じきるのには、実は、時間的にかなり困難です。骨格的内容にできるだけ時間を集中します。使用するテキストはもっともコンパクトなもの1つを選んでいます。できるだけこのテキストに忠実に解説し、重要箇所はアンダーラインを指示します。成績評価は、解説済みのテキスト箇所のみから出題して実力試験によっておこないます。つまり、ノート、テキスト持ち込みは不可ということです。

教科書

平井ほか『経済原論』(有斐閣) 1,300円

参考書等

経済学教育学会『経済学ガイドブック』(青木書店) 2,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 原 論 II	まつ い りゅう へい 松 井 柳 平	経済学専修1・2必 商学専修1・2選	4

講義のねらい

世の中にはさまざまな経済的社会的問題が存在する（いままで経済的社会的な問題意識をもったことのない極楽な人には、新聞を毎日読む習慣を身につけることを勧める）。さまざまな経済的社会的問題に対して、どのように考え答えていったらよいのであろうか。

現実の経済はあまりに複雑すぎて、そのままでは物事の本質を見失いかねない。そこで複雑な現実の経済をある程度単純化し、実際の経済の模型（モデル）を構築し、それを対象に分析をおこなうことになる。もちろん、プラモデルのような物理的な模型を作るのではないが、現実を単純化、抽象化することによって、本質を取り出そうというのである。経済モデルは数学を用いて記述される場合が多いが、経済学には、十分整理して議論しないと、とんだ理由づけをしかねない場合や、論点が未整理のため自ら混乱を招く例は少なくなく、このようなとき、数学的思考が役に立つのである。実際、数学における思考訓練は、無限の可能性の中から必要な論理をえぐり出すことにある。いわゆる抽象力である。それは単純化による論理の明確化と言ってもよいし、あるいは見通しをつける能力と言ってもよい。理論にとって、数学的思考による自己点検は怠ることはできない。だが、本講義では微分等の数学は一切使わない。小学校レベルの四則演算と中学校レベルの1次方程式程度の理解のみを前提する。

こうして現実を単純化、抽象化した経済モデルを用いて得られた結果は、分析の前提となっているさまざまな仮定に大きく依存している。得られた結論は、あくまでそこでの仮定、つまり採用したモデルに依存しており、仮定が変われば、結論も自ずと変わりうる。そのため、経済学（少なくともミクロ経済学とマクロ経済学）においては、導かれた結論だけを暗記したりしてもまったく意味はない。議論の前提となるさまざまな仮定や論理的な推論プロセスといっしょになってはじめて、結論が意味をもつのである。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学それぞれの基礎理論を解説する。ミクロ経済学とマクロ経済学とはアプローチの仕方も、したがってモデルの構造も異なり、両者は必ずしも矛盾なく接合されているわけではないことに留意されたい。

ミクロとは微視的ということであり、ミクロ経済学は諸主体の行動の動機づけにまでさかのぼって、経済全体を理解しようとする。社会に存在する資源は稀少であり、すべての人の欲望を無制限に満たすことはできない。当然、稀少な資源の利用を、だれに、どれだけ、許すべきか、といった資源配分の問題が発生する。資源配分のメカニズムとしてはさまざまあるが、私たちが生活している市場経済における価格メカニズムが挙げられる。価格メカニズムは、その資源に対してもっとも高い価格を支払える人に優先的にその資源の利用を許すメカニズムである。本講義ではこの価格メカニズムという資源配分の機構に焦点を当てることになる。

マクロとは巨視的ということであり、マクロ経済学は経済諸主体の活動を例えば一国全体の規模で集計した国民所得などの集計量を用いて分析し、さまざまな集計量相互の関係を考察する。考え方の基本的な枠組みとして、市場のすみやかな調整に信頼をおく「新古典派」と、市場のさまざまな不完全性を重視する「ケインズ派（ケインジアン）」とがあるとされてきた。

履修上の留意点

授業に出席する人には、授業前の予習が必須要件として求められる。授業に出席していれば偉いというものではない。授業後、熟考してもなお疑問点があれば積極的に質問してほしい。

成績評価の方法

期末試験などで評価する。

教科書

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 学 総 論	おお ぶき かつ お 大 吹 勝 男	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

近年、大学においてさえも、学問が軽視される風潮にあります、そして生残りをかけ、学生集めのために実用主義を売りものにする大学もあります。また、大学は社会的要請に答えねばならないという主張のもとに、その実、社会ではなく、会社・企業のために大学が存在することを主張し、かつ君たちに会社人間になることを勧めるマスコミや評論家等がいます。そして一方で、学問に背をむけ、それらに迎合する大学人がいます。しかし、大学は入学した君たちのためにあり企業のためにあるものではありません。そして、大学で学ぶことは、将来君たちが人間らしく生きるための助けになるものでなければなりません。本学もまた大学である限り、学問の場でなければなりません。いかにいえば、大学でしか学べないこと、物事の見方、考え方を学ぶことです。さらにいうならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これらを学ぶのが大学です。実用的なことは、その場限りのものであり、また入社してから容易に身につくものなのです。何年間かキャリアを積んだビジネスマンから聞くことは、大学時代に学問をしておくべきであったということです。諸君も、使い捨てのサラリーマンになることのないように、体系的に思考する能力を身につけて下さい。そして、社会に出て現実に困難な問題に出会った時に、学問をした人間として、大学の卒業生として、きちっと解決のできる人間になってください。本講義では、科学的経済学の立場から流通論を、そして商業論を講義するものであり、その内容からして商業経済学といいかえてもよいとおもいます。したがって、授業では、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論（物流の基礎理論を含む）および商業資本の理論を講義しますが、それらの知識を習得するとともに、それらを学ぶ過程において体系的な思考方法を習得し、思考能力を高めてください。そのためには一年間を通して授業に出席することが必要です。また本講義は、君たちが履修するであろうマーケティングや商業政策・流通政策のための基礎理論を提供するものであります。また、商学専修の学生は、あわせて経済原論Ⅰを履修すれば、本講義の理解の助けとなるでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

授業内容は下記の項目の通りですが、本年度は、これらの項目について講義しながら、現代企業の経営戦略において重要性を増している物流問題を考えるうえで、その基礎となる理論について特に入りたいと思います。

- (1) 商品論（価値論）
- (2) 生産過程論（労働過程論）
- (3) 流通過程論（資本の流通過程・流通時間・流通諸費用）
- (4) 資本の回転と流通資本
- (5) 商業資本の本質論
- (6) 商業資本の自立化論
- (7) 商業利潤論
- (8) 純粹流通費用論
- (9) 商業労働論
- (10) ホワイトカラー労働論（サラリーマン論）
- (11) 商業資本の回転と価格
- (12) 大規模商業資本論
- (13) 独占的商業資本論
- (14) 卸売排除論
- (15) 流通系列化論

成績評価の方法

評価は期末試験によるが、授業の予習をかねてレポートを課すこともありうる。また各授業項目が終る毎に、小テストを実施し、君たちの理解度を確かめ、一層の理解を深める手段とします。

期末試験は論述形式ですが、テキストの参照を認めます。しかし、この措置は、私自身、学生時代に非常に疑問に思っていたことではありますが、君たちに、受験生のような暗記の勉強を早く卒業してもらい、十分な準備をして試験に臨んでもらいたいということでもあります。いうならば、問題のわからないレポート試験とでもいえばよいかもしれません。したがって、容易に単位が取得できるという意味ではありませんから誤解のないように。

教科書

- 1 大吹勝男著『新版流通費用とサービス理論』（梓出版社）
- 2 『経済学論集』（駒沢大学経済学部発行）第20巻第2号
- 3 『経済学論集』第20巻第4号
- 4 『経済学論集』第22巻第1号
- 5 『経済学論集』第22巻第4号
- 6 『経済学論集』第26巻第1号
- 7 『経済学論集』第27巻第1号

以上、2から7までの『経済学論集』には、大吹勝男の執筆する商業資本、商業利潤および商業労働に関する論文が掲載されていますから、図書館にてコピーして利用して下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 学 概 論	てら なか りょう じ 寺 中 良 二	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

経営学には大別して企業論と管理論という二つの学問領域がある。企業論の展開として個人企業、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社（初期・近代・現代）、公企業、自主管理社会有企業について体系的に講義を展開する。特に資本主義企業の最も支配的企業形態としての株式会社制度については、証券市場制度成立による出資資本の回収機構、擬制資本範疇としての株価形成の論理と算式、株式会社の支配機構およびそれに基づく財務技術の狙いと事例、現代株式会社における経営者支配をめぐる論争、その他について説明する。また、自主管理制度については、労働者の人間的復権にもとづく企業民主化の徹底性を明らかにしたい。さらに、管理論においては、アメリカ資本主義の独占形成期に成立したテーラーの作業管理技術の主内容とその本質、大企業における下層から上層への管理技法の全般化と経営者の役割、全体主義批判の思想を根底にもつドラッカーの組織原理や労務管理などに言及する。以上二つの領域ともに、経営学という学問が、人間の幸福に少しでも役立つらうと思う。尚、経営の国際化に対応して、専門用語（経済英語・経営英語）の習得にも力を入れていると考えています。

講義の内容・授業スケジュール

【企業論】

- I 企業形態論の方法
- II 人的会社
 - (1) 個人企業の特質と限界
 - (2) 合名会社の形成と特質ならびに内部変化
 - (3) 合資会社の形成と特質
 - (4) 有限会社の成立要件・意図と地位
- III 株式会社
 - (1) 初期株式会社の成立事情
 - (2) 人的会社と近代株式会社
 - (3) 資本の動化
 - (4) 擬制資本および株価の形成
 - (5) 自己資本の他人資本化
 - (6) 創業者利得のヒルファディングによる解明
 - (7) 株式会社の機能資本家
 - (8) 株式会社と協同組合
 - (9) 創業者利得の取得形態
 - (10) 現代株式会社の主内容
 - (11) 配当利子化の二段階
 - (12) 自己金融
 - (13) 経営者支配の諸問題
 - (14) 株式各論
- IV 公企業
 - (1) 主要国における公企業の設立事情
 - (2) 現代資本主義のもとにある公企業の性格と役割
- V 企業の民主化・国有化・社会化
- VI 自主管理社会有企業
 - (1) 自主管理連合労働体制
 - (2) 体制転換（株式会社化）
- VII 米国自動車企業各論

【管理論】

- I 現場肉体労働者に対する管理としての管理論の成立－テーラーシステムにおける管理機能と執行労働の分離
- II 全般的管理への拡大としての管理論－中間管理者に対する管理（分権管理）とトップ・マネジメントの経営戦略
- III ドラッカー理論の主内容および現代的意義と限界
- IV 人間主義的管理論の意義－管理のための管理論から人間の幸福に奉仕する管理論へ

履修上の留意点

- (イ) 授業に際しては、できるだけ要点を板書して学習の便をはかりたい。
- (ロ) 4～5月中及び9月最初の授業時間には、原則として授業内容の復習として5～15分間最初に再度要点を喋る。これで履修学生諸君の講義理解が高まるものと思う。

成績評価の方法

屋間部経営学総論と連動して、年度途中における平常試験を1～2回実施する。平常試験と期末試験の成績との総合評価（単なる算術平均はしない）による。全員の成績が方－悪い場合には相対評価法を導入して救済する。

教科書

教科書については、最初の授業で指示します。

参考書等

参考書については、授業の進行に応じ言及します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
会 計 学 総 論	いい おか とおる 飯 岡 透	商学専修1・2必 経済学専修1・2選	4

講義のねらい

企業会計の目的は、企業の経済活動を貨幣額によって、記録・計算・整理して、その結果を企業の利害関係者に財務諸表（貸借対照表や損益計算書など）を通じて伝達することにある。企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業の社会的責任の重視などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした企業会計の目的、発展過程、制度など、企業会計の理論的な側面と企業会計の技術的な側面である複式簿記の基礎的知識について受講者の理解を得ることを目的としている。

講義の内容・ 授業スケジュール

この講義では、次の内容について、ほぼ次の日程で順次教授する。

〔前期〕

- 4月 1 総説
 (1) 会計の意義と目的
 (2) 企業会計の領域と制度会計
- 2 企業会計の歴史
 (1) 欧米における企業会計の発展
 (2) わが国における企業会計の発展
- 5月 3 複式簿記の基礎
 (1) 簿記一巡
 (2) 伝票会計
- 6月 (3) 主要取引の記帳
- 7月 (4) 決算手続と財務諸表の作成

〔後期〕

- 9月 4 企業会計の基礎構造
- 10月 5 財務情報と開示制度
- 11月 6 財務諸表と監査制度
- 12月 7 企業会計と財務分析
- 8 企業会計の新しい領域
- 1月 9 この講義の総括と年度末テストの説明

なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計学総論は、「簿記論」「財務会計論」「管理会計論」及び「会計監査論」の基礎となるものである。こうした科目を選択しようとする学生は、この講義を履修することが必要不可欠である。なお、簿記については、日本商工会議所簿記検定試験の3級の試験範囲を講義する予定である。

成績評価の方法

簿記の練習問題集の提出（30％）及び年度末テスト（70％）の結果によって評価する。

教 科 書

- (1)飯岡 透・島崎規子共著『企業会計概論』（中央経済社） ¥3,300
 (2)飯岡 透著『簿記概論』（創成社） ¥2,600

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 学 史	ふくはら よしのぶ 福 原 好 喜	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

学問としての経済学の成立は、近代ブルジョア社会の生誕と軌を一にしている。例えばイギリスの重商主義、フランスの重農主義、ドイツの歴史学派、そして又イギリスの古典学派などの経済諸理論は、一方では世界資本主義の発展段階に、そして他方ではその国民経済の編成過程によって色濃く規定されている。経済学の歴史を単に経済学者による経済理論の受容、継承の歴史としてではなく、近代ブルジョア社会の成立、並びにその変容の過程の中で捉えようと思う。近代における経済学の成立・体系化の歩みを、近代資本主義の成立並びに確立過程の中に位置づけるというのが私の基本的視角である。講義は重商主義段階からマルクス経済学の生誕までを包括する。経済学の歴史とはまさしく近代ブルジョア社会の自己認識の歴史に他ならない。かかる観点から、学生諸君に経済学及び経済学史に対する心底からの興味を喚起できればと思っている。授業は前半で近代ヨーロッパの生成史を英、仏、独について概括し、後半で各国経済学の成立史を講義する。

履修上の留意点

出席点を40点つけるので不真面目な人はとらないでほしい。大人数の授業となるので、私語居眠りは厳禁、ひどい場合は退場願うことがある。授業は学生の興味ある具体的な話から始める。

そ の 他

一部で横道の話の方が面白いという風評があるが、学生の次元で経済学の話しようという意図であって、本人には少し不本意な評価である。授業には全力投球する。PHS 禁止。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
財 政 学	さと なか つね し 里 中 恆 志	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

経済生活の中で公共部門の占める比重は確実に増加しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこでは市場経済原理の私経済とは異なる原理が作用する。公経済は租税徴収等による資金調達と、それをとおしての財政支出によらねば需要を充足できない経済領域である。したがって租税負担配分の方式、財政支出基準の考え方を問題にする。経済社会の変遷につれて負担の方式や支出基準についての考え方も変化する。そして公経済の比重が高まるにつれて、公経済と私経済の相互のかかわりもますます重要になる。

国民が財政意志の形成に参加する方法は民主主義の手続きをとおしてであるから、有効な財政政策の実現のためには、国民が財政をコントロールするルールと、その背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。国民はまた財政政策に対する基礎的な判断基準をもっていなければならない。このような観点から財政意志の形成過程、租税徴収による負担の配分、歳出の効率と合理性、財政の総需要管理政策について講ずる。

講義の進め方は、まず財政意志の形成過程では予算の編成手続きの理解から入る。歳入面については租税収入を主要税種別に扱い、つぎに歳出面について主要経費別の考察を進める。さらに公経済の私経済のかかわりについて総需要管理政策を講ずる。

講義の内容・授業スケジュール

(第1週) 講義内容の紹介と年間授業計画の説明 (第2週) 公共財と公共部門 (第3週) 財政の歴史概略 (第4週) 予算編成と主計局の査定 (第5週) 予算編成と政党政治 (第6週) 予算政府案と議会審議 (第7週) 予算の執行と競争入札 (第8週) 予算の政治過程 (第9週) 租税原則学説 (第10週) 給与所得税と課税の普遍性 (第11週) 申告所得税と累進課税 (第12週) 法人税と徴税技術 (第13週) 国際化と移転価格税制 (第14週) 一般消費税と付加価値 (第15週) 地方税と地方歳出 (第16週) 地方財政費と財政調整の制度 (第17週) 機関費と純粹公共財 (第18週) 公共事業費と費用=便益分析 (第19週) 公共事業費と公共財産の形成 (第20週) 社会保障関係費と所得再分配 (第21週) 補助金とスピルオーバー (第22週) 国債費と公債負担 (第23週) 総需要管理政策と国民所得の決定 (第24週) 課税乗数と均衡予算定理 (第25週) 公債による財源調達と債券価格 (第26週) 大量国債の累積とその限界 (第27週) 財政金融政策と国際収支 (第28週) 財政投融資と政府貯蓄 (第29週) 試験と評価についての説明 (第30週) 試験

授業の配当曜日によって年度授業回数に若干の異動があり、予定どおりの時間数が組めないことがある。その場合は一部予定を割愛することがある。

成績評価の方法

成績評価は学期末テストとして行われる試験による。試験は論述式による。白筆のノート持ち込み可。

教科書

里中恆志=八巻節夫編著『新財政学』(文眞堂) 3,200円

参考書等

大蔵省大臣官房調査企画課長編『図説日本の財政』各年度版(東洋経済新報社)
野口悠紀雄著『公共政策』モダン・エコノミックス12(岩波書店) 2,000円
中谷巖著『入門マクロ経済学』(日本評論社) 3,300円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
金 融 論	しほ や りゅう いち 洪 谷 隆 一	二経1・2・3・4選	4

講義の内容・
授業スケジュール

第1部 金融の基礎知識（前期授業）

第1章 市中銀行

第1節 預金

2 借入金

3 資本金・積立金

4 貸出金

5 有価証券

第2章 中央銀行

第1節 発券機能

2 銀行の銀行としての機能

3 政府の銀行としての機能

第2部 日本の金融制度（後期授業）

第1章 日本金融体系史論

第1節 戦前の金融体系史論

2 戦後の金融体系史論

第2章 金融制度改革論

第1節 松方正義の銀行分業論

2 戦前・金融制度調査会の銀行分業論

3 戦争経済と銀行兼営論の台頭

4 GHQ主導の銀行分業論

5 金融自由化と銀行兼営論への傾斜

講義は第1部金融の基礎知識と第2部日本の金融制度とに分けて進める。

第1部では、金融制度の中核である市中銀行（第1章）と中央銀行（第2章）を対象とする。前者は銀行の勘定科目にそって業務内容を解説し、それに関連する諸事項（たとえば手形交換、為替業務、小切手と兌換銀行券との比較、預金の源泉と形態、信託会社、旧相互銀行、信用金庫、資金運用部資金、預金銀行と債券発行銀行、オーバー・ローン、割引手形、貸付金、利子、BIS規制、その他金融自由化に伴う業務内容の変化など）にもふれる。後者は中央銀行の3つの機能（発券〔保証準備発行法、屈伸制限発行法、比例準備発行法、最高額制限発行法〕、銀行の銀行〔金利政策、マーケット・オペレーション、支払準備率操作、窓口指導〕、政府の銀行）を中心に概説する。

第2部は、以上の金融の基礎知識をふまえて日本金融制度に関する2つの問題を取り上げる。第1章では、日本金融体系史に関する戦前・戦後の代表的な学説（飯淵敬太郎『日本信用体系前史』1947年、石浜和行『特殊金融機関史論』1937年、松成義衛・三輪梯三、長幸男『日本における銀行の発達』1959年、加藤俊彦『本邦銀行史論』1957年）の紹介と批判を行う。

第2章では、日本資本主義の後進性とその発展段階を念頭におきながら、金融制度改革の推移とその性格変化をみてゆく。まず松方正義によるイギリス銀行分業論の導入、その意義と限界、次いで第1次・第2次大戦時の銀行兼営論の台頭と金融制度調査会及び第2次大戦後・GHQ主導の銀行分業論への変更、金融制度の再建、最後に金融自由化の進展に伴う銀行兼営論への傾斜（業態別子会社方式→ユニバーサル・バンク方式）、一方におけるリテール・バンクとホールセル・バンクといった新たな分業形態の出現について考察を進めてゆきたい。

教 科 書

三宅義夫『金融論（新版）』1981年（有斐閣）
後藤新一『金融制度の改革と展望』1992年（時潮社）

参 考 書 等

加藤俊彦『本邦銀行史論』1957年（東大出版会）
渋谷隆一編『明治期日本特殊金融立法史』1976年（早大出版部）
渋谷隆一編『大正期日本金融制度政策史』1987年（早大出版部）
伊牟田敏充編『戦時体制下の金融構造』1990年（日本評論社）
斉藤精一郎『ゼミナール現代金融入門』1988年（日本経済新聞社）
全国地方銀行協会『金融自由化の進展と地方銀行の対応』1991年（同協会）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 経 済 論	もり 森 たけ 武 まる 麿	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

1980年代の後半には、日本のG N Pは世界の14%を占めるまでになった。1950年が1%であることと比べるとこの間いかにすさまじい経済成長であったかがわかる。また、1950年代には世界のG N Pの40%を占めていたアメリカはこの間に25%までに低下し、貿易赤字と財政赤字に苦しみ1985年には初めて債務国に転落した。しかし、日本経済も1980年代の好景気、バブル経済を謳歌したが、1990年代には一転して本格的な不況局面に突入し、出口はいまだ見えない状態である。驚くべき経済成長とゆたかさの背景に、日本社会は公害・環境破壊、企業内の長時間労働、高地価による貧困な住宅条件、少ない休暇など社会的な矛盾もまた累積していった。

このような社会変動をもたらした日本経済の成長はどのようにして生まれたのであろうか。その成長の軌跡と矛盾を、日本株式会社論や1940年体制論などの現代経済システムの源流論や、企業主義・会社主義、日本型企业社会など最近の日本的経営論や日本の労使関係論を視野に入れながら論じてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

1930年代の世界大恐慌から第2次世界大戦をへて1945年の敗戦による日本経済の崩壊から、戦後改革と高度経済成長をへて「経済大国」化した1980年代までの日本経済の段階的変化と構造的特質を把握することをねらいとする。

講義の進め方は、1930年代から1990年代にいたる日本経済の軌跡を5期に区分してそれぞれの時期を資本構造、労使関係、農業問題、対外関係の4つの視点から明らかにしていく。

年間の講義スケジュールは以下の通りである。

- 1 財閥資本と金融資本
- 2 昭和恐慌と高橋財政
- 3 恐慌下の労資関係
- 4 戦時統制経済
- 5 戦時下の農業問題
- 6 大東亜共栄圏
- 7 財閥解体と再編成
- 8 戦後資本主義の再建
- 9 労働改革
- 10 農地改革
- 11 高度経済成長とは何か
- 12 企業集団と法人資本主義
- 13 日本的労使関係
- 14 高度成長下の農業問題
- 15 石油危機と高度成長の終焉
- 16 経済大国化への道
- 17 日本型企业社会の確立
- 18 現代経済と労使関係
- 19 現代の農業問題
- 20 世界の中の日本

履修上の留意点

履修に関していえば、日本経済に関する最新の新聞情報を毎回トピックとして解説し、講義内容もだれでも理解できるように説明する。そのつどプリント（図表）を配布し、また補助教材としてビデオを多く利用するので低学年にも十分理解しうる。出席、授業内小テストなど採点は厳しいのでとくに4年生は心して履修されたい。

成績評価の方法

成績評価は期末試験（論述式）を中心に採点する。中間テストとして夏休みにレポートを課す。出席状況も評価に加える。期末テスト、夏休みレポート、出席状況の三者は、60点、20点、20点の割合で評価する。

参 考 書 等

森武麿ほか『現代日本経済史』（有斐閣） 1,700円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国 際 経 済 論	とく なが とし あき 徳 永 俊 明	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

学問への出発点は「私はどこにいるのか?」という問いにあります。実際、私たちはアマゾンの密林で生活しているわけではありませんし、江戸時代の農村に生きているわけでもありません。では「どこ」にいるのでしょうか。

「世界の中にいる」と言っても、「日本にいる」と言ってみても、これらは答えになりません。どのような世界なのか、どのような日本にいるのか——少なくともこれをつかまなければ先の問いに対する答えにはなりません。今日の世界社会、今日の日本社会の〈内容〉を理解しなければなりません。

ところで、世界経済は、今日、世界社会・日本社会の〈土台〉をなしているものです。世界経済という〈土台〉なしには、世界社会も日本社会も成り立ちません。世界と日本を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の〈基本構造〉の解明をめざします。ただし、私の力量からして“社会主義”経済に十分言及することはできません。資本主義世界経済に限定して検討します。

この講義のキーワードは〈階級的支配関係〉と〈民族的支配関係〉です。世界経済は、資本主義という社会の誕生とともに成立し始め、資本主義社会の〈土台〉として、またその〈産物〉として推移してきました。資本主義社会は、言うまでもなく、〈階級的支配関係〉を命綱としていますが、同時に、世界の諸民族の間の〈民族的支配関係〉をもう一本の命綱としていたことが重要な特徴です。これら二つの支配・従属の関係は資本主義社会のいわば2本柱をなすものです。そして、〈民族的支配関係〉こそ世界経済の〈基本構造〉として機能してきたのです。そこで、この講義では、この〈民族的支配関係〉の問題を座標軸にして世界経済の基本的な理論と歴史、現状そして展望を検討したいと思います。

〈国際化〉の問題がいよいよ重大になっているいま、多くの諸君の主体的な受講を期待します。

講義の内容・
授業スケジュール

〈講義のテーマ(予定)〉

前期は、世界経済の歴史を跡づけ、今日の世界経済の歴史的段階を確認します。

後期は、歴史的知識を念頭において、今日=第2次世界大戦後の世界経済の〈基本構造〉を形づくっている主な柱を一つずつ検討します。

前期——世界経済の歴史的推移

- (1) 〈講義の趣旨〉および〈講義テーマ〉の説明
- (2) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制
- (3) 産業革命と自由貿易植民地体制
- (4) 帝国主義と帝国主義植民地体制
- (5) 第1次世界大戦と世界経済
- (6) 戦間期の世界経済

後期——今日の世界経済

- (1) 第2次世界大戦と世界経済
- (2) 「アメリカ中心体制」
- (3) 新植民地主義と世界経済
貿易・国際通貨制度・資本輸出——(「援助」と多国籍企業)・〈南北問題〉と新国際
経済秩序
- (4) 世界経済の現段階
- (5) 日本経済と世界経済
- (6) われわれの選択

〈講義の方法〉

教場では毎回資料をプリントして配布し、それを説明するという形で講義をすすめます。

成績評価の方法

成績は世界経済の基本事項、世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度をミニ・レポート(3回予定)および学年末レポートで評価します。(追・再試験は行いません。)

参 考 書 等

講義の中で適宜紹介します。

そ の 他

私の研究室は第2研究館4階、電話は直通03-3418-9353です。気軽に立ち寄って下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 業 政 策	いわ した ひろし 岩 下 弘	二経1・2・3・4選	4

講義の内容・
授業スケジュール

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策論
 - 2 流通近代化政策論
 - 3 流通システム化計画論
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導=抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ—前川レポート、行革審報告
 - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
 - 9 街づくりと都市計画
 - 五 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策—都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題—商店法
 - 2 フランス—ロワイエ法
 - 3 ドイツ—土地利用計画
 - 4 アメリカ—ゾーニング規制
 - 六 流通問題と消費者保護政策
 - 1 消費者問題論
 - 2 消費者保護基本法
 - 3 消費者行政
 - 4 生協
 - 七 流通問題と独禁政策
 - 1 独占禁止法
 - 2 不公正取引
 - 3 取引慣行

成績評価の方法

試験、レポート、出席により評価。

教科書

岩下弘編『流通国際化と海外の小売業』（白桃書房） 2,800円

参考書等

保田芳昭編『日本と欧米の流通政策』（大月書店） 2,600円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
労 務 管 理 論	いし い しゅう じ 石 井 脩 二	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

日本企業を取り巻く経営環境は、急激に変化しつつある。国際的にはいわゆる冷戦体制の崩壊の中で、欧州・アメリカ・アジアを中心とする世界三局経済体制への動きを背景に、国際市場で激しく展開される企業間競争は今やメガコンペティションといわれる様相を現出させている。他方、国内に目を向ければ急速に進行する情報技術革命を背景とした産業構造の転換、豊かさを背景とした市場の不透明度の高まり、企業戦略の変化など従来までの経営理念や経営姿勢ではもはや環境変化に対応できない状況が生まれている。さらに近年の日本企業を特徴づける政官財癒着にみられる企業倫理観のない企業犯罪の多発、中高年層のみならず若年層をも巻き込んだ容赦のない人員整理などは、改めて企業とはいかなる存在意識を持つのかという疑問を抱かせるに十分である。このような企業環境の変化や企業の社会的存在意義への疑問は、日本企業がこれからのどのような方向へ進んでいくのかという「将来展望」を曖昧にしているばかりでなく、その予測をきわめて困難なものにしている。社会の進む方向も企業の将来も極めて透明な時代に必要とされることは、現実が生じている様々な動きや事例についての多くの情報を集め、これらの事実情報に基づいて次なる時代の方向性を自分なりに見定めることである。この講義では、日本企業を取り巻く経営環境の変化や日本企業の現実に関する最新の情報に基づきながらこれからの日本企業の動向やそこの勤労生活の変化などを経営側からの様々な従業員対策の展開に即して検討しようとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

企業は、一般にヒト・モノ・カネ、さらには情報といった有形無形の経営資源を組み合わせて利用することによってその目的とするものを実現する。かつて日本企業が世界市場で強い競争力を発揮し日本経済の豊かさを実現したのは、これら経営資源の中でもヒト資源の活用が巧みであったことによるといわれてきた。このヒト資源の活用に関わる一連の経営活動がこれまで人事労務管理といわれてきたものである。日本企業における人事労務管理こそは、日本的経営の別名でもあり、日本企業の競争力の源泉でもあったということである。しかし、今日、日本企業の競争力にかけりが見え始めているといわれる。これは、従来まで日本的経営が競争力を発揮する事のできた経営環境が急速に変化していることを反映している。経営環境の変化は、この講義のキーワードの一つである工業化社会から情報化社会への転換ということに他ならない。この講義では、日本企業が工業化社会というモノ作り中心の産業社会で築き上げてきたヒト資源の活用システムすなわち「人事労務管理」が情報化社会という知識創造や情報創造が中心となる産業社会での妥当性を持たなくなり「人材資源管理」という名称に変化していることに注目し、情報化社会でのヒト資源の活用に関わる最近の企業の動きを中心に検討を加える。同時に、ヒト資源に対する新しい活用への企業側の取り組みが従業員側からみたときにどのような結果を生み出すことになるのかも併せて検討する。このような検討を通して、最終的には日本企業の将来を考えるというところにこの講義の焦点がある。以下のような順序に従って進めていく。

- 序 章 人事労務管理から人材資源管理へ
- 第1章 企業内従業員秩序の編成原理とその変化
- 第2章 採用管理
- 第3章 教育訓練と能力開発
- 第4章 昇進管理
- 第5章 報酬管理
- 第6章 労働時間管理
- 第7章 福利厚生管理
- 第8章 女性労働の管理
- 第9章 国際人事

成績評価の方法

定期試験のみにて評価、評価の基準は解答内容の論理性と説得性である。

教科書

現在作成中のため、当面は授業時間中に配布するプリントを中心に行う。

参考書等

津田真徳編著『人事労務管理論』（ミネルバ書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
簿 記 論	かわ ぐち おさむ 川 口 修	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

現在、簿記といえば技術的には、複式簿記を意味している。その簿記を商企業に適用したものが、商業簿記である。商業簿記は簿記を理解するうえで、最も基本になるものである。この講義では、簿記の基礎から仕訳・転記、試算表・精算表の作成、帳簿の締切、損益計算書・貸借対照表の作成までの一巡について講義を行う。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、簿記の基礎概念、仕訳と仕訳帳記入、元帳転記、簡単な決算手続きまでの一巡について講義する。ここまでは、いわば、簿記の骨格であるから、正確な理解をして欲しい。後期には、勘定科目の内容と具体的な事例の処理、決算整理事項を含む決算手続きについて講義を行う予定である。

履修上の留意点

簿記は、基礎の理解とそれに基づく積み重ねであり、不断の努力が必要とされるものである。講義は、テキストを中心に進めていくので、予習・復習が内容理解の上で大いに役立つと考えている。休まないで受講して欲しい。

成績評価の方法

試験は、前期と後期の2回を考えている。比重は、前期4・後期6程度とし、出席を考慮した総合評価を行う。詳しくは、最初の講義の時に説明する。

教科書

森藤一男編著『教養簿記』（東京経済情報出版） ¥3,000

参考書等

必要に応じてプリント等を配布する。

その他

計算を必要とするので指示をした時には、計算用具を持参して欲しい。簿記は実用性の高いものであり、会計関連科目の基礎となるものであるから、しっかりと学習・理解して欲しい。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
財務会計論	なか はら しょう きち 中原章吉	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計（FINANCIAL ACCOUNTING）について、その伝達、開示の手段である貸借対照表（BALANCE SHEET）、損益計算書（INCOME STATEMENT）を中心に、その性格、内容、役割について講義する。

講義の内容・授業スケジュール

- 前 期
- (1) 4月第1週 企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
 - (2) 4月第2週 先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
 - (3) 5月第1週 財務会計の制度性について。企業会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
 - (4) 5月第2週 貸借対照表論。貸借対照表とは何か、実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
 - (5) 5月第3週 資産評価について。流動資産－棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
 - (6) 6月第1週 資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
 - (7) 6月第2週 繰延資産について。繰延資産の特殊性、繰延資産項目とその償却。
 - (8) 6月第3週 引当金について。引当金とは何か。引当金の設定基準－商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
 - (9) 6月第4週 資本会計について。
 - (10) 7月第1週 同上。
- 後 期
- (11) 9月第1週 損益計算書とは何か。費用収益の認識。
 - (12) 9月第2週 連結財務諸表とは何か。
 - (13) 9月第3週 同上。
 - (14) 10月第1週 セグメント会計について。リース会計について。
 - (15) 10月第2週 企業内容、会計内容の開示について。注記 財務諸表附属明細表（書）。
 - (16) 10月第3週 同上。
 - (17) 10月第4週 貨幣価値変動会計。
 - (18) 11月第1週 同上。
 - (19) 11月第2週 付加価値会計。
 - (20) 11月第3週 環境会計。
 - (21) 11月第4週 同上。
 - (22) 12月第1週 会計の国際化。
 - (23) 12月第2週 同上。
 - (24) 最 終 週 予備

以上のスケジュールは、学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

履修上の留意点

講義には必ず出席すること。

成績評価の方法

試験による。（前期、後期2回実施の予定）

教 科 書

中原章吉著『会計学教程』（創成社）1998年

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
統 計 原 論	いなばとしお夫 稲葉 敏夫	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

経済現象を統計的に分析する際、基本となる概念および手法を出来得る限り数式を使用することなく説明したい。たとえば、消費支出と国民所得、投資と利率などの経済変数間の関係に着目する。このような経済変数間の関係を調べる、典型的な方法である回帰分析を取り扱う。それとともに消費支出、投資など実際にどのデータを使用するのが妥当であるかについても議論する。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は基本的な概念を説明する。2変量間の関係を表す相関係数、そして回帰直線を扱う。また、確率概念を導入することによって、平均値、標準偏差をとらえ直す。
後期は統計的推測の基礎を講義する。世論調査における政党支持率の変化は統計的に意味があるのか、新薬は旧薬よりもはたして効き目があるのかなど、身近な例を取り上げる。

成績評価の方法

原則として、成績はテストによって評価する。

教 科 書

開講時に指示する。

そ の 他

授業は講義の形態をとるが、時々ごく簡単な計算を受講者にもしてもらおう。数式の使用はできるだけ避け、主として図や表を使用して説明する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
価 格 理 論	あら き よし ひろ 荒 木 勝 啓	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

価格理論の目的は、経済の中でマイクロ主体が互いに競争と最適化を行うことにより、市場および経済一般がどのような方向に向かうかを研究することである。もし競争が理想的に行われ、情報や資源移動の完全性が保証されるならば、市場はパレート最適と呼ばれるある種の理想状態に達し、価格は自然に社会的厚生を最大化する水準に定められる。しかし例えば市場参加者が2という少数者で行われるならば、たとえ同様の競争自体が行われても、結果はクールノー・ナッシュ均衡とよばれるような、完全競争とは異なった市場均衡に到達するであろう。またその競争のありようによっては同じ2という参加者の競争から、シュタッケルベルク均衡と呼ばれるさらに異なった均衡状態が作り出されることになる。その点はもはやパレート最適からはほど遠い点である。

このように、価格理論は、一般に「物価水準」と呼ばれているような現実のデータとしての価格というよりも、経済の市場の枠組みやマイクロ主体の行動様式に関する様々な想定から導出されるas ifパフォーマンスとしての価格決定を調べる科目である。従ってその分析のためにはどこまでも「最適化」手法がつかまとう。しかも経済学の場合最適化はほとんどの場合「制約付き最適化」である。

制約のないところに経済は成立しない。近代経済学を生み出した限界革命の旗手であるカール・メンガーは次のように述べる。「村にわき出る泉があり、その水をだれでもが飲めるならば、その水をめぐる経済現象は生じないであろう。しかし、旅人が増えて村人が水を自由に飲めなくなったときから泉の水に経済現象が生じ始める。」

以上のように価格理論では内容の理解がほぼ制約付き最適化手法の理解如何にかかっているといてもよい。従って講義のかなりの部分がそのための準備と練習に当てられると期待したい。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 価格理論で学ぶこと
- (2) 多変数関数と曲面
- (3) 微分、変微分、全微分
- (4) 対数関数の微分と成長理論
- (5) 生産関数、コブ・ダグラス生産関数
- (6) ベクトルの直交と勾配ベクトル
- (7) 制約付き最適化問題のグラフィカルな理解
- (8) ラグランジュ乗数法
- (9) 加重限界効用均等の法則
- (10) 練習問題
- (11) 代替効果と所得効果の計算
- (12) 需要曲線と需要の価格弾力性
- (13) パレート最適、ボックスダイアグラム
- (14) MR曲線
- (15) 独占均衡
- (16) 消費者余剰と生産者余剰、独占均衡の死重的損失
- (17) 費用曲線と供給曲線
- (18) 生産関数から短期費用関数の導出
- (19) 生産関数から長期費用関数の導出
- (20) クールノー・ナッシュ均衡
- (21) クールノー・ナッシュ均衡解の練習問題
- (22) 等利潤曲線
- (23) シュタッケルベルク均衡解
- (24) シュタッケルベルク均衡解の練習問題
- (25) 共謀解

成績評価の方法

試験はノート・教科書・参考書持ち込み可

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』(成溪堂)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国民所得論	よし の 吉 野 おさむ 紀	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万（平成3年）あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財（商品）やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP（国内総生産）にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,070万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成5暦年のGDPによって466兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとすれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言えよう。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的（マクロ）分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ（経済主体）毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」…………… 5回

GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。

《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」（配布資料）

2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」…………… 4回

いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。

《参考》中谷巖 『入門マクロ経済学』（日本評論社）第3章

3. 「貨幣・利子および同時均衡」…………… 8回

この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。

《参考》伊達邦春（編）『マクロ経済学』（八千代出版）第9章

4. 「金融政策、財政政策」…………… 4回

前講までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内のおよび国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。

《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学（上）』（CAP出版）第4章

5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」…………… 5回

ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。

教科書

R. J. ゴードン『現代マクロエコノミックス（上）』（多賀出版）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
景 気 循 環 論	にしむらみつよし 西村允克	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

全体としての経済は、景気回復→好況→景気後退→不況→景気回復→……という循環を繰り返しながら発展してきた。景気循環論の対象はこの発展過程であるから、この発展過程をいかに理解・把握するかが、この講義の主たる目的となる。

講義の内容・授業スケジュール

講義は以下のように進められる。

I 国民所得決定理論
対象が全体としての経済であるから、全体としての経済の成果を示す経済数量である国内総生産（GDP）を動かす要因とそれらの要因の変化がGDPにどのような影響を与えるか、という問題がここで取り上げられ、景気循環を理解するための基礎を与える。

II テキストの批判的説明。
景気循環は経済数量の変化に示されるから、テキストに示された数値や図を用いながら、戦後日本の景気循環を説明する。その過程でテキストの説明の不十分な点をおぎなうとともに、新しい視点からの見方をも示す。

在庫投資循環（キッチン・サイクル）
設備投資循環（ジュグラー・サイクル）
コンドラチェフ・サイクル
の3つのサイクルを取り上げ、それぞれをテキストの図・数値によって説明し、3つのサイクルの相互関係について説明する。

次に金融政策、輸出のサイクルへの影響を取り上げる。
講義はテキストの順序に必ずしも従うものではない。

履修上の留意点

景気変動は現実の経済と密接な関係をもっているから、受講者は毎日の新聞記事に注意して出席すること。

成績評価の方法

期末試験

教科書

森一夫著『日本の景気サイクル』（東洋経済新報社） 3,150円

参考書等

篠原三代平著『戦後50年の景気循環』（日本経済新聞社）
嶋中雄二著『メジャー・サイクル』（東洋経済新報社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 経 済 史	き 木 村 けん じ 二	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

近代化に成功したといわれる明治以降の日本の社会経済状況を、貿易や産業構造、階層・階級関係などについて基本的に理解する。そのうえで、国内・海外に向って人々がどのように移動したかに焦点をあて、その背景や意義、そして政策について検討する。それらを通じて、激動する時期における国民の対応の実態と、そこにおける国家や資本の規定性との関連を明らかにする。

講義の内容・
授業スケジュール

幕末開港期、明治殖産興業期、産業革命期、第一次大戦以降に時期区分し、それぞれの時期の貿易や産業構造、そして人の移動とそれをめぐる政策に関して検討する。具体的には、海外への移民、北海道開拓、来住外国人、在日朝鮮人、向都離村などの問題が取り上げられる。

履修上の留意点

熱心な学生、常に質問を用意するような学生の履修を望む。また、現在自分または自分の両親が居住している場所はどのように形成され、またどのような経緯で住むようになったのかを、日本経済の動向と関連づけて考えてみようとするような学生を期待する。

成績評価の方法

レポートと試験、そして出席を重視する。

教 科 書

教科書はとくに定めない。講義のなかでプリントを配布する。

参 考 書 等

参考書等については講義のなかで指定する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 地 理	こう 上 まか 坂 なが 修 お 夫	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

この講義の主目標は、居住の地域的偏在をもたらす各地域の経済活動偏在の要因と、それに伴う地域的問題について考える点にある。これらの原因や影響はきわめて多面的に捉える必要があるため、次のような点に特に留意して講義を行う。

- (1) 各地域の経済活動が、自然的特性、歴史的・社会的特性と、どのように関わっているか。
- (2) 各地域間の経済活動は、どのような相互関係をもっているか。
- (3) 以上の「地域特性」と「地域間の相互関連」との上に展開されている経済活動が、どのような要因によって変化していくか。

講義の内容・ 授業スケジュール

- (1) 4～5月（6回）
テーマ「自然条件・社会経済的条件と経済活動との関係」地域がもつ「人口を支える力」ということの意味、それに関するさまざまな条件の関係のし方、その複雑さをどのように整理すべきかを考える。
- (2) 6～7月（7回）
テーマ「第一次産業の地域的類型とその変化」農業生産を主とする第一次産業が、都市的産業との対比にみられる生産性の不利の中でどう変化してきたか。各地域の経営形態とその背景による類型区分を行い、国際貿易、輸送手段の変化等による立地の変動や、農林業地域に対する都市的産業の接触・進出について考える。
- (3) 9～10月（6回）
テーマ「第二次産業の集積にみられる地域的類型とその変化」第二次産業にみられる集積状況の類型区分を行い、その立地の要因について考える。また地域間の経済的関係の変化によって製造業がどう変化するか、特に空洞化に関してその現状と影響について考える。
- (4) 11～1（6回）
テーマ「人口移動と、それがもたらす諸問題への対応」近・現代の村落部から都市域への人口移動、さらに諸国家間の国際的人口移動が、地域的経済政策により加速され、或いは抑制されてきた状況について述べ、このような人口移動がもたらす社会的諸問題と、それに対する対応についても考えていく。

履修上の留意点

この授業の目的を達成するためには、まず具体的事例によって現状を把握し、それについて種々検討することが必要である。そのため、内外のさまざまな地域をとりあげて考えるが、これらの事例は経済地理的な見方や考え方を身につけるための素材として扱うものであって、個々の現象を丸暗記するようなことで終わってしまうのでは、無意味な勉強法でしかない。そのために大切なことは、当たり前なことなのだが授業に出席して「いま、何を明らかにするためにこの授業が行われているのか」に注意しながら聴くことであるといえる。

成績評価の方法

基本的に学年末試験による。学年末試験に関しては、単に学習した事項を覚えるのではなく、それをもとに、出題された問について十分考えて記述する力をもつことを期待している。

教科書

特定の教科書を通年使用する方法はとらない。

参考書等

授業中に適宜指示する予定であるが、差し当たり次の文献を読むことを薦める。
江波戸昭『地域構造の史的分析』（大明堂） ¥3,800

その他

必要に応じて資料のプリントを配布する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
農 業 政 策	よね た ひろ し 米 田 浩 史	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

ウルグアイラウンド合意とWTO体制への移行、食糧管理法の廃止と新食糧法の成立など日本農業を巡る環境の激変を背景に、1961年制定以来我が国の農業政策の原点とされてきた農業基本法を見直すため、政府は食料・農業・農村基本問題調査会を設置して検討を開始している。戦後50年を経た今日、農地改革に始まる戦後農政の経験を総括して新しい日本農業発展の方向を探求することは差し迫った国民的課題と言えよう。そのためには、単に戦後農政の展開の跡を辿るに止まらず、日本農業が置かれている歴史的、構造的条件を、広く世界史的な視野から把握しておく必要がある。

我が国は欧米先進諸国より遅れて、かつ欧米列強の開国への強い圧力の下で、強力な国家主導の産業発展の道を歩むことになった。そのため農業における近代的生産関係の成長は著しく立ち遅れ、明治維新以後支配的となった寄生地主制の重圧のもとでその発展は歪められた。農業における近代的生産関係の未成熟が、戦前の我が国の経済社会の発展に欧米諸国に比べて特異な性格を与えたことはよく知られている。

とりわけ、国内市場の未成熟を背景に強行された対外進出の一環を成す植民地産米移入が国内農業を著しい苦境に追い込み、太平洋戦争下の食糧危機の一因となった歴史的事実を忘れることは出来ない。

戦後、占領軍の主導の下に行われた農地改革は、寄生地主制を基本的に一掃して我が国農業に近代的発展の道を開いたが、経営の零細性は未解決に止まった。また、戦後世界農産物市場におけるアメリカとECの対抗を軸とする市場競争の激化を背景に、我が国もまた二国間、多国間の圧力のもとに次第に農産物の輸入自由化を余儀なくされ、我が国の農業発展は厳しい市場条件に直面することになった。その中で、農家の所得確保の役割が専ら米価に求められたことなどから米の生産過剰が生じ、生産調整が進められた。

同時に、急激な工業製品の輸出拡大を伴う高度経済成長の下で、農村労働力の流出、兼業化の進展、生活コストの上昇などが生じ、小型農業機械や農薬による省力技術の普及と相まって農家の専業下限が大きく上昇した。農業基本法の掲げる「自立経営」育成を目指して様々な構造政策が展開されたが、現実には圧倒的な「総兼業化」が進行することとなった。

1993年のウルグアイラウンド合意は、ECのCAP（共通農業政策）改革における直接補助とアメリカの不足払いには手を触れないこととする一方、日本に対しては、2000年までの猶予付きながら、我が国農業に残された最後の支柱である米の市場開放を求め、同時に国内の農業支持措置についても切下げを要求している。

米の市場開放と農業支持の切下げは、工業製品輸出の急増に伴う対外収支の不均衡と貿易摩擦の解決に資するものとして、あるいは国内に新たな投資機会を生み出すものとして、国内の一部にも根強い期待がある。

しかし、我が国の今後の経済社会の発展の中で農業の果たすべき役割を過少評価することは出来ない。世界の農産物市場の将来は、深刻な食料危機の可能性も含めて多くの不安定要素を孕んでいる。また、世界市場における今後の収支構造の中で、我が国が永遠に現在の地位を維持できると考えるのは楽観的に過ぎるとの見方もある。

更に、地球環境保全のための持続可能な経済発展の見地から、食糧の過度の輸入依存は問題ありとする論議も強まっている。

21世紀に向けて、我が国経済社会の安定した発展を保障する日本農業を構築するために、我が国の農業政策はどのように展開されるべきか、食料・農業・農村基本問題調査会における論議の過程にも注目しつつ、学生の皆さんと共に考えて行きたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は地代論、農産物価格論、農産物市場論など農業理論を中心に、後期は我が国の農業問題、農業政策の歴史的展開過程を中心に講義を進める。

履修上の留意点

「経済政策（H10年度は休講）」と併せ受講されることをお勧めする。

成績評価の方法

期末試験の成績および出席状況を考慮する。

教科書

特になし。

参考書等

授業の中でその都度紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
工 業 政 策	ふく だ あつし 福 田 敦	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

戦後の我が国の産業政策を振り返る中で、産業政策の意義とその有効性について検証する。とくに、政策主体のありかたについて検討し、21世紀に向けた産業政策のあり方を探っていく。なお、産業政策の「産業」については製造業にとどまらず商業やこれらの集積もその対象に含める。また、中小企業、地域、競争、国際、NPOといった視点も積極的に取り入れていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 産業政策の意義と政策手段
2. 戦後日本経済の発展と産業政策
 - (1) 歴史的考察
 - (2) 協調ゲームの参加者
 - (3) 21世紀に向けた政策課題
3. 地域産業政策に対する期待
 - (1) 政策フレーム
 - (2) 産業集積の現況と課題（製造業、商業）
 - (3) 東京都の産業政策
 - (4) 創業支援に対する諸外国の取り組み
4. 創業企業の経営戦略と知識創造
 - (1) 創業企業の発展過程
 - (2) 知識創造のプロセス
 - (3) 創業支援のあり方

履修上の留意点

この授業では、はじめに経済学の理論を踏まえながら産業政策の意義や役割について検討するが、産業政策は需要サイドからのマクロ政策ではなく、むしろ市場経済を前提としつつも供給サイドからの政策であり、政策概念としては経済学の枠を超えた学際的な研究領域も重視すべきである。そこで、関連分野である経営学、商業学、社会学、産業組織、都市計画等の分野やこれらに付随する実証的な研究成果（海外も含む）についても随時紹介していきたい。学生諸君には理論と実践の両面から産業政策について理解を深めていくことを期待したい。このような意味からも勉強心が旺盛な学生の受講を期待したい。なお、教科書はとくに指定しない。

成績評価の方法

受講生の数にもよるが、区切りがよく一定の時間が経過した段階で学生諸君の問題意識や考え方を深めるために簡易な試験を数回実施する。出席点はこの試験をもって代えることにする。このほか、中間期には簡単なレポートを課すことにする。なお、成績評価についてはこれら一連の平常点で行うため、学年末試験はとくに実施しない予定である。

参 考 書 等

- 小宮隆太郎・奥野正寛・鈴木興太郎編『日本の産業政策』（東京大学出版会）
 小浜裕久・渡辺真知子『戦後日本経済の50年』（日本評論社）
 金子貞吉『戦後日本経済の総点検』（学文社）
 矢部洋三・渡辺広明・古賀義弘・飯島正義編著『現代日本経済史年表』（日本経済評論社）
 国民金融公庫総合研究所編『進化する下請企業』（中小企業リサーチセンター）
 国民金融公庫総合研究所編『平成10年版新規開業白書』（中小企業リサーチセンター）（7月頃刊行予定）
 中小企業庁『平成10年版 図でみる中小企業白書』（同友館）（6月頃刊行予定）
 野中郁次郎・竹内弘高『知識創造企業』（東洋経済）
 関満博『空洞化を超えて』（日本経済新聞社）
 中谷巖『日本経済の歴史的転換』（東洋経済新報社）

そ の 他

ビデオやスライドを使用することもある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国 際 金 融 論	よし だ まさ ひろ 吉 田 真 広	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

今日、毎週のように、為替相場変動の経済的影響や経済摩擦の国際金融的側面などに関する重大なニュースが報じられており、国際金融は日本経済にとってますます重要な位置を占めるようになってきている。金融ビッグ・バンをひかえて、日本経済の動きを理解するためには、様々な国際金融的影響を把握することが不可欠になっているのである。本講義は、国際金融上の諸問題の本質を学んでいくことを目的としている。

前期の講義では、国際取引、国際収支、為替取引などについての基礎的概念を丹念に説明していく。後期の講義では、現在の国際収支や為替相場状況の把握を目的として、第二次世界大戦後の国際通貨体制の変遷を辿り、さらに今日の国際金融をめぐる構造的な問題をとり上げる。なお、以下に講義スケジュールを示すが、講義では、時々の国際金融のニュースをとり上げていくために、その通りに進まない場合があり得る。

講義の内容・
授業スケジュール

- 前期 第1回 国際金融論の概要
 第2回 様々な国際取引1（貿易取引）
 第3回 様々な国際取引2（資本取引）
 第4回 国際収支1（国際収支と国際貸借など）
 第4回 国際収支2（国際収支の記載原理など）
 第5回 国際収支3（国際収支の最近の動向）
 第6回 為替取引1（為替手形と約束手形）
 第7回 為替取引2（外国為替取引の特徴）
 第8回 為替取引3（信用状と船積み書類）
 第9回 為替取引4（貿易金融1）
 第10回 為替取引5（貿易金融2）
 第11回 銀行の為替業務1（持高調整と資金調整）
 第12回 銀行の為替業務2（中央銀行と為替銀行）
 第13回 国際金融商品1（先物、スワップ）
 第14回 国際金融商品2（オプション）
 第15回 前期のまとめ
- 後期 第16回 固定相場制1（導入事情）
 第17回 固定相場制2（基本原理）
 第18回 固定相場制3（その経過）
 第19回 固定相場制4（崩壊要因）
 第20回 変動相場制論と固定相場制論
 第21回 変動相場制1（導入期からレーガノミックスまで）
 第22回 変動相場制2（プラザ合意から今日まで）
 第23回 変動相場制下の日本経済の諸問題1
 第24回 変動相場制下の日本経済の諸問題2
 第25回 為替相場学説1（購買力平価説など）
 第26回 為替相場学説2（マネタリー・アプローチなど）
 第27回 国際金融に関する諸問題（ヨーロッパの通貨統合）
 第28回 国際金融に関する諸問題（発展途上国の累積債務問題）
 第29回 国際金融に関する諸問題（国際金融市場の発展）
 第30回 後期のまとめ

履修上の留意点

すでに行った講義内容を把握していることを前提として進めていくので、休まずに受講すること。止むを得ず休んだ場合には、自分で勉強するかノートを手元から借りるなどして、必ず自ら補充しておくこと。飲食は禁止、携帯電話の電源は切っておくこと。時間的余裕がある場合、出席カードを配る。

成績評価の方法

前期と後期の2回のテスト。

教科書

教科書は、吉田真広著『今日の国際収支と国際通貨』（梓出版社）を用いる。参考書は随時示していく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
銀 行 論	さいとう 藤 正	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

近年、経済の様々な分野で「規制緩和」、すなわち自由化が喧伝され、金融業においても橋本内閣の「6大改革」の重要な柱として金融ビッグバン構想が展開されている。官僚的規制には様々な問題が指摘できるが、モラルを欠いた「自由化」がそのまま認められることにはならない。とりわけ銀行は「預金通貨の供給」を通じて経済社会の決済システムを担っており、その安定性（信用秩序の維持）なしには経済社会の安定も達成されないという意味で、他の産業と異なる独自の「社会的責任」が存在する。相次ぐ経営破綻の増加、数々の金融スキャンダル、巨額の不良債権など信用秩序の動揺は、「野放しの自由化」が銀行を収益至上主義に陥らせ、その結果経済社会に対しても多大な否定的な影響を及ぼすことの例証である。また、「堅実で、比較的高賃金」というイメージで、就職先としての人気も高いとされる銀行の職場は現在、自由化の下での競争激化に伴う「経営合理化」によって、サービス残業、苛酷なノルマなど、「長時間・過密労働」がさらに強められるとともに、出向・転籍が常態化し、健康と将来への不安を抱く行員が増えている。

このように銀行を取り巻く状況は内外ともに問題が多いと言わざるをえないが、しかし、銀行は依然として「貨幣の供給」及び決済システムを担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の役割を果たしているがゆえに、今こそ銀行の健全なあり方が強く望まれるのである。

本講義では銀行の基礎理論を踏まえたうえで、戦後の日本経済の展開に果たした銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき姿を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 前期は銀行の基礎理論を中心に講義する。
 - ① ここでは古代からすでに存在した「金貸し業者」や「高利貸」と「銀行」との違いがどこにあるのかを検討しながら、「銀行」の基本的機能及び経済社会（メーカー、商社、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
 - ② 銀行が、一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。だが、銀行は受け入れた預金をそのまま現金で貸し出すわけではなく、受け入れた預金を基礎として、貸し出す際に「信用貨幣」（預金通貨）を創造する。現代社会では、エレクトロニクス技術の進展に伴い、ファームバンキングやホームバイキング、さらには電子マネーといった「キャッシュレス社会」現象がみられるが、それは銀行を頂点とした信用（債権債務）関係の高度な発展であると同時に、返済の確実性を前提に成り立っていることを忘れてはならない。
- 2) 後期は戦後日本経済に果たした銀行の役割を、時期毎に検証し、将来の銀行制度の望ましいあり方について検討する。
 - ① まず、専門的金融機関制度あるいは分業主義といわれる戦後日本の金融制度の特殊性とそれぞれの専門機関（普通銀行、中小企業金融専門機関、証券会社、保険会社など）の果たした役割の理解を目指す。
 - ② 時期区分は、おおまかに高度成長期、スタグフレーション期、自由化以後、とし、欧米の動向も参照しながら、それぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されたのかを併せて紹介する。
 - ③ とりわけ、現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが、80年代後半の「バブル経済」と90年代以後の「バブル崩壊」である。戦後銀行制度の構造的転換という視角からこの時期の諸問題を検証する。
 - ④ 以上を通して現在日本の銀行が抱える問題を理論的にも制度的にも的確にとらえ、金融ビッグバン構想について検討を加えながら、望ましい銀行制度のあり方についての理解を深めたい。

履修上の留意点

成績は、基本的には前期試験（レポートに変更の場合もある）と後期試験によって理解度を評価するが、出席状況、授業態度における積極性も十分加味する。また、履修にあたっては、「独自の銀行観」の習得を目指すことを望む。

教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。また、毎回レジュメを配布し、それに沿って講義する。

参考書等

- 谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』、熊野・龍編『現代日本の金融』、いずれも大月書店 1992年
- 日本銀行『新版 わが国の金融制度』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
中 小 企 業 論	わ だ こう し 和 田 耕 治	二 経 1・2・3・4 選	4

講義のねらい

中小企業は異質多元の存在であるといわれている。それら特質は、大企業でないということを除けば、千差万別である。とはいえ、わが国においては、中小企業研究の歴史は古く、その蓄積には、膨大なものがある。本講義では、今までの中小企業研究の蓄積を踏えつつ、今日における中小企業の現状とその課題を考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

年間二十数回程度の講義のなかで以下の点に触れながら授業を進める。

- ① 中小企業とは
- ② わが国における中小企業研究
- ③ 中小企業問題と中小企業政策
- ④ 下請分業構造の変化と中小製造業
- ⑤ 大規模小売店舗法の規制緩和と中小商業
- ⑥ 創業支援とベンチャービジネス
- ⑦ 中小企業従業者の労働と福祉
- ⑧ 地域経済と中小企業

成績評価の方法

夏休みのレポートと学年末試験で成績の評価を行なう。

教 科 書

教科書は、とくに使用しないが、5～6月に発行される中小企業庁『中小企業白書』は各自で購入すること。

そ の 他

授業では、必要に応じて、OHPやビデオを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教育経済論	や 谷 敷 正 光	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について明らかにするのがねらいである。日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2000年アメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランスの「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした欧米先進国の経済再建と教育改革の動向、日本の現状をまず明らかにする。次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した経済復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の人材教育要求と国の教育政策、産業教育政策を明らかにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 先進国の経済発展と教育
 - (1) 日本の産業化と教育
 - (2) 日本の経済成長と教育
 - (3) 日本の産業高度化と教育
 - (4) 日本の「新高度成長」と教育
 - (5) 日本の人的開発政策
 - (6) レーガン大統領の経済政策と教育（一部ビデオ）
 - (7) ブッシュ大統領の経済政策と教育1（一部ビデオ）
 - (8) ブッシュ大統領の経済政策と教育2（一部ビデオ）
 - (9) クリントン大統領の経済政策と教育1（一部ビデオ）
 - (10) クリントン大統領の経済政策と教育2（一部ビデオ）
 - (11) サッチャー首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
 - (12) メージャ首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
 - (13) ブレア首相の経済政策と教育（一部ビデオ）
2. 戦前日本の経済発展と実業教育政策
 - (14) 学制時代における実業教育政策1 富国強兵・殖産興業（映画）
 - (15) 学制時代における実業教育政策2 学制公布と実業教育
 - (16) 教育令時代における実業教育政策1 工場広下
 - (17) 教育令時代における実業教育政策2 教育令公布と実業教育
 - (18) 学校令時代における実業教育政策1 産業革命
 - (19) 学校令時代における実業教育政策2 学校令公布と実業教育
 - (20) 実業学校令時代における実業教育政策 実業学校令、専門学校令公布と実務教育
3. 戦後日本の経済発展と産業教育政策
 - (21) 復興期の経済発展と教育1（一部ビデオ）
 - (22) 復興期の経済発展と教育2 産業教育振興法公布（一部ビデオ）
 - (23) 高度成長第1期の経済発展と教育（一部ビデオ）
 - (24) 高度成長第2期の経済発展と教育（一部ビデオ）
 - (25) 高度成長第3期の経済発展と教育（一部ビデオ）
 - (26) 高度成長終焉後の産業教育

履修上の留意点

- ① 年間5回小テストを実施し、平常点とする。
- ② 現実的理解のため視聴覚教室でビデオ・映画を使用するので指定された教室か視聴覚教室かに注意すること。
- ③ 毎時間、講義用のプリントを配布。一度配布したプリントは、後の時間では配布しないので、必ずその授業中に受け取ること。
- ④ 毎時間かなり板書するので、黒板が見えにくい人はできるだけ前に着席のこと。

成績評価の方法

授業中の小テストと期末試験の成績によって評価する

教科書

毎時間、講義の教材として年間30～40枚のプリントを配布するので、教科書は特に使用しない。

参考書等

豊田俊有編『わが国産業化と実業教育』（東大出版）
 文部省『産業教育百年史』（ぎょうせい）
 ギ・ソルマン（秋山康男訳）『レーガンのアメリカ』（新潮社）
 原田和男『ブッシュの米国経済』（日本経済新聞社）
 宮崎正宏『クリントンの日米経済』（銀河出版）
 森嶋通夫『サッチャー時代のイギリス』（岩波新書）
 その他、講義の中で適宜紹介するので、興味のある人は読んで講義の参考にして下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
ア ジ ア 経 済 論	かく 郭 やん 洋 ちゅん 春	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

「世界経済の成長のセンター」「開発途上国の優等生」、これらは1980年代に入り急速に成長してきたアジア諸国（特に東・東南アジア）を指して使われた言葉である。

植民地支配解放後、長く低開発に喘いでいた開発途上国の中から登場したこれらアジア諸国は、今や先進国の仲間入り寸前のところまで来ている。

一方で、インドネシアの「東チモール問題」、ミャンマーの「民主化問題」、中国の「三峡ダム問題」「南沙諸島、尖閣列島問題」など民族紛争、人権問題、環境破壊、領土問題など冷戦後特に、負の遺産が噴出しているのもアジア地域なのである。

従って、本講義では急成長を遂げたアジア諸国の経済メカニズムの解明と、その陰に隠れて見落とされがちな負の要因の分析の両面から、アジア経済の実態を明らかにしていく。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は以下の通りであるが、状況に応じて多少の変更はあり得る。

I アジアの台頭

①NICsの登場、②NIEsへの転換、③ASEANとは何か、④変貌するASEAN

II ダイナミック・アジア

①アジアの経済政策、②経済開発に果たした国家の役割、③外資導入とアジアの工業化、④日本のODAとアジアの工業化、⑤経済開発の推進母体としての財閥、ビッグ・ビジネス

III 迷走するアジア

①アジアの環境破壊、②飢餓と飽食のアジア、③軍事大国化するアジア、④アジアの開発独裁

IV 21世紀のアジア

①地域経済圏とアジア、②継続するか「成長のセンター」、③アジアは先進国の仲間入りをするのか

履修上の留意点

教員による一方通行的な授業ではなく、応答的授業形態を模索するので、積極的・主体的姿勢で参加すること。授業中は私語・携帯電話類は厳禁。

成績評価の方法

授業中に行う小テストと学年末試験を合わせた総合評価（場合によっては長期休暇中にレポートを課すこともある）

教科書

特になし。

参考書等

横山正樹・涌井秀行編著『ポスト冷戦とアジア』（中央経済社）
他は授業中に随時紹介する。

その他

授業方法は講義中心であるが、学生との討論も考えている。また、ビデオを多用し視覚からも授業を理解してもらおうつもりである。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
中国経済論	こ すぎ しゅう じ 小 杉 修 二	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

- この講義は中国の長期的動態をとらえる。
現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。
本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国は画期的動態を論ずる。
- この講義は3つのキー・ワードで歴史的に中国を解明する。
前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。
2につづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の原因を説明する。
このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている分だけが、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というものは、過去の何らかの延長であると考えられるからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った展開である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれまいであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。
上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また、中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点を相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

講義の内容・授業スケジュール

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。
また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

履修上の留意点

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正解な理解である（学説の受入とは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりえず、私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。
学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

教科書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』(龍溪書舎) ¥4,000

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
ヨーロッパ経済論	し 清 みず 水 たかし 卓	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

ヨーロッパ経済論は、資本主義世界経済を創り出し、その主導者として、ここ数百年、世界の近代化を進めてきたヨーロッパ経済の現状分析を通して、今後の日本と世界経済の展望について考察することを課題とします。

1980年代末のソ連を盟主とする「共産主義」体制の崩壊以降、世界は、市場原理による経済運営と自由貿易体制の時代に入っている。このアングロサクソンの新自由主義経済システムが地球人類のかかえる諸問題にとって有効である否かを、ヨーロッパ諸国の現状をふまえて検討する。

現在、欧州連合（EU）諸国では、1999年経済通貨同盟＝EUの単一通貨の実現をめざしている。通貨統合はアメリカドルから自立した強く安定した欧州通貨を創出し、欧州経済統合の完成を目指している。実現には現状のEU諸国の通貨価値の安定が前提となるが、この安定のため、EU各国とも緊縮財政政策を余儀なくされ、有効な景気対策が打ち出せないのである。歳出削減は、教育、社会保障制度の水準低下となって現れており、企業民営化やリストラによる失業率の高止まりと相俟って社会的緊張を引き起こしている。99年1月には実施段階に入る予定の単一通貨ユーロ、東欧、中欧諸国へのEU拡大、それに伴うEU機構の再編など、統合過程の動きに注目していきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

【前期予定】

第二次世界大戦と戦後ヨーロッパ
アメリカ体制下のヨーロッパ
欧州統合への歩み－ECSCからEECへ
ヨーロッパの経済成長－そのメカニズム
市場統合の展開－関税同盟の理論と現実
農業共同市場の確立－ドイツの工業・フランスの農業
経済成長の限界－スタグフレーション
経済危機下のEC－統合の停滞と前進
サッチャーとミッテラン－新自由主義の台頭
1992年市場統合－非関税障壁の克服
経済通貨同盟－単一通貨ユーロの行方
前期試験

【後期予定】（受講生の希望を取り入れて、テーマを変更することがあります。）

ヨーロッパの多様性－地理・民族・文化
ヨーロッパの近代と現代－覇権から「衰退」
欧州連合－欧州統合の歩み
EUと農業－多様性
EUの産業－強さと弱さ
EUの機構と財政－超国家か国家連合か
EUと地域政策－地域格差の克服
EUの拡大－東欧、中欧諸国の加盟に伴う諸問題
EUの対外関係－日本との比較
欧州の平和問題－ポスト冷戦と民族問題
後期試験

履修上の留意点

ヨーロッパ経済論は、一つの体系的理論を敷衍する科目ではありません。ヨーロッパの多様性について認識を深め、経済社会の現実に向け、経済や社会的諸問題の解決には様々な視点が可能であるのだということを確認してもらいたいと思います。

成績評価の方法

成績評価は、試験点数を基本とし、出席回数にも若干配慮します。なお、再試験は、行わないので注意して下さい。

教科書

教科書はありません。ただし、日経文庫『EUの知識』は有益でしょう。

参考書等

参考書については、授業中に紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
貿 易 論	ふる さわ こう そう 古 沢 紘 造	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまで来ています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生態との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- I 生産・消費と貿易
 - 1. 農産物と貿易
 - 2. 水産物と貿易
 - 3. 林産物と貿易
 - 4. 鉱物資源と貿易
 - 5. 工業製品と貿易
- II 政治・経済・社会と貿易
 - 1. 開発援助と貿易
 - 2. 環境と貿易
 - 3. 公正と貿易
 - 4. 地域統合と貿易
 - 5. 総括：貿易と暮らしを問う

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは評価の対象とはならないでしょう。

教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、その都度説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

その他

講義の中で特に興味をもち、もし少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談に来て下さい。参考になる本など教えます（研究室第2研究館4階34号室）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
証 券 市 場 論	さ とう のぼる 佐 藤 昇	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

資金の調達・運用手段として、有価証券の役割が近年ますます重要性を高めている。講義内容は、有価証券の種類、有価証券発行・流通両市場の機能、市場構成、あるいはこれらの歴史や将来展望などについて、出来るだけ実践に則したものとしたい。

講義の内容・授業スケジュール

最初に証券市場で取り扱う対象である有価証券の概念を定義するが、とくに近年における有価証券範囲拡大の動向に注目したい。

つぎに伝統的有価証券である債券および株式の種類、市場の歴史と現状、あるいは投資尺度の考え方について講義する。

1980年代後半においてわが国株式市場で発生したバブル現象は、その後のわが国経済全般に極めて重大な影響をもたらしたが、その発生、崩壊、および影響の伝播過程についても明らかにしたい。

わが国では、2001年までと期間を設定した上で、金融・証券市場全般にわたる大改革すなわち「日本版ビッグバン」を実行しつつある。ビッグバン計画で提起されている諸施策が完成した段階では、当然ながら市場の様相は従来のものとは一変する筈であるので、計画のうち重要な項目と将来像についても展望する。

このように、激変が予想される市場においては、常時、将来を決定付けるような状況変化が発生するものと思われる。そこでとくに証券市場に関連して重要な要因が発生した際には、その都度背景、影響などを解説する。

履修上の留意点

証券・金融市場関連のニュースに関心をもって欲しい。その上で疑問点があれば、積極的に質問をしてもらいたい。

成績評価の方法

原則として学年末の定期試験によって評価する。

教 科 書

佐藤 昇ほか著『入門・現代の証券市場』（東洋経済新報社） ¥3,200

参 考 書 等

佐藤 昇ほか著『現代経済と証券市場』（有斐閣） ¥2,266

日興リサーチセンター編『全詳解 金融大改革のすべて』（東洋経済新報社） ¥2,200

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
保 険 論	いま いずみ たか ただ 今 泉 敬 忠	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

近年、個人であると企業であるとを問わず、多様化かつ巨大化した危険（リスク）をどのように処理するかは、経済生活上大きな問題となっている。そうした危険の処理に当たって大きな役割を果たすのが保険制度である。本講義では、まず保険の基本的原理を理解し、その上で個別の保険を取り上げてその実際がどのようにになっているかが理解できるようにすることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

保険の研究方法には種々あるが、本講義では、前期には、保険の基本的原理（すなわち、保険の生成、保険の概念、保険の機能、保険料、責任準備金、資産の運用とその規制、保険者の組織、保険の分類等）を取り上げ、後期には、個別の保険（例えば、その代表として、歴史的に一番古く、その後に生成したその他の保険に大なり小なり影響を与えた海上保険）を取り上げ、経済生活上危険の発生が予測される場合、その危険が現実が発生し、それによって生じる経済的不利益（すなわち損害）が保険によりどのように補償されるかを、どの保険にも応用できる形で講義する。

履修上の留意点

保険は、必要があって生成し、長い年月を経て発展してきた経済制度であるから、それなりの独自の機構や組織をもち、更に用いられる用語にも特殊性がある。したがって、講義に出席してノートをとるだけでなく、下記参考書等を熟読することには大いに意義のあることであり、そうすることを希望する。

成績評価の方法

出席状況、授業時間中の態度および学年末試験の結果を総合して評価する。

教科書

特に指定せず、ノートによる。ただし、下記参考書を利用することが望ましい。なお、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

鈴木辰紀編著『保険論』（第9版）（成文堂）
石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの理論』（白桃書房）
前川寛著『現代保険論入門』（中央経済社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
交 通 論	こ いで しゅう ぞう 小 出 修 三	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

交通に対する政策には、さまざまな政府による経済的な規制が非常に多い。鉄道、航空などの運賃は規制緩和の方向にあるものの、現在もなお、政府による規制制度の下にある。また、その市場に参入することも容易なことではなく、航空路線への新規参入も大きな話題となるほどである。ほとんどの商品やサービスを生産する一般の企業はその価格の決定や市場への参入退出が自由に行われていることを考えた場合、交通産業が置かれた経営環境は大きく異なる。本講義では、交通に対するこうした政府による公的規制がどのような理由によって行われているのか、そしてそれが社会に対してどのように影響を及ぼしているのかを考察することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義では、上述のように、交通に対する規制制度を理解するために、前期においては各種交通機関を横断的に検討するとともに、日本における事業分野別に各交通機関の市場構造について概観する。そして、その規制制度について諸外国での制度と比較しながら、実体面および理論面からどのような議論がなされているのかについて考察する。

1. 交通産業の規制制度、そしてその変化（交通公企業の民営化の論議を含む）
2. 運賃料金制度
3. 交通調査制度、補助政策（総合交通体系論を含む）

後期においては、各交通機関別に以下のとおりの順で各論を展開しながら、それを通じて都市間交通、都市・地域内交通、および国際交通の実態について考察し、そこにおける問題点について論じる。

4. 鉄道
5. 道路輸送
6. 航空
7. 海運

履修上の留意点

講義は毎回配布するレジュメ、関係資料にもとづいて行ないますが、講義中気づいた点などはノートするようにしてほしい。また、疑問点などがあつた場合には、積極的に質問などをしてほしい。

成績評価の方法

原則的には定期試験の結果にもとづいて評価する。

教科書

テキスト・参考文献については毎講義に配布するレジュメに、その講義の理解するために必要な文献について示すのでそれを参照してほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
会 計 監 査 論	いい おか とおる 飯 岡 透	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財務状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・
授業スケジュール

この講義での授業内容とそのスケジュールは次のとおりである。

〔前期〕

4月 会計監査の目的と種類

- (1) 会計監査の目的
- (2) 会計監査の種類
- (3) 監査基準の必要性とその構造

5月 わが国監査制度の展開

- (1) 第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
- (2) 第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開

監査人の要件と責任

- (1) 監査人の要件
- (2) 監査人の選任と解任
- (3) 監査人の職務権限と責任

6月 監査要点と監査手続の選択適用

- (1) 監査要点の意義と種類
- (2) 通常実施すべき監査手続とその内容

7月 監査証拠の種類と内容

- (1) 監査証拠の意義と分類
- (2) 十分な監査証拠と合理的な基礎

〔後期〕

9月 内部統制と監査リスク

- (1) 内部統制の構成要素
- (2) 内部統制の評価
- (3) 監査リスクと重要性

10月 監査計画と組織的監査

- (1) 監査契約と予備調査
- (2) 監査計画の目的とその設定
- (3) 組織的監査の重要性と審査機能の整備
- (4) 他の監査人の監査結果の利用

11月 監査調書の目的と種類

- (1) 監査調書の目的と作成要件
- (2) 監査調書の種類と保存

経営者確認書の意義と記載内容

- (1) 経営者確認書の意義と目的
- (2) 経営者確認書の記載内容

12月 監査報告書と監査概要書

- (1) 監査報告書の意義と機能
- (2) 監査報告書の種類
- (3) 短文式監査報告書の記載内容
- (4) 特記事項の記載内容
- (5) 監査概要書の目的と記載内容

1月 この講義の総括と年度末試験の説明

なお、以上スケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論、簿記論及び財務会計論の講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。

成績評価の方法

レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。

教科書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』（中央経済社） 3,500円

参考書等

飯岡透著『中間財務情報制度論』（中央経済社） 3,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
管 理 会 計 論	なか はら しょう きち 中 原 章 吉	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの階段を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、管理会計の本質、体系その中での「意思決定会計」と「業績管理会計」をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思ひます。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

履修上の留意点

「会計学総論」を選択しなかった経済学専修の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思ひます。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）。

教 科 書

講義の際、指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
税 務 会 計 論	たか き かつ み 高 木 克 己	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税改革が論議されており、大幅な改正が予想されている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ヘイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

履修上の留意点

基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まるとされる。

成績評価の方法

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度提出する。

教科書

講義で使用する教科書、参考書等については開講時に指示する。

その他

毎回出欠をとるかどかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 業 史	こうのやのり 幸野保典	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

商業史とは、各時代の人間の経済生活のなかでとくに商業活動を取りあげて、その具体的役割や歴史的な変遷を明らかにする学問だといってよいであろう。この場合の経済生活とは、人間が生存のために必要な生活必需品などさまざまな財貨（商品）を獲得し、それらを消費しながら日常生活を繰り返すことである。広義の商業とは、財貨がどこで生産され、どのような経路で生産者から消費者へ運ばれ売られるかに関わることである。

経済の発達した現在では、消費者は必要な消費財をみずから生産せず、第三者が生産した財貨を商品として市場から購入しなければならない。人間の経済生活は市場における商品の売買という取引行為を通して営まれている。そして、商品売買という取引行為が生産活動から独立した場合、商品を購入して再び販売するこの取引行為は生産とは別の独立した職業として専門的に営まれることになる。これが本来の意味での商業で、それを専門に営む者が商人である。

このように、本来の商業は市場における商品の購入と再販売という連続した二つの取引からなっている。しかし、現実には商品取引が行なわれる場合には、金融業（信用業務）、通信業（発注・受注業務）、保険業（商品の保全）、運輸業（商品運送業務）、倉庫業（商品の保管）などが商品の売買に付随して行なわれることから、これらも商業の範疇として考えられ、商業史の対象となりうる。外国との商取引である貿易も商業史の重要な一部門である。

このように商業史の対象は多岐にわたるが、本講義では、日本における小売商問題、とくに大正・昭和期の小売商問題に重点をおきたいと思う。それは、今日の小売商問題の源流を探るうえで重要であると考えからである。経済史とのかかわりのなかで商業史をみることは当然のことではあるが、小売商問題に限っては社会史や文化史からのアプローチも重要な要素となる。経済的効率のみから小売商問題を理解したり、外国との経済摩擦の解消策としての規則緩和問題に重点を置き解決を計ろうとすれば、地域文化の崩壊や個性の喪失はまぬがれないと考える。

講義の内容・授業スケジュール

1. 商業史の課題と方法（1回）。2. 近代以前の商業（2回）。3. 明治期の商業、①近代商業の経済的環境（1回）、②近代商業経営の成立（1回）。4. 大正・昭和期の小売商問題、①小売商の社会経済環境（1回）、②商業人口の過剰現象とその定着度、（1回）、③中小小売業者の零細性（1回）、④各種小売形態の発展、a. 百貨店の発展（2回）、b. チェーンストアなどの発展（1回）、c. 小売市場の設置（1回）、d. 商店街の形成（1回）。⑤中小小売商の経営実態、a. 小売商経営の実態（1回）、b. 小売商問題の発生と社会的認識（1回）。⑥中小小売商の社会運動、a. 営業税反対運動（1回）、b. 政党運動の展開（1回）、c. 反百貨店運動（1回）、d. 反産運動・その他の社会運動（1回）。5. 戦時下の商業、①商業の再編成（1回）、②転廃業問題（1回）、6. 戦後の小売商問題、①中小小売商の保護政策（1回）、②流通革命とスーパー・マーケット（1回）、③コンビニエンス・ストアの発展（1回）を予定している。このほか、5～7回特色ある各地商店街の発展史を取りあげる。

履修上の留意点

とくになし。

成績評価の方法

前期にレポート、後期に試験を実施する。

教科書

とくに指定しない。毎回講義にはレジュメを用意する予定である。

参考書等

竹林庄太郎『日本中小商業の構造』1941年（有斐閣） 糸園辰雄『日本中小商業の構造』1975年（ミネルヴァ書房） 藤田貞一郎、宮本又郎、長谷川彰『日本商業史』1978年（有斐閣） 石坂昭雄、壽永欣三郎、諸田實、山下幸夫『商業史』1995年（有斐閣） 白澤恵一『地域経済と小売商業』1982年（溪水社） 鈴木安昭『昭和初期の小売商問題』1980年（日本経済新聞社）など。

その他

授業の方法－講義を中心に行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
原 価 計 算 論	かわ ぐち 川 口 修	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

原価計算は、原価計算基準にあるようにその目的が多様である。この講義では、原価計算の基礎にある考え方を述べ、その中心のねらいとして、財務諸表目的の原価計算について講義する。すなわち、製品の製造過程を前提として、そこで消費される価値が、どの様に製品へ移転・計算されていくのかを論ずる。基本と考えるその領域を理解し、他の目的にも適合するような原価計算を前提として考えている。管理会計目的の原価計算は、その技術的展開が多様である。それらを講義することは、時間的制約もありやや困難であると思われるが、可能な限り述べてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、原価計算目的、原価概念、原価計算制度等の基礎的事項を述べ、製品原価計算の基礎である材料費・労務費・経費の計算、直接費・間接費の計算を講義する。後期には、製品・製造形態の相違を前提として、個別原価計算・総合原価計算とその応用計算の講義を行う予定である。時間がある時には、標準原価計算・直接原価計算などについても論じる予定である。

履修上の留意点

製品原価の計算は、製造を行っている現場と密接な連携を必要とする。それゆえ、難解な部分もあろうかとも考えられるが、出来る限り講義で詳しく述べる予定である。学生諸君も努力を惜しまないで欲しい。

成績評価の方法

試験は、後期のみである。そして、出席を考慮して総合評価を行う予定である。詳しくは、最初の講義の時に説明する。

教 科 書

小林健吾著『原価計算総論』（創成社） ¥3,000

参 考 書 等

必要に応じてプリント等を配布する。

そ の 他

計算を必要とするので指示をした時には、計算用具を持参して欲しい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
情報・経済ネットワーク論	なかすみみつあき 中 濟 光 昭	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

現在、社会のほとんどすべての分野で情報の収集、利用、蓄積にしのが削られている。特に経済システムにおいて、この動きが顕著である。今や経済を学ぶ者が、情報化という仕事に主導的に参加しなければならない状況である。ところで情報化とは、コンピュータを使って何かまとまった仕事をしようとするものと捉えることができるが、システムを情報化するには、人間がその目的ごとに対象をコンピュータに計算可能な形にモデル化し、その上でプログラムを書かねばならない。ここでプログラムを書く技術も大切であるが、対象とする現象（例えば経済現象）をコンピュータが実行可能な形にモデル化し、記述することが必ず先行する。このような仕事こそ経済を学ぶ者が行うべきであり、この仕事で主導的な役割を果たすためには、社会システムの原理、および情報化のためのモデル化手法をしっかりと身につけ、情報社会でこれから起こるどのような変化にも対応できる柔軟な頭脳をもつことが必要である。本講義の狙いは、このような能力を身につけることである。

そのため、本講義では、1) ものごとを自分で掘り下げて考えること、2) 考えたことを現実に試み、体験を通じて理解すること、3) ものごとを多面的に見ることを学び、広い好奇心をもつこと、を实践できる様配慮したい。具体的には、講義とコンピュータを用いた実習とを組み合わせる。コンピュータを用いた実習では、自分で考え、計画し、ソフトを操作するなどの考究型実習を行う。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では、社会システムの中で、特に重要である経済システムを中心に、その基本的構造・原理と、そこにおける情報ネットワークの役割を説明し、システムのモデル化手法を理解していく。具体的には、以下の構成になる。

1 IT (情報技術) 概論

日本のおかれている状況とITの関係を、産業社会の発展と限界・日本経済の変容の観点から概説する。

2 情報ネットワーク経済論

情報ネットワークと社会の相互関係を、ITの技術的基盤から分析する。

具体的には、通信技術（衛星放送、移動体通信、CATV、電話など）、要素技術（パソコン、ICカードなど）、データ配送技術（画像・音声・文字の伝送）、ユーザーインターフェース基盤（WWWなど）、アプリケーション基盤（暗号、電子マネー、ディレクトリサービス、ネームサービスなど）、アプリケーション（遠隔会議、ブラウザリング、メール、マルチメディアサービス、電子商取引など）を概観し、経済学的な切り口から利点・欠点を各自分析してもらう。

さらに、ITを前提とする新しい経済モデルの可能性について検討する。ケインズの経済モデルでは、需要が価格を決定し供給を制御するが、マイクロソフトやネットスケープの事例をみると、まず多量の供給が行われ、価格が低下し需要が増大する。なぜこういう経済モデルが成立するのかを分析する。

3 社会組織論

社会の組織構造を理解するため、集団力学・合理的組織構造とその進化などを分析する。また企業組織・社会組織について論じ、情報ネットワークを前提とする組織設計や仮想社会について論ずる。具体的には、情報ネットワークによる情報共有が広範にわたるにつれ、企業・組織の境界があいまいになる場合、組織の構成員の配置が最適になるという仮説に対して、検証を加える。さらに社会システムのモデル化方法を理解するため、システム理論、自己組織化、知的分散システムについて簡単に解説し、組織の機能・構造との対応を示し、モデル化の演習を行う。

4 意志決定システム論

組織や社会における意志決定や情報処理の仕組みを説明し、意志決定における情報システムの機能について論ずる。また企業における意志決定支援システムについて以下の観点から各自分析してもらう。

—MISとは何か：意志決定の仕組みと組織の機能・構造及びIT（EUC、CALIS、BPRなど）との対応

—戦略的情報システムによる競争優位

5 演習

講義内で示された課題について、各自がパソコンを用い分析を行う。

成績評価の方法

- 1 出席
- 2 授業の中での問題提起に沿って、グループに分かれて問題に対する解決案を発表する。発表は、パソコン・OHPを用い、問題の説明・解決方法と技術的可能性の説明、結果の説明および考察を行う。
- 3 テスト

教科書

講義毎に配布

参考書等

初回講義時に指示

その他

各自演習用のノートパソコンを購入してもらおう。これは「プログラミング論」、「情報・経済ネットワーク論」で共通に利用する。購入方法については別途指示する。ただし、既にノートパソコンを所有している者については、新規に購入する必要はない。
講義は実際にコンピュータの画面をプロジェクタで見せながら行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
プログラミング論	はまもと かず ひこ 濱 本 和 彦	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

現在の社会においてコンピュータはあらゆる分野で使用されており、その重要性は非常に高い。それに伴いソフトウェアの機能強化が必要とされており、ソフトウェアの開発におけるプログラミング技術の重要性はますます高くなっている。またコンピュータの使用環境もスタンドアロンからインターネットなどのネットワーク上での利用へと変化し、それに伴って供給されるソフトウェアを記述するプログラミング言語も変化している。

本講義ではまず、ソフトウェア開発におけるプログラミング技術の位置づけを明らかにするために、ソフトウェア工学の基礎について講義する。次にプログラミング技法とプログラミング言語について講義する。プログラミング言語としてはC言語とJavaを扱い、実際にソフトウェアを作成しながら包括的なプログラミング技術、ソフトウェア開発について講義する。

講義の内容・授業スケジュール

まず、ソフトウェア工学の基礎とプログラミング技法（構造化やオブジェクト指向）について講義する。次に、プログラミング言語について実際に演習（ソフトウェア作成）を交えながら講義する。言語としてはC言語とJavaを扱う。前期にC言語、後期にJavaを扱う予定である。C言語は第2種情報処理技術者試験レベルを目標として、各種データ構造からポインタ、関数、構造体、ファイル操作まで講義する。Javaでは、主に、インターネットのWWW上でプログラムを発信するためのJava アプレットについて講義する。いずれも実際に演習を行い、「アルゴリズムの作成」、「流れ図の作成」、「コーディング」、「コンパイル」、「実行」、「デバッグ」、というソフトウェア開発の流れを学習する。

履修上の留意点

できるだけコンピュータの初心者に対しても理解しやすいように講義を行うが、各自の予習復習が理解のためには必要である。

成績評価の方法

講義中に出す課題、長期休暇中に課すレポート、および定期試験により評価する。

教 科 書

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参 考 書 等

講義中に指定する。

そ の 他

各自演習用のノートパソコンを購入してもらう。これは「プログラミング論」、「情報・経済ネットワーク論」で共通に利用する。購入方法については別途指示する。ただし、ノートパソコンを所有しているものについては、新規に購入する必要はない。

講義は実際にコンピュータの画面をプロジェクトで見せながら行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 数 学	みずの 野 かつ 勝 し 之	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

経済理論は数学を利用して説明される。しかしながら、初学者にとって、数学のうちどれが必要でどれが不必要かは判然としない。また、経済学の授業で突然数学が使われても、それを忘れてしまった諸君もいれば、はじめて目にする諸君もいるはずだ。本屋に行き、自分で勉強するために「経済数学」の入門書を手にとると、その難解な書き方がゆえに逆に嫌悪感を抱く人もいるはずだ。本講義では、諸君の経済学の勉強への数学の適用を念頭において、そこで利用されるであろう数学の基礎とその経済学への応用を行っていきたいと思う。経済学の例示は、マクロ、ミクロ経済学ととびとびになるが「経済学に利用される数学」という方針の下に体系化される。数学の苦手な諸君にも十分理解できるような授業の進め方をしたい。

講義の内容・授業スケジュール

本講義は、従来の「経済数学」という学問を、初等的にアレンジし、かつ一般学生により役立つ形で進めていきたい。授業スケジュールは以下の通りである。

1. 数学の用語・記号

- ① 関数
応用：効用関数と生産関数
- ② Σ (シグマ)
応用：予算式の表示
- ③ その他

2. 行列

- ① ベクトルと行列
- ② 行列の加減と積
- ③ 行列式
- ④ 余因子と余因子行列
- ⑤ 逆行列
- ⑥ 連立方程式
 - (1) 応用
 - ・マクロ経済モデル
 - ・価格の決定
 - (2) クラームルの公式

3. 微分と偏微分

- ① 微分の意味と最大・最小
応用：弾力性
- ② 微分いろいろ
 - ・積・商の法則
 - ・合成関数の微分
 - ・その他
- ③ 偏微分
 - ・偏微分の意味
 - 応用：効用関数と限界効用
生産関数と限界生産力
- ④ その他
 - ・全微分
 - ・オイラーの定理
 - ・ラグランジュ未定乗数法

履修上の留意点

前述のように数学が全く苦手でもかまわない。しかし、苦手にもかかわらず出席をおこたることは避けてほしい（もちろん数学が得意な人も）。

成績評価の方法

総合的に評価する。

教科書

水野勝之著『テキスト経済数学』（中央経済社）
水野勝之著『マクロ経済分析入門』（創成社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
計 量 経 済 学	わら がい とも き 薬 谷 友 紀	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

経済・経営の実際を数量データを通して分析し、把握することを学ぶ。数量分析により、分析対象の量的検討のみならず、質的検討が可能であることを示す。計量分析とは何か、そこで用いられるデータはいかなるものかを明らかにし、自身で分析用具を動かしてみることにより、分析能力を身に付けるとともに、計量分析の結果を評価する能力の獲得をめざす。具体的には、計量分析を行なう上で必要な統計の基礎知識を習得し、計量分析の手法を学ぶとともに、経済・経営データを用いた実証分析を行なう。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の内容構成は次の通り。
1) 統計知識の基礎、2) 統計的推計と仮設検定、3) 経済・経営データの種類とその構造・性質、4) 回帰分析、5) 計量モデル分析、6) 時系列分析、7) 産業連関分析、8) 企業行動の計量分析

履修上の留意点

受講の条件としてあらかじめ特別な知識を求めることはなく、また、これまで数字の扱いを不得意とする学生の受講も可能である。講義は基礎から応用へと、段階的に積み上げる形で進める。講じられた講義内容の理解は、次に続く講義へ進むための前提となることから、講義への毎回の出席が強く求められる。

成績評価の方法

定期試験の結果と平常点に基づく。

教 科 書

参考書・文献は適宜指示する。

そ の 他

コンピュータを用いた実習を行なう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
情 報 処 理 論	くろ べ こう いち 黒 部 晃 一	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

CG（コンピュータ・グラフィックス）が包括する主要アイテムを、市販ツールの操作を通して学習し、その上で自らプログラミングを試行することで、CG アルゴリズムがビジュアライズされるプロセスについて学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・3DCG ソフトウェアのオペレーションと2Dグラフィックスの3Dグラフィックスへの適用。
- ・プログラミング言語C++の習得。クラス概念とオブジェクト志向型への理解。
- ・Windowsプログラミング。Dosプログラムと比較しながら、Windowsシステムが発するメッセージとそれを処理するハンドラのメカニズムの生成。リソースの作成とそのソースプログラムへの導入。
- ・フラクタル画像生成。樹木／オートマトン／コッホ曲線／中点変位法／非整数次元とマンデルプロ集合
- ・光線追跡法（レイトレーシング）アルゴリズムとプログラミング。モデリングとレンダリング／オブジェクトアフィン変換／内部論理演算と外部論理演算／鏡面反射モデルと屈折モデル
- ・自ら書くプログラムによる画像生成。

成績評価の方法

出席状況と提出課題について評価。

教 科 書

プリント配布

参 考 書 等

山岡祥『3Dグラフィックス』（森北出版）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現代資本主義論	きた はら いさむ 北 原 勇	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

20世紀末の現在、米欧日など先進資本主義経済はおしなべて、深刻な停滞のただ中にあり、大量失業と雇用不安が続いていると同時に、国際的な通貨価値の激動と金融システム破綻の不安にさらされ、また国家財政の収支悪化も加わって、確固たる打開策も将来の展望も見いだせない状況にある。なぜ資本主義経済はこのような事態に立ち至ったのか、この正確な分析なしに今後の展望は語れない。本講義は、第2次大戦後の半世紀の歴史を概観しながらこの問題に迫ろうとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

まず、現代資本主義分析の方法を巡って正統派・宇野学派・レギュレーション学派のそれぞれの特徴・有効性・限界を比較検討したうえで、①アメリカ主導の「冷戦下・国家独占資本主義体制」の成立・展開・解体の過程を、他方における「冷戦下・社会主義体制」の成立・崩壊の過程との関連で把握する。ついで、現代資本主義の諸相の考察にはいる。本年度は、②現代巨大会社における「所有と決定」、③現代的技術の発展と経済、④アジアの停滞と発展、以上の諸点に絞る予定。

成績評価の方法

学年末試験。随時小テストを加味。

教科書

北原勇・伊藤誠・山田鋭夫『現代資本主義をどう見るか』（青木書店） 2,500円

参考書等

北原勇『独占資本主義の理論』（有斐閣）および北原勇『現代資本主義における所有と決定』（岩波書店）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社 会 思 想 史	あ べ ひろし 阿 部 弘	二 経 1・2・3・4 選	4

講義のねらい

わたしたち人間の社会的生活の歴史過程のなかで、人間の社会生活とそのシステム、わたしたち人間の人格、人間性のより良い発展をめざした数多くの思想、社会システムに関する考えが生みだされてきた。これらの思想は特定の地域・時代に偏っているのではなく、人間の世界全体、有史以来現代に至るまで、遍ねくみられるものである。そこでこの講義はこれらの思想を体系化し、世界的規模で把握し、わたしたち人間社会に関する思想の概観をし、このことによって現実の社会を把握するカギを提供しようとするものである。

講義の内容・
授業スケジュール

(全体)

1. 経世済民(帝王学)の思想
2. 市民社会と「社会経済学」の形成
3. 日本の社会・経済思想

(細目)

1. 経世済民(帝王学)の思想
 - (1)古代中国の経世済民論
 - (2)インドの帝王学
 - (3)ヨーロッパ社会の帝王学
2. 市民社会と「社会経済学」の形成
 - (1)「市民」という考え方
 - (2)社会科学
 - (3)社会経済学の形成
3. 日本の社会・経済思想
 - (1)江戸時代の経世済民論
 - (2)明治期における輸入科学と諸科学の形成
 - (3)日本の社会科学

成績評価の方法

1. 年間4回のレポート作成を行なう。
No. 1は7月上旬、No. 2:10月、No. 3:12月、No. 4:1月
2. 評価は上記のレポートを基準とする。したがって「定期試験」および、その「追・再試」は行わない。
3. 出席調査は適宜行ない、評価の素材に含める。

教 科 書

講義に際して、コピーなどを配布するが、レポート課題によっては、何かの文献の指定をすることもある。

そ の 他

講師の連絡先
〒179-0072
練馬区光が丘6-1-4-204
Tel. 03-3976-7984/研究室 03-3418-9360

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
地 方 財 政 論	しの はら あきら 篠 原 章	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

地方財政の枠組みを理解するとともに、地方財政の基本問題を分析するための基礎的な手法を学ぶことを主眼とする。時事問題なども、折に触れて取り上げる予定である。

講義の内容・授業スケジュール

年間を通じて以下の項目を講義する予定である。

[基礎編] (主として前期)

1. 地方財政論を学ぶということ
2. 地方公共支出の役割
3. 地方公共支出の現状
4. 地方公共支出と公共財供給
5. 租税体系と地方税
6. 地方税制度の歴史と現状
7. 負担と受益
8. 地方債の基礎知識

[応用編] (主として後期)

1. 分権と集権
2. 地方財政調整の実態
3. ケーススタディ：沖繩問題と地方分権
4. 地方財政と地域開発
5. 地方財政制度の国際比較
6. ケーススタディ：高齢化社会と地方財政
7. ケーススタディ：『東京』の社会経済学

履修上の留意点

初学者を対象としたコースだが、財政学の知識があれば、より深く理解することができる。したがって財政学の履修経験があるか、財政学を履修中であることが望ましい。

成績評価の方法

学期末に筆記試験またはレポート提出を義務づける。また、少なくとも前後期各1回は課題を示し、簡単なレポートも作成してもらう。

教科書

斎藤慎・林宜嗣・中井英雄共著『地方財政論』(新世社) 2,400円(本体価格)

参考書等

参考書・参考文献・資料等は随時指示する。

その他

テキスト・参考書以外に、新聞等の時事的な資料やビデオ資料等もしばしば利用する予定である。質問等については電子メール (akirashi@ic.daito.ac.jp) でも受けつけるので、ぜひ活用してほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
環 境 経 済 論	やまぐち ゆうじ 山 口 由 二	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

産業革命以降、人類は無限とも思える生産力を得て、それまでとは比べものにならない急速な経済発展・成長を成し遂げてきた。この大量生産、大量消費を美德とする社会における経済成長は、すべての人々に文化的で豊かな生活を与えるものとして、これまで、声高に異議を唱える者はほとんどいなかった。しかし、21世紀が間近にせまる現在、様々な矛盾が露呈してきている。そのもっとも大きな問題が、環境問題である。

現在の環境問題は、かつての水俣病に代表される公害問題のように加害者と被害者が明確に分離されるものばかりではなく、地球温暖化のように、ほとんどすべての人々が加害者であると同時に被害者となりうる問題や、熱帯雨林の破壊や、酸性雨問題のように、貧しさゆえに引き起こされ、そのことが南北問題にまで発展しているより複雑な問題もある。

本講義では、経済成長と環境の相互関係を歴史的視点と理論的視点の両視座から論じると共に、様々な事例を提示して経済成長の意味や、経済成長と環境破壊とのトレードオフの関係について論じる。この講義を通して、受講者の方々に環境経済学への問題意識を喚起したい。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、おもに、指定した教科書に沿って、資源・環境問題、及び環境経済学を理論的に論じる。その上で、後期では、地球温暖化問題、国有林や東京湾の漁業のコスト・ベネフィット分析、捕鯨問題、自動車の社会的費用、農業の環境問題など様々な実例を取り扱う。

履修上の留意点

本講義は、近経の基礎的知識を必要とするが、講義過程でその都度、簡単に復習を行いたい。環境経済学は、まだ確固とした学問体系が出来上がっておらず、発展的余地のあり今後ますます重要となる研究分野である。この講義で積極的な質問や議論がであることを希望する。

成績評価の方法

前期・後期それぞれ、テストを行う。この結果と共に、授業の出席回数を成績評価に加味する。また、適宜に簡単なレポートを提出していただき、これも考慮する。

教 科 書

未定、最初の授業時に指定する。

参 考 書 等

- ・ K. W. カップ著、篠原泰三訳『私的企業と社会的費用』（岩波書店）
環境経済学の古典的名著。生産過程で第三者や社会が受ける、公害、環境汚染による損失を社会的費用として、大気汚染、水質汚染、動植物の絶滅、人災、エネルギーの枯渇、森林の濫伐等について理論と実際の両面で分析を試みている。1950年に原著は刊行されている。
- ・ 宇沢弘文著、『自動車の社会的費用』岩波新書（岩波書店）
若い人ならば皆大好きで、現代社会においてこれなしには成り立たないと思われる自動車の外部不経済性を徹底的に追求した名著。私が自動車の免許を取らないのもこの本を読んだため？。宇沢氏は日本の近経の一人者で、ノーベル賞をもらってもまさか文化勲章はもらうまいと思っていましたが…。ちょっと古い本だがおすすめ。
- ・ 宮本憲一著、『環境経済学』（岩波書店） 3,600円ぐらい
筆者は公共経済学者、政治経済学者の立場から長年様々な公害問題に立ち向かってこられた。環境経済学を「容器の経済学」と称し、環境をあらゆる経済活動の“容器”としてとらえている。やはり、読んでおいてほしい本。
- ・ 環境庁編、『環境白書平成9年度版 総説・各論』（大蔵省印刷局） 各2,000円
白書という堅苦しく難しいイメージがあるが、『環境白書』は、現在の環境問題についてわかりやすく書かれている良書。総説は毎年副題が替わり、9年度版は「地球温暖化防止のための新たな対応と責任」である。これによると、地球温暖化問題が如何にさし迫った問題であり、炭素税導入の必要性が論じられている。ここまで書いてなぜ実行できないのか残念である。

科目名	担当者名	配当学年	単位
経営分析	こん とう きた お 夫 近 藤 禎 夫	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

企業とりわけ独占・大企業の企業経営の見方や分析、および評価の仕方を理解するよう教授する。企業倒産が日常的なこんにち、経営分析を通じて問題の核心に迫る。

講義の内容・授業スケジュール

1998年度新規開講に当って、つぎの内容を講義する。

- (1) 企業分析の意義・歴史
- (2) 企業分析の方法論
- (3) 企業分析の前提（分析資料について）
- (4) 財務諸表の計算構造
 - a) 貸借対照表、b) 損益計算書、c) 製造原価明細書、d) 財務諸表科目の説明
 - e) 付属明細表、f) 連結財務諸表
- (5) 企業分析の技術－趨勢分析
- (6) 企業分析の技術－比率分析
- (7) 損益分岐点分析と企業の収益構造
- (8) 生産性分析と労働状態
- (9) 企業集団分析－連結分析の問題点
- (10) 企業分析の評価・提言
- (11) ケース・スタディ

教科書

テキスト・参考書類は、新学期の最初の講義時に指示する。

なお授業の際に、必要に応じてプリントを配布し、テキストの不十分な点を補うようにする。

科目名	担当者名	配当学年	単位
経営戦略論	よし だ けん じ 吉 田 健 二	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、経営戦略についての様々な理論を学ぶとともに、企業が実際にとっての経営戦略を研究することによって、経営戦略とはどのようなものであり、また企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを解明していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 経営戦略の概念
- ② 経営戦略の策定プロセス
- ③ 経営理念と企業ドメイン
- ④ 外部環境分析
- ⑤ 自社能力分析
- ⑥ 競争戦略
- ⑦ 多角化戦略
- ⑧ 経営戦略の実行

履修上の留意点

当たり前のことであるが、かなりまじめに授業に出席しないと、単位が取れないようである。

成績評価の方法

夏休み前の中間試験と学年末の最終試験を総合して評価する。

教科書

教科書は開講時に指示する。

参考書等

参考書等は授業時にその都度指示する。

その他

講義を行います。ビデオも使用する予定です。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
消 費 経 済 論	小 谷 正 守 こ たに まさ もり こ 谷 正 守	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

いまなぜ「消費経済論」か、を問う講義である。成熟社会を迎えたわが国は、物的な生活手段としての商品は店舗にあふれ、欲望の対象としての商品は商店街、デパート、スーパー、専門店などに満ちあふれて山積みされ消費者の購入を待ち受けている。すべての欲望は、お金さえ出せば買える時代になっている。生産は完全に消費量を超過する遊休設備をかかえて、平成不況を耐えているのが現状である。また、あり余る消費は家庭ゴミを増やし、ゴミ焼却やゴミ埋立地に深刻な問題を抱えている。大量輸入される製品輸入、例えば食料品や紙製品などは輸入先の国では深刻な資源問題を抱えている。豊かさを求めて発展したわが国が経済がこのような成熟社会を迎えて、消費者は何をなすべきか、何をなさないか次の21世紀を乗り越えることができないかを問う講義内容にしたい。講義概略の主要項目は、以下の通りである。

講義の内容・
授業スケジュール

[前期講義内容]

1. 消費経済論の対象と方法（消費経済学とはどんな学問か）
2. 消費者の概念～欲望や欲求とはなにか
3. 人間の生活のいとなみ～個人と社会生活との関連して
4. 消費と消費者の概念～欲望、欲求と関連して
5. 資本主義と消費、消費者～資本制生産は売れるもの売りたいものを無限に作るシステム
6. 消費と消費者の経済理論～消費するということにどのような理屈があるか
7. まとめ

[後期講義内容]

1. 消費問題の発生と展開
2. 消費者運動の生成と発展
3. 消費保護行政（消費者政策）の対象と方法
4. 家計調査と消費者
5. 生産、流通、消費の関連性
6. 消費者問題と生活環境問題～資源リサイクル、ゴミ処理問題など地球環境保護へ
7. まとめ

参 考 書 等

小谷正守『現代消費経済の基礎理論』（ミネルヴァ書房）
小谷正守・出石康子編著『消費経済と生活行動』（ミネルヴァ書房）

科目名	担当者名	配当学年	単 位
民 法	お 織 だ てる こ 織 田 晃 子	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

民法典は、財産法領域を物権と債権に分け、それに家族法領域の親族と相続に関する規定を加え、それらの通則として最初に総則規定を置いている。本講義は「民法」であるからこれらすべてが対象となるが、一年間で講義するにはあまりにも膨大である。よって、まず日常の普通の取引、例えば、だれでも思い浮かべるであろう不動産の売買をとりあげ、売買の交渉から契約の成立、その履行にいたるまでの財産法上の問題点をとりあげ、次に売買契約が履行されなかった場合の法的処理、すなわち債務不履行による損害賠償や解除に進む。

講義の内容・授業スケジュール

1. 売買の交渉から契約の成立、その履行
 - ① 契約の成立
 - ② 契約の履行過程
 - ③ 契約の履行終了
 - ④ 登記の移転
 - ⑤ 債権譲渡
2. 契約不履行の場合の法的処理
 - ① 債務不履行
 - ② 契約の解除
 - ③ 他人物売買
 - ④ 瑕疵担保責任
 - ⑤ 債権者代位権
 - ⑥ 詐害行為取消権

履修上の留意点

六法は必ず持参すること。

成績評価の方法

期末試験の成績と出席日数により評価。

教 科 書

河野弘矩著『債権総論講義』（ぎょうせい） ¥3,500

参 考 書 等

『ポケット六法』（有斐閣）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 法	しま 島 はら 原 ひろ 宏 あき 明	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

実質的な商法の領域の中から主に会社法を対象として講義を進めて行く。商法は民法と共に私法と言われる領域を構成しており、民法の特別法という地位に立つ。したがって本来は商法を学習する以前に民法の基礎知識があることが望ましいが、実情を考慮して、個々の論点の中で民法あるいは法学の領域にまで遡って説明することで補って行くつもりである。

会社法という領域は、商法典の中の第二編会社を中心として、有限会社法、商法特例法等によって構成されている。また、商法上の会社には、商法典に規定されている合名会社、合資会社および株式会社と、有限会社法に規定されている有限会社の四つがある。本講ではこの中から、現代資本主義社会において最も典型的な企業形態であり、かつ最も複雑な法規則を受けている株式会社の制度を中心として解説していく。

講義の内容・
授業スケジュール

具体的には、①商法上の四つの会社の特徴、②株式会社の設立、③株式と株券、④株式会社の機関、⑤新株発行、⑥株式会社の計算、⑦社債、の順に講義を進めて行く。また、企業活動との係わりの薄い学生諸君にいくつかでも現実感を持ってもらうために適宜、コピーした判例を配布し、解説して行くつもりである。

成績評価の方法

期末試験による。

教 科 書

宮島 司『会社法概説』（弘文堂） ¥3,811

参 考 書 等

倉澤康一郎『商法の基礎〔三訂版〕』（税務経理協会） ¥2,900
なお、小型の物でよいが必ず六法全書を携行すること。

科目名	担当者名	配当学年	単位
経済法	おかた としひろ 岡田 外司博	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。そして、1年間で独占禁止法の全領域をカバーするものとなっている。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少くともプリントを受け取ることを勧める。また、教科書は薄いものなので、できれば4～5月中にざっと一通り読んでおいて頂きたい。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教科書

厚谷襄児『独占禁止法入門』（日本経済新聞社）

参考書等

教科書として指定しないが、多くの具体的事例を含むものとして、講義でしばしば引用することがあるので、『独禁法審決・判例百選（第五版）』（有斐閣）の購入が望ましい（ただし、必ずしも購入する必要はない）。その他の参考書については、初回の講義の時に簡単に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
労 働 法	ふじ もと しげる 藤 本 茂	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

今日、労働関係をめぐる領域は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌を遂げようとしています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本の雇用慣行といわれる高度経済成長期に確立されてきた社会経済構造に見直しがなされています。現在は、第三の激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域である以上、この変動に無関係ではありません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

労働組合を中心に扱う集団的労働関係法領域では、労働組合が労働者の利益を実現する組織として労働関係のなかに定着した今日にあって、労働条件決定に組合の及ぼす影響は、一見地味ではありますが、無視できません。

また、この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正、裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大、解雇制限といった分野で見られます。男女雇用機会均等法の見直しなども見られます。解釈においては、何が変わるのかまた、このような中であっても変わるべきではないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

講義の内容・授業スケジュール

(1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。

(2) 内容、スケジュールについては、第1回目の授業のときに、配布するプリントで述べます。ここでは、一応の項目を掲げるに止めます。

- ① 労働法の基礎的考え方
- ② 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- ③ 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- ④ 雇用における平等－同一労働同一賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
- ⑤ 労働条件を決定しているもの－就業規則、労働契約、労働協約
- ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備－不当労働行為
- ⑦ 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- ⑧ 人事異動－配転、出向、転籍
- ⑨ 雇用の出口－解雇、定年、退職
- ⑩ 賃金、諸手当、退職金
- ⑪ 労働時間、時間外労働
- ⑫ 休憩、休日、休暇
- ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

授業はなま物です。生きのいうちに深めるのが一番です。出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、平常点を加味することはありますが、学年末試験がメインです。

教科書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回目の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

その他

皆さんが各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を揚げながら、授業を進めることを心掛けます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
原 書 講 読 (英)	なか だ あき お 中 田 秋 男	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

レスター・C・サローとロバート・L・ハイブローナー共著『経済学』(Economics explained)を参考にして、授業では経済学の背景としての資本主義社会の形成と、三人の経済学者(スミス・マルクス・ケインズ)に焦点をあてて読んでいく。三巨匠の分析を通して、経済学とは何かを理解してもらいたい。

講義の内容・
授業スケジュール

経済学が何故18世紀中頃に、西ヨーロッパにおいて誕生してくるのか、その歴史的背景について概観する。すなわち、①資本主義社会の形成(資本主義社会の特色とは何か)、②市場社会の出現(市場システムとは何か)、③技術の解放(技術革新と生産性)、④産業革命(技術の変化から社会の変化へ)、⑤議会制度の台頭について(経済と政治の関係)。

さらに、三大経済学者として、スミス(Adam Smith, 1723-1790)、マルクス(Karl Marx, 1818-1883)、ケインズ(John Maynard Keynes, 1883-1946)の経済思想をわかり易くまとめている。例えば、スミスについては、①競争のメカニズム、②見えざる手について、③市場の自己調整システム、④スミスの哲学としてレッセ・フェールについて、⑤分業と経済成長、⑥資本と成長 etc. マルクスやケインズについても、それぞれ彼等の生きていた時代において、何を解決しなければならなかったのか、その時代の経済的な問題に対してどう立ち向かっていったのか等々、非常に読み易い英語で書かれているので、食わず嫌いの学生には是非一読を勧めます。

成績評価の方法

出席及び平常点を重視する。一年間、同じ時間と空間を共に過ごす以上は、おたがいの発展に結びつく創造的な授業空間を考えたい。

教 科 書

テキストはコピーして配布。

参 考 書 等

その都度紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
原 書 講 読 (英)	ひろ た ひで き 広 田 秀 樹	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

今、最も大切なことは若者の成長です！若者が新世紀を開く為に力をつけることです！21世紀の大舞台上で活躍する大切な若者の英語力を絶対に伸長させる為に全力で講義します！！

講義の内容・ 授業スケジュール

今まで英語ができなかった人も、絶対にこの授業で英語ができるようになります！！授業に参加しただけで英語力が上昇し、経済関連の専門知識が確実に身につくような授業形態を採用する。即ち、指定テキストの講読と同時に、絶対に英語力を飛躍させるパワーベース読解法を導入し、パワーベース読解法を用いてのペーパーワークに毎回取り組んでもらう中で、学生諸君の英語力を確実に伸長させる。パワーベース読解法をマスターすれば、原書を講読する速度もかなり増すと考える。

〈授業スケジュール〉

基本的にパワーベース読解法のトレーニングと経済関連の原書講読の2つを軸に授業を展開する。

講義の概要は以下の通りである。

1 パワーベースメソッド (Power Base Method)の紹介 (4月)

パワーベースメソッドは、私がカリフォルニア大学バークレー校に留学した際にマスターした最も効果的な英語力伸長法である。それは、英語のリーディング・リスニング・スピーキングに特に必要な、不定詞・分詞・関係詞の諸用法や重要構文等を“記号化”し、英語の構造、英語で表現される言葉の流れを一瞬にしてキャッチする方法である。パワーベースは、英語をマスターする為の最強の「24の公式」です。この「24の公式」をマスターすればそれは生涯の財産になります。「24の公式」だけで英語の力は飛躍的に伸びます！パワーベースメソッドは短時間でマスターできるので最初に紹介したい。

2 原書講読

経済関連の興味深い、又世界的にも有名となった次の原書を講読する。定期的な読解をする部分を印刷して配布する。

(1) “Economics” by Paul. A. Samuelson (1973, Ninth Edition, McGRAW-HILL BOOK COMPANY) (5・6月)

世界的に有名な伝統的な近代経済学のテキストであるこの本の、財政政策・金融政策関連のパートを読む中で、現代資本主義経済の主要経済政策のメカニズムを理解してもらう。

(2) “MITI and the Japanese Miracle” by Johnson, Chalmers (1982, Stanford University Press) (7・9月)

この著作も近年世界的に読まれてきた本で、日本の通商産業省 (Ministry of International Trade and Industry-MITI-) の産業政策と日本の経済発展について述べたものである。この著作の講読から、近年世界中に論争を引き起こしている MITI の産業政策について、また、日本経済の特殊性に関する知識を吸収してもらう。

(3) “The Decline of the British Economy” by Best, Michael H. and Jane Humphries (1986, Oxford University Press) (10・11・12月)

この本も世界に反響を読んだもので、何故かつての超経済大国イギリスが衰退してきたのかというテーマで、経済大国の長期的な衰退のメカニズムを分析している。この本の政策関連の部分を読み、いかに経済政策の方向性が一国の経済の長期的動向に影響を与えるのかということを理解してもらう。

成績評価の方法

前期・後期の筆記試験及びレポートによって総合的に評価する。

教科書

前述した原書の主要部分を印刷して配布する。

参考書等

サムエルソン『経済学』(上・下) (岩波書店)
ダニエル・沖本『通産省とハイテク産業』(サイマル出版会)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
原 書 講 読 (独)	はまもと ちずか 濱 本 知 寿 香	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

本授業では、ドイツ語の原書を読むことで語学能力を高めるとともに、生活経済に関心をもつことを目的としています。

講義の内容・授業スケジュール

われわれの日常生活に関わる税制、社会保障制度を扱った原書を読んでいます。また、日本の制度についてもふれていきます。

履修上の留意点

テキストを輪読する形式をとります。

成績評価の方法

発表点、受講態度、理解度などから総合的に評価します。

教 科 書

テキストはコピーして配布します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
原 書 講 読 (仏)	なか だ あき お 中 田 秋 男	二経1・2・3・4選	4

講義のねらい

フランスにおける中国学 (Sinologie) と日本学 (Japonologie) の展開過程の検討を媒介に、フランス人の東洋認識を考察する。この事は裏返せば、日本人の西欧認識と非常に似通った構造にあるのではないだろうか。そこから多少なりとも、物の見方、考え方が発見できれば講義の目的は半分達成された事になる。残りの半分は、フランス語の問題である。しかし、心配御無用!! やる気があればなんとかなります!!

講義の内容・
授業スケジュール

前期……古代、中世を通じて昔から中国はヨーロッパを魅了してきている。マルコ・ポーロ以前において中国は主に絹の産地として、その物産あるいは工芸品によって知られていた。しかし、16世紀になると、中国は技術面でヨーロッパを凌ぐ「強大な王国」と考えられるようになってくる。そして17世紀になると、イエズス会の宣教師によって、中国学の基礎が置かれるようになってきた。すなわち、中国に渡来した宣教師達は、続々と本国の方へ中国に関する知識や情報を送りつづけ、これ等は、やがて知識階級の注目を集めるようになる。18世紀のフランスでは、啓蒙思想が鼓吹され、絶対王制に対する強い批判が生まれつつあった。ヴォルテールやケネーは、中国の政治をモデルにして、自国の批判を行い中国を賛美していた。他方モンテスキューやマブリーは、中国の政治は自国のそれと同一であると、専制政治それ自体を批判し、中国に対しても批判的であった。この論争はやがてモンテスキュー等の勝利となり、中国は停滞した劣った社会であるという認識が、19世紀以後ヨーロッパに浸透していく事になる。前期の授業では、特に、中国思想が重農学派に与えた影響について書かれた論文を読んでいく。

後期……フランスでは第2次世界大戦以前は中国研究が盛んであったが、戦後になると徐々にその関心が日本へと移ってくる。特に1970年代半ばになると、これまでの日本の古典研究 (小沢正夫訳・編『フランスの日本古典研究』参照) とは別に、現代日本を分析対象とするような研究機関 (Centre de Recherches sur le Japon Contemporain、現代日本研究センター) も創設されるようになってくる。私自身この研究センターで3年半程仕事をした経験があり、その際に、何故、どのようにして日本に興味をもったのか多くのフランス人研究者と話した事がある。果して彼らの日本についてのイメージとは、どのようなものなのだろうか? 種々な文野で、異なった日本認識が存在するが、それは丁度、我々が抱いていたフランスへのイメージと非常に良く似ている。

尚、フランスでは、ここ数年、日本関係の記事が新聞や雑誌に掲載され、出版物も増えてきている。後期の授業では最近のパリからの情報をもとにして、特に経済関係の短いものをたくさん読んでいく事にする。もちろん、学生諸君の方で要望があれば、いつでも一緒に検討していく用意はあるので、そのつもりで恐れずに、参加されることを大望する。

成績評価の方法

出席及び平常点を重視します。一年間、同じ時間と空間を共に過ごす以上は、お互いの発展に結びつく創造的な授業空間を考えたい。

教 科 書

テキストはコピーして配布します。

参 考 書 等

講義の中で紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現代経済事情 I (前期) 〔消費税問題〕	くま ぎわ みち お 熊 沢 通 夫	二経1・2・3・4選	2

講義のねらい

わが国の消費税は、国税、地方税のいずれでも基幹税となったが、政治的に安定し、社会的に定着したとはいえない。その原因を明らかにし、これからの税制改革のなかでの位置づけをおこなう。具体的には以下の三点である。

- ① 消費税を創設した理由、成立したときの政治経済情勢との係わり、「益税」をつくるような構造の特徴および実務上の問題点を、国際比較をしながら、明らかにする。
- ② 上記①と関連した範囲で基本的な租税論を紹介する。
- ③ 消費税の創設時およびその後におけるさまざまな税制改革運動を紹介しながら、負担の水準と仕方を選択し、負担と使途とを一体としてとらえる「市民意識」の形成過程と、市民的税制改革運動の課題を示す。

講義の内容・授業スケジュール

- ① なぜ消費税という名称になったのか～EUでは付加価値税、中国では増値税～
- ② 「高齢化社会に備える」税制とはどういう内容なのか～世代間負担の「公平」～
- ③ 「消費税」の基本的な特徴と国際比較～逆進的負担と福祉国家～
- ④ 日本型消費税の特徴と矛盾～「益税」の発生と滞納の激増～
- ⑤ なぜ日本型となったのか～政治的理由と「解決」の仕方～
- ⑥ 消費税税率5%の意味と影響～新保守主義的税制改革宣言～
- ⑦ 地方消費税について～地方分権・住民自治と税のあり方～
- ⑧ 納税者からタックスペイヤーへ～21世紀への税制改革の課題～

履修上の留意点

講義はできるだけ今日の課題を取り上げるので、新聞の税制、財政の記事を読んでほしい。

成績評価の方法

複数のテーマを出題するのでその中から任意の一つを選択してレポートの提出を求める。

参 考 書 等

専門書は講義の中で必要に応じて紹介するので入手しやすい本に限っているが、①の2冊は読んでほしい。なお消費税問題は著者により見解が異なっているからその理由に注意する。

- ① 基礎的な文献。財政学の立場から宮島洋『税の仕組み』（岩波ジュニア新書。岩波書店）憲法論から北野弘久『納税者の権利』（岩波新書。岩波書店）。② 消費税の論争を知るためには石弘光『税金の論理』（講談社現代新書。講談社）、北野弘久『消費税はエスカレートする』『5%消費税のここが問題だ』（いずれも岩波ブックレット。岩波書店）。③ 実務書としては『やさしい消費税』（大蔵財務協会）。④ 消費税の政治過程を概観するには石川真澄『戦後政治史』（岩波新書。岩波書店）。⑤ 消費税を突っ込んで理解するには佐藤進『日本の税金』（東京大学出版）の第四章『一般消費税導入の諸問題』、エグレ『付加価値税』（文庫クセジュ 白水社）。

科目名	担当者名	配当学年	単位
現代経済事情Ⅱ（後期） 〔インターネットと経済〕	まる お 尾 あきら 聡	二経1・2・3・4選	2

講義のねらい

■以下の目的意識を持つ人向けに講義は設計されている。

- (1) インターネットと経済との「関係性」を勉強したい人
- (2) 今までの講義にない「参加型学習の場」を体験したい人
- (3) 卒業後の進路決定に必要な「社内の現場情報」が入手したい人
- (4) ビジネスマンとして通用する「企画力」を修得したい人
- (5) 将来、自ら起業家として役立つ「思考力」を鍛錬したい人

この原稿を書いている最中に、都銀や大手証券が相次いで倒産した。「金融ビックバン」は、まだこれからだというのに…。一方、欧米では、この「ビックバン革命」を既に20年前に経験しており、現在は、第2の「ビックバン」ともいえる「エレクトロニック・コマース（決済・取引の電子化）革命」による熾烈な競争を繰り広げている。日本は、いわば、この2つの革命を同時に成功しなくしては、不景気はおろか経済システムの破綻は逃れられない状況に直面している（という予想が、4カ月後に少しでも外れていることを願うが）。

さて、そういう時代に学生諸君は、何を考え、どう行動すべきか。「卒業単位」を気にしながら、「大企業への就職」を目指すことは、かつては最適解であったかもしれない。しかし、これからは企業規模の大小に関係なく、「経験」「ノウハウ」「情熱」といった「履歴書には表現できない履歴」が問われてくる。安定度を求めた「就社」志向は、間違いなく企業から嫌われる。

以上の背景を踏まえ、第2のビックバンのインフラとなっている「インターネット」と、今後の日本「経済」との関係性を解き明かしていく。また、シンクタンクという講師の立場を最大限に活用して、「社会の現場」をできるだけ臨場感をもって伝えることにする。

なお、講義形式は「参加型」を志向し、講義内容は「ビジネスや起業に生かせるノウハウの提供」を意識している。よって、「短期的な単位取得」から「卒業後の進路ガイダンス」もしくは「将来的なノウハウ取得」を目指した講義となる。

講義の内容・授業スケジュール

■本講義専用ホームページにて、別途通知するので閲覧してほしい。

インターネットを取り巻く環境が激変しているのに加え、経済環境（特に日本の金融情勢）が大きな変革期に差し掛かっているため、（1年前の現時点で）授業のテーマを決定することは避けたい。

しかし、講義要領としての検討材料無くして、履修の意思決定が困難となるであろう。そこで、別途、本講義専用のホームページを開設するので、閲覧してほしい。なお、ホームページのアドレスは、下記の通り。

<http://www.komazawa.com/internet>

概要（履修登録時バージョン）については4月1日から、詳細（受講検討時バージョン）については8月20日から、それぞれ開設するので、必ず確認の上、履修登録ならびに受講検討を行うこと。

履修上の留意点

- (1) 講義専用ホームページを閲覧しておくこと

前述のように、本講義専用のホームページを開設するため、履修登録時（4月1日～）ならびに開講1カ月前（8月20日～）に閲覧すること。また、開講後も、講義内容の修正、受講生同志の連絡、受講生のレポートの紹介（次項参照）、プレゼンテーションの進め方（次項参照）などを掲載するので、最低1回は閲覧すること。また、講義欠席者は、講義内容を把握する有力な情報源となるため、必ず閲覧すること。

- (2) 自分のプロフィールを開講前に提出すること

本講義の履修希望者は、開講前に電子メールアドレスを取得し、8月20日までに、下記の要項に従って電子メールを送信すること。これは、受講生同志の交流を活性化させるために行うもので、原則公開を前提としている。受信確認をもって「本講義受講者」と認定する。

- 1) 自己ビジュアル（趣味・性格・モットー・将来の夢等/図表写真はFAXにて送付されたい）
- 2) インターネット歴（年数・利用目的・興味の度合い・インターネットについて知っていること/個人ホームページがあればURLも記載されたい）
- 3) 受講テーマ等（受講の動機・期待等と、受講テーマ/下記(3)を参照されたい）

なお、各項目の分量は400字程度とする。送信先（講師の電子メールアドレス）は、〈その他〉の問い合わせ先を参照されたい。

- (3) 各自で受講テーマを設定すること

本講義は、受講者の自主性によってのみ成立する。特に、受講目的が明確化すればするほど、受講の効果は高まり、現実の生活や将来の設計に好影響を及ぼす。そこで、各自「興味ある」

テーマを開講前に設定されたい。テーマ名を「〇〇分野へのインターネットの導入（または普及）による影響（または効果）」など。このテーマは、最終的に「事業企画」または「社会提言」に仕上げ、プレゼンテーションしてもらおうテーマである。吟味検討の上、上記(2)の要領にて提出されたい。

成績評価の方法

- 試験・出欠ともに実施せず。レポートやプレゼンテーションを受講生同志で相互評価。
- (1) 試験・出席
試験は行わない。講義の出欠もとらない。受講を強く希望する者のみで講義を形成する。
- (2) 講義内アンケート
各講義中に必ず「アンケート」「クイズ」を実施する。これについては、何も「知識」は必要としない。ひたすら「思考」のみである。
- (3) 電子メールレポート
各講義後に電子メールによる「講義の感想レポート」を実施する。これも、「講義から掴み取った何か」をコンパクト（字数制約なし）にまとめればよい。講義欠席者は、講義専用ホームページから内容を把握して、提出すればよい。出欠に関係なく、提出されたレポートはすべて公開する。
- (4) プレゼンテーション
講義内容に即したテーマに関して、受講生による「事業企画」や「社会提言」などの「プレゼンテーション（発表）」を全3回（予定）実施する。この「作業の進め方」や「発表のノウハウ」については、講師が指導するので心配は無用である。ただし、この3回の講義だけは出席が必須となる。
- (5) 成績の評価
講義内アンケート・電子メールレポート・プレゼンテーションの3種のうち、得点の高い2種によって評価がなされる。なお、講義内アンケートは、性質上講師が評価せざるを得ないが、電子メールレポート・プレゼンテーションについては、受講生同志によって相互に評価をし、講師が成績評価に介入しないことを原則とする。

教科書

- 受講生の身の上で起こった出来事が、事実上の教科書となる。
「教科書」による学習は、特定の知識を体系的かつ効率的に修得できるが、代償として、個性的な思考方法や明文化されていない知恵の発見を阻害するリスクを伴う。本講義では、受講者の身の上で起こった出来事を、事実上の「テキスト（教材）」として、自発的に楽しみながら学ぶことを目指す。

その他

上述の内容に関して、不明・不安・不審な点の残る学生は、遠慮無く問い合わせきて欲しい。連絡先は下記の通り。

電子メールアドレス maruo@ird.jri.co.jp

またはファックス 03 (5984) 4855

講義への要望も含めて、積極的に対応する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現代経済事情Ⅲ（後期） 〔金融ビッグバン〕	かい とう みの 皆 藤 実	二経1・2・3・4選	2

講義のねらい

当面するわが国金融の諸問題について、正しい事実の把握と、その底辺に流れる基本的考え方について理解を深める。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 金融ビッグバンとは何か
- ② 歴史的な低金利の功罪
- ③ 金融政策と財政政策の調和
- ④ デリバティブとは何か
等々

履修上の留意点

毎日、新聞の金融関係記事を1か所読むこと。

成績評価の方法

試験（〇×ではなく、小論文的）

教 科 書

特に指定せず。資料プリントを配布。

参 考 書 等

後日指定

そ の 他

講義。場合によってはビデオ等を利用。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現代経済事情Ⅳ（前期） 〔規制緩和〕	た ぐち ひろ ゆき 田 口 博 之 川 崎 研 一	二経1・2・3・4選	2

講義のねらい

日本経済が現在直面している経済構造問題、とくに規制緩和をめぐる諸課題について実践的な視点から解説を行うことを通じて、現実の経済問題に対して関心を高め、分析・評価する能力を養う。また、現実の経済問題に対していかなる経済学のアプローチが可能かについても言及することにより、実践的側面からマクロ経済学及びミクロ経済学に対する理解を一層深めることにも資する。

講義の内容・
授業スケジュール

規制緩和について、その背景、目的、具体的内容、効果、今後の展望など多面的な側面から解説を行う。例えば、規制緩和の背景にある内外価格差の実態、規制緩和の対象とされている規制分野（経済的規制と社会的規制の区別など）、消費者の視点からみた規制緩和の効果、規制緩和の経済成長などマクロ経済に与える影響、規制緩和の諸外国の事例、規制緩和の具体的事例（市場開放、金融ビッグバン、労働市場の流動化など）などについて適宜取り上げることとする。

履修上の留意点

規制緩和に関わる新聞記事、各種報告書に関心をもつこと。

成績評価の方法

未定。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

川崎研一『お早めに召しあがれー市場開放奮戦日記ー』（読売新聞社）。その他講義のなかで、必要に応じて紹介することとする。

そ の 他

講義中心に行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現代産業事情 I (前期)	ふくはらよし のぶ 福 原 好 喜	二経1・2・3・4選	2

講義の内容・
授業スケジュール

町おこしの現場報告-第3セクターによる町の活性化-

田園既に蕪(あ)れたり

東晋の詩人、陶淵明は「婦去來の辞」で詠ずる。

「婦りなんいざ、田園將に蕪れんとす。胡ぞ婦らざる」

彼が現代日本の農村を目のあたりにしたら何と詠むだろうか？

「田園既に蕪れたり。何処にぞ婦るべき」

とでも。

4分の1世紀もの長きにわたって続けられた減反政策によって、わが国の農地も農村も、そして農の心も荒れてしまった。1960年、600万戸を超えていた農家戸数は、現在380万戸へ、1,450万人いた農業就業人口は3分の1の480万人へ激減している。しかも農業就業者人口の30%は、65歳以上の高齢者によって占められている。

現在わが国の農村で起こっている現象は、日本の歴史上類例を見ない未曾有の事態である。百姓一揆の多発した天明の飢饉の時でも、いくらかの逃散を除けば、農家戸数、農業人口が著しく減ずるということはなかった。しかし憲法によって、職業選択の自由と移住の自由が保証されている現代では、生活に困ってまで農村に留まろうという人はいない。江戸時代の百姓一揆と現代の過疎化とは、全く違った現象ながら、本質は同じ物である。木材輸入の完全自由化と、それによって引き起こされた原木価格の長期低迷は、日本の林業を壊滅の淵に追いやった。牛肉の段階的自由化と牛肉価格の暴落は、今回運命を酪農家と畜産農家の上にもたらしている。これから進む米の段階的自由化は、米作農家に同じ道を歩ませるだろう。

自給率は僅か37%

農水省によると、先進国の食料自給率(カロリーベース)は、オーストラリア251%、フランス143%、カナダ142%、アメリカ113%、旧西ドイツ94%、イギリス73%であるのに、わが国はわずか37%(1994年度)にすぎない。97%がアルプスによって占められているスイスでさえ、65%で日本を大幅に上回っている。日本農業は今既に、国民への安定的食料供給という本来の機能を十全な形で果たしえなくなっている。

農水省は、平成4年6月、30年続いた農業基本法に代わるものとして、新農業政策(新しい食料・農業・農村政策の方向)を立案、策定して、21世紀に向けての農業と農村のあり方を示した。その基本は、経営規模10-20ヘクタールの5万戸を中心とする稲作単一経営20万戸、経営規模5-10ヘクタールの10万戸を中心とする稲作プラス集約作物等の複合経営15-20万戸を中核農家とし、米生産の5割を担わせようというものである。

しかし同じ農水省の「農業実態調査」によると、平成元年農家戸数378万9千戸のうち、中学校以上の学校を卒業し、農家を継いだ者は2,100人、平成2年で1,800人(男子1,700人、女子100人)である。若年就農者の数は年々減少しているが、仮に就農者数が平成2年と同じ、1,800人であったとすると、20年で農家の世代交替が起こるとして、20年後の平成28年には、わずか3万6千戸の農家が後継者を持つにすぎない。仮に3万6千戸がすべて稲作農家だったとしても(実際はこのほとんどが園芸農家で、稲作農家はその数分の1もないと思われるが)、1億2千4百万人の食料生産を担うことは到底不可能である。あと10年もすれば、日本は諸外国に頭を下げて米、その他の食料を売ってもらわなければならない時代が来る。現在のの中核農家が62万戸であることから計算して、3万6千戸の中核農家の下で供給出来る食料の量は平成2年の20分の1、食料自給率は数%に落ちると予測される。

この講座は総論で、日本農業の置かれている現状を、図表や統計を使ってつぶさに、具体的に講義する。しかし全国的農村衰退の中で、町独自で町おこしに成功している例も幾つか存在する。その中で開業4年にして既に売上げ7億の成績を上げている、富浦町の第3セクター「枇杷くらぶ」を取り上げる。同社は所長のユニークな発想で会社を急成長させ、昨年は県暖地試験場よりイチゴ栽培の専門家技士を、今年は枇杷研究の日本での第一人者をスカウトし、生産基盤を確立した上で、更なる業務展開を図ろうとしている。今回は加藤所長、篠原主幹らにおいて頂き、富浦町、町おこし最前線の現場報告をしてもらう。恐らく授業は単に話しをしてもらうというよりは、可能なら新開発の枇杷シャーベットや枇杷ゼリーを試食してもらったり、新種の特大イチゴや高級メロンを賞味してもらったりして、町おこしの現場を耳と目と舌で理解してもらおうとも考えている。時間が許せば、実際に枇杷くらぶに行って農業を体験し、町おこしのノウハウを現場で体感してもらっても良い。

履修上の留意点

所長以下お忙しい中、泊まりがけて講義に来てもらうので、欠席の多い人、居眠りをする人、唯単位だけに関心のある人はお断わり。

そ の 他

授業は可能な限り具体的に、面白いものになりたいと思っている。将来農村振興に本当に役立ちたいと思っている人がいたら是非受講してほしい。農家の子弟で実際に農業の修業をしたいという意志のある学生には、私と所長の面接の上、同くらぶで専門の指導も与えることが出来る。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
現代産業事情Ⅱ（後期）	そ 曾 が 我 の ぶ たか 信 孝	二経1・2・3・4選	2

講義のねらい

次の3つの産業の現代事情について講義する。

1. 写真にかかわる事業の動向と消費者の実態を次の内容で講義する。
 - ① カメラメーカーのマーケティング政策と消費者の動向について。
 - ② フィルムメーカーの販売政策と消費動向について。
 - ③ 現像事業の内容と競争構造について。
2. 生活協同組合の商品供給事業について次の内容で講義する。
 - ① 生協の商品供給事業の今日的課題について。
 - ② 生協の製品開発とその方法について。
 - ③ 共同購入方式の今日的課題。
 - ④ 商品供給形態の多様化と問題点。
3. レジャー産業をゴルフ業界に限定して講義する。
 - ① ゴルフ人口の今日の実態（特にバブル期との比較から）。
 - ② ゴルフ場の集客戦略。
 - ③ ゴルフ用品メーカーのマーケティング戦略。
 - ④ ゴルフ練習場の経営戦略。

講義の内容・
授業スケジュール

1. それぞれの分野の講義は、できるだけ現状を踏まえた講義になるよう、それぞれの事業に携わる方をお願いする。
2. 毎時間、外部からお願いした講師に60分程度講義してもらい、残り30分で私からの質問とコメントを加えるという方法ですすめる。

成績評価の方法

それぞれ3つの分野に関するレポートから評価する。

参 考 書

基本的には、教科書を使用しない。参考書は講義中に指示する。

第一部公開專門選択科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
統 計 原 論	よしの 吉野 紀	二経3・4選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

現代の統計学の基本は推測統計学にあるという認識に立って講義を進めてゆく。それでは、推測統計学の基本とは何であろうか。サミュエル・バトラーは「人生とは、不十分な証拠から十分な結論を引き出す芸術である」と言っているが、この文言の「人生」を「統計学」に置き換えるならば、相当の部分を言い当てていることになる。「相当の」であって「完全に」ではない理由は、元来、人生には偶然性や不確実性がつきものであるとして、偶然が支配しているとは思えないデータから何がしかの決定や判断を下すためには、すべての経験に裏打ちされた人間性・人格を総動員して粗なデータをインテリジェンス（情報）へと昇華させなければならず、その過程こそ人生そのものであるからである。

統計学の扱う世界は不確実性が支配する世界であり、人間はこの偶然性に長い間悩まされてきた。「偶然とは、おそらく、神が自分の名をサインしなかったときの、神の仮名であろう」（アナートル・フランス）。端的に言えば、統計学の住む世界では、どのような結論が下されようとも、そこには確実に誤りが何パーセントかの確率で含まれるのである。この世界の住人たることに何がしかの面白味を感得してもらえればと期待する。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 記述統計 —— 標本データの整理 ——
度数分布表
統計値（平均値、中央値、最頻値）
散らばりを表す統計値（分散、標準偏差）
2. 確率変数と確率分布
2項分布
ポアソン分布
正規分布
3. 標本抽出と標本分布
ランダム・サンプリング
中心極限定理
t分布
4. 統計的推定
推定とは何か
平均値の区間推定
5. 仮説検定
検定とは何か
平均値の検定
6. 回帰分析 I
単純回帰モデル
最小2乗法
回帰と相関
7. 回帰分析 II
回帰における統計的推測
多変量回帰（重回帰）
8. 経済成長の見方
弾力性の話
eの話

成績評価の方法

第2講では、2項分布や正規分布の分布の様子を見るために、パソコンでプリント・アウトさせた資料を配布して、具体的なイメージをもってもらえるよう努めたい。
数学上の知識は特に必要としない。

教 科 書

『現代統計解析』（芦書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
価 格 理 論	あら き よし ひろ 荒 木 勝 啓	二 經 3・4 選 (H7 以前入学生)	4

講義のねらい

授業のあらまし：価格理論の目的は、経済の中でマイクロ主体が互いに競争と最適化を行うことにより、市場および経済一般がどのような方向に向かうかを研究することでもある。もし競争が理想的に行われ、情報や資源移動の完全性が保証されるならば、市場はパレート最適と呼ばれるある種の理想状態に達し、価格は自然に社会的厚生を最大化する水準に定められる。しかし例えば市場参加者が2という少数者で行われるならば、たとえ同様の競争自体が行われても、結果はクールノ・ナッシュ均衡とよばれるような、完全競争とは異なった市場均衡に到達するであろう。またその競争のありようによっては同じ2という参加者の競争から、シュタッケルベルク均衡と呼ばれるさらに異なった均衡状態が作り出されることになる。その点はもはやパレート最適からはほど遠い点である。

このように、価格理論は、一般に「物価水準」と呼ばれているような現実のデータとしての価格というよりも、経済の市場の枠組みやマイクロ主体の行動様式に関する様々な想定から導出されるas if パフォーマンスとしての価格決定を調べる科目である。従ってその分析のためにはどこまでも「最適化」手法がつかまとう。しかも経済学の場合最適化はほとんどの場合「制約付き最適化」である。

制約のないところに経済は成立しない。近代経済学を生み出した限界革命の旗手であるカール・メンガーは次のように述べる。村にわき出る泉があり、その水をだれでもが飲めるならば、その水をめぐる「経済」現象は生じないのであろう。しかし、旅人が増えて村人が水を自由に飲めなくなったときから泉の水に経済現象が生じ始める。

以上のように価格理論では内容の理解がほぼ制約付き最適化手法の理解如何にかかっているといてもよい。従って講義のかなりの部分がそのために準備と練習にあてられると期待したい。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1) 価格理論で学ぶこと
- (2) 多変数関数と曲面
- (3) 微分、偏微分、全微分
- (4) 対数関数の微分と成長理論
- (5) 生産関数、コブ・ダグラス生産関数
- (6) ベクトルの直交と勾配ベクトル
- (7) 制約付き最適化問題のグラフィカルな理解
- (8) ラグランジュ乗数法
- (9) 加重限界効用均等の法則
- (10) 練習問題
- (11) 代替効果と所得効果の計算
- (12) 需要曲線と需要の価格弾力性
- (13) パレート最適、ボックスダイアグラム
- (14) MR曲線
- (15) 独占均衡
- (16) 消費者余剰と生産者余剰、独占均衡の死重的損失
- (17) 消費曲線と供給曲線
- (18) 生産関数から短期費用関数の導出
- (19) 生産関数から長期費用関数の導出
- (20) クールノ・ナッシュ均衡
- (21) クールノ・ナッシュ均衡解の練習問題
- (22) 等利潤曲線
- (23) シュタッケルベルク均衡解
- (24) シュタッケルベルク均衡解の練習問題
- (25) 共謀解

成績評価の方法

試験はノート・教科書・参考書持ち込み可。

教 科 書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』(成蹊堂)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 地 理	こう さか なが お夫 上 坂 修 夫	二 経 3 ・ 4 選 (H7 以前入学生)	4

講義のねらい

この講義の主目標は、居住の地域的偏在をもたらす各地域の経済活動偏在の要因と、それに伴う地域的問題について考える点にある。これらの原因や影響はきわめて多面的に捉える必要があるため、次のような点に特に留意して講義を行う。

- (1) 各地域の経済活動が、自然的特性、歴史的・社会的特性と、どのように関わっているか。
- (2) 各地域間の経済活動は、どのような相互関係をもっているか。
- (3) 以上の「地域特性」と「地域間の相互関連」との上に展開されている経済活動が、どのような要因によって変化していくか。

講義の内容・ 授業スケジュール

- (1) 4～5月（6回）
テーマ「自然条件・社会経済的条件と経済活動との関係」地域がもつ「人口を支える力」ということの意味、それに関するさまざまな条件の関わり方、その複雑さをどのように整理すべきかを考える。
- (2) 6～7月（7回）
テーマ「第一次産業の地域的類型とその変化」農業生産を主とする第一次産業が、都市的産業との対比にみられる生産性の不利の中でどう変化してきたか。各地域の経営形態とその背景による類型区分を行い、国際貿易、輸送手段の変化等による立地の変動や、農林業地域に対する都市的産業の接触・進出について考える。
- (3) 9～10月（6回）
テーマ「第二次産業の集積にみられる地域的類型とその変化」第二次産業にみられる集積状況の類型区分を行い、その立地の要因について考える。また地域間の経済的関係の変化によって製造業がどう変化するか、特に空洞化に関してその現状と影響について考える。
- (4) 11～1（6回）
テーマ「人口移動と、それがもたらす諸問題への対応」近・現代の村落部から都市域への人口移動、さらに諸国家間の国際的人口移動が、地域的経済政策により加速され、或いは抑制されてきた状況について述べ、このような人口移動がもたらす社会的諸問題と、それに対する対応についても考えていく。

履修上の留意点

この授業の目的を達成するためには、まず具体的事例によって現状を把握し、それについて種々検討することが必要である。そのため、内外のさまざまな地域をとりあげて考えるが、これらの事例は経済地理的な見方や考え方を身につけるための素材として扱うものであって、個々の現象を丸暗記するようなことで終わってしまうのでは、無意味な勉強法でしかない。そのために大切なことは、当たり前なことなのだが授業に出席して「いま、何を明らかにするためにこの授業が行われているのか」に注意しながら聴くことであるといえる。

成績評価の方法

基本的に学年末試験による。ただし、これにレポートの点を加味する。学年末試験に関しては、単に学習した事項を覚えるのではなく、それをもとに、出題された問について十分考えて記述する力をもつことを期待している。

教 科 書

特定の教科書を通年使用する方法はとらない。

参 考 書 等

授業中に適宜指示する予定であるが、差し当たり次の文献を読むことを薦める。
江波戸昭『地域構造の史的分析』（大明堂） ¥3,800

そ の 他

必要に応じて資料のプリントを配布する予定である。また、年数回のレポートを課すことも予定している。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
農 業 政 策	こ ^こ みや ^{みや} しょう ^{しょう} へい ^{へい} 小 宮 昌 平	二経 3・4 選 (H7以前入学生)	4

開講時に指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
銀 行 論	さいとう ただし 齊 藤 正	二経3・4選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

近年、経済の様々な分野で「規制緩和」、すなわち自由化が喧伝され、金融業においても橋本内閣の「6大改革」の重要な柱として金融ビッグバン構想が構築されている。官僚的規制には様々な問題が指摘できるが、モラルを欠いた「自由化」がそのまま認められることにはならない。とりわけ銀行は「預金通貨の供給」を通じて経済社会の決済システムを担っており、その安定性（信用秩序の維持）なしには経済社会の安定も達成されないという意味で、他の産業と異なる独自の「社会的責任」が存在する。相次ぐ経営破綻の増加、数々の金融スキャンダル、巨額の不良債権など信用秩序の動揺は、「野放しの自由化」が銀行を収益至上主義に陥らせ、その結果経済社会に対しても多大な否定的な影響を及ぼすことの例証である。また、「堅実で、比較的高賃金」というイメージで、就職先としての人気も高いとされる銀行の職場は現在、自由化の下での競争激化に伴う「経営合理化」によって、サービス残業、苛酷なノルマなど、「長時間・過密労働」がさらに強められるとともに、出向・転籍が常態化し、健康と将来への不安を抱く行員が増えている。

このように銀行を取り巻く状況は内外ともに問題が多いと言わざるをえないが、しかし、銀行は依然として「貨幣の供給」及び決済システムを担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の役割を果たしているがゆえに、今こそ銀行の健全なあり方が強く望まれるのである。

本講義では銀行の基礎理論を踏まえたうえで、戦後の日本経済の展開に果たした銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき姿を考えてみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

1) 前期は銀行の基礎理論を中心に講義する。

- ① ここでは古代からすでに存在した「金貸し業者」や「高利貸」と「銀行」との違いがどこにあるのかを検討しながら、「銀行」の基本的機能及び経済社会（メーカー、商社、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
- ② 銀行が、一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。だが、銀行は受け入れた預金をそのまま現金で貸し出すわけではなく、受け入れた預金を基礎として、貸し出す際に「信用貨幣」（預金通貨）を創造する。現代社会では、エレクトロニクス技術の進展に伴い、ファームバンキングやホームバンキング、さらに電子マネーといった「キャッシュレス社会」現象がみられるが、それは銀行を頂点とした信用（債権債務）関係の高度な発展であると同時に、返済の確実性を前提に成り立っていることが忘れてはならない。

2) 後期は戦後日本の経済に果たした銀行の役割を、時期毎に検証し、将来の銀行制度の望ましいあり方について検討する。

- ① まず、専門的金融機関制度あるいは分業主義といわれる戦後日本の金融制度の特殊性とそれぞれの専門機関（普通銀行、中小企業金融専門機関、証券会社、保険会社など）の果たした役割の理解を目指す。
- ② 時期区分は、おおまかに高度成長期、スタグフレーション期、自由化以後、とし、欧米の動向も参照しながら、それぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されたのかを併せて紹介する。
- ③ とりわけ、現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが、80年代後半の「バブル経済」と90年代以後の「バブル崩壊」である。戦後銀行制度の構造的転換という視角からこの時期の諸問題を検証する。
- ④ 以上を通じて現在日本の銀行が抱える問題を理論的にも制度的にも的確にとらえ、金融ビッグバン構想について検討を加えながら望ましい銀行制度のあり方についての理解を深めたい。

成績評価の方法

成績は、基本的には前期試験（レポートに変更の場合もありうる）と後期試験によって理解度を評価するが、出席状況、授業態度における積極性も十分加味する。また、履修にあたっては、「独自の銀行観」の習得を目指すことを望む。

教 科 書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。また、毎回レジメを配布し、それに沿って講義する。

参 考 書 等

- 谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』、熊野・龍編『現代日本の金融』（いずれも大月書店）1992年
- 日本銀行『新版 わが国の金融制度』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
人 口 論	もり おか じん 森 岡 仁	二経3・4選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

人口に係わる学問分野は数多く存在するが、とくに経済学との関係から接近しようとするところにこの授業の特徴がある。経済と人口との関係はどちらかが一方的に他に働きかけるというのではなく、互いに作用しあう相互依存の関係にある。1970年代に成立しその後大きな発展を遂げつつある経済人口学は、この点に注目する人口学の一分野であるが、本講義も経済人口学の立場に立って、経済と人口の相互依存の関係を理論的、実証的に追求するものである。そこにおいては、日本を含む世界全体の人口について、過去から現在、そして可能なかぎり将来に及ぶ人口現象にまで論及してみたい。ことに、先進工業諸国に現在共通してみられる低出生力と年齢構造の高齢化の問題は、わが国においても経済との関係から早急に解決を迫られている関心事であり、将来益々その重要度を高めていくことは周知の事実である。

一方発展途上国諸国に生じている急激な人口増加の問題は、貧困からの脱却のためには緊急に解決しなければならない困難な課題になっていることも周知のとおりである。このようにみえると、今や人口問題は地球規模で考え、そして解決していかなければならないことが理解されよう。しかしながら、人口を取り巻く関連分野が広範囲に及ぶことから、はたしてどこまでが人口の問題であり、どこまでが他の分野の問題であるのかを的確に見極めることが重要になってくる。真の人口問題が不明確だとすれば、それに対応する政策も不適切なものにならざるをえない。的確な事実判断の下に適切な政策を施すには、しっかりとした理論的知識を備えていなければならない。ここでは、経済人口学の成立と発展の過程を辿ることによって、人口理論の基礎的知識を養ってみたい。

何はともあれ、この授業では人口という眼鏡を通じて経済をじっくりと眺めることによって、一人でも多くの学生諸君が人口に関心を抱くようになってほしいと考えている。なぜなら人口問題とは、国民一人一人の問題だからである。

講義の内容・
授業スケジュール

- I. 経済人口学の生成と発展
- II. 日本の人口と経済発展
- III. 人口高齢化の経済的諸問題
- IV. 人口政策

履修上の留意点

履修に当たった条件というものはとくに無いが、近年大きな関心事になっている人口の“高齢化”や“少子化”に関する知識を、どのような手段をつうじてでも良いから得ておくことが望ましい。

成績評価の方法

学年末の定期試験、出席状況。

教 科 書

大淵 寛・森岡 仁『経済人口学』（新評論）1981年

参 考 書 等

大淵・水野・森岡・吉田訳『マルサス人口の原理』（中央大学出版部）1985年
大淵寛・黒田俊夫編『現代人口問題』（大明堂）1990年
国際人口学会編（日本人口学会訳）『人口学用語辞典』（厚生統計協会）1994年

そ の 他

授業の方法：講義

夏期集中授業専門選択科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
マ ー ケ テ ィ ン グ	そ 曾 が 我 の ぶ 信 た か 孝	二 経 2・3・4 選 (H7以前入学生)	4

講義の内容・
授業スケジュール

- 前期はマーケティングの基本的な政策である4つの政策を現状をふまえながら講義する。その概要は次のとおりである。
 - 製品政策……マーケティングで展開される製品にかかわる政策の内容を説明し、それらが需要創造にどのように作用しているかも同時に説明していく。その内容は、①製品の差別化、②市場の細分化と製品の細分化、③製品のライフサイクルの短縮化と陳腐化政策の関係などである。
 - 価格政策……現代の価格は需要と供給で決定されているとはいえない。また、小売価格は生産原価と必ずしも因果関係があるとはいえなくなっている。一般的には購買環境を前提にして価格は設定されているといっても過言ではない。そのような価格設定がマーケティングの政策のひとつである。そこで、①価格設定の方法、②差別価格と消費者との関係、③価格による消費者支配などを説明する。
 - チャネル政策……自己製品の流通経路の政策について説明する。企業にとって、自己の製品の特性にあわせて、もっとも合理的な流通経路を選択しようとしている。それにはたんに流通コストの問題だけではなく、販売チャンスや需要創造の問題にもかかわるからである。そこで①商業の排除と系列化、②流通支配の形態、③新業態への対応などを説明する。
 - 促進政策……上記の3つの政策も販売促進政策の効果があるが、それらに含まれない販売促進政策について説明する。その内容は①販売員管理、②広告の方法と実態についてである。
- 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングについて説明する。とりわけ、日本企業が国際マーケティングを展開するようになった背景を説明し、日本企業の多国籍化の過程について説明する。その内容は次のとおりである。
 - 国際経済環境の変化と日本企業の対応……NAFTA、EUなどブロック経済化に日本企業が現地法人で対応してきた過程を説明する。その内容は①アメリカでの現地化の過程、②EUへの現地化の方法と過程、③日本企業の現地化と総合商社の役割などである。
 - 国内市場の変化と国際化……とりわけ価格志向品の現地生産とその製品の輸入について説明する。その内容は、①日本の規制緩和と製品輸入、②途上国・共産国での現地生産と輸入、③中小企業の現地化と総合会社との関係などである。
 - 日本企業の多国籍化と財務……日本の多くの企業が多国籍化を展開したのは、外的要因によるところが大きい。しかもそれは急速に展開しなければならない状態であった。それを実現できた日本の企業は、膨大な資金調達が可能であったからである。その内容を①資金調達の多様化、②エクイティ・ファイナンスと金利などの面から説明する。
 - 総合会社と国際マーケティング……日本の多国籍企業の典型である総合会社のマーケティングの展開について説明する。これまで総合会社は素材を中心とした貿易業務を主体としてきたが、日本企業を取り巻く環境の変化によっていっそう排除の傾向が強くなってきた。それに対応する政策として、自ら生産や小売部門に進出しマーケティングを展開している。そこで、①総合会社の子会社戦略、②総合会社のマーケティングの特性などについて説明する。

成績評価の方法

試験（場合によって小テスト、出席等）によって評価する。試験に大きなウェイトをおいていることはいうまでもないが、そこでは講義内容の理解はもちろん、問題に対する自分なりの解決の力と応用力を期待している。

教 科 書

曾我信孝『総合会社とマーケティング』（白桃書房） ¥4,000

参 考 書 等

必要に応じて紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
ロシア・東欧経済論	やま がた ひろ し 山 縣 弘 志	二経2・3・4選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

外国経済研究の課題を、その経済事情に通じることという形で、狭く設定する必要はないので、各自の問題意識に引きつけてとらえてもらえばよいが、とりわけ、独特のソ連経済からロシア的・資本主義的・市場経済への転換を、資本主義世界経済のあり方、日本経済のあり方を念頭に置きつつ講義する予定である。その際、ソ連経済史の評価のためには社会主義議論の捉え直しが不可欠であり、地方で政策も含めて経済現象の相対を文化的基盤と切り離して論じることはできないから、常に総合的視点と批判精神を持った受けとめを期待する。

講義の内容・授業スケジュール

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、一つの歴史的移行過程にあるが、「どこからどこへ？」の問題は必ずしも決着済みではない。この地球が従来からの歴史的経緯を背負って今後も多少とも独自の経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に入って、第1段階としてロシア革命、第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてその歴史は通例まぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義に到達しえたか否か自体が吟味の対象である。これは同時代史の問いかげに答えるために必要な認識であろう。

社会主義論の原理的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制への認識が深まれば、「どこからどこへ？」の問題の第1段階に答える可能性が生まれるであろうし、その第2段階を検討することは、我々の時代の当面している課題を明らかにすることに通じることであろう。

〈授業予定〉

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義とマルクス
 - (2) ロシア革命のめざしたもののレーニン時代
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
 - (1) 1920年代から30年代への転換
 - (2) ソ連型「社会主義」の特質と行きづまり
3. 「計画経済」と经济管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立と実態
 - (2) ソ連型经济管理システム
4. ソ連経済の生産力水準
 - (1) 経済構造の特質と軍事生産
 - (2) 工業生産力と工業技術
 - (3) 農業問題
5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) プレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧の文化と社会
 - (2) 資本主義化の諸問題
 - (3) ロシアと日本――比較経済史――

履修上の留意点

トピックスにコメントすることが多いと思われるので、必ずしも授業計画通り、またその全てを網羅して進むとは限らないが、部分から全体を照射するように心がけたい。敢えて挑発的な講義にしたいので、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを期待する。

成績評価の方法

レポート（9月提出、40点配点）と試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。模範解答等の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。

教科書

教科書はない。参考書は適宜指示する。歴史の見直しが必要とされ、変化の激しい時代に、万全の教科書はありえない。

その他

教科書はないので、授業中にノートを取るのとは当然のことになるだろう。

2 專門教育科目

(2) 法 学 部

專 門 教 育 科 目	經 濟 學 部
	法 學 部
	經 營 學 部

2 専門教育科目

(2) 法学部

法	学	概	論	(藤本茂)	専83								
憲			法	(齊藤寿)	専84								
比	較	憲	法	(西修)	専85								
民	法	総	則	(河野弘矩)	専86								
親	族		法	(竹中智香)	専87								
刑	事	政	策	(斎藤静敬)	専87								
刑	法	総	論	(山口邦夫)	専88								
法	思	想	史	(高橋洋城)	専89								
日	本	法	制	史(茂野隆晴)	専90								
西	洋	法	制	史(休講)									
英		米	法	(金原恭子)	専90								
法	社	会	学	(岡寄修)	専91								
労		働	法	(藤本茂)	専92								
経		済	法	(岡田外司博)	専93								
社	会	保	法	(大場敏彦)	専94								
政	治	学	原	論(大塚桂)	専95								
政		治	史	(楠精一郎)	専96								
経		済	原	論(藤原碩宣)	専96								
マ	ス	・	コ	ミュ	ニ	ケ	ー	シ	ョ	ン	論	(相田敏彦)	専97
行		政	学	(大杉覚)	専97								
国	際	関	係	論(首藤素子)	専98								
法	律	時	事	英	語	(舛井一仁)	専99						
英	書	講	読	(岡田外司博)	専99								
財		政	学	(速水昇)	専100								
経	済	政	策	(西山司)	専100								
国	際		法	(王志安)	専101								
物		権	法	(鶴井俊吉)	専102								
債		権	総	論(青野博之)	専103								
会	社		法	(荒木正孝)	専104								
商	法	総	則	・	商	行	為	法	(関口雅夫)	専104			
刑	法	各	論	(松村格)	専105								
行	政	法	総	論(梅木崇)	専106								
裁		判	法	(雨宮眞也)	専107								
環		境	法	(松村弓彦)	専108								
知	的	財	産	権	法	(盛岡一夫)	専108						
税			法	(岸田貞夫)	専109								
法		哲	学	(高橋洋城)	専110								
国	際	私	法	(笠原俊宏)	専111								
地	方	自	治	法(休講)									
金		融	法	(川田悦男)	専112								
国	際	紛	争	解	決	法	(王志安)	専113					
担	保	物	権	法	(鶴井俊吉)	専114							
債		権	各	論(林幸司)	専115								
相		続	法	(竹中智香)	専116								

有 價 証 券 法 (島 原 宏 明)	專 116
保 險 ・ 海 商 法 (山 田 泰 彦)	專 117
民 事 訴 訟 法 (杉 浦 智 紹)	專 118
民 事 執 行 ・ 保 全 法 (梅 善 夫)	專 119
倒 産 処 理 法 (馬 越 道 夫)	專 120
行 政 法 各 論 (金 子 昇 平)	專 120
刑 事 訴 訟 法 (小 木 曾 綾)	專 121
演 習 I ・ II (青 野 博 之)	專 122
演 習 I ・ II (小 木 曾 綾)	專 122
演 習 I ・ II (金 子 昇 平)	專 123
演 習 I ・ II (杉 浦 智 紹)	專 124
演 習 I ・ II (西 修)	專 125
演 習 I ・ II (林 幸 司)	專 126
演 習 I ・ II (松 村 格)	專 127
演 習 I ・ II (山 田 泰 彦)	專 127

第 1 部 公 開 專 門 選 択 科 目

有 價 証 券 法 (島 原 宏 明)	專 131
債 權 各 論 (林 幸 司)	專 132
担 保 物 權 法 (鶴 井 俊 吉)	專 133
保 險 ・ 海 商 法 (山 田 泰 彦)	專 134
民 事 訴 訟 法 (杉 浦 智 紹)	專 135
国 際 紛 争 解 決 法 (王 志 安)	專 136
刑 事 訴 訟 法 (小 木 曾 綾)	專 137
稅 法 (岸 田 貞 夫)	專 138
民 事 執 行 ・ 保 全 法 (梅 善 夫)	專 139
知 的 財 産 權 法 (盛 岡 一 夫)	專 140

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
法 学 概 論	ふじ 藤 本 茂	二 法 1 必	4

講義のねらい

これから、法を学んでいこうとしている諸君にとって必要であると思われる基礎的概念や考え方を概観します。社会のいろんな出来事に法は関わっているわけですが、その出来事に、法というフィルターを当ててみると、自分の感じとは異なる様相になることに気づくことと思います。その違和感を最初に、感じてもらいたいと思います。そして、どうしてなのか、学んで欲しいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

最初は、導入部分として、身近に感じられると思われるテーマを取り上げて、話をしようと思います。

次に、実際に勉強するのは諸君たちですので、最初に取り上げたテーマに絡んで、自分自身で法的文献を調べることが必要です。したがって、法的文献の調べかた、法的文献の検索の仕方をお話します。

その上で、法とはなにか、法と強制、法の目的、裁判の基準となる法源、法の適用、法の解釈、法の体系といった総論的部分—抽象的概念の世界—を概観します。

その後、国家と法、犯罪と法、家族と法、財産と法、労働関係と法といった各論的部分を新聞の記事などから拾ってテーマとし、民法、刑法などの考え方の一端を学ぼうと思います。その意図は、二年次以降の専門分野にあなたの知的好奇心がかきたてられることを願ってのことです。

履修上の留意点

授業には、毎回出席してください。そして授業で疑問点など質問してください。

成績評価の方法

成績評価は、平常点、学年末試験などで評価します。

教 科 書

大久保治男『改訂 法学概説』（芦書房）

参 考 書 等

伊藤正己・加藤一郎『新版現代法学入門』（有斐閣双書）など。

そ の 他

なお、授業開始時に、より詳しく説明しようとおもいます。したがって、最初の授業は必ず出席してください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
憲 法	さいとう ひさし 齊藤 寿	二 法 1 選	4

講義のねらい

「憲法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、憲法原理の究明を、興味深く行います。特にこの講義は、理論とともに生きた事例と判例を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 憲法概念—権力と国家と憲法—について
- 第2回 近代憲法と現代憲法の基本原理について
- 第3回 明治憲法の成立と特質について
- 第4回 日本国憲法の成立と制定法理について
- 第5回 日本国憲法の動向について
- 第6回 日本国憲法の体系と基本原理について
- 第7回 天皇の地位と権能について
- 第8回 国民の基本的人権について
- 第9回 平等権規定の態様と原理について
- 第10回 精神的自由権規定の態様と原理について
- 第11回 経済的自由権規定の態様と原理について
- 第12回 人身的自由権規定の態様と原理について
- 第13回 人身保護権規定の態様と原理について
- 第14回 救済権規定の態様と原理について
- 第15回 参政権規定の態様と原理について
- 第16回 社会権規定の態様と原理について
- 第17回 新しい人権について
- 第18回 国民の義務について
- 第19回 平和主義と日本国憲法について
- 第20回 統治機構と権力分立制について
- 第21回 国会の地位と構成と権能について
- 第22回 内閣の組織と権能と責任について
- 第23回 裁判所の地位と構成と権能について
- 第24回 憲法訴訟原理と違憲審査制について
- 第25回 財政の原則と予算と決算について
- 第26回 住民自治と団体自治の原理について
- 第27回 憲法保障の意義と方法について
- 第28回 国法の諸形式について
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「憲法」を楽しく研究してみませんか。

—私が、みなさんを、「水飲み場」へ、ご案内します。

目には火を、顔には光をいだいで、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) —と
の、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送ります。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教科書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
比 較 憲 法	にし 西 おさむ 修	二 法 1 選	4

講義のねらい

何年か前に発表された日米教育比較に関する米側専門家の報告書によると、日本の大学教育は完全に失敗していると診断しています。「授業は貧弱で、大学生はいたって不勉強」というのがその結論です。日本の大学改革が叫ばれているいま、このような診断が誤りであることを証明する必要があります。

私は、次のような授業方針でのぞみますので、了解されたい。

- ① 私の教師になってからのモットーは「授業は休まず、遅く始めず、早く終わらず」というものです。したがって、受講生諸君は講義には必ず出席し、かつ授業時間に遅れないように。
- ② あらかじめ講義計画（シラバス）を立て、その計画にそって授業を進めます。この講義計画は別に配布しますが、キーポイントと参考文献が示してあるので、理解を深めるのに役立ちます。
- ③ 授業中の私語・遅刻は、他人の迷惑になるので、絶対に慎んでほしい。
- ④ 成績は平常点を重視。私が独自に作成した出席カードを利用し（質問欄あり）、双方向性を大切にした授業内容にします。
- ⑤ 授業内容は、コピーの配布、ビデオ、スライド、OHPなどの活用をはかり、できるかぎり理解を容易にするよう工夫をこらします。

講義の内容・ 授業スケジュール

取り扱う主な項目は、以下のとおり。

- | | |
|------------------|-------------------------|
| ① 比較憲法の意義、効用 | ⑦ フランス憲法体制の特異性 |
| ② 世界の憲法はいま | ⑧ 社会主義憲法の生成、発展、そして終焉(?) |
| ③ アジアの憲法 | ⑨ 中国憲法と台湾憲法 |
| ④ イギリス憲法の特徴 | ⑩ 韓国憲法と北朝鮮憲法 |
| ⑤ アメリカ大統領の選挙のしくみ | ⑪ イスラム教諸国の憲法体制 |
| ⑥ ドイツ憲法と日本国憲法の比較 | ⑫ 国際憲法学の確立にむけて |

成績評価の方法

成績評価の目安は、おおむね以下のとおり。

前期試験30%、後期試験40%、出席・レポート30%。

要するに、講義内容を生き活きたものにし、受講者から知的関心を引き出し、知的満足感をもって終了するというのが、最大のねらいです。

教 科 書

開講時、参考書などとともにシラバスで指示。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民 法 総 則	こ 河 の ひ 野 弘 の り 矩	二 法 1 選	4

講義のねらい

民法とは、実質的意義においては、私法関係を規律する原則的・一般的な法を指し形式的意義においては民法典を指している。民法典は、財産法領域を物権と債権に分け、それに家族法領域の親族と相続に関する規定を加え、それらの通則として最初に「総則」規定を置くといった五編から構成されている（「総則」規定は、財産法領域の総則であり、家族法領域にはそのまま適用されない）。民法典の編纂にあたり最初に抽象的命題を置き、次に具体的な法命題へと下降するといった手法を採用したため、最初の編である民法総則は、抽象的で、理解しにくい規定が多く、民法典の中では比較的難解な編であると言われている。本講義では、可能な限り具体的事例を通して、抽象的理論の理解をより容易にし、受講者の知的好奇心・学問的興味を深めていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

民法総則は、その全体が「権利」を中心に、先ず「権利の主体」、「権利の客体」、続いて「権利の変動」といった順序による体系的な構成を採用している。本講義もその体系にしたがい進行する。一年間の前半で「権利の客体」までを終了し、「権利の変動」については夏休み以降に行う予定である。講義の中で、民法の条文は当然のこと、それ以外の特別法の条文をも参照する機会が多いため、必ず六法を持参して受講されたい。

- 一 序論（民法の意義、基本原則、信義則と権利濫用）
- 二 権利の主体
 - 1 自然人（権利能力、意思能力、行為能力、無能力者の相手方の保護、住所、不在者）
 - 2 法人
- 三 権利の客体（物の概念、不動産と動産、主物と従物、元物と果実）
- 四 民法総則前半についての質疑応答
- 五 権利の変動
 - 1 法律行為（法律行為の意義、種類、法律行為の解釈）
 - 2 意思表示
 - (1) 意思と表示の不一致
 - (2) 瑕疵ある意思表示
 - (3) 意思表示の効力発生時期
 - 3 法律行為の代理（代理の概念、代理権、代理行為、復代理、無権代理）
 - 4 法律行為の効力（無効、取消）
 - 5 法律行為の効力の制限（条件、期限）
- 六 時効（序論、取得時効、消滅時効）
- 七 民法総則全体についての質疑応答
（毎回の講義終了後の教場か研究室一第二研2838においても質問を受ける。）

履修上の留意点

毎週、必ず出席をすること。継続しての受講が、理解の早道です。

成績評価の方法

期末試験の成績により評価する。

教科書

河野弘矩『民法総則講義』（八千代出版） 3,200円

参考書等

半田正夫編『争点ノート民法Ⅰ』（法学書院）
篠塚・前田編『新・判例コンメンタール 民法①・②』（三省堂）
基本コンメンタール『民法総則』（日本評論社）

その他

六法全書は、本講義に関する限り、ポケットサイズの六法全書でも、また年度の古いものでも良いです。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
親 族 法	たけ なか ち か 竹 中 智 香	二 法 1 選	4

講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も重視する。

教科書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4版〕』（有斐閣双書）1,648円

参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』（有斐閣）2,200円
六法

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
刑 事 政 策	さい とう よし ゆき 斎 藤 静 敬	二 法 1 選	4

講義のねらい

人間は、なぜ罪を犯すのであろうか。どうすれば、この社会の中から犯罪を防止することができるのであろうか？たしかに、犯罪のない社会を実現させることは非常に困難なことである。しかしながら、実現不可能であるとして、何の努力もせずには、何の解決策にもならない。少しでも犯罪のない社会の実現にむけて努力すべきである。刑事政策を学ぶということは、まさにこの犯罪のない社会の実現にむけて貢献することにある。

講義の内容・授業スケジュール

刑事政策は犯罪を防遏するための合理的、合目的な手段、方法を探求するものである。そこで、1. 犯罪現象の類型的考察（例えば、少年犯罪、女性犯罪、性犯罪、暴力団犯罪、公務員犯罪、公害犯罪、精神障害者の犯罪、薬物乱用犯罪、交通犯罪、外国人犯罪。）2. 犯罪者の処遇（例えば、受刑者の法的地位、刑務作業、拘禁の形態、仮釈放。）3. 犯罪者に対する制裁（例えば、死刑、自由刑、財産刑、保安処分）4. 犯罪の司法的処理（例えば、起訴猶予、執行猶予。）……などについて概説する。

履修上の留意点

1. 講義には、毎回かかさず出席して欲しい。
2. 毎日、新聞の犯罪記事に目を通して置く。

成績評価の方法

筆記試験

教科書

開講時指示

その他

講義方式

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
刑 法 総 論	やま くち くに お 山 口 邦 夫	二 法 1 選	4

講義のねらい

一年次の専門科目として、高校時代の学習あるいは予備校時代の勉強方法から、一日も早く抜け出し、大学における真の学問を学ぶ姿勢になってもらうことを主眼に講義をする。大学生の自覚をもって、講義や読書を通じて、みづから積極的に研究する態度を身につけるように諸君も努力してほしい。

講義の内容・授業スケジュール

一年間を次の4期に分けて講義をする。Ⅰ期(4・5月)、Ⅱ期(6・7月)、Ⅲ期(9・10月)、Ⅳ期(11・12月)、1月の1回は、質問日とする。

Ⅰ期。学問とは何か。特に学問の限界について考える。それから、法律学とは何か。法律学の体系における刑法学の位置づけへと進む。

Ⅱ期。刑法における刑罰と犯罪概念を中心に、法治国家の原則として罪刑を法定しておくことの意味を検討する。

Ⅲ期。ドイツの構成要件論を手がかりに、犯罪論の構築の仕方について、数種のパターンを考えて講義をする。その際、違法と責任との区別を峻別する立場から解説をする。

Ⅳ期。犯罪の既遂・未遂について、昔の学派の対立を考慮しながら、未遂処罰の根拠、さらに過失犯に実行行為があるか否かを考えながら、故意犯と過失犯との区別について検討する。最後に二人以上の犯罪者が加わる共犯の問題について論究し、刑法学の概説を終る。

履修上の留意点

年間を通じて、原則として出席はとらない。ただし、受講者が50名以下の場合、毎時間出席をとる。また、上記の各期ごとのまとめとして、小テストを時間内に行う予定である。

質問時間は、研究室2719号に掲示してある。毎週2～3時間は、毎年確保しているので、この時間内は、自由に質疑が可能である。

成績評価の方法

上記の小テストが実行できれば、その結果を、年一回の期末試験の成績と一緒に評価し、単位を認定する。

教科書

教科書は、原則として使用せずに講義をすすめ、参考書はその度に紹介するので、積極的に読書してほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
法 思 想 史	たか はし ひろ き 高 橋 洋 城	二法 1・2・3・4 選	4

講義のねらい

西欧の様々な法思想を跡づけ再吟味する営みを通じて、近代法の環境の中で自明のものと考えられている思考のワクを相対化し、批判する視点を持つためのきっかけとしたい。こうした作業は、揺れ動く現代の法状況へ対峙してゆくのに必要であると思われる。

講義の内容・
授業スケジュール

重点をおくトピックとしては、ヨーロッパ法思想の核となったギリシャの法思想、ローマ法原理、キリスト教思想、中世自然法論、近代法の基礎理論とも言うべき自然権論や社会契約思想、これを批判的に受け継ぐドイツ啓蒙期の法思想などを予定している。基本的には、時代を順に追い、代表的な思想家と思索を共にする形で述べていくことになるが、同時に、国家、所有、人権等々、重要な概念枠組の変遷―連続と断絶に焦点を当て、近代という時代が獲得したものと忘却したものを、明らかにできればと思う。そのために、狭い意味での法學理論史の枠にとらわれすぎることなく、各々の思想家とその時代の人間観やコスモロジーの中に法理解を位置づけて検討してみたい。なお、時間の都合上、最大限順調に講義が進んだとしても、19世紀前半の法思想までをカバーするのが精一杯だと思う。19、20世紀以降の法・社会哲学理論ないし（狭い意味での）法理論の諸潮流については、法哲学講義の方で取り扱う。

成績評価の方法

定期的記述試験（後期終了後1回）を主たる評価基準とするが、その他に、講義で紹介した思想家の著作を読んでレポートを提出してもらい、評価の一助とする。

参 考 書 等

三島淑臣『法思想史』[新版]（青林書院） ¥4,854
あえて教科書指定とはしないが、是非座右に置き、講義の理解を深めるために使用されたい。

そ の 他

講義の概要、参考資料を必要に応じて配布する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
日本法制史	しげの たかはる 茂野隆晴	二法1・2・3・4選	4

講義のねらい

歴史学には、単に歴史(学)と呼ばれる一般史のほか、多くの個別史がある。これは医学における医学史のごとくで、一つの学問には必ずその史学がある。

法学を学ぶ者にとって最も身近な史学が法制史(Legal History, Rechtsgeschichte)である。本学には西洋法制史と日本法制史とが設置されている。わたくしの講義は、日本法制史であるが、それは、「日本国民の法生活の歴史的考察」(隈崎渡博士の定義)である。とするならば、法制史が過去における国家の制定法規を羅列して、その解釈に留まるものではないことが明らかであろう。

ともあれ、法学教育において、法制史などの基礎法学を学ぶということは、実定法の理解をより深化させるとともに、リーガル・マインドの形成に有用であり、さらには、法学教育の総合化を図るのに有用であるはずである。

講義の内容・授業スケジュール

夏休み前までに上古、中古、中世までの3期を概説する。その進み具合は、従って比較的早い。それというのも、特にその後の近世法に時間を掛けるようにしたからに他ならない。

夏休み後は近世法について主にみるが、近代法、現代法についても成る丈ふれるようにし、比較法的な効果を挙げられるようにしたい。

講義では、諸種の事例を挙げ成る可く平易に講述していきたい。特に近世法の知識は、歌舞伎などの伝統芸や多くの時代小説や時代劇などの理解に少なからず役立つことも多いことであろうから、一層の興味が湧くようにしたい。

成績評価の方法

出席回数を平常点とし重視する。敢て、期末試験では頑張り具合がみられるようにし、頑張りを最重視し採点する。

教科書

大久保治男・茂野隆晴著『日本法制史』(高文堂出版社) 3,000円
大久保治男・茂野隆晴編『日本法制史板書』(芦書房) 未定

参考書等

石井良助著『刑罰の歴史』(明石書店) 1,600円

科目名	担当者名	配当学年	単位
英米法	きんばら きょうこ 金原恭子	二法1・2・3・4選	4

講義のねらい

大陸法とは異なる英米法という法伝統が、どのような歴史と内容をもつものなのかを概観する。

講義の内容・授業スケジュール

英米法の中でも特にアメリカ法に重点を置きつつ、①英米法の歴史、②アメリカ法の多元性、③法の支配とアメリカの違憲立法審査制、④英米両国の司法制度、⑤判例法主義、の各テーマを取り上げて論ずる。

成績評価の方法

学年末の筆記試験で成績評価を行う。

教科書

田中英夫著『英米法総論上・下』(東京大学出版会) 各3,200円くらい。

参考書等

田中英夫編集代表『BASIC 英米法辞典』(東京大学出版会) 約2,900円

その他

授業は基本的には講義形式で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
法 社 会 学	おか 岡 さき 寄 おさむ 修	二法1・2・3・4選	4

講義のねらい

憲法、民法、刑法などいわゆる基本六法においては、法の文言がどのような意味を有するかを見極める作業を通じ、法がいかなるものか、それをどのように適用すべきかを探究することが研究の中心となる。それに対し、基礎法学の一分野をなす法社会学は、解釈法学とは別に、経験科学としての法律学をめざし、近代科学の興隆を背景に誕生した経緯もあり、法はさまざまな社会の中でどのような機能を果たすのか、また法の解釈という作業そのものがどのような営みであるのかといった問題を含め、研究領域は多方面に及んでいる。本講義では、こうした法社会学がどのような経緯で誕生するに到ったのか、そして、法解釈という作業がどのような性格の営みであるのか、さらに、日本とアメリカとでは法律をめぐる諸問題についてどのような意識の違いが見られるか、という点に焦点を当てて講義する予定である。

講義の内容・ 授業スケジュール

- I. 経験科学としての法社会学
ヨーロッパ啓蒙主義思想と経験科学の成長
十九世紀における法典化の動きと法律学
法解釈学と法社会学
メイン、エールリッヒ：法社会学の誕生
- II. 日本とアメリカとの比較社会論
労働観の日米比較
パターナリズムと個人主義
契約と責任
自由競争と秩序
- III. 法解釈のプロセス：司法過程論
ジョン・デューイ『法学の方法』
オリバー・ウェンデル・ホームズ『コモン・ロー』
ジェローム・フランクの司法過程論

履修上の留意点

履修者は、実定法解釈について若干知識のある方がよい。

成績評価の方法

評価は学年末の論述試験による予定。

教 科 書

六本佳平『法社会学入門』チュートリアル18講（1991、有斐閣）

参 考 書 等

講義の中で随時紹介する。

そ の 他

必要に応じて補助プリント配布。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
労 働 法	ふじ ちと しげる 藤 本 茂	二法 1・2・3・4 選	4

講義のねらい

今日、労働関係をめぐる領域は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌を遂げようとしています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本的雇用慣行といわれる高度経済成長期に確立されてきた社会経済構造に見直しながされています。現在は、激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域である以上、この変動に無関係ではありません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

労働組合を中心に扱う集団的労働関係法領域では、労働組合が労働者の利益を実現する組織として労働関係のなかに定着した今日にあって、労働条件決定に組合の及ぼす影響は、一見地味ではありますが、無視できません。また、この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正、裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大、解雇制限といった分野で見られます。男女雇用機会均等法の見直しなども見られます。解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中にあっても変わるべきでないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

講義の内容・授業スケジュール

(1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。

(2) 内容、スケジュールについては、第1回目の授業のときに、配布するプリントで述べます。ここでは、一応のアウトラインを述べるに止めます。

- ① 労働法の基礎的考え方
- ② 労働関係の主人公——労働者、使用者、労働組合
- ③ 労働条件の最低基準の法定——労働基準法の特徴
- ④ 雇用における平等——同——労働同——賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
- ⑤ 労働条件を決定しているもの——就業規則、労働契約、労働協約
- ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備——不当労働行為
- ⑦ 雇用の入り口——採用、採用内定、試用期間
- ⑧ 人事異動——配転、出向、転籍
- ⑨ 雇用の出口——解雇、定年、退職
- ⑩ 賃金、諸手当、退職金
- ⑪ 労働時間、時間外労働
- ⑫ 休憩、休日、休暇
- ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

授業はなま物です。生きのいいうちに深めるのが一番です。出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、平常点を加味することはありますが、学年末試験がメインです。

教科書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回目の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

その他

皆さんが各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めることを心掛けます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 法	おか だ と し ひろ 岡 田 外 司 博	二法 1・2・3・4 選	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。そして、1年間で独占禁止法的全領域をカバーするものとなっている。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少くともプリントを受け取ることを勧める。また、教科書は薄いものなので、できれば、4～5月中にざっと一通り読んでおいて頂きたい。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教 科 書

厚谷褒児『独占禁止法入門』（日本経済新聞社）

参 考 書 等

教科書として指定しないが、多くの具体的事例を含むものとして、講義でしばしば引用することがあるので、『独禁法審決・判例百選（第五版）』（有斐閣）の講入が望ましい（ただし、必ずしも購入する必要はない）。その他の参考書については、初回の講義の時に簡単に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社 会 保 障 法	おお ば とし ひ 大 場 敏 彦	二法1・2・3・4選	4

講義のねらい

日常生活を営んでいく中で、我々はさまざまな「事故」に遭う危険を持っている。それは、病気や怪我であったり、その結果としての障害であったりする。こういった「事故」に遭えば我々は、療養費の支払といった出費であるとか療養中の不労や障害を持っていることからくる所得の停止・減少といった問題に直面する。また、出産・育児、老齢等も同様に、出費、所得停止・減少といった事態をもたらすことになる。さらに、老齢や障害によって、身の回りのことを自分でできなくなってしまうこともある。

こういった事態に対処するのが社会保障制度であり、それを法的に形作り、指導していくのが社会保障法である。

もともと社会保障「法」といっても、そのような名称の統一法典が存在しているわけではなく、健康保険法、国民健康保険法、厚生年金保険法、国民年金法等々の、国民の生存権を直接的に保障しようとするさまざまな法律の集まりであるといえる。この、社会保障法がさまざまな法律の集合体であるという点が、比較的頻繁に行われる法改正とあいまって、社会保障法を複雑なものとし、その理解を妨げることにもなっている。そこで講義では、これら社会保障法を構成する主な法律（制度）についてその概要の正確な理解を図り、その上でそれらが抱える問題点を検討していくこととする。

講義の内容・授業スケジュール

講義では、いわゆる医療保険、年金保険、児童福祉、老人福祉等を扱っていく。

なお、医療保険と年金保険については、雇用される者か否かであるとか雇用先によって適用される法律が異なっているが、進捗の関係もあり、医療保険については健康保険法と国民健康保険法を、年金保険については厚生年金保険法と国民年金法のみを扱うこととする。

講義の進め方に関しては、複雑に絡まりあった制度をよりわかりやすく理解してもらうために、社会保障制度からの給付を、病気・怪我、出産・育児、老齢といった「生活事故」ごとに分類して、それぞれに対してどのような給付がなされるのかを、ライフサイクルにあわせて説明することとする。

その上で、これまでの議論や現行制度の法律上の論点を検討し、現行法制度が真に社会「保障」たりえているかを論じていく。

スケジュールは、次に掲げるとおりであるが、これはあくまでも予定・講義で取り上げる順番であって、進捗の関係等で割愛することもあり得る。

- ① 講義概要と方針の説明
- ② 憲法25条の解釈
- ③ 医療保険の被保険者・保険料
- ④ 医療保険被保険者（被扶養者）・保険料をめぐる法的問題点の検討
- ⑤ 年金保険の被保険者・保険料
- ⑥ 年金保険の被保険者（被扶養者）・保険料をめぐる法律問題
- ⑦ 傷病に対する給付
- ⑧ 傷病に対する給付の法的問題点
- ⑨ 出産・育児に対する給付
- ⑩ 出産・育児に対する給付の法的問題点
- ⑪ 高齢者に対する給付
- ⑫ 高齢者に対する給付の法的問題点

成績評価の方法

試験は、筆記試験とし、後期のみ実施する予定である。
なお、出欠の確認は、原則として行わない。

教科書

指定しない。

参考書等

講義時に適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
政 治 学 原 論	おお つか かつら 大 塚 桂	二法1・2・3・4選	4

講義のねらい

○自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならず、ひろく隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377（直）です。

○講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、実際の政治の理論的説明と解明ができるように基礎的的原理的知識を習得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目の研究上必要な基本的な知識を提供することです。

講義の内容・
授業スケジュール

○講義のすすめかた

現代政治学のおおよそのアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することももちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

○講義内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、および方法

B 政治の原理的究明

① 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

② 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

③ イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権（レティズンシップ）

C 政治の実体論的究明

① 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制

② 機能論的究明

～政党、压力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化

成績評価の方法

本年度はあらたなところみとして、受講者との相談のうえA・B両方式のうちのいずれかに決定します。

A方式（レポートによる単位認定）

複数回（前期・後期）のレポートを提出してもらい成績を評価します。課題報告（レポート）の作成をとおして、文献の読解力と書く能力を涵養します。

B方式（試験による単位認定）

中間・学年末試験により、成績を評価します。評価基準は、中間試験50%、学年末試験50%です。

※A方式の場合には、追・再試験は実施しません。B方式は、実施します。

教 科 書

大塚桂『政治学原論序説』（勁草書房） 3,296円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社） 2,900円

参 考 書 等

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
政治史	くすのき 楠 せい い ち ろ う 精 一 郎	二法 1・2・3・4 選	4

講義のねらい

近代日本の政治権力に関する歴史的な分析。幕末から昭和戦前期まで、人物を中心に考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 幕藩体制の動揺と崩壊 | 7. 対華21ヶ条とシベリア出兵 |
| 2. 明治国家の形成 | 8. ワシントン体制の成立と崩壊 |
| 3. 政府批判と宥和策 | 9. 軍部の台頭 |
| 4. 明治憲法と初期議会 | 10. 満洲事変と連盟脱退 |
| 5. 日清戦争と日露戦争 | 11. 日中戦争と総動員 |
| 6. 政党政治の発展 | 12. 日米戦争と戦時議会 |

履修上の留意点

履修にあたっては、とくに日本史の知識を必要としないが、歴史に関心を持つ学生の受講を希望する。

成績評価の方法

成績は筆記試験によって行なう。

教科書

富田信男・楠精一郎他『日本政治の変遷』（北樹出版） 2,600円

参考書等

猪木正道『軍国日本の興亡』（中公親書） 760円
その他随時授業のなかで指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
経済原論	ふじ 藤 わら 原 ひろ のり 碩 宣	二法 1・2・3・4 選	4

講義のねらい

経済学の基本的要件の理解
日本経済の直面する課題
理論と現実の乖離とその説明
といった点を主眼として行います。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、経済学の性格、他分野との関係、成立要件といった基礎と、マクロ経済学——国民経済循環、産業連関分析、国民所得概念および国民所得決定論など。
後期では、ミクロ経済学および応用経済学——個別経済主体の行動分析、寡占経済理論、バブルの発生とその崩壊、財政・金融問題など。

履修上の留意点

授業に出席し、ノートをよくとる事が大切です。

成績評価の方法

ペーパーテスト。但し自発的なレポートやテーマを決めたスクラップ作りなどを試験前に提出すれば、評価に加えます。

教科書

藤原碩宣編著『経済と経済学』（実教出版）
その他は適宜授業中に紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
マス・コミュニケーション論	あいだとしひこ 相 田 敏 彦	二法1・2・3・4選	4

講義のねらい

マス・コミュニケーションの機能、影響について、広い視野から検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の主たる内容は次のとおりである。

- (1) 報道の「客観性」
テレビニュースの「カメラはウソをつかない」かどうか、報道対象と報道内容、「現実」と記号との区別如何。
- (2) 意識培養分析
テレビが人びとの心に植えつける（「培養」する）「シンボリック現実」、そして「主観的現実」とは何か。
- (3) 意味構築の理論
メディアによる、また、視聴者・読者による意味付与、意味解釈とは何か。
- (4) ヤコブソンのコミュニケーション・モデル
コミュニケーションとは単純に記号による一つの意味の受け渡しだろうか。通常、あまり意識されずに、いくつかの次元で意味の読みとりがなされている。ヤコブソンのモデルは、この問題を系統だてて考えるのに役立つ。
- (5) フェミニズムとメディア
メディアに関するフェミニズム的視点を検討する。

履修上の留意点

マスコミについて授業をききながら、自ら積極的に考える姿勢を強く望みたい。そのため、授業中にこちらから質問を発し、挙手または指名によって回答を求める。

成績評価の方法

前期：レポート
後期：試験

参 考 書 等

リップマン『世論』（主として上巻）（岩波書店）
田崎馬郎・児島和人（編著）『マス・コミュニケーション効果研究の展開』（北樹出版）
カラン・グレヴィッチ（編著）『マスメディアと社会』（勁草書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
行 政 学	おおすぎ さとる 大 杉 寛	二法1・2・3・4選	4

講義のねらい

55年体制崩壊後、政治の変動が規制緩和・地方分権論議を促す一方、政策判断や倫理問題などをめぐって行政官僚制に対する激しい批判が巻き起こり、いまや行政改革が喫緊の政治課題として提起されている。

そこで本講義は、行政の成り立ちから、その仕組みと運営状況に至るまでの知識を修得し理解を深めることで、現実の行政活動の実態を把握し、行政をめぐる現代的課題に対応できる能力を養成することを主たる目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

主な講義内容は次の通り。

- はじめに 行政学への招待
- 第 1 章 現代行政の成立と行政国家
- 第 2 章 官僚制と統治構造
- 第 3 章 現代国家における中央と地方
- 第 4 章 行政活動と政策過程
- 第 5 章 行政管理と行政改革
- 第 6 章 行政統制と行政責任

成績評価の方法

開講時に示す。

教 科 書

テキスト・参考文献については、開講時に示す。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国 際 関 係 論	しゅ とう もと こ 首 藤 素 子	二法1・2・3・4選	4

講義のねらい

現代の国際関係が抱える課題について、知識と理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

次のような項目をほぼ3週分の授業を割当てながら進める予定。

1. 国際政治理論の展開
国際政治の冷戦後の新たな視座
2. 冷戦後の大地域主義の生成
3. 地域紛争と安全保障の課題
国連の安全保障分野の機能
地域紛争と地域組織の機能
4. 国連の開発戦略と南北格差の問題
近代化理論の変遷と従属論の影響
世銀・IMFの機能と問題
5. 国際政治と人権保障の制度化
人権保障の法的枠組の展開と課題
人権と人権NGOと国際社会
6. 1970年代以降の経済のグローバル化
政策協調と国際交渉の多様化
Global Governance の課題
7. 経済発展と途上国の政治体制
権威主義的政治体制と民主化の課題
8. 地球環境と国際関係の課題
地球環境問題の現状と政策的対応
「発展の権利」と「持続可能な発展」
人口問題の現状と課題

成績評価の方法

定期試験および課題提出物により評価する。

教 科 書

とくに毎時間使用するというわけではないが、次の文献を入手し、授業に関連する項目を各人で勉強しつつ、授業に出席することを勧める。

細谷千博監修、横山・野林編『国際政治の21世紀像』（有信堂）1997年（第2版） 2,987円

参 考 書 等

講義の内容ごとに参考文献等を指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
法 律 時 事 英 語	ます い かず ひと 舩 井 一 仁	二法1・2・3・4選	4

講義のねらい

本法律時事英語の講義は最新の法律問題を把握することを第一目標としています。従って、最新国際取引法の基礎となる契約用語の他、通商問題（主にWTO関連）、品質問題（保証とPL関連）、価格問題（ダンピング関連）、競争問題（独禁法関連）、経済地域統合（EU統合、NAFTA関連）、紛争処理（訴訟・仲裁関連）など企業が国際化するに際して直面している法律問題を英文の報告書、判例、実際の訴状、契約書、レポート等を用いて学びます。国際取引法に関する予備知識は必要ありません。講義は国際取引の諸問題の解説を交えながら進めます。法律英語と国際取引法を好きになることが主眼ですから、厳しい課題を課すことはしません。就職をして日本企業の国際化についての問題意識を醸成することが最も重要だからです。

授業は講義形式を中心に進めますが、問題が時事問題であることが多いので学生の問題意識高揚のために講義中に簡単な討論やビデオを用いた意見交換などを取り入れます。

履修上の留意点

受講する学生は日本経済新聞を購読することを希望いたします。これは現在の日本企業がいかなる法律問題に直面しているかを知るための重要なカギになるからです。新聞が報道しない裏側に企業の直面する問題があります。そこをどう読み取るかは欧米との文化比較をしなくては理解できません。このことは就職活動においても役立つことと思います。

成績評価の方法

出席を重視します。

教 科 書

舩井一仁著『国際取引法の学び方』（敬文堂出版） 2,500円

参 考 書 等

講義中に指定します。毎回配布資料があります。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
英 書 講 読	おか だ と し ひろ 岡 田 外 司 博	二法1・2・3・4選	4

講義のねらい

アメリカの判例を精読することを通して、論理的な英文の読解力を身につけ、同時に、日本と異なる法制度と裁判制度を有するアメリカについて理解を得ることを目標とする。

履修上の留意点

予め予習することが不可欠であり、授業では順番にあてて和訳を求めるので、その時に答えられないことのないようお願いしたい。

成績評価の方法

人数が多い場合には出席と試験によって判定し、人数が少ない場合は出席と平常点のみによって判定する。

教 科 書

コピーして配布する（無料）。ただし、部数に限りがあるので、受け取らなかった人は自分でコピーして頂きたい。

参 考 書 等

『英米法辞典』（東京大学出版会）

そ の 他

出席率の悪い者は単位を取得できないので留意されたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
財 政 学	はやみ のほる 速 水 昇	二法1・2・3・4選	4

講義のねらい

私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵を受けている。たとえば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、適格な天気予報によって判断できるし、病気や怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に払った額の数割程度ですむ。また、電気・ガス・水道・道路・港湾等の社会資本整備は公共部門が供給しており、財貨・サービスの生産者である企業の活動を有効・円滑にするために政府は種々の役割を担っている。さらに、平成不況、国債の累積残高、高齢化社会など政府が解決しなければならない問題が非常に多くある。このような問題は、納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から政府と一緒に考えていかなければならない問題でもある。そこで、わが国をめぐる最近の財政問題を現実との係わりでとらえ、身近な問題として理解が深まるように検討していく。

講義の内容・授業スケジュール

主な内容として、「市場の失敗」「公共財のありかた」「予算過程と平成9年度予算の構成」「高齢化社会と社会保障」「租税の仕組み」「消費税値上げの根拠」「国債の累積残高の問題」「財政政策」「財政投融资」などを中心に講義する。

教科書

西村紀三郎監修、速水 昇編著『財政学』（学文社）

参考書等

西村紀三郎編著『統計からみる財政学』（学文社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 政 策	にし やま つかさ 西 山 司	二法1・2・3・4選	4

講義のねらい

従来、経済学の学問体系は、理論、政策、歴史、財政・金融、経営・会計の諸分野から構成されており、特に第二次世界大戦後の現代資本主義経済においては、経済政策を応用経済学の一環として重視する傾向が深まってきているといわれています。

このような動向に対応して、本年度の経済政策の講義は、経済政策の方法論や政策理論の究明および経済政策の史的展開過程の解明を中心に、各国で実施されている現代の経済政策についても論述する予定です。

特に経済政策の実践性と関連した「価値判断」論争をめぐる諸問題点や、従来の経済政策論の主要な学説を検討するとともに、経済学体系における経済政策論の理論的位置を論究し、その果すべき課題を究明して、経済政策論の体系的な解明をおこなうように努めます。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールとしては、大きく前期と後期とに大別して、前期には主として、経済政策の方法論や政策理論について論究し、後期には、資本主義発展と関連した経済政策の史的展開過程と、その特質について論述する予定です。

履修上の留意点

講義の重要箇所や問題点など主要な内容については、出来るかぎり板書して詳説する予定です。受講される諸君は出席してノートされるように希望します。

成績評価の方法

学年末試験が中心になるのは当然ですが、出席も重視します。

教科書

開講時に指示します。

参考書等

清水・松原編『経済政策論を学ぶ』〔新版〕（有斐閣）
なお講義に関連する文献は、その都度紹介するようにします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国 際 法	おう し あん 王 志 安	二 法 2 選	4

講義のねらい

国際法学の基礎知識を習得し、国際関係の現状を法的側面から理解する能力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

国際法学の全体を様々な基礎的課題に細分し、毎回の講義においてできるだけ一つの課題を絞り、それぞれ基礎概念、理論体系、そして事例分析の形で解明する。前期においては、国際法の史的展開、国際法と国内法との関係、国際法の法的性質といった基礎知識から着手し、国家及び国際機構にかかわる様々な法的問題を取り上げていきたい。たとえば、国家の分裂や統合に生じた国家の承認や承継の問題、違憲的な政府変更やクーデターに関する国際的対応の法的性格、国内裁判における未承認政府や国家の地位、そして国連を中心とした国際機構の法的地位や機能の形態などを分析する。

後期では、前期の基礎知識の習得を踏まえて、領域に関する管轄権、国際的人権保障、条約関係の理論及び外交関係の法的仕組みを検証する。具体的には、国家領域の法的地位や取得に関する理論及び実行、国際地域、国際海域及び宇宙空間といった国際区域の法的地位、外国人の法的地位、人権保障に関する国際制度の展開、条約の締結、形式及び効力に関する法規制、外交関係及び領事関係における特権及び免除などを取り上げる。

履修上の留意点

国際関係を法的側面からとらえる視点の養成を常に心構えとする。個々の概念、理論、事例を解明する戦術的な能力がまず重要視されるべきであるが、政治、外交、経済、文化といった様々な形態で展開される国際関係を法という枠内でとらえる戦略的な資質をのばすことも見失われてはならない。そのためには、教科書に取り上げられた学説を理解するだけでなく、講義に取り上げられた課題の視点、問題意識をしっかりと習得する必要もある。配布される参考資料や聴講ノートを参照しながら、教科書の理解を深めてもらいたい。

成績評価の方法

成績は年末の定期試験で決定する。ただし、講義出席の状況も成績を評価する際に考慮される。

教 科 書

松田幹夫編著『現代国際法』（八千代出版 1997年） 2,700円

参 考 書 等

市販されている国際条約集

そ の 他

授業はすべて講義方式で行い、適宜に参考資料を配付し、板書する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
物 権 法	つる 鶴 井 俊 吉 しゅん きち	二 法 2 選	4

講義のねらい

この講義では、民法典の第二編「物権」のうち総則、占有権、所有権、地上権、永小作権、地役権を対象とする。所有権を中核とする物権法は、今日の社会構造の法的土台をなしており、憲法上の私有財産制度の骨組を定めたものである。その意味で、物権法は民法の中で最も基礎的な重要な部分であるといえる。

講義の内容・授業スケジュール

講義の主な内容は、不動産売買をめぐるトラブルがどのように解決されているのかなど、物権変動を中心に、不動産利用権、物権的支配の秩序維持についての制度を解説する。

講義では、物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例を入れ、図式してわかりやすいように心掛ける予定でいる。

履修上の留意点

物権法は、解釈学上においても体系的理解が困難な分野であるといわれている。それは立法の沿革に基づいている。現行民法がドイツ民法を継受してできあがっているにもかかわらず、物権法の主要な部分については、フランス民法の影響を強く受けているからである。それゆえに講義に出席しないとなかなか興味を持たないし、理解しづらい分野であるので、毎時限の出席と予習を強く希望する。

教科書

教科書は、遠藤・川井他編『民法② 物権』（有斐閣双書）を予定している。

参考書等

参考書については、講義の最初に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
債 権 総 論	あおのひろゆきの 青野博之	二 法 2 選	4

講義のねらい

債権総論とは、民法典のうち第3編「債権」の第1章「総則」をいう。
 売買契約によって代金支払債権が発生し、質貸借契約によって質料支払債権が発生するが、両方とも金銭債権であるということでは共通する。売主が買主に代金を支払えというのも、質貸人が質借人に質料を支払えというのも金銭を払えということでは同じである。また、買主が売主に品物を引き渡せという引渡債権も、債権という点では、金銭債権と共通する。つまり、債権者が債務者に何かをせよと（またはしてはイケないと）請求するという点では共通する。
 このように、債権の共通点を中心にして、債権の性質、その効力などを考察するのが、債権総論である。

講義の内容・授業スケジュール

序 論
 債権の目的（債権の内容）
 特定物債権・種類債権
 金銭債権
 債権の効力
 履行の強制
 債務不履行（契約責任の要件）
 損害賠償（契約責任の効果）
 受領遅滞
 責任財産の保全
 債権者代位権
 債権者取消権
 多数当事者の債権関係
 連帯債務
 保証債務
 債権譲渡
 債権の消滅
 弁 済
 相 殺

履修上の留意点

質問は大歓迎である。出席者がそれほど多くなければ、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただくことになると思われる。

成績評価の方法

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。

なお、受講生がそれほど多くなければ、質問および応答の平常点だけで成績を評価する。しかし、平常点で成績を評価することができないほど受講生が多ければ、年度末の試験も行う予定。なお、試験を行う場合には、いっさいの持込みを不可とする。

教 科 書

野村豊弘・栗田哲男・池田真朗・永田真三郎著
 『民法Ⅲ ― 債権総論 [第2版]』(有斐閣) 1,680円
 教科書は、上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
会 社 法	あら き まさ たか 荒 木 正 孝	二 法 2 選	4

講義のねらい

この講義では、会社法（総則、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社）の基礎的かつ基本的な事項について解説するが、とくに現代の経済活動において重要な役割を果たしている株式会社の法規制について多くの時間を割くつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

大企業は全て株式会社の形態をとり、その株式会社が現代の経済を担い、商品やサービス、そして労働の場を提供するという社会的機能を通して国民の生活に計り知れない大きな影響を及ぼしている。そこで、この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などの私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこでの重要問題を探り上げ、判例や学説の対応、実務の取り扱いなどを検討し、会社法の基本原理を理解してもらおうつもりである。

履修上の留意点

会社法は商法の重要な部分であり、その中心は、商法第二編会社、有限会社法などの規定である。ところで、商法は、民法を一般法とする特別法であるから、商法を学ぶ際には、その基礎となる民法総則、物権法、債権法などの知識があると一層分かりやすい。もっともここでは、講義の内容を理解するために必要な範囲で民法＝財産法の規定や基本概念にも触れるつもりであるから、財産法の全てを履修していなくても受講には差し支えない。

成績評価の方法

年度末のペーパーテストの点数で評価します。

教科書

荒木正孝著『現代企業法』第2版（成文堂）

参考書等

鴻・竹内・江頭編『会社判例百選』第5版（有斐閣）
奥島・中島編『商法演習Ⅰ（会社法）第2版』（成文堂）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商法総則・商行為法	せき ぐち まさ お 関 口 雅 夫	二 法 2 選	4

講義のねらい

専門科目としての商法学は、商法全体についての概念的な知識、商法に対する基本的な考え方、および個々の法律問題への取りくみ方など、商法についての最も基礎的であると考えられる問題の理論的そして体系的な解明を目的とする学問である。この講義は、商法学の内、商法総論、商法総則および商行為法を中心に行う。

講義の内容・授業スケジュール

商法総論においては、商法の意義、商法の特色、商法の体系、商法の適用の四つのテーマを論考する。次に、商法総則においては、営業の主体、営業行為、営業の人的組織、営業の物的設備、営業の譲渡、商業登記の六つのテーマを論ずる。そして商行為法においては、商行為の概念、商行為法の総則、商事売買、交互計算、匿名組合、仲立営業、運送取扱営業、運送営業、寄託の十の主要な問題を考察する。一年間で25回の講義を予定する。

履修上の留意点

ここに選ばれた20のテーマは、商法の特定分野に関するものではあるけれども、これから商法を体系的に学んで行こうとする諸君にとって、欠かすことの出来ないと思われる問題を取りあつかっている。もっとも、この設備は、全ての学生のニーズを満すものではない。この講義が特に必要であると考えられる学生は、将来自営業を志したいと考えている学生、会社員になりたいと考えている学生、および司法試験を受験したいと考えている学生である。この意味で、学生諸君は、自分で自分の将来計画を明確にし、受講すべきか否かを決定することが肝要である。

成績評価の方法

平常点と期末試験を重視する。

教科書

関口雅夫編者『現代商法Ⅰ〔総則・商行為〕』（八千代出版）2,800円を使用する。六法全書は、毎回持参すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
刑 法 各 論	まつ 松 村 格	二 法 2 選	4

講義のねらい

刑法各論は、刑法各則規定の解釈が中心になるが、すべての条文の解釈を検討することは時間的に不可能であるので、特定の条文にしぼって講義していくことにする。そこで、現代型犯罪と称される犯罪規定の解釈とか、時代の変遷に伴って条文の解釈の再検討を余儀なくされているような問題にしぼって講義していきたいと思う。学生諸君は、それらの犯罪がなぜ問題になっているかということをよく考えてもらいたいと同時に、その際に、刑法総論で学習した「人権保障」と「法益保護」という刑法の使命を常に念頭におきながら解釈をしてもらいたい。行為無価値論か結果無価値論かという違法性の実質の問題も常に係わってくるので、自分の立場をしっかりと築いてもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 刑法における生命の保護
動物の生命/人の受精卵(初期胚)・胚子の生命/胎児の生命/人の生命
人の生命の始期と終期/安楽死と尊厳死/自殺関与罪の問題点
2. 暴行罪と傷害罪
暴行と傷害の概念/暴行と傷害の意義/同時傷害の特例/胎児性傷害の問題点
ひき逃げと傷害致死罪・遺棄致死罪・殺人罪
3. 住居侵入罪と放火罪
住居侵入罪の保護法益/住居侵入罪の問題点
放火罪の既遂時期/建造物一体性の問題
4. 名誉・信用を侵す罪
信用毀損罪/信書開封罪/名誉毀損罪と侮辱罪/名誉毀損罪と事実の証明
5. 性と犯罪
わいせつ性の概念/強制わいせつ罪/わいせつ物頒布罪
夫婦間レイプ/女子による強姦罪/強盗強姦罪
6. 財産罪の諸問題(1)
財産罪の態様/財産罪の保護法益/財物の概念
無銭飲食・宿泊/キセル乗車/CDカード詐欺
不法原因給付と詐欺罪/権利行使と詐欺罪
7. 財産罪の諸問題(2)
強盗罪の諸問題/横領罪と背任罪
8. 各種偽造の罪
通貨偽造罪/文書偽造罪/有価証券偽造罪
9. コンピュータ関連犯罪
コンピュータ犯罪の分類・態様/コンピュータ犯罪と財産罪
電子コピーの文書性・電磁的記録の文書性
文書偽造罪と電磁的記録不正作出罪/テレホンカードの度数不正変更
10. 公務員関連犯罪
賄賂罪の問題点/職権濫用罪/公務執行妨害罪と業務妨害罪
11. 刑事裁判に支障を来す罪
犯人蔵匿罪/証拠湮滅の罪/偽証罪
12. その他

履修上の留意点

刑法各論に関心のある学生諸君だけの参加を希望するが、教科書以外のことや特別資料に基づいて講義するので、毎回出席してノートをとることが必要である。

成績評価の方法

定期試験のほか逐次小テストをするので、それらと出席状況を総合的に評価して決める。

教科書

松村格『刑法学への誘い』(八千代出版)
松村格『日本刑法各論講義』(八千代出版)

参考書等

別冊ジュリスト『刑法判例百選Ⅱ各論(第4版)』(有斐閣)
『刑法基本講座(全6巻)』のうち5巻6巻(法学書院)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
行 政 法 総 論	うめ き たかし 梅 木 崇	二 法 2 選	4

講義のねらい

(1)行政とはなにか。(2)行政はだれが、だれに対して行うか。(3)行政はどのようにして行われるか。(4)行政によって損害を被った場合、どのように救済されるか。

これらの点について、従来から行われてきた行政法の内容を体系的に講義する。法に関する学問のうち、もっとも理解しにくいとされる行政法であるから、できるかぎり具体的な例を引きながら講義をすすみたい。諸君の将来の希望として公務員になることがあげられるので、そのための資料を提供することにも努める。単位の取得よりも、その将来の目的達成のために必要な、国あるいは地方の公務員試験の問題を頭におきながら講義をすすめる。その際に実際に行なわれた問題〔択一式 公務員試験における行政法の割合は相当におおきい。それも択一式に重点がおかれている〕そのものの検討も、講義の進捗にあわせて、時間が許せば、行ってみたいと思っている。

教 科 書

教科書としては、原田尚彦、小高剛編『行政法入門』（有斐閣新書 最新版）をもちいる。ただし、公務員試験の対策としては、これでは不足で、原田『行政法要論』（全訂三版）または塩野宏『行政法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』程度のもは用意する必要がある。

そ の 他

なお、講義を行なうにあたって、講義者の著作も随時参照するつもりである。最近、公務員試験は、国家二種、都道府県、市町村を問わず、相当な難関になっている。それに合格するための知識はどろなわ式では獲得できない。したがって、相当早期から、その準備にかかる必要がある。しかし、そのための方法があり、それを習得すれば成果はあげられるものである。目的をはっきりもって大学生活をおくるべきであるが、公務員試験への合格は、それに値するものである。講義者の経験からいって、努力した者は、必ずといってよいくらい合格し、それぞれの分野で活躍している。ただし、学ぶ気のない者が、成功するわけがない。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
裁 判 法	あめ 雨 みや 宮 まさ 真 や 也	二法2・3・4選	4

講義のねらい

主として、わが国の裁判制度について、その組織と運用の実情を理解させることをもって、この講義の目的とします。

裁判とは、社会関係における利害の衝突、紛争を解決し調整する規律を定めるための、法的な権威を有する第三者の判定です。

社会関係の複雑化と国民の権利意識の高まりとに従がい、現代社会において裁判の果たすべき役割は、年々その比重を増してきています。

裁判制度の現にある姿を明らかにするとともに、そのあるべき姿を求めるため、特に、裁判の本質、裁判の構造、裁判の論理、裁判と法律の解釈、裁判と事実認定、裁判の機能、判例の成立と意義等の諸論点について、重点を置いて講義します。

裁判における裁判官の思考プロセスにも触れ、法的思考の何たるかをも明らかにしたいと考えています。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、後掲の教科書に従って進めて行きます。

まず、「総論」として、裁判の本質、裁判の歴史、現代社会のかかえる裁判制度上の諸問題等について講義します。

次に「裁判組織論」として、裁判制度の基本原則、最高裁判所を頂点とする各種裁判所の組織・権限等について講義します。

さらに「裁判作用論」として、裁判の心理過程、裁判の種類と効力、民事・刑事・行政の各種裁判手続等について講義します。

最後に「司法関係諸制度」として、検察、弁護士、公証人等の諸制度につき講義します。

履修上の留意点

教科書を予め読んで、疑問点を把握しておいて下さい。

成績評価の方法

期末試験における論文式テストにより評価します。

教 科 書

兼子一・竹下守夫著『裁判法』（改訂版 有斐閣）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
環 境 法	まつ 村 ゆみ ひこ 松 村 弓 彦	二法2・3・4選	4

講義のねらい

環境問題を事実と法律論の両面から理解する。私法からのアプローチを中心とするが、現在我が国が当面している環境法上の重要課題については、公法・国際法の分野の問題を含めて勉強する。

講義の内容・授業スケジュール

教科書と判例（必要に応じて配布する）を中心とし、概ね以下の項目にわたる。
 (1) 環境法の背景・歴史・理念等
 (2) 環境保全法制
 (3) 環境責任
 (4) 費用負担
 (5) 特殊問題 — 我が国が当面する諸問題

履修上の留意点

事実を踏まえた法理論の理解を深めること。

成績評価の方法

論文式試験（年1回）および授業中の報告の評価による。

教科書

拙著『環境法学』（成文堂） ¥2,575

参考書等

森島昭夫ほか編『公害・環境判例百選（別冊ジュリスト126号）』（有斐閣） ¥2,300

その他

授業の方法はテーマに応じて講義形式とゼミ形式を併用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
知的財産権法	もり おか かず お 盛 岡 一 夫	二法2・3・4選	4

講義のねらい

知的財産権法には、狭義の工業所有権法（特許法・実用新案法・意匠法・商標法）および著作権法等が含まれる。知的財産権法は、知的所有権法または無体財産権法といわれることもある。知的財産権法全般についての基礎理論を理解できるように、わかりやすく講義したいと考えている。学説・判例の対立している点については、これに関する学説・判例を紹介し、問題点の所在をあきらかにしたい。

特許法においては、発明の定義、特許を受けるための要件、従業者が発明をした場合の法律関係、特許権の侵害に対する救済方法、実施契約等について、実用新案法においては、特許法との相違について、商標法については、商標登録要件および類似商標について詳しく解説する。著作権法および不正競争防止法についても講義する。

講義の内容・授業スケジュール

前期：特許法・実用新案法
 後期：意匠法・商標法・著作権法・不正競争防止法

成績評価の方法

前期・後期に行なう平常試験および学年末試験によって評価する。

教科書

盛岡一夫『工業所有権法概説—知的財産権法の基礎— [第2版]』（法学書院）

参考書等

特許庁編『工業所有権法逐条解説』（発明協会）、中山信弘『工業所有権法上』（弘文堂）
 鴻・紋谷・中山編『特許判例百選』（有斐閣）、斉藤・半田『著作権判例百選』（有斐閣）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
税 法	きし た さだ お 岸 田 貞 夫	二法2・3・4選	4

講義のねらい

税法の体系を法的な見地から検討し、所得税法等の規定の解釈を中心として、税法の意義、役割、問題点等を研究する。

講義の内容・
授業スケジュール

税法の意義、機能、体系、租税法律関係の特色、租税の確定手続き、所得税法における納税義務者、課税所得の意義、所得の種類、収入及び必要経費の範囲等について、順次講義する。

履修上の留意点

予習の上、問題意識をもって授業に参加されたい。

成績評価の方法

前期及び後期の試験の結果により評価する。

教 科 書

岸田貞夫他著『現代税法の基礎知識』（株ぎょうせい）2,100円

参 考 書 等

金子宏著『租税法』（弘文堂）

そ の 他

授業は講義方式で行う。なお、レジュメを配付する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
法 哲 学	たか はし ひろ き 高 橋 洋 城	二法 2・3・4 選	4

講義のねらい

・法哲学は、「法学」の基礎的一分野であると同時に、「哲学」でもある。法制度や法的思考をめぐる基礎理論や根本的諸問題を考察しながら、法と関わりつつ生きる人間という存在者をどのように把握していけばよいのかという視点を常に持って、一緒に考えてゆきたい。

・法哲学は出来上がった知識の体系ではない。各人が一人一人で考える、その手がかりになるに過ぎない。しかし、一人で内省しているだけでは自ずからその思考の広がりにも限界がある。法と人間・社会の関わりにおいて、どのような問題があり、どのような考え方が提起されているのか、さまざまな議論に触れることで、各自の思考の自由度を広げてもらうことが目標である。

講義の内容・授業スケジュール

まずは現在、法や法的思考をめぐる論じられている様々なトピック、たとえば、法と道徳正義、強制との関係、権利概念のさまざまな捉え方などを取り上げて検討していくが、その際のやり方としては、できるだけ、現象として現れている具体的な問題の紹介・検討から入り、その根底にある根源的な思考や原理を洗い出し問うていく、という方式をとりたいと考えている。具体的にはたとえば、生命倫理・環境倫理と法、人間の自由と所有権、裁判や法解釈学の意味の検討等を考えている。その中で、法実証主義や自由法論などの法に対する見方、人格や権利に対する様々な哲学的立場などを紹介し、実定法学その他の学習の中でも生かされるような視座の獲得を目標としたい。なお、講義の中では、実定法の議論の参照のみならず、他の人文・社会科学、とりわけ哲学、倫理学、社会学などの知見にもしばしば言及することになるであろう。

成績評価の方法

レポートによって評価（前・後期2回提出）。その他は未定だが、たとえば授業時間内に小論を書いてもらうこともありうる。

教科書

教科書は特に指定しない。ただし講義を補う意味で、何らかの法哲学の概説的著作を手許に置いて常時参照されることを希望する。どのようなものがあるかについては、講義の初期の段階で紹介する。なお、法思想史の背景的知識を前提に話さなければならないことも多いので、できれば法思想史関係の概説書も各自入手し、自学自習に役立ててもらいたい。

参考書等

その他の参考文献については、講義の進行過程でテーマに応じてそのつど紹介する。

その他

「講義のねらい」で述べた通り、法哲学という学においては知識の獲得・整理が目標ではないのだから、講義ならびに概説書だけでなく、こちらから指示する参考文献を含め、様々な著作、思考、問題に自ら直接あたり、自分なりの思索を行うつもりでのぞんで欲しい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国 際 私 法	かき はら とし ひろ 笠 原 俊 宏	二法 2・3・4 選	4

講義のねらい

渉外的要素を有する私法問題の解決を目的とするのが国際私法である。それは、狭義において、準拠法の選定を主たる役割とする。その意味において、国際私法は、民法や商法のように私法問題の判断基準となる法律とは、規律する領域を異にしており、異なる次元に位置づけられるものとして、上位規範などと呼ばれることがある。講義においては、国際私法のこのような特質を明らかにしつつ、実質法における理念の変化が国際私法にとっても無縁でないことを実証的に論じたいと考えている。時として難解な科目であるといわれることがあるが、最近の身近な問題を具体例として取り上げるなどして、できる限りわかりやすいものとなるよう工夫したい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の内容およびスケジュールについては、ほぼ次のように予定している。

1. 国際私法総論（4月、5月）
2. 国際家族法（6月、7月、9月、10月）
3. 国際財産法（11月、12月）
4. 国際民事訴訟法（1月）

履修上の留意点

基礎となる他の科目、就中、家族法について、基礎知識を有することが好ましく、民法についても併せて学習することを期待する。

成績評価の方法

成績評価は、学年末の筆記試験によって行なう予定である。

教 科 書

教科書として、笠原俊宏著『国際家族法（新版）』（高文堂出版社）を使用する。

参 考 書 等

いずれかの六法を常に携帯することを望む。

そ の 他

授業は普段講義によって進行するが、時折、事例を設定して、皆で一緒に考えることも予定している。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
金 融 法	かわ 田 えつ お 川 田 悦 男	二法 2・3・4 選	4

講義のねらい

わが国の金融界は、急速に進展する金融のグローバル化、自由化という大きな流れのなかで、不良債権問題などバブル後遺症からの早期脱却を図ることと、金融ビッグバンのもと21世紀に向けて生き残りをかけた業務戦略の展開を図るといふ、いわば相反する重要な経営課題に直面している。

一方、利用者の側からみると、現代社会は企業も個人も金融機関と極めて密接な関わりあいをもっており、経済取引社会はもちろん個人の生活に至るまで銀行取引なしには成り立たないといっても過言ではない。

本講義は、このような変革激動のなかで、われわれ一般市民として、また将来の金融人・企業人として必要な銀行取引に関する基礎的な法律知識と諸問題について、できるだけ実社会の生きものとして学ぶことを狙いとしており、さらには実学の楽しさについても学びとっていただければと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

金融法はまだ新しい科目分野であるが、その対象領域はかなり広く関係する法律も多い。

本講義では、これらを主に具体的な取引法の観点から学ぶこととし、制定法の規定が現実にはどのように修正されて実際取引に適用されているのか、また、金融環境の変化がどのような新しい法律問題を生じさせているのかなど生きた学問として学習する。

講義内容は次を予定している。詳しくは初回講義の際に資料配布する。

- I 金融法の特質、わが国の金融制度、金融機関の業務内容
- II 預金取引、貸出取引、為替取引、手形交換と取引停止処分制度
- III 担保・保証、貸出管理・回収
- IV 付随業務、周辺業務

成績評価の方法

学年末試験を基本に評価する。

教科書

最初の講義のときに話します。

その他

講義形式による。プリントを配布、一部ビデオを利用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国際紛争解決法	おう 王 志 安	二法3・4選	4

講義のねらい

国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界及び適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。

講義の内容・授業スケジュール

国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能及び事例検証の形で解明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決及び世界貿易機構（WTO）の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査及び調停といった制度の展開及び適用、国連における紛争処理の制度的展開及び現状、そしてWTOの紛争処理制度の発展、手続き及び制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判及び国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立及びその手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。

履修上の留意点

参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。要点を板書するので、聴講ノートをしっかり取ってもらいたい。

成績評価の方法

年末の筆記試験によって評価する。

教科書

松田幹夫編著『現代国際法』（八千代出版 1997年） 2,700円

参考書等

市販されている国際条約集及び国際判例集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。

その他

授業は主として講義方式で行うが、判例の分析につき学生のまとめ報告を求めることがある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
担 保 物 権 法	つる い しゅん きち 鶴 井 俊 吉	二 法 3・4 選	4

講義のねらい

この講義では、民法典の第二編「物権」のうちで、留置権、先取特権、質権、抵当権を中心に、譲渡担保、仮登記担保等が対象となる。担保物権制度は、資本主義経済の発展に伴って、その重要性がますます増大している。今日、財産法領域で最も変化の多いところであり、取引界の要請により、新しい法令が制定され、年々歳々進展し、著しく変動している。

講義の内容・授業スケジュール

私たちが土地を買い、建物を建てる、あるいは自動車を買うという場合に、多くは金融機関から融資を受けることになるが、金融機関では何らかの担保を要求してくる。この場合に、抵当権や質権といった担保物権を金融機関に設定する。このように小は個人の資金調達のため、あるいは大は、企業の活動資金獲得のために担保は重要な役割を担っている。担保物権法のもつ経済的意義は極めて重要である。

しかし、学生にとって担保物権法は、民法の中で最も難解なところと感じられ、また比較的なじめない領域だと思われる。それは、多数の関係当事者が複雑に絡み合い、また解釈上でも技術的性格が強いことに原因がある。

そこで講義では、担保物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例をとりあげ、図解してわかりやすいように心掛ける予定でいる。

履修上の留意点

学期の初めに、担保物権法の主要な部分についての概略の説明を予定している。それによって担保制度の全体像が把握できるであろう。それゆえに、最初から講義に出席しないとなかなか興味を持てなく、理解できなくなるので、毎時限の出席と予習を強く希望する

教 科 書

遠藤・川井他編『民法(3) 担保物権』(有斐閣双書)を予定している。

参 考 書 等

講義の最初に指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
債権各論	はやし 林 ころ じ 司	二法3・4選	4

講義のねらい

- 1: 民法、特に債権各論について、受講生に「基礎的な理解」が身につくよう目指すこと
- 2: この分野の諸テーマにつき、「具体的な事例問題を通して理解を深める方法」を修得してもらい、それによって受講生の「民法に対する興味」を触発すること

講義の内容・授業スケジュール

債権各論は、債権の「発生原因」を扱う分野であり、①契約、②事務管理、③不当利得、④不法行為がその主要な原因である。これらは全て、諸君が日常生活で無意識のうちに触れているものばかりであり、具体的な問題がほとんどである。これらについて研究し理解を深めることは、民法の「具体的なイメージを把握するための突破口」となるはずである。

〈講義の方法〉

- 1: 板書中心の講義であること
私独自の観点からポイントを整理するため板書中心の講義を行い、途中で適宜、教科書・参考書の該当箇所を指示・解説するという方法を採用。その際、かなり多くの図や表を必要とするが、それも主に板書によってカバーする。
- 2: 意義・要件・効果の整理に重点をおくこと
私も学生の頃は、ただ闇雲に教科書や判例解説集に書いてあることをグラダラと覚えようとしたものである。しかし、それは、山の中を、地図も磁石盤もなく、ただ地面を見て石ころを数えている姿に似ていると感じ、むなしい気持ちに苛まれる結果となった。本講義で整理の中心に位置付ける「意義・要件・効果」は、講義中、諸君が立っている位置を知るための『座標軸』だと思ってほしい。そのことの意味はとてここでは書き切れない。詳しくは、講義で聴いていただきたい。
- 3: 具体的な「事例問題」（または判例）を素材とすること
事例問題集をプリントして配布し、あるいは、指定した参考書の中から判例を指示し、意義・要件・効果と結び付けて解説する。具体的な事例を想定しての理解以外に、真に納得のいく理解はないと信ずるからである。
- 4: 受講生からの質問を講義に反映するよう努力すること
毎回講義前に用紙を全員に配布し、質問・意見・感想・要望などを書いてもらい、その中で、「これは！」と思うものを次回の講義に反映することを心掛けるつもりである（質問への解答が中心となる）。

成績評価の方法

後期試験による評価が中心となるが、講義後に回収する質問や意見などにも受講生の理解度や積極的な姿勢が現れていることが多い。これらに対しても若干のプラス評価を行うつもりである。

履修上の留意点

- 1: 私語の厳禁
あまりにも当然過ぎて、ここで触れることすら情けないのだが、大学生にもなって、講義中の私語が許されると思っている者がいるようである。強く注意して、やっとな静かになるというのが現状であるが、不思議にも、本人に全く反省の色がなかったり、何か悪いことをしたのか（又は「なぜ俺だけが」）と言わんばかりに睨み返してくるということもある。このテの者にはその場で『登録抹消』を通告するという強い態度で臨むので覚悟してもらいたい。
- 2: 他の履修科目について
できれば債権総論も受講してほしい。この分野は、各原因によって発生した様々な債権に「共通する事項や性質」などを扱う領域で、債権各論を理解する上でも重要な分野だからである。もちろん、発生原因を扱う債権各論から先に手をつけようという人がいても一向に構わないし、理論上何の問題もないが、いずれは債権総論も修得してほしいものである。

教科書

内田 貴著『民法Ⅱ 債権各論』（東京大学出版会） 3,600円

科目名	担当者名	配当学年	単位
相続法	たけなか 竹中智香	二法3・4選	4

講義のねらい

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。

講義の内容・授業スケジュール

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も重視する。

教科書

遠藤浩ほか編『民法(9)相続〔第4版〕』(有斐閣双書) 1,648円

参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』(有斐閣) 2,200円
六法

科目名	担当者名	配当学年	単位
有価証券法	しまはらひろあき 島原宏明	二法3・4選	4

講義のねらい

現代の経済社会における企業間の取引では、手形や小切手等の有価証券が数多く使用されている。中でも手形と小切手は典型的な有価証券であって、その流通に関する法規制の多くは商法上の他の有価証券にも及んでいる。したがってその体系の理解は有価証券全般を理解する上で不可欠なものである。また、手形や小切手は金銭債権と結び付いた証券であるため、これに関する法体系は債権法の一部として把握され、民法の債権総論と密接な関係にある。

講義の内容・授業スケジュール

手形法は第一編為替手形と第二編約束手形の二編から成り立っており、為替手形についての規定の多くを約束手形に準用するという構成になっている。ただし、わが国においては為替手形がほとんど用いられていないという現実があり、また為替手形に比べて約束手形の方が仕組みが単純であるため、条文の順序とは一致しないが講義では約束手形を中心に説明を行い、適宜為替手形、及び為替手形と基本的な仕組みを同じくする小切手についての説明を付け加えていくという形をとる。

なお、企業活動に関わったことのない学生諸君には手形や小切手の世界は現実感が乏しく興味が起こりにくいという現実があるため、なるべく具体的な判例を示して解説をしていくつもりである。

成績評価の方法

成績評価は期末試験による。

教科書

丸山秀平『手形法小切手法概論』(中央経済社) ¥3,500

参考書等

倉沢康一郎『手形判例の基礎』(日本評論社) ¥2,600

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
保 険 ・ 海 商 法	やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦	二 法 3 ・ 4 選	4

講義のねらい

私たちの生活は、いろいろな危険に満ちている。私たちは、それにあまり気が付かず生活していたりするが、時には、不幸な事故に巻き込まれたり、あるいは逆に事故を引き起こしたりもする。こうした不幸への危険性は、この社会に生き、活動しているすべての人々（すなわち法主体、当然、会社も人である）に程度の差こそあれ、無縁ではない。危険が現実のものとなったとき、そこに通常、損害が発生する。この損害は、どのように処理すれば良いのだろうか。事故を引き起こした者がいるのであれば、この者が損害を負担すべきである。しかし、この者に資力がなかったならば、被害者の受けた損害は回復されずに酷いことになる。さらに、加害者も存在していないような場合には、どうすれば良いのだろうか。こうしたことへの不安は、人が生き活動して行く上での不安であり、今に始まったことではない。人類は、古くから、このための種々の方策を考えてきたが、複雑・高度化した現代社会は、かつてないほどの、不安と危険のジャングルとなっているのである。保険は、そのための方策の中で、最も高度に洗練された仕組みである。私の講義では保険という仕組みが法的にどのように制度化されているかを見る。

ところで、保険は、他面において賭博に似ている（どちらも偶然の出来事により、多額の金銭を取得できるではないか）。そして、海の危険に満ち満ちた海上企業活動は、かつては、冒険企業の典型であった。保険が考案され発展したのは、中世地中海世界が育んだ海上企業活動においてであったということは、保険と海商との賭博的な共通の色彩の賜といえるのかもしれない（やがて保険制度は、海から陸にも上がり、今日見られるような隆盛を迎える）。当時の海上企業は、現在の海上企業とはかなり異なっていたし、（法的制度としての株式会社に先駆けていたのであるが、株式会社の登場は後年のことである）、その企業活動も海賊が立派な企業活動として認知されていたことから明らかなように、現在と大部隔っている面があった。しかし、近代的国家が形成される前から活発に行なわれていたイタリアの海港都市等に端を発する海事慣習は、その後一定の地域的広がりを得ながら、ヨーロッパのその他の港にもそれぞれの海事慣習の形成を促がし、それらがようやく確立する国家の法典に、取捨選択されつつ、結実し、その過程において、民商事法の源流の一つを形成したのである。

さて、そこで海商法である。海商法は、船舶を手段とする海上企業活動に関する法である。当然のことながら、船舶の活動する舞台ともいべき海は、世界へとつながっている。経済活動が、狭い一国の地域的空間にのみ終止するのであれば格別、現在のように、世界的規模での市場が形成され、経済活動も世界的広がりを持つにいたると、原料やその加工品である商品の流通は、血管を流れる血液のように確保されなければならない。船舶による海上運送は、いわば、血液の中の血晶板のようなもの——または、血液そのものである。船舶を利用して遂行される海上運送は、その国々の経済体制を支えるものであり、世界経済に重要な貢献を果すものである。私の講義では、この海上企業活動を、商法の視点から捉え、そこに働く基本的な法原則を見ることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、保険法を中心にする。①保険制度と保険法、②保険契約の当事者・関係者、③保険契約の成立と終了、④保険契約の内容と効果、⑤損害保険契約の意義・内容、⑥損害保険に特有の効果、⑦保険担保、⑧火災保険と地震保険、⑨責任保険と自動車保険、を中心項目とする。

後期は、海商法を取り上げる。①海商法の意義と発展、②海上企業の物的組織、③海上企業の主体、④海上企業の責任と制限、⑤海上物品運送契約の意義と種類、⑥海上物品運送契約の履行（海上物品運送人の義務と権利）、⑦海上物品運送人の責任、⑧船荷証券の意義および種類と発行、⑨船荷証券の効力、⑩海上売買、を中心とする。

保険法および海商法も1項目につき1時間ないし2時間を予定する。

履修上の留意点

講義には六法を持参して下さい。

成績評価の方法

出席は、毎時限、取ります。これは期末試験での成績評価の際に考慮します。

教科書

教科書は、山野嘉郎・山田泰彦編著『現代保険・海商法30講』（中央経済社）3,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民 事 訴 訟 法	すぎ 杉 うら 浦 とも 智 つく 紹	二 法 3・4 選	4

講義のねらい

民事訴訟は、その対象が日常生活をめぐる法的紛争（民事紛争）である事から、その法的紛争を解決する方法としての民事訴訟法学の理論的考察には、取り分け実体法との関連性を重要視し、訴訟法理に実体法理を包摂するとの基本的構想を採る必要性があると考えている。また、講義では判決手続を中心に、憲法との関連性をも重視しつつ、適正且つ迅速な裁判をするには、裁判所と当事者との協働作業が不可欠であることを充分認識した上で、民事訴訟法の基礎理論からはじめて、訴訟構造論、訴訟主体論、訴訟客体論、訴訟過程論、裁判論、等について論及する。具体的には、訴提起の段階、口頭弁論・証拠調べの段階、訴訟終了の段階に対応した、民事訴訟法上の主要な論点について、「問題の所在」を示し、学説・判例の動向を整理・紹介し、どういう角度から問題にアプローチし、また結論を導くべきかに重点をおいて、考察・検討するという方法をとる。特に訴訟過程において、訴訟主体が主体的役割を果たしたか、また果たせたかが、裁判の効力に影響することを、大きな課題として、講義を進める予定である。

講義の内容・授業スケジュール

- I 民事訴訟の基礎理論
 - ① 民事訴訟と民事紛争
 - ② 民事訴訟の基本原則 — (1) 処分権主義、(2) 弁論主義 (3) 必要的口頭弁論の原則 (4) 民事訴訟の憲法的保障
 - ③ 訴訟の構造理論
 - ④ 現代型訴訟と問題の所在
- II 民事訴訟の主体論
 - ① 裁判所 (1) 構成と管轄 (2) 裁判所の除斥・忌避
 - ② 当事者 (1) 当事者概念 (2) 当事者をめぐる諸問題 (3) 当事者能力 (4) 訴訟能力 (5) 当事者の確定 (6) 当事者適格 (7) 訴訟における代理・代表
- III 訴訟客体論
 - ① 訴と請求
 - ② 訴訟における審判対象 (1) 審判対象の特定 (2) 訴訟要件の調査と審理順序 (3) 訴訟物の構成 (4) 訴訟物争論問題 (5) 訴提起の効果
- IV 訴訟過程論
 - ① 口頭弁論 (1) 裁判資料の収集 — 主要事実と間接事実 (2) 口頭弁論の経過 (3) 当事者の訴訟行為
 - a) 意義と種類 b) 訴訟契約=訴訟上の合意 c) 訴訟行為と私法規定 d) 訴訟行為の瑕疵と治癒 e) 形成権の訴訟上の行使
 - ② 証拠
 - (1) 事実認定と証拠 a) 証拠の必要性 b) 要証事実・不要証事実 c) 証拠の意義
 - (2) 証拠調べの実施 a) 証拠調べ通則 b) 各種の証拠調べ c) 自由心証主義
 - ③ 訴訟における主張と証明
 - (1) 主張責任と証明責任 (2) 弁論主義による証明責任の機能の拡大 (3) 証明責任の分配基準 (4) 証明困難軽減の諸方法(5) 証明責任における当事者の対等性の原則
- V 訴訟の終了
 - ① 訴の取り下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解
 - ② 判決 (1) 裁判の種類及び判決の種類 a) 中間判決 b) 終局判決 c) 訴訟判決と本来判決 d) 判決の成立
 - ③ 判決の効力
 - ④ 既判力 (1) 意義 (2) 既判力理論 (3) 既判力を有する裁判 (4) 既判力の作用 (5) 既判力の範囲
 - a) 時的範囲 b) 客観的範囲 c) 主観的範囲 d) 争点効および反射効
 - ⑤ 執行力・形成力・附随的効果
- VI 訴訟における訴訟参加
 - ① 補助参加 ② 独立当事者参加 ③ 共同訴訟参加・共同訴訟的補助参加
- VII 訴訟における複数請求審理
 - ① 複数請求訴訟 (1) 訴の客観的併合 (2) 訴の変更 (3) 中間確認の訴 (4) 反訴
 - ② 訴の主観的併合=共同訴訟 (1) 通常共同訴訟 (2) 必要的共同訴訟 a) 固有必要的共同訴訟 b) 類似必要的共同訴訟 (3) 共同所有関係と必要共同訴訟
- VIII 訴訟における不服申立て制度
 - ① 裁判と不服申立て ② 控訴 ③ 上告 ④ 抗告 ⑤ 再審

履修上の留意点

手続法は実体法の理解とは異なり、体系的に連続しているので、講義には必ず出席し、また講義が楽しくなるかは、予め問題意識をもっていか、または関心があるかにかかっているため、講義対象は前週に指示しておくので、参考書等に目を通して受講されることが望ましい。また法律の勉強は理解することにあるので、それには先づ以て条文を読むことが大切である。従って、六法全書に親しむ習慣を是非つけてほしい。

成績評価の方法

民事訴訟法の試験は、①期末の定期試験でペーパーテストを行い、これを成績評価の重点項目とするが、②前期段階で小テストを行う。どの程度の理解が出来ているかを確認するため、講義をした主要な事項について、設問形式で結論と理由づけを三行以内で書かせる方式を採り、テスト終了後、設問に対する解答及び理由づけを開示し、答案は、採点の上各人に返還する。③学生との信頼関係下、年間使用できる受講カードを配布し、毎時間の授業項目を記載させ、単位を必要とする者には、これを自己管理させ、期末に提出させる。以上の三点を総合判断して成績の評価を行う。

教科書

特に指定はしない。

参考書等

1. 中野／松浦／鈴木編『民事訴訟法講義』（有斐閣）
 2. 新堂幸司著『民事訴訟法』（筑摩書房）
 3. 三ヶ月章著『民事訴訟法』（弘文堂）
 4. 谷口安平著『口述民事訴訟法』（成文社）
 5. 上田徹一郎著『民事訴訟法』（法学書院）
 6. 『民事訴訟法の争点（新版）』ジュリスト（有斐閣）
 7. 『民事訴訟法判例百選Ⅰ、Ⅱ』ジュリスト（有斐閣）
- その他、講義の進行に応じて適宜、詳しい文献の紹介は行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民事執行・保全法	とが 梅 よし 善 お 夫	二 法 3・4 選	4

講義のねらい

実際社会において、重要な役割を果たしている民事執行法と民事保全法について講義します。
民事執行法は、権利の事実上の実現手続きです。民事保全法は、将来の権利実現を保全する手続きです。民事執行法、民事保全法の解釈と両法律の基本原則、重要判例についての理解を目的とします。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、以下のような順序と内容で行います。なお、より詳しい年間の予定表は、第1回目の講義のときに配布します。

- (1) 私法上の権利実現方法
- (2) 強制執行法の改正と民事執行法の成立
- (3) 仮差押え・仮処分の改正と民事保全法の成立
- (4) 民事保全法（仮差押え・仮処分について説明する。）
- (5) 民事執行法総則（執行機関・執行当事者、執行抗告と執行異議等について説明する。）
- (6) 強制執行法総論（債務名義、執行文付与をめぐる救済方法、請求異議の訴え、第三者異議の訴え等について説明する。）
- (7) 強制執行法各論（金銭債権執行、非金銭債権執行、特に不動産の強制執行を中心として説明する。）
- (8) 担保権の実行としての競売（抵当権などの担保権の実行について説明する。）

履修上の留意点

民事訴訟法をすでに履修している人、あるいは並行して履修する人の履修を希望します。

成績評価の方法

成績の評価は、期末の筆記試験のみによって評価します。

教科書

内田武吉編『民事執行・保全法要説』1995年（成文堂） 3,211円

参考書等

浦野雄幸編『基本法コンメンタール民事執行法（第三版）』1997年（日本評論社） 4,200円

その他

竹下守夫・伊藤 眞編『別冊ジュリスト民事執行法判例百選』1994年（有斐閣）

科目名	担当者名	配当学年	単位
倒産処理法	まこしみちお 馬越道夫	二法3・4選	4

講義のねらい

倒産処理法とは破産法・和議法・商法上の会社整理清算、特別清算に関する法規・会社更生法など倒産に関する諸法規の総称である。ここに倒産とは債務者が経済的に破綻し債務の弁済が極めて困難になった状況をさす。倒産処理法には目的が異なる二種の法規が存在する。一つは債務者の財産を清算し債権者への平等弁済を図る制度であり、(例・破産法)、他の一つは債務者の財産を全面的に清算することなく、取引関係を整理し企業の再建を計る制度である。(例・会社更生法)。

講義のねらいはかかる倒産処理法の特徴をふまえ判例を挙げ具体的に講義したい。

講義の内容・授業スケジュール

4月・5月 倒産処理法一般について概説
6月・7月・8月・9月・10月 破産法
11月・12月・1月 会社更生法・その他
授業時間ごとに、その時間の講義の要旨を記載したプリント(レジュメ)を渡します。

履修上の留意点

受講者は民法・民事訴訟法の基礎知識を履修していることが望ましい。

教科書

桜井孝一編 馬越道夫著『演習ノート破産法』(法学書院発行) ¥1,800

参考書等

石川明『破産法』(日本評論社発行) ¥2,800

科目名	担当者名	配当学年	単位
行政法各論	かねこしょうへい 金子昇平	二法3・4選	4

講義のねらい

現代の行政法の課題は、従来あまり教科書では対象とされていない新たな法分野をうみ出している。例えば阪神大震災の問題に対して、行政法の理論がどう対応出来るのか。高齢者・小児化に対して、法はどう機能しているのか。事象に対応した新たな立法が必要とされてきている。そこで講義においては、よりアップ・ツー・デートの課題を積極的に提示し、諸君とともにそれぞれの問題解決のための手法を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

授業の内容は、教科書に沿った講義を行うが、先に述べたように教科書に記述されていないテーマについても、法律上の問題点を数多く取り上げてみる。

具体的な事件等を知る手がかりとして、裁判所の判例も相当量ガイドする。

履修上の留意点

行政法は、さわめて数多くの法律が登場してくるので、その法律の名前や条文の意味について解説する必要上、六法全書(小六法)を必ず持参すること。

成績評価の方法

出席状態も参考にする。

教科書

成田頼明他編『現代行政法』(有斐閣)

参考書等

講義では、数多くの判例を読む必要があり、講義内容に沿ったものを適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
刑 事 訴 訟 法	おぎそ 小木曾 りょう 綾	二 法 3 ・ 4 選	4

講義のねらい

刑事手続の基本について理解することが目的である。
 犯罪の予防、摘発と、国家機関の権限の適正な行使によって個人の自由や市民社会の安全は維持されている。外国法にも目を向けながら、前期は捜査について、個人の自由を保障しつつかに効果的な法執行を実現するかを考え、後期は公判の諸原則を学びながら、最も厳しい制裁である刑罰を科すための手続的な公正さ・手続的正義について考える。

講義の内容・授業スケジュール

1. 任意捜査と強制捜査
2. 逮捕
3. 捜索・押収
4. 検証・鑑定
5. 明文の定めのない捜査方法とその規律
6. 身柄拘束下の取調べ
7. 被疑者の弁護権
8. 職務質問、所持品検査
9. 訴追裁量
10. 公判構造
11. 起訴の方式と訴因
12. 証拠開示
13. 排除法則
14. 自白調査の証拠能力
15. 伝聞法則
16. 無罪推定
17. 裁判とその効果
18. 上訴

履修上の留意点

社会に生起する事件や法律問題に常に関心をもってほしい。六法は必携である。

成績評価の方法

年度末の筆記試験による。

教科書

下記のいずれか。第1回授業時の説明を聞いてから購入するのがよいだろう。なお、参考書に指定した判例集を各自もっているとの前提で授業を行なう。
 安富 潔『やさしい刑事訴訟法』(法学書院)
 渥美東洋『刑事訴訟法』(有斐閣)
 田宮 裕『刑事訴訟法』(有斐閣)
 松尾浩也『刑事訴訟法(上)(下)』(弘文堂)

参考書等

渥美東洋編著『刑事訴訟法基本判例解説』(第3版)(三嶺書房)

科目名	担当者名	配当学年	単位
演習 I	あおのひろゆきの 青野博之	二法 3 選	4
演習 II		二法 4 選	

講義のねらい

民法上の問題を自分で見つけ出し、相手も納得できるような解決を考える。

講義の内容・授業スケジュール

民法上のさまざまな問題の中から、ゼミ生が報告したいテーマを自分で探し出してくる。このテーマがゼミの内容になる。たとえば、授業を聞いていたときに疑問に思ったこと。新聞を読んでいて他の人がどのように思うか聞いてみたくなったことなどであるが、民法上の問題であれば、なんでもよい。

履修上の留意点

ゼミ生が報告したいテーマを自分で探し出し、報告し、全員で質疑応答してほしい。ゼミ生が主役である。主役たちの活発な討論を期待する。ゼミ生の意欲と関心でゼミが進んでいく。そんなゼミになることを希望する。

毎回、担当者が作成し、少なくとも1週間前に配布されたレジюме(要旨)にそって討論する。1回でテーマが終わってもよいし、2回以上続いてもよい。

ゼミ参加希望者は、現在のゼミ生(つまり、先輩)に、ゼミの内容・雰囲気をも十分に聞くことを忘れないように。

科目名	担当者名	配当学年	単位
演習 I	おぎそりょう 小木曾 綾	二法 3 選	4
演習 II		二法 4 選	

講義のねらい

刑事手続は人の自由や社会のあり方に関する哲学をその基礎としながら、実は犯罪というきわめて人間臭い事象を扱う分野である。本演習では、捜査から公判、上訴にいたる刑事手続全体についての理解を深めるとともに、参加者が選択する個別の問題について分析、検討を加える。刑事手続を題材に、正確な用語を使って口頭報告すること、文章を書くことを通じて、自分の考えを整理して伝える訓練をすることが目的である。

講義の内容・授業スケジュール

刑事訴訟に関する判例または争点を各自選択し、資料を収集、整理、分析して毎回担当者がレジюмеを用意して口頭報告し、4年次の終わりに400×20~30枚程度のレポートを作成する。3年次は口頭報告、4年次はレポートの作成を中心とする。

履修上の留意点

何事によらず真摯に学ぶ姿勢は一生の財産となる。刑事手続に関心を持ち、自ら学ぶ姿勢のある学生の参加を期待する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
演 習 I	かね 子 しょう へい 金 子 昇 平	二 法 3 選	4
演 習 II		二 法 4 選	

講義のねらい

本演習においては、行政法上の諸制度、行政法規の仕組及び複雑多様な法現象を広範囲にとりあげ、現代の行政法理論について理解を深めていきたい。

とりあえず、諸君の関心のあるテーマについての判例研究および学術論文の書評を行い、参加者全員とともに議論をつくしたいと思っている。例えば、環境の問題、教育の問題、公務員の問題、地方自治の問題、租税の問題、医療の問題などを挙げておく。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
演 習 I	すずき とうら ともしづ 杉 浦 智 紹	二 法 3 選	4
演 習 II		二 法 4 選	

講義のねらい

民事の判決手続に関する主要問題を中心に支配的見解の依って立つ基盤の検討を通して、基本的原理の徹底的理解をはかる事、及び具体的問題をいかに訴訟法学的見地から評価し、解決すべきかを主眼として演習を行う。

民事訴訟やADRを含めて総合的な民事紛争の処理制度を考察対象とし、特に裁判制度の社会的・経済的意義や機能の解明にも努めるようにしたい。

ところで、ゼミナール志望の学生の大半が法律実務家志望の学生であるところから、法解釈学的能力を高めることに力点を置く。

講義の内容・授業スケジュール

本学では民事訴訟法の講義が、3年次生からの履修科目であるため、民事訴訟法の課題について、直ちに報告をさせることには無理があり、また個別に参考書を読ませても、体系的把握と重点の把握が難しい事もあるので、4月から7月までの前期期間は、講義への積極的参加は当然のこと、ゼミでは、手続の全体像について充分理解させた上で、重要な基本的問題について、intensiveに講義をし、質問を受ける形で、これを行い、1日に主要問題を2～3問題、消化する方式で演習を進める。

指定参考書として、中野／松浦／鈴木編「民事訴訟法講義」(有斐閣)を必読させた上で、ゼミに参加させる。

具体的には、民事訴訟の主要問題の中、司法試験に出題された過去問を分析した上で、近い時期に出題されると予想される問題及び最高裁判所の中で、重要だと思われる事例、並びに最近5年以内に学会でテーマになった事項について、主として訴提起の段階、口頭弁論・証拠調べの段階、訴訟終了の段階の三段階に分けて整理し、解決基準を明確にした上で説明をし、夏休み直前に問題設定をし、三年次生には、所与の問題の中から任意に選んだ課題について、4年次生の協力を受けながら三人一組で班構成をして、問題に挑戦する形で、夏休み明け直前に二泊三日のゼミ合宿を行い、その研究成果を発表させ、全員で討議し、結論を導き出すという方式のゼミを行う。合宿での残余の課題及び問題については、二学期以後の平常時間で、これを継続して行う。

ゼミ生は、3名で1班×4=12名構成を原則とし、各班の内部役割は、総合的な立場で報告責任者としての報告者1名と学説について調査し、検討をする役割を分担する者、判例を整理し、その動向と分析結果を分担する者の三人で、一つの課題を確り合議し、その結果に基づいて、レジュメを作成の上、全員に配付し、報告を終え、それについて検討するという方式をとる。

この方式での演習は、平常時には、1ヶ月4問題を処理するので、かなりの主要問題について、一年間で基礎的理論については十分な理解力を持てるように指導する。

また4年次生は、三年で修得した理解(法物的考え方及び法的処理の仕方)を前提に具体的、個別的な問題を、予め提出し、報告担当者に、それぞれの研究成果を発表させ、それに基づいて討議を行い、論評を加えるという方式をとる。本人の選択したテーマを、一年間にわたって、深く研究し、最終的には、一つの論文にまとまるよう積極的示唆を行う。

履修上の留意点

法律を理解するには、まづ、条文を確り読んで理解すること。

ゼミは学生時代で最も厳しいと同時に楽しいものでなければ勉強した事が身につかない。

多くの友人も出来、将来の展望が拓けてくる。また自分の言いたい事が積極的に人前で意思表示できるようになる。

また、自分でまとめたものが、客観性があるか、自分の発言と、その結論を導いた理由づけが確り出来ているかをポイントに、指導者Adviserがいるので、誤りに臆せず、積極的主張を試みることである。

合宿やゼミの親睦会には是非出席されるように、また諸君の希望する職域で働くOB達の出席も多いので、その機会を逃さないようにされたい。

成績評価の方法

ゼミでの報告、討論によって判断をし、ペーパーテストによる評価はしない。

参考書等

1. 中野／松浦／鈴木編『民事訴訟法講義』(有斐閣)
1. 『民事訴訟法の争点』(有斐閣)
1. 『民事訴訟法判例百選I・II』(有斐閣)
1. その他は演習中に、適時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
演 習 I	にし 西 おさむ 修	二 法 3 選	4
演 習 II		二 法 4 選	

講義のねらい

私は、演習をつぎのように位置づけたいと考えます。すなわち、マスプロ教育に陥りがちな一方通行を補うべく、双方向性を大切にし、履修生と教師、履修生同士のディスカッションを多用して、みずからを磨きあげる場であると。そしてそれは、たんに勉学ばかりでなく、合宿などを通じて、心のふれあいのなかから、あらたな自分を見つけ出す場でもあると。こんな場にするために、私はつぎのような方針でのぞみたいと思っています。

- (1) 人数をあまり多くしない。その上限を私の研究室に入れるくらいにする(16-18人くらい)。
- (2) とくに小人数の場合、日々のふれあいが大切なので、毎回、出席すること。
- (3) ディスカッションには、積極的に参加し、かならず発言すること。

講義の内容・
授業スケジュール

前期と後期に分け、前期は1、2冊の本を精読し、それについてディスカッションをします。内容としては、①日本国憲法の成立過程とその法的問題点、②憲法第9条をめぐる諸問題、③世界の憲法トレンド、④人権の現代的意味、⑤西ゼミ制作「平成憲法草案」の評価などを予定しています。将来、インターネットが設置されれば、この「平成憲法草案」を世界に向けて発信し、地球の裏側の国の人たちとも交信したいと考えています。また後期は、各自の問題意識をもとにそれぞれ発表してもらい、参加者全員で討議します。その他、年2回の合宿を行いますが、従来例では、レジャーとしてテニス、スキーをとりいれています。本演習は、明るく、アット・ホームな感じが特色であるといわれています。

科目名	担当者名	配当学年	単位
演習Ⅰ	はやし 林 こう 幸 じ 司	二法3選	4
演習Ⅱ		二法4選	

講義のねらい

- 1：民法の中でも、特にゼミ生が興味をもてるテーマを選択し、じっくり時間をかけて理解を深めてもらうこと
- 2：「具体的な事例問題や判例を素材に『討論』すること」の重要性を修得してもらうこと
- 3：討論において、ゼミ生自身納得のいく結論（見解）が出せるよう努力してもらうとともに、それを根拠づける「法的理論構成」の重要性を理解してもらうこと

講義の内容・授業スケジュール

民法全領域（家族法も含む）の中から、ゼミ生の希望により、いわゆる「争点」となっているテーマを選択するが、できるだけ体系的な視点から「つながり」のあるテーマ設定を行っていると考えている。

〈方法〉

- 1：具体的な「事例問題」及び「判例」を素材とすること
私が個人的に作成した事例問題、及び適当と思われる具体的な判決例を提示し、それを素材として討論を行う。
- 2：様々な討論の方式を試みること
討論といっても、その方式・方法は様々である。①各分担につき報告者を決め、レジュメを作成してもらって、その進行の過程で討論を進めるという通常の方法もあれば、②模擬裁判の方式を取り、裁判官・原告・被告の立場に分かれて弁論をシミュレートしてもらい、その後、それぞれの立場を越えて討論を戦わせるという方法もある。本演習では、受講生諸君が興味を掻き立てられる討論の方式を試みたいと考えている。
- 3：各テーマにつき全員が担当者となること
どのような討論方式を採ったとしても、あるテーマでは報告者だが、別のテーマでは「お客さん」という者が出てくると、どうしても「活気ある討論」の実現は難しくなる。全員が同じ資格で討論に参加できるようにするという意味で、各テーマでゼミ生全員が担当者となってもらうよう配慮するつもりである。
- 4：常にゼミ生全員の発言が義務づけられること
当然のことであるが、毎回、ゼミ生全員からの発言が望まれる。「沈黙は『禁』」である。

履修上の留意点

思いつき討論できる人間関係をつくるということは、実は大変に難しいことである。ゼミ生の関係がギスギスしていて皆バラバラというのでは、討論はケンカの種になるか、又はそれを恐れるあまりに沈黙が永続する、ということになりかねない。それぞれ異なる意見・対立する見解かもしれないが、互いに協力して討論を成功させるという姿勢で臨んでほしいし、そのための親睦交流も配慮するつもりである。

成績評価の方法

①いつも積極的に討論に参加しているか、②自分自身の見解を提示できたか、③その際、法的な理論構成はなされているか、などが評価対象となる。結論や理論構成が私と違っているかどうかなどは全く問題とならない。評価の対象外である。自分自身で納得できる見解を発見してほしいし、それによって、自分に『自信』をもってもらいたいからである。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
演 習 I	まつむら いたる 松 村 格	二 法 3 選	4
演 習 II		二 法 4 選	

講義のねらい

演習は、講義で学習した刑法の基本的な知識を前提として、更に個別の問題点を深く研究する授業である。基本書である教科書の内容をマスターした上で、各種の問題点を扱っている参考書・論文・判例・基本書以外の体系書に目を通してより深く討議し合う場である。したがって、刑法に興味があり、刑法上の問題点を追究してみたいという意欲のある学生諸君を受け入れたい。

講義の内容・授業スケジュール

演習の進め方は、各人が研究テーマを決めて、そのテーマについて上記のような方法で勉強をしてレポートをまとめ、それを発表してもらい、質疑応答によって討議し合う形式で行う。そして、その結果を演習論文としてまとめて最後に提出してもらおう。夏休みには統一テーマを決めて集中演習の合宿をする予定もある。1人当りの発表時間は2週平均だが、不十分の場合は全員が納得するまで3週も4週もやり直しをしなければならないこともある。

履修上の留意点

演習は、毎回参加して討議することが重要であるから、理由なく2回以上欠席した場合には参加資格を失なうものとする。したがって、毎回出席してほしい。

成績評価の方法

成績の評価は、ペーパーテストによらず、毎回の学習態度と討議内容から判断する。演習論文も成績に大きな影響を与える重要課題である。したがって、沈黙はマイナス評価につながる。大いに討議し、そのために大いに学習する必要がある。

教科書

教材は、最少限度として、基本書となる教科書・判例解説書（別冊ジュリスト『刑法判例百選 I 総論（第三版）』）・演習書・六法全書は必要である。それ以外は、各人の研究テーマ毎にその都度図書館でさがして勉強する。それも自分で行なうこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
演 習 I	やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦	二 法 3 選	4
演 習 II		二 法 4 選	

講義のねらい

株式会社法の基本的な内容理解を中心に、現代の経済社会において必要不可欠の組織となっている株式会社を法的側面から、研究する。前期に会社法総論を見て、株式会社の特質を確実に理解した後、株式会社の運営をめぐる問題を検討する。後期は、これに、さらに株式をめぐる問題を加える。

講義の内容・授業スケジュール

ゼミであるから、上述の基本的な予定に沿って、小テーマを選び、これを各ゼミ生に順次レポーターになってもらい、その報告をたたき台として、全員で討議する。小テーマは、株式会社法の各種制度・原則から、これらに関連する判例研究を取りまぜつつ、私の方で予め提示し、ゼミ生に割り振ることにする。

成績評価の方法

成績評価は、レポーターとしてのレジュメ作成内容、報告内容、発言等を総合して行なう。出席は、必ずとる。理由のない欠席、遅刻に対しては、厳しく対応する。

教科書

教材として、『会社法判例百選（第5版）』（有斐閣）1,800円を指定する。この他、必ず、会社法についての概説書は購入しておくこと。

その他

ゼミは、ゼミ生自身が主体的に参加してつくり上げるものである。自から、積極的に発言する、明るい学生を希望する。

第 1 部公開専門選択科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
有 価 証 券 法	しま はら ひろ あき 島 原 宏 明	二 法 3・4 選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

現代の経済社会における企業間の取引では、手形や小切手等の有価証券が数多く使用されている。中でも手形と小切手は典型的な有価証券であって、その流通に関する法規制の多くは商法上の他の有価証券にも及んでいる。したがってその体系の理解は有価証券全般を理解する上で不可欠なものである。また、手形や小切手は金銭債権と結び付いた証券であるため、これに関する法体系は債権法の一部として把握され、民法の債権総論と密接な関係にある。

講義の内容・
授業スケジュール

手形法は第一編為替手形と第二編約束手形の二編から成り立っており、為替手形についての規定の多くを約束手形に準用するという構成になっている。ただし、わが国においては為替手形がほとんど用いられていないという現実があり、また為替手形に比べて約束手形の方が仕組みが単純であるため、条文の順序とは一致しないが講義では約束手形を中心にして説明を行い、適宜為替手形、及び為替手形と基本的な仕組みを同じくする小切手についての説明を付け加えていくという形をとる。

なお、企業活動に関わったことのない学生諸君には手形や小切手の世界は現実感が乏しく興味が起こりにくいため、なるべく具体的な判例を示して解説をしていくつもりである。

成績評価の方法

成績評価は期末試験による。

教 科 書

丸山秀平『手形法小切手法概論』（中央経済社） ¥3,500

参 考 書 等

倉沢康一郎『手形判例の基礎』（日本評論社） ¥2,600

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
債 権 各 論	はやし 林 こう 幸 じ 司	二 法 3・4 選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

- 1：民法、特に債権各論について、受講生に「基礎的な理解」が身につくよう目指すこと
- 2：この分野の諸テーマにつき、「具体的な事例問題を通して理解を深める方法」を修得してもらい、それによって受講生の「民法に対する興味」を触発すること

講義の内容・授業スケジュール

債権各論は、債権の「発生原因」を扱う分野であり、①契約、②事務管理、③不当利得、④不法行為がその主要な原因である。これらは全て、諸君が日常生活で無意識のうちに触れているものばかりであり、具体的な問題がほとんどである。これらについて研究し理解を深めることは、民法の「具体的なイメージを把握するための突破口」となるはずである。

履修上の留意点

受講生に望むこと（受講に際しての注意）

- 1：私語の厳禁
あまりにも当然過ぎて、ここで触れることすら情けないのだが、大学生にもなって、講義中の私語が許されると思っている者がいるようである。強く注意して、やっと静かになるというのが現状であるが、不思議にも、本人に全く反省の色がなかったり、何か悪いことをしたのか（又は「なぜ俺だけが」と言わんばかりに睨み返してくるということもある。このテの者にはその場で『登録抹消』を通告するという強い態度で臨むので覚悟してもらいたい。
- 2：他の履修科目について
できれば債権総論も受講してほしい。この分野は、各原因によって発生した様々な債権に「共通する事項や性質」などを扱う領域で、債権各論を理解する上でも重要な分野だからである。もちろん、発生原因を扱う債権各論から先の手をつけようという人がいても一向に構わないし、理論上何の問題もないが、いずれは債権総論も修得してほしいものである。

成績評価の方法

後期試験による評価が中心となるが、講義後に回収する質問や意見などにも受講生の理解度や積極的な姿勢が現れていることが多い。これらに対しても若干のプラス評価を行うつもりである。

教科書

内田 貴著『民法Ⅱ 債権各論』（東京大学出版会） 3,600円

その他

講義の方法

- 1：板書中心の講義であること
私独自の観点からポイントを整理するため板書中心の講義を行い、途中で適宜、教科書・参考書の該当箇所を指示・解説するという方法を採用。その際、かなり多くの図や表を必要とするが、それも主に板書によってカバーする。
- 2：意義・要件・効果の整理に重点をおくこと
私も学生の頃は、ただ闇雲に教科書や判例解説集に書いてあることをダラダラと覚えようとしたものである。しかし、それは、山の中を、地図も磁石盤もなく、ただ地面を見て石ころを数えている姿に似ていると感じ、むなしい気持ちに苛まれる結果となった。本講義で整理の中心に位置付ける「意義・要件・効果」は、講義中、諸君が立っている位置を知るための『座標軸』だと思ってほしい。そのことの意味はとてもここでは書き切れない。詳しくは、講義で聞いていただきたい。
- 3：具体的な「事例問題」または「判例」を素材とすること
事例問題集をプリントして配布し、あるいは、指定した参考書の中から判例を指示し、意義・要件・効果と結び付けて解説する。具体的な事例を想定しての理解以外に、真に納得のいく理解はないと信ずるからである。
- 4：受講生からの質問を講義に反映するよう努力すること
毎回講義前に用紙を全員に配布し、質問・意見・感想・要望などを書いてもらい、その中で、「これは！」と思うものを次回の講義に反映することを心掛けるつもりである（質問への解答が中心となる）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
担 保 物 権 法	つる い しゅん きち 鶴 井 俊 吉	二 法 3・4 選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

この講義では、民法典の第二編「物権」のうちで、留置権、先取特権、質権、抵当権を中心に、譲渡担保、仮登記担保等が対象となる。担保物権制度は、資本主義経済の発展に伴って、その重要性がますます増大している。今日、財産法領域で最も変化の多いところであり、取引界の要請により、新しい法令が制定され、年々歳々進展し、著しく変動している。

講義の内容・ 授業スケジュール

私たちが土地を買い、建物を建てる、あるいは自動車を買うという場合に、多くは金融機関から融資を受けることになるが、金融機関では何らかの担保を要求してくる。この場合に、抵当権や質権といった担保物権を金融機関に設定する。このように小は個人の資金調達のため、あるいは大は、企業の活動資金獲得のために担保は重要な役割を担っている。担保物権法のもつ経済的意義は極めて重要である。

しかし、学生にとって担保物権法は、民法の中で最も難解なところと感じられ、また比較的なじめない領域だと思われる。それは、多数の関係当事者が複雑に絡み合い、また解釈上でも技術的性格が強いことに原因がある。

そこで講義では、担保物権法の基礎的な考え方を理解できるように、できるだけ判例等の具体例をとりあげ、図解してわかりやすいように心掛ける予定でいる。

履修上の留意点

学期の初めには、担保物権法の主要な部分についての概略の説明を予定している。それによって担保制度の全体像が把握できるであろう。それゆえ、最初から講義に出席しないと理解できなく、なかなか興味が持てなくなるので、毎時限の出席と予習を強く希望する。

教 科 書

遠藤・川井他編『民法(3)担保物権』(有斐閣双書)を予定している。

参 考 書 等

参考書については、講義の最初に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
保 険 ・ 海 商 法	やま だ やす ひこ 山 田 泰 彦	二 法 3 ・ 4 選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

私たちの生活は、いろいろな危険に満ちている。私たちは、それにあまり気が付かずに生活していたりするが、時には、不幸な事故に巻き込まれたり、あるいは逆に事故を引き起こしたりもする。こうした不幸への危険性は、この社会に生き、活動しているすべての人々（すなわち法主体、当然、会社も人である）に程度の差こそあれ、無縁ではない。危険が現実のものとなったとき、そこに通常、損害が発生する。この損害は、どのように処理すれば良いのだろうか。事故を引き起こした者がいるのであれば、この者が損害を負担すべきである。しかし、この者に資力がなかったならば、被害者の受けた損害は回復されずに酷いことになる。さらに、加害者も存在していないような場合には、どうすれば良いのだろうか。こうしたことへの不安は、人が生き活動して行く上での不安であり、今に始まったことではない。人類は、古くから、このための種々の方策を考えてきたが、複雑・高度化した現代社会は、かつてないほどの、不安と危険のジャングルとなっているのである。保険は、そのための方策の中で、最も高度に洗練された仕組みである。私の講義では保険という仕組みが法的にどのように制度化されているかを見る。

ところで、保険は、他面において賭博に似ている（どちらも偶然の出来事により、多額の金銭を取得できるではないか）。そして、海の危険に満ち満ちた海上企業活動は、かつては、冒険企業の典型であった。保険が考案され発展したのは、中世地中海世界が育んだ海上企業活動においてであったということは、保険と海商との賭博的な共通の色彩の賜といえるのかもしれない（やがて保険制度は、海から陸にも上がり、今日見られるような隆盛を迎える）。当時の海上企業は、現在の海上企業とはかなり異なっていたし、(法的制度としての株式会社に先駆けていたのであるが、株式会社の登場は後年のことである)、その企業活動も海賊が立派な企業活動として認知されていたことから明らかなように、現在と大部隔っている面があった。しかし、近代的国家が形成される前から活発に行なわれていたイタリアの海港都市等に端を発する海事慣習は、その後一定の地域的広がりを得ながら、ヨーロッパのその他の港にもそれぞれの海事慣習の形成を促がし、それらがようやく確立する国家の法典に、取捨選択されつつ、結実し、その過程において、民商事法の源流の一つを形成したのである。

さて、そこで海商法である。海商法は、船舶を手段とする海上企業活動に関する法である。当然のことながら、船舶の活動する舞台ともいうべき海は、世界へとつながっている。経済活動が、狭い一国の地域的空間にのみ終止するのであれば格別、現在のように、世界的規模での市場が形成され、経済活動も世界的拡がりを持つにいたると、原料やその加工品である商品の流通は、血管を流れる血液のように確保されなければならない。船舶による海上運送は、いわば、血液の中の血晶板のようなもの——または、血液そのものである。船舶を利用して遂行される海上運送は、その国々の経済体制を支えるものであり、世界経済に重要な貢献を果すものである。私の講義では、この海上企業活動を、商法の視点から捉え、そこに動く基本的な法原則を見ることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、保険法を中心にする。①保険制度と保険法、②保険契約の当事者・関係者、③保険契約の成立と終了、④保険契約の内容と効果、⑤損害保険契約の意義・内容、⑥損害保険に特有の効果、⑦保険担保、⑧火災保険と地震保険、⑨責任保険と自動車保険、を中心項目とする。

後期は、海商法を取り上げる。①海商法の意義と発展、②海上企業の物的組織、③海上企業の主体、④海上企業の責任と責任制限、⑤海上物品運送契約の意義と種類、⑥海上物品運送契約の履行（海上物品運送人の義務と権利）、⑦海上物品運送人の責任、⑧船荷証券の意義および種類と発行、⑨船荷証券の効力、⑩海上売買、を中心とする。

保険法および海商法も1項目につき1時間ないし2時間を予定する。

履修上の留意点

講義には六法を持参して下さい。

成績評価の方法

出席は、毎時限、取ります。これは期末試験での成績評価の際に考慮します。

教科書

山野嘉郎・山田泰彦編著『現代保険・海商法30講』（中央経済社） 3,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民 事 訴 訟 法	すぎ 杉 浦 とも 智 つく 紹	二 法 3・4 選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

民事訴訟は、その対象が日常生活をめぐる法的紛争（民事紛争）である事から、その法的紛争を解決する方法としての民事訴訟法学の理論的考察には、取り分け実体法との関連性を重要視し、訴訟法理に実体法理を包摂するとの基本的構想を採る必要性があると考えている。また、講義では判決手続を中心に、憲法との関連性をも重視しつつ、適正且つ迅速な裁判をするには、裁判所と当事者との協働作業が不可欠であることを充分認識した上で、民事訴訟法の基礎理論からはじめて、訴訟構造論、訴訟主体論、訴訟客体論、訴訟過程論、裁判論、等について論及する。具体的には、訴提起の段階、口頭弁論・証拠調べの段階、訴訟終了の段階に対応した、民事訴訟法上の主要な論点について、「問題の所在」を示し、学説・判例の動向を整理・紹介し、どういふ角度から問題にアプローチし、また結論を導くべきかに重点を置いて、考察・検討するという方法をとる。特に訴訟過程において、訴訟主体が主体的役割を果たしたか、また果たせたかが、裁判の効力に影響することを、大きな課題として、講義を進める予定である。

講義の内容・授業スケジュール

- I 民事訴訟の基礎理論
 - ① 民事訴訟と民事紛争
 - ② 民事訴訟の基本原則 — (1) 処分主義、(2) 弁論主義 (3) 必要的口頭弁論の原則 (4) 民事訴訟の憲法的保障
 - ③ 訴訟の構造理論
 - ④ 現代型訴訟と問題の所在
- II 民事訴訟の主体論
 - ① 裁判所 (1) 構成と管轄 (2) 裁判所の除外・忌避
 - ② 当事者 (1) 当事者概念 (2) 当事者をめぐる諸問題 (3) 当事者能力 (4) 訴訟能力 (5) 当事者の確定 (6) 当事者適格 (7) 訴訟における代理・代表
- III 訴訟客体論
 - ① 訴と請求
 - ② 訴訟における審判対象 (1) 審判対象の特定 (2) 訴訟要件の調査と審理順序 (3) 訴訟物の構成 (4) 訴訟物論争問題 (5) 訴提起の効果
- IV 訴訟過程論
 - ① 口頭弁論 (1) 裁判資料の収集 — 主要事実と間接事実 (2) 口頭弁論の経過 (3) 当事者の訴訟行為 a) 意義と種類 b) 訴訟契約=訴訟上の合意 c) 訴訟行為と私法規定 d) 訴訟行為の瑕疵と治癒 e) 形成権の訴訟上の行使
 - ② 証 拠
 - (1) 事実認定と証拠 a) 証拠の必要性 b) 要証事実・不要証事実 c) 証拠の意義
 - (2) 証拠調べの実施 a) 証拠調べ手続 b) 各種の証拠調べ c) 自由心証主義
 - ③ 訴訟における主張と証明
 - (1) 主張責任と証明責任 (2) 弁論主義による証明責任の機能の拡大 (3) 証明責任の分配基準
 - (4) 証明困難軽減の諸方法(5) 証明責任における当事者の対等性の原則
- V 訴訟の終了
 - ① 訴の取り下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解
 - ② 判決 (1) 裁判の種類及び判決の種類 a) 中間判決 b) 終局判決 c) 訴訟判決と本来判決 d) 判決の成立
 - ③ 判決の効力
 - ④ 既判力 (1) 意義 (2) 既判力理論 (3) 既判力を有する裁判 (4) 既判力の作用 (5) 既判力の範囲 a) 時的範囲 b) 客観的範囲 c) 主観的範囲 d) 争点効および反射効
 - ⑤ 執行力・形成力・附随的效果
- VI 訴訟における訴訟参加
 - ① 補助参加 ② 独立当事者参加 ③ 共同訴訟参加・共同訴訟的補助参加
- VII 訴訟における複数請求審理
 - ① 複数請求訴訟 (1) 訴の客観的併合 (2) 訴の変更 (3) 中間確認の訴 (4) 反訴
 - ② 訴の主観的併合=共同訴訟 (1) 通常共同訴訟 (2) 必要的共同訴訟 a) 固有必要的共同訴訟 b) 類似必要的共同訴訟 (3) 共同所有関係と必要共同訴訟
- VIII 訴訟における不服申立て制度
 - ① 裁判と不服申立て ② 控訴 ③ 上告 ④ 抗告 ⑤ 再審

履修上の留意点

手続法は実体法の理解とは異なり、体系的に連続しているのので、講義には必ず出席し、また講義が楽しくなるかは、予め問題意識を持っているか、または関心があるかにかかっているのので、講義対象は前週に指示しておくので、参考書等に目を通して受講されることが望ましい。また法律の勉強は理解することにあるので、それには先づ以て条文を読むことが大切である。従って、六法全書に親しむ習慣を是非つけてほしい。

成績評価の方法

民事訴訟法の試験は、(1)期末の定期試験でペーパーテストを行い、これを成績評価の重点項目とするが、(2)前期段階で小テストを行う。どの程度の理解が出来ているかを確認するため、講義をした主要な事項について、設問形式で結論と理由づけを三行以内で書かせる方式を採り、テスト終了後、設問に対する解答及び理由づけを開示し、答案は、採点の上各人に返還する。(3)学生との信頼関係下、年間使用できる受講カードを配布し、毎時間の授業項目を記載させ、単位を必要とする者には、これを自己管理させ、期末に提出させる。以上の三点を総合判断して成績の評価を行う。

法
学
部

教 科 書

特に指定はしない。

参 考 書 等

1. 中野/松浦/鈴木編『民事訴訟法講義』（有斐閣）
 2. 新堂幸司著『民事訴訟法』（筑摩書房）
 3. 三ヶ月章著『民事訴訟法』（弘文堂）
 4. 谷口安平著『口述民事訴訟法』（成文社）
 5. 上田徹一郎著『民事訴訟法』（法学書院）
 6. 『民事訴訟法の争点（新版）』ジュリスト（有斐閣）
 7. 『民事訴訟法判例百選Ⅰ、Ⅱ』ジュリスト（有斐閣）
- その他、講義の進行に応じて適宜、詳しい文献の紹介は行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国際紛争解決法	おう 王 志 安	二法3・4選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界及び適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能及び事例検証の形で解明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決及び世界貿易機構(WTO)の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査及び調停といった制度の展開及び適用、国連における紛争処理の制度的展開及び現状、そしてWTOの紛争処理制度の発展、手続き及び制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判及び国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立及び手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。

履修上の留意点

参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。要点を板書するので、聴講ノートをしっかり取ってもらいたい。

成績評価の方法

学年末の筆記試験によって評価する。

教 科 書

松田幹夫編著『現代国際法』(八千代出版 1997年) 2,700円

参 考 書 等

市販されている国際条約集及び国際判例集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。

そ の 他

授業は主として講義方式で行うが、判例の分析につき学生のまとめ報告を求めることがある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
刑 事 訴 訟 法	おぎそ 小木曾 りょう 綾	二 法 3・4 選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

刑事手続の基本について理解することが目的である。
 犯罪の予防、摘発と、国家機関の権限の適正な行使によって個人の自由や市民社会の安全は維持されている。外国法にも目を向けながら、前期は捜査について、個人の自由を保障しつつかに効果的な法執行を実現するかを考え、後期は公判の諸原則を学びながら、最も厳しい制裁である刑罰を科すための手続的な公正さ・手続的正義について考える。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 任意捜査と強制捜査
2. 逮捕
3. 捜索・押収
4. 検証・鑑定
5. 明文の定めのない捜査方法とその規律
6. 身柄拘束下の取調べ
7. 被疑者の弁護権
8. 職務質問、所持品検査
9. 訴追裁量
10. 公判構造
11. 起訴の方式と訴因
12. 証拠開示
13. 排除法則
14. 自白調査の証拠能力
15. 伝聞法則
16. 無罪推定
17. 裁判とその効果
18. 上訴

履修上の留意点

社会に生起する事件や法律問題に常に関心をもってほしい。六法は必携である。

成績評価の方法

年度末の筆記試験による。

教 科 書

下記のいずれか。第1回授業時の説明を聞いてから購入するのがよいだろう。なお、参考書に指定した判例集を各自もっていると的前提で授業を行なう。
 安富 潔『やさしい刑事訴訟法』(法学書院)
 渥美東洋『刑事訴訟法』(有斐閣)
 田宮 裕『刑事訴訟法』(有斐閣)
 松尾浩也『刑事訴訟法(上)(下)』(弘文堂)

参 考 書 等

渥美東洋編著『刑事訴訟法基本判例解説』(第3版)(三嶺書房)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
税 法	きし だ さだ お 岸 田 貞 夫	二 法 3・4 選 (H7 以前入学生)	4

講義のねらい

税法の体系を法律的な見地から検討し、所得税法等の規定の解釈を中心として、税法の意義、役割、問題点等を研究する。

講義の内容・
授業スケジュール

税法の意義、機能、体系、租税法律関係の特色、租税の確定手続き、所得税法における納税義務者、課税所得の意義、所得の種類、収入及び必要経費の範囲等について、順次講義する。

履修上の留意点

予習の上、問題意識をもって授業に参加されたい。

成績評価の方法

前期及び後期の試験の結果によって評価する。

教 科 書

岸田貞夫他著『現代税法の基礎知識』（ぎょうせい）2,100円

参 考 書 等

金子宏著『租税法』（弘文堂）

そ の 他

授業は講義方式で行う。なお、レジュメを配付する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
民事執行・保全法	とが 梅 よし 善 お 夫	二 法 3・4 選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

実際社会において、重要な役割を果たしている民事執行法と民事保全法について講義します。民事執行法は、権利の事実上の実現手続きです。民事保全法は、将来の権利実現を保全する手続きです。民事執行法、民事保全法の解釈と両法律の基本原則、重要判例についての理解を目的とします。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、以下のような順序と内容で行います。なお、より詳しい年間の予定表は、第1回目の講義のときに配布します。

- (1) 私法上の権利実現方法
- (2) 強制執行法の改正と民事執行法の成立
- (3) 仮差押え・仮処分の改正と民事保全法の成立
- (4) 民事保全法（仮差押え・仮処分について説明する。）
- (5) 民事執行法総則（執行機関・執行当事者、執行抗告と執行異議等について説明する。）
- (6) 強制執行法総論（債務名義、執行文付与をめぐる救済方法、請求異議の訴え、第三者異議の訴え等について説明する。）
- (7) 強制執行法各論（金銭債権執行、非金銭債権執行、特に不動産の強制執行を中心として説明する。）
- (8) 担保権の実行としての競売（抵当権などの担保権の実行について説明する。）

履修上の留意点

民事訴訟法をすでに履修している人、あるいは並行して履修する人の履修を希望します。

成績評価の方法

成績の評価は、期末の筆記試験のみによって評価します。

教 科 書

内田武吉編『民事執行・保全法要説』1995年（成文堂） 3,211円

参 考 書 等

浦野雄幸編『基本法コンメンタール民事執行法（第三版）』1997年（日本評論社） 4,200円

そ の 他

竹下守夫・伊藤 眞編『別冊ジュリスト民事執行法判例百選』1994年（有斐閣）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
知的財産権法	もり おか かず お夫 盛 岡 一 夫	二法3・4選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

知的財産権法には、狭義の工業所有権法（特許法・実用新案法・意匠法・商標法）および著作権法等が含まれる。知的財産権法は、知的所有権法または無体財産権法といわれることもある。

知的財産権法全般についての基礎理論を理解できるように、わかりやすく講義したいと考えている。学説・判例の対立している点については、これに関する学説・判例を紹介し、問題点の所在をあきらかにしたい。

特許法においては、発明の定義、特許を受けるための要件、従業者が発明をした場合の法律関係、特許権の侵害に対する救済方法、実施契約等について、実用新案法においては、特許法との相違について、商標法については、商標登録要件および類似商標について詳しく解説する。著作権法および不正競争防止法についても講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

前期：特許法・実用新案法
後期：意匠法・商標法・著作権法・不正競争防止法

成績評価の方法

前期・後期に行なう平常試験および学年末試験によって評価する。

教 科 書

盛岡一夫『工業所有権法概説－知的財産権法の基礎－ [第2版]』(法学書院)

参 考 書 等

特許庁編『工業所有権法逐条解説』(発明協会)、中山信弘『工業所有権法上』(弘文堂)
鴻・紋谷・中山編『特許判例百選』(有斐閣)、斉藤・半田『著作権判例百選』(有斐閣)

2 專門教育科目

(3) 經營學部

專 門 教 育 科 目	經濟學部
	法學部
	經營學部

2 専門教育科目

(3) 経営学部

経	管	学	(宮 城 徹)	専 145
簿	記	学	(大 野 満 奈)	専 146
簿	記	学	(小 田 幹 雄)	専 147
簿	記	学	(高 田 光 明)	専 148
簿	記	学	(床 井 睦 子)	専 149
経	済	学	概 説 (永 田 智 則)	専 150
情	報	処	理 基 礎 (青 木 武 典)	専 151
情	報	処	理 基 礎 (加 藤 武 信)	専 152
情	報	処	理 基 礎 (洪 谷 綾 子)	専 153
情	報	処	理 基 礎 (橋 場 利 幸)	専 154
情	報	処	理 基 礎 (森 博 彦)	専 155
会		計	学 (渡 邊 惠 一 郎)	専 156
経	済	原	論 (前期: 明 石 博 行) (後期: 佐 藤 洋 一)	専 157
近	代	経	済 学 (滝 田 公 一)	専 158
経	営	科	学 概 論 (西 村 和 夫)	専 159
経	営	管	理 史 (前 田 和 利)	専 160
経	営	管	理 論 (鈴 木 幸 毅)	専 161
企	業	形	態 論 (各 務 洋 子)	専 162
経	営	学	史 (北 村 健 之 助)	専 163
ア	メ	リ	カ 経 営 学 (宮 城 徹)	専 164
経	営	財	務 論 (高 田 光 明)	専 165
経	営	労	務 論 (中 村 眞 人)	専 166
経	営	組	織 論 (長 瀬 勝 彦)	専 167
経	営	技	術 論 (休 講)	
国	際	経	営 論 (茂 垣 広 志)	専 168
日	本	経	営 史 (内 田 金 生)	専 169
マ	ー	ケ	テ ィ ン グ 論 (兼 村 栄 哲)	専 170
商	業	史	(山 田 勝)	専 170
商	業	経	営 論 (森 宮 勝 子)	専 171
保	険	経	営 論 (石 名 坂 邦 昭)	専 171
銀	行	経	営 論 (服 部 昌 久)	専 172
公	益	企	業 論 (休 講)	
原	価	計	算 論 (近 藤 禎 夫)	専 173
上	級	簿	記 (小 田 幹 雄)	専 174
財	務	会	計 論 (休 講)	
管	理	会	計 論 (猿 山 義 広)	専 175
経	営	分	析 論 (片 桐 伸 夫)	専 176
税	務	会	計 論 (高 木 克 己)	専 177
会	計	監	査 論 (休 講)	
日	本	経	済 史 (北 島 万 次)	専 178
経	済	政	策 (西 山 司)	専 178
財	融	学	(速 水 昇)	専 179
金	融	論	(服 部 敬 道)	専 179

国	際	經	濟	論	(休 講)		
日	本	經	濟	論	(羽 鳥 茂)	專 180
証	券	市	場	論	(佐 藤 昇)	專 181
国	際	金	融	論	(吉 田 真 広)	專 182
統	計	原		論	(山 内 慎 二)	專 183
經	營	情	報	論	(高 井 徹 雄)	專 184
情	報	理		論	(西 村 和 夫)	專 185
經	營	統	計	論	(張 国 強)	專 186
經	營	科		学	(休 講)		
生	産	管	理	論	(藤 原 篤 志)	專 187
人	事	管	理	論	(休 講)		
ド	イ	ツ	經	学	(休 講)		
行	動	科		学	(休 講)		
国	際	会	計	論	(休 講)		
情	報	会	計	論	(休 講)		
貿	易	政		策	(休 講)		
シ	ス	テ	ム	論	(高 津 信 三)	專 188
民				法	(織 田 晃 子)	專 189
商				法	(島 原 宏 明)	專 190
勞		働		法	(藤 本 茂)	專 191
税				法	(休 講)		
經		濟		法	(休 講)		
ビ	ジ	ネ	ス	英	語	(町 井 靖) 專 192
外	書	講		読	(兼 村 栄 哲) 專 192	
外	書	講		読	(園 田 哲 男) 專 193	
外	書	講		読	(速 水 昇) 專 193	

第1部公開専門選択科目

經	營	史	(前 田 和 利)	專 197	
經	營	管	理	論	(鈴 木 幸 毅) 專 198
經	營	学	史	(北 村 健之助) 專 199	
原	価	計	算	論	(近 藤 禎 夫) 專 200
国	際	經	濟	論	(休 講)	
經	營	科	学	(山 下 英 明) 專 201	

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 学	みやぎ 徹	二 営 1 必	4

講義のねらい

わが国で教育・研究されている「経営学」は大正末期から昭和初期に成立した。経営学という用語は、ドイツ語圏の Betriebswirtschaftslehre、英語圏の Business Administration の訳語として用いられはじめたものである。このことは、他の学問分野がそのようなものであると同様に、わが国の経営学が、特に第2次世界大戦まではドイツ経営学の圧倒的な支配的影響を受けて発展してきたことを、また第2次世界大戦終結を分水嶺として、それ以降はアメリカ経営学一辺倒とさえ言えるほどに影響を示してきた事情を物語るものにほかならない。

もとより、経営学という学問の内容は、実に多様である。さらに、学問に国境があってはならないから、わが国の経営学は、上述の二つの言語圏の経営学の研究方法・内容に敏感な知的対応を示し、教育・研究が推し進められる傾向は非常に強いし、それは不可欠のことでもある。

以上のような観点からみて、以下のような経営学の入門的考察を試みる。

講義の内容・
授業スケジュール

- マイクと板書。
 <1998年度『経営学』授業計画>
 I 1年間の授業の概要
 II 経営学とは何か
 III ドイツ経営学
 IV アメリカ経営学
 V 日本における経営学
 VI 経営者論
 VII 企業形態
 VIII 組織論
 IX 経営戦略論
 X 財務管理
 XI 人事管理
 XII マーケティング論
 XIII 日本の経営
 XIV 企業経営の国際化
 XV 企業文化
 XVI ベンチャー・ビジネス
 XVII 企業と社会

成績評価の方法

期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。

<<期末試験の出題形式>>

複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。

教科書

鈴木英寿編著『経営学総論』（成文堂）1997

参考書等

鈴木英寿編『経営学の国際的系譜』（成文堂）1986
 藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』（学文社）1993

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
簿 記 学	おおの まんな 大 野 満 奈	二 営 1 必	4

講義のねらい

簿記は会計学の基本であり、複式簿記の計算構造は、会計学のどの分野を学ぶにしても前提的に理解されることが必要である。この意味において、簿記の基本原則を理解し、経営学部で学ぶ者が最低必要とされる簿記知識を修得することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

前 期

1. 簿記・会計の意義と目的
2. 企業の財政状態－貸借対象表
3. 企業の経営成績－損益計算書
4. 取引と仕訳
5. 勘定記入と元帳の締め切り
6. 帳簿・伝票・証ひょう
7. 試算表の作成(1)
8. 精算表の作成(1)
9. 現金・預金
10. 小口現金
11. 商品売買の処理と仕入帳・売上帳
12. 総合復習
13. 総合復習

後 期

1. 商品有高帳
2. 売掛金・買掛金と人名勘定
3. 有形固定資産の取得と売却
4. 資本金と引出金
5. 試算表の作成(2)
6. 売上原価の計算と決算仕訳
7. 貸し倒れの見積りと減価償却
8. 精算表の作成(2)
9. 有価証券
10. 手形取引
11. 費用・収益の見越しと繰り延べ
12. 精算表の作成(3)
13. 総合復習

履修上の留意点

簿記は自分で練習問題を解き、照合することによって初めて修得できるものであるから、原則として毎回出席して要点を理解し、自宅では毎回の復習に心掛けること。また、疑問点は、積極的に質問することによって早期に解決しておくこと。

成績評価の方法

試験の点数・出席回数・提出物の三点をもって総合的に評価する。

教 科 書

井上達雄・新井清光編著『検定簿記講義』3級商業簿記 中央経済社
井上達雄・新井清光編著『検定簿記ワークブック』3級商業簿記 中央経済社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
簿 記 学	お だ みき お 雄 小 田 幹 雄	二 営 1 必	4

講義のねらい

簿記の学習が初めてである学生のために、簿記の基礎知識を理解してもらうクラスです。簿記は日常の経済活動の状態を数値的に把握し、記録するための非常に大切な手段であるので、本講座では「簿記とはどのようなものか」ということを認識してもらうために、プリントや練習問題により、簿記学習の基礎である資産・負債・資本の概念や収益・費用の意味について理解してもらいたい。また、いろいろな勘定科目の意味を理解し、簿記の一連の流れである仕訳・転記・試算表・決算修正・決算等についての基本的問題について正確に理解してもらいたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

講義の内容は次のようになります。

- I 複式簿記の原理：複式簿記の計算構造・簿記一巡の手順
- II 期中取引の処理：現金預金、商品売買、売掛金・買掛金、受取手形・支払手形など
- III 決算に必要な処理：決算修正仕訳・残高試算表の作成など
- IV 帳簿処理の合理化：伝票制度・コンピュータ簿記

履修上の留意点

簿記の学習は、自分自身がペンと電卓をもって練習問題を数多く解くこと以外にないとの私の教育方針から、練習問題を数多く解かせテストや宿題を出すこともある。テスト用紙等は必ず提出すること。出席のチェックは毎回行う。

成績評価の方法

講義の際のテストの点数及び宿題の点数を合計し平均点を出し、定期試験の点を加算し再び平均点を出して評価する。そのため、講義中のテストや宿題の未提出者は当然平均点が下がる事になるから注意する事。

教 科 書

鶴飼哲夫・中村義彦編著『簿記イントロダクション』（森山書店） 2,625円
中村義彦編著『基本簿記演習』（マルゲン出版） 1,625円

参 考 書 等

新井益太郎監修『日商簿記検定試験演習』3級（実教出版）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
簿 記 学	たか だ みつ あき 高 田 光 明	二 営 1 必	4

講義のねらい

〔複式簿記〕

この授業では、企業が採用している簿記システムである複式簿記について学ぶ。

企業は、社会が必要とする財貨やサービスを生産し販売するという活動を営む報酬として、利益を獲得しようとする組織体である。このような活動では、機械、建物、原材料などの財貨が必要となるし、労働力も不可欠である。企業は、その活動を営むに際し、これらの財貨を取得しなければならぬし、働き手も雇用しなければならないわけであり、そのために元手となる資本を必要とする。

この元手としての資本を集めることを、資本の調達という。そして、現金の状態では通常は調達する資本で、企業は、上記の財貨や労働力などを取得し、これらの生産要素により、新たな財貨やサービスを製品として生産し販売するという営業活動を遂行する。こうした営業活動として具体化しているのが、資本の運用活動である。生産した製品が社会に受け入れられ販売が順調に進めば、製品の販売により回収獲得されてくる資本は、生産要素の取得に投じた資本よりも増加している。企業の営業活動を通じた資本のこのような自己増殖分が利益である。他方、製品が期待したようには社会に受け入れられず販売が滞り、製品の販売により回収獲得されてくる資本が、生産要素の取得に投じた資本よりも少なく、営業活動で資本が減少してしまうこともある。このような資本の日減り分が損失である。

企業が資本調達活動や、購買・生産・販売という営業活動として観察される資本の運用活動を実施すると、企業資本が増減変化する。企業が資本を調達すれば、その資本を具体化している現金の増加という形をとって企業資本の有高がそれだけ増加する。調達資本で営業活動を遂行していくと、資本は調達時の現金の状態から、原材料や機械といった非現金資産に転換し、さらにはその姿を次々と変え、最終的には元の現金の状態に戻ってくる。そして、営業活動が順調に推移するならば、この過程を通じて資本は自己増殖しているという具合である。企業の諸活動に伴う以上のような資本の働きを把握するために必要とされるのが、複式簿記である。

〔大学における簿記学〕

簿記学は、大学における会計関係の科目を学ぶ基礎・出発点としての位置にある。簿記学のカリキュラム上におけるこのような性格に配慮し、この授業では、受講者が、会計関係の諸科目をこれから学んでいける発展性のある学力を身に付けられることを目指す。そのためには、複式簿記を理論的に理解できるようにする必要があるので、会計学との関連に留意しながら授業を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

この授業では、複式簿記について、その基本構造と、帳簿の開始記入時から決算手続きを経て帳簿の締切り手続きに至る一巡の主要手続きを系統的に理解できるようになることをまず主眼とする。そこで、授業の前半では、次の順番で授業を進めていく。

1. 資本と資産
2. 勘定の記入
3. 取引の分解
4. 収益と費用
5. 仕訳と転記
6. 試算表
7. 精算表と財務諸表
8. 決算と決算手続

履修上の留意点

簿記の学習には、記帳練習が不可欠である。授業中にあるいは宿題の形で課す記帳練習のノルマを果たし、簿記の仕組みを言わば体得するという姿勢も大事である。

教 科 書

沼田嘉穂著『簿記教科書』（同文館）
同著『簿記教科書・記帳練習帳』（同文館）

参 考 書 等

染谷恭次郎著『簿記の手ほどき』（日経文庫）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
簿 記 学	とこ い むつ こ 床 井 睦 子	二 営 1 必	4

講義のねらい

簿記学において主にその対象とされるのは企業の複式簿記です。経済の具体的担い手である企業は、人・モノ・カネそしてサービス（情報）からなります。そうした企業を資金という統一概念で捉え、その源泉と運用の二側面に着目し、勘定という特殊な様式でこれを記録・計算・表示するシステムが複式簿記と呼ばれ、かのゲーテが“複式簿記は人間の精神が発明したもっともすばらしいものの一つである”と賞賛したものでもあります。本講義では、この複式簿記原理の理解を目的に、(1)仕訳、(2)転記、(3)決算の基本部分を学習します。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容は以下の通りです。

- ① 簿記学の内容
- ② 簿記の目的
- ③ 取引の認識
- ④ 認識の記録
- ⑤ 簿記の一巡（ビデオ併用）
- ⑥ 勘定各論
- ⑦ 決算手続
- ⑧ 財務諸表の作成

履修上の留意点

“継続は力なり” 簿記学はその典型かも知れません。頑張って出席されることを期待しています。

成績評価の方法

前記と後期の2回の試験に平常点を加味し、総合評価で行います。

教科書

井上達雄・新井清光編著『検定簿記ワークブック』3級／商業簿記（中央経済社）¥600
およびその他開講時に指示します。

参考書等

必要に応じ紹介していきます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 学 概 説	なが た とも のり 永 田 智 則	二 営 1 選	4

講義のねらい

本講義では、経済の基本的なメカニズムについて基礎的な理解を深めることを目的としています。専門分野を学習する際の基礎知識を提供することはいうまでもありませんが、それと同時に、私たちの身近な経済問題を自ら解明するのに役立つような「経済学の考え方」を身につけていただくことを意図しています。

講義の内容・
授業スケジュール

以下の項目を予定しています。

経済学の課題 需要と供給 市場機構 国民経済の枠組み
国民所得の決定 財政・金融政策 国際貿易

履修上の留意点

体系的に学習するために、授業には休まず必ず出席してください。

成績評価の方法

基本的には学年末の定期試験で評価しますが、出席状況、レポート等も加味します。

教 科 書

幸村千佳良著『経済学事始』（多賀出版）

参 考 書 等

授業中随時紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
情 報 処 理 基 礎	あおき たけのり 青 木 武 典	二 営 1・2・3・4 選	4

講義のねらい

パソコンの初心者を対象に、パソコンの操作方法、キーボード入力の方法、ワープロ、表計算ソフト等の代表的なアプリケーションソフトの操作方法等、パソコンを道具として使いこなすための基礎を習得する。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1) イントロダクション パソコンの基本的な操作方法を説明する。
- 2) キーボード入力の方法 ブラインドタッチ（キーボードの盤面を見ないでキー入力すること）ができるようになるための練習方法を説明する。
- 3) ワープロソフトの利用 ワープロソフト“一太郎”を用いてワープロ文書の作成、編集方法を習得する。
- 4) 表計算ソフトの利用 表計算ソフト“Excel”を用いて、データの作表、集計、グラフ化、データベース検索等の方法を習得する。
- 5) グラフィックソフトの利用 グラフィックソフト“ペイントブラシ”を用いて、画像データの作成、編集方法を習得する。

この授業は実習を中心にして進めていくが、通常の授業時間内ではすべての実習をこなすことは到底不可能なので、残りの部分は課題として次回までに自分で行うことを前提とする。授業時間よりもはるかに多くの自習時間が必要になることを覚悟してもらいたい。

履修上の留意点

パソコンの初心者を対象としている。受講希望者が多いと思われるので、ある程度の経験者は遠慮していただきたい。また、授業時間以上の自習時間が必要となるので、その時間が取れない者、単位取得だけが目的の者は遠慮していただきたい。

成績評価の方法

この授業の主旨はパソコンの操作技能を身につけてもらうことであり、その判定はどの程度課題をこなしたかで判断する。従って、課題の出来映えを最重要視する。通常の授業時に出席は取るが、いわゆる出席点とはしないので、授業に出席していれば単位がもらえるわけではないことを注意されたい。期末試験は行わない。

教 科 書

特定の教科書は使用しない。授業時に配布するプリントをもとに授業をすすめる予定である。

参 考 書 等

参考書については、授業の時に適宜指示する。

そ の 他

{クラス定員} 60名

{関連科目} 経営科学概論、経営科学、経営情報論

※この科目は4月初旬に第二学事課で受講票を受け取らなければ履修できません。また、今年度から1年次でも履修できるようになりました。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
情報処理基礎	かとう たけのぶ 加藤 武 信	二営1・2・3・4選	4

講義のねらい

情報化社会の電子文房具であるパソコンを自在に使って、文書の作成、プログラミング言語や表計算によるデータ加工の技法を修得する。パソコンの実習環境は、Windowsを用いる。

講義の内容・
授業スケジュール

〈前 期〉

① ワードプロ「MS-Word」による文書作成
レポート形式文書、納品書、履歴書などの文書例を参考にして文書作成技法を修得する(6コマ程度)。

② 統合型表計算ソフト「MS-Excel」による作表・作図(基本レベル)
多くの例題・演習課題による作表・作図訓練を行う。

〈後 期〉

③ 統合型表計算ソフト「MS-Excel」による作表・作図(応用レベル)
マクロコマンドによる自動処理の設定や経営管理に使う実務的な図表の作成までレベルを高めることを目指す。

④ 「Power Point」によるデータの視覚化
スライドの作成やパソコンからOHPへの投影のためのデータの視覚化を行う。

⑤ 複数ソフトで作成した文書の統合
上記ソフトおよび他のソフトで作成した文書の結合操作を行う。

履修上の留意点

パソコン実習が全体の80%を占めるので、欠席せず、熱意をもって受講することを望む。また習熟するためには、時間外のパソコン実習が必須である。また、テキストや配布教材を熟読しなければならない。

成績評価の方法

出席、レポートおよびテストにより総合評価する。

教 科 書

開講時に指示します。

そ の 他

〔クラス定員〕60名

〔関連科目〕経営科学概論、経営科学、経営情報論

※この科目は4月初旬に第二学事課で受講票を受け取らなければ履修できません。また、今年度から1年次でも履修できるようになりました。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
情報処理基礎	しほ や あや 渋谷綾子	二営1・2・3・4選	4

講義のねらい

情報化社会においては、コンピュータを使用しての情報処理能力は、当然備えているべき能力と認識されるようになってきている。社会科学系の学生としては、最低限、レポートや論文作成のためのワードプロセッサの利用技術、数値データの解析のための表・グラフ作成ソフトウェアの利用技術を習得しておく必要がある。

本講義では、パーソナル・コンピュータを使用して、実技形式の授業で、ワードプロセッサソフトウェアと表・グラフ作成ソフトウェアの習得を内容とする。また、プログラミング言語の初歩についても学習する。

基礎となる学問的傾向・問題意識としては、自らがパーソナル・コンピュータの利用技術を習得すると同時に、社会において「情報」がどのような役割を演じているかについての認識を持つようになることを希望する。

講義の内容・ 授業スケジュール

パーソナル・コンピュータを初めて利用する学生を対象に、

- ・タッチ・タイピング（キーボードを見ずに、リズムカルにキーを打つ技術）の習得
- ・ワードプロセッサソフトウェア
- ・表・グラフ作成ソフトウェア
- ・プログラミング言語

の順で講義を進めていきたい。

授業スケジュールとしては、最初のタッチ・タイピングについては専用の練習用ソフトウェアを使って各自で時間をかけて練習することが重要なので、授業では練習用ソフトウェアの使用方法について説明するにとどめる。各自の白覚に期待する。

履修上の留意点

電算室での実技科目であるから、出席することが最低要件である。また、タッチ・タイピングの習得や課題の提出など、授業時間以外でも積極的にコンピュータに接する心構えが必要である。毎回授業に出席し、課題やデータ作成の期限を守らないと授業についていけなくなるので、真剣に取り組むことを希望する。遅刻は厳禁である。

成績評価の方法

出席状況、課題の提出状況、定期試験の結果、授業への参加意識を考慮する。

教科書

この科目の教科書が既に決定している場合はその教科書を使用する

教科書が指定されていない場合は、

前田功雄編「Windowsによる情報処理（仮題）」（共立出版社）2,730円（仮）

※書名と価格については今後、変更の可能性があります。正式決定次第お知らせいたします。それまでに不都合がありましたら、ご一報ください。

その他

授業はコンピュータの設置された教室における実技形式とする。

〔クラス定員〕60名

〔関連科目〕経営科学概論、経営科学、経営情報論

※この科目は4月初旬に第二学事課で受講票を受け取らなければ履修できません。また、今年度から1年次でも履修できるようになりました。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
情報処理基礎	はし 橋 ば とし ゆき 橋 場 利 幸	二営1・2・3・4選	4

講義のねらい

マルチメディアパソコンやインターネットの急速な普及に象徴されるように、私たちを取り巻く環境は、急速に「情報化」されているように思われます。もはやコンピュータの利用技術は、良くも悪くも、社会人として生きていくための必須条件となった感さえあります。私たちはこれに対してどのように対応すればよいのでしょうか。盲目的な服従でしょうか？それとも全面的な拒絶でしょうか？いずれにせよ、まずはその「情報化」の現場をひとまずは体験してみる必要がありそうです。この講義では、まずはさまざまな「情報化」時代の技術を、コミュニケーションの道具として用いることができるような能力をつけることを目標にします。そうして、可能ならば「情報化」社会において、健全な判断力をもって生きてゆくためにはどうすればよいかを皆さんといっしょに考えていきたいと思っております。もちろん、これらの情報化技術を、就職活動、将来の仕事、ゼミ発表などの日常のコミュニケーションに役立てるという効用も大切ですから、実的な利用を常に念頭におきながら、身近な事例を用いて講義をすすめてゆく予定です。

講義の内容・授業スケジュール

代表的なパソコン用のOSであるWindows 95上で稼働するワードプロセッサ Word、表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト Power Pointなどのソフトウェアを取り上げ、これらを実習形式で学んでいきます。さらにインターネット上の情報資源の検索についても取り上げます。講義スケジュールは、主に前期がワードプロセッサを中心に、後期が表計算を中心にすすめることを予定しておりますが、受講者の皆さんと話し合いながら柔軟に対応していく予定です。

履修上の留意点

集合形式で実習を行いますので、遅刻や欠席がないようにしてください（講義開始前に情報教育センターで準備できていることが望ましい）。また、講義時間中に課題が終了しなかった場合には、各自が課題を完成し提出していただくことになりますので、時間外の作業が必要になる場合もあります。コンピュータに対しては、何よりも「慣れ」が大切ですから、熱意をもって受講してください。必ずその努力に対する見返りがあるはずですよ。

成績評価の方法

課題の提出状況と内容、および出席状況などによって総合的に評価します。

教科書

今回は以下をテキストとして利用する予定です。この本の課題をこなしてゆきますので、特に初心者の方は授業開始前に一度目を通しておいてください。太田忠一編／植松康祐・草薙信昭著『文科系のためのコンピュータリテラシ【Windows版】－Microsoft Officeによる－』（サイエンス社） ¥2,200。

参考書等

あまりコンピュータに馴染まれていない方は、最初のうちは洪水のような専門用語に戸惑われるかもしれません。そのような場合には「コンピュータ用語辞典」を用意しておくとか何かと便利です。辞典は、同項目の記述に関して何冊かを比較対照し、皆さん自身がわかりやすいと感じたものを選択されるのがよいでしょう。ただしこの業界は日進月歩なので、できるだけ版の新しいものを選択すべきです。例えば、「高橋三雄監修『わかりやすいコンピュータ用語辞典』（ナツメ社） ¥1,270」は、説明も丁寧で、しかも安価なのでよいと思われる。

その他

講義、実習ともすべて総合情報センターでコンピュータを使いながら行います。
〔クラス定員〕60名

〔関連科目〕経営科学概論、経営科学、経営情報論

※この科目は4月初旬に第二学事課で受講票を受け取らなければ履修できません。また、今年度から1年次でも履修できるようになりました。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
情 報 処 理 基 礎	もり 森 ひろ 博 ひこ 彦	二 営 1・2・3・4 選	4

講義のねらい

コンピュータは企業経営にとってすでに欠かすことの出来ないものとなっており、最近のインターネットの普及により、いち早く情報を集めるための道具として、ますますその必要性は増えていく。

本講義では、コンピュータの基本的な使用法から始めて、コンピュータを使っていかに情報を処理し、それを表現し、書類やプレゼンテーションの形として作成していくかを解説していく。

講義の内容・授業スケジュール

1. コンピュータの基本的な使用法
電源の入れ方からはじめ、タイピングの練習をおこなう。また、基本的なコンピュータ用語について解説する。
2. ワードプロセッサによる文書の作成法
日本語ワードプロセッサを用い、文書の作成技法について学ぶ。
3. 表計算ソフトによるデータの処理と視覚化
いろいろなデータを用い、そのデータにどのような意味が隠されているのかを探るため、表計算ソフトを用いて、どのように処理をすればいいか、また、その結果をどのように表現すればいいかについて学ぶ。
4. プレゼンテーションソフトによる発表方法
プレゼンテーションソフトを使い、3. で作成した表やグラフを使って効率よく、美しく、わかりやすく発表するかについてまなぶ。マルチメディアによるプレゼンテーションについてもふれていく。
5. インターネットについて
インターネットとは何か、どのようなことが出来るのかなど、インターネットの現状と将来について、電子メール、ワールドワイドウェブ（WWW）を中心に解説をしていく。
6. その他
時間が許す範囲で、これらのソフトをどのように作成するかについて、いくつかのプログラミングの手法について解説していく。

教 科 書

授業時に指示する。

そ の 他

実習を中心に行うので、欠席は極力避けてください。

〔クラス定員〕60名

〔関連科目〕経営科学概論、経営科学、経営情報論

※この科目は4月初旬に第二学事課で受講票を受け取らなければ履修できません。また、今年度から1年次でも履修できるようになりました。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
会 計 学	わた なべ え いちろう 渡 邊 恵 一 郎	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

会計学を体系的に学修するためのオリエンテーションとして講義する。
 会計に興味ある人は、履修要項にある会計学系列の専門選択科目を履修するに当たっての準備のつもりで学習したほうがよい。しかし、この講義では、他の系列を履修したい人、経営・管理のプロフェッショナルになりたい人、あるいは他の職業に従事したい人にも、会計学の基本知識が得られるよう概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は、下記の教科書により、その授業スケジュールは次のとおり。
 ① 4～5月 会計学とは何か、会計と社会との関係
 ② 6～7月 財務会計の基礎
 ③ 9～10月 管理会計の基礎
 ④ 11～1月 会計原則と会計法規、財務分析、会計監査、税務会計、国際会計、会計学史、最近の会計上の課題

履修上の留意点

宿題（年2回）を提出しなければ、期末試験を受けられない。

教 科 書

染谷恭次郎著『会計学（第3版）』（中央経済社）

参 考 書 等

嵐村剛雄責任編集『体系会計諸則集』（白桃書房）

そ の 他

授業の方法は、講義による。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 原 論	前期：あか石博行 後期：も藤洋一	二営2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、経済社会のたえずの変化をふまえて、資本制社会の経済的な仕組みと運動法則にかんする基礎的な説明をします。資本制経済社会における、物と物との関係、人と人との関係、社会と自然との関係を体系的に説明し、資本制の経済社会を理解するための基礎理論を提示することが、この講義の課題です。この講義では、新しい政治経済学であり経済社会学であるような社会科学理論の、もっとも基礎的な部分を解説するのです。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、若干の序論的な説明ののち、第1部「市場の基礎理論」、第2部「資本の基礎理論」、という2つの部分にわけて進めます

第1部「市場の基礎理論」では、(1)商品と貨幣、(2)貨幣の資本への発展、(3)市場経済と市民社会、にわけて、資本制の単純な流通と消費にかんする基礎的な説明をします。(1)では、商品の分析を基礎として、貨幣発生必然性を明らかにし、貨幣の機能と貨幣経済の仕組みを説明します。(2)では、貨幣と資本との発展関係をふまえて資本とは何かにかんする基礎的な考察をおこない、単純な流通と消費の領域における分析には資本の分析における本質的な限界があることを明らかにします。(3)では、市場経済および市場関係を基礎とする市民社会について説明したうえで、この領域にかんする従来の経済学研究の評価を簡単に整理し、基本的に自立的な発展をとげてきた資本制諸国と追いつき型発展をとげてきた資本制諸国における市民社会形成の典型的な違いを明らかにします。

第2部「資本の基礎理論」は、(1)資本の生産過程、(2)資本の流通過程、(3)資本と利潤、(4)資本制の階級構造、にわけて説明します。(1)では、資本はどのようにして生産されるか、資本はどのようにして生産をするか、資本はどのようにして再生産されるか、について説明します。具体的には、不変資本と可変資本、剰余価値とその率、再生産、資本蓄積といった、資本を理解するための基礎的な概念、また資本制のもとでの雇用と失業、富裕と貧困などを、説明します。(2)では、資本の流通過程の問題として、資本の循環、流動資本と固定資本、再生産表式、といった基礎概念と分析方法について説明し、資本の流通過程の構造と運動法則を明らかにします。(3)では、資本とそれが生み出す利潤をめぐる、利潤と利潤率、平均利潤と平均利潤率、利潤率の傾向的低下法則などを説明します。(4)では、資本の基礎理論の全体的総括として、資本制社会の基底にある資本家階級と労働者階級という二大階級の間を整理します。

履修上の留意点

今年度の講義は、前半と後半にわかれており、担当者が交代します。前半は、第1部「市場の基礎理論」、および第2部「資本の基礎理論」における、「(1)資本の生産過程」の剰余価値論を扱います。後半は、第2部「資本の基礎理論」における、「(1)資本の生産過程」の残された部分、および「(2)資本の流通過程、(3)資本と利潤、(4)資本制の階級構造」を扱います。

担当者が交代するために、講義の流れにはやや個性の差が出ると思います。けれども、担当者相互で十分に打ち合わせをして講義をしますので、とくに心配する必要はありません。

成績評価の方法

年度末の試験によって、成績評価をします。なお、講義中におこなう質問票への回答も、成績評価のさいの参考にします。

教科書

教科書は使用しませんが、それぞれの分野にかかわる参考書を、必要に応じて紹介します。教科書を使用しませんので、授業にきちんと出席し、講義ノートを作成することが必要です。授業をよく聴き、要点をノートにまとめ、参考書を読み、聴いたこと読んだことについて自分でよく考えること、これらの基本的なことをやり遂げるよう努力してください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
近 代 経 済 学	たき た こう いち 滝 田 公 一	二 営 2・3・4 選	4

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は、産業組織論の入門的講義を行います。講義内容は、以下のとおりです。

1. 産業組織論とは？
2. 企業の理論
3. 生産費用
4. 完全競争と独占
5. 支配的企業と競争的周縁
6. カルテル
7. 非協力的な寡占
8. 製品差別化と独占的競争
9. 産業構造と成果
10. 価格差別
11. 垂直的統合
12. 品質と情報と広告

教 科 書

特に指定しません。

参 考 書 等

- ロジャー・クラーク著『現代産業組織論』（多賀出版）1989
 Carlton, D.W. and J.M. Perloff, *Modern Industrial Organization*, Scott, Foresman, 1990
 新庄浩二編、『産業組織論』（有斐閣）1995

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 科 学 概 論	にし 西 むら 村 かず 和 お 夫	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

生産活動には、本来の物作りの技術のほかに、高能率、高品質、低コスト、短納期を達成するための効率的な生産システムの設計・改善および維持管理の技術が必要である。わが国の産業界は、いち早く QC (品質管理)、IE (経営工学)、OR (運用研究) をはじめとする経営管理技術の導入を図り、実践することによって、生産、品質、コスト面で飛躍的發展をなしとげた。この講義では、QC、IE、OR を中心にして、経営管理技術の基本的な理論と方法を概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

経営工学の概略と歴史 (1回)
 生産管理と IE 技法 (2回)
 1. 生産方式 2. 生産計画
 OR による計画と決定 (3回)
 1. 数理計画法 2. 待ち行列理論 3. シミュレーション
 工程管理と作業の平準化 (3回)
 1. 工程管理と工程分析 2. 日程計画 3. ラインバランシング
 在庫管理と品質管理 (2回)
 1. 在庫管理の必要性 2. QC と TQC
 統計的手法 (2回)
 1. 需要予測 2. 回帰分析
 FA 化の技術と CIM (3回)
 1. FA 化と CIM の役割 2. 計測と自動制御 3. CAD/CAM と FMS
 システムの信頼性と性能評価 (2回)
 1. 信頼性と稼働率 2. システムの構成と性能評価
 経済性工学と生産性 (3回)
 1. 原価管理 2. 経済性分析 3. 生産性分析

履修上の留意点

履修に際して予備的な知識は特に必要ない。出席はとらないが、予告なしに演習を行うので毎回出席すること。

成績評価の方法

試験 2 回 (7 月、1 月) 各 50%
 授業中の演習 参考

教 科 書

法雲俊巳著『経営工学』経営情報学講座 9 (オーム社) ¥2,800

参 考 書 等

授業は講義形式で行うが、理解を深めるために演習も行う。適宜、OHP を使用する予定である。

そ の 他

(関連科目) → 経営科学、生産管理論、システム論、経営統計、経営情報論

科目名	担当者名	配当学年	単 位
経営史	まえ だ かず とし 前 田 和 利	二・三・四選	4

講義のねらい

経営史の課題は「企業経営とは何か」について史的に答えていくことにあり、そのことによって現在の企業経営の理解がより容易になる。本講義では、一般化された経営発達史を、できるだけ個々の産業・企業の歴史や国際比較の視点をふまえて論じていく。その結果、日本の企業経営の特質を鮮明に浮かび上がらせることができよう。

講義の内容・授業スケジュール

本講義は三部から構成される。第一部では経営史を学ぶ視角を養い、そのうえで第二部において企業経営の一般的発達史を学ぶ。第三部は日本の企業経営をケースを通して理解する。

I. 経営史研究の課題と方法

経営史（狭義）論、企業者史論、組織総合理論

II. 企業経営発達史

1. 企業経営の生成（イギリスを中心に）

商人資本、マニュファクチュア経営

2. 企業経営の確立（イギリスを中心に）

産業革命、工場制度、企業経営の諸様相（企業経営者、企業形態と企業金融、労務管理、流通・販売組織）

3. 企業経営の発展（アメリカを中心に）

市場の拡大・変容、アメリカの大衆生産体制、big business の形成、giant enterprise の成立

III. 日本の企業経営

以上のうち、前期において企業経営の確立の一部までを終え、それ以後を後期に講義する予定である。

なお、日本の企業経営に関しては進行速度によって変更がありえる。

履修上の留意点

テキストは使用しないので、下記の参考文献をテキストのつもりで参照し、必ずノートを整理してください。4、5回出欠をとり、また適宜資料を配布する。

成績評価の方法

学年末テストによって評価する。

参 考 書 等

- ① 榎本悟『アメリカ経営史学の研究』（同文館）
 - ② 中川敬一郎『比較経営史序説』（東京大学出版会）
 - ③ 大河内暁男『経営史講義』（東京大学出版会）
 - ④ 土屋守章編『経営史—西洋と日本—』（有斐閣）
 - ⑤ 宮本又郎ほか『日本経営史』（有斐閣）
- その他随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 管 理 論	すずき ころも 鈴 木 幸 毅	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

経営管理の理論と現実について、経済社会の動向、資本主義企業の現在の姿を視野に入れつつ、説明する。

講義の内容・
授業スケジュール

下記の1、2を前期にとりあげ、それとの関連において後期に3、4を講義する。

- 1 古典的理論
 - (1) テイラーの科学的管理論
 - (2) 管理過程論（職能論）
 - (3) 管理構造論（組織論）
- 2 新古典的理論
 - (1) ホーソン実験と人間関係論的管理論
 - (2) 行動科学的管理論
 - (3) 管理開発論
- 3 近代理論
 - (1) バーナード革命
 - (2) 組織論的管理論
 - (3) 意思決定論的管理論
- 4 現代理論
 - (1) 環境適応の管理論
 - (2) 戦略的管理論
 - (3) 環境問題と企業責任論

履修上の留意点

自主的学習を期待するので、特に出欠をとることはしないが、中間試験に代わるレポート提出を求め、その成績を期末テスト結果に加味して評価する。

教 科 書

鈴木幸毅著『経営管理論—学説研究—』（中央経済社）1996年4月

参 考 書 等

鈴木幸毅著『現代組織理論』（税務経理協会）1994年
鈴木幸毅編『バーナード理論と労働の人間化』1997年4月

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
企 業 形 態 論	か が み よ う こ 各 務 洋 子	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

企業形態論は、経営学において早くから成立した学問領域の一つである。企業形態を単に企業規模の区分として捉えるのではなく、企業制度の歴史的発展の過程、進化の段階として動態的に捉える。資本主義経済の支配的な企業形態である株式会社を中心に据え、株式会社制度の基本、所有と経営との関係、現代株式会社の特質、株式会社支配論等の理論的特質、歴史的発展過程を述べ、現代社会における企業行動の理解を深め、現代経営の諸現象を考察するための基本的知識の修得を目指す。

講義の内容・ 授業スケジュール

第1回目の授業に、シラバスを配布し、1年間の講義の流れを説明する。取り上げるテーマは、以下の予定。

1. 企業概念（企業理論への道程）
2. 企業形態の展開（企業形態の本質的意味、企業の資本調達メカニズム）
3. 法制上の企業形態（企業形態の種類、会社法による会社の種類）
4. 日本の企業制度史（原点としての明治期初頭、官営事業、株式会社制度）
5. 株式会社の現実（株式の公開と上場制度、株式会社の日本的特質、株式会社を巡る諸問題の検討—コーポレート・ガバナンス論争、株式会社支配論の展開、株式相互持合いに関する諸理論等）
6. 企業競争と独占（競争のダイナミズム、構造的独占）
7. 企業の統合とグループ化（統合による企業の巨大化、統合の法的形式、経済形態、巨大企業のグループ化）
8. 企業格差の構造（企業規模、企業格差の実態、中小企業施策と今後の課題）
9. 企業の国際化（国際化の意味、国際化の実態、海外新種に伴う企業経営上の課題）
10. 日本の公企業（公企業の経緯と種類、政府公企業、地方公企業、経営の課題）
11. 日本の協同組合（協同組合の歴史、経営原則、種類、現実）

成績評価の方法

年二回の定期試験と、講義の終わりに小レポート（複数回）を実施する。小レポートの合計点（30%）、前期試験（30%）、後期試験（40%）によって総合評価する。

教 科 書

小松章著『企業形態論』（新世社）

参 考 書 等

その他参考文献は、授業中に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 学 史	きたむら けん の すけ 北 村 健 之 助	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

経営学の現代性が問われている。いろいろな新しい問題がもち込まれたからである。しかし経営学の本質まで変ってしまったような錯覚に陥ることがある。

経営学は今世紀初頭に生成した学問であるといわれている。ただ偶然に生まれたわけではない。それには長い前史があるのである。

資本の原始蓄積が行われていた頃、重商主義政策を背景に、ドイツではフランスのサバリーの影響をうけた商人学が生まれている。19世紀初期のころであった。産業革命を遂行したイギリスは19世紀前半には早くも工業経営論が現れている。19世紀中頃には、アメリカでは大規模化した鉄道企業において、経営管理の問題がとり上げられている。この世紀後半に入ると、ドイツ産業資本の確立と共に工業経営論が生まれ、組織、工業労働、工業計算の問題が研究されている。

本年もこれら19世紀に現われた商業経営論、工業経営論などをめぐる議論を中心にとりあげ、中味を詳しく検討し、基本的な問題を集約したい。現代経営学の複雑な問題を理解するには、古い歴史の中でそれが単純に語られていると思うからである。よくいわれるように、ある学問の本質は、学問の歴史そのものの中にあるという意見は正に金言である。

講義の内容・
授業スケジュール

前期はドイツ経営学前史、伝統的経営学、近代経営学の順にお話します。

後期はアメリカ経営学前史（南北戦争前、南北戦争後）、伝統的経営学、近代経営学をお話しし、ドイツ経営学とアメリカ経営学の接点を近代経営学に求めたいと考えています。

履修上の留意点

テキスト・参考書をよく読むこと。

成績評価の方法

期末テストを判断します。

教 科 書

『経営学原論』（近代文芸社）

参 考 書 等

藤芳誠一編著『図説経営学』（学文社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
アメリカ経営学	みやぎ 城 徹	二営2・3・4選	4

講義のねらい

世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。

学生諸君は、必須科目である「経営学概説」や「経営学」などの授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかんする基礎知識をある程度身につけていることを前提として、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて全般的に講義するが、主として、下記の授業計画の8つの要目について検討する。

講義の内容・授業スケジュール

マイクと板書。教科書は指定しない。

この授業は1週1回90分で年間30週の時間数（ただし、期末試験日を入れて）から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために下見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッコ内の授業回数（合計29回）で完結する予定である。

なお、この授業回数は一応の目安であり、授業時間が祝祭日に当たる場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。

1998年度『アメリカ経営学』授業計画

- I 1年間の授業の概要(1)
- II 経営学の対象と方法(2)
- III 意思決定と権力（パワー）(8)
- IV 戦略（特に提携、グループ、ファミリー）(4)
- V コンティンジェンシー理論(4)
- VI 取引コスト理論(6)
- VII プロパティ・ライツ理論(2)
- VIII プリンシパル・エージェント理論(2)

成績評価の方法

期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。

《期末試験の出題形式》

複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。

参 考 書 等

- 1 宮城徹『企業の政治理論序説』（税務経理協会）1983、1997
- 2 宮城「企業制度とプロパティ・ライツ理論」商学研究科紀要（早大、第20号）1985
- 3 宮城徹「情報と企業経営の理論的諸問題」日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』（千倉書房）1987
- 4 宮城徹「経営者論」鈴木英寿編『経営学総論』（第2版）（成文堂）1989、1998
- 5 宮城徹「経営学の歴史」藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』（学文社）1993

ここでは紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文だけを参考文献の一部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介しておく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 財 務 論	たか だ みつ あき 高 田 光 明	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

〔財務の意味〕

経営財務は、企業という組織体の財務を研究する学問分野である。企業は、社会が必要とする財貨やサービスを生産し販売するという活動を営む報酬として、利益を獲得しようとする組織体である。このような活動では、機械、建物、原材料などの財貨が必要となるし、労働力も不可欠である。企業は、その活動を営むに際し、これらの財貨を取得しなければならないし、働き手も雇用しなければならないわけであり、そのために元手となる資本を必要とする。

この元手としての資本を集めることを、資本の調達という。そして、現金の状態で通常は調達する資本で、企業は、上記の財貨や労働力などを取得し、これらの生産要素により、新たな財貨やサービスを生産して販売するという営業活動を遂行し、その結果として資本が自己増殖することを旨とする。このことが資本の運用であり、企業の営業活動を通じた資本の自己増殖分が利益である。企業の財務とは、現在では、企業による以上のような資本の調達と運用をいっている。

〔資本調達の位置〕

企業が資本を調達するのは、調達資本をできるだけ効率的に運用して自己増殖させ、利益を生み出すためである。その意味では、資本の運用あつての調達であるといつてよい。しかしながら、企業は、用途に合った種類の資本を、必要とする額だけ必要なときに調達できなければ、資本の運用を意図したように行い難くなる。資本運用の効率性は、企業が、資本の運用に合わせた調達をいかに行えるかに制約される。資本の運用がうまくいくかどうかの出発点は、資本をどのように調達するかにあるといえる。

資本の調達問題は、経営財務において、依然として重要な位置を占めていることに変わりがない。資本の運用あつての調達であるからといって、そのことは、資本の調達面の意義が小さくなることをけつして意味してはいないのである。この授業では、以上のような問題意識のもとで、資本の調達を中心に、必要に応じて資本の運用面と関連させながら講義するつもりである。

講義の内容・
授業スケジュール

基礎知識を体系的に理解し、この学問の基本的考え方を身に付けられるようにするために、まず基礎的・総論的事項について次の順番で講義していく。

1. 経営財務の領域
2. 資本と資産
3. 資本の分類
4. 資本の運用形態
5. 流動・固定分類法の重要性
6. 資金

履修上の留意点

経営財務論を理解する上で必要となる最小限の会計的知識も授業では説明する。しかし、簿記学と会計学を前もって履修してあることが望ましい。

教 科 書

中原章吉編著『経営財務と管理会計』（中央経済社）

参 考 書 等

染谷恭次郎著『資金計画の手引き』（口経文庫）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 労 務 論	なかむらまさ 中 村 眞 人	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

企業と労働について学ぶ。特に、現代日本における社会的分業と企業内分業の構造、そのもとのさまざまな労働の実態と諸問題について講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 現代日本における企業集団の成り立ちと分業構造
- ② 民間大企業の労働問題と「新時代の日本的経営」
- ③ 中小企業労働の特徴と変化
- ④ 公企業の解体・再編と労使関係
- ⑤ その他

履修上の留意点

経営学と経済学の基礎知識を要する。

成績評価の方法

学年末試験による。

教 科 書

戸塚秀夫・徳永重良編著『現代日本の労働問題』（ミネルヴァ書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 組 織 論	なが 長 瀬 かつ 勝 ひこ 彦	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

この講義で論じるのは、第1に企業組織がどのように構成されているのか、第2に環境の中でどのように運動しているのか、第3に個人や小集団が組織とどのように関わっているのかである。組織というものは形があるわけでもなければ色が付いているわけでもない、目に見えない存在である。それなのに私たちは会社がどうだとか学校がどうしたとか当然のように会話を交わしているし、社会では「法人」として人間並みの位置づけをされている部分もある。天然資源から自動車やコンピュータをつくったり、巨大ビルや橋を建築することは個人では何百年かかってもできないが、組織はやってのける。企業組織の活動によって生活が豊かで便利になることは否定しようがない。しかし一方で自然環境を破壊して私たちの生活を脅かすという側面も併せ持っているのである。また人間は組織の中で高く評価されるとうれしく思うし、「会社人間」といわれるように組織と一体化する人もいる。組織の側も構成員に対していろいろ便益を与えてくれるが、景気が悪くなると手のひらを返したように嫌がらせをしたり、さらには退職を迫ったりする。こんなにも社会にも個人の心にも大きなプレゼンスを示す経営組織について、じっくり考えてみようではないか。

授業の展開としては、抽象的な理論や学説の紹介は程々に留め、現代の組織が直面している問題をなるべく多く取り上げて議論していく。

講義の内容・授業スケジュール

- 取り上げる予定の主な項目は以下の通りである。ただし授業の回数と項目番号は一致しない。
1. 企業組織の階層（トップ、ミドルなど）
 2. 企業組織の部門化（単純な部門化、時間帯による部門化、地域別部門化、職能別部門化、事業部制組織、マトリクス組織など）
 3. 新規事業開発と組織内組織（社内ベンチャー、プロジェクトチームなど）
 4. 事業の国際化と組織
 5. ラインとスタッフ
 6. コンティンジェンシー理論（機械的組織と有機的組織など）
 7. 組織文化と組織開発
 8. 組織と戦略
 9. 組織のリストラクチャリング（本社のスリム化、分社化、アウトソーシングなど）
 10. 新しい人事・処遇制度（専門職制度、職能資格制度、役職定年制度、年俸制度、出向制度など）
 11. 情報化と組織（航空会社のコンピュータ予約システムなど）
 12. 企業間関係（企業集団と系列、ネットワーク組織、戦略提携など）
 13. 個人と組織（モチベーション理論、規範と同調など）

履修上の留意点

私語等授業の妨げになる行為は厳禁する。また、授業時間内にレポート作成を課すことがあるが、その場合は遅刻者は教室に入室できない。禁止行為は厳正に対処され、またそれは最終的な成績評価や単位認定にも当然反映されるので注意すること。

成績評価の方法

成績評価は基本的に定期試験による。不定期に実施する授業時間内レポートの評価点をそれに加える。いわゆる出席点はつけない。

教科書

講義を通じての教科書は使用しない。

参考書等

各分野の参考図書を随時紹介する。
高橋伸夫編著『組織文化の経営学』（中央経済社） その他

その他

講義においては受講者諸君にできるだけ頭を使ってもらうために発言を促すことがあるので、積極的な参加を希望する。また適宜ビデオ教材を使用するので、教場変更に注意すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国 際 経 営 論	も 茂 が 垣 ひ ろ 志	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

国際経営論とは、「国境を越えて事業展開しているその各拠点の諸活動をどのようにマネジメントするのか?」という課題に取り組んでいる経営学の一領域である。したがって、既存のドメスティックな経営理論を基礎として、各事業拠点を高度に海外に分散化した多国籍企業(MNC)特有の問題を扱っている。本講義のねらいとしては、経営戦略論、マネジメント論、組織論等をベースとして、比較経営論ないし異文化経営論の視点を加味して、多国籍企業の戦略行動とマネジメントを考える際の基本的フレームワークについて、種々の理論(アプローチ)、データ、ケースを採用し考察していきたい。つまり、企業の国際化、多国籍化にまつわる諸現象を企業経営の観点から多面的に捉え、検討することを通じて、国際経営に関する理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

周知のように1985年のプラザ合意以降の急速な円高の進行と貿易摩擦による相手先国からの政治的プレッシャーにより、それまでの輸出中心の国際競争戦略から現地生産、第3国生産を加味した戦略へと移行し、さらに近年では東南アジアへの部品メーカー、組立てメーカーの進出が加速化し、日・米・欧・亜の4極の体制が構築されはじめてきている。これらのことは企業の戦略と分散化した諸活動の調整をますます複雑なものとしており、そのマネジメントのあり方が、国際経営上の大きな課題となっている。

海外に拠点を高度に分散化しているMNCにとっての大きな課題は、それら拠点の現地化(適応性)の要請とグローバルな統合化(効率性)の要請のバランスないしその同時達成である。日本企業の場合、急速な海外展開と日本的マネジメントの特徴から、アメリカ系および欧州系MNCと異なる様相を示している。授業では、その日系MNCの戦略及びマネジメントの特徴を理論、欧米系MNCとの比較、ケースを通じて理解し、課題ないし問題点を理解することに主眼を置くことにする。より具体的には、以下のような内容を予定している。

- I. 国際経営のフレームワーク(隣接領域との異同と関連性)
- II. 企業の多国籍化を説明する諸理論の検討(IPLC仮説、寡占反応仮説、差別化優位仮説、内部化優位仮説、経営資源優位仮説、折衷仮説等)
- III. 国際経営/企業多国籍化の発展段階モデル(ロビンソン・モデル、小林モデル、マッキンゼー・モデル、ルートの海外市場参入段階モデル、EPRGモデル等)
- IV. 国際競争戦略(国際戦略の基本パターンないしモデル)
 1. 国際競争優位性(規模の経済・範囲の経済・連結の経済、比較優位・国家特殊優位性)
 2. 国際競争戦略の類型(ホーター・モデル、ドズ=ブラハラード・モデル、パートレット=ゴジャール・モデル等)
 3. 国際マーケティング戦略(マルチナショナル・パラダイムとグローバル・パラダイム、グローバル・マーケティング・ミクス、製品ポジショニングとグローバル市場細分化戦略)
- V. 国際戦略と組織構造
 1. マクロ構造(国際事業部制、世界的地域別構造、世界的製品別構造、世界的マトリックス構造)
 2. ミクロ構造および内部ネットワーク(トランスナショナル・モデル、ヘテラルキー・モデル)
- VI. 日本企業の国際化と人的資源管理
 1. 欧州系MNCとアメリカ系MNCの戦略およびマネジメント上の特徴(経営伝統と現状)
 2. 日系多国籍企業の海外子会社マネジメントの特徴(その必要性と問題点、進出地域別特徴)
 3. 海外派遣社員の選抜、教育、給与問題
 4. 異文化マネジメント
- VII. 在日外資系企業の経営上及び人事管理上の特徴

以上が講義内容の要目であるが、講義では単なる理論の紹介のみならず、各種調査データや具体的な企業のケースを通じて理解を深めていきたい。なお、毎時間レジュメおよび資料を配布し、それに基づいて授業を進めていく。

履修上の留意点

経営学、経営戦略論の知識があった方が理解しやすいので、そのような関連科目を既に履修しているか、現在している方が望ましい。ただ、授業中にも簡単には説明します。

成績評価の方法

成績は、出席状況および期末試験の結果により判断します。

教科書

未定(授業開始時に指定)

参考書等

根本孝・諸上茂登『国際経営の進化』(学文社) ¥2,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 経 営 史	うちだかねお 内田金生	二営2・3・4選	4

講義のねらい

1920年代から現代に至るまでの日本企業の経営発展の諸側面について概観する。講義を通じて、多くの課題をかかえた現在の日本企業を、「歴史」という視点から、改めてとらえ直す作業に受講者とともに取り組み、「企業経営」ならびに学問としての「経営学」についての理解を一層深めてもらいたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

教科書に指定した日本経営史の通史的なテキストの配列に準じて、前期は〈戦前期の企業経営〉、後期は〈戦後の企業経営〉について講義する。とくに今年度は、以下のテーマについて順次取り上げてみたい。

それぞれの講義では、教場で配布する基礎的な資料や統計の吟味・検討を行ない、各時期の経営環境の変化と企業経営における革新的行動に注目しながら、経営発展の歴史とそれに関連する経営学の基礎的な理論について論じていく。

前期〈戦前期の企業経営〉

(1)「経営史」の課題と方法／(2)現代の経済・経営を論じる上でのフレーム・ワーク／(3)戦前期日本の経済発展と産業構造・企業成長／(4)日本における「現代企業」の成立／(5)成長企業の組織と戦略／(6)財閥の構造と成長力／(7)重構造の出現／(8)戦前期の日本企業の国際競争力／(9)新興産業の勃興と成長企業／(10)トップ・マネジメントと専門経営者／(11)経営合理化と「科学的管理法」／(12)戦時統制経済期の企業経営／(13)戦時下での技術開発

後期〈戦後の企業経営〉

(1)戦後の経済統制と復興過程／(2)財閥解体と新たな経営者層の台頭／(3)傾斜生産方式と復興金融／(4)戦後日本の経済発展と産業構造・企業成長／(5)技術導入と大規模投資の進展／(6)アメリカ的経営管理の導入／(7)企業集団の形成／(8)戦後の産業政策とその機能／(9)マーケティングと流通革新／(10)産業構造の変化と企業のリストラクチャリング／(11)安定成長期の企業経営と国際競争力／(12)日本企業の海外進出／(13)負の遺産からの脱却——バブル経済からアフター・バブルの不況へ

履修上の留意点

選択科目であるため、受講者に対しては熱心、かつ真摯な態度での聴講を強く期待している。また、講義のなかで紹介したり、各人が関心をもっている企業の社史や経営者の自伝等を用いて、講義内容の確認と補習を行うことが望ましい。

成績評価の方法

単位は、定期試験・レポート及び平常点をもって、総合的に評価する。

教科書

宮本又郎他『日本経営史』（有斐閣）1995年 本体3,200円、第3～5章。

参考書等

履修に際しては、とくに必要はない。ただし、各自で進んで独習するものに対しては、相談の上、別途に文献リストを配布するので、参考にしてほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
マーケティング論	かねむら えい てつ 兼 村 栄 哲	二営2・3・4選	4

講義のねらい

近年、企業にとって、マーケティングの重要性がますます高まっています。そこで、本講義では、「マーケティングとは何か」、「各企業はマーケティングをどのようにおこなっているのか」などについて、受講生のみなさんにわかりやすく説明します。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、以下の順序で進めていく予定です。
 ①生産と消費の間の経済的懸隔；流通の社会的役割 ②流通フロー（商流・情報流・物流）
 ③流通機能（交換機能・情報伝達機能・輸送機能・保管機能） ④流通機構
 ⑤小売業の類型化 ⑥小売形態の生起・発展に関する理論仮説 ⑦卸売業の類型化
 ⑧マーケティングの定義 ⑨マーケティング・マネジメント過程 ⑩消費者行動
 ⑪マーケティング・リサーチ ⑫製品政策 ⑬価格政策 ⑭販売経路政策 ⑮販売促進政策

履修上の留意点

講義を受けるうえで、「出席すること」および「私語を慎むこと」の2点を受講生のみなさんに要望します。

成績評価の方法

試験・出席状況・出席態度などを総合的にみて、成績を評価をします。

教科書・参考書

開講時に指定します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 業 史	やま だ まさる 山 田 勝	二営2・3・4選	4

講義のねらい

商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容の主なテーマは次のとおりである。
 ① 商業史の観点
 ② 歴史研究とパラダイス論
 ③ 利潤
 ④ 商品
 ⑤ 市場
 ⑥ 継続性
 ⑦ 流通量
 ⑧ 大衆消費社会の特質
 ⑨ 価格革命
 ⑩ 情報社会と商業

履修上の留意点

講義を聴くことのみが学習の方法ではないが、講義は各自の学習の導きとしては有益である。出席はとらないが、聴講に努めて欲しい。質問は歓迎する。
 教場での私語は他人に迷惑となるので厳禁とする。
 必要があれば教場から出て話すこと。

成績評価の方法

成績評価は定期試験による。

教科書

山田勝著『現代商業史』（創成社） ¥2,800

科目名	担当者名	配当学年	単位
商業経営論	もり 森 みや 宮 かつ 勝 こ 子	二営2・3・4選	4

講義のねらい

商業経営論とは、生産者と最終消費者との中間にあって、商品・サービス・アイデアを購入・販売することを業とする中間事業者の活動をその研究対象とする。中間事業者とは、卸売業者と小売業者を意味するが、講義では、小売業者を中心にその商業経営を検討することとする。

講義の内容・授業スケジュール

総論として、商業の意義と機能を論じた後、小売業の形態と動向について考察する。小売業の形態については、有店舗小売業と無店舗小売業の2つに分けて検討する。有店舗小売業には、百貨店、スーパーマーケット、専門店、コンビニエンスストア、ディスカウントストア等があり、無店舗小売業には、訪問販売業、通信販売業、自動販売業がある。これらの小売業について、その沿革、内容、動向について詳細に講ずる。各論として、多様な小売業の業態で展開されている商業経営の手法について説明する。その内容としては、市場調査と立地分析、店舗管理、商品政策、仕入管理、商品管理、価格政策、販売管理等があげられる。

履修上の留意点

毎時間、資料を配布するが、試験問題の解答に必要となるかもしれないので保管しておくこと。

成績評価の方法

学年末試験の結果により成績評価する。

教科書

出牛正芳・他『商業経営論』（税務経理協会）¥3,500

科目名	担当者名	配当学年	単位
保険経営論	いし 石名 なが 坂 くに 邦 あ 昭	二営2・3・4選	4

講義のねらい

本講義においては、保険学のアプローチとして近年一般化しつつあるリスク・マネジメントの基本的事柄につき理解した後に、保険理論の基本的知識を正確にし、わが国の保険事業並びに一般企業がかかえているリスクに関する諸問題にどのように対処したらよいかの応用能力が持てるようになることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

保険学の研究は、保険法学的アプローチ、保険経済的アプローチ、保険経営学的アプローチとそれぞれの時代を背景に論じられてきた。今日、保険学研究については保険経営学的研究をより発展させた、「危険管理論」（リスク・マネジメント）研究が主流となっている。本講義においては、最初にリスク・マネジメントの基本的体系について論じ、リスク・マネジメントの理論、歴史的発展について見た後に、リスク・マネジメントの中心となる保険の機能、保険本質、保険技術について詳しく見ていきたい。

前期はリスク・マネジメントを中心とした講義を行い、後期に保険論を中心とした講義を行う。講義は、理解しやすいように工夫をこらしていく。“教科書は使用するが、それは本講義を理解するための基本的共通知識として使用し、講義は教科書に書かれている事柄が理解されていることを前提として進めていく。

履修上の留意点

保険およびリスク・マネジメントを理解するためには使用される専門用語を理解されていなければならない、学ぶことも広範囲にわたるため、講義を受ける前に必ず教科書を読み講義後の復習も忘れないようにしてほしい。学生諸君の積極的な授業への参加を望む。

成績評価の方法

講義への出席状況及び授業時の質疑応答と定期試験の結果を総合して成績評価を行う。

教科書

教科書：石名坂著『リスク・マネジメントの理論』（白桃書房） ¥3,500

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
銀 行 経 営 論	はっ どり よし ひさ 服 部 昌 久	経営2・3・4選	4

講義のねらい

金融の自由化・国際化が進展する中で、「フリー」「フェア」「グローバル」を基本理念とする金融制度改革構想（金融ビッグバン）が1996年11月に発表された。金融制度は基本的には一国の歴史的発展の産物であり、その国の繁栄を築くための社会的インフラである。社会が今日のように大きな変革期にあるときには、長期的な展望に立って変化を先取りして新たな制度を構築しなければならない。経営環境が大きく変化した中で、銀行は新たな道を求めて摸索しているが、本講義においては欧米主要銀行の動きにも注目しながら、利用者のニーズに合う銀行のあるべき姿を探りつつ、時事問題も含め、銀行経営にかかわる諸問題を、わかりやすく解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義はおおよそ次のような内容を予定している。

- ①産業構造の変化と金融
- ②銀行の業務
- ③銀行の機能
- ④わが国の金融制度の沿革と特徴
- ⑤欧米金融事情
- ⑥金融ビッグバンの目指すもの
- ⑦信用秩序の維持と諸規制
- ⑧これからの銀行経営のあり方

履修上の留意点

講義は基本的な事柄を取り上げ、わかりやすく解説するよう心がけるが、それでも不明な点があれば、質問を歓迎する。毎回授業に出て、ノートを取り、講義内容の理解を深めるよう努力する学生には、そのノートを通読すれば高い評価が得られるような試験を行なうこととする。

成績評価の方法

学年末の定期試験で評価するが、授業への出席も重視する。

教 科 書

使用しないが、適宜プリント資料を配布する。

参 考 書 等

全国銀行協会連合会調査部編『図説 わが国の銀行』（財経詳報社） ¥1,900
 福井和夫編著『ネットワーク時代の銀行経営』（富士通経営研修所） ¥2,500

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
原 価 計 算 論	こん どう さだ お夫 近 藤 禎 夫	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

〈科目の位置づけ〉

原価計算論は、たんに製造原価の算定方法を取扱うというのではなく、日常の国民生活と直接に結びついた重要な役割を果たすものであるから、その対象領域はきわめて広いといえる。たとえば価格形成問題、原価管理、予算統制、利益計画および公表会計などと関連する。会計と経営の両分野を包摂した科学である。

〈科目の概要〉

原価計算は会計領域全般にかかわり機能している。とりわけ経営管理活動と有機的に関連づけられ測定・情報伝達・利用がなされている。企業の経営管理活動とは通常大きく二つに分けて認識される。一つは社会的存在としての企業が、それをとりまく利害関係者（株主、債権者、投資家、徴税当局、労働組合など、および広くは国民大衆）に対し社会的責任を遂行する分野である。いま一つは、企業活動について意思決定と業績評価を行い、企業を活性化させ利益の獲得機会を拡大させるための活動分野である。

原価計算の役割は、前者においては公表財務諸表作成のための原価情報の提供にある。また後者についてはきわめて幅が広く、経営管理の全領域にわたって原価情報が提供される。いずれにせよ、企業経営の要となる会計情報を提供される。

本講義では、〈講義方針・内容〉でもふれるように、「企業会計原則」を補完する「原価計算基準」の示す範囲に力点をおいて取り組むことになる。したがって、まず原価計算の基本概念および基本的計算構造をしっかりと身につけるよう講義することになる。講義のはじめに際しては、商業簿記から工業会計への橋渡しを平易に展開したい。

前期においては、原価計算が制度会計の枠組みのなかで重要な役割を担っている売上原価の算定、たな卸資産（原材料、製品、仕掛品、貯蔵品など）の評価といった技術的側面を取扱う。具体的には、製造原価計算の算定プロセスを理解しやすいように説明していきたい。順序としては原価の費用別計算、部門別計算、製品別計算の算定手続を展開することになる。この場合、当初は実際原価計算制度を前提として述べるが、後期には管理手段としての原価計算にもふれるので標準原価計算にも及ぶ。なお、さらに一步立ち入って、原価計算の管理会計分野での適用問題にもふれる。

原価計算論は製造工業を中心とした計算体系ではあるが、サービス業（電力、ガス、鉄道などの公益事業の運賃、料金問題）など適用範囲は多様にわたる。現実の事例などを紹介しながら講義をすすめていく予定である。

講義の内容・授業スケジュール

原価計算論を学習するにあたっては、制度会計の側面と管理会計の側面との両者に関連を有するので、会計法規集を常に携帯していただきたい。

とりわけ講義は、「原価計算基準」（大蔵省・企業会計審議会中間報告、昭和37年）を中心に行う予定である（テキストを補うプリント類は随時配布する）。さきの〈科目の概要〉で述べた方針とともに、モットーは「高度な内容をやさしく」である。

1998年度においては、下掲のテキストにより以下に示す内容を講義する。

1. 資本制的原価計算の役割とその考え方
2. 原価計算の概要
3. 原価の費用別計算
4. 原価の部門別計算
5. 個別原価計算の方法
6. 総合原価計算の方法
7. 標準原価計算
8. 経営計画と原価計算
9. 社会主義の原価計算方法
10. 原価計算の歴史

教 科 書

敷田礼二編著『新しい原価計算論』（中央経済社）1988年

参 考 書 等

敷田礼二・近藤禎夫著『原価公開』（新日本出版社）1976年
中央経済社編『会計法規集』（1998年7月頃新版発売予定）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
上 級 簿 記	お だ みき お 小 田 幹 雄	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

商業簿記の基礎学習が終った学生を対象とする講座で、やや高度な内容を加えて、簿記の知識を一層深めてもらうクラスで、簿記の知識の応用を目的に講義とともに計算演習を行いたい。簿記の学習は受講生の積極的な取り組み姿勢が欠かせないので、欠席の無いようにして欲しい。

講義の内容・授業スケジュール

簿記講義の内容は初めのうちは日商簿記検定2級程度から始めやがて1級程度にまでに深めて行くようにしたい。

日商2級程度の範囲、即ち、現金・預金、有価証券を始め、特殊販売、株式会社会計や本支店会計などを中心に講義し、学生の理解状況を判断しながら、日商1級程度の範囲に及びたい。

履修上の留意点

簿記の学習は、自分自身がペンと電卓をもって練習問題を数多く解くこと以外にないとの私の教育方針から、練習問題を数多く解かせ、テストや宿題を出すこともある。テスト用紙等は必ず提出すること。

成績評価の方法

講義の際のテストの点数及び定期試験の点数と出席状況を加味し評価する。なお、出欠状況は毎回チェックするので、授業に余り出席せず、定期試験だけを受けても不合格になるので注意すること。

教 科 書

鶴飼哲夫・中村義彦編著『簿記イントロダクション』（森山書店） 2,650円

中村義彦編著『展開簿記演習』（マルゲン出版） 1,890円

参 考 書 等

新井益太郎監修『日商簿記検定試験演習』2級（実教出版）

科目名	担当者名	配当学年	単 位
管理会計論	さる 猿 やま よし ひろ 山 義 広	二営2・3・4選	4

講義のねらい

この講義では、すでに「簿記学」の単位を修得していることを前提として、企業における管理会計の基本思考と計算体系を学びます。なお、講義における重点項目は、次の3つです。

- ① 近年の日商簿記検定における「工業簿記」「原価計算」の出題傾向として、管理会計的な問題が増加しつつあり、この傾向は今後も続くと思われるので、その対策。
- ② 従来の管理会計論ではあまり深く検討されてこなかったマーケティング管理会計やゼロベース予算についての解説。
- ③ 最近の管理会計手法である活動基準原価計算（Activity-Based Costing:ABC）の解説。

講義の内容・授業スケジュール

- I 管理会計の体系
- II 管理会計における原価概念と利益概念
 1. 原価態様
 2. 全部原価計算と直接原価計算
 3. 分権管理のための原価概念と利益概念
- III 利益計画
 1. 利益計画の手続
 2. 損益分岐点分析とCVP分析
 3. 短期利益計画のための価格分析
 4. 短期利益計画のための営業費分析
 5. 長期利益計画
- IV 原価管理
 1. 標準原価計算
 2. 原価企画
 3. 活動基準原価計算
- V 予算管理
 1. 予算の機能
 2. 予算の体系
 3. 予算編成の手続
 4. 参加型予算とゼロベース予算
 5. 資本予算

履修上の留意点

「管理会計論」は計算科目なので、かならず電卓を持参すること。

成績評価の方法

以下のような課題による夏休み中のレポートと期末試験によって評価します。

- ① レポートの課題
「短期利益計画の枠組みを用いて、価格プロモーションと広告プロモーションそれぞれの限界を指摘しなさい。」
- ② 期末試験
 - 問題1 「変動予算による製造間接費の差異分析」(計算問題)
 - 問題2 「管理会計における長期的思考について」(論述問題)

教科書

適宜、プリント配布します。

参考書等

より体系的に勉強したいという人のためには、
櫻井通晴著『管理会計』（同文館）。
計算問題については、
日商簿記検定の「工業簿記」「原価計算」のテキスト。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 分 析 論	かた ぎり のぶ お 片 桐 伸 夫	二 営 2・3・4 選	4

講義の内容・
授業スケジュール

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか（安定性分析）、
- 2 「儲け」はどうだろうか（収益性分析）、
- 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか（生産性分析）、
- 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか（成長性分析）、また、
- 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか（社会性分析）、といった内容です。

前期は、企業の毎期の経営活動を報告する「貸借対照表」や「損益計算書」などの「財務諸表」の読み方をまず説明し、安定性・収益性分析を学習します。

後期は、生産性・成長性・社会性分析や、さらに、損益分岐点・利益増減その他の分析をとりあげます。

「各自が企業の経営を分析できるようになる」ため、教科書で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にふれます。

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。

成績評価の方法

そのため、成績評価は前・後期、計2回のレポートと学年末試験で行います。

* レポート・テーマ：前期「各自が関心を持っている企業の収益性・安定性分析」
後期「各自が関心を持っている企業の成長性その他の分析（続）」

* テスト範囲：財務諸表数値を用いた経営比率の算出問題。

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいで下さい。

教 科 書

開講のとき、指示します。

参 考 書 等

開講のとき、指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
税 務 会 計 論	たか き かつ み 高 木 克 己	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人改革が論議されており、大幅な改正が予想されている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ヘイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

履修上の留意点

「簿記学」「会計学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。

成績評価の方法

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度提出を求める。

教科書

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度提出を求める。

参考書等

講義で使用する教科書、参考書等については開講時に指示する。

その他

毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 経 済 史	きたしま まんじ 北 島 万 次	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

第Ⅰ部 日本経済史総論

日本における無階級社会（原始社会）から階級社会（奴隷制社会・封建制社会・資本制社会）にいたるまでの経済史発展の移り変わりについて、そのあらましを述べる。

第Ⅱ部 幕藩体制社会の経済のしくみとその発展

1. 幕藩体制社会における経済構造とその特質について述べる。
2. その前提として、幕藩体制社会（封建社会の経済）のもとで、近代へ向けての経済発展がどのように展開したかについて述べる。その事例としてつぎのことについてふれる。

- ① 江戸時代後期、畿内における棉作経営の展開とその実態
- ② 開港直前における信州諏訪製糸業の展開
- ③ 江戸時代後期、上州における地主制とその経営

第Ⅲ部 幕末維新期の経済変動

1. 明治維新と外圧についてのあらまし
2. 幕末貿易の展開とその実態
3. 日本における資本の形成
 - ① 秩禄処分過程
 - ② 銀行資本の創出
4. 資本の投資
5. 地租改正の実態とからくり

*教材はその都度配布する。

成績評価の方法

出席点とテスト。(注) 出席の著しく悪い受講者には単位を認定しない場合がある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 済 政 策	にし やまつかさ 西 山 司	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

従来、経済学の学問体系は、理論、政策、歴史、財政・金融、経営・会計の諸分野から構成されており、特に第二次世界大戦後の現代資本主義経済においては、経済政策を応用経済学の一環として重視する傾向が深まってきているといわれています。

このような動向に対応して、本年度の経済政策の講義は、経済政策の方法論や政策理論の究明および経済政策の史的展開過程の解明を中心に、各国で実施されている現代の経済政策についても論述する予定です。

特に経済政策の実践性と関連した「価値判断」論争をめぐっての諸問題点や、従来の経済政策論の主要な学説を検討するとともに、経済学体系における経済政策論の理論的位置を論究し、その果すべき課題を究明して、経済政策論の体系的な解明をおこなうように努めます。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールとしては、大きく前期と後期とに大別して、前期には、主として、経済政策の方法論や政策理論について論究し、後期には、資本主義発展と関連した経済政策の史的展開過程と、その特質について論述する予定です。

履修上の留意点

講義の重要箇所や問題点など主要な内容については、出来るかぎり板書して詳説する予定です。受講される諸君は出席してノートされるように希望します。

成績評価の方法

学年末試験が中心になるのは当然ですが、出席も重視します。

教科書

開講時に指示します。

参考書等

清水・松原論『経済政策論を学ぶ』〔新版〕(有斐閣)
なお、講義に関係する文献は、その都度紹介するようにします。

科目名	担当者名	配当学年	単位
財政学	はやみ 速水昇	二営2・3・4選	4

講義のねらい

私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵をうけている。たとえば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、適格な天気予報によって判断できるし、病気や怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に払った額の数割程度ですむ。また、電気・ガス・水道・道路・港湾等の社会資本整備は公共部門が供給しており、財貨・サービスの生産者である企業の活動を有効・円滑にするために政府は種々の役割を担っている。さらに、平成不況、国債の累積残高、高齢化社会など政府が解決しなければならない問題が非常に多くある。このような問題は、納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から政府と一緒に考えていかなければならない問題でもある。そこで、わが国をめぐる最近の財政問題を現実との係わりでとらえ、身近な問題として理解が深まるように検討していく。

講義の内容・授業スケジュール

主な内容として、「市場の失敗」「公共財のありかた」「予算過程と平成9年度予算の構成」「高齢化社会と社会保障」「租税の仕組み」「消費税値上げの根拠」「国債の累積残高の問題」「財政政策」「財政投融资」などを中心に講義する。

教科書

西村紀三郎監修、速水昇編著『財政学』（学文社）

参考書等

西村紀三郎編著『統計からみる財政学』（学文社）

科目名	担当者名	配当学年	単位
金融論	はっ とり 服部 敬 道	二営2・3・4選	4

講義の内容・授業スケジュール

金融の基礎的な理論と、金融の実践的な動きの理解を2本柱とし、理論的な裏付けとともに、現実の金融の動きが理解できる内容とする。また、最近のきわめて激しい金融の世界（金融エンジニアリング、リスク管理、市場予測論 etc）についても、これまでの実学の経験をもとに平易に講義する。主要項目以下のとおり。

1. 金融の機能と役割
2. 金融の担い手と金融制度
3. 金融市場と金利の変動要因
4. 金融エンジニアリング（デリバティブほか）
5. 金融の新潮流
6. 金融指標の見方と分析

履修上の留意点

流れで講義するので出席重視、成績評価も出席状況を加味する。特定の教科書は使用しない。講義のつど必要な資料を配布の予定。

参考書等

『金融経済入門』（経済法令研究会）、呉文二・島村高嘉『金融読本』（東洋経済）
島村高嘉『金融入門』（東洋経済）、『わが国の金融制度』（日本銀行金融研究所）ほか

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
日 本 経 済 論	は どり 羽 鳥 しげる 茂	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

日本経済の現状と将来展望をさまざまな角度から明らかにし、課題とその対策について考えてみたい。オーソドックスな日本経済論の枠を超えた新しい研究領域についてもわかり易く紹介したいと思っている。

講義の内容・
授業スケジュール

- (i) 日本経済の全体像
- (ii) 戦後日本の経済成長
- (iii) 戦後日本の景気循環
- (iv) 日本経済のストック化
- (v) 雇用の変動と日本的雇用慣行
- (vi) 企業経営と産業組織
- (vii) 日本の企業システムを考える
- (viii) 円レートの変動と日本経済
- (ix) 経常収支と貿易の動向
- (x) 公的年金と社会保障を考える
- (xi) 日本版ビッグ・バンを考える
- (xii) 地球環境問題の経済学

履修上の留意点

講義は各テーマごとに1～3回程度を予定しているが、下記の教科書を予習して授業に出席することを望む。

成績評価の方法

成績評価は、学年末の定期試験で行う。

教 科 書

小峰隆大『最新日本経済入門』（日本評論社）1997年

参 考 書 等

参考書等については開講時に指示し、適時に資料をコピーして配布することで授業内容の理解を深められるようにする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
証 券 市 場 論	さ とう のぼる 佐 藤 昇	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

資金の調達・運用手段として、有価証券の役割が近年ますます重要性を高めている。講義内容は、有価証券の種類、有価証券発行・流通両市場の機能、市場構成、あるいはこれらの歴史や将来展望などについて、出来るだけ実践に則したものとしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

最初に証券市場で取り扱う対象である有価証券の概念を定義するが、とくに近年における有価証券範囲拡大の動向に注目したい。

つぎに伝統的有価証券である債券および株式の種類、市場の歴史と現状、あるいは投資尺度の考え方について講義する。

1980年代後半においてわが国株式市場で発生したバブル現象は、その後のわが国経済全般に極めて重大な影響をもたらしたが、その発生、崩壊、および影響の伝播過程についても明らかにしたい。

わが国では、2001年までと期間を設定した上で、金融・証券市場全般にわたる大改革すなわち「日本版ビッグバン」を実行しつつある。ビッグバン計画で提起されている諸施策が完成した段階では、当然ながら市場の様相は従来のもとは一変する筈であるので、計画のうち重要な項目と将来像についても展望する。

このように、激変が予想される市場においては、常時、将来を決定付けるような状況変化が発生するものと思われる。そこでとくに証券市場に関連して重要な要因が発生した際には、その都度背景、影響などを解説する。

履修上の留意点

証券・金融市場関連のニュースに関心をもって欲しい。その上で疑問点があれば、積極的に質問をしてもらいたい。

成績評価の方法

原則として学年末の定期試験によって評価する。

教 科 書

佐藤昇ほか著『入門現代の証券市場』（東洋経済新報社） ¥3,200

参 考 書 等

佐藤昇ほか著『現代経済と証券市場』（有斐閣） ¥2,266

日興リサーチセンター編『全詳解金融大改革のすべて』（東洋経済新報社） ¥2,200

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
国 際 金 融 論	よし だ まさ ひろ 吉 田 真 広	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

今日、毎週のように為替相場変動の経済的影響や経済摩擦の国際金融の側面などに関する重大なニュースが報じられており、国際金融は日本経済にとってますます重要な位置を占めるようになってきている。金融ビッグ・バンをひかえて、日本経済の動きを理解するためには、様々な国際金融的な影響を把握することが不可欠になっているのである。本講義は、国際金融上の諸問題の本質を学んでいくことを目的としている。

前期の講義では、国際取引、国際収支、為替取引などについての基礎的概念を丹念に説明していく。後期の講義では、現在の国際収支や為替相場状況の把握を目的として、第二次世界大戦後の国際通貨体制の変遷を辿り、さらに今日の国際金融をめぐる構造的な問題をとり上げる。なお、以下に講義スケジュールを示すが、講義では、時々国際金融のニュースをとり上げていくために、その通りに進まない場合があり得る。

講義の内容・
授業スケジュール

- | | | |
|----|------|---------------------------|
| 前期 | 第1回 | 国際金融論の概要 |
| | 第2回 | 様々な国際取引1（貿易取引） |
| | 第3回 | 様々な国際取引2（資本取引） |
| | 第4回 | 国際収支1（国際収支と国際貸借など） |
| | 第4回 | 国際収支2（国際収支の記載原理など） |
| | 第5回 | 国際収支3（国際収支の最近の動向） |
| | 第6回 | 為替取引1（為替手形と約束手形） |
| | 第7回 | 為替取引2（外国為替取引の特徴） |
| | 第8回 | 為替取引3（信用状と船積み書類） |
| | 第9回 | 為替取引4（貿易金融1） |
| | 第10回 | 為替取引5（貿易金融2） |
| | 第11回 | 銀行の為替業務1（持高調整と資金調整） |
| | 第12回 | 銀行の為替業務2（中央銀行と為替銀行） |
| | 第13回 | 国際金融商品1（先物、スワップ） |
| | 第14回 | 国際金融商品2（オプション） |
| | 第15回 | 前期のまとめ |
| 後期 | 第16回 | 固定相場制1（導入事情） |
| | 第17回 | 固定相場制2（基本原理） |
| | 第18回 | 固定相場制3（その経過） |
| | 第19回 | 固定相場制4（崩壊要因） |
| | 第20回 | 変動相場制論と固定相場制論 |
| | 第21回 | 変動相場制1（導入期からレーガノミックスまで） |
| | 第22回 | 変動相場制2（プラザ合意から今日まで） |
| | 第23回 | 変動相場制下の日本経済の諸問題1 |
| | 第24回 | 変動相場制下の日本経済の諸問題2 |
| | 第25回 | 為替相場学説1（購買力平価説など） |
| | 第26回 | 為替相場学説2（マネタリー・アプローチなど） |
| | 第27回 | 国際金融に関する諸問題（ヨーロッパの通貨統合） |
| | 第28回 | 国際金融に関する諸問題（発展途上国の累積債務問題） |
| | 第29回 | 国際金融に関する諸問題（国際金融市場の発展） |
| | 第30回 | 後期のまとめ |

履修上の留意点

すでに行った講義内容を把握していることを前提として進めていくので、休まずに受講すること。止むを得ず休んだ場合には、自分で勉強するかノートを友達から借りるなどして、必ず自ら補充しておくこと。飲食は禁止、携帯電話の電源は切っておくこと。時間的余裕がある場合、出席カードを配る。

成績評価の方法

前期と後期の2回のテスト。

教 科 書

教科書は、吉田真広著『今日の国際収支と国際通貨』（梓出版社）を用いる。参考書は随時示していく。

科目名	担当者名	配当学年	単位
統計原論	やまの うち しん じ 山 内 慎 二	二営2・3・4選	4

講義のねらい

大雑把に言えば、統計学は「確立と分布」の性質を用いたデータ処理を通して、「母集団」及び「標本」という2つの“親子関係”の言葉を繋げて、知識や技術を議論する学問である。

本講義では、最初に簡潔に確率論の基礎を紹介し、次にデータ処理によって母集団と標本の関係を捉え、最後に統計的推測として推定と検定等を丁寧に説明する。本講義では、実用性を重視し、統計的方法や概念を豊富な例題や数値例によって説明し、数式の使用も必要最小限に止めていきたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

講義内容は以下の通りです。

序 説	生活のなかの統計学、量的データと質的データ	1回
基礎的概念	階乗と総和、順列と組合せ	2回
記述統計	度数分布表、平均と分散、相関係数	3回
確率論の基礎	集合、標本空間、確率、2項分布、正規分布	6回
前期復習と中間試験（7月中旬）		2回
標本分布	χ^2 分布、 t 分布、 F 分布	2回
統計的推定	点推定（不偏推定、モーメント法、最尤法）	4回
仮説検定	片側と両側検定、有意水準、棄却域、適合度検定	4回
回帰と相関	線形回帰モデル、相関係数の標本分布	2回
後期復習と定期試験		2回

履修上の留意点

年間数回程度の練習問題を適時に配布します。これを本講義内容の基礎的部分をもとに、独自に解けば、中間試験と定期試験はまず大丈夫でしょう。

成績評価の方法

講義への出席状況及び中間試験と定期試験の結果により総合的に判断します。

教科書

佐和隆光著『初等統計解析改訂版』（新曜社）1997 ¥1,500（税別）

参考書等

数値表としての参考書：
森口繁一編『新編 日科技連数値表』（日科技連出版社）1990 ¥510（税別）

その他

授業の方法—講義（OHPを使用する場合があります。）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 情 報 論	たか い てつ お 高 井 徹 雄	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供するとに外ならない。
本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関するシステムの観点と、情報利用技術の基礎について解説する。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 経営情報とシステムの観点（前期）
- (1) 科学とシステムの観点（4月～5月：4週）
情報学のバックグラウンドにある考え方や知識について整理する。科学の方法とシステム的なものの見方、それに基づく問題へのアプローチとはどのようなものかについて理解を深める。
 - (2) 情報学の基礎と周辺領域（5～6月：5週）
情報処理技術に関わる基礎的な勉強をする。主としてコンピュータベースのシステムによる情報の取り扱いに関し、知っておくべき基礎的事項について整理する。
 - (3) 情報環境の発展と経営における利用（6月～7月：5週）
経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観する。また、インターネットと同様な環境をベースとした、イントラネット・エクストラネットに触れ、現在から近未来における戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。
- II. 情報の利用技術（後期）
- (1) 多変量データ解析（9月～10月：7週）
調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、定量的データを分析するための、重回帰分析、主成分分析、判別分析法を、またアンケート調査などで得られる定性的データを分析するための数量化理論について、その原理と適用方法を学ぶ。
 - (2) シミュレーション（11月～12月：4週）
複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法としてシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法など乱数を用いる基礎的方法に触れた後、離散系シミュレーションモデルの構築方法を学ぶ。
 - (3) DSSとES（12月～1月：3週）
人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待されるDSS（意思決定支援システム）、ES（専門家システム）の概要について学ぶ。
※なお、適宜（前期3、後期5回程度）、情報教育センターのコンピュータルームを利用して実習形式で授業を行う。

成績評価の方法

前期、後期末に実施する筆記試験に基づき評価する。
その他、出席状況と実習授業時の課題も評価に反映する。

教科書

高原康彦・高津信三編、高井徹雄他著『経営情報システム』（日刊工業新聞社） ¥3,200
上記教科書の他に、適宜プリントで補足する。

その他

情報処理基礎、統計原論を先にまたは同時に履修しておくことが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
情 報 理 論	にしむらかずお夫 西村和夫	二堂2・3・4選	4

講義のねらい

近年では日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を探ります。主に、情報の量（情報量）を定義したシャノン（C.E.Shannon）流の情報理論について講義します。

この授業を受講すれば、ある通報や記号のもっている情報量を、具体的な数値として（ビットという単位で）計算できるようになります。これによって、たとえばDNAの情報量をフロッピーディスクに記録するために十分な枚数が、たちどころに計算できるようになります。

また、情報量の期待値（平均値）であるエントロピーという概念も理解できます。これは、経営情報論、符号理論、通信理論、暗号理論などで利用される重要な概念です。

講義の内容・授業スケジュール

月	回数	内 容
4	3	授業内容概説、情報とは、情報量への要求
5	3	対数の原理と性質、計算練習
6	4	情報量の定義、練習、情報量の利用
7	3	暗号系と用語、古典的な暗号
9	2	現代的な暗号、暗号技術を使ってできること
10	2	符号化（JISコード、万国共通文字符号）、対数・情報量の中間試験
10	2	確率過程およびマルコフ過程
11	2	遷移確率と同時確率
11	1	エントロピーの定義
12	2	冗長度、言語のエントロピー
12	1	価格以外の情報がない場合の市場占有率予測
1	1	チェック桁、情報の圧縮と乱数、デジタルとアナログ

履修上の留意点

4年生が履修するのは困難です。2～3年生のうちに履修しておくように強く奨めます。また、毎回出席して計算練習に参加していないと、試験問題を解くことは無理でしょう。

内容の性質上、確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが、これらについて全く知らなくても理解できるように配慮しています（上表5月参照）。

成績評価の方法

10月の中間試験（30％）と定期試験（70％）との合計点によります。

教 科 書

クイズと計算練習を適宜とりいれます。また、OHPとプリントを使います。適当な教科書はありません。各種の参考書をそのつど紹介します。

そ の 他

〔関連科目〕 → 経営情報論

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 統 計	ちょう 張 こっ きょう 国 強	二営2・3・4選	4

講義のねらい

統計と企業経営の関わりについてを展開する経営統計とは、分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを収集・処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造についてを予測し、いろいろな意志決定をサポートすることである。経営的意志決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は十分な役割を果たされるはずである。

この講義では、企業経営における統計データの具体例を数多く取り入れることによって、経営統計の手法をわかりやすく説明していく。また、数学苦手の学生を配慮し、講義の内容説明は微積分などの計算をいっさい用いず、数式の使用も必要最小限に止める。

講義の内容・授業スケジュール

予定している講義内容は以下の通りである。

経営統計について：	経営統計の役割、基礎概念	1回
統計特性値：	平均、分散、正規分布	2回
市場調査と統計整理：	調査の諸段階、標本設計、データ整理	6回
統計推測：	標本分布、区間推定、仮説検定	2回
前期復習と中間試験：	(七月中旬)	2回
経営時系列：	季節指数、時系列予測	4回
経営指数：	物価指数、数量指数	2回
分散・回帰分析：	一元配置法、相関係数、最小2乗法	3回
統計的意志決定理論：	意思決定基準、期待効用理論	2回
後期復習と定期試験：	(翌年一月中旬)	2回

履修上の留意点

年間6回程度の演習問題を適時に配布し、それを独自かつ理解的に解ければ、中間試験や定期試験に心配する必要はない。

成績評価の方法

講義への出席状況と中間・定期試験の結果により総合的に判断する。

教科書

特に使用しないが、プリントは適時に配布する。

参考書等

西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』（培風館）1992
守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』（日本理工出版社）1992

その他

統計学、あるいは統計原論を先にまたは同時に履修することが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
生 産 管 理 論	ふじ 藤 原 篤 志	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

財務管理、販売管理、労務管理とならぶ現代企業における経営管理の部門管理の1つである生産管理について講義する。それは文字通り、企業の経営活動における生産の管理であり、財の生産に投入する生産要素を総合的に調整することにより、企業の生産効率を最大にすることである。しかし企業は利潤の獲得を目的としてその活動を行なうので、生産管理はただ生産それ自体の管理を行なえばいいのではなく、企業の全般的な管理における利益計画に基づいて行なわなければならない。本講義では以上のような視点で生産管理について解説したい。

講義の内容・ 授業スケジュール

まず前期では以下の順に行なう。

- ・企業の経営における生産管理の位置付け
- ・企業の全般的な管理と生産管理との関連
- ・生産管理職能（生産管理、設備管理、資材管理、作業研究、工程管理、品質管理、原価管理等）について

後期は生産管理の近代的な実際の展開形態である、テイラー・システム、フォード・システム、オートメーション、トヨタ生産方式、について、前期で解説する生産管理の各職能との関連で講義を行ないたい。

履修上の留意点

講義はできるだけわかりやすく、また極力板書するが、前期の内容は少々複雑なものを含むので、講義に対する受講者の熱心な姿勢が不可欠である。そのため講義中の私語は厳禁である。

成績評価の方法

成績の評価は主として定期試験で行なう。

教 科 書

山下高之著『体系生産管理論』（中央経済社）1990年

参 考 書 等

参考書等は講義の中で指示します。

科目名	担当者名	配当学年	単 位
システム論	たか 高 津 信 三	二営2・3・4選	4

講義のねらい

経営学および関連領域で用いられるシステム関連の概念・用語を体系的に教育する。多少の数学力を前提とするが、高校1、2年程度の数学で十分のように配慮している。

講義の内容・
授業スケジュール

0. ガイダンス
1. 情報科学
2. 情報
3. コンピュータ
4. 意思決定の科学
5. システム
6. 経営情報システム

前期は1～3、後期は4～6について講義する。

履修上の留意点

他の授業と異なり、今まで習ったことのない概念、図式が出てくるが、慣れてしまえば大きな問題ではない。ある程度の辛抱が必要である。

成績評価の方法

履修者が少ない場合にはレポートの評価に重点を置くが、履修者数が過大な場合は試験のみで評価する。

教科書

指定しないが、授業内容の大半は参考書の1、2番目に含まれている。

参考書等

高原・中野編『経営システム』（日刊工業新聞社）
 高原・高津編『経営情報システム』（日刊工業新聞社）
 浅井編『現代情報学概論』（オーム社）

その他

主として講義（板書による）

科目名	担当者名	配当学年	単位
民法	お織 だ てる こ 織 田 晃 子	二営2・3・4選	4

講義のねらい

民法典は、財産法領域を物権と債権に分け、それに家族法領域の親族と相続に関する規定を加え、それらの通則として最初に総則規定を置いている。本講義は「民法」であるからこれらすべてが対象となるが、一年間で講義するにはあまりにも膨大である。よって、まず日常の普通の取引、例えば、だれでも思い浮かべるであろう不動産の売買をとりあげ、売買の交渉から契約の成立、その履行にいたるまでの財産法上の問題をとりあげ、次に売買契約が履行されなかった場合の法的処理、すなわち債務不履行による損害賠償や解除に進む。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 売買の交渉から契約の成立、その履行
 - ① 契約の成立
 - ② 契約の履行過程
 - ③ 契約の履行終了
 - ④ 登記の移転
 - ⑤ 債権譲渡
2. 契約不履行の場合の法的処理
 - ① 債務不履行
 - ② 契約の解除
 - ③ 他人物売買
 - ④ 瑕疵担保責任
 - ⑤ 債権者代位権
 - ⑥ 詐害行為取消権

履修上の留意点

六法は必ず持参すること。

成績評価の方法

期末試験の成績と出席回数により評価。

教科書

河野弘矩『債権総論講義』（ぎょうせい） ¥3,500

参考書等

『ポケット六法』（有斐閣）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 法	しま はら ひろ あき 島 原 宏 明	二宮2・3・4選	4

講義のねらい

実質的な商法の領域の中から主に会社法を対象として講義を進めて行く。商法は民法と共に私法と言われる領域を構成しており、民法の特別法という地位に立つ。したがって本来は商法を学習する以前に民法の基礎知識があることが望ましいが、実情を考慮して、個々の論点の中で民法あるいは法学の領域にまで遡って説明することで補って行くつもりである。

会社法という領域は、商法典の中の第二編会社を中心として、有限会社法、商法特例法等によって構成されている。また、商法上の会社には、商法典に規定されている合名会社、合資会社および株式会社と、有限会社法に規定されている有限会社の四つがある。本講ではこの中から、現代資本主義社会において最も典型的な企業形態であり、かつ最も複雑な法規則を受けている株式会社の制度を中心として解説していく。

講義の内容・授業スケジュール

具体的には、①商法上の四つの会社の特徴、②株式会社の設立、③株式と株券、④株式会社の機関、⑤新株発行、⑥株式会社の計算、⑦社債、の順に講義を進めて行く。また、企業活動との係わりの薄い学生諸君にいくらかでも現実感を持ってもらうために適宜、コピーした判例を配布し、解説して行くつもりである。

成績評価の方法

期末試験による。

教 科 書

宮島 司『会社法概説』（弘文堂） ¥3,811

参 考 書 等

倉澤康一郎『商法の基礎〔三訂版〕』（税務経理協会） ¥2,900
なお、小型の物でよいが必ず六法全書を携行すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
労 働 法	ふじ もと しげる 藤 本 茂	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

今日、労働関係をめぐる領域は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌を遂げようとしています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本の雇用慣行といわれる高度経済成長期に確立されてきた社会経済構造に見直しがなされています。現在は、激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域である以上、この変動に無関係ではありません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

労働組合を中心に扱う集団的労働関係法領域では、労働組合が労働者の利益を実現する組織として労働関係のなかに定着した今日にあって、労働条件決定に組合の及ぼす影響は、一見地味ではありますが、無視できません。

また、この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正、裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大、解雇制限といった分野で見られます。男女雇用機会均等法の見直しなども見られます。解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中であっても変わるべきでないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

講義の内容・授業スケジュール

(1)授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。

(2)内容、スケジュールについては、第1回目の授業のときに、配布するプリントで述べます。ここでは、一応のアウトラインを述べるに止めます。

- ① 労働法の基礎的考え方
- ② 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- ③ 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- ④ 雇用における平等－同一労働同一賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
- ⑤ 労働条件を決定しているもの－就業規則、労働契約、労働協約
- ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備－不当労働行為
- ⑦ 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- ⑧ 人事異動－配転、出向、転籍
- ⑨ 雇用の出口－解雇、定年、退職
- ⑩ 賃金、諸手当、退職金
- ⑪ 労働時間、時間外労働
- ⑫ 休憩、休日、休暇
- ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

授業はなま物です。生きのいいうちに深めるのが一番です。出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、平常点を加味することはありますが、学年末試験がメインです。

教科書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回目の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

その他

皆さんが、各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めることを心掛けます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
ビジネス英語	まち い やすし 町 井 靖	二 営 3・4 選	4

講義のねらい

「商品の輸出入に関する英文の手紙」を学習する。テキスト「ビジネス英語」に従って、取引先の発見からカタログの送付、オファー、見積り、交渉、注文、船積み、クレームなど、貿易取引の各段階で良く使用される表現を学ぶ。実際の輸出入業務では英文の手紙を書く必要があるため、英作文演習には力を入れたい。

講義の内容・授業スケジュール

テキストは貿易取引の各段階で良く使用される表現を英文解釈で学び、それらの重要表現を使用して英作文をするようになっている。英作文は授業中に1題やり、数題が宿題となるが英文解釈、[研究]、[注]を良く読返して英作文を考え、それらの表現をしっかりと修得していただきたい。

貿易の専門的用語の理解も必要なので、テキストの付録「貿易用語集」により、定型取引条件、為替相場、複合運送、信用状、手形買取り、海上保険などを講義する。

履修上の留意点

全員授業に参加していただくので予習（英文解釈）、復習（英作文）が必要である。英作文は間違いを恐れず挑戦していただきたい。個人的に添削指導する。

成績評価の方法

前期、後期の試験成績と出席による。

教 科 書

町井靖著『ビジネス英語』（創成社） 1,600円（本体価格）

参 考 書 等

教室で指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
外 書 講 読	かね むら えい てつ 兼 村 栄 哲	二 営 3・4 選	4

講義のねらい

近年、企業にとって、マーケティングの重要性がますます高まっています。そこで、本講義では、外国文献を利用しつつ、「マーケティングとは何か」、「各企業はマーケティングをどのようにおこなっているのか」などについて、受講生のみなさんにわかりやすく説明します。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、以下の順序で進めていく予定です。
①マーケティングの定義②マーケティング・マネジメント過程③消費者行動
④マーケティング・リサーチ⑤製品政策⑥価格政策⑦販売経路政策⑧販売促進政策

履修上の留意点

講義を受けるうえで、「予習すること」、「出席すること」、「私語を慎むこと」の3点を受講生のみなさんに要望します。

成績評価の方法

予習状況・試験・出席状況・出席態度などを総合的にみて、成績を評価します。

教 科 書

開講時に教材プリントを配布します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
外 書 講 読	その 園 だ 田 てつ お 男	二 営 3・4 選	4

講義のねらい

経営学部で何を求めるかと問うたとき、学生はまず企業社会で役立つための経営学を勉強したいと答えるであろう。私はこのような学生に言及したいことは、企業で役立つか否かは、学生諸君が与えられた課題をどのように消化するかが重要で、まずはどんなことでもよいから、疑問をもち、それを解決しようと努める意欲をもち続けることであると言いたい。研究者であれ、企業者であれ、途中で投げ捨てずやり遂げるところに勝算が生まれるものと信じたい。このような前向きに物事にあたって行く意欲ある人間を考える時、“リーダーの育成”の重大性を強く感じるわけで、本講義では“リーダーになるための条件”とはどのようなことかを、学びとってもらうことにある。

講義の内容・授業スケジュール

本講義は“リーダー”として人を動かすことのできる人間とはどのようなことか。このような疑問に一つの示唆を与えてくれるディール・カーネギーの“人を動かす”という名著を参考に学習し、カーネギーが提案している課題の一つ一つを解決する。名著「人を動かす」(How to win Friends and Influence People)は人間が他人を取り扱う場合の基本原則が單元ごとに挙げられている。基本原則の意味を熟慮しながら、人間が他人を取り扱う場合の最良の方法を考えてみる。

授業の内容については、各人に数行ずつ訳を課し、著者の論旨を理解した上で課題検討を加える。

履修上の留意点

本講義は、外書を通して企業人にとって何が重要な要素であるかを理解して行くことにある。よって英語が苦手であっても、まず学ぼうとする姿勢を重視している。

成績評価の方法

成績評価は基本的には出席、レポート課題提出を評価基準とする。

教科書

プリント配布。

参考書等

授業中に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
外 書 講 読	はや 速 み 水 のぼる 昇	二 営 3・4 選	4

講義のねらい

外書講読は1字1句言葉を確認しながら自分の力で訳すため、スピードは遅いが内容を把握する点では最適といえる。そして、経済・経営のテクニカル・タームを把握し、この大学を卒業するころには英字新聞の経済・経営の記事が読めるようにして欲しいというのが私の希望であり、講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

最初は辞書がなくても訳せるような易しい文献を選んで外書講読に慣れ親しんでもらう。そして、徐々に専門的な知識が身に付くような文献を講読し、専門的な知識を深めることにする。1年間で4つのテーマ、たとえば貿易摩擦(Trade Friction)、財政赤字(Deficit Finance)などについての講読を予定しているが、外書講読は休むと身に付かないので出席に自信のある学生を希望する。

教科書

授業中にプリントを配布

第 1 部公開専門選択科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 史	まえ だ かず とし 前 田 和 利	二 営 3・4 選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

経営史の課題は「企業経営とは何か」について史的に答えていくことにあり、そのことによって現在の企業経営の理解がより容易になる。本講義では、一般化された経営発達史を、できるだけ個々の産業・企業の歴史や国際比較の視点をふまえて論じていく。その結果、日本の企業経営の特質を鮮明に浮かび上がらせることができよう。

講義の内容・授業スケジュール

本講義は三部から構成される。第一部では経営史を学ぶ視角を養い、そのうえで第二部において企業経営の一般的発達史を学ぶ。第三部は日本の企業経営をケースを通して理解する。

I. 経営史研究の課題と方法

経営史（狭義）論、企業者史論、組織総合理論

II. 企業経営発達史

1. 企業経営の生成（イギリスを中心に）

商人資本、マニュファクチュア経営

2. 企業経営の確立（イギリスを中心に）

産業革命、工場制度、企業経営の諸様相（企業経営者、企業形態と企業金融、労務管理、流通・販売組織）

3. 企業経営の発展（アメリカを中心に）

市場の拡大・変容、アメリカ的大量生産体制、big business の形成、giant enterprise の成立

III. 日本の企業経営

以上のうち、前期において企業経営の確立の一部までを終え、それ以後を後期に講義する予定である。

なお、日本の企業経営に関しては進行速度によって変更がありえる。

履修上の留意点

テキストは使用しないので、下記の参考文献をテキストのつもりで参照し、必ずノートを整理してください。4、5回出欠をとり、また適宜資料を配布する。

成績評価の方法

学年末テストによって評価する。

参 考 書 等

- ① 榎本悟『アメリカ経営史学の研究』（同文館）
- ② 中川敏一郎『比較経営史序説』（東京大学出版会）
- ③ 大河内暁男『経営史講義』（東京大学出版会）
- ④ 土屋守章編『経営史—西洋と日本—』（有斐閣）
- ⑤ 宮本又郎ほか『日本経営史』（有斐閣）

その他随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 管 理 論	すずき 木 幸 毅	二 営 3・4 選 (H7 以前入学生)	4

講義のねらい

経営管理の理論と現実について、経済社会の動向、資本主義企業の現在の姿を視野に入れつつ、説明する。

講義の内容・
授業スケジュール

下記の1、2を前期にとりあげ、それとの関連において後期に3、4を講義する。

- 1 古典的理論
 - (1) テイラーの科学的管理論
 - (2) 管理過程論（職能論）
 - (3) 管理構造論（組織論）
- 2 新古典的理論
 - (1) ホーソン実験と人間関係論的管理論
 - (2) 行動科学的管理論
 - (3) 管理開発論
- 3 近代理論
 - (1) バーナード革命
 - (2) 組織論的管理論
 - (3) 意思決定論的管理論
- 4 現代理論
 - (1) 環境適応的管理論
 - (2) 戦略的管理論
 - (3) 環境問題と企業責任論

履修上の留意点

自主的学習を期待するので、特に出欠をとることはしないが、中間試験に代わるレポート提出を求め、その成績を期末テスト結果に加味して評価する。

教 科 書

鈴木幸毅著『経営管理論－学説研究－』（中央経済社）1996年4月

参 考 書 等

鈴木幸毅著『現代組織理論』（税務経理協会）1994年
鈴木幸毅著『バーナード理論と労働の人間化』（税務経理協会）1997年4月

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 学 史	きたむら けん の すけ 北 村 健 之 助	二 営 3 ・ 4 選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

経営学の現代性が問われている。いろいろな新しい問題がもち込まれたからである。しかし経営学の本質まで変ってしまったような錯覚に陥ることがある。

経営学は今世紀初頭に生成した学問であるといわれている。ただ偶然に生まれたわけではない。それには長い前史があるのである。

資本の原始蓄積が行われていた頃、重商主義政策を背景に、ドイツではフランスのサバリーの影響を受けた商人学が生まれている。19世紀初期のころであった。産業革命を遂行したイギリスは19世紀前半には早くも工業経営論が現れている。19世紀中頃には、アメリカでは大規模化した鉄道企業において、経営管理の問題がとり上げられている。この世紀後半に入ると、ドイツ産業資本の確立と共に工業経営論が生まれ、組織、工業労働、工業計算の問題が研究されている。

本年もこれら19世紀に現われた商業経営論、工業経営論などをめぐる議論を中心にとりあげ、中味を詳しく検討し、基本的な問題を集約したい。現代経営学の複雑な問題を理解するには、古い歴史の中でそれが単純に語られていると思うからである。よくいわれるように、ある学問の本質は、学問の歴史そのものの中にあるという意見は正に金言である。

講義の内容・
授業スケジュール

前期はドイツ経営学前史、伝統的経営学、近代経営学の順にお話します。

後期はアメリカ経営学前史（南北戦争前、南北戦争後）、伝統的経営学、近代経営学をお話しし、ドイツ経営学とアメリカ経営学の接点を近代経営学に求めたいと考えています。

履修上の留意点

テキスト・参考書をよく読むこと。

成績評価の方法

期末テストを判断します。

教 科 書

藤芳誠一編著『図説経営学』（学文社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
原 価 計 算 論	こん どう きだ お 近 藤 禎 夫	二 営 3・4 選 (H7 以前入学生)	4

講義のねらい

《科目の位置づけ》

原価計算論は、たんに製造原価の算定方法を取扱うというのではなく、日常の国民生活と直接に結びついた重要な役割を果たすものであるから、その対象領域はきわめて広いといえる。たとえば価格形成問題、原価管理、予算統制、利益計画および公表会計などに関連する。このような会計と経営の両分野を包摂した科学である。

《科目の概要》

原価計算は会計領域の全般にかかわり機能している。とりわけ経営管理活動と有機的に関連づけられ測定・情報伝達・利用がなされている。企業の経営管理活動とは通常大きく二つに分けて認識される。一つは社会的存在としての企業が、それをとりまく利害関係者（株主、債権者、投資家、徴税当局、労働組合、および広くは国民大衆）に対し社会的責任を遂行する分野である。いま一つは、企業活動について意思決定と業績評価を行ない、企業を活性化させ利益の獲得機会を拡大させるための活動分野である。

原価計算の役割は、前者においては公表財務諸表作成のための原価情報の提供にある。また後者についてはきわめて幅が広く、経営管理の全領域にわたって原価情報が提供される。いずれにせよ、企業経営の要となる会計情報が提供される。

本講義では、「授業の内容等」でもふれるように、「企業会計原則」を補完する「原価計算基準」の示す範囲に力点を置いて取り組むことになる。したがって、まず原価計算の基本概念および基本的計算構造をしっかりと身につけるよう講義することになる。講義のはじめに際しては、商業簿記から工業会計への橋渡しを平易に展開したい。

前期においては、原価計算が制度会計の枠組みのなかで重要な役割を担っている売上原価の算定、たな卸資産（原材料、製品、仕掛品、貯蔵品など）の評価といった技術的側面を取扱う。具体的には、製造原価計算の算定プロセスを理解しやすいように説明していきたい。順序としては原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算の算定手続きを展開することになる。この場合、当初は実際原価計算制度を前提として述べるが、後期には管理手段としての原価計算にもふれるので標準原価計算にも及ぶ。なお、さらに一歩立ち入って、原価計算の管理会計分野での適用問題にもふれる。

原価計算論は製造工業を中心とした計算体系ではあるが、サービス業（電力、ガス、鉄道などの公益事業の運賃・料金問題）など適用範囲は多様にわたる。現実の事例などを紹介しながら講義をすすめていく予定である。

講義の内容・授業スケジュール

原価計算論を学習するにあたっては、制度会計の側面と管理会計の側面との両者に関連を有するので、会計法規集を常に携帯していただきたい。

とりわけ講義は「原価計算基準」(大蔵省・企業会計審議会中間報告、昭和37年)を中心に行なう予定である(テキストを補うプリント類は随時配布する)。さきの《講義のねらい》で述べた方針とともに、モットーは、「高度な内容をやさしく」である。

1998年度においては、下掲のテキストにより以下に示す内容を講義する。

1. 資本制的原価計算の役割とその考え方
2. 原価計算の概要
3. 原価の費目別計算
4. 原価の部門別計算
5. 個別原価計算の方法
6. 総合原価計算の方法
7. 標準原価計算
8. 経営計画と原価計算
9. 社会主義の原価計算方法
10. 原価計算の歴史

教 科 書

敷田礼二編著『新しい原価計算論』(中央経済社)1988年

参 考 書 等

敷田礼二・近藤禎夫著『原価公開』(新日本出版社)1976年
中央経済社編『会計法規集』最新版(1998年7月頃新版発売予定)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
経 営 科 学	やま した ひて あき 山 下 英 明	二 営 3 ・ 4 選 (H7以前入学生)	4

講義のねらい

経営科学 (Management Science) は、経営が直面している決定状況を考究して、とるべき最良の方策を科学的に見出す学問であり、システムを最も効率よく運用するための戦略を与えるものである。この講義では、経営科学のうち現在すでに実用に供されて充分その有効性が確かめられているいくつかの基本的な手法を紹介し、学生諸君が経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、応用に役立てられるようになることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

線形計画法 (7回)

限られた原料で利益を最大にするためには、どの製品をどれだけ作ればよいか?

輸送計画問題 (2回)

全国各地の倉庫から各地の販売店に商品を輸送する費用を最小にする計画は?

ネットワーク計画法 (3回)

駅から大学まで、どの経路でいけば最短距離になるか?

日程計画 (2回)

どのような順番で作業を進めると最短期間で仕事が終了するか?

在庫管理 (2回)

品切れ費用・在庫費用・発注費用の総和を最小にする適正な在庫レベルは?

乱数とシミュレーション (2回)

不確定な要素を含むシステムを如何に解析するか?

待ち行列理論 (5回)

窓口を1つ増加させると混雑ほどの程度解消するか?

履修上の留意点

内容の性質上、行列演算、微分・積分、確率に関する初歩的な数学的知識が必要になるが、講義中にその都度説明することによってこれらの知識を持たなくても理解できるよう配慮する。出席はとらないが、予告なしに演習を行うので毎回出席すること。

成績評価の方法

試験2回(7月、1月)各50%
授業中の演習 参考

教科書

森村英典著『おはなしOR』(日本規格協会) ¥1,300

その他

授業は講義形式で行うが、理解を深めるために適時演習を行う。教科書は使用しないので、必ずノートを整理してほしい。

3 他学部履修科目

3 他学部履修科目

商学	総論	(大吹勝男)	他 1
国際	経済	論(徳永俊明)	他 2
社会	政策	(休講)		
価格	理論	(荒木勝啓)	他 3
国民	所得	論(吉野紀)	他 4
銀行	行論	(齊藤正)	他 5
中小	企業	論(和田耕治)	他 6
人口	論	(休講)		
中国	経済	論(小杉修二)	他 7
アメリカ	経済	論(休講)		
ヨーロッパ	経済	論(清水卓)	他 8
貿易	論	(古沢紘造)	他 9
会計	監査	論(飯岡透)	他 10
管理	会計	論(中原章吉)	他 11
憲法	法	(齊藤寿)	他 12
比較	憲法	(西修)	他 13
法思想	史	(高橋洋城)	他 14
日本	法制	史(茂野隆晴)	他 15
西洋	法制	史(休講)		
英米	法	(金原恭子)	他 15
経済	法	(岡田外司博)	他 16
国際	関係	論(首藤素子)	他 17
行政	法	論(梅木崇)	他 18
裁判	法	(雨宮眞也)	他 18
法哲学	学	(高橋洋城)	他 19
地方	自治	体(休講)		
倒産	処	理法(馬越道夫)	他 20
アメリカ	経営	学(宮城徹)	他 21
経営	財務	論(高田光明)	他 22
経営	組織	論(長瀬勝彦)	他 23
経営	技術	論(休講)		
公益	企業	論(休講)		
管理	會計	論(猿山義広)	他 24
会計	監査	論(休講)		
日本	経済	論(羽鳥茂)	他 25
インド	仏教	史(池田道浩)	他 26
日本	仏教	史(袴谷憲昭)	他 26
中国	佛教	史(須山長治)	他 27
日本	佛教	史(角田泰隆)	他 27
日仏	佛教	史(奥野光賢)	他 28
書	道	(野村宙弘)	他 28

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 学 総 論	おお ぶき かつ お 大 吹 勝 男	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

近年、大学においてさえも、学問が軽視される風潮にあります。そして生残りをかけ、学生集めのために実用主義を売りものにする大学もあります。また、大学は社会的要請に答えねばならないという主張のもとに、その実、社会ではなく、会社・企業のために大学が存在することを主張し、かつ君たちに会社人間になることを勧めるマスコミや評論家等がいます。そして一方で、学問に背をむけ、それらに迎合する大学人がいます。しかし、大学は入学した君たちのためにあり企業のためにあるものではありません。そして、大学で学ぶことは、将来君たちが人間らしく生きるための助けになるものでなければなりません。本学もまた大学である限り、学問の場ではなければなりません。いいかえれば、大学でしか学べないこと、物事の見方、考え方を学ぶことです。さらにいうならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これらを学ぶのが大学です。実用的なことは、その場限りのものであり、また入社してから容易に身につくものなのです。何年間かキャリアを積んだビジネスマンから聞くことは、大学時代に学問をしておくべきであったということです。諸君も、使い捨てのサラリーマンになることのないように、体系的に思考する能力を身につけて下さい。そして、社会に出て現実な問題に出会った時に、学問をした人間として、大学の卒業生として、きちっと解決のできる人間になってください。本講義では、科学的経済学の立場から流通論を、そして商業論を講義するものであり、その内容からして商業経済学といいかえてもよいとおもいます。したがって、授業では、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論（物流の基礎理論を含む）および商業資本の理論を講義しますが、それらの知識を習得するとともに、それらを学ぶ過程において体系的な思考方法を習得し、思考能力を高めてください。そのためには一年間を通して授業に出席することが必要です。また本講義は、君たちが履修するであろうマーケティングや商業政策・流通政策のための基礎理論を提供するものであります。また、商学専修の学生は、あわせて経済原論Ⅰを履修すれば、本講義の理解の助けとなるでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

授業内容は下記の項目の通りですが、本年度は、これらの項目について講義しながら、現代企業の経営戦略において重要性を増している物流問題を考えるうえで、その基礎となる理論について特に力を入れたいと思います。

- (1) 商品論（価値論）
- (2) 生産過程論（労働過程論）
- (3) 流通過程論（資本の流通過程・流通時間・流通諸費用）
- (4) 資本の回転と流通資本
- (5) 商業資本の本質論
- (6) 商業資本の自立化論
- (7) 商業利潤論
- (8) 純粋流通費用論
- (9) 商業労働論
- (10) ホワイトカラー労働論（サラリーマン論）
- (11) 商業資本の回転と価格
- (12) 大規模商業資本論
- (13) 独占的商業資本論
- (14) 卸売排除論
- (15) 流通系列化論

成績評価の方法

評価は期末試験によるが、授業の予習をかねてレポートを課すこともありうる。また各授業項目が終る毎に、小テストを実施し、君たちの理解度を確かめ、一層の理解を深める手段とします。

期末試験は論述形式ですが、テキストの参照を認めます。しかし、この措置は、私自身、学生時代に非常に疑問に思っていたことではありますが、君たちに、受験生のような暗記の勉強を早く卒業してもらい、充分な準備をして試験に臨んでもらいたいということでもあります。いうならば、問題のわからないレポート試験とでもいえばよいかもしれません。したがって、容易に単位が取得できるという意味ではありませんから誤解のないように。

教科書

- 1 大吹勝男著『新版流通費用とサービス理論』梓出版社
- 2 『経済学論集』（駒沢大学経済学部発行）第20巻第2号
- 3 『経済学論集』第20巻第4号
- 4 『経済学論集』第22巻第1号
- 5 『経済学論集』第22巻第4号
- 6 『経済学論集』第26巻第1号
- 7 『経済学論集』第27巻第1号

以上、2から7までの『経済学論集』には、大吹勝男の執筆する商業資本、商業利潤および商業労働に関する論文が掲載されていますから、図書館にてコピーして利用して下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 経 済 論	とくなが としあき 徳 永 俊 明	二 法 ・ 短 仏	4

講義のねらい

学問への出発点は「私はどこにいるのか？」という問いにあります。実際、私たちはアマゾンの密林で生活しているわけでもありませんし、江戸時代の農村に生きているわけでもありません。では「どこ」にいますでしょうか。

「世界の中にいる」と言っても、「日本にいる」と言ってみても、これらは答えになりません。どのような世界なのか、どのような日本にいるのか——少なくともこれをつかまなければ先の問いに対する答えにはなりません。今日の世界社会、今日の日本社会の〈内容〉を理解しなければなりません。

ところで、世界経済は、今日、世界社会・日本社会の〈土台〉をなしているものです。世界経済という〈土台〉なしには、世界社会も日本社会も成り立ちません。世界と日本を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の〈基本構造〉の解明をめざします。ただし、私の力量からして“社会主義”経済に十分言及することはできません。資本主義世界経済に限定して検討します。

この講義のキーワードは〈階級的支配関係〉と〈民族的支配関係〉です。世界経済は、資本主義という社会の誕生とともに成立し始め、資本主義社会の〈土台〉として、またその〈産物〉として推移してきました。資本主義社会は、言うまでもなく、〈階級的支配関係〉を命綱としていますが、同時に、世界の諸民族の間の〈民族的支配関係〉をもう一本の命綱としていることが重要な特徴です。これら二つの支配・従属の関係は資本主義社会のいわば2本柱をなすものです。そして、〈民族的支配関係〉こそ世界経済の〈基本構造〉として機能してきたのです。そこで、この講義では、この〈民族的支配関係〉の問題を座標軸にして世界経済の基本的な理論と歴史、現状そして展望を検討したいと思います。

〈国際化〉の問題がいよいよ重大になっているいま、多くの諸君の主体的な受講を期待します。

講義の内容・授業スケジュール

〈講義のテーマ（予定）〉

前期は、世界経済の歴史を跡づけ、今日の世界経済の歴史的段階を確認します。

後期は、歴史的知識を念頭において、今日＝第2次世界大戦後の世界経済の〈基本構造〉を形づくっている主な柱を一つずつ検討します。

前期——世界経済の歴史的推移

- (1) 〈講義の趣旨〉および〈講義テーマ〉の説明
- (2) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制
- (3) 産業革命と自由貿易植民地体制
- (4) 帝国主義と帝国主義植民地体制
- (5) 第1次世界大戦と世界経済
- (6) 戦間期の世界経済

後期——今日の世界経済

- (1) 第2次世界大戦と世界経済
- (2) 「アメリカ中心体制」
- (3) 新植民地主義と世界経済
貿易・国際通貨制度・資本輸出——（「援助」と多国籍企業）・〈南北問題〉と新国際経済秩序
- (4) 世界経済の現段階
- (5) 日本経済と世界経済
- (6) われわれの選択

〈講義の方法〉

教場では毎回資料をプリントして配布し、それを説明するという形で講義をすすめます。

成績評価の方法

成績は世界経済の基本事項、世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度をミニ・レポート（3回予定）および学年末レポートで評価します。（追・再試験は行いません。）

参考書等

講義の中で適宜紹介します。

その他

私の研究室は第2研究館4階、電話は直通03-3418-9353です。気軽に立ち寄って下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
価 格 理 論	あら き よし ひろ 荒 木 勝 啓	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

価格理論の目的は、経済の中でマイクロ主体が互いに競争と最適化を行うことにより、市場および経済一般がどのような方向に向かうかを研究することである。もし競争が理想的に行われ、情報や資源移動の完全性が保証されるならば、市場はパレート最適と呼ばれるある種の理想状態に達し、価格は自然に社会的厚生を最大化する水準に定められる。しかし例えば市場参加者が2という少数者で行われるならば、たとえ同様の競争自体が行われても、結果はクールノー・ナッシュ均衡とよばれるような、完全競争とは異なった市場均衡に到達するであろう。またその競争のあり方によっては同じ2という参加者の競争から、シュタッケルベルク均衡と呼ばれるさらに異なった均衡状態が作り出されることになる。その点はもはやパレート最適からはほど遠い点である。

このように、価格理論は、一般に「物価水準」と呼ばれているような現実のデータとしての価格というよりも、経済の市場の枠組みやマイクロ主体の行動様式に関する様々な想定から導出されるas if パフォーマンスとしての価格決定を調べる科目である。従ってその分析のためにはどこまでも「最適化」手法がつかまとう。しかも経済学の場合最適化はほとんどの場合「制約付き最適化」である。

制約のないところに経済は成立しない。近代経済学を生み出した限界革命の旗手であるカール・メンガーは次のように述べる。「村にわき出る泉があり、その水をだれでもが飲めるならば、その水をめぐる経済現象は生じないであろう。しかし、旅人が増えて村人が水を自由に飲めなくなるときから泉の水に経済現象が生じ始める。」

以上のように価格理論では内容の理解がほぼ制約付き最適化手法の理解如何にかかっているといってもよい。従って講義のかなりの部分がそのための準備と練習に当てられると思っていたらきたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

- (1) 価格理論で学ぶこと
- (2) 多変数関数と曲面
- (3) 微分、変微分、全微分
- (4) 対数関数の微分と成長理論
- (5) 生産関数、コブ・ダグラス生産関数
- (6) ベクトルの直交と勾配ベクトル
- (7) 制約付き最適化問題のグラフィカルな理解
- (8) ラグランジュ乗数法
- (9) 加重限界効用均等の法則
- (10) 練習問題
- (11) 代替効果と所得効果の計算
- (12) 需要曲線と需要の価格弾力性
- (13) パレート最適、ボックスダイアグラム
- (14) MR曲線
- (15) 独占均衡
- (16) 消費者余剰と生産者余剰、独占均衡の死重的損失
- (17) 費用曲線と供給曲線
- (18) 生産関数から短期費用関数の導出
- (19) 生産関数から長期費用関数の導出
- (20) クールノー・ナッシュ均衡
- (21) クールノー・ナッシュ均衡解の練習問題
- (22) 等利潤曲線
- (23) シュタッケルベルク均衡解
- (24) シュタッケルベルク均衡解の練習問題
- (25) 共謀解

成績評価の方法

試験はノート・教科書・参考書持ち込み可

教 科 書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』成溪堂

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国民所得論	よしの 吉野 紀	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万（平成3年）あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財（商品）やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP（国内総生産）にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,070万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成5暦年のGDPによって466兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとするれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言える。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的（マクロ）分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ（経済主体）毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」…………… 5回
GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」（配布資料）
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」…………… 4回
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。
《参考》中谷巖 『入門マクロ経済学』（日本評論社）第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」…………… 8回
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。
《参考》伊達邦春（編）『マクロ経済学』（八千代出版）第9章
4. 「金融政策、財政政策」…………… 4回
前講までの内容が理解できれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内および国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。
《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学（上）』（CAP出版）第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」…………… 5回
ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。

教科書

R. J. ゴードン『現代マクロエコノミックス（上）』（多賀出版）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
銀 行 論	さいとう 藤 正 齋 藤 正	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

近年、経済の様々な分野で「規制緩和」、すなわち自由化が喧伝され、金融業においても橋本内閣の「6大改革」の重要な柱として金融ビッグバン構想が展開されている。官僚的規制には様々な問題が指摘できるが、モラルを欠いた「自由化」がそのまま認められることにはならない。とりわけ銀行は「預金通貨の供給」を通じて経済社会の決済システムを担っており、その安定性（信用秩序の維持）なしには経済社会の安定も達成されないという意味で、他の産業と異なる独自の「社会的責任」が存在する。相次ぐ経営破綻の増加、数々の金融スキャンダル、巨額の不良債権など信用秩序の動揺は、「野放しの自由化」が銀行を収益至上主義に陥らせ、その結果経済社会に対しても多大な否定的な影響を及ぼすことの例証である。また、「堅実で、比較的高賃金」というイメージで、就職先としての人気も高いとされる銀行の職場は現在、自由化の下での競争激化に伴う「経営合理化」によって、サービス残業、苛酷なノルマなど、「長時間・過密労働」がさらに強められるとともに、出向・転籍が常態化し、健康と将来への不安を抱く行員が増えている。

このように銀行を取り巻く状況は内外ともに問題が多いと言わざるをえないが、しかし、銀行は依然として「貨幣の供給」及び決済システムを担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の役割を果たしているがゆえに、今こそ銀行の健全なあり方が強く望まれるのである。

本講義では銀行の基礎理論を踏まえたうえで、戦後の日本経済の展開に果たした銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき姿を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 前期は銀行の基礎理論を中心に講義する。
 - ① ここでは古代からすでに存在した「金貸し業者」や「高利貸」と「銀行」との違いがどこにあるのかを検討しながら、「銀行」の基本的機能及び経済社会（メーカー、商社、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
 - ② 銀行が、一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。だが、銀行は受け入れた預金をそのまま現金で貸し出すわけではなく、受け入れた預金を基礎として、貸し出す際に「信用貨幣」（預金通貨）を創造する。現代社会では、エレクトロニクス技術の進展に伴い、ファームバンキングやホームバイキング、さらには電子マネーといった「キャッシュレス社会」現象がみられるが、それは銀行を頂点とした信用（債権債務）関係の高度な発展であると同時に、返済の確実性を前提に成り立っていることを忘れてはならない。
- 2) 後期は戦後日本経済に果たした銀行の役割を、時期毎に検証し、将来の銀行制度の望ましいあり方について検討する。
 - ① まず、専門的金融機関制度あるいは分業主義といわれる戦後日本の金融制度の特殊性とそれぞれの専門機関（普通銀行、中小企業金融専門機関、証券会社、保険会社など）の果たした役割の理解を目指す。
 - ② 時期区分は、おおまかに高度成長期、スタグフレーション期、自由化以後、とし、欧米の動向も参照しながら、それぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されたのかを併せて紹介する。
 - ③ とりわけ、現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが、80年代後半の「バブル経済」と90年代以後の「バブル崩壊」である。戦後銀行制度の構造的転換という視角からこの時期の諸問題を検証する。
 - ④ 以上を通して現在日本の銀行が抱える問題を理論的にも制度的にも的確にとらえ、金融ビッグバン構想について検討を加えながら、望ましい銀行制度のあり方についての理解を深めたい。

履修上の留意点

成績は、基本的には前期試験（レポートに変更の場合もありうる）と後期試験によって理解度を評価するが、出席状況、授業態度における積極性も十分加味する。また、履修にあたっては、「独自の銀行観」の習得を目指すことを望む。

教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。また、毎回レジメを配布し、それに沿って講義する。

参考書等

- 谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』熊野・龍編『現代日本の金融』いずれも大月書店 1992年
- 日本銀行『新版 わが国の金融制度』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 小 企 業 論	わ だ こう じ 和 田 耕 治	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

中小企業は異質多元の存在であるといわれている。それら特質は、大企業でないということを除けば、千差万別である。とはいえ、わが国においては、中小企業研究の歴史は古く、その蓄積には、膨大なものがある。本講義では、今までの中小企業研究の蓄積を踏えつつ、今日における中小企業の現状とその課題を考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

年間二十数回程度の講義のなかで以下の点に触れながら授業を進める。

- ① 中小企業とは
- ② わが国における中小企業研究
- ③ 中小企業問題と中小企業政策
- ④ 下請分業構造の変化と中小製造業
- ⑤ 大規模小売店舗法の規制緩和と中小商業
- ⑥ 創業支援とベンチャービジネス
- ⑦ 中小企業従業者の労働と福祉
- ⑧ 地域経済と中小企業

成績評価の方法

夏休みのレポートと学年末試験で成績の評価を行なう。

教 科 書

教科書は、とくに使用しないが、5～6月に発行される中小企業庁『中小企業白書』は各自で購入すること。

そ の 他

授業では、必要に応じて、OHPやビデオを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 国 経 済 論	こ 小 すぎ 杉 しゅう 修 じ 二	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

- この講義は中国の長期的動態をとらえる。
現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。
本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国は画期的動態を論ずる。
- この講義は3つのキー・ワードで歴史的に中国を解明する。
前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。
2につづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の原因を説明する。
このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いているわけだが、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というものは、過去の何らかの延長であると考えられるからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った展開である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれまいであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。
上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また、中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点を相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

講義の内容・授業スケジュール

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。
また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

履修上の留意点

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正解な理解である（学説の受入とは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりあえず、私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。
学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

教科書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥4,000

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ヨーロッパ経済論	し 清 水 みず たかし 卓	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

ヨーロッパ経済論は、資本主義世界経済を創り出し、その主導者として、ここ数百年、世界の近代化を進めてきたヨーロッパ経済の現状分析を通して、今後の日本と世界経済の展望について考察することを課題とします。

1980年代末のソ連を盟主とする「共産主義」体制の崩壊以降、世界は、市場原理による経済運営と自由貿易体制の時代に入っている。このアングロサクソンの新自由主義経済システムが地球人類のかかえる諸問題にとって有効である否かを、ヨーロッパ諸国の現状をふまえて検討する。

現在、欧州連合（EU）諸国では、1999年経済通貨同盟＝EUの単一通貨の実現をめざしている。通貨統合はアメリカドルから自立した強く安定した欧州通貨を創出し、欧州経済統合の完成を目指している。実現には現状のEU諸国の通貨価値の安定が前提となるが、この安定のため、EU各国とも緊縮財政政策を余儀なくされ、有効な景気対策が打ち出せないのである。歳出削減は、教育、社会保障制度の水準低下となって現れており、企業民営化やリストラによる失業率の高止まりと相俟って社会的緊張を引き起こしている。99年1月には実施段階に入る予定の単一通貨ユーロ、東欧、中欧諸国へのEU拡大、それに伴うEU機構の再編など、統合過程の動きに注目していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

【前期予定】

第二次世界大戦と戦後ヨーロッパ
 アメリカ体制下のヨーロッパ
 欧州統合への歩み－ECSCからEECへ
 ヨーロッパの経済成長－そのメカニズム
 市場統合の展開－関税同盟の理論と現実
 農業共同市場の確立－ドイツの工業・フランスの農業
 経済成長の限界－スタグフレーション
 経済危機下のEC－統合の停滞と前進
 サッチャーとミッテラン－新自由主義の台頭
 1992年市場統合－非関税障壁の克服
 経済通貨同盟－単一通貨ユーロの行方
 前期試験

【後期予定】（受講生の希望を取り入れて、テーマを変更することがあります。）

ヨーロッパの多様性－地理・民族・文化
 ヨーロッパの近代と現代－覇権から「衰退」
 欧州連合－欧州統合の歩み
 EUと農業－多様性
 EUの産業－強さと弱さ
 EUの機構と財政－超国家か国家連合か
 EUと地域政策－地域格差の克服
 EUの拡大－東欧、中欧諸国の加盟に伴う諸問題
 EUの対外関係－日本との比較
 欧州の平和問題－ポスト冷戦と民族問題
 後期試験

履修上の留意点

ヨーロッパ経済論は、一つの体系的理論を敷衍する科目ではありません。ヨーロッパの多様性について認識を深め、経済社会の現実に向け、経済や社会的諸問題の解決には様々な視点が可能であるのだということを確認してもらいたいと思います。

成績評価の方法

成績評価は、試験点数を基本とし、出席回数にも若干配慮します。なお、再試験は、行わないので注意して下さい。

教科書

教科書はありません。ただし、日経文庫『EUの知識』は有益でしょう。

参考書等

参考書については、授業中に紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
貿 易 論	ふる さわ こう そう 古 沢 紘 造	二法・二営・短仏	4

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生態との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- I 生産・消費と貿易
 - 1. 農産物と貿易
 - 2. 水産物と貿易
 - 3. 林産物と貿易
 - 4. 鉱物資源と貿易
 - 5. 工業製品と貿易
- II 政治・経済・社会と貿易
 - 1. 開発援助と貿易
 - 2. 環境と貿易
 - 3. 公正と貿易
 - 4. 地域統合と貿易
 - 5. 総括：貿易と暮らしを問う

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは評価の対象とはならないでしょう。

教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、その都度説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

その他

講義の中で特に興味をもち、もし少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談に来て下さい。参考になる本など教えます（研究室、第2研究館 4階34号室）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 計 監 査 論	いい おか とおる 飯 岡 透	二 法 ・ 短 仏	4

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財務状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・ 授業スケジュール

この講義での授業内容とそのスケジュールは次のとおりである。

〔前期〕

4月 会計監査の目的と種類

- (1) 会計監査の目的
- (2) 会計監査の種類
- (3) 監査基準の必要性とその構造

5月 わが国監査制度の展開

- (1) 第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
- (2) 第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開

監査人の要件と責任

- (1) 監査人の要件
- (2) 監査人の選任と解任
- (3) 監査人の職務権限と責任

6月 監査要点と監査手続の選択適用

- (1) 監査要点の意義と種類
- (2) 通常実施すべき監査手続とその内容

7月 監査証拠の種類と内容

- (1) 監査証拠の意義と分類
- (2) 十分な監査証拠と合理的な基礎

〔後期〕

9月 内部統制と監査リスク

- (1) 内部統制の構成要素
- (2) 内部統制の評価
- (3) 監査リスクと重要性

10月 監査計画と組織的監査

- (1) 監査契約と予備調査
- (2) 監査計画の目的とその設定
- (3) 組織的監査の重要性と審査機能の整備
- (4) 他の監査人の監査結果の利用

11月 監査調書の目的と種類

- (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
- 経営者確認書の意義と記載内容
- (1) 経営者確認書の意義と目的
 - (2) 経営者確認書の記載内容

12月 監査報告書と監査概要書

- (1) 監査報告書の意義と機能
- (2) 監査報告書の種類
- (3) 短文武監査報告書の記載内容
- (4) 特記事項の記載内容
- (5) 監査概要書の目的と記載内容

1月 この講義の総括と年度末試験の説明

なお、以上スケジュールは、学会出張や入学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論、簿記論及び財務会計論の講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。

成績評価の方法

レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。

教科書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』中央経済社 ￥3,500

参考書等

飯岡透著『中間財務情報制度論』中央経済社 ￥3,800

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
管 理 会 計 論	なか はら しょう きち 中 原 章 吉	二 法 ・ 短 仏	4

講義のねらい

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの階段を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、管理会計の本質、体系その中での「意思決定会計」と「業績管理会計」をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思ひます。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

履修上の留意点

「会計学総論」を選択しなかった経済学専修の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思ひます。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）

教 科 書

講義の際、指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
憲 法	さいとう ひさし 齊 藤 寿	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

「憲法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、憲法原理の究明を、興味深く行います。特にこの講義は、理論とともに生きた事例と判例を重視しながら行います。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1回 憲法概念—権力と国家と憲法—について
- 第2回 近代憲法と現代憲法の基本原理について
- 第3回 明治憲法の成立と特質について
- 第4回 日本国憲法の成立と制定法理について
- 第5回 日本国憲法の動向について
- 第6回 日本国憲法の体系と基本原理について
- 第7回 天皇の地位と権能について
- 第8回 国民の基本的人権について
- 第9回 平等権規定の態様と原理について
- 第10回 精神的自由権規定の態様と原理について
- 第11回 経済的自由権規定の態様と原理について
- 第12回 人身的自由権規定の態様と原理について
- 第13回 人身保護権規定の態様と原理について
- 第14回 救済権規定の態様と原理について
- 第15回 参政権規定の態様と原理について
- 第16回 社会権規定の態様と原理について
- 第17回 新しい人権について
- 第18回 国民の義務について
- 第19回 平和主義と日本国憲法について
- 第20回 統治機構と権力分立制について
- 第21回 国会の地位と構成と権能について
- 第22回 内閣の組織と権能と責任について
- 第23回 裁判所の地位と構成と権能について
- 第24回 憲法訴訟原理と違憲審査制について
- 第25回 財政の原則と予算と決算について
- 第26回 住民自治と団体自治の原理について
- 第27回 憲法保障の意義と方法について
- 第28回 国法の諸形式について
- 第29回 試 験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「憲法」を楽しく研究してみませんか。

—私が、みなさんを、「水飲み場」へ、ご案内します。

目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) —との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送らしましょう。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 憲 法	にし 西 おさむ 修	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

何年か前に発表された日米教育比較に関する米側専門家の報告書によると、日本の大学教育は完全に失敗していると診断しています。「授業は貧弱で、大学生はいたって不勉強」というのがその結論です。日本の大学改革が叫ばれているいま、このような診断が誤りであることを証明する必要がありますと思います。

私は、次のような授業方針でのぞみますので、了承されたい。

- ① 私の教師になってからのモットーは「授業は休まず、遅く始めず、早く終わらず」というものです。したがって、受講生諸君は講義には必ず出席し、かつ授業時間に遅れないように。
- ② あらかじめ講義計画（シラバス）を立て、その計画にそって授業を進めます。この講義計画は別に配布しますが、キーポイントと参考文献が示してあるので、理解を深めるのに役立ちます。
- ③ 授業中の私語・遅刻は、他人の迷惑になるので、絶対に慎んでほしい。
- ④ 成績は平常点を重視。私が独自に作成した出席カードを利用し（質問欄あり）、双方向性を大切にした授業内容にします。
- ⑤ 授業内容は、コピーの配布、ビデオ、スライド、OHPなどの活用をはかり、できるかぎり理解を容易にするよう工夫をこらします。

講義の内容・ 授業スケジュール

取り扱う主な項目は、以下のとおり。

- ① 比較憲法の意義、効用
- ② 世界の憲法はいま
- ③ アジアの憲法
- ④ イギリス憲法の特徴
- ⑤ アメリカ大統領の選挙のしくみ
- ⑥ ドイツ憲法と日本国憲法の比較
- ⑦ フランス憲法体制の特異性
- ⑧ 社会主義憲法の生成、発展、そして終焉（?）
- ⑨ 中国憲法と台湾憲法
- ⑩ 韓国憲法と北朝鮮憲法
- ⑪ イスラム教諸国の憲法体制
- ⑫ 国際憲法学の確立に向けて

成績評価の方法

成績評価の目安は、おおむね以下のとおり。

前期試験30%、後期試験40%、出席・レポート30%。

要するに、講義内容を生き活きたものにし、受講者から知的関心を引き出し、知的満足感をもって終了するというのが、最大のねらいです。

教 科 書

開講時、参考書などとともにシラバスで指示。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法 思 想 史	たか はし ひろ き 高 橋 洋 城	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

西欧の様々な法思想を跡づけ再吟味する営みを通じて、近代法の環境の中で自明のものと考えられている思考のワクを相対化し、批判する視点を持つためのきっかけとしたい。こうした作業は、揺れ動く現代の法状況へ対峙してゆくのに必要であると思われる。

講義の内容・
授業スケジュール

重点をおくトピックとしては、ヨーロッパ法思想の核となったギリシャの法思想、ローマ法原理、キリスト教思想、中世自然法論、近代法の基礎理論とも言うべき自然権論や社会契約思想、これを批判的に受け継ぐドイツ啓蒙期の法思想などを予定している。基本的には、時代を順に追い、代表的な思想家と思索を共にする形で述べていくことになるが、同時に、国家、所有、人権等々、重要な概念枠組の変遷―連続と断絶に焦点を当て、近代という時代が獲得したものと忘却したものを、明らかにできればと思う。そのために、狭い意味での法学理論史の枠にとらわれすぎることなく、各々の思想家とその時代の間観やコスモロジーの中に法理解を位置づけて検討してみたい。なお、時間の都合上、最大限順調に講義が進んだとしても、19世紀前半の法思想までをカバーするのが精一杯だと思う。19、20世紀以降の法・社会哲学理論ないし（狭い意味での）法理論の諸潮流については、法哲学講義の方で取り扱う。

成績評価の方法

定期的記述試験（後期終了後1回）を主たる評価基準とするが、その他に、講義で紹介した思想家の著作を読んでレポートを提出してもらい、評価の一助とする。

参 考 書 等

参考書として、三島淑臣『法思想史』[新版]、青林書院（¥4,854）。あえて教科書指定とはしないが、是非座右に置き、講義の理解を深めるために使用されたい。

そ の 他

講義の概要、参考資料を必要に応じて配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 法 制 史	しげの たかの はる 茂 野 隆 晴	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

歴史学には、単に歴史(学)と呼ばれる一般史のほか、多くの個別史がある。これは医学における医学史のごとくで、一つの学問には必ずその史学がある。

法学を学ぶ者にとって最も身近な史学が法制史(Legal History, Rechtsgeschichte)である。本学には西洋法制史と日本法制史とが設置されている。わたくしの講義は、日本法制史であるが、それは、「日本国民の法生活の歴史的考察」(隈崎渡博士の定義)である。とするならば、法制史が過去における国家の制定法規を羅列して、その解釈に留まるものではないことが明らかである。

ともあれ、法学教育において、法制史などの基礎法学を学ぶということは、実定法の理解をヨリ深化させるとともに、リーガル・マインドの形成に有用であり、さらには、法学教育の総合化を図るのに有用であるはずである。

講義の内容・
授業スケジュール

夏休み前までに上古、中古、中世までの3期を概説する。その進み具合は、従って比較的早い。それというも、特にその後の近世法に時間を掛けるようにしたからに他ならない。

夏休み後は近世法について主にみるが、近代法、現代法についても成る丈ふれるようにし、比較法的な効果を挙げられるようにしたい。

講義では、諸種の事例を挙げ成る可く平易に講述していきたい。特に近世法の知識は、歌舞伎などの伝統芸や多くの時代小説や時代劇などの理解に少なからず役立つことも多いことであろうから、一層の興味が湧くようにしたい。

成績評価の方法

出席回数を平常点とし重視する。敢て、期末試験では頑張り具合がみられるようにし、頑張りをも重視し採点する。

教 科 書

大久保治男・茂野隆晴著『日本法制史』(高文堂出版社) 3,000円
大久保治男・茂野隆晴編『日本法制史板書』(芦書房) 未定

参 考 書 等

石井良助著『刑罰の歴史』(明石書店 1,600円)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 米 法	きん ばら きょう こ 金 原 恭 子	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

大陸法とは異なる英米法という法伝統が、どのような歴史と内容をもつものなのかを概観する。

講義の内容・
授業スケジュール

英米法の中でも特にアメリカ法に重点を置きつつ、①英米法の歴史、②アメリカ法の多元性、③法の支配とアメリカの違憲立法審査制、④英米両国の司法制度、⑤判例法主義、の各テーマを取り上げて論ずる。

成績評価の方法

学年末の筆記試験で成績評価を行う。

教 科 書

田中英夫著『英米法総論上・下』東京大学出版会 各¥3,200くらい。

参 考 書 等

田中英夫編集代表『BASIC 英米法辞典』東京大学出版会 約¥2,900

そ の 他

授業は基本的には講義形式で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 法	おか だ と し ひろ 岡 田 外 司 博	二 営 ・ 短 仏	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。そして、1年間で独占禁止法の全領域をカバーするものとなっている。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少くともプリントを受け取ることを勧める。また、教科書は薄いものなので、できれば、4～5月中にざっと一通り読んでおいて頂きたい。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教 科 書

厚谷褒児「独占禁止法入門」（日本経済新聞社）

参 考 書 等

教科書として指定しないが、多くの具体的事例を含むものとして、講義でしばしば引用することがあるので、『独禁法審決・判例百選（第五版）』（有斐閣）の購入が望ましい（ただし、必ずしも購入する必要はない）。その他の参考書については、初回の講義の時に簡単に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 関 係 論	しゅ とう もと こ 首 藤 素 子	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

現代の国際関係が抱える課題について、知識と理解を深めることを目的とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

次のような項目をほぼ3週分の授業を割当てながら進める予定。

1. 国際政治理論の展開
国際政治の冷戦後の新たな視座
2. 冷戦後の大地域主義の生成
3. 地域紛争と安全保障の課題
国連の安全保障分野の機能
地域紛争と地域組織の機能
4. 国連の開発戦略と南北格差の問題
近代化理論の変遷と従属論の影響
世銀・IMFの機能と問題
5. 国際政治と人権保障の制度化
人権保障の法的枠組の展開と課題
人権と人権NGOと国際社会
6. 1970年代以降の経済のグローバル化
政策協調と国際交渉の多様化
Global Governance の課題
7. 経済発展と途上国の政治体制
権威主義的政治体制と民主化の課題
8. 地球環境と国際関係の課題
地球環境問題の現状と政策的対応
「発展の権利」と「持続可能な発展」
人口問題の現状と課題

成績評価の方法

定期試験および課題提出物により評価する。

教科書

とくに毎時間使用するというわけではないが、次の文献を入手し、授業に関連する項目を各人で勉強しつつ、授業に出席することを勧める。

細谷千博監修、横山・野林編『国際政治の21世紀像』 有信堂 1997年（第2版） ¥2,987

参考書等

講義の内容ごとに参考文献等を指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行政法総論	梅木 崇 <small>うめ き たかし</small>	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

(1)行政とはなにか。(2)行政はだれが、だれに対して行うか。(3)行政はどのようにして行われるか。(4)行政によって損害を被った場合、どのように救済されるか。

これらの点について、従来から行われてきた行政法の内容を体系的に講義する。法に関する学問のうち、もっとも理解しにくいとされる行政法であるから、できるかぎり具体的な例を引きながら講義をすすめたい。諸君の将来の希望として公務員になることがあげられるので、そのための資料を提供することにも努める。単位の取得よりも、その将来の目的達成のために必要な、国あるいは地方の公務員試験の問題を頭におきながら講義をすすめる。その際に実際に行なわれた問題〔択一式 公務員試験における行政法の割合は相当におおきい。それも択一式に重点がおかれている〕そのものの検討も、講義の進捗にあわせて、時間が許せば、行ってみたいと思っている。

教科書

教科書としては、原田尚彦、小高剛編『行政法入門』（有斐閣新書 最新版）をもちいる。ただし、公務員試験の対策としては、これでは不足で、原田『行政法要論』（全訂三版）または塩野宏『行政法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』程度のもは用意する必要がある。

その他

なお、講義を行なうにあたって、講義者の著作も随時参照するつもりである。最近、公務員試験は、国家二種、都道府県、市町村を問わず、相当な難関になっている。それに合格するための知識はどろなわ式では獲得できない。したがって、相当早期から、その準備にかかる必要がある。しかし、そのための方法があり、それを習得すれば成果はあげられるものである。目的をはっきりもって大学生活をおくるべきであるが、公務員試験への合格は、それに値するものである。講義者の経験からいって、努力した者は、必ずといってよいくらい合格し、それぞれの分野で活躍している。ただし、学ぶ気のない者が、成功するわけがない。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
裁 判 法	雨宮 眞也 <small>あめ みや まさ や</small>	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

主として、わが国の裁判制度について、その組織と運用の実情を理解させることをもって、この講義の目的とします。

裁判とは、社会関係における利害の衝突、紛争を解決し調整する規律を定めるための、法的な権威を有する第三者の判定です。

社会関係の複雑化と国民の権利意識の高まりとに従い、現代社会において裁判の果たすべき役割は、年々その比重を増してきています。

裁判制度の現にある姿を明らかにするとともに、そのあるべき姿を求めるため、特に、裁判の本質、裁判の構造、裁判の論理、裁判と法律の解釈、裁判と事実認定、裁判の機能、判例の成立と意義等の諸論点について、重点を置いて講義します。

裁判における裁判官の思考プロセスにも触れ、法的思考の何たるかをも明らかにしたいと考えています。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、後掲の教科書に従って進めて行きます。

まず、「総論」として、裁判の本質、裁判の歴史、現代社会のかかえる裁判制度上の諸問題等について講義します。

次に「裁判組織論」として、裁判制度の基本原則、最高裁判所を頂点とする各種裁判所の組織・権限等について講義します。

さらに「裁判作用論」として、裁判の心理過程、裁判の種類と効力、民事・刑事・行政の各種裁判手続等について講義します。

最後に「司法関係諸制度」として、検察、弁護士、公証人等の諸制度につき講義します。

履修上の留意点

教科書を予め読んで、疑問点を把握しておいて下さい。

成績評価の方法

期末試験における論文式テストにより評価します。

教科書

兼子一・竹下守夫著『裁判法』（改訂版）有斐閣

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法 哲 学	たか はし ひろ き 高 橋 洋 城	二経・二営・短仏	4

講義のねらい

- ・法哲学は、「法学」の基礎的一分野であると同時に、「哲学」でもある。法制度や法的思考をめぐる基礎理論や根本的諸問題を考察しながら、法と関わりつつ生きる人間という存在者を、どのように把握していけばよいのかという視点を常に持って、一緒に考えてゆきたい。
- ・法哲学は出来上がった知識の体系ではない。各人が一人一人で考える、その手がかりになるに過ぎない。しかし、一人で内省しているだけでは自ずからその思考の広がりにも限界がある。法と人間・社会の関わりにおいて、どのような問題があり、どのような考え方が提起されているのか、さまざまな議論に触れることで、各自の思考の自由度を広げてもらうことが目標である。

講義の内容・授業スケジュール

まずは現在、法や法的思考をめぐる論じられている様々なトピック、たとえば、法と道徳、正義、強制との関係、権利概念のさまざまな捉え方などを取り上げて検討していくが、その際のやり方としては、できるだけ、現象として現れている具体的な問題の紹介・検討から入り、その根底にある根源的な思考や原理を洗い出し問うていく、という方式をとりたいと考えている。具体的にはたとえば、生命倫理・環境倫理と法、人間の自由と所有権、裁判や法解釈学の意味の検討等を考えている。その中で、法実証主義や自由法論などの法に対する見方、人格や権利に対する様々な哲学的立場などを紹介し、実定法学その他の学習の中でも生かされるような視座の獲得を目標としたい。なお、講義の中では、実定法の議論の参照のみならず、他の人文・社会科学、とりわけ哲学、倫理学、社会学などの知見にもしばしば言及することになるであろう。

成績評価の方法

レポートによって評価（前・後期2回提出）。その他は未定だが、たとえば授業時間内に小論を書いてもらうこともありうる。

教科書

教科書は特に指定しない。ただし講義を補う意味で、何らかの法哲学の概説的著作を手許に置いて常時参照されることを希望する。どのようなものがあるかについては、講義の初期の段階で紹介する。なお、法思想史の背景的知識を前提に話さなければならないことも多いので、できれば法思想史関係の概説書も各自入手し、自学自習に役立ててもらいたい。

参考書等

その他の参考文献については、講義の進行過程でテーマに応じてそのつど紹介する。

その他

「講義のねらい」で述べた通り、法哲学という学においては知識の獲得・整理が目標ではないのだから、講義ならびに概説書だけでなく、こちらから指示する参考文献を含め、様々な著作、思考、問題に自ら直接あたり、自分なりの思索を行うつもりでのぞんで欲しい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
倒 産 処 理 法	ま 越 道 夫 ま ち 道 夫	二 経 ・ 二 営 ・ 短 仏	4

講義のねらい

倒産処理法とは破産法・和議法・商法上の会社整理清算，特別清算に関する法規・会社更生法など倒産に関する諸法規の総称である。ここに倒産とは債務者が経済的に破綻し債務の弁済が極めて困難になった状況をさす。倒産処理法には目的が異なる二種の法規が存在する。一つは債務者の財産を清算し債権者への平等弁済を図る制度であり（例・破産法），他の一つは債務者の財産を全面的に清算することなく，取引関係を整理し企業の再建を計る制度である（例・会社更生法）。

講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいはかかる倒産処理法の特徴をふまえ判例を挙げ具体的に講義したい。

4月・5月 倒産処理法一般について概説

6月・7月・9月・10月 破産法

11月・12月・1月 会社更生法・その他

授業時間ごとに、その時間の講義の要旨を記載したプリント（レジュメ）を渡します。

履修上の留意点

受講者は民法・民事訴訟法の基礎知識を履修していることが望ましい。

教科書

桜井孝一編 馬越道夫著『演習ノート破産法』法学書院発行 ￥1,800

参考書等

石川明著『破産法』日本評論社発行 ￥2,800

科目名	担当者名	配当学科	単位
アメリカ経営学	みやき 城 徹	二経・二法・短仏	4

講義のねらい

世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。

学生諸君は、必須科目である「経営学概説」や「経営学」などの授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかんする基礎知識をある程度身につけていることを前提とした上で、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて一般的に講義するが、主として、下記の授業計画の8つの要目について検討する。

講義の内容・授業スケジュール

マイクと板書。教科書は指定しない。

この授業は1週1回90分で年間30週の時間数（ただし、期末試験日を入れて）から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために下見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッコ内の授業回数（合計29回）で完結する予定である。

なお、この授業回数は一応の目安であり、授業時間が祝祭日に当たる場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。

1998年度『アメリカ経営学』授業計画

- I 1年間の授業の概要(1)
- II 経営学の対象と方法(2)
- III 意思決定と権力（パワー）(8)
- IV 戦略（特に提携、グループ、ファミリー）(4)
- V コンティンジェンシー理論(4)
- VI 取引コスト理論(6)
- VII プロパティ・ライツ理論(2)
- VIII プリンシパル・エージェント理論(2)

成績評価の方法

期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。

《期末試験の出題形式》

複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。

参考書等

- 1 宮城徹『企業の政治理論序説』（税務経理協会）1983、1997
 - 2 宮城徹「企業制度とプロパティ・ライツ理論」『商学研究科紀要』（早大、第20号）1985
 - 3 宮城徹「情報と企業経営の理論的諸問題」日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』（千倉書房）1987
 - 4 宮城徹「経営者論」鈴木英寿編『経営学総論』（第2版）（成文堂）1989、1998
 - 5 宮城徹「経営学の歴史」藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』（学文社）1993
- ここでは紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文だけを参考文献の一部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介しておく。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経営財務論	たか だ みつ あき 高 田 光 明	二法・短仏	4

講義のねらい

〔財務の意味〕

経営財務は、企業という組織体の財務を研究する学問分野である。企業は、社会が必要とする財貨やサービスを生産し販売するという活動を営む報酬として、利益を獲得しようとする組織体である。このような活動では、機械、建物、原材料などの財貨が必要となるし、労働力も不可欠である。企業は、その活動を営むに際し、これらの財貨を取得しなければならないし、働き手も雇用しなければならないわけであり、そのために元手となる資本を必要とする。

この元手としての資本を集めることを、資本の調達という。そして、現金の状態では通常は調達する資本で、企業は、上記の財貨や労働力などを取得し、これらの生産要素により、新たな財貨やサービスを生産して販売するという営業活動を遂行し、その結果として資本が自己増殖することを目指す。このことが資本の運用であり、企業の営業活動を通じた資本の自己増殖分が利益である。企業の財務とは、現在では、企業による以上のような資本の調達と運用をいっている。

〔資本調達の位置〕

企業が資本を調達するのは、調達資本をできるだけ効率的に運用して自己増殖させ、利益を生み出すためである。その意味では、資本の運用あつての調達であるといつてよい。しかしながら、企業は、用途に合った種類の資本を、必要とする額だけ必要なときに調達できなければ、資本の運用を意図したように行い難くなる。資本運用の効率性は、企業が、資本の運用に合わせた調達をいかに行えるかに制約される。資本の運用がうまくいくかどうかの出発点は、資本をどのように調達するかにあるといえる。

資本の調達問題は、経営財務において、依然として重要な位置を占めていることに変わりがない。資本の運用あつての調達であるからといって、そのことは、資本の調達面の意義が小さくなることをけつて意味してはしないのである。この授業では、以上のような問題意識のもとで、資本の調達を中心に、必要に応じて資本の運用面と関連させながら講義するつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

基礎知識を体系的に理解し、この学問の基本的考え方を身に付けられるようにするために、まず基礎的・総論的事項について次の順番で講義していく。

1. 経営財務の領域
2. 資本と資産
3. 資本の分類
4. 資本の運用形態
5. 流動・固定分類法の重要性
6. 資金

履修上の留意点

経営財務論を理解する上で必要となる最小限の会計的知識も授業では説明する。しかし、簿記学と会計学を前もつて履修してあることが望ましい。

教科書

中原章吉編著『経営財務と管理会計』（中央経済社）

参考書等

染谷恭次郎著『資金計画の手引き』（日経文庫）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 組 織 論	ながせかつひこ 長瀬勝彦	二経・二法・短仏	4

講義のねらい

この講義で論じるのは、第1に企業組織がどのように構成されているのか、第2に環境の中でどのように運動しているのか、第3に個人や小集団が組織とどのように関わっているのかである。組織というものは形があるわけでもなければ色が付いているわけでもない、目に見えない存在である。それなのに私たちは会社がどうだとか学校がどうしたとか当然のように会話を交わしているし、社会では「法人」として人間並みの位置づけをされている部分もある。天然資源から自動車やコンピュータをつくったり、巨大ビルや橋を建築することは個人では何百年かかってもできないが、組織はやってのける。企業組織の活動によって生活が豊かで便利になることは否定しようがない。しかし一方で自然環境を破壊して私たちの生活を脅かすという側面も併せ持っているのである。また、人間は組織の中で高く評価されるとうれしく思うし、「会社人間」といわれるように組織と一体化する人もいる。組織の側も構成員に対していろいろ便益を与えてくれるが、景気が悪くなると手のひらを返したように嫌がらせをしたり、さらには退職を迫ったりする。こんなにも社会にも個人の心にも大きなプレッシャーを示す経営組織について、じっくり考えてみようではないか。

授業の展開としては、抽象的な理論や学説の紹介は程々に留め、現代の組織が直面している問題をなるべく多く取り上げて議論していく。

講義の内容・授業スケジュール

取り上げる予定の主な項目は以下の通りである。ただし授業の回数と項目番号は一致しない。

1. 企業組織の階層（トップ、ミドルなど）
2. 企業組織の部門化（単純な部門化、時間帯による部門化、地域別部門化、職能別部門化、事業部制組織、マトリクス組織など）
3. 新規事業開発と組織内組織（社内ベンチャー、プロジェクトチームなど）
4. 事業の国際化と組織
5. ラインとスタッフ
6. コンティンジェンシー理論（機械的組織と有機的組織など）
7. 組織文化と組織開発
8. 組織と戦略
9. 組織のリストラクチャリング（本社のスリム化、分社化、アウトソーシングなど）
10. 新しい人事・処遇制度（専門職制度、職能資格制度、役職定年制度、年俸制度、出向制度など）
11. 情報化と組織（航空会社のコンピュータ予約システムなど）
12. 企業間関係（企業集団と系列、ネットワーク組織、戦略提携など）
13. 個人と組織（モチベーション理論、規範と同調など）

履修上の留意点

私語等授業の妨げになる行為は厳禁する。また、授業時間内にレポート作成を課すことがあるが、その場合は遅刻者は教室に入室できない。禁止行為は厳正に対処され、またそれは最終的な成績評価や単位認定にも当然反映されるので注意すること。

成績評価の方法

成績評価は基本的に定期試験による。不定期に実施する授業時間内レポートの評価点をそれに加える。いわゆる出席点はつけない。

教科書

講義を通じての教科書は使用しない。

参考書等

各分野の参考図書を随時紹介する。
高橋伸夫編著『組織文化の経営学』中央経済社 その他

その他

講義においては受講者諸君にできるだけ頭を使ってもらうために発言を促すことがあるので、積極的な参加を希望する。また適宜ビデオ教材を使用するので、教場変更に注意すること。

科目名	担当者名	配当学科	単位
管理会計論	さる やま よし ひろ 猿 山 義 広	二法・短仏	4

講義のねらい

この講義では、すでに「簿記学」の単位を修得していることを前提として、企業における管理会計の基本思考と計算体系を学びます。なお、講義における重点項目は、次の3つです。

- ① 近年の日商簿記検定における「工業簿記」「原価計算」の出題傾向として、管理会計的な問題が増加しつつあり、この傾向は今後も続くと思われるので、その対策。
- ② 従来の管理会計論ではあまり深く検討されてこなかったマーケティング管理会計やゼロベース予算についての解説。
- ③ 最近の管理会計手法である活動基準原価計算（Activity-Based Costing:ABC）の解説。

講義の内容・授業スケジュール

- I 管理会計の体系
- II 管理会計における原価概念と利益概念
 1. 原価態様
 2. 全部原価計算と直接原価計算
 3. 分権管理のための原価概念と利益概念
- III 利益計画
 1. 利益計画の手続
 2. 損益分岐点分析とCVP分析
 3. 短期利益計画のための価格分析
 4. 短期利益計画のための営業費分析
 5. 長期利益計画
- IV 原価管理
 1. 標準原価計算
 2. 原価企画
 3. 活動基準原価計算
- V 予算管理
 1. 予算の機能
 2. 予算の体系
 3. 予算編成の手続
 4. 参加型予算とゼロベース予算
 5. 資本予算

履修上の留意点

「管理会計論」は計算科目なので、かならず電卓を持参すること。

成績評価の方法

以下のような課題による夏休み中のレポートと期末試験によって評価します。

- ① レポートの課題
「短期利益計画の枠組みを用いて、価格プロモーションと広告プロモーションそれぞれの限界を指摘しなさい。」
- ② 期末試験
 - 問題1 「変動予算による製造間接費の差異分析」(計算問題)
 - 問題2 「管理会計における長期的思考について」(論述問題)

教科書

適宜、プリント配布します。

参考書等

より体系的に勉強したいという人のためには、
櫻井通晴著『管理会計』(同文館)。
計算問題については、
日商簿記検定の「工業簿記」「原価計算」のテキスト。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 経 済 論	は 羽 とり 鳥 しげる 茂	二 法 ・ 短 仏	4

講義のねらい

日本経済の現状と将来展望をさまざまな角度から明らかにし、課題とその対策について考えてみたい。オーソドックスな日本経済論の枠を超えた新しい研究領域についてもわかり易く紹介したいと思っている。

講義の内容・
授業スケジュール

- (i) 日本経済の全体像
- (ii) 戦後日本の経済成長
- (iii) 戦後日本の景気循環
- (iv) 日本経済のストック化
- (v) 雇用の変動と日本的雇用慣行
- (vi) 企業経営と産業組織
- (vii) 日本の企業システムを考える
- (viii) 円レートの変動と日本経済
- (ix) 経常収支と貿易の動向
- (x) 公的年金と社会保障を考える
- (xi) 日本版ビッグ・バンを考える
- (xii) 地球環境問題の経済学

履修上の留意点

講義は各テーマごとに1～3回程度を予定しているが、下記の教科書を予習して授業に出席することを望む。

成績評価の方法

成績評価は、学年末の定期試験で行う。

教 科 書

小峰隆夫『最新日本経済入門』日本評論社 1997年

参 考 書 等

参考書等については開講時に指示し、適時に資料をコピーして配布することで授業内容の理解を深められるようにする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
インド仏教史	いけ だ みち ひろ 池 田 道 浩	二 経 ・ 二 営	4

講義のねらい

インド仏教の展開を理解し、また、いつの時代にも、どの地域においても、仏教に対して多くの異なった見解が存在し、論争が行われていたことを理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

インド仏教のおおまかな思想史について考察する。特に中観派と瑜伽行派との論争については、実際にいくつかの文献を講読していきたい。

成績評価の方法

受講者多数の場合、学年末の試験あるいはレポートによって評価する。

教 科 書

高橋直道『仏教入門』（東京大学出版会）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日本仏教史	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	二 経 ・ 二 営	4

講義のねらい

この授業は、日本において、インド伝来で中央アジアや中国や朝鮮を経由して将来された外来思想としての仏教が、いかに展開し定着したかを、通史的に辿っていく一方で、仏教と一括されるものの中に生じた全く異質な相対立する二つの流れの相違を明確に押えていこうとするものである。後者の検討のために、本年度は特に貞慶の『興福寺奏状』を取り上げて講読してみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は、以上の目的を実現するために、通史的な講義と上記テキストの講読を並行して進めていくことになるが、できれば、後者により大きなウエイトを置きたいと思っている。

履修上の留意点

参加人数の大小に大きく左右される面があるので、確定的なことは言えないが、できれば、演習形式の講読の割合を多くしたいと考えている。参加者はその点を念頭に意欲をもって授業に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

できればレポートによって評価したいと願っている。

教 科 書

講義は、末木文美上『日本仏教史－思想史としてのアプローチ』（新潮文庫、560円）をテキストとし、講読は、貞慶『興福寺奏状』（岩波書店、日本思想大系15、『鎌倉旧仏教』所収、田中久夫校注）をテキストとする。前者は自分で購入すること。後者は、入手困難なものには、コピーして配布する。

参 考 書 等

必要な参考書等の研究文献は適宜教場にて指示する。

そ の 他

授業方法は、上述したごとく、講読を主に進めたいと思っているので、出欠はとらないが、できるだけ継続して参加してもらいたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中国禅宗史	す 須 やま ちよう じ 山 長 治	二経・二営	4

講義のねらい

六祖恵能以降の禅思想史の流れを概観する。恵能寂後、禅宗は南北両派に分かれたといわれるが、江西馬祖や湖南の石頭には南北両派の問題を語る内容は見られない。特に馬祖の禅思想は中国禅のかなめとなり、次世代の禅思想に大きな影響を与えた。馬祖の時代とそれに続く禅僧たちの「示衆」や「問答」をそれぞれ点検しながら、中国禅宗史の本質的問題点を調べていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

『四家語録』を中心として馬祖以降の中国禅宗史を考えていく。本年度は特に黄檗希運の『伝心法要』を中心に、中国禅の思想面を考察し、禅思想の理論的な部分を読み取っていききたい。また、様々な禅問答を紹介し、それらがどういう場面や状況下でなされたかも考察していききたい。

成績評価の方法

出席を重視し、試験は論文記述方式で行う。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

『四家語録』（中文出版）、『景德伝灯録』（真善美社）、『祖堂集』（中文出版）、『伝心法要』（禅文化研究所）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日本禅宗史	つ の だ たい りゅう 角 田 泰 隆	二経・二営	4

講義のねらい

禅宗という宗派はないが、坐禅および禅定を主たる実践とする教えの流れを汲む宗派を禅宗と呼び、一般的には曹洞宗・臨済宗・黄檗宗の総称として禅宗と呼んでいる。本科目は、日本の禅宗の歴史について概説する。

講義の内容・授業スケジュール

日本の禅宗の歴史についての研究をするものであるが、その基礎知識として、まず、禅とは何かについて、インドや中国における禅の仏教史における位置と思想について、概説したい。そのうち教科書（第三部禅宗の歴史－日本篇）によりながら、日本の禅宗の歴史を講義してゆく。

成績評価の方法

定期試験の筆記試験の成績によって評価する。ただし、原則として所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席しなかった者は、筆記試験の成績の如何に関わらず単位は認定されない。

教科書

駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）¥2,370

参考書等

授業において紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 と 文 化	おく の みつ よし 奥 野 光 賢	二 経 ・ 二 営	4

講義のねらい

あまたある仏典の中には、文学性に富んだ譬喩や説話が数多く見られる。本講義では、そうした譬喩や説話を取り上げ、それらの仏典が人々に何を伝えたかったのかを考察したい。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は『大智度論』を中心にさまざまな『本生譚』を取り上げ、仏教が目指そうとしたもの、後世の文化に与えた影響などを考える。

履修上の留意点

授業はプリントを配布して進める。欠席によるプリントの再配布は原則として行わないので注意されたい。

成績評価の方法

出席の状況も考慮しながら、学年末の試験によって評価する。

教 科 書

特に指定せず、プリントを配布する。

参 考 書 等

授業において適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
書 道	の むら よし ひろ 野 村 宙 弘	二 経 ・ 二 営	4

講義のねらい

王羲之の蘭亭序をはじめ、各種古典の臨書による、実技の指導を行う。

履修上の留意点

書道実技の為、墨、硯、筆、文鎮、下敷、半紙等の文房四宝の用意が必要。
(正しい用筆法、正しい墨のすり方等、初歩的な基礎勉強の指導と、かんたんな書道史の説明を行う)

教 科 書

王羲之『蘭亭序』(清雅堂) ¥360

4 教職課程科目

4 教 職 課 程 科 目

〈教職に関する専門科目〉 (必修)

教 育 原 理 (伊 藤 茂 樹)	教 1
教 育 心 理 学 (遠 藤 司)	教 1
青 年 心 理 学 (遠 藤 司)	教 2
道 徳 教 育 の 研 究 (坂 本 信 昭)	教 2
特 別 活 動 (坂 本 信 昭)	教 3
生 活 指 導 (国 眼 眞 理 子)	教 3
教 育 実 習 (伊 藤 茂 樹)	教 4
社会科・公民科教育法 (谷 敷 正 光)	教 5
商 業 科 教 育 法 (谷 敷 正 光)	教 6
職 業 科 教 育 法 (前 田 幸 一)	教 7

〈教科に関する専門科目〉 (必修)

— 社 会 —

日 本 史 概 説 (北 条 文 彦)	教 7
世 界 史 概 説 (松 本 弘)	教 8
地 誌 学 概 説 (川 本 豊 和)	教 8
地 誌 学 概 説 (渡 邊 盾 夫)	教 9
人 文 地 理 学 概 説 (小 田 匡 保)	教 9
宗 教 学 概 説 (山 岡 隆 晃)	教 10
宗 教 学 概 説 (佐 藤 憲 昭)	教 10
哲 学 概 説 (丸 山 豊 樹)	教 11
政 治 学 原 論 (大 塚 桂)	教 12

— 職 業 —

産 業 概 説 (前 田 幸 一)	教 13
商 業 実 習 (山 田 勇 治)	教 13
— 商 業 —		
職 業 指 導 (山 田 勇 治)	教 14

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育原理	伊藤茂樹	教職2必 (二経・二法・二営)	4

講義のねらい

教員免許の取得をめざす受講者に、教育を考え、行うにあたって基本的なもののとらえ方を身につけてもらうことを目的とする。

教育について、経験だけに基づいて考えても理解できないこと、解決できない問題は必ずある(例えばいじめ)。教育の歴史や成り立ち(構造)や仕組み(メカニズム)について、様々な側面から知ることが不可欠であり、そのために教育学はある。しかし、知るということは受動性という限界がある。知識をもとに自分なりに現象や状況について考えることが、変化し続ける教育に携わっていくうえで不可欠である。知識と経験をつなぐものとして、状況を理解し、判断するための「目」が重要なのである。

この「目」を養うための鍵は、教育と社会とのつながりに着目することにある。これには、社会と教育を対比させ、社会が教育に及ぼす影響、教育が社会に及ぼす影響を考える方向と、教育の世界や学校、学級、子どもの集団それじたいを社会としてとらえる方向があり、これらを通じて、未知の問題に対して的確に自分なりの視野の広い理解ができるようになることをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。

- ・近代社会と教育
- ・現代の教育問題
- ・「学歴社会」とは
- ・現代の子ども、青少年
- ・教室における人間関係
- ・教育学という学問

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えてみることを心がけること。

成績評価の方法

中間試験、学年末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

科目名	担当者名	配当学年	単位
教育心理学	えん 遠藤 つかさ 司	教職2必 (二経・二法・二営)	4

講義のねらい

現在の教育に関する諸問題を考えるとき、心理学の様々な知見が影響力を持ち得ていることに気づかざるをえない。その様子を概観し、将来、教職に就こうとしている人間として、教育心理学的なもの見方とはどのようなものであるのか考えることを通して、自分なりの見方を確立することをテーマとする。

講義の内容・授業スケジュール

教育心理学の中での主要なテーマを概観することが講義の主となる。中でも、「自己」の問題をテーマとして取り上げ、教育心理学の中で、「自己の成り立ち」、「自己と他者」等の問題がどのように考えられてきたか見ながら、具体的な現象から考えていくこととしたい。また、「学習」の問題にも注目し、教育心理学の中で「学ぶ」ことをどのように考えてきたか、それに伴って「教える」ことをどのように考えてきたかを見直し、「評価」の問題、「教師-生徒関係のあり方」等の問題にも触れながら、現在の学校において「学ぶ」ということを改めて問いなおしていきたい。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

年度末試験を予定している。

参考書等

参考書等については授業中に随時紹介する。特定の教科書は用いない。

その他

講義が中心になることは否めないが、ビデオ等を用い、できるだけ実際の場面などを見ながら、実践に即して様々な問題について考える機会を作りたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
青 年 心 理 学	えん どう 遠 藤 つかさ 司	教 職 2 必 (二経・二法・二営)	4

講義のねらい

人間の生涯の中で「青年期」という時期が設定されていることについて、われわれはどのように考えればよいのであろうか。今まさに青年期を生きている人間として、また、将来教職に就くことによって青年期を生きる生徒たちとの関係を作らなければならない人間として、「青年期」における様々な問題を自分の問題としてとらえ考えていくことが本講義の主題である。

講義の内容・授業スケジュール

「青年期」においてなすべき課題について考える。中でも「自己」の問題に焦点を当て、「自己」をいかにして確立するか、そのために必要なものは何か、あるいは、「自己」を確立しえないために不適応に陥った人たちに対してどのように接するか等の問題を考えていき、最終的には「学校、あるいは社会で生きる」とこと、「自己を確立する」とことの関係についても考えていきたい。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

年度末試験を予定している。

参 考 書

参考書等については授業中に随時紹介する。特定の教科書は用いない。

そ の 他

青年期における様々な問題についての様々な問いに実際に自分なりに考えて答えるという機会をできるだけ作りたい。それらのことを通して自らの素朴な考え方を顕わにし、対象化し、とらえ直すことを目的としたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (前 期)	さか もと のぶ あき 坂 本 信 昭	教 職 2 必 (二経・二法・二営)	2

講義のねらい

道徳教育の問題は、古くて新しい問題である。「徳は教えるか」とは、ソクラテスのとり組んだ難問であったが、これは今日でもやはり難問である。これからの道徳はいかなるものであり、どんな方法で教えるべきかということは、いぜんとして新しい課題である。

本講義では、明治「学制」以降、今日にいたる道徳教育の史的変遷にそって検討し、殊に学校における道徳教育の成立過程と事情について探究する。

講義の内容・授業スケジュール

講義を中心とするが、道徳の時間における指導案(中学校)についても、具体的な検討をする。

履修上の留意点

出欠は厳密にとる。教育実習等でやむをえず欠席した場合は必ず申し出て、指示を求めること。

成績評価の方法

主として定期試験をもとに評価します。

教 科 書

教師養成研究会編『道徳教育の研究』(学芸図書) 950円

そ の 他

必要な資料を適宜配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
特 別 活 動 (後 期)	さか もと のぶ あき 坂 本 信 昭	教 職 2・3 必 (二経・二法・二営)	2

講義のねらい

教育職員免許法施行規則の改正(1989年3月)によって、教職に関する専門教育科目として新設されたものであり、このことをふまえて、学校教育における教育課程の一領域としての特別活動の教育的意義や目標、内容及び方法等について講義するとともに、特別活動を指導する際に必要とされる知識や技能について理解を深める。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるトピックスは、①特別活動とは何か。②特別活動の心理学的基礎。③特別活動における指導原理。④学級活動・ホームルーム活動・児童・生徒会活動・クラブ活動・学校行事等の内容と指導。⑤特別活動における評価。⑥特別活動における展望と課題。

履修上の留意点

授業開始の頭初に各自の出席カードを作成し、それによる出欠を厳密にとる。

成績評価の方法

期末試験による評価を主とする。

教科書

教師養成研究会編 『特別活動の理論と方法』(学芸図書) 1,000円

参考書等

教員養成基礎教養研究会編 『特別活動研究』(教育出版)
中野日直明他編著 『要点 特別活動の理論と実践』(酒井書店)

その他

必要な資料を適宜配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
生 活 指 導 (前 期)	こく がん まり こ 国 眼 眞 理 子	教 職 2・3 必 (二経・二法・二営)	2

講義のねらい

教育の場における生徒理解や、生徒の心の発達を促すうえで役立つ基礎的な視点を育むことをねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

基礎知識をもとに、「青年期」理解を深めるとともに、教師と生徒間のコミュニケーションのあり方を考える。

1. 「青年期」と、その心理的な課題(アイデンティティ形成)
2. 自己のアイデンティティを探る
3. 自己意識の発達
4. 自己の発達と対人関係(親子関係、友人関係、その他)
5. 進路選択とアイデンティティ形成
6. サポーターとしての教師の役割(「共感的理解」とは何か)
7. コミュニケーション(非言語的なコミュニケーション、アサーションなど)

教科書

河合隼雄『大人になることのむずかしさ』子どもと教育を考える2(岩波書店) 1983

参考書等

- ① 河合隼雄『カウンセリングを考える(上)』(創元社) 1995
- ② 菅佐和子『思春期女性の心理療法』(創元社) 1988
- ③ 清水将之『思春期のこころ』(日本放送出版会) 1996

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
教 育 実 習	伊 藤 茂 樹 いとうしげき	教 職 4 必 (二経・二法・二営)	3

講義のねらい

中学・高校での教育実習を突りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・
授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関して一般的な講義を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献講読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教 科 書

特になし

参 考 書 等

授業の中で適宜指示・紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
社 会 科 公 民 科 教 育 法	や 谷 しき ただ みつ 敷 正 光	教 職 3 必 (二経・二法・二党)	4

講義のねらい

社会科は民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと言っても過言ではない教科である。この社会科教育も戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。今回の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し、新たに生活科を設け、高等学校の社会科を再編し、新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならない。

この授業のねらいは、しっかりとした社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」「社会科教育とは何か」といったところまでさかのぼって検討してみることにある。その上で、社会科教育の歴史、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科の成立
4. 社会科学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と社会科
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 社会科学習指導案の意義と作成
9. 社会科教師による授業研究（ビデオ）
10. 4年生による模範授業
11. 模範授業を通じての社会科の学習指導、授業実践の研究
12. 中学校社会科の目標・内容・取り扱い
13. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
14. 教育評価
15. 社会科教育実習の意義
16. 社会科教師論
17. 社会科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践など総合的に評価する。

教科書

大森・谷敷共著『社会科教育研究』（梓出版）

参考書等

社会科・公民科の『教科書』、『中学校・高等学校学習指導要領』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 業 科 教 育 法	や 谷 しき 敷 ただ みつ 正 光	教 職 3 必 (二経・二営)	4

講義のねらい

「産業教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなうめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「職業科」の中間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従って、この講義のねらいは、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 日本経済の発展と産業教育
2. 商業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 商業科学習指導案の作成
9. 商業科教師による授業研究(ビデオ)
10. 4年生による模範授業
11. 模範授業を通じての商業科の学習指導、授業実践の研究
12. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
13. 教育評価
14. 商業科教育実習の意義
15. 商業科教師論
16. 商業科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践など総合的に評価する。

教 科 書

岡田修二他『新商業教育論』(多賀出版)

参 考 書 等

高等学校商業科の『教科書』、「高等学校学習指導要領」

科目名	担当者名	配当学年	単位
職業科教育法	まえ 田 ゆき かず 前 田 幸 一	教職3必 (二経)	4

講義のねらい

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。
 ① 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
 ② 『中学校学習指導要領』の技術・家庭について、その新旧の違い、変化などを比較検討していく。
 ③ 職業教育について考えていく。
 ①、②は前期授業、③は後期授業で行う予定です。

履修上の留意点

自分や周りの人の家庭や職業について改めて考えてきてほしい。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点かレポートで成績評価をします。

教科書

『中学校学習指導要領』（文部省平成元年3月）。他については授業の際に指示します。

参考書等

中学校で使用していた『技術・家庭』の教科書など。

その他

授業を受ける人は少人数なので、ゼミ形式で授業を進めていきます。

科目名	担当者名	配当学年	単位
日本史概説	ほう じょう ふみ ひこ 北 條 文 彦	教職2・3教科 (二経・二法・二営)	4

講義のねらい

将来、中等・高等学校教員を志す者にとって必要な基礎的教養ともいうべき日本史の、上古より現代に至る各時代の政治・経済・宗教・文化等について概説する。

成績評価の方法

筆記試験は実施しない。後期にレポートを提出してもらい、評価する。

教科書

宝月圭吾・児玉幸多編『新稿日本史概論』（吉川弘文館） 1,597円

参考書等

児玉幸多編『標準日本史年表』〔B5判〕（吉川弘文館） 600円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
世界史概説	まつ 松 本 ひろし 弘	教職2・3教科 (二経・二法・二営)	4

講義のねらい

本講義は、中東及びイスラムの歴史である。中東やイスラムに関しては、1973年の石油ショック以降関心が高まり、日本人の研究者も飛躍的に増加した。最近では、欧米の水順に劣らない業績も多く出されてるようになってきている。しかしそれでもなお、残念ながら中東は日本にとって最も遠いところのひとつであろう。湾岸戦争、中東和平、イスラム原理主義等にかかわるニュースが日々報じられるものの、その内容や史的・社会的背景の理解には困難なものがある。そのような傾向は中学や高校での世界史に関しても見られ、中東やイスラムに関する授業は教師にとって大きな負担となる例が多い。それゆえ、本講義の目的を世界史の授業のための中東史に設定し、最低限知っておくべき基礎知識を中心に、日々報じられる中東に関するニュースなどからその現在までもフォロー出来るような講義を行うこととする。

講義の内容・授業スケジュール

内容は、中東の民族及び宗教、イスラムの成立及びその神学、法学などの思想、中東の中世史を前期において概説した後、後期においてオスマン帝国から中東の近現代史を出来る限り詳解する。近現代に関しては政治史のみならず、アラブ民族主義から現代のイスラム原理主義に移行する社会や思想の流れ、近代化や民主化に伴う種々の問題点、アイデンティティや国民統合にかかわる社会変容なども取り扱っていききたい。そのような講義の中で、重要な事件やニュースの解説を随時織り込んでいくこととする。

成績評価の方法

前期末・後期末計2回の試験結果により評価する。

教科書

教科書は特に用いず、適宜プリントを配布する。

参考書等

適宜、指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
地誌学概説	かわ 川 もと 元 とよ 豊 かず 和	教職2・3教科 (二経・二法・二営)	4

講義のねらい

主にアジアを対象として、「地域の変貌」について講義する。

講義の内容・授業スケジュール

前半では、まず、地誌学の基本的な考え方について説明し、次に、さまざまな人文地理学的事象から世界のなかにおけるアジアの特殊性や他地域とアジアの共通性などについて考えてゆきたい。後半では、南アジアのインド及びバングラデシュ、東南アジアのマレーシアを事例として、社会経済構造の変化や村落と都市の変貌などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにしたい。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教科書

特に定めず、プリントを配布する。

参考書等

矢野暢編『講座現代の地域研究1 地域研究の手法』(弘文堂) 1993 ¥4,800
 藤岡謙二郎ほか『世界地誌第二改定増補版』(大明堂) 1989 ¥2,060
 B.L.C. ジョンソン著、山中一郎ほか訳『南アジアの国土と経済第2巻バングラデシュ』(二宮書店) 1986 ¥3,605
 臼田雅之ほか編『もっと知りたいバングラデシュ』(弘文堂) 1993 ¥2,800
 水島司編『アジア読本マレーシア』(河出書房新社) 1993 ¥2,000

その他

講義中心の授業であるが、年に2~3回はスライドの使用を予定している。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
地 誌 学 概 説	わた なべ たて お 渡 邊 盾 夫	教職2・3教科 (二経・二法・二営)	4

講義のねらい

この講義では、学生諸君が教職につく時の基本事項、または就職試験の時の一般教養（人文科学系）問題が解けることを目標として、進めます。

次に地理学の一つの見方である地誌を、「ある場所」を具体的にとり上げ、その場所にはさまざまな自然環境（気候、地形など）や社会環境（サービス業、農業など）があり、この中にさまざまな人間活動が営まれている。これらを総合的に分析をし、その現象を明らかにしていく方法を考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

ここでは、前期にある場所の自然環境を理解するために気候、地形そして地形図の基礎的なことを学習する。後期には、各国を地誌的な見方で説明する。

履修上の留意点

基本的には、学生諸君が日本や世界各国の様子を「何んでそこにその様な現象があるのか」という疑問で接してほしい。地誌学または地理は暗記の科目ではない。

また講義を聞く時には、高校時代に使った地図帳を必ず持参して下さい。その方が理解が早くなります。

成績評価の方法

年度末に定期試験があり、これに出席の様子を加えています。答案は自分が他の人に説明をし、理解してもらえる様に書いて下さい。その方が勉強になります。

教科書

教科書等については、特に指定しません。講義の進行に合わせて、プリントを配布します。このプリントの中に各自で必要事項を加えて下さい（試験の時に参考になります）。

参考書等

講義の時、それぞれの分野での参考図書を紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
人 文 地 理 学 概 説	お だ まさ やす 小 田 匡 保	教職2・3教科 (二経・二法・二営)	4

講義のねらい

日本を事例地域として、人文地理学の諸分野に触れる。

講義の内容・授業スケジュール

下記の教科書にそって、人文地理学の各分野について論じていく。毎回、授業内容に関連した小テストを行なう。

履修上の留意点

欠席しないこと。

成績評価の方法

成績評価は、定期試験のほか、毎回の小テストの結果と出席状況とで判断する。

教科書

石井・浮田・伊藤編『図説 日本の地域構造』（古今書院） ¥2,500
『高等地図帳 最新版』（二宮書店） ¥1,500（高校の時に使ったものなど、他の地図帳でもかまわない）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 学 概 説	やま おか たか あき 山 岡 隆 晃	教職2・3教科 (二経・二法・二営)	4

講義のねらい

本講義は、教職課程の選択科目の一つとして設置されている。従って、概説ではあるが、できる限りその目的にそったテーマを設定し、宗教との関連について考察をすすめるつもりである。本年度は「人間・教育・宗教」をメインテーマとし、これに関わる具体的な問題について、宗教学の研究成果に依拠しながら検討していくことにしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 次の内容を予定している。
- (ア) 人格形成と宗教（宗教的人間観・回心論、自己実現論と宗教など）
 - (イ) 儀礼の意味と機能（通過儀礼、タブー、修行など）
 - (ウ) 若者と現代宗教
 - (エ) 仏教の人間教育

成績評価の方法

出欠状況、レポート、課題等により総合的に評価する。

参 考 書 等

授業の中で随時指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
宗 教 学 概 説	さ とう のり あき 佐 藤 のり 昭	教職2・3教科 (二経・二法・二営)	4

講義のねらい

宗教学は、宗教文化について価値中立的立場から研究する学問である。だが、その方法論は多岐にわたっている。宗教学の専門領域に、例えば、宗教史学、宗教社会学、宗教学人類学、宗教民俗学、宗教心理学などがあるのは、そのことを示しているといえよう。この講座では、こうした宗教学の現状を踏まえながら、宗教学人類学的視点と方法から、民俗宗教に焦点を合わせて考察し、「人間とは何か」という問題に接近することを目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

まず、宗教学の成立と展開、特徴、対象領域などについて具体的に解説し、つぎに個別の問題を取り上げて考察する。本年度は、民俗宗教について取り上げる。日本人の多くは、宗教を信じていないとみずから認識している人たちが、その一方で必要に応じて諸宗教と関わっていることが少なくない。いいかえれば、生活に合った形で諸宗教と関わっているのである。こうした生活場面で展開している宗教を民俗宗教と呼ぶ。私たちの生活の中に生きているさまざまな事例を取り上げて、諸民族との比較において考察し、民俗宗教を通して人間理解の可能性を考えてみたい。なお、民俗宗教と教義宗教との関わり合いについても追求する。

履修上の留意点

この講座は、教職科目であることを考慮して出席を重視する。したがって、毎回出席をとるので、欠席をした場合（または欠席をする場合）には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。

成績評価の方法

基本的にはレポートで評価するが、59点以下の場合には出席点を考慮して総合的に評価する。

教 科 書

佐々木宏幹『宗教学人類学』（講談社）

参 考 書 等

授業中に適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
哲 学 概 説	まる やま とよ き 丸 山 豊 樹	教職2・3教科 (二経・二法・二営)	4

講義のねらい

哲学のいわば「構造」にとって不可欠な部分となっている「要素」にあたる諸概念を、哲学の歴史的、時間的な発展に沿いながら取り上げて行く。それらはいずれも哲学の現代的構成に必要なものではあるが、しかしそれらを天下りの論ずるのではなく、その歴史的必然性に応じて、それらの哲学的意義を解明することにした。

講義の内容・
授業スケジュール

歴史上著名な哲学者達の哲学の中からその核心となる思想を取り出し、現代との関連に特に配慮しながら、哲学の部分としてのその意義を論ずる。従って必ずしも細部にまで及ぶことはできないであろう。スケジュール的には夏休み前までに古代、中世の哲学を終わり、秋以後は及ぶ限り近世哲学の流れを追うことになる。

履修上の留意点

哲学の史的展開にはほぼ対応して進んで行くことになるが、取り上げる対象の重要度に差があるから、その違いにはそれなりに注意していただきたい。

成績評価の方法

講義内容の理解度を知るためテストの他に、哲学と科学などの他地域との関連を深めるために、重要と思われる文献類を読んでもらって、それについてレポートなどを書いてもらうこともある。

教 科 書

講義中に指定する。

参 考 書 等

そのつど触れるつもりである。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
政 治 学 原 論	おお つか かつら 大 塚 桂	教職2・3教科 (二経・二営)	4

講義のねらい

- 自己紹介
私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならず、ひろく隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階(2835)にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

- 講義の目的
政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、実際の政治の理論的説明と解明ができるように基礎的的原理的知識を習得することです。目的の第三は、近い将来履習するであろう他の専門学科目の研究上必要な基本的な知識を提供することです。

講義の内容・授業スケジュール

- 講義のすすめかた
現代政治学のおおよそのアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

- 講義内容
おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。
A 政治学の課題と対象、および方法
B 政治の原理的究明
① 政治的なるもの
～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従
② 共同体的なるもの
～国家、社会、主権、法
③ イデオロギー的なるもの
～イデオロギー、正義、自由、平等、人権(シティズンシップ)
C 政治の実体論的究明
① 制度論的究明
～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制
② 機能論的究明
～政党、圧力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化

成績評価の方法

本年度はあらたなころみとして、受講者との相談のうえA・B両方式のうちのいずれかに決定します。

A方式(レポートによる単位認定)
複数回(前期・後期)のレポートを提出してもらい成績を評価します。課題報告(レポート)の作成をとおして、文献の読解力と書く能力を涵養します。

B方式(試験による単位認定)
中間・学年末試験により、成績を評価します。評価基準は、中間試験50%、学年末試験50%です。

※A方式の場合には、追・再試験は実施しません。B方式は、実施します。

教科書

大塚桂『政治学原論序説』(勁草書房) 価格3,296円
大塚桂『政治哲学入門』(法律文化社) 価格2,900円

参考書等

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
産 業 概 説	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職2・3教科 (二経)	4

講義のねらい

授業は '85 (昭和60) 年以降の日本の産業界の動向を業種別に流れをつかんでいく。

講義の内容・
授業スケジュール

(総論) バブル経済と平成不況
(各論) 非鉄金属、建設、食品、紙・パルプ、化学、繊維、石油、エネルギー、鉄鋼、産業機械、造船、重電、家電、コンピューター、半導体、自動車、商社、流通、銀行、生損保、証券、住宅、不動産、運輸、サービス、レジャー、外食産業、通信、ノンバンク、
なお、受講者の要望を聞きながらですが、今年度は工場見学などを授業に組んで、実施したいと考えています。

履修上の留意点

できるならば、日経新聞などの経済・産業欄に目を通して授業に望んで欲しい。

成績評価の方法

当授業は多分に受講者が少ないと思いますので、ペーパーテスト等はしません。平常点で決めます。

教 科 書

高村寿一・小山博之編『日本産業史4』(日本経済新聞社) 1,500円

参 考 書 等

参考書等は授業の際に提示します。

そ の 他

授業での受講者は恐らく少人数であろう。そこで授業の初段階では私が講義をしていきますが、その後はゼミ形式で、皆で議論しながら授業をすすめていきます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
商 業 実 習	やま だ ゆう し 治 山 田 勇 治	教職2・3教科 (二経)	4

講義のねらい

商業教育の内容は大きく商業活動に関する理論的な内容と実践的な内容に分けることができる。商業教育においては、この両面の有機的な結合をはかる必要がある。
商業実習では、特に後者に重点をおいて講義を行なうものである。特に高校の商業科の教員希望者に対しては、商業科の教員採用試験に合格できるような受験準備教育にも重点をおいて指導を行なうつもりである。

成績評価の方法

出席および授業中における課題などの提出状況を考慮しながら、期末の評価を行なう。

教 科 書

開講時に指示

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 年	単 位
職 業 指 導	やま だ ゆう じ 山 田 勇 治	教職2・3教科 (二経・二営)	4

講義のねらい

職業指導（進路指導）は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容にするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、職業指導の基礎的概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心にして講義していきたいと考えています。

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点を考えていくような授業をするつもりです。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明したいと考えています。

履修上の留意点

受講する学生は、積極的に問題意識をもって教育問題を考えるようにしてほしい。

成績評価の方法

授業中における課題などの提出や出席状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価します。

教 科 書

開講時に指示。

参 考 書 等

有本章・近藤大生編『現代の職業と教育』（福村出版） ¥2,000
 寺田晃・佐藤玲監修『進路指導』（中央法規出版） ¥2,500
 仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編著『進路指導論』（福村出版） ¥2,300

付 録

研 究 所 案 内

国 家 試 験 に つ い て

学 位 授 与 機 構

I 法学研究所

本学には大学直属の研究機関として幾つかの研究所がありますが、法学部学生諸君に関係するものとして「法学研究所」を紹介しておきます。昭和47年4月に設立された法学研究所は、現在、(1)研究部、(2)研修部の2部から構成されています。研修部は、国家試験の受験指導等を企画担当しています。現在、司法試験の主要科目について特別カリキュラムを用意し、弁護士による講義を実施するとともに、本学の司法試験合格者および弁護士による特別ゼミを随時行っています。また学界、法曹界等から講師を迎えて講演会を開催しています。本学の在学生・卒業生であれば所定の手続きをふむことにより誰でも研修部会員になることができます。また、研究所内の特別研究室において専門の机と書架を利用して勉強に専念することもできますが、そのためには所定の入室試験を受ける必要があります。入室試験は、基礎的事項について行われます。(ただし、試験の日時、試験科目等については、年度により変更がありますので、掲示板に注意してください。)

国家試験等の受験を志望する学生は、法学研究所の研修部を利用することが合格への近道です。詳細については、法学研究所事務局(体育館2F Tel 3418-9553)に問い合わせてください。

II マス・コミュニケーション研究所

1. 本研究所の主旨

本研究所の学生指導の主旨は、1) 現代の情報・社会を的確に把握し、将来、新聞・テレビ・出版・広告などのマス・メディアをめざす諸君を育成すること。2) 希望する学生諸君にマス・コミ各分野を研究してもらい、そのための機会をいろいろなかたちで提供することにあります。

本研究所の授業・各コースは、今日マス・コミ研究のラインに従って慎重に組まれています。これらは学部の授業(単位)とは全く別個のもので、自主的な学習意志があれば原則としてだれでも自由に学ぶことができる学習の場です。マス・コミ界をめざしている諸君、あるいは自分の可能性を広げようとする多くの諸君の来訪を待っています。

なお、入所試験は4月下旬～5月上旬に、論文および面接によって行われます。

詳細については、マス・コミュニケーション研究所事務局(体育館2F Tel 3418-9556)に問い合わせてください。

2. 開講科目

下記の講座の中から1年間に2～4科目を履修します。

経済ジャーナリズムの世界・報道と人権・現代報道論・現代テレビ論・文章表現論・情報システム概論・電子計算機実習・企業広報論・時事問題研究・校閲技術論・国際マーケティング論・演習・時事英語など、またそのほか、時に応じて、特別講義・講演など(いずれも学内外教員、もしくは現役の新聞論説委員、記者等によって担当されます。)を開講しています。開講科目、内容についてはマス・コミュニケーション研究所事務局(体育館2F Tel 3418-9556)に問い合わせてください。

Ⅲ 駒澤経理研究所

国際化、情報化、サービス化が急速に進展し、民間企業のリストラによって、新卒者の就職条件が非常に厳しくなっている今日、職業資格に対する学生の関心が強まっています。こうした状況に対応するため、駒澤大学経理研究所では、簿記検定試験（3級、2級、1級）、税理士試験、公認会計士試験の受験指導をおこなっています。

経営、経済、法学部の選任教員と専属スタッフが熱心に指導に当たっています。平日だけでなく日曜日にも授業がおこなわれ、夏季休暇には合宿も行われています。

Ⅳ 国家試験について

〔1〕 司法試験について（司法試験法）

1.（目的）

司法試験は、裁判官、検察官または弁護士となろうとする者に必要な学識およびその応用能力を有するかどうかを判定することを目的とする国家試験であります。

2.（司法試験の種類）

司法試験は、第1次試験および第2次試験に分けられます。

3.（第1次試験およびその免除について）

第1次試験は、第2次試験を受けるものに相当な教養と一般学力を有するかどうかを判定することをその目的として行われるものですから、本学において、学士の称号を得るために必要な一般教養科目（一般教養科目の人文・社会・自然の各分野にわたり、合計36単位以上および第1外国語8単位、第2外国語4単位、計12単位以上）の履修を終わった者については免除されます。

平成8年度からのカリキュラム改正により、2年以上在学し、外国語科目4単位以上16単位以内および法学以外の分野の科目（保健体育科目を除く）16単位以上の合計32単位以上を修得した者（32単位に満たないときは、8単位までを司法試験第2次試験の科目以外の法学科目をもって充てることができます。）は、第1次試験を免除されます。たとえば、宗教教育科目4単位、教養教育科目16単位、外国語科目8単位、法学概論4単位を修得すると、第一次試験は免除されます。

4.（第2次試験）

第2次試験は、第1次試験の合格者または免除された者について、裁判官、検察官または弁護士になろうとする者に必要な学識およびその応用能力を有するかどうかを判定することを目的として行われるもので、短答式および論文式による筆記並びに口述の方法によって、次のとおり実施されます。

(1) 試験科目等

A. 短答式による試験は、憲法、民法、刑法の3科目について行われます。

B. 論文式による試験は、短答式による試験に合格した者について、次の6科目について行われます。

(ア) 憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法または刑事訴訟法の5科目。

(イ) 民事訴訟法、刑事訴訟法、行政法、破産法、労働法、国際公法、国際私法、刑事政策のうち選択1科目。なお、(ア)において民事訴訟法および刑事訴訟法を選択しなかった場合に限り、民事訴訟法および刑事訴訟法を選択することができます。なお、平成12年度より、論文式試験の科目は憲法、民法、刑法、商法に加えて、民事訴訟法および刑事訴訟法も必須科目となり、これまでの法律選択科目は廃止される可能性があります。

C. 口述試験は、筆記試験に合格した者につき、その者の論文式試験において受験した6科目につ

いて行われます。なお、平成12年度より、前記6科目中口述試験科目から商法が除外される可能性があります。

- (2) 第2次試験は、いずれも知識を有するかどうかの判定に偏することなく、その理解力、推理力等についても判定されます。
 - (3) 第2次試験の論文試験の合格者の約7分の2を受験期間が3年以内の者から定める。(合格枠制、平成8年度から実施)
 - (4) 筆記試験(短答式および論文式試験)に合格した者については、その申請により、次回の筆記試験が免除されます。
5. (司法試験の施行)
司法試験は、毎年1回以上実施され、その期日および場所はあらかじめ官報をもって公示されます。
6. (合格者の判定方法等)
司法試験の合格者は、司法試験考査委員の合議によって定められ、合格者には、合格証書が授与されます。
7. (受験手数料)
第1次試験4,500円、第2次試験11,000円
8. 合格者の数は、746人(平成9年度)
なお、受付期間、申込方法等については、東京都千代田区霞が関1の1法務省司法試験管理委員会に照会するようにしてください。

[2] 国家公務員採用Ⅰ種試験について

1. 国家公務員採用Ⅰ種試験とは、従来の国家公務員採用上級試験の甲種の名称が変更されたもので各省庁の上級係員または試験研究機関の研究員として事務、技術または研究の業務に従事します。
2. 受験資格
学歴・性別などによる制限はなく、受験する年度の4月1日現在の年齢が21歳以上33歳未満の者。
3. 試験方法
第1次試験
 - a. 教養試験(多枝選択式)―公務員として必要な一般的な知識および知能についての筆記試験。
 - b. 専門試験(多枝選択式)―下記の各区分に応じて必要な専門的知識、技術などの能力についての筆記試験。第2次試験
 - a. 専門試験(記述式)―第1次試験と同じ。
 - b. 総合試験(記述式)―総合的な判断力、思考力などの能力についての筆記試験。
 - c. 人物試験 ―――― 人柄などについての個別面接。
4. 試験期間
第1次試験6月中旬、第2次試験が7月中～下旬、最終合格者の発表は8月中旬。なお、試験の詳細については人事院任用局試験課(Tel 3581-5311)または人事院の各地方事務局に照会するようにしてください。

〈区分〉

行政、法律、経済、心理、教育、社会、数学、物理、地質、情報工学、電気・電子、機械、土木、建築、化学、材料工学、資源工学、生物、薬学、農学、農業経済、農芸化学、農業工学、畜産、林学、水産、砂防、造園。

[3] 国家公務員採用Ⅱ種試験について

1. 国家公務員採用Ⅱ種試験とは、上級乙種試験と中級試験を統合して「将来の行政第一線を担い得る

ような有能な人材を確保するため、大学卒業程度の能力を有する者の採用を充実していくことを目的とした試験で、各省庁の中級係員として事務・技術または研究業務などに従事します。

2. 受験資格

学歴・性別などによる制限はなく、受験する年度の4月1日現在の年齢が21歳以上29歳未満の者。

3. 試験方法

第1次試験

- a. 教養試験（多枝選択式）— 公務員として必要な一般的な知識および知能についての筆記試験。
- b. 論文試験（小論文）— 行政のみ。一般的な行政に携わる者として必要な文章による表現力、課題に関する理解などについての短い論文による筆記試験。
- c. 専門試験（記述式）— 行政以外の区分。各試験の区分に応じて必要な専門的知識、技術などの能力についての筆記試験。
- d. 専門試験（多枝選択式）— 各区分に応じて必要な専門的知識、技術などの能力についての筆記試験。

第2次試験

- a. 人物試験 ————— 人柄などについての個別面接。

4. 試験期間

第1次試験7月上旬、第2次試験が8月上～中旬、最終合格者の発表は9月上旬。なお、試験の詳細については人事院任用局試験課（Tel 3581-5311）または人事院の各地方事務局に照会するようにしてください。

〈区分〉

行政、図書館学、物理、電気・電子、機械、土木、建築、化学、資源工学、農学、農業土木、林学。

[4] 裁判所職員（裁判所事務官）採用I種試験について

1. 裁判所の機構は大別すると裁判部門と司法行政部門に分けられますが、各裁判所の司法行政部門において裁判部門が行う裁判権の行使に必要な人物・物的機構を供給し、事務の合理的・効率的な運用を図る等のいわばハウスキーピング的な事務を主として行う国家公務員を裁判所事務官といい、これらの人を採用する試験が、裁判所事務官採用試験です。

2. 受験資格

学歴・性別などによる制限はなく、受験する年度の4月1日現在の年齢が21歳以上26歳未満の者。

3. 試験方法

第1次試験

- a. 教養試験（択一式）— 一般知識および能力についての筆記試験。
- b. 専門試験A（択一式）— 憲法、民法、刑法の専門的知識および能力についての筆記試験。
- c. 専門試験B（択一式）— 民事訴訟法または刑事訴訟法の専門的知識および理論の応用能力についての筆記試験。

第2次試験

- a. 教養試験（論文式）— 課題に対する識見、判断力および理解力についての筆記試験。
- b. 専門試験（論文式）— 第1次試験と同じ4科目の専門的知識および理論の応用能力についての筆記試験。
- c. 口述試験 ————— 人柄などについての個別面接。

4. 試験期間

第1次試験6月中旬、第2次試験が7月中旬、口述試験は7月下旬の指定する日に行われます。最終合格者の発表は8月下旬。なお、試験の詳細については最高裁判所事務総局人事局任用課試験係（Tel 3264-8111）へ照会するようにしてください。

〔 5 〕 裁判所職員（裁判所事務官）採用Ⅱ種試験について

I種試験とほぼ同じ方法で実施されますが、問題数、出題分野などはI種に比べて少なくなります。

1. 受験資格

I種と同じ。

2. 試験方法

第1次試験

a. 教養試験（択一式）— I種試験と同じ。

b. 専門試験A（択一式）— I種試験と同じ。

第2次試験

a. 専門試験（論文式）— I種試験と同じ。

b. 専門試験（論文式）— 憲法についての専門的知識および理論の応用能力についての筆記試験。

c. 口述試験 ————— I種試験と同じ。

3. 試験期間

第1次試験は6月中旬、第2次試験は7月中旬、口述試験は7月下旬から8月中旬にかけて指定される日に行われます。最終合格者の発表は9月上旬。なお、試験の詳細については最高裁判所事務総局人事局任用課試験係（Tel 3264-8111）へ照会するようにしてください。

〔 6 〕 そ の 他

1. 国税専門官採用試験

2. 司法書士試験

3. 行政書士試験

4. 社会保険労務士試験

5. 宅地建物取引主任者試験

6. 不動産鑑定士試験

IV 学位授与機構

大学に2年以上在籍し62単位以上を修得し、何らかの理由で卒業できなかった者に関しては、修得単位（124単位以上）の審査と学力試験を経て「学位」を認定する「学位授与機構」という公的機関を利用する道があります。修得単位の不足分は、「科目等履修生」「専攻科」あるいは「大学」「大学院」「大学専攻科」での修得単位などで補い、所定の試験に合格しますと「学位」が授与されることとなります。

詳細は学位授与機構（Tel 045-922-6441）にお問い合わせください。